

S Y L L A B U S

# 授業科目概要



2 0 1 6

(平成28年度)

福岡県立大学



## DP (Diploma Policy) とは

DPとは、福岡県立大学が定める卒業認定・学位授与に関する基本的な方針です。すなわち、本学を卒業したらどのようなことが身についているかを保証するものです。それを4つの領域から見ていき、それぞれが全部で10個に分かれています。

4つの領域は

1. 知識・理解
2. 思考・判断・表現
3. 関心・意欲・態度
4. 技能

から成り立っています。それぞれについて、どのようなことが身につくかが10個のポリシーに分かれて書かれています。

「知識・理解」の領域では

DP1. 教養・健康に関する知識として

- 文化の向上に貢献するための教養・健康に関する知識を有している。

DP2. 専門・隣接領域の知識として

- 保健・福祉に関する諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。
- 専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。

「思考・判断・表現」の領域では

DP3. 論理的思考・判断力として

- 保健・福祉に関する諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。
- 社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、結論を見出すことができる。

DP4. 表現力として

- 専門的知識に基づいて自らの考えを適切に他者に説明することができる。

「関心・意欲・態度」の領域では

DP5. 挑戦力として

- 保健・福祉の増進に寄与するために主体的・意欲的に活動することができる。

DP6. 社会貢献力として

- 問題解決に関わる専門分野のスキルを地域社会の発展に活かすことができる。

「技能」の領域では

DP7. コミュニケーション力として

- 異文化の人々と基本的なコミュニケーションを行うことができる。

DP8. 情報リテラシーとして

- 基礎的な情報リテラシーを身につけている。

DP9. 健康スキルとして

- 自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。

DP10. 専門分野のスキルとして

- 保健・福祉の増進に寄与するための専門分野のスキルを身につけている。

これら10個のポリシーのすべてが、4年間で履修する科目のいずれかに位置づけられています。これらを履修して修了すれば、福岡県立大学の卒業生として認めるといえるものです。これらの10個のポリシーを基本として、学部・学科のポリシーは少しずつ異なっています。それらのポリシーについては、各学部・学科の解説を読んでください。

## 1 全学共通科目（教養科目）

人文科学	哲学Ⅰ	1
	哲学Ⅱ	2
	論理学	3
	宗教学	4
	心理学	5
	心の科学の現在	6
	日本近現代史	7
	アート論	8
	文学	9
哲学的人間学	10	

社会科学	社会学A	11
	社会学B	12
	法学	13
	憲法	14
	政治学Ⅰ	15
	政治学Ⅱ	16
	経済学A	17
	経済学B	18
	国際関係論	19
	社会思想史	20

自然科学	科学史	21
	生物学	22
	化学	23
	物理学	24
	統計学	25
	情報科学	26
	環境科学A	27
	環境科学B	28
	数学概論	29

総合科学	人権論	30
	比較文化論	31
	女性学	32
	人間関係の科学	33
	ヒューマンエコロジー	34
	現代社会と嗜癖	35
	性教育学	36
	ケアリング・サイエンス	37
	グローバル社会論	

## 2 全学共通科目（基礎科目）

必須外国語	英語Ⅰ－（１）	38、39
	英語Ⅰ－（２）	40、41
	英語Ⅱ－（１）	42
	英語Ⅱ－（２）	43
	英語Ⅲ－（１）	44
	英語Ⅲ－（２）	45
	リーディングⅠ	46
	リーディングⅡ	47
	ライティング	48
	オーラルコミュニケーションⅠ	49
オーラルコミュニケーションⅡ	50	
オーラルコミュニケーションⅢ	51	

選択外国語	英語Ⅳ－（１）	52
	英語Ⅳ－（２）	53
	リーディングⅢ	54
	コリア語Ⅰ－（１）	55
	コリア語Ⅰ－（２）	56
	コリア語Ⅱ－（１）	57
	コリア語Ⅱ－（２）	58
	コリア語Ⅲ－（１）	59
	コリア語Ⅲ－（２）	60
	中国語Ⅰ－（１）	61
	中国語Ⅰ－（２）	62
	中国語Ⅱ－（１）	63
	中国語Ⅱ－（２）	64
	中国語Ⅲ－（１）	65
	中国語Ⅲ－（２）	66
	仏語Ⅰ－（１）	67
	仏語Ⅰ－（２）	68
	仏語Ⅱ－（１）	69
	仏語Ⅱ－（２）	70
	独語Ⅰ－（１）	71
	独語Ⅰ－（２）	72
	独語Ⅱ－（１）	73
	独語Ⅱ－（２）	74
	海外語学実習事前指導	75
	海外語学実習	76、77
	Introduction to studying in English	78

情報処理	情報処理の基礎と演習	79
	情報処理応用演習	80
	情報処理演習Ⅰ	81
	情報処理演習Ⅱ	82

健康科学	保健理論	83
	健康スポーツ論	84
	健康科学実習Ⅰ	85
	健康科学実習Ⅱ	86

基礎ゼミ	教養演習	87
------	------	----

発展ゼミ

社会人基礎力演習  
Advanced English Achievement

3 全学横断型科目

不登校・ひきこもり援助論	88
不登校・ひきこもり援助応用演習	89
子供学習支援論	90
プレ・インターンシップ	91
専門職連携入門	92
データベース論	
情報ネットワーク論	
問題解決演習	

4 公共社会学科(専門教育科目)  
2015年度以前

社会学概論	93
社会学史 I	
社会学史 II	
公共性研究 A (公共性の社会学)	94
公共性研究 B (社会政策論)	95
公共性研究 C - I (社会保障論 I)	96
公共性研究 C - II (社会保障論 II)	97
社会学の分析法 A (ミクロ理論)	98
社会学の分析法 B (集団・組織論)	99
社会学の分析法 C (マクロ理論)	100
現代社会論 A (ジェンダー・世代)	101
現代社会論 B (情報社会論)	
現代社会論 C (情報社会と法)	102
家族社会学 I	103
家族社会学 II	104
福祉社会学	105
社会病理学	106
公共人類学 A (医療)	107
社会変動と社会問題	108
集合行動論	
公共人類学 B (教育)	109
労働経済論 A	110
労働経済論 B	111
C S R (企業の社会的責任) 論	112
社会的企業家論	
社会心理学	113
人格心理学	114
社会調査法	115
社会調査の設計	116
データ分析の基礎	117
社会統計学 I	118
社会調査実習	119
社会統計学 II	120
質的調査法	121
データ処理とデータ解析 I	122
データ処理とデータ解析 II	123
情報数学	124
プログラミング概論	125

公共社会学基礎論・社会調査・情報処理  
基礎科目

地域社会学 I	126
地域社会学 II	127
コミュニティ論	128
都市社会学	129
地域社会学特講	130
地域社会分析法 A (地域と生活)	131
地域社会分析法 B (住民参加)	132
地域社会分析法 C (地理)	133
環境社会学	134
地理学概論	135
地方自治論	136
地域社会研究 I・II	137 ~ 140
地域保健論	141
地域計画論	142
社会福祉計画論	143

地域社会ネットワーク  
コミュニケーション科学

国際社会学 I	
国際社会学 II	
国際政治学	144
多文化社会論	145
世界地理	146
東アジア関係史	147
韓国の社会と文化	148
中国の社会と文化	149
イスラム社会論	150
文化人類学 I	151
文化人類学 II	152
国際教育文化交流論	153
国際共生研究 I・II	154 ~ 156
N P O 論	157
国際協力論	158
外書講読 A	159
外書講読 B	160

アジア国際共生  
福祉社会論

哲学要論	161
倫理学	162
日本史概論	163
西洋史概論	164
法学概論 I	165
法学概論 II	166
教育社会学	167

関連科目

社会福祉学概論 I	177
社会福祉学概論 II	178
地域福祉論 I	231
地域福祉論 II	232
教育学概論 B	280
生涯教育論	282
社会教育論	305
コミュニケーション論	317

(他学科開設)  
共通専門科目

公共社会学研究 I・II	168 ~ 175
卒業論文	176

\*2016 年度学生

公共社会学基礎論	社会学概論	93
	社会学史 I	
	社会学史 II	
	公共性の社会学	94
	社会政策論	95
	公共経済学	
	社会学の分析法 A	98
	社会学の分析法 B	99
	現代社会論 A (ジェンダー・世代)	101
	現代社会論 B (情報社会論)	
	現代社会論 C (情報社会と法)	102
	家族社会学 A	103
	家族社会学 B	104
	福祉社会学	105
	社会病理学	106
	社会変動と社会問題	108
	集合行動論	
	仕事の経済学	110
	暮らしの経済学	111
	C S R (企業の社会的責任) 論	112
	社会心理学	113
人格心理学	114	

社会調査・情報社会	社会調査法	115
	社会調査の設計	116
	データ分析の基礎	117
	社会統計学 I	118
	社会調査実習	119
	社会統計学 II	120
	質的調査法	121
	データ処理とデータ解析 I	122
	データ処理とデータ解析 II	123
	情報数学	124
	プログラミング概論	125

地域社会ネットワーク	地域社会学 A	126
	地域社会学 B	
	コミュニティ論	128
	都市社会学	129
	地域社会学特講	130
	地域社会分析法 A	131
	地域社会分析法 B	132
	地域社会分析法 C	133
	環境社会学	134
	地理学概論	135
	地方自治論	136
	地域保健論	141
	地域計画論	142

アジア国際共生	国際社会学 A	
	国際社会学 B	
	国際政治学	144
	多文化社会論	145
	世界地理	146
	東アジア関係史	147
	韓国の社会と文化	148
	中国の社会と文化	149
	イスラム社会論	150
	文化人類学 A	151
	文化人類学 B	152
	国際教育文化交流論	153
	N P O 論	157
	国際協力論	158
外書講読 A	159	
外書講読 B	160	

関連科目	哲学要論	161
	倫理学	162
	日本史概論	163
	西洋史概論	164
	法学概論 I	165
	法学概論 II	166
	教育社会学	167
	社会福祉学概論 I	177
	地域福祉論 I	231
	地域福祉論 II	232
	教育学概論 B	280
	生涯教育論	282
	社会教育論	305
	対人心理学	317
	Web デザイン演習	
	情報ネットワーク論	
	データベース論	
	プログラミング演習	
	情報検索システム論	
	問題解決演習	

◆	公共社会学研究 I ・ II	168 ~ 175
	卒業論文	176

## 5 社会福祉学科（専門教育科目）

2015年度以前

<b>基礎部門</b>	社会福祉学概論Ⅰ	177	
	社会福祉学概論Ⅱ	178	
	社会保障論Ⅰ	179	
	社会保障論Ⅱ	180	
	社会福祉史入門	181	
	社会福祉発達史	182	
	社会福祉法制論A	183	
	社会福祉法制論B	184	
	福祉社会学	185	
	社会病理学	186	
	コミュニティ論	187	
	社会福祉学演習	188～197	
	<b>運営方法部門</b>	福祉行財政と福祉計画	198
		福祉経営論	199
		社会福祉調査法	200
		介護技術演習	201
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	202
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		203	
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		204	
精神保健福祉演習		205	
精神保健福祉援助演習		206～210	
学校ソーシャルワーク論		211	
学校ソーシャルワーク演習		212	
相談援助の基盤と専門職Ⅰ		213	
相談援助の基盤と専門職Ⅱ		214	
相談援助の理論と方法A		215	
相談援助の理論と方法B		216	
相談援助の理論と方法C		217	
相談援助の理論と方法D		218	
相談援助演習A		219、220	
相談援助演習B		221	
相談援助演習C	222		
<b>分野対象部門</b>	公的扶助論	223	
	障害者福祉論	224	
	児童福祉論	225	
	精神保健福祉論Ⅰ	226	
	精神保健福祉論Ⅱ	227	
	精神保健福祉論Ⅲ	228	
	老人福祉論	229	
	介護福祉論	230	
	地域福祉論Ⅰ	231	
	地域福祉論Ⅱ	232	
	家族福祉論	233	
	保健医療論	234	
	就労支援	235	
	権利擁護と成年後見制度	236	
更生保護	237		

<b>特講</b>	社会福祉特講A	
	社会福祉特講B	238
	社会福祉特講C	239
<b>実習</b>	相談援助実習	240
	相談援助実習指導	241
	精神保健福祉援助実習	242
	精神保健福祉援助実習指導	243、244
	学校ソーシャルワーク実習	245
	学校ソーシャルワーク実習指導	246
<b>関連科目</b>	医学概論	247
	倫理学	248
	公衆保健	249
	福祉機器論	250
	外書講読	251
	地方自治論	252
	労働経済論A	253
	労働経済論B	254
	現代社会論A（ジェンダー・世代）	255
	現代社会論B（情報社会論）	
	地域社会学Ⅰ	256
	地域社会学Ⅱ	257
	NPO論	258
	家族法	
	住環境論	
	発達心理学Ⅰ-A	259
	発達心理学Ⅱ	260
	発達心理学Ⅲ	261
	老年心理学	262
	老年期医学	263
	精神保健学Ⅰ	264
	精神保健学Ⅱ	265
	精神医学Ⅰ	266
	精神医学Ⅱ	267
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	268
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	269
	<b>共通専門科目（他学科開設）</b>	社会心理学
データ処理とデータ解析Ⅰ		122
データ処理とデータ解析Ⅱ		123
家族社会学Ⅰ		103
家族社会学Ⅱ		104
教育学概論B		280
生涯教育論		282
社会教育論		305
パーソナリティ論		314
コミュニケーション論	317	
<b>◆</b>	卒業論文	270～278

## 2016 年度入学生

### 基幹科目群

社会福祉学概論Ⅰ	177
社会福祉学概論Ⅱ	178
社会保障論Ⅰ	179
社会保障論Ⅱ	180
社会福祉法制論A	183
社会福祉法制論B	184
福祉行財政と福祉計画	
地域福祉論Ⅰ	231
地域福祉論Ⅱ	232
社会福祉の歴史と思想	
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	213
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	214
相談援助の理論と方法A	215
相談援助の理論と方法B	216
相談援助の理論と方法C	217
相談援助の理論と方法D	218
社会福祉学演習	188～197
卒業論文	270～278

### 社会福祉専門科目群

老人福祉論	229
介護福祉論	230
障害者福祉論	224
児童福祉論	225
家族福祉論	233
公的扶助論	223
社会福祉調査法	200
相談援助演習A	219、220
相談援助演習B	221
相談援助演習C	222
相談援助実習指導Ⅰ	
相談援助実習指導Ⅱ	
相談援助実習	240
福祉経営論	199
保健医療論	234
就労支援	235
権利擁護と成年後見制度	236
更生保護	237
医療ソーシャルワーク論	
福祉住環境論	
介護技術演習	201
医学概論	247

### 精神保健福祉専門科目群

精神保健福祉論Ⅰ	226
精神保健福祉論Ⅱ	227
精神保健福祉論Ⅲ	228
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	202
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	203
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	204
精神科リハビリテーション学Ⅰ	268
精神科リハビリテーション学Ⅱ	269
精神保健福祉演習	205
精神保健福祉援助演習	206～210
精神保健福祉援助実習指導	243、244
精神保健福祉援助実習	242
精神保健学Ⅰ	264
精神保健学Ⅱ	265
精神医学Ⅰ	266
精神医学Ⅱ	267

### 学校ソーシャルワーク専門科目群

学校ソーシャルワーク論	211
学校ソーシャルワーク演習	212
学校ソーシャルワーク実習指導	246
学校ソーシャルワーク実習	245
発達心理学Ⅰ-A	259
教育学概論B	280
教育社会学	283
教育制度論	295
教育相談	348
生徒指導論	520、521

### 関連科目群

倫理学	162
地方自治論	252
仕事の経済学	110
暮らしの経済学	111
現代社会論A（ジェンダー・世代）	255
現代社会論B（情報社会論）	
福祉社会学	185
地域社会学A	256
地域社会学B	
コミュニティ論	187
NPO論	258
発達心理学Ⅱ	260
老年心理学	262
老年期医学	263
社会病理学	186
社会心理学	113
データ処理とデータ解析Ⅰ	122
データ処理とデータ解析Ⅱ	123
家族社会学A	103
家族社会学B	104
生涯教育論	282
社会教育論	305
人格心理学	314
情報数学	
対人心理学	317
Webデザイン演習	
情報ネットワーク論	
データベース論	
プログラミング演習	
情報検索システム論	
問題解決演習	

## 6 人間形成学科(専門教育科目)

2015年度以前

### 基幹科目

教育学概論A	279
教育学概論B	280
教育思想論	281
生涯教育論	282
教育社会学	283
発達心理学Ⅰ-A	284
発達心理学Ⅰ-B	285
発達心理学Ⅱ	286
教育心理学概論	287
幼児教育心理学	288
生理心理学Ⅰ	289
心身科学A	290
心身科学B	291
発育論	
加齢基礎論	292

### 展開科目(教育系)

教育史	293
公共人類学B(教育)	294
教育制度論	295
教育内容論	296
教育方法論	297
教育評価	298
保育学	299
保育課程論	300
保育方法論	301
保育者論	302
保育内容総論	303
保育内容演習	304
社会教育論	305
社会教育計画論Ⅰ	306
社会教育計画論Ⅱ	307
図書館情報学	308
社会教育演習	309

### 展開科目(心理系)

生理心理学Ⅱ	310
知覚心理学	311
認知心理学	312
学習心理学	313
人格心理学	314
発達心理学Ⅲ	315
老年心理学	316
コミュニケーション論(対人心理学)	317
集団力学	318
家族心理学	319
組織心理学	320
臨床心理学	321
障害者(児)心理学	322
カウンセリング	323
実験測定法Ⅰ	324
実験測定法Ⅱ	325

### 展開科目(生涯発達系)

子どもの食と栄養	326、327
子どもの保健Ⅰ-1	328
子どもの保健Ⅰ-2	329
子どもの保健Ⅱ	330
思春期保健	331
成年期保健	
老年期医学	332
公共人類学A(医療)	333
精神保健学	334

### 関連科目

保育内容・健康Ⅰ	335
保育内容・健康Ⅱ	336
保育内容・人間関係Ⅰ	337
保育内容・人間関係Ⅱ	338
保育内容・環境Ⅰ	339
保育内容・環境Ⅱ	340
保育内容・言葉Ⅰ	341
保育内容・言葉Ⅱ	342
保育内容・表現Ⅰ	343
保育内容・表現Ⅱ	344
乳児保育	345
障害児保育	346
幼児理解の理論と方法	347
教育相談	348
教育相談(幼児教育)	349
保育相談支援	350
音楽Ⅰ	351、352
音楽Ⅱ	353、354
造形Ⅰ	355
造形Ⅱ	356
体育Ⅰ	357
体育Ⅱ	358
児童文学	359
子どもと遊び	360
家庭支援論	361
社会的養護	362
社会的養護内容Ⅰ	363
社会的養護内容Ⅱ	364
社会福祉Ⅰ	365
施設養護論	366
保育・教職実践演習(幼稚園)	367
幼稚園教育実習事前事後指導	368
幼稚園教育実習Ⅰ	369
幼稚園教育実習Ⅱ	370
保育実習指導Ⅰ	371
保育実習Ⅰ	372
保育実習指導Ⅱ	373
保育実習Ⅱ	374
保育実習指導Ⅲ	375
保育実習Ⅲ	376
相談援助	377
児童家庭福祉	378
国際教育文化交流論	379
社会教育特講A	380
社会教育特講B	381
社会教育特講C	382
社会教育特講D	383
社会教育特講E	384
キャリア教育論	385
現代社会論C	386

<b>関連科目</b>	社会統計学Ⅰ……………	387
	社会調査法……………	388
	医学概論……………	389

<b>共通専門科目 (他学科開設)</b>	社会心理学……………	113
	データ処理とデータ解析Ⅰ……………	122
	データ処理とデータ解析Ⅱ……………	123
	家族社会学Ⅰ……………	103
	家族社会学Ⅱ……………	104
	社会福祉学概論Ⅰ……………	177
	社会保障論Ⅰ……………	179
	社会保障論Ⅱ……………	180
地域福祉論Ⅰ……………	231	
地域福祉論Ⅱ……………	232	

<b>◆</b>	演習……………	390～404
	卒業論文……………	405～415

### 2016年度入学生

<b>基幹科目</b>	教育学概論A……………	279
	教育学概論B……………	280
	教育史……………	293
	生涯教育論……………	282
	発達心理学Ⅰ-A……………	284
	発達心理学Ⅰ-B……………	285
	発達心理学Ⅱ……………	286
	教育心理学概論……………	287
	幼児教育心理学……………	288
	子どもの保健Ⅰ-1……………	328
	子どもの保健Ⅰ-2……………	329
	臨床心理学……………	321
	教育相談……………	348
	教育相談(幼児教育)……………	349

<b>展開科目 子どもコース</b>	教育制度論……………	295
	保育学……………	299
	保育課程論……………	300
	保育方法論……………	301
	保育者論……………	302
	保育内容総論……………	303
	保育内容演習……………	304
	子どもの食と栄養……………	326、327
	子どもの保健Ⅱ……………	330
	保育内容・健康Ⅰ……………	335
	保育内容・健康Ⅱ……………	336
	保育内容・人間関係Ⅰ……………	337
	保育内容・人間関係Ⅱ……………	338
	保育内容・環境Ⅰ……………	339
	保育内容・環境Ⅱ……………	340
	保育内容・言葉Ⅰ……………	341
	保育内容・言葉Ⅱ……………	342
	保育内容・表現Ⅰ……………	343
	保育内容・表現Ⅱ……………	344
	乳児保育……………	345
	障害児保育……………	346
	幼児理解の理論と方法……………	347
	保育相談支援……………	350
	音楽Ⅰ……………	351、352
	音楽Ⅱ……………	353、354
	造形Ⅰ……………	355
	造形Ⅱ……………	356
	体育Ⅰ……………	357
	体育Ⅱ……………	358
	児童文学……………	359
	子どもと遊び……………	360
	家庭支援論……………	361
	社会的養護……………	362
	社会的養護内容Ⅰ……………	363
	社会的養護内容Ⅱ……………	364
	社会福祉Ⅰ……………	365
	<b>社会福祉Ⅱ</b>	
	相談援助……………	377
	児童家庭福祉……………	378
	<b>音楽理論とソルフェージュ</b>	
	保育・教職実践演習(幼稚園)……………	367
	幼稚園教育実習事前事後指導……………	368
	幼稚園教育実習Ⅰ……………	369
	幼稚園教育実習Ⅱ……………	370
保育実習指導Ⅰ……………	371	
保育実習Ⅰ……………	372	
<b>保育実習指導Ⅱ-A</b>		
<b>保育実習Ⅱ-A</b>		
<b>保育実習指導Ⅱ-B</b>		
<b>保育実習Ⅱ-B</b>		

展開科目心理コース

学習心理学	313
心身科学	
比較心理学	
生理心理学	
加齢基礎論	
知覚心理学	311
認知心理学	312
対人心理学	317
社会心理学	113
集団心理学	
老年心理学	316
家族心理学	319
人格心理学	314
障害者（児）心理学	322
ストレスマネジメント論	
心理面接演習	
心理アセスメント	
精神保健学	334
思春期保健	331
医学概論	389
老年期医学	332
精神医学Ⅰ	
精神医学Ⅱ	
心理学実験演習Ⅰ	
心理学実験演習Ⅱ	
心理学研究法	
教育・心理統計法	
社会統計学Ⅰ	387
データ処理とデータ解析Ⅰ	122
データ処理とデータ解析Ⅱ	123

関連科目

社会教育論	305
図書館情報学	308
国際教育文化交流論	379
社会教育特講A	380
社会教育特講B	381
社会教育特講C	382
社会教育特講D	383
社会教育特講E	384
キャリア教育論	385
情報数学	
Web デザイン演習	
情報ネットワーク論	
データベース論	
プログラミング演習	
情報検索システム論	
問題解決演習	



演習	390 ~ 404
卒業論文	405 ~ 415

7 看護学部看護学科（専門基礎科目）

専門基礎科目

ホリスティック人間論	416
生命倫理	417
遺伝学	418
栄養学	419
人類生態学	420
疫学	421
保健統計学	422
保健社会調査論	423
臨床心理学	424
精神保健学	425
東洋医学概論	426
保健社会学	427
保健医療福祉行政論Ⅰ	428
保健医療福祉行政論Ⅱ	429
公衆衛生学	430

8 看護学部看護学科（専門科目）

専門科目

生態機能看護学Ⅰ	431
生態機能看護学Ⅱ	432
生態機能看護学Ⅲ	433
看護生化学	434
病態看護学Ⅰ	435
病態看護学Ⅱ	436
看護薬理学	437
感染・免疫看護学演習	438
生態・病態看護学実験	439
基礎看護学概論	440
基礎看護技術論	441
ケアリング論	442
シンプトンマネジメント論	443
フィジカルアセスメント論	444
看護過程	445
看護研究	446
基礎看護学実習Ⅰ	447
基礎看護学実習Ⅱ	448
看護管理論	449
看護教育学	450
看護実践論	451
教師論	452
看護情報学	453
精神看護学概論	454
精神看護学	455
精神看護学演習Ⅰ	456
精神看護学演習Ⅱ	457
精神看護学実習	458
成人看護学概論	459
成人急性看護学	460
成人慢性看護学	461
成人看護学演習Ⅰ	462
成人看護学演習Ⅱ	463
成人急性看護学実習	464
成人慢性看護学実習	465
老年看護学概論	466
老年看護学	467
老年看護学演習Ⅰ	468
老年看護学演習Ⅱ	469

専門科目

老年看護学実習Ⅰ	470
老年看護学実習Ⅱ	471
小児看護学概論	472
小児看護学	473
小児看護学演習Ⅰ	474
小児看護学演習Ⅱ	475
小児看護学実習	476
女性看護学概論	477
女性看護学	478
女性看護学演習Ⅰ	479
女性看護学演習Ⅱ	480
女性看護学実習	481
在宅看護学概論	482
在宅看護学	483
在宅看護学演習Ⅰ	484
在宅看護学演習Ⅱ	485
在宅看護学実習	486
公衆衛生看護学Ⅰ	487
公衆衛生看護学Ⅱ	488
公衆衛生看護学Ⅲ	489
公衆衛生看護技術論Ⅰ	490
公衆衛生看護技術論Ⅱ	491
組織協働活動論	492
公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ	493
公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ	494
公衆衛生看護管理論	495
公衆衛生看護学実習Ⅰ	496
公衆衛生看護学実習Ⅱ	497
家族看護学	498
国際看護論	499
養護概説	500
学校保健学	501
教職実践演習（養護教諭）	502
養護実習事前事後指導	503
健康教育論	504
養護実習	505
ヒーリング論	506
ヒーリングセラピー	507
東洋看護学演習	508
統合実習	509
専門看護学ゼミ	510
卒業研究	511

9 教職に関する専門教育科目

教師論	512、513
道徳教育	514
教育課程論	515
社会科教育法Ⅰ	516
社会科教育法Ⅱ	517
公民教育法Ⅰ	518
公民教育法Ⅱ	519
生徒指導論	520、521
教育相談	522
高校教育実習事前事後指導	523
高校教育実習	524
中学校教育実習事前事後指導	525
中学校教育実習	526
教職実践演習（中高）	527
保育者論	302
教育学概論A	279
教育学概論B	280
発達心理学Ⅰ-A	284
発達心理学Ⅰ-B	285
教育心理学概論	287
幼児教育心理学	288
教育社会学	283
教育制度論	295
教育内容論	296
教育方法論	297
保育学	299
保育課程論	300
保育方法論	297
保育内容総論	303
保育内容・健康Ⅰ	335
保育内容・健康Ⅱ	336
保育内容・人間関係Ⅰ	337
保育内容・人間関係Ⅱ	338
保育内容・環境Ⅰ	339
保育内容・環境Ⅱ	340
保育内容・言葉Ⅰ	341
保育内容・言葉Ⅱ	342
保育内容・表現Ⅰ	343
保育内容・表現Ⅱ	344
保育内容演習	304
幼稚園教育実習事前事後指導	368
幼稚園教育実習Ⅰ	369
幼稚園教育実習Ⅱ	370
養護実習事前事後指導	503
養護実習	505

## 10 教科又は教職に関する専門教育科目

◆	生涯教育論	282
	社会教育論	305
	社会教育特講B	381
	社会教育特講C	382
	キャリア教育論	385
	道德教育	514

## 11 外国人留学生特別科目

◆	日本語会話A	528
	日本語会話B	529
	日本語中級A	530
	日本語中級B	531
◆	日本語上級A	532
	日本語上級B	533
	日本事情A	534
	日本事情B	535
	日本語表現論Ⅰ	536
	日本語表現論Ⅱ	537



授業科目名	哲 学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	神谷英二						
授業の概要	<p>価値観の多様化する現代社会においては、人々は日々さまざまな価値観や利害の衝突に出会い、これらをルールに基づいて調整しなければならない。社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目として、この授業では、自由主義、パターナリズム、功利主義、義務論、共同体主義などの社会哲学的・倫理的理論を具体的事例にもとづいて学ぶ。それによって、現代社会を動かしている規範やルールについての理解を深め、現代社会で発生する問題について学生が自ら考え、常識や先例を相対化し、自分自身の意見をつくりあげる能力を養成することをめざす。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会における規範の基礎的内容を理解したうえで、各自の判断に活用できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現代社会における課題について自ら考え、常識や先例を相対化し、自分自身の意見をつくりあげる能力を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文		「哲学I講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「哲学I講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）		
2	自由主義と自己決定（1）・事例研究		「哲学I講義資料」による講義				
3	自由主義と自己決定（2）・自由の理論		「哲学I講義資料」による講義 小レポート（第1回）				
4	自由主義と自己決定（3）・問題点と批判		「哲学I講義資料」による講義				
5	パターナリズム（1）・理論と事例研究		「哲学I講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
6	パターナリズム（2）・問題点と批判		「哲学I講義資料」による講義 小レポート（第2回）				
7	功利主義（1）・理論と事例研究		「哲学I講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
8	功利主義（2）・問題点と批判		「哲学I講義資料」による講義 小レポート（第3回）				
9	義務論（1）・理論と事例研究		「哲学I講義資料」による講義 新聞記事による事例研究		学期末レポートの作成を開始すること。		
10	義務論（2）・問題点と批判		「哲学I講義資料」による講義				
11	共同体主義		「哲学I講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
12	新しい公共とボランティアの思想		「哲学I講義資料」による講義 小レポート（第4回）				
13	ソーシャルビジネスの可能性		「哲学I講義資料」による講義				
14	ソーシャルデザイン／コミュニティデザイン		「哲学I講義資料」による講義 小レポート（第5回）				
15	復習とまとめ		学習内容全体についての復習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内小レポート			◎	◎		30	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
学期末レポート			◎	◎		50	
テキスト・参考文献等	参考文献：加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997年						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>						

授業科目名	哲 学 Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	神 谷 英 二						
授業の概要	この授業では、哲学Ⅰで習得した社会哲学的・倫理的理論をもとに、現代社会が直面する生命・環境・情報などの分野における重要な倫理問題についての哲学的検討を行う。そのなかで、小レポートなどの学習課題に応えることにより、学生自身が現実の具体的な倫理問題について考え、意見をつくりあげていく。これにより、現代人として必要とされる人間に対する理解を深め、専門職業人としての適切な倫理判断を行う際に求められる基礎的能力を養成する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	専門職業人としての適切な倫理判断を行う際に求められる基礎的能力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現実の具体的な倫理問題について考え、自分自身の意見をつくりあげる能力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	哲学Ⅰの復習とガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文		「哲学Ⅱ講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「哲学Ⅱ講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）		
2	生命倫理：脳死と臓器移植（1）・歴史と理論		「哲学Ⅱ講義資料」による講義				
3	生命倫理：脳死と臓器移植（2）・法的側面		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 小レポート（第1回）				
4	生命倫理：脳死と臓器移植（3）・事例研究		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
5	生命倫理：脳死と臓器移植（4）・問題点と批判		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
6	生命倫理：脳死と臓器移植（5）・今後の課題		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 小レポート（第2回）				
7	環境倫理：環境倫理入門		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
8	環境倫理：リスク社会論		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 小レポート（第3回）				
9	環境倫理：地球温暖化		「哲学Ⅱ講義資料」による講義		学習成果確認テストのための準備を開始すること。		
10	環境倫理：世代間倫理		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 小レポート（第4回）				
11	情報倫理：情報倫理入門		「哲学Ⅱ講義資料」による講義				
12	情報倫理：高度情報化社会とプライバシー（1）・現状分析		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
13	情報倫理：高度情報化社会とプライバシー（2）・自己情報コントロール権		「哲学Ⅱ講義資料」による講義				
14	情報倫理：高度情報化社会とプライバシー（3）・忘れられる権利		「哲学Ⅱ講義資料」による講義 小レポート（第5回）				
15	復習とまとめ		学習内容全体についての復習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内小レポート			◎	◎		30	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
学習成果確認テスト			◎	◎		50	
テキスト・参考文献等	参考文献：今井道夫・香川知晶編『バイオエシックス入門』第3版、東信堂、2001年 加藤尚武編『環境と倫理』新版、有斐閣、2005年						
履 修 条 件	哲学Ⅰを履修し、単位を取得していること。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>						

授業科目名	論 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	神谷英二						
授業の概要	<p>現代社会においては、論理的な理解能力・思考能力・表現能力が重要な職業上のスキルとして強く求められている。この授業ではこれらの論理的基礎能力を養うために、論理思考と日本語表現の論理トレーニングを行う。</p> <p>これらの学習により、現代社会における専門職業人に求められる、論理的スキルの基礎を習得することをめざす。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	専門職業人に日常業務のなかで求められる、論理的に表現するスキルの基礎を習得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		授業プランの説明 例題を使ったトレーニング		「論理学オリジナルテキスト」により授業内容を復習すること。欠席した場合は、必ずその回のトレーニングを各自行うこと。  小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。		
2	論理思考と日本語の論理		毎回、授業時に配付する「論理学オリジナルテキスト」にしたがい、重要事項の解説をした後、すぐに授業中に実践的トレーニングを行う。				
3	接続の論理（1）						
4	接続の論理（2）						
5	議論の組み立て（1）		解説とトレーニング 小テスト（第1回）				
6	議論の組み立て（2）		解説とトレーニング				
7	演繹と推測		解説とトレーニング				
8	クリティカルシンキング		解説とトレーニング		小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。		
9	MECE（1）		解説とトレーニング				
10	MECE（2）		小テスト（第2回）				
11	So What? /Why So?（1）		解説とトレーニング				
12	So What? /Why So?（2）		解説とトレーニング		小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。		
13	ロジックツリー（1）		解説とトレーニング 小テスト（第3回）		これまでの学習内容を復習し、疑問があれば必ず質問すること。		
14	ロジックツリー（2）		解説とトレーニング				
15	復習とまとめ		学習内容全体についての復習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内小テスト			◎			25	
授業態度・授業への参加度			◎			25	
学習成果確認テスト			◎			50	
テキスト・参考文献等	テキストなし。授業時にオリジナルの教材を配付する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>						

授業科目名	宗 教 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	田 中 哲 也						
授業の概要	<p>宗教（的思考・現象）という視点から、わたしたち自身の思考法や日常生活から世界の出来事に与えているその影響を理解することを通して、社会人・職業人として求められる人間や社会についての理解の視点や知識を身につけることを目的とします。</p> <p>世界の大多数の人々は特定の宗教を信じ、その教えを生きる上での規範として行動しています。それらの国々では無信仰者とは「守るべき道徳をもたない人間」と理解されます。宗教に関しては「日本の常識は世界の非常識」なのです。</p> <p>しかし、本当に日本人の多くは宗教（的思考・現象）とは無縁なのでしょうか。授業では、まず、宗教的思考や現象とは何かを整理・理解することを通して、血液型性格判断から死生観にいたるまで、私たち自身の思考法や行動について考えます。その上で、仏教やキリスト教、イスラーム教などの宗教が人々の思考法・行動に与えている影響、そしてメディアの報道ではわからない、それらが世界の出来事に与えている影響について明らかにします。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	科学的合理性だけでは説明できない宗教的価値観について理解する。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	社会における価値観の問題について理解する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	「宗教学」とはなにか		毎回、パワーポイントを使用して講義を行います。授業ごとにレジュメを資料として配付します。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。第8回目それまでの要約と中間テストを行う。		適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行っておく。		
2	「宗教」とはなにか						
3	「宗教」についての3つの考え方						
4	呪術・宗教・科学						
5	集合表象としての宗教						
6	価値の源泉としての宗教（死生観）						
7	「信」の構造：人はなぜ信じ続けるか						
8	中間要約・確認		第1～7回講義の要約				
9	世俗化論（1）さまざまな世俗化の理解		毎回、パワーポイントを使用して講義を行います。レジュメを資料として配付します。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。		適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行っておく。		
10	世俗化論（2）世界は世俗化したのか						
11	日本宗教事情 I						
12	日本宗教事情 II						
13	世界宗教事情：キリスト教世界						
14	世界宗教事情：イスラーム教世界						
15	授業全体のまとめと確認						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎					
宿題・授業外レポート			○	○			
授業態度・授業への参加度				◎			
テキスト・参考文献等	授業ごとに資料を配付する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	コメント・質問用紙、オフィスアワー、メールでの質問に回答する。						

授業科目名	心 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	上 野 行 良		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	福祉社会を支える人材として必要な人の心についての知識を身につけるための科目です。この授業では、「どうしてこんな人なのか?」「自分をコントロールする」をテーマに、講義と課題をしながら、人間をよりよく理解するために必要な心理学的なものを見方を説明します。社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目です。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	人間の心理を理解するために必要な知識をもっている。					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業内容】</p> <p>1. 心理学とは何か?</p> <p>2. ~7. 第Ⅰ部 どうしてこんな人なのか?</p> <p>①個性って何だろう?</p> <p>②短所って何だろう?</p> <p>③原因を考えよう</p> <p>④⑤環境はどうして人を変えるのか?</p> <p>⑥記憶・思い出・学習</p> <p>8. 復習課題Ⅰ (1.~7)</p> <p>9. ~14. 第Ⅱ部 自分をコントロールする</p> <p>①ライフスタイルのコントロール</p> <p>②~④自分の感情と思考に気づく</p> <p>⑤思考・行動・感情のコントロール</p> <p>⑥事実を評価しないで受け容れる</p> <p>15. 復習課題Ⅱ (1.~14)</p> <p>【授業方法と事前・事後学習】</p> <p>通常は、毎回スライドを使っての講義と、自分の心理を内省するための課題を行います。また受講者からの質問に回答する時間があります。授業の提示資料を e-learning システムでダウンロードして復習をしてください。</p> <p>また、復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日は提示資料を持参してください。</p>							
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
授業中の課題		◎				100	
テキスト・参考文献等	なし						
履 修 条 件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について15問程度を選んで授業中に回答します。						

授業科目名	心の科学の現在		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	上野行良						
授業の概要	福祉社会を支える人材として心理学についての先端の知識を身につけることは重要である。しかし実証科学であり、研究の発展に伴い日々修正されている心理学は、現場に必要な知識を卒業後も自分で学習する必要がある。そこで本講義は、専門書を読むことを中心とした授業を行う。心理学のテキストを共に読み、内容をまとめ、わからないところを質問する。専門的教育の基礎を主たる目的とする科目である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識 現代社会に必要な心理学のより新しい知識をもっている。						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の主な領域</li> <li>2. うつ病</li> <li>3. 摂食障害</li> <li>4. 進化と性差</li> <li>5. ストレス・コーピング</li> <li>6. 性的志向</li> <li>7. 心の理論</li> <li>8. 復習課題Ⅰ</li> <li>9. 夢</li> <li>10. 精神力動的療法</li> <li>11. 人間性療法</li> <li>12. 認知行動療法</li> <li>13. マインドフルネス</li> <li>14. 心の健康の向上</li> <li>15. 復習課題Ⅱ</li> </ol> <p>【授業方法と事前・事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①前回までのチェックテストと採点（事前に準備すること）</li> <li>②グループでテキストの輪読をしたあと、各自でテキストをまとめる</li> <li>③内容の概説</li> <li>④前回の質問に対する回答</li> <li>⑤各自でまとめたものを、グループで見せ合い評価する</li> <li>⑥与えられたテーマでコメントを書く</li> </ol>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業中の課題		◎				100	
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	課題提出用紙にてされた質問について授業中に回答します。						

授業科目名	日本近現代史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	有谷 三樹彦	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	戦後70年を経た現在においても、従軍慰安婦問題、空襲被災者による訴訟、靖国問題など、先の戦争についての諸問題が噴出し、またアジアの人々からの日本の戦争責任・戦後責任を問う声も鳴り止みません。果たして戦後の日本人は戦争について深く考え議論し総括する努力をしてきたといえるでしょうか。あらためて日本人の歴史認識と日本の戦争責任・戦後責任が問われているといえます。本講義では、日本戦後史を歴史認識と戦争責任・戦後責任の観点から捉えなおすことにより、戦後の経済発展の影にかくれて忘れ去られていった過去を検証します。この科目は、社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目です。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	日本近現代史の学習を通じて、知的好奇心や学問的探求姿勢を身につける。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	日本と国際社会との関わり、歴史認識と戦争責任・戦後責任の問題について、ある程度理解し説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義内容の様々なテーマについて考え、的確に講義内容を要約し自己の意見を文章化することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス 歴史認識とは何か	講義内容について説明する。受講生は授業終了時に講義要約感想文を書く。		下記の参考文献等を使って、人物や事件など基礎的な事項を調べておく。			
2	歴史認識はどのように形成されるのか	同		同			
3	戦争責任・戦後責任とは何か	同		同			
4	東京裁判の経緯と問題点	同		同			
5	東京裁判の意義	同		同			
6	サンフランシスコ講和条約と戦後補償	同		同			
7	日韓関係・日中関係 小テスト	同		同			
8	靖国問題	同		同			
9	ドイツ人の歴史認識と戦争責任・戦後責任	同		同			
10	大東亜戦争肯定論	同		同			
11	特攻隊	同		同			
12	二元的戦争史観	同		同			
13	十五年戦争の経緯と性格 小テスト	同		同			
14	日本人の歴史認識と戦争責任・戦後責任	同		同			
15	戦後70年談話	同		同			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト		○	◎			60	
学期末レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
講義要約感想文		○	◎			プラス評価	
テキスト・参考文献等	参考文献：大沼保昭『「歴史認識」とは何か』中公新書、2015年。東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』岩波現代全書、2015年。山崎雅弘『戦前回帰』学研マーケティング、2015年。林房雄『大東亜戦争肯定論』中公文庫、2014年。荒井信一『戦争責任論』岩波現代文庫、2005年。若宮啓文『戦後70年保守のアジア観』朝日選書、2014年。吉田裕『日本人の戦争観』岩波現代文庫、2005年。白井聡『永続敗戦論』太田出版、2013年。波多野澄雄『国家と歴史』中公新書、2011年。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。						

授業科目名	ア ー ト 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1年
担当教員	鮎川 真由美						
授業の概要	「何が身体を動かすのか？」という問いを、アート・美学の領域で考察します。授業は、ヨーロッパを中心とした様々な写真・映像・音楽（作品であるものもそうでないものも）を実際に視聴しながら行います。そして西洋美学史（芸術史）のなかで、とりわけ身体表現や身心問題に焦点をあてて作品・理論を検討し、最終的には現代のアートと身体の可能性を、広く生活実践のなかに見いだしてゆきます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人間を自然的かつ文化的存在として捉える教養・知識を、社会生活において活用することができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	アートを広く身体文化のなかで捉えることで、人間の身体の幅広い可能性を認識し、実践できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	アートにおける身体（ひいては生の）表現とその論理性を、社会生活や健康問題、看護実践のなかで活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	イントロダクション（1）自然か、文化か？						
2	イントロダクション（2）身体と技術（芸術）						
3	身体と舞踊						
4	身体と衣装						
5	身体と言語						
6	身体と写真						
7	身体と音楽						
8	身体と建築						
9	身体と絵画						
10	身体と貨幣						
11	身体と機械						
12	身体と記憶						
13	身体と映像						
14	身体と旅行						
15	まとめ－生きる術としてのアート－						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	小テスト・授業内レポート	○	◎			50	
	授業態度・授業への参加度	○	◎			50	
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しませんが、講義補足資料や文献リストを適時配布します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け、授業時間のなかで回答します。						

授業科目名	文 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	田 代 ゆ き						
授業の概要	<p>日本近代／現代文学の散文を読む。 「文学」は書かれた文字による世界だが、作家や作品の中には、目の前の現実社会と絶えず対峙し、格闘しようとしたものたちが存在した。それら作家作品からいくつかを取り上げ、「転形期」をテーマに据えて、読解する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	文学の言葉を読解する方法について理解する。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	文学の言葉の論理、思考の方法について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	提示された読みの提案を理解した上で、それぞれの主体的な読書行為を実践する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス・「転形期」について		講義		指定したテキストを読書の上、参加する。（以下同）		
2	ガイダンス・1950年代文学運動について（福岡／筑豊地域を中心に）		講義				
3	花田清輝「歌の誕生」		講義				
4	同上		講義				
5	花田清輝「テレザ・パンザの手紙」		講義				
6	大西巨人・初期批評		講義				
7	同上		講義				
8	大西巨人「神聖喜劇」		講義				
9	同上		講義				
10	夏目漱石「吾輩は猫である」		講義				
11	同上		講義				
12	二葉亭四迷「私は懐疑派だ」		講義				
13	同上		講義				
14	正岡子規「九月十四日の朝」		講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	定期試験	○	◎			90	
	授業態度・授業への参加度	○	◎			10	
テキスト・参考文献等	テキストはプリントして配布する。参考文献については、講義の中で必要に応じて紹介する。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	各時間の授業終了後。補足的にメールも使用する。						

授業科目名	哲学的人間学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	樋渡 河・重松順二						
授業の概要	「人間とは何か?」と改めて問われてみれば、誰もが答えに窮してしまう。本講義では、人間を主に、身体と人格の両面から取り上げる。身体は、自然および人工の環境に独自の仕方で適応しており、我われ自身よりも我われをよく知っている。また、保健福祉分野での人格の尊厳は切実な問題であり、人格への哲学的基礎論からのアプローチが重要な寄与をなす。本学での専門教育のための基礎科目として、現代社会において「人」にたずさわるための、哲学的基礎教養を学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	教養として、人間学、哲学、倫理学についての知識を幅広く身につけている。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	環境における人間の身体と社会における人格の尊厳についての知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	「人間とは何か」という問いを、自分の問題として哲学的に捉えて、他者に説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	哲学的人間学への導入	「講義資料」による講義	参考文献②	樋渡			
2	こころとも 人間のいない世界と人間しかいない世界	「講義資料」による講義	講義資料の復習	樋渡			
3	存在論 存在するものには存在仕方の違いがある	「講義資料」による講義	講義資料の復習	樋渡			
4	感覚の世界 音を味わい、色を聴く	「講義資料」による講義	参考文献①	樋渡			
5	身体と言葉 からだとことばが勝手に動く 小レポート	「講義資料」による講義	参考文献①	樋渡			
6	人間学 人間は働き、作り、活動し、遊ぶ	「講義資料」による講義	参考文献③	樋渡			
7	前半のまとめ	「講義資料」による講義		樋渡			
8	哲学的思考と科学的思考	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
9	理論哲学における「私」(1)・デカルトのコギト	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
10	理論哲学における「私」(2)・カントの理論哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
11	理論哲学における「私」(3)・カントの理論哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
12	実践哲学における「私」(1)・カントの実践哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
13	実践哲学における「私」(2)・カントの実践哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
14	カントにおける人格とパーソン論における人格	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
15	全体のまとめ	授業全体の総括		重松			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
		◎	◎				
定期試験		◎	◎				
宿題・授業外レポート		◎	◎				
授業態度・授業への参加度		○	○				
テキスト・参考文献等	テキストはとくに設けない。参考文献を挙げておく。①メルロ＝ポンティ『知覚の現象学1・2』（みすず書房）②カッシーラー『人間』（岩波文庫）③アーレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫）						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業後に受け付ける。「講義資料」にメールアドレスを記載し、メールでも受け付ける。						

授業科目名	社会学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	堤 圭史郎	前期	講義	選択 (公共社会学科は必修)	2	1年
授業の概要	社会学は人びとが形づくる社会生活や集団、社会について調べ、色々な社会現象が起こるメカニズムを解明し、よりよい社会のあり方について探求する学問である。具体的には、(1)「不思議」な社会現象を見つけだし、(2) その現象がいかなるものであるかを記述した上で、(3) なぜそのような「不思議」な社会現象が発生・存続しているのかを説明し、さらに(4) その社会現象が何らかの問題をはらんでいるものである場合には、その現象の発生・存続のメカニズムをふまえつつ、よりよいシステムを構想してゆく科学である。前期の講義では、社会学の基本的な社会現象の捉え方について、例をとりあげながら紹介していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	社会的存在としての人間のあり方について理解するための知識を身につけている。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	社会学における古典的な考え方を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代の社会現象・社会問題について批判的に考察し、それを説明することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会学の基礎的知識をもとに、社会問題の解決に向けた指針を説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	事前・事後学習（学習課題）					
1	ガイダンスーどのようなことを学ぶのか	講義で多くふれられない事項については、資料を配布する。次回までに通読しておくこと。紹介する参考文献も手に取ってほしい。授業時間外の学習で担当教員が最も期待しているのは、講義で学んだことについて、ポーッと思いにふけったり、お茶を飲みながら友達と話をすることである。学習効果が飛躍的に高まる。					
2	社会的存在としての人間（1） 食欲と社会						
3	社会的存在としての人間（2） お手本とものさし（その1）						
4	社会的存在としての人間（3） お手本とものさし（その2）						
5	社会的存在としての人間（4） よく当たる占いなぜよく当たるのか						
6	社会的存在としての人間（5） 地位と役割						
7	社会学の分析諸次元						
8	まとめと課題						
9	社会学の考え方（1） 官僚制と民主主義						
10	社会学の考え方（2） 宗教と資本主義						
11	社会学の考え方（3） 社会的分業と連帯						
12	社会学の考え方（4） 自殺と社会						
13	方法論的個人主義と方法論的集団主義						
14	まとめと課題						
15	課題解説とまとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎		○	100	
補足事項	期末課題 60%、中間課題 30%、授業内課題 10%にて評価する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。 参考文献：①井上俊・大村英昭他『改訂版 社会学入門』放送大学教育振興会 1993年。②森下伸也・宮本孝二・君塚大学『パラドックスの社会学』新曜社 1998年。③森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版社 2000年。他、講義中に指示する。						
履修条件	公共社会学科：必修、社会福祉学科：社会福祉士国家試験受験資格の指定科目。 2008年度以前の入学生は、社会福祉学科も必修。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してほしい。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。						

授業科目名	社会学 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択 (公共社会学科は必修)	2	1年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	社会学は人びとが形づくる社会生活や集団、社会について調べ、色々な社会現象が起こるメカニズムを解明し、よりよい社会のあり方について探求する学問である。現代社会のしくみは激しく変動し続けている。現代の社会現象・社会問題について適切に分析するためには、過去の準拠点となる時期の特徴を知り、比較に基づいて理解することがさしあたり有効である。後期の講義では、「若者」をキーワードにし、主に戦後日本社会の構造変動について、「産業」「労働」「教育」「家族」「文化」「自我」等々の面から議論する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	社会的存在としての人間のあり方について理解するための知識を身につけている。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	社会学の基本的な考え方を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代の社会現象・社会問題について批判的に考察し、それを説明することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会学の基礎的知識をもとに、社会問題の解決に向けた指針を説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容				事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンスー前期の復習				講義で多くふれられない事項については、資料を配布する。次回までに通読しておくこと。紹介する参考文献も手に取って見てほしい。授業時間外の学習で担当教員が最も期待しているのは、講義で学んだことについて、ポーッと思いにふけったり、お茶を飲みながら友達と話をすることである。学習効果が飛躍的に高まる。		
2	社会学的自我論（1）ー社会化と自我						
3	社会学的自我論（2）ー役割と自我						
4	青年期論ー「特権」としての青年期						
5	戦後型青年期の形成・発展・変容（1）ー高度経済成長期						
6	戦後型青年期の形成・発展・変容（2）ー安定成長期ー構造変動期						
7	戦後型青年期の形成・発展・変容（3）ー若年労働市場の面より						
8	まとめと課題						
9	経済のかたちとしてのフォーディズム（1）ーフォーディズムの特徴						
10	経済のかたちとしてのフォーディズム（2）ーポスト・フォーディズムと排除型社会						
11	家族（1） 近代家族とその変容						
12	家族（2） 未婚化・晩婚化と社会変動						
13	社会変動と社会問題						
14	まとめと課題						
15	課題解説とまとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎		○	100	
補足事項	期末課題 60%、中間課題 30%、授業内課題 10%にて評価する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。 参考文献：①井上俊・大村英昭他『改訂版 社会学入門』放送大学教育振興会 1993年。②森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版社 2000年。③本田由紀『軋む社会ー教育・仕事・若者の現在』河出書房新社 2011年。④宮本みち子『若者が無縁化するー仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』筑摩書房 2012年。他、講義中に指示する。						
履修条件	公共社会学科：必修、社会福祉学科：社会福祉士国家試験受験資格の指定科目。 2008年度以前の入学生は、社会福祉学科も必修。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してほしい。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。						

授業科目名	法 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	森 脇 敦 史						
授業の概要	本講義では、民法や刑法、労働法、行政法、憲法、国際法といった様々な法分野の議論を検討し、その共通点と相違点を対比することで、社会生活に必要となる法的知識を習得し、また社会問題を専門的に学ぶ基礎を形成することを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	社会生活の基盤となっている法制度の内容とその意義を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会生活に内在する法的視点を自ら探索することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		講義		1章（6-17頁）		
2	契約法（1）……契約自由の原則、契約の成立と効果		講義		2章（18-26頁）		
3	契約法（2）……契約の取消、行為能力の制限		講義		2章（26-29頁）		
4	消費者保護……契約自由の原則の修正、クーリングオフ、取消権		講義		2章（29-30頁）、 5章（62-66頁）		
5	不法行為法（1）……不法行為の成立要件		講義		3章（32-41頁）		
6	不法行為法（2）……阻却事由、効果		講義		3章（41-45頁）		
7	労働法……労働契約、労働組合、多様な働き方		講義		5章（67-75頁）		
8	家族法（1）……婚姻		講義		4章（46-54頁）		
9	家族法（2）……親子、離婚		講義		4章（54-61頁）		
10	刑事法……刑罰の目的、罪刑法定主義、刑事手続		講義		6章（76-87頁）		
11	交通事故と法……故意犯と過失犯、危険運転		講義		7章（88-99頁）		
12	憲法……選挙権、統治機構		講義		8章（100-113頁）		
13	情報社会の法と行政……個人情報、プライバシー		講義		9章（114-125頁）		
14	国際社会の法（1）……条約、国際機関、国際環境法、国際私法		講義		10章（126-135頁）		
15	国際社会の法（2）……国籍、国際人権法		講義		11章（136-145頁）		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	テキスト：池田真朗編『プレステップ法学 第3版』弘文堂、2016年						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						

授業科目名	憲 法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	森 脇 敦 史						
授業の概要	憲法は、国家権力を制限する法であると同時に、国家権力を可能とする法でもある。本講義では、国民主権、基本的人権、平和主義といった憲法の基礎概念を、具体的な事案と照らし合わせて解説することで、社会問題をより深く学ぶ基礎を作り、社会に生きる市民として必要な知識及び推論方法を習得することを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	市民社会の基盤である憲法（特に日本国憲法）の内容とその意義を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	対立する当事者の主張を権利義務の視点からとらえることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス、憲法総論		講義		教科書の該当部分を読んでおくこと。		
2	人権総論①……人権の概念と主体		講義				
3	人権総論②……制約原理、適用範囲		講義				
4	幸福追求権		講義				
5	平等権		講義				
6	思想・良心の自由、信教の自由		講義				
7	表現の自由①……総説、特別のルール		講義				
8	表現の自由②……内容規制と内容中立規制		講義				
9	経済的自由……職業選択の自由、財産権		講義				
10	社会権①……生存権、教育を受ける権利		講義				
11	社会権②……労働者の権利		講義				
12	参政権		講義				
13	統治機構論……権力分立、日本の政治制度		講義				
14	平和主義①……憲法9条と自衛権、自衛隊・日米安全保障条約		講義				
15	平和主義②……冷戦終結後の安全保障		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	テキスト：大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない（第3版）』（青林書院・2015年）						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						

授業科目名	政治学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	岡本雅享	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	政治は利害調整のしくみだから、全世界から仲間内まで、人が集まる所に政治は生じる。政治に関する様々な多角的な物の見方を提供し、政治が本当はいかに身近で、ダイナミックに変化し、誰でも関わっているかを受講生が理解できるようにしていく。具体的には、二つの政治体制（中央政府と地方政府）、自治体、国家成立の要件、マスメディアの動き、などを扱う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	現代日本政治を理解する基礎をみにつける。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	政治に深い関心を持ち、主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	権力とは何か（講義の概要）	講義			配付資料、課題を読む。		
2	政治への関心：ディスカッション	講義			同上		
3	二つの政治体制—中央政府と地方政府	講義			同上		
4	自治体とは？—日米「自治体」の比較	講義			同上		
5	Why Democracy? 問われる民主主義	講義			同上		
6	日本の政治家—有権者はどんな人を選んできたか	講義			同上		
7	政治家とは？：アフガン女性議員の闘い	講義			同上		
8	時事問題	講義			同上		
9	メディアと政治①ジャーナリズムと権力監視	講義			同上		
10	メディアと政治②メディアと世論の政治の関係	講義			同上		
11	メディアと政治③ソーシャルメディアと政治	講義			同上		
12	時事問題	講義			同上		
13	選挙のしくみ	講義			同上		
14	人口10万人以下の国々から考える国家と自治	講義			同上		
15	自治と若者の政治参加	講義			同上		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	20	
期末レポート		○	○	○	○	35	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
テキスト・参考文献等	伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣ブックス						
履修条件	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。						

授業科目名	政治学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	戦後～現在進行中の政治問題に焦点をあて、国際関係と国内政治の関係も交えながら、政治を理解し、自分なりの考えをもって判断できる、政治を見る眼を、受講生が培えるようにしていく。その中で、日々の新聞・ニュースで飛び交う生の政治用語も理解できるようにしていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	現代日本政治を理解する基礎をみにつける。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	政治に深い関心を持ち、主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	冷戦と現代①第二次大戦の終結と冷戦時代の始まり		講義		配付資料、課題を読む。		
2	冷戦と現代②共産・社会・自由・資本主義		講義		同上		
3	冷戦と現代③55年体制の時代 右派・左派と保守・リベラル		講義		同上		
4	冷戦と現代④日米安保と自衛隊		講義		同上		
5	冷戦と現代⑤戦後日本の政党政治の変遷		講義		同上		
6	冷戦と現代⑥冷戦の終結と連立政権の始まり		講義		同上		
7	時事問題		講義		同上		
8	国会のしくみ		講義		同上		
9	官僚と政策づくり		講義		同上		
10	政治と司法：日独比較		講義		同上		
11	時事問題		講義		同上		
12	財政をめぐる中央―地方関係		講義		同上		
13	市町村合併と自治		講義		同上		
14	時事問題		講義		同上		
15	自治と市民活動		講義		同上		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	20	
期末レポート		○	○	○	○	35	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
テキスト・参考文献等	伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣ブックス						
履修条件	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。						

授業科目名	経済学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	限定された資源を効率よく活用し、人々の物質的な満足度を高める方法を探求するのが「経済学」という学問の世界である。したがって経済学は、限られた経済的資源を活用する最善の方法を選択することと関係している。経済学 A では、最も合理的な選択をするための理論的なアプローチ、「インセンティブ」の力とその反応、選択による「機会費用」の発生、そして満足度の高い選択のための「効用極大化原理」を講義する。そして、限られた資源を効率よく活用し生産性を高めるという企業側の選択を「利潤極大化原理」を用いて説明し、効率的な配分と公正な配分について講義する。最後に「不確実性」というリスクの中での選択問題を説明した後、「リスク」に対する態度、それによって生じる異なる波及効果を講義する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	経済学の諸理論を理解する。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	特定の産業および企業における効率的な配分と公正な配分について分析できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	経済合理性を理解し、経済的合理性の高い選択ができる。					
	DP4：表現力	経済合理性を説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	希少性と経済の基本問題			テキスト第1章を予習			
2	市場経済とその構造：モノの流れとカネの流れ、需要と供給			テキスト第1章を予習			
3	消費者行動：効用極大化原理、効用関数			テキスト第4章を予習			
4	所得変化と価格変化の効果：代替効果と所得効果			テキスト第4章を予習			
5	生産者行動：利潤極大化原理、生産関数			テキスト第5章を予習			
6	最適生産の決定：費用関数、供給関数			テキスト第5章を予習			
7	競争市場均衡：市場均衡、余剰			テキスト第6章を予習			
8	市場メカニズムの働き：ワルラスの調整過程、マーシャルの調整過程、クモの巣の調整過程、比較静学			テキスト第6章を予習			
9	不完全競争市場：独占市場、寡占市場とゲーム理論			テキスト第7章を予習			
10	独占に対する規制：独占的競争市場と製品差別化、独立採算原理			テキスト第7章を予習			
11	市場機構の効率性とその限界：パレート効率、厚生経済学			テキスト第8章を予習			
12	市場の失敗：市場機構の限界、コアと競争均衡、社会的余剰			テキスト第8章を予習			
13	国際貿易と資本移動：交易条件の決定、関税と貿易政策			テキスト第9章を予習			
14	不確実性というリスク：リスクに対する姿勢、リスクへの対応			テキスト第10章を予習			
15	所得分配と社会的選択：ローレンツ曲線とジニ係数、社会的厚生関数			テキスト第10章を予習			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	塩澤修平『経済学・入門』有斐閣アルマ。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	経済学 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	<p>経済学 A では主に家計や企業など個別経済単位における経済合理性について講義した。引き続き経済学 B では、個別経済単位を合わせた総合的な経済行為について講義する。経済学 B は、マクロ経済学の世界になる。すなわち国民経済の動きをあらわす国民所得、雇用、物価、賃金、利子率、国際収支、為替などについて、それらの決定要因と波及効果、最善の調整方法などについて講義する。例えば、「賃金額を決定する要因は?」、「物価水準を決定する要因は?」、「景気を良くするためのよい政策は?」、「雇用を増やすための有効な政策は?」、「国際間の財貨やサービス、金融資産などの取引を決定する要因は?」などの問いについてその答えを探る。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	マクロ経済学という学問の世界を理解する。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	日本経済を診断し、問題点を改善するための有効な政策が提案できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	日本経済の現状を分析し、今後の経済展望について説明できる。					
	DP4: 表現力	マクロ経済学とミクロ経済学との違いが説明できる。					
<b>授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習 (学習課題)				
1	マクロ分析における経済主体: 国民所得、付加価値		テキスト第 11 章を予習				
2	三面等価の原則と産業連関: 国内総生産と国内総支出、物価指数		テキスト第 11 章を予習				
3	有効需要の原理: 消費関数、投資関数		テキスト第 12 章を予習				
4	均衡所得の決定: 消費・投資需要と均衡国民所得、需要の変化と乗数効果		テキスト第 12 章を予習				
5	IS-LM 分析: IS 曲線、LM 曲線と所得・利子率の決定		テキスト第 13 章を予習				
6	財政・金融政策の目的と手段: IS-LM 分析による財政・金融政策の効果		テキスト第 13 章を予習				
7	フィリップス曲線とインフレ曲線: 総需要関数と総供給関数、インフレ供給曲線、インフレ需要曲線		テキスト第 14 章を予習				
8	インフレーションと合理的期待: 短期均衡と長期均衡への調整、合理的期待モデル		テキスト第 14 章を予習				
9	固定相場制: 対外取引と所得、為替レート一定のもとでの政府の動き		テキスト第 15 章を予習				
10	変動相場制: 為替の動きと所得、物価と為替レートの調整、為替レートの決定理論		テキスト第 15 章を予習				
11	景気循環: 型と周期、乗数・加速度原理、不規則な景気の動き		テキスト第 16 章を予習				
12	恒常的成長: ヒトもモノも過不足のない成長、技術進歩と最適成長		テキスト第 16 章を予習				
13	世代重複モデル: 競争均衡配分の非パレート効率性		テキスト第 17 章を予習				
14	ジョブ・サーチ理論と労働契約理論: 働くか、やめるか?		テキスト第 17 章を予習				
15	企業の社会的責任とフィランソロピー: 社会システムの構造、寄付とボランティア、寄付税制		テキスト第 18 章を予習				
<b>成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	塩澤修平『経済学・入門』有斐閣アルマ。						
履 修 条 件	経済学 A を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	国際関係論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>本講義の目的は近現代の国際関係を見ることにより、なるべく国際社会への理解を深め、現代の社会人として欠かせない国際的な感覚を養うことに貢献することにある。そのために、まず、国家や国際体系などの基本概念を学び、国際関係論の基礎的な知識を理解してもらう。次に、国際関係の構造と諸課題を概観することにより、今日の世界において特に注目されている民族や平和、人権問題などを考える。なお、必要に応じて注目される国際社会の時事問題を随時分析する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	1、近現代の国際関係史の展開への理解 2、とくに冷戦後の国際情勢の特徴と課題への理解					
	DP2：専門・隣接領域の知識	大学生と卒業後の社会人として今日の世界を理解するのに欠かせない基本を考える。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1、講義内容・評価方法の説明 過去一年の国際情勢への回顧</p> <p>2、2回目から7回目にかけて国際関係を理解するための基本を考える。主に、A、国際関係学の概念、B、現実生活との関係、C、国家の概念、D、帝国主義、社会主義、民族主義などの歴史、F、二回の世界大戦、G、冷戦とポスト冷戦の情勢 ・事前・事後学習：テキストの「序論」、「第一章」、「第二章」、「第四章」の勉強</p> <p>3、8回目～10回目は民族と国家の問題を考える。主に民族と国家の歴史、民族紛争の歴史と現状及び展望 ・事前・事後学習：テキストの「第二章」の勉強</p> <p>4、11回目～12回目は近年の民主主義の波の問題を考える。冷戦後における民主主義の波の原因と問題点を中心に。 ・事前・事後学習：テキストの「第三章」の勉強</p> <p>5、13回目～14回目は国際関係における人権問題を考える。人権の提起と歴史及びその発展 ・事前・事後学習：テキストの「第四章」の勉強</p> <p>6、15回目は講義の重点をまとめる。いままでの授業内容とテキストの復習とまとめ</p> <p>方法：以上はすべて講義内容を説明しながら、みんなのコメントをもとめ、質問に答える。場合によってディスカッションを行う。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				70	
授業態度・授業への参加度		○				30	
補足事項	1、主にレポートで評価し、問題意識や講義内容の理解度などを重視する。2、授業の進捗状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。3、授業への参加度は3分の2が最低限。						
テキスト・参考文献等	テキスト：『国際関係論』百瀬宏 東京大学出版会、参考文献：『国際政治の基礎』「増補版」齋藤孝						
履修条件	1、授業の前に必ずテキストを読むこと。2、講義でメモをとること。						
学習相談・助言体制	1、受講の前に必ず予習すること。2、問題意識をもって質問する習慣をつけること。						

授業科目名	社会思想史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	朝倉拓郎						
授業の概要	<p>現在、私たちの社会は多くの困難な問題に直面しています。これらの問題を解決し、よりよい社会を作り上げていくためには、私たちが生きている社会の特徴を深く理解する必要があります。このために本講義では、思想と歴史という観点からアプローチします。具体的には、現在の社会の形成に大きな影響を与えた思想家を取り上げ、彼らの著作（いわゆる古典）を通じてその思想を理解していきます。その際に、たんに結論を紹介するのではなく、彼らがどのような問題に直面し、それに対してどのように答えようとしたのかというプロセスに重点を置いて説明します。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	社会について考察し議論する上で、基礎的な概念や語彙を理解する。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	上記の概念や語彙を用いて、現在の社会のあり方について批判的に検討できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会のあり方に関する多様で対立する価値観が存在することを認識した上で、他者の意見を傾聴し、また自らの意見を他者に対して論理的、説得的に展開することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	イントロダクション：受講上の注意、「思想」を学ぶということ						興味を持った古典を読む。
2	古代ギリシャの社会思想（1）：社会思想の誕生						〃
3	古代ギリシャの社会思想（2）：アリストテレスの社会思想						〃
4	中世の社会思想（1）：キリスト教の社会思想						〃
5	中世の社会思想（2）：宗教改革と近代社会思想の誕生						〃
6	ホッブズの社会思想（1）：人間論						〃
7	ホッブズの社会思想（2）：社会契約による国家の設立						〃
8	ロックの社会思想（1）：所有権に基づく政治社会論						〃
9	ロックの社会思想（2）：政教分離と寛容の思想						〃
10	ルソーの社会思想（1）：文明社会批判						〃
11	ルソーの社会思想（2）：一般意志に基づく社会構想						〃
12	19世紀の社会思想（1）：民主化の時代における自由						〃
13	19世紀の社会思想（2）：マルクスの社会思想						〃
14	現代の社会思想：ロールズの社会正義論						〃
15	まとめ						〃
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎	◎			80	
	授業態度・授業への参加度	○	○			20	
補足事項		授業への参加度は、毎回配布する「コメントカード」への記入内容によって評価する。					
テキスト・参考文献等	<p>テキストは指定しない。資料を配付する。  参考文献：村松茂美ほか編『はじめて学ぶ西洋思想—思想家たちとの対話—』（ミネルヴァ書房、2005年）  その他の参考文献は、講義の中で適宜紹介する。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<p>本講義に関する質問は、授業の前後に受け付ける。また、メールによる質問も受け付ける。  （メールアドレス：asakura@law.kyushu-u.ac.jp）</p>						

授業科目名	科学史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	菊地原 洋 平	後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	科学は日々発達している。それゆえ、かつては正しいとみなされた科学知識や理論が訂正され、現在ではとうに忘れ去られたものも数多くある。しかしながら、当時それらが正しいとみなされたのには、それなりの根拠があった。この授業では、そうした過去の間違った科学知識や理論を、それぞれの時代の知的・社会的背景とともに考察していくことで、科学の歴史を見直していきたい。(社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目)						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	科学の歴史の基礎的な知識を身につける。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	政治、社会、経済、思想、文化などとの関連性を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	歴史にもとづく広い視野と多様なものの考え方や見方を学ぶ。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	はじめに：授業紹介など		講義				
2	火星の運河：天文学の歴史、あるいは宇宙人と地動説		講義				
3	ノアの洪水を目撃した人：地質学の歴史、あるいは化石とキリスト教		講義				
4	南方大陸：地理学の歴史、あるいは探検航海と植民地政策		講義				
5	N線：放射線学の歴史、あるいは心霊・オカルトブーム		講義				
6	ビルトダウン人：古人類学の歴史、あるいは科学史上最大の捏造事件		講義				
7	ガルヴァーニズム：電気学の歴史、あるいは身体・生命の本質		講義				
8	大海蛇：動物学の歴史、あるいは未確認動物（UMA）と怪物		講義				
9	ヴァルカン：惑星科学の歴史、あるいは神話的思考と数学的思考		講義				
10	地球空洞説：地球科学の歴史、あるいは地下世界とSF小説		講義				
11	定向進化説：生物学の歴史、あるいは生物の進化と多様性		講義				
12	四体液：医学の歴史、あるいは性格診断と占星術		講義				
13	性体系：分類学の歴史、あるいは科学知識とジェンダー		講義				
14	固定空気：化学の歴史、あるいは錬金術の変遷		講義				
15	オリザニン：栄養学の歴史、あるいは脚気論争の影響		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			85	
小テスト・授業内レポート		○	○			5	
宿題・授業外レポート		○	○			5	
授業態度・授業への参加度		○	○			5	
補足事項	出席回数が授業回数の2/3以下の学生は試験を受けることはできない。						
テキスト・参考文献等	プリントを配布する。 資料：下坂英「さいえんす死語事典」『サイアス』（1999年1月号－2000年12月号）。						
履修条件	なし（理系の知識はとくに必要なし）。						
学習相談・助言体制	授業終了後						

授業科目名	生 物 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	芋 川 浩						
授業の概要	生命の基本単位である細胞に関する基本的な知識を学び、さまざまな生命現象や生体反応のしくみを理解することで、社会人・職業人として身につけるべき生物学的な教養を学ぶことを主たる目的とする科目である。また、生命とは何か、生物はどのようにして生まれ、生きているのかを、最新の医学・生命科学の話題もまじえながら、概説する。本講義では、最新の遺伝子技術や医療技術についての理解を深めることもその目標に掲げている。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	生命の基本単位である細胞の構造や機能、多細胞生物の成立過程を理解・説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	からだの神秘やその総合的な機能メカニズムについて理解・説明できるとともに、最新のバイオテクノロジーについても知識を深め、応用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介）		講義		理解度に応じ、指導する。		
2	生命とは		講義		理解度に応じ、指導する。		
3	細胞とは①		講義		理解度に応じ、指導する。		
4	細胞とは②		講義		理解度に応じ、指導する。		
5	多細胞生物への道①（細胞分裂など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
6	多細胞生物への道②（減数分裂など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
7	多細胞生物への道③（生命誕生の神秘など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
8	多細胞生物への道④（受精のメカニズムなど）		講義		理解度に応じ、指導する。		
9	多細胞生物への道⑤（初期発生のメカニズムなど）		講義		理解度に応じ、指導する。		
10	多細胞生物への道⑥（形態形成のメカニズムなど）		講義		理解度に応じ、指導する。		
11	からだの神秘①（ホメオボックスなど）		講義		理解度に応じ、指導する。		
12	からだの神秘②（昆虫と哺乳類の違い）		講義		理解度に応じ、指導する。		
13	生命の総合的メカニズム①（生命体の不思議など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
14	生命の総合的メカニズム②（生命科学・医学の最先端トピックス）		講義		理解度に応じ、指導する。		
15	まとめ		講義		理解度に応じ、指導する。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			15	
テキスト・参考文献等	テキスト：生命の神秘（仮称、芋川浩著、木屋舎、4月1日出版予定）（開講時に下記の文献を含め複数の参考文献を紹介する） 参考文献：細胞の分子生物学 第6版（Garland Science）						
履修条件	講義への参加度などを重視するため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学を学んでいた方がよいが、学んでいなくても問題はない。						
学習相談・助言体制	質問は随時受け付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。						

授業科目名	化 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	芋 川 浩						
授業の概要	我々は多くのものを手に取り、食べたり、また利用して生活している。本講義では、主に我々の体（人体）を構成する物質について化学の観点から理解することで、社会人・職業人として身につけるべき教養を学ぶことを主たる目的とする科目である。また我々の身の周りには多くの化学が存在し、それを必要としていることを理解・考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	有機化学の簡単な概要について理解・説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	生体（人体）を構成している物質である、糖質、タンパク質、脂質、核酸に関し、その構造や機能を理解し、応用できる。また、我々の生活に身近な化学についても幅広い知識を習得し、応用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介）		講義		理解度に応じ、指導する。		
2	化学とは（無機化学と有機化学の理解を含む）		講義		理解度に応じ、指導する。		
3	有機化合物①（脂肪族炭化水素など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
4	有機化合物②（酸素、窒素などを含む化合物）		講義		理解度に応じ、指導する。		
5	有機化合物③（カルボン酸など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
6	有機化合物④（芳香族化合物など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
7	生体の化合物①（糖質）		講義		理解度に応じ、指導する。		
8	生体の化合物②（脂質）		講義		理解度に応じ、指導する。		
9	生体の化合物③（アミノ酸とタンパク質）		講義		理解度に応じ、指導する。		
10	生体の化合物④（核酸）		講義		理解度に応じ、指導する。		
11	生体の化合物⑤（遺伝情報など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
12	身の周りの化学①（バイオテクノロジーなど）		講義		理解度に応じ、指導する。		
13	身の周りの化学②（衣・食など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
14	身の周りの化学③（人体・宇宙など）		講義		理解度に応じ、指導する。		
15	まとめ		講義		理解度に応じ、指導する。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			15	
テキスト・参考文献等	テキスト：系統看護学講座 化学 基礎 2（第6版）（杉田良樹著、医学書院） 参考文献：開講時に複数の参考文献を紹介する。						
履 修 条 件	講義への参加度などを重視するため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で化学を学んでいた方がよい、学んでいなくても問題はない。						
学習相談・助言体制	質問は随時受け付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。						

授業科目名	物 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	大坪 慎一						
授業の概要	物理学は「物の運動」を探求する側面と、「物は何でできているか」を明らかにする側面の2つの方向で、自然を数学的にとらえ客観的な法則化を行って原理的理解を目指すという方法論を確立しながら発展してきた。この授業では、私たちの現代的な世界観の基盤を理解する教養科目として、複雑系の理解の進展や膨張宇宙といった内容を取り入れ、17世紀後半から現在まで進展してきた物理学の基礎的事項と考え方を概観する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	物理学を背景とする現代的な世界観を基に、豊かな人間性そして幅広い視野を養う。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	生命科学を理解する基礎である物理学の基本的知識を修得する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自然科学・技術の根幹をなす物理的な自然認識の考え方を修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	力と運動：速度、加速度、ニュートンの運動の法則、運動方程式		講義と演習		配布プリントの復習		
2	エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、保存則		講義と演習		配布プリントの復習		
3	剛体のつりあい：剛体の回転、力のモーメント		講義と演習		配布プリントの復習		
4	物体の変形：弾性と塑性、ひずみと応力		講義と演習		配布プリントの復習		
5	温度と熱量：温度とは何か、熱力学第1法則		講義と演習		配布プリントの復習		
6	エントロピー：熱機関の効率、不可逆過程とエントロピー増大の法則		講義と演習		配布プリントの復習		
7	波動現象：重ね合わせの原理、正弦波、定常波、音と光		講義と演習		配布プリントの復習		
8	複雑系：カオスとフラクタル、パターン形成		講義と演習		配布プリントの復習		
9	電磁気学Ⅰ：電場と磁場の概念、近接作用の考え方、電流と電気抵抗		講義と演習		配布プリントの復習		
10	電磁気学Ⅱ：電流の作る磁場、電磁誘導、電磁波		講義と演習		配布プリントの復習		
11	相対性理論：マイケルソン・モーリーの実験、時間の遅れ		講義と演習		配布プリントの復習		
12	量子の世界：光の粒子性、電子の波動性		講義と演習		配布プリントの復習		
13	原子の構造：水素原子の線スペクトル、離散的エネルギー準位		講義と演習		配布プリントの復習		
14	レーザーと核磁気共鳴：X線、レーザーの原理、NMRの原理		講義と演習		配布プリントの復習		
15	宇宙の進化：原子核の性質、核分裂と核融合、恒星の進化、超新星爆発		講義と演習		配布プリントの復習		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
学期末レポート		○	◎			50	
授業中の演習		◎	○			50	
補足事項		授業ごとに用意する演習問題 40%、レポート 30%、定期試験 30% の割合で評価し、100点満点で 60 点以上を合格とする。					
テキスト・参考文献等	毎回、授業内容をまとめたプリントを配布し、プロジェクターを用いて説明を行う。						
履 修 条 件	高等学校段階での物理内容の知識は前提ではない。微分・積分の基礎を知っていることが望ましいが、微積分を用いた表式を提示するのは物理学の基本的性格を示すためであり、数式を解くことが主目的ではないので、まったく知らなくても履修可能。						
学習相談・助言体制	授業時間中および授業前後。						

授業科目名	統計学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	原田直樹	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	統計学の基本的事項を理解することを目的に、統計学の考え方、記述統計学、推計統計学の基礎を学ぶ。また統計学が現実社会や研究にどのように活用されているのかについても解説する。(専門的教育の基礎を主たる目的とする科目)						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	データの要約や解釈を行う上での根拠を提示する学問であることを知る。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	論理的思考や判断に統計学を根拠として用いることができる。					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習 (学習課題)
1	統計学とは どのような場面で活用されるのか?						
2	統計について学ぶための基礎知識						
3	1つひとつの変数についての分析① 度数分布						
4	1つひとつの変数についての分析② 数値要約						
5	1つひとつの変数についての分析③ 標準偏差と正規分布						
6	2つの変数の関係についての分析① 相関関係						
7	2つの変数の関係についての分析② 相関関係と因果関係						
8	2つの変数の関係についての分析③ クロス集計 第1～7回までの確認小テスト						第1～7回までの復習
9	統計的検定の基礎						
10	適切な統計的検定の選択						
11	統計的検定の実際① 対応のない場合のt検定						第10回の復習
12	統計的検定の実際② 対応のある場合のt検定、U検定						
13	統計的検定の実際③ $\chi^2$ 検定						
14	統計的検定の実際④ ピアソンの相関係数の有意性検定						
15	まとめ 第8～14回までの確認小テスト						第8～14回までの復習
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
定期試験		◎	○			60	
授業態度・授業への参加度		○				40	
補足事項	確認小テスト(8回目、15回目)は成績評価に用いない。						
テキスト・参考文献等	講義資料を毎回用意する。参考文献は授業時に適宜紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業後またはメールで随時受け付ける。						

授業科目名	情報科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	石崎 龍二						
授業の概要	<p>近年急速に発展している情報技術を理解して、大学での学習や研究に情報機器を活用する上で基礎となる知識を習得する。具体的には、コンピュータ内部では、種々の情報がどのように表現されているのか、インターネットでは、どのような方法で情報通信が行われているのかなどについて学ぶ。</p> <p>情報技術が発展する一方で、情報漏洩、不正アクセス、コンピュータウイルスなどのサイバー犯罪が社会問題になってきた。こうした高度情報化社会におけるさまざまな問題について考察する。さらに情報のセキュリティ対策について学ぶ。</p> <p>本科目は本大学の専門教育の基礎を主たる目的とする。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	<p>情報のデジタル表現について理解している。            コンピュータネットワークの仕組みを理解している。            サイバー犯罪について理解している。            情報セキュリティ対策について理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>社会の諸問題に対し、情報科学の観点から考察することができる。</p>					
技能	DP8：情報リテラシー	<p>情報量の計算ができる。            サイバー犯罪に対する対策を講じることができる。            情報機器に対する情報セキュリティ対策を講じることができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	コンピュータの歴史－ENIACからPCの出現まで	講義	今後、新聞の経済欄やインターネットなどで最新のコンピュータ関連の動向をチェックする。				
2	コンピュータの基本構成	講義	コンピュータの5大装置について復習				
3	情報のデジタル表現①－アナログとデジタル、2進数とその計算方法について	講義	2進数について復習				
4	情報のデジタル表現②－アナログとデジタル、2進数、16進数	講義					
5	情報のデジタル表現③－数字、文字のデジタル化	講義	JISコードとASCIIコードの違いを復習。普段扱っている文書ファイルの情報量と音声や画像データの情報量とを比較する。				
6	情報のデジタル表現④－音、画像のデジタル化	講義	2進数の加減乗除と論理演算について復習				
7	2進法の演算と論理演算	講義	集中処理方式と分散処理方式の違いを復習				
8	コンピュータネットワークの歴史－ARPANETからInternetまでの発展	講義	パケット交換方式や通信プロトコルの意味を復習				
9	情報通信ネットワークのしくみ①－パケット通信、通信プロトコル、IPアドレス	講義	講義終了時にレポート課題提示				
10	情報通信ネットワークのしくみ②－DNS、WWW、電子メールのしくみ	講義、課題	インターネットで、サイバー犯罪の統計情報を確認				
11	サイバー犯罪	講義	暗号化方式について復習				
12	情報セキュリティ対策①－暗号化技術	講義	コンピュータウイルス対策ソフトとファイアウォールの働きを復習				
13	情報セキュリティ対策②－コンピュータウイルス対策ソフト、ファイアウォール	講義	メディアが伝える情報の構成を復習				
14	情報社会とメディア	講義	この講義の到達目標を読んで、目標に達していない部分について復習				
15	まとめ	講義					
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○		◎	50	
授業外レポート		◎	○		◎	20	
授業への参加度		○	○		○	30	
補足事項		試験はテキスト、ノート、配付資料を持ち込み可とする。講義ノートや配付資料を整理しておくこと。レポート課題1回					
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：独自のテキストを配付する。            参考文献：①駒谷 昇一編著、『情報と社会』、オーム社、2004年、(2,625円) ②ICT基礎教育研究会著、『ネットワーク社会における情報の活用と技術』、実況出版、2003年、(2,100円)</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。						

授業科目名	環境科学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			前期	講義	選択	2	1年					
担当教員	久永 明											
授業の概要	人間を取り巻く自然・社会環境とそれから発生する複雑な環境問題について、環境成立の過程、公害、その他の環境問題や健康影響を概括する中で、事象の正確な把握に努める。さらに、有限な地球の包容力や資源・エネルギー問題、都市環境問題について、バランスの取れたものの見方、環境保全に向けての地道な努力、自然との共生等を理解し、環境や健康にやさしいライフスタイルの習得をめざす。											
<b>学生の到達目標</b>												
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	高度福祉社会に貢献するための教養として、自然科学・学際的な知識を幅広く身につけている。										
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	人を取り巻く環境課題を中心に深い関心を持ち、主体的に環境学習・活動をすることができる。										
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>												
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）							
1	環境問題とは		環境課題を学ぶ意義と地球環境（大気）の成立について解説する。		各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。							
2	地球の誕生と歴史											
3	公害概論（1）公害の歴史とグローバル化		配付資料とビデオにより、我が国の公害全般について学習する。		課題レポート（1）を提示する。							
4	公害概論（2）環境基準からみた環境問題											
5	地球の自然と人間活動		配布資料、パワーポイント、ビデオなどを用い、「環境問題」の各論について解説していく。		各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。							
6	大気汚染と汚染物質											
7	酸性雨											
8	水質汚濁と汚染物質											
9	地球の温暖化											
10	有機塩素系化合物による汚染											
11	オゾン層の破壊											
12	資源と環境（1）エネルギー資源							環境問題の根底に横たわる「資源と環境」「都市環境」との関わりについて、一緒に考えていく。		課題レポート（2）を提示する。		
13	資源と環境（2）水資源、食料資源											
14	都市の環境保全－ヒートアイランド－											
15	まとめ		1～14の復習を兼ね、まとめと意見交換をする。		予習・復習と共に、試験用課題に早めに取り組む。							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>												
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）						
定期試験		◎				60						
宿題・授業外レポート		○				20						
授業態度・授業への参加度				○		20						
テキスト・参考文献等	テキスト：プリント等を使用する。 参考書：山口勝三、他『環境の科学－われらの地球、未来の地球－』培風館、2008年（1980E）											
履修条件	特になし。											
学習相談・助言体制	質問・相談は基本的に授業時間前後に受け付ける。											

授業科目名	環境科学B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	久永 明						
授業の概要	今日の環境問題は、社会システムが複雑に絡んでおり、その規模もグローバル化してきている。そこで、まずそれらの根幹にある人間の欲求や寿命、人口・資源・エネルギー問題などについてテーマ別に概括し、環境の基本課題に関する現状の認識と理解を深める。さらに、環境修復、環境管理など、環境問題へのこれまでの取組みと今後の方向性について言及し、持続可能な社会に向けてのあり方を考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	環境問題及び関連領域について、科学的・合理的な環境観や柔軟な判断力を身につけている。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	持続可能な社会の実現に向け問題解決能力を高め、主体的に社会貢献活動をすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	最近の環境問題		環境問題について、学ぶ意義と目指す社会について解説する。		各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。		
2	循環型社会とは何か						
3	どのような豊かさを求めるか		配布資料、ビデオ、パワーポイントなどを用い、「環境基本課題」の各テーマについて解説しながら、一緒に考えていく。		課題レポート（1）を提示する。		
4	人間はどこまで長生きしたいか						
5	人間と生物は共生できるか						
6	人口を支える水と食糧は得られるか		配布資料、ビデオ、パワーポイントなどを用い、「環境保全課題」の各テーマについて解説しながら、一緒に考えていく。		各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。		
7	どこまできれいな環境が欲しいか						
8	環境問題の歴史から学ぶ						
9	環境の負の遺産は修復できるか						
10	自主管理で環境は守られるか		「環境問題」の解決に向けてまとめる。		課題レポート（2）を提示する。		
11	将来の世代にどこまで地下資源を残しておくか						
12	リサイクルは地球を救えるか						
13	環境教育と環境倫理		1～14の復習を兼ね、まとめと意見交換をする。		試験用課題を提示する。		
14	持続可能な社会の構築に向けて						
15	まとめ				試験用課題に早めに取り組む。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				60	
宿題・授業外レポート		○				20	
授業態度・授業への参加度				○		20	
補足事項		「問いかけ」形式のテーマを一緒に考えるなかで、理解と応用力を高めるように努める。					
テキスト・参考文献等	テキスト：プリント等を使用する。 参考書：日本化学会『環境科学－人間と地球の調和をめざして－』東京化学同人、2004年（2000E）						
履修条件	環境科学Aの受講生および環境問題に多少の知識と関心をもつ人が望ましい。						
学習相談・助言体制	質問・相談は基本的に授業時間前後に受け付ける。						

授業科目名	数学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	石崎 龍二	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>本講義では、自然現象や社会現象を数学的に記述・分析するための基礎的な数学を学習する。            具体的には、問題に対して帰納的、類推的、演繹的、体系的、抽象的に考える力を養う「集合・論理」、現象が数や関数で表現された場合に極限操作によって調べる「微分積分」、統計学での多変量解析の基礎となる「線形代数」などを中心に学習する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自然や社会の現象を抽象化、単純化、記号化して考えることができる。 数・形・集合などに関する記号を使って論理的に展開できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	集合演算ができる。 初等関数（多項式、指数関数、三角関数）の微分ができる。 初等関数の積分ができる。 行列が正則かどうかを判定し、正則行列の逆行列を求めることができる。 連立1次方程式を、行列を使って解くことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	数の基礎－自然数、整数、有理数、実数、複素数		講義		(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理		
2	集合と集合の演算		講義				
3	命題と論理		講義				
4	関数－集合と写像、1次関数、2次関数		講義				
5	関数－指数関数、対数関数、三角関数		講義				
6	微分－関数の極限		講義				
7	微分－微分係数		講義				
8	微分－導関数		講義				
9	積分－不定積分		講義				
10	積分－置換積分、部分積分		講義				
11	積分－定積分		講義				
12	線形代数－ベクトル、行列		講義				
13	線形代数－行列式		講義				
14	線形代数－行列式の展開と逆行列		講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	○		◎	50	
授業外レポート		○	○		◎	20	
授業への参加度		◎	◎		○	30	
補足事項		レポート課題					
テキスト・参考文献等	テキスト：独自のテキストを配付する。 参考文献：開講時に紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。						

授業科目名	人 権 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1年
担当教員	松 下 一 世						
授業の概要	<p>本授業では、部落問題をはじめとして、現代社会におけるさまざまな人権問題について概説する。その際に、理論的な側面の学びだけでなく、人権感覚を高めるために、同世代の若者たちの映像教材を鑑賞したり、ディスカッションやロールプレイの手法を用いる。人権が尊重される社会に向けて、自分に何ができるかをひとりひとり考えるための学びとしたい。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人権に関する主な条約や法令の基礎的知識を知る。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	権利を獲得するために闘ってきた歴史的事実を知る。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	人権とは			講義内容をノートに整理しておくこと。			
2	世界人権宣言			DVDの概要と感想を整理しておくこと。			
3	人権に関する国際条約			講義内容をノートに整理しておくこと。			
4	女性の権利			DVDの概要と感想をまとめておくこと。			
5	ハラスメントとデートDV			講義内容をノートに整理しておくこと。			
6	セクシュアルマイノリティ			DVDの概要と感想をまとめておくこと。			
7	部落問題とは			講義内容をノートに整理しておくこと。			
8	水平社宣言の意義			DVDの概要と感想をまとめておくこと。			
9	公平な採用			資料をノートに整理しておくこと。			
10	現代の部落差別			DVDの概要と感想をまとめておくこと。			
11	在日外国人問題とは			DVDの概要と感想をまとめておくこと。			
12	ヘイトスピーチの問題			講義内容をノートに整理しておくこと。			
13	障害者問題とは			資料をノートに整理しておくこと。			
14	平等と差別			講義内容をノートに整理しておくこと。			
15	インターネットと人権			DVDの概要と感想をまとめておくこと。			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				90	
授業態度・授業への参加度		○				10	
テキスト・参考文献等	<p>参考文献：川口泰司「ハートで挑戦！自己解放への道」解放出版社、杉山文野「ダブルハピネス」講談社 師岡康子「ヘイトスピーチとは何か」岩波書店</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業が終わった時点での質問に応じる。また小レポートに質問も書いてもらい、全体指導に生かす。						

授業科目名	比較文化論					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	田中哲也	前期	講義	選択	2 1年	
授業の概要	グローバル化した現代社会においては、地域や職場において接触することになる異なる文化をもつ人々を理解し、適切な関係を築く能力を身につけることは社会人として必要とされる最低限の教養です。本授業では文化についての考え方を学ぶとともに欧米文化、イスラーム文化から近隣アジアの文化にいたるまで幅広く、各文化における思考法から行動様式についての知識を身につけるとともに、日本文化や私たち自身の発想や行動を相対化することのできる視点を身につけます。					
学生の到達目標						
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	異文化についての理解と、比較の中で日本文化と自分自身についての理解を深める。				
	DP2：専門・隣接領域の知識	社会的・文化的違いについての考え方を理解する。				
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）						
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）			
1	「文化」という概念	パワーポイントにより講義を行うが、授業ごとにレジュメを資料として配付する。適時、コメント・質問用紙を配布・回収して、学生の質問や疑問を講義に反映させる。	適時、確認テストを行うので授業ごと事後学習しておく。			
2	文化の発生					
3	言語と文化					
4	自然環境					
5	食文化					
6	生業と文化					
7	第1～6回講義のまとめと確認	レジュメとパワーポイントにより重要事項を確認する。	与えられたテーマについての資料を探し、レポートを作成する。			
8	家族・親族構造・婚姻規則	パワーポイントにより講義を行うが、授業ごとにレジュメを資料として配付する。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生からの質問や疑問などを講義に反映させる。	適時、確認テストを行うので授業ごとに事後学習しておく。			
9	社会構造、文化の型					
10	日本文化 I					
11	日本文化 II					
12	アメリカ文化					
13	中東イスラーム文化					
14	異文化との共生					
15	授業全体のまとめと確認					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験		◎				60
宿題・授業外レポート			○	○		20
授業態度・授業への参加度				◎		20
テキスト・参考文献等	授業ごとに資料を配付する。					
履修条件	特になし。					
学習相談・助言体制	コメント・質問用紙、オフィスアワー、メールでの質問に回答する。					

授業科目名	女性学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	人社3年 看護4年
担当教員	中藤洋子						
授業の概要	社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目。学際的学問としての女性学の成果に基づき、今日の、女性・ジェンダーをめぐる諸問題について概説する。主たるねらいは、女性、ジェンダーをめぐる諸問題の歴史的、構造的な理解にある。これを自らの生き方と結びつけて学び考えられるようになること、ジェンダーの視点や、学問や社会への批判的な視点が獲得できること、も目指している。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	今日の女性、ジェンダーをめぐる諸問題を歴史的、構造的に理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	今日の女性、ジェンダーをめぐる諸問題に関する資料の収集と考察によって結論を見出すことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	はじめに（女性学とは、講義のねらいと学ぶことの意義）			身近な問題や今日的な問題と講義を関連づけて考える習慣が身につくことを期待している。			
2	日本の「家」制度						
3	「家」制度と性別役割分業						
4	戦争と女性・1						
5	戦争と女性・2						
6	法律上の平等と事実上の平等						
7	性別役割分業と女性問題・1						
8	性別役割分業と女性問題・2						
9	国際的な女性解放運動と日本の女性						
10	新性別役割分業と性差別の再編						
11	男性問題・男性運動・男性学						
12	女性への暴力・1						
13	女性への暴力・2						
14	「男女共同参画」をめぐる問題点と課題						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	課題レポート	◎	◎			100	
テキスト・参考文献等	参考文献を講義の中で紹介。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎回の講義終了後、時間を設定して研究室で、など。メールは研究室訪問などの時間設定のために活用。						

授業科目名	人間関係の科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	上野行良	前期	講義	選択	2	人社3年 看護4年
授業の概要	福祉社会を支えるために人間関係について学び、人間について深い理解をもつことは不可欠です。一方、現代社会においては人間関係の問題が多く指摘されています。そこで本講義では人間関係のトラブルを減らすために必要な知識を説明します。「理解すること、説明すること、話し合うこと」を中心に、現代社会における人間関係に関わる諸問題、人間関係をこじらせてしまう心理を講義します。社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目です。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人間関係のトラブルを減らすための知識をもっている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係を振り返る</li> <li>2. 人間関係を分析しよう</li> <li>3. 「変わってほしい」</li> <li>4. 話を聞いていますか？</li> <li>5. 自分の要求を説明する</li> <li>6. 現代の人間関係の特徴Ⅰ</li> <li>7. 現代の人間関係の特徴Ⅱ</li> <li>8. 復習課題Ⅰ（1.～7）</li> <li>9. 聞いて説明する</li> <li>10. 学校しか知らない</li> <li>11. 肯定的なメッセージを伝える</li> <li>12. 課題志向のコミュニケーションⅠ</li> <li>13. 課題志向のコミュニケーションⅡ</li> <li>14. 青少年が抱える問題と人間関係</li> <li>15. 復習課題Ⅱ（1.～14）</li> </ol> <p><b>【授業方法と事前・事後学習】</b></p> <p>授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。通常は、毎回スライドを使つての講義と、自分の人間関係をチェックするための課題をペアで行います。また受講者からの質問に回答する時間があります。授業の提示資料を e-learning システムでダウンロードして復習をしてください。</p> <p>復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日は提示資料を持参してください。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業中の課題		◎				100	
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について 10～20 問程度を選んで授業中に回答します。						

授業科目名	ヒューマンエコロジー		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	人社3年 看護4年
担当教員	久永 明						
授業の概要	<p>人間と自然・社会環境のかかわりに関して、ヒトの進化、適応機序、居住条件等を通じ、その行動特性や自然生態系と人間社会の相互関係に関する基礎的な考え方を習得し、社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目として、人を通じた現代社会への理解を深める。</p> <p>そして、近代化（産業化、都市化）の問題点を踏まえながら、人間の将来にとって望ましい人間社会について考える。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人間と環境の両面からヒトの適応を考え、人類（人間）生態系に関する学際的知識を幅広く身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	種々な環境に生物学的・文化的に適応してきた人間とその集団に係る諸課題に、資料の収集とその考察から結論を見出すことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ヒューマンエコロジーとは		配付資料を中心に、ビデオやパワーポイントで補完しながら、「人類（人間）生態系」の課題について解説する。		毎回配付するプリント等を用いて、復習とまとめをしておく。		
2	生態系のなかの人間						
3	人類の進化と環境（1）ヒトの誕生						
4	人類の進化と環境（2）人類進化の初期段階						
5	人類の進化と環境（3）進化の多様性と個性						
6	人間の適応（1）ヒトの生物学的特徴						
7	人間の適応（2）発育、発達と文化						
8	生物学的適応と文化的適応（1）適応とは（2）高地居住		ビデオ、論文等で「適応」の具体的事例について学ぶ。		毎回配付するプリント等を用いて、復習とまとめをしておく。		
9	生物学的適応と文化的適応（3）長寿命						
10	生物学的適応と文化的適応（4）移住						
11	現代社会と人類（1）都市化、産業化		配布資料を基に、現代社会のもつ「近代化」の課題及び今後に向けて、一緒に考えていく。		毎回配付するプリント等を用いて、復習とまとめをしておく。		
12	現代社会と人類（2）都市と健康						
13	現代社会と人類（3）近代化と生活習慣病						
14	人類の将来とその環境						
15	まとめ		1～14の復習を兼ね、まとめと意見交換をする。		毎回の復習及び課題テーマに早めに取り組む。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート	◎	○			70	
	授業態度・授業への参加度		○			30	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：プリント等を使用する。</p> <p>参考文献：大塚柳太郎 他著『人類生態学〔第2版〕』東京大学出版会、2012年</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	質問・相談は基本的に授業時間前後に受け付ける。						

授業科目名	現代社会と嗜癖		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	四戸智昭		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	嗜癖（アディクション）はあらゆる人間に見受けられるものである。多くの場合は「癖」などと呼ばれ、その人らしさを醸し出すものであるが、癖がその人の社会生活に多大な影響を与えてしまう場合もある。なぜその人が嗜癖行動を取らなければならないのかについて、家族関係や我々を取り巻く現代社会にも目を向け、嗜癖行動と社会システムについて考察を深めることが本講義の目的である。なお、本科目は実社会で役に立つ教養科目として位置付けられている。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	嗜癖に関する基礎的な知識を得る。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現代の嗜癖問題やその根底にある家族の諸問題について興味関心を持つことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		次回までに宿題に取り組む。		
2・3	嗜癖概念とは何か		講義		次回までに宿題に取り組む。		
4・5	人間関係嗜癖・共依存について		講義		次回までに宿題に取り組む。		
6・7	アディクションと医療診断基準について		講義		次回までに宿題に取り組む。		
8・9	アディクション（依存）からの回復とは		講義		次回までに宿題に取り組む。		
10・11	機能不全家族とアダルトチルドレン		講義		次回までに宿題に取り組む。		
12	様々なアディクション問題（ギャンブル依存、摂食障害、ひきこもり）		講義		次回までに宿題に取り組む。		
13・14	アディクションと児童虐待		講義		次回までに宿題に取り組む。		
15	まとめ		講義		次回までに宿題に取り組む。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○				40	
宿題・授業外レポート				◎		40	
授業態度・授業への参加度				○		20	
テキスト・参考文献等	教科書：特に指定しない。参考文献：授業時に紹介する。授業資料は、嗜癖行動学研究室 Web サイト（ <a href="http://www.family21.jp/">http://www.family21.jp/</a> ）から配信するので、各自ダウンロードして講義に参加すること。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎回の授業の最後に講義に関する意見や質問を書いてもらう。次回の授業時の最初に、それらの質問に回答する。なお、この学生との Q&A も講義内容となるので、ノートをとられたい。						

授業科目名	性教育学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子・未定	前期	講義	選択	2	人社3年 看護3・4年
授業の概要	人間はこの性というシステムの流れの中で、どのように生きているか、そしてその性をどのように子どもたちに教えるのか、そのスタンスはどのようなものが望ましいのか、そのあたりの題材に受講した学生と「考える」というプロセスの中で取り組んでいく。(社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目)						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	Science（近代学問）の視点から、性をとらえることのその道筋について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	最先端の知識を得、自分なりに性について考え述べるができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	性を知る（性とは何か）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
2	性を知る（性差・性別）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
3	性をふりかえる（性教育の歴史）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
4	性をふりかえる（性の民族／性と文学）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
5	性を知る（男性の身体）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
6	性を知る（女性の身体）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
7	性を知る（妊娠・出産と避妊）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
8	性を知る（STD/STI）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
9	性を表現する（性行動と身体／性行動と環境）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
10	性を共有する（性と人間関係／生徒社会）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
11	LGBT について学ぶ	講義			松浦・原田・梶原・未定		
12	性を支える（障害者の性について考える）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
13	田川市男女共同参画センター女性相談室啓発事業「デートDV防止研修会」	福岡県立大学・田川市郡包括連携協定に基づく講義			松浦・原田・梶原・未定		
14	性犯罪被害とたたかうということ	講義			松浦・原田・梶原・未定		
15	性を支える（性犯罪・性被害）	講義			松浦・原田・梶原・未定		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				100	
補足事項		教科書該当箇所の予習・復習を行うこと。 評価方法：筆記試験（100％）					
テキスト・参考文献等	テキスト：朝倉書店「性教育学」						
履修条件	履修該当学年以上の履修を認める						
学習相談・助言体制	レスポンスカード、オフィスアワー時に受け付ける。メールによる相談も可。						

授業科目名	ケアリング・サイエンス		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	石田智恵美・清水夏子	後期	講義	選択	2	人社3年 看護4年
授業の概要	本講義では、教育・福祉・看護で用いられる「ケアリング」・「ケア」についていくつかの考え方を紹介し、「ケアリング」が行われる中でどのようなことが起きているのかを探求する。また、「ケアリング」に携わるものに求められる事柄について考察する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	ケアリング、ケアの考え方について理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義で学んだ事柄と、自らが受けてきたケアリングとを結び付け、意味づけすることができる。					
	DP4：表現力	ケアリング、ケアについて自己の考えを述べることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	コースオリエンテーション	ケアリングの概念について	講義		事後：自己紹介文を作成する。		
2	ケアリングにおけるコミュニケーション	自己紹介	講義 ディスカッション		ケアの要素について整理する。		
3	ケアリングの心						
4・5	メイヤロフ	ケアの主な8つの要素 知識 リズムを変えること 忍耐 正直 信頼 謙遜 希望 勇気					
6~10	ノディングス	ケアリング ケアするひと ケアされるひと	講義 ディスカッション		事前にテキストを読んでおく。		
11	実践の中のケアリング1		講義 ディスカッション				
12	実践の中のケアリング2		講義 ディスカッション				
13	実践の中のケアリング3		講義 ディスカッション				
14	ケアリングの倫理1		講義 ディスカッション				
15	ケアリングの倫理2 まとめ		講義		レポート課題		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○			20	
受講者の発表（プレゼン）※		○	○			30	
その他 ※課題レポート		○	◎			50	
補足事項	※毎回の講義内容について自己の考えをまとめ、発言する。その参加状況も評価の対象とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：ネル・ノディングス著 ケアリング 晃洋書房，1997 参考書：ミルトン・メイヤロフ著 ケアの本質 ゆみる出版，2000						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業以外の時間での質問は、E-メールで受け付ける。 石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	英語 I - (1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening) . Students will participate in group discussions, debates, interview-simulations and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly group homework assignment (e.g. compiling a short presentation, scripting a role-play, etc.) .						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4 : 表現力	Students will be required to make group presentations in English.					
技能	DP7 : コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習 (学習課題)		
1	Class 1 : Introduction		Lecture				
2	Class 2 Topic : Crime		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Mobile phones		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic: Smoking		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Junk food		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Marriage		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic : Sport		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Driving and road safety		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Bullying		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Attitudes to homosexuality and gay rights		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : Sexism and gender roles		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : The art of sleeping		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Japan's population crisis		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Parasite singles		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Exam preparation		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連 : ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
Participation			◎		○	34	
Homework			◎		○	33	
Final exam			◎		○	33	
補足事項		This course will prioritize the student's attitude to learning and level of participation.					
テキスト・参考文献等	"Provoke A Response" by Stuart Gale and Shunpei Fukuhara (Nan'un-do, 2016)						
履修条件	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.						

授業科目名	英語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Nigel Stott		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	<p>学生は、さまざまなテーマについて英会話と英語スピーチの練習をする多くの機会が与えられる。また、自分自身の意見や考えを英語で表現することに焦点が当てられる。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	国際化する現代社会に対応できるように英語の他、韓国語、中国語、フランス語、ドイツ語のいずれかを用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	Introductions: teacher, UK, study abroad, course	Students give self-introductions		Introduction sheet			
2	Hobbies, sports, entertainment	Listening & conversation		Prepare conversation			
3	Part-time jobs, future careers	Listening & conversation		Prepare conversation			
4	Family and friends	Listening & conversation		Prepare conversation			
5	Japan and hometown	Listening & conversation		Prepare conversation			
6	Travel experiences and plans	Listening & discussion		Prepare report			
7	Good experiences	Listening & speech		Prepare speech			
8	Bad/funny experiences	Listening & speech		Prepare speech			
9	Comparing education systems	Listening & discussion		Prepare report			
10	Opinion: education	Listening & speech		Prepare speech			
11	Opinion: environment	Listening & speech		Prepare speech			
12	Opinion: society	Listening & speech		Prepare speech			
13	Opinion survey group work	Listening & discussion		Prepare report			
14	Opinion survey presentation	Presentation		Prepare speech			
15	Speaking test	Give speech		Review			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
発表			◎		◎	20	
宿題			○		○	20	
スピーキング・テスト			◎		◎	30	
リスニング・テスト			○		○	30	
補足事項 remarks, complementary	in phrases						
テキスト・参考文献等	担当教員の作成の教材を配布。英和 / 和英の辞書又は、電子辞典を必ず持参すること。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	メール：stott.nigel@gmail.com						

授業科目名	英語 I - (2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		後期	演習	必修	1	1年
授業の概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in group discussions, debates, interview-simulations and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly group homework assignment (e.g. compiling a short presentation, scripting a role-play, etc.) .						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4 : 表現力	Students will be required to make group presentations in English.					
技能	DP7 : コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習 (学習課題)		
1	Class 1 : Introduction		Lecture				
2	Class 2 Topic : Crime		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Mobile phones		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic: Smoking		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Junk food		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Marriage		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic : Sport		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Driving and road safety		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Bullying		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Attitudes to homosexuality and gay rights		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : Sexism and gender roles		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : The art of sleeping		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Japan's population crisis		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Parasite singles		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Exam preparation		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連 : ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
Participation			◎		○	34	
Homework			◎		○	33	
Final exam			◎		○	33	
補足事項		This course will prioritize the student's attitude to learning and level of participation.					
テキスト・参考文献等	"Provoke A Response" by Stuart Gale and Shunpei Fukuhara (Nan'un-do, 2016)						
履修条件	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.						

授業科目名	英語 I - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Nigel Stott		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	<p>学生は、さまざまなテーマについて英会話と英語スピーチの練習をする多くの機会が与えられる。また、自分自身の意見や考えを英語で表現することに焦点が当てられる。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	国際化する現代社会に対応できるように英語の他、韓国語、中国語、フランス語、ドイツ語のいずれかを用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	Introductions: teacher, UK, study abroad, course	Students give self-introductions		Introduction sheet			
2	Hobbies, sports, entertainment	Listening & conversation		Prepare conversation			
3	Part-time jobs, future careers	Listening & conversation		Prepare conversation			
4	Family and friends	Listening & conversation		Prepare conversation			
5	Japan and hometown	Listening & conversation		Prepare conversation			
6	Travel experiences and plans	Listening & discussion		Prepare report			
7	Good experiences	Listening & speech		Prepare speech			
8	Bad/funny experiences	Listening & speech		Prepare speech			
9	Comparing education systems	Listening & discussion		Prepare report			
10	Opinion: education	Listening & speech		Prepare speech			
11	Opinion: environment	Listening & speech		Prepare speech			
12	Opinion: society	Listening & speech		Prepare speech			
13	Opinion survey group work	Listening & discussion		Prepare report			
14	Opinion survey presentation	Presentation		Prepare speech			
15	Speaking test	Give speech		Review			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
発表			◎		◎	20	
宿題			○		○	20	
スピーキング・テスト			◎		◎	30	
リスニング・テスト			○		○	30	
補足事項 remarks, complementary	in phrases						
テキスト・参考文献等	担当教員の作成の教材を配布。英和 / 和英の辞書又は、電子辞典を必ず持参すること。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	メール：stott.nigel@gmail.com						

授業科目名	英語Ⅱ - (1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	納 富 未 世	前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	<p>1890年(明治23年)に来日した作家ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn, 1850-1904)は日本の様々な事柄に熱烈な興味を持った人物ですが、とりわけ幽霊や妖怪といった霊的な存在に対して深い愛着を示しました。ハーンは『文学の解釈(Interpretations of Literature)』の中で、文学作品における超自然的要素の重要性に触れ、「文学、音楽、彫刻、建築を問わず、あらゆる偉大な芸術作品には霊的なものが宿っている。"There is something ghostly in all great art, whether of literature, music, sculpture, or architecture."と述べています。数多くある興味深い物語の中でも、恐ろしい物語や不思議な物語に魅力を感じる人は少なくありません。この授業では、ハーンの作品のいくつかを読み、英文を読む楽しさを体感しながら読解力を中心に総合的な英語力を身につけていきます。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	古くから日本に伝わる物語を通して、当時の日本人の精神思想や風習を知ることができる。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	授業内で読んだ作品の感想を書くことで自分の気持ちを表現することに慣れる。感性を磨く。					
技能	DP7: コミュニケーション力	これまで学んできた文法事項が物語の中でどのように活かしているかを楽しく読み進めながら確認でき、自分のものにすることができる。					
<b>授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)</b>							
	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)		
	第1回 オリエンテーション(授業概要、ラフカディオ・ハーンについて、G-TELPテストの説明) 第2回 G-TELPテスト 第3回 The Story of Mimi-Nashi-Hoichi 第3回 The Story of Mimi-Nashi-Hoichi 第4回 The Story of Mimi-Nashi-Hoichi 第5回 The Story of Mimi-Nashi-Hoichi 第6回 The Story of Mimi-Nashi-Hoichi 第7回 Oshidori 第8回 The Story of O-Tei 第9回 The Story of O-Tei 第10回 The Story of O-Tei 第11回 Diplomacy 第12回 Diplomacy 第13回 Diplomacy 第14回 Mujina 第15回 まとめ	第3回～第15回の授業 CDを聞いた後、物語の購読をします。購読では音読や日本語訳を指名します。物語の中に出てくる重要構文や文法ポイントを解説し、最後の15分ほどDVDを観ます。1つの物語を読み終えたら感想を書いてクラス全体で意見交換します。			毎回の授業で、次回の予習範囲および課題については指示します。		
<b>成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
課題提出および学習意欲の高さ等の平常点			◎		◎	30	
テキスト・参考文献等	教科書:『怪談(Kwaidan)』小泉八雲 著、杉 安太郎編 1957.成美堂						
履修条件							
学習相談・助言体制	相談、質問は毎週授業後に教室にてお受けします。						

授業科目名	英語Ⅱ - (2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 納 富 未 世		後期	演習	必修	1	1年
授業の概要	<p>1890年(明治23年)に来日した作家ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn, 1850-1904)は日本の様々な事物に熱烈な興味を持った人物ですが、とりわけ幽霊や妖怪といった霊的な存在に対して深い愛着を示しました。ハーンは『文学の解釈 (Interpretations of Literature)』の中で、文学作品における超自然的要素の重要性に触れ、「文学、音楽、彫刻、建築を問わず、あらゆる偉大な芸術作品には霊的なものが宿っている。"There is something ghostly in all great art, whether of literature, music, sculpture, or architecture."」と述べています。数多くある興味深い物語の中でも、恐ろしい物語や不思議な物語に魅力を感じる人は少なくありません。この授業では、ハーンの作品のいくつかを読み、英文を読む楽しさを体感しながら読解力を中心に総合的な英語力を身につけていき、平成27年12月最後の授業で実施する英語外部試験(G-TELP)の受験に備えます。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	古くから日本に伝わる物語を通して、当時の日本人の精神思想や風習を知ることができる。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	授業内で読んだ作品の感想を書くことで自分の気持ちを表現することに慣れる。感性を磨く。					
技能	DP7: コミュニケーション力	これまで学んできた文法事項が物語の中でどのように活かしているかを楽しく読み進めながら確認でき、自分のものにすることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
	第1回	オリエンテーション (授業概要、ラフカディオ・ハーンについて、G-TELPテストの説明)					
	第2回	Yuki-Onna					
	第3回	Yuki-Onna					
	第3回	Yuki-Onna					
	第4回	The Story of Aoyagi					
	第5回	The Story of Aoyagi					
	第6回	The Story of Aoyagi					
	第7回	The Story of Aoyagi					
	第8回	The Story of Aoyagi					
	第9回	The Story of Aoyagi					
	第10回	The Dream of Akinosuke					
	第11回	G-TELPテスト					
	第12回	The Dream of Akinosuke					
	第13回	The Dream of Akinosuke					
	第14回	The Dream of Akinosuke					
	第15回	まとめ					
			第3回～第15回の授業 CDを開いた後、物語の購読をします。購読では音読や日本語訳を指名します。物語の中に出てくる重要構文や文法ポイントを解説し、最後の15分ほどDVDを観ます。1つの物語を読み終えたら感想を書いてクラス全体で意見交換します。		毎回の授業で、次回の予習範囲および課題については指示します。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	40	
課題提出および学習意欲の高さ等の平常点			◎		◎	40	
G-TELPの成績			◎		◎	20	
補足事項							
テキスト・参考文献等	教科書:『怪談(Kwaidan)』 小泉八雲 著、杉 安太郎編 1957. 成美堂						
履修条件							
学習相談・助言体制	相談、質問は毎週授業後に教室にてお受けします。						

授業科目名	英語Ⅲ - (1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	必修	1	2年
授業の概要	This course will improve the students' general writing ability while focusing on a range of social issues. Every week, the students will examine data on a given topic in small groups and prepare written reports/presentations/posters, etc. These assignments will be completed for homework in accordance with the syllabus below.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students will be required to give feedback in groups in English.					
技能	DP7：コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	Class 1 Topic : Laughter and comedy		Lecture				
2	Class 2 Topic : Television		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Advertising		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic : Whaling		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Internationalization		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Environmental issues		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic : Divorce		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Pregnancy, abortion and the birth rate		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : An aging society		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Crime syndicates		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : International relations		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : Working part-time and employment issues		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Critiquing a movie (1)		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Critiquing a movie (2)		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Interviewing celebrities, from actors to dictators		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
Participation			◎		○	34	
Homework			◎		○	33	
Final exam			◎		○	33	
補足事項	This course will prioritize the student's attitude to learning and level of participation.						
テキスト・参考文献等	"Provoke A Response" by Stuart Gale and Shunpei Fukuhara (Nan'un-do, 2016), Language Note						
履修条件	This is a required course for all 2nd-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.						

授業科目名	英語Ⅲ - (2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		後期	演習	必修	1	2年
授業の概要	This course will continue to improve the students' general writing ability while focusing on a range of social issues. Every week, the students will examine data on a given topic in small groups and prepare a short written report/presentation/poster, etc. These assignments will be completed for homework in accordance with the syllabus below. As an additional component, the G-TELP test will be administered in class 13.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students will be required to give feedback in groups in English.					
技能	DP7：コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	Class 1 Topic : Crime		Lecture				
2	Class 2 Topic : Mobile phones		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Smoking		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic : Junk food		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Marriage		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Sport		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic : Driving and road safety		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Bullying		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Attitudes to homosexuality and gay rights		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Sexism and gender roles		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : The art of sleeping		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : The art of test-taking		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : G-TELP test		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Japan's population crisis		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Parasite singles		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
Participation			◎		○	30	
Homework			◎		○	20	
G-TELP					◎	20	
Final exam			◎		○	30	
補足事項	This course will prioritize the student's attitude to learning and level of participation.						
テキスト・参考文献等	"Provoke A Response" by Stuart Gale and Shunpei Fukuhara (Nan'un-do, 2016)						
履 修 条 件	This is a required course for all second-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.						

授業科目名	リーディング I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	1年
担当教員	小池 祐子						
授業の概要	この授業では、英文を読むための基本的なリーディングスキルを段階的に学び、英文読解の基礎となる語彙力、文法力の向上を図る。また、図書館の英語の本を読み多読学習を行い、読んだ本についてレポートを書き授業中に話し合う。そして、英語外部試験に備えて Net Academy のリスニング教材を利用した自律的学習を課しその小テストを行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	読んだ本に関してその内容や自分の考えが適切に表現できる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	ペア／グループワークによるスキルの学習や本に関する話し合いにより、コミュニケーション力を高める。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス						
2	英語外部試験						
3	Vocabulary Strategy, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
4	Vocabulary Strategy, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
5	本についてのディスカッション						Book Report
6	Vocabulary Strategy, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
7	Vocabulary Strategy, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
8	Pre-reading Activities, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
9	Pre-reading Activities, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
10	本についてのディスカッション						Book Report
11	Understanding Reference Words, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
12	Understanding Reference Words, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
13	Understanding Reference Words, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
14	Understanding Reference Words, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
15	本についてのディスカッション						Book Report
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト			○		○	30	
宿題・授業外レポート			◎		◎	30	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	20	
テキスト・参考文献等	テキスト：① Yuji Ushiro 他『Reader's Ark Intro』、Kinseido、2012年、¥1,900 ② Seiji Hayakawa 他『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』、Nan'un-do、2016年、¥1,900						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、オフィスアワー、またはEメールで対応する。						

授業科目名	リーディングⅡ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小池 祐子	前期	演習	必修	1	2年
授業の概要	この授業では、英文を読むためのリーディングスキルを段階的に学び、応用力を向上させる訓練を行う。また、英文読解の基礎となる語彙力、文法力の向上と強化を図る。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	リーディングスキルを正しく使い英文を読み取り、それに対し自分の考えが適切に表現できる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	ペア／グループワークによるスキルの学習やディスカッションによりコミュニケーション力を向上させる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス						
2	Pre-Reading Activities, 語彙・文法学習（演習）						予習, 小テスト準備, 宿題
3	Pre-Reading Activities, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
4	Identifying the Main Idea < 1 >, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
5	Identifying the Main Idea < 1 >, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
6	Identifying the Main Idea < 2 >, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
7	Identifying the Main Idea < 2 >, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
8	Understanding Supporting Details, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
9	Understanding Supporting Details, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
10	Paragraph Organization: Comparison & Contrast, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
11	Paragraph Organization: Cause & Effect, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
12	Paragraph Organization: Time Order & Process, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
13	Paragraph Organization Problem-Solution, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
14	Searching for Information, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 小テスト準備, 宿題
15	Searching for Information, 語彙・文法学習（演習, 小テスト）						予習, 宿題, 期末試験準備
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト			○		○	20	
宿題			○		○	20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：① Yuji Ushiro 他『Reader's Ark Basic』、Kinseido、2009年、¥1,900 ② Seiji Hayakawa 他『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』、Nan'un-do、2016年、¥1,900						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、オフィスアワー、またはEメールで対応する。						

授業科目名	ライティング		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	小池 祐子		後期	演習	必修	1	1年
授業の概要	この授業では、英文ライティングを正しい構成でプロセスに沿って書き進めていく方法について学ぶ。また、センテンスレベルにおいて正確な文章が書けるように、語彙力、文法力の強化を図る。そして、英語外部試験に備えて Net Academy のリスニング教材を利用した自律的学習を課しその小テストを行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	正しい語彙・文法で、基本的な英語のパラグラフを書くことができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	ライティングによる内容伝達力を向上させる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス, Unit 1: Pre-writing Activity						小テスト準備, 宿題
2	Unit 2: Writing a Draft, Unit 3: Revising & Editing, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
3	Writing 1 発表, Unit 4: Paragraph Writing（記述）Family & Friends, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題, Writing 1 提出
4	Unit 4: Paragraph Writing（記述）Family & Friends, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
5	Unit 4: Paragraph Writing（記述）Family & Friends, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
6	Unit 4: Paragraph Writing（記述）Family & Friends, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
7	Writing 2 発表, Unit 5: Paragraph Writing（例示）My Hometown, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題, Writing 2 提出
8	Unit 5: Paragraph Writing（例示）My Hometown, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
9	Unit 5: Paragraph Writing（例示）My Hometown, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
10	Unit 5: Paragraph Writing（例示）My Hometown, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
11	Writing 3 発表, Unit 6: Paragraph Writing（時間的順序）Last Weekend, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題, Writing 3 提出
12	英語外部試験						
13	Unit 6: Paragraph Writing（時間的順序）Last Weekend, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
14	Unit 6: Paragraph Writing（時間的順序）Last Weekend, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題
15	Writing 4 発表, 文法学習（演習, 小テスト）						小テスト準備, 宿題, Writing 4 提出
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト			○		○	10	
宿題・授業外レポート			◎		◎	50	
授業態度・授業への参加度			◎			10	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	10	
外部試験			○		○	20	
テキスト・参考文献等	テキスト：① Yoshihiro Sugita & Richard R. Caraker 『Primary Course on Paragraph Writing』、Seibido、2008年、¥1,900 ② Seiji Hayakawa 他 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』、Nan'un-do、2016年、¥1,900（前期の Reading I で使用した教科書と同じです。）						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、オフィスアワー、またはEメールで対応する。						

授業科目名	オーラルコミュニケーションⅠ (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Duncan Wotley		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	By giving students a range of activities and tasks, the aim is help them practice using their English knowledge and build up their skills and confidence in everyday English.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students can explain their own thoughts to others appropriately					
技能	DP7：コミュニケーション力	Students have ability to make basic communication in English so that they can cope with globalized society of today					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	Introduction to course requirements and student responsibilities.	Lecture & students give self-introductions		Make name and information cards			
2	Unit 1 Getting to Know You	Speaking and Listening		Diary and discussion			
3	Unit 3 Food and Cooking	Speaking and Listening		Diary and discussion			
4	Unit 5 Working for a Living	Speaking and Listening		Diary and discussion			
5	Unit 6 Leisure Time	Speaking and Listening		Diary and discussion			
6	Unit 7 Sports and Games	Speaking and Listening		Diary and discussion			
7	Unit 8 Transportation and Travel	Speaking and Listening		Diary and discussion			
8	Unit 9 Vacation Time	Speaking and Listening		Diary and discussion			
9	Popular Music and Discussion 1	Discussion and Listening		Diary and discussion			
10	Unit 10 Inventions and Discussion 2	Discussion and Listening		Diary and Report			
11	Describing Places and Discussion 3	Discussion and Listening		Diary and Report			
12	Unit 13 City Life and Discussion 4	Discussion and Listening		Diary and Report			
13	Web based Learning and Discussion 5	Discussion and Listening		Diary and Report			
14	Review	Discussion and Listening		Diary and Report			
15	Speaking test	Discussing Diary		Diary Speaking Test			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			○			30	
小テスト・授業内レポート			○			20	
宿題・授業外レポート					○	20	
受講者の発表（プレゼン）					○	30	
テキスト・参考文献等	Let's Talk 2 Second Edition や担当教員の作成の教材を配布。英和 / 和英の辞書又は、電子辞典を必ず持参すること。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制							

授業科目名	オーラルコミュニケーションⅡ (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	1	1年
担当教員	Duncan Wotley						
授業の概要	<p>コースの目的は英会話能力を培うことである。</p> <p>1) 英語で、パワーポイントの発表をする。</p> <p>2) 教科書のユニットを完了する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students can explain their own thoughts to others appropriately					
技能	DP7：コミュニケーション力	Students have ability to make basic communication in English so that they can cope with globalized society of today					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	Introduction. Course Requirements.		Lecture & students give self-introductions				
2	Weekly Discussion, Unit 7A Presentation Topic discussion		Speaking and Listening		Text Homework		
3	Weekly Discussion, Unit 7B Initial Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
4	Weekly Discussion, Unit 8A Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
5	Weekly Discussion, Unit 8B Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
6	Weekly Discussion, Unit 9A Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
7	Weekly Discussion, Unit 9B Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
8	Weekly Discussion, Unit 10A Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
9	Weekly Discussion, Unit 10B Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
10	Weekly Discussion, Unit 11A Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
11	Weekly Discussion, Unit 11B Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
12	Weekly Discussion, Unit 12A Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
13	Weekly Discussion, Unit 13A Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
14	Weekly Discussion, Unit 13B Presentation Research		Research, Speaking and Listening		Text Homework		
15	Review and Test Preparation		Presenting Folio		Text Homework		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			○			30	
小テスト・授業内レポート			○			20	
宿題・授業外レポート					○	20	
受講者の発表（プレゼン）					○	30	
テキスト・参考文献等	テキストはオーラルコミュニケーションⅠ[前期]と同じです。						
履修条件							
学習相談・助言体制	メール：dwotley@hotmail.com						

授業科目名	オーラルコミュニケーションⅢ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小池 祐子	後期	演習	必修	1	2年
授業の概要	この授業では、リスニング・スピーキングに重点を置いた英語力向上のための訓練を行う。また、自然で通じる発音の習得を目指すトレーニングを行い、オーラルコミュニケーション能力の更なる向上を図る。そして、Net Academy のリスニング教材を利用した自律的学習と学習後に受ける小テストにより、リスニング力、語彙力の向上を目指す。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	基本的な会話表現ができ、自分の考えや意見を明確に述べることができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	聴く力、話す力のバランス良い向上通してコミュニケーション力を強化する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス						
2	Unit 1 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
3	Unit 2 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
4	Unit 3 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
5	Unit 4 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
6	Unit 5 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
7	発表1						
8	Unit 6 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
9	Unit 9 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
10	Unit 10 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
11	Unit 11 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
12	英語外部試験						
13	Unit 13 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
14	Unit 14 リスニング・スピーキング・発音練習、発表準備（演習、小テスト）						小テスト準備、宿題
15	発表2						期末試験準備
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	20	
小テスト			○		○	15	
宿題			○		○	15	
授業態度・授業への参加度			◎			10	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	20	
外部試験			○		○	20	
テキスト・参考文献等	Chris Cleary, Bill Holden & Terry Cooney 『TOP-UP Listening 2』、ABAX ELT Publishers、2014年、¥2,300						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、オフィスアワー、またはEメールで対応する。						

授業科目名	英語Ⅳ - (1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	泉 澤 みゆき		前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	英語学習はインプットとアウトプットに働きかけながら、繰り返し学習することで効果が出ます。本授業では「音のルール」を理解し、「生きた英語」を聞き取る練習をし、アウトプットにつなげることを目指します。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	映画を観て、状況に応じた英語表現を身につけることができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	「音のルール」を理解し、リスニング力を高めることで、コミュニケーションの力を強化できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
	<p>Part I まず、発音の練習をします。音の仕組みを理解し、その後日常生活で用いられるフレーズを聞く、リスニングの練習、更にディクテーションを行って、インプットからアウトプットへとつなげる学習をしていきます。</p> <p>Part II 映画『マイフェアレディ』を授業毎に観ていきます。その中で、様々な状況に応じて用いられる「生きた英語」を発見していきます。</p>		<p>Part I テキストにある、発音の練習を毎回実施し、フレーズの口頭練習をします。</p> <p>Part II 回ごとに特定のシーンにおいて、クイズを実施し、解答をしていきます。</p>		<p>◎決まったフレーズをいくつか選び、覚える。次回の授業でレビューのため、質問をする。</p> <p>◎発音のチェックを行う。</p>		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	30	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	20	
テキスト・参考文献等	Shukei Funada 著／Listening Trainer for English Communication（南雲堂、2015年、¥1,404（税込））						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、適宜受けつける。						

授業科目名	英語Ⅳ - (2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	泉 澤 みゆき		前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	英語学習はインプットとアウトプットに働きかけながら、繰り返し学習することで効果が出ます。本授業では「音のルール」を理解し、「生きた英語」を聞き取る練習をし、アウトプットにつなげることを目指します。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	映画を観て、状況に応じた英語表現を身につけることができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	「音のルール」を理解し、リスニング力を高めることで、コミュニケーションの力を強化できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
	<p>Part I まず、発音の練習をします。音の仕組みを理解し、その後日常生活で用いられるフレーズを聞く、リスニングの練習、更にディクテーションを行って、インプットからアウトプットへとつなげる学習をしていきます。</p> <p>Part II 映画『A・I』を授業毎に観ていきます。その中で、様々な状況に応じて用いられる「生きた英語」を発見していきます。</p>	<p>Part I テキストにある、発音の練習を毎回実施し、フレーズの口頭練習をします。</p> <p>Part II 回ごとに特定のシーンにおいて、クイズを実施し、解答をしていきます。</p>	<p>◎決まったフレーズをいくつか選び、覚える。次回の授業でレビューのため、質問をする。</p> <p>◎発音のチェックを行う。</p>				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	30	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	20	
テキスト・参考文献等	Shukei Funada 著／Listening Trainer for English Communication（南雲堂、2015年、¥1,404（税込））						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、適宜受けつける。						

授業科目名	リーディングⅢ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	4年
担当教員	小池 祐子						
授業の概要	この授業では、医療・健康に関する記事を読み読解力と語彙力を高める訓練を行う。また、内容について話し合い、医療現場の会話表現についても学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	記事の読解をもとに、適切な語彙表現を使って自分の考えや意見が表現できるようになる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	クラスメートとのディスカッションや会話表現の練習を通して、コミュニケーション力を向上させる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス, Unit 1 Summer Weight Gain (演習)						予習テスト, 準備
2	Unit 1 Summer Weight Gain (演習, 小テスト)						予習, テスト準備
3	単元テスト (Unit 1), Useful Expressions 1: Making an Appointment (演習)						予習, テスト準備
4	Unit 2 Sugar in Danger (演習)						予習, テスト準備
5	Unit 2 Sugar in Danger (演習, 小テスト)						予習, テスト準備
6	単元テスト (Unit 2), Useful Expressions 2: Forms, Medical History and Billing (演習)						予習, テスト準備
7	Unit 3 Adult Diapers Outsell Baby Diapers (演習)						予習, テスト準備
8	Unit 3 Adult Diapers Outsell Baby Diapers (演習, 小テスト)						予習, テスト準備
9	単元テスト (Unit 3), Useful Expressions 4: Examination Language and General Exam Instructions (演習)						予習, テスト準備
10	Unit 4 Medical Robots (演習)						予習, テスト準備
11	Unit 4 Medical Robots (演習, 小テスト)						予習, テスト準備
12	単元テスト (Unit 4), Useful Expressions 5: Pains and Sensation (演習)						予習, テスト準備
13	Unit 5 Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide (演習)						予習, テスト準備
14	Unit 5 Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide (演習, 小テスト)						予習, テスト準備
15	単元テスト (Unit 5), Useful Expressions 6: Medication						予習, テスト・定期試験準備
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・単元テスト			◎		◎	40	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：Susumu Kondo, Gerald R. Gordon & Minori Yoshioka 『Caregiver』 New Edition, Asahi Press, 2015年、¥1,900						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業後、オフィスアワー、またはEメールで対応する。						

授業科目名	コリア語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)	前期	演習	選択	1	1年
授業の概要	<p>初めて韓国語を学ぶ者を対象として、文字と発音から始める。暗号のように見えたハングルが文字に見えてきた時の喜びを味わう。日本語以外のことば、日本から最も近い国、隣国韓国のことばで、自分を表現すること、他者を理解することの楽しさは、新たな体験となる。</p> <p>また、映画やドラマなどの映像を利用して韓国の文化についても触れる。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国の文字（ハングル）が習得できる。</li> <li>・基本的な文法と語彙が習得できる。</li> <li>・自己紹介や、基本的な挨拶などよく使う韓国語が表現できるようになる。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。</li> <li>・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。</li> <li>・よく使う表現を覚えることで、韓国語の基本的な文法も自然な形で学べる。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。</li> <li>・事前・事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
補足事項	出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：金恩愛（2013）『はじめて学ぶ韓国語入門会話』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	コリア語Ⅰ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)	後期	演習	選択	1	1年
授業の概要	<p>コリア語Ⅰ - (1) の単位取得者を対象として、Ⅰ - (2) では簡単な日常会話を学びながら基本的な文法事項を学習する。授業で学ぶ語句・表現を暗記すれば、簡単なコミュニケーションがとれるようになる。</p> <p>また、韓国事情・文化学習として、韓国の映画やドラマ、歌などについても触れる。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音の変化に慣れ、正しくすらすら読めるようになる。</li> <li>・基本的な用言の活用について学習し、会話の中で使いこなせるようになる。</li> <li>・よく使う韓国語を中心に簡単な日常会話ができるようになる。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。</li> <li>・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。</li> <li>・よく使う表現を覚えることで、韓国語の基本的な文法も自然な形で学べる。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。</li> <li>・事前・事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：金恩愛（2013）『はじめて学ぶ韓国語入門会話』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	コリア語Ⅱ - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)	前期	演習	選択	1	2年
授業の概要	コリア語Ⅰ - (2) の単位取得者を対象とし、Ⅱ - (1) では日常会話などに役立つ単語の習得を目標とする。例文を通してたくさんの単語を自分のものにしていく過程で、おのずと文法事項への理解も深まる。また、映画やドラマなどを通して、韓国文化についても学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。</li> <li>・基本的な発音のルールを理解し、瞬時に発音できるようになる。</li> <li>・基本的な用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。</li> <li>・ハンゲル入力とハンゲルでの資料の検索ができるようになる。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。</li> <li>・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。</li> <li>・自然な韓国語のリズムを身につけてもらうため、徹底した読みの練習を行う。</li> <li>・学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。</li> <li>・事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：金恩愛（2015）『テーマで学ぶ韓国語初級会話（改訂版）』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	コリア語Ⅱ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)						
授業の概要	コリア語Ⅱ - (1) の単位取得者を対象とし、Ⅱ - (2) では前期に引き続き、例文を通した韓国語の習得を目指す。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場面で使われる単語の習得により、韓国語の表現が広がる。</li> <li>身近なテーマについて、自分の考えや気持ちを易しいことばで表現できる。</li> <li>韓国語検定試験などを検討することにより、自分のレベルを客観的に確認できる。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。</li> <li>課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。</li> <li>自然な韓国語のリズムを身につけてもらうため、徹底した読みの練習を行う。</li> <li>学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。</li> <li>事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：金恩愛（2015）『テーマで学ぶ韓国語初級会話（改訂版）』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	コリア語Ⅲ - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)		前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	コリア語Ⅱ - (2) の単位取得者を対象として、日常会話を中心としながら、韓国語で書かれた様々なジャンルの文章を読むことにより読解力を養う。また、韓国語検定試験の問題などを解いてみることで、客観的に自分の韓国語のレベルを確認する。さらに、映画鑑賞などを通して、映画の中の韓国語の表現についても学ぶ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルの読物を楽しむ（詩、童話、小説、エッセイなど）。</li> <li>・様々なテーマで会話を楽しむ（自己紹介、趣味、故郷、料理、誕生日、食事作法、日常生活、仕事など）。</li> <li>・読み物や会話などを通して韓国語を学びながら、自然な形で韓国の社会と文化についても学べる。</li> <li>・韓国語検定試験を解いてみる（発音のルール、語句・表現、文法事項などを確認する）。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。</li> <li>・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対応を講じる。</li> <li>・学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。</li> <li>・事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。</li> </ul>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：初回の授業にて提示する。 参考文献：油谷幸利・金恩愛（2007）『間違いやすい韓国語表現 100（初級編）』白帝社						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	コリア語Ⅲ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)	後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	コリア語Ⅲ - (1) の単位取得者を対象とし、日常会話を中心としながら、韓国語で書かれた様々なジャンルの文章を読むことにより読解力を養う。また、韓国語検定試験の問題などを解いてみることで、客観的に自分の韓国語のレベルを確認する。さらに、映画鑑賞などを通して、映画の中の韓国語の表現についても学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルの読み物を楽しむ（詩、童話、小説、エッセイなど）。</li> <li>・様々なテーマで会話を楽しむ（自己紹介、趣味、故郷、料理、誕生日、食事作法、日常生活、仕事など）。</li> <li>・読み物や会話などを通して韓国語を学びながら、自然な形で韓国の社会と文化についても学べる。</li> <li>・韓国語検定試験を解いてみる（発音のルール、語句・表現、文法事項などを確認する）。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。</li> <li>・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。</li> <li>・学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。</li> <li>・事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：初回の授業にて提示する。 参考文献：油谷幸利・金恩愛（2007）『間違いやすい韓国語表現 100（初級編）』白帝社						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。 授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	中国語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	郝 暁 卿		前期	演習	選択	1	1年
授業の概要	発音と会話を中心に中国語の基礎知識を身につけるようにする。学生の能動性を引き出すように会話を中心に授業をすすめる。まず、発音と文法の基本を学習する。その上に文章への理解を中心に、中国語の基礎知識を向上させる。つぎに、中国に関する知識などをテキストの内容に結びつけながら紹介する。さらに、中国の文化や歴史などを紹介する時間もつくる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（凡そ第7課まで）基本文法の習得					
技能	DP7：コミュニケーション力	1、日常のあいさつができること、2、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1、1回目～4回目の授業で中国語の発音の規則、ローマ字表記法、アクセントなどを教え、練習する。          ・授業内容：ローマ字表記の書き方、発音の習得、実際に漢字を綴ることができること          ・方法：中国語の発音の規則とローマ字表記の綴りを教え、練習させる。アクセントを含む発音の総合練習</p> <p>2、5回目～13回目までの授業では、テキストにある基礎文法を教え、練習する。          ・授業内容：中国語の be 動詞の使い方、疑問詞疑問文、指示代名詞、形容詞述語文、動詞述語文、反復疑問文など          ・方法：1、文法の説明 2、応用練習の重視 3、朗読の練習など</p> <p>3、14回目は模擬テストの総合練習          ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す。          ・方法：模擬テストの形で総復習を行い、問題点を見つける。</p> <p>4、15回目はみんなの質問に答え、模擬テストの問題を説明する。          ・授業内容：プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。          ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	80	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
補足事項	1、授業の進度状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。						
テキスト・参考文献等	「楽しく学ぼう やさしい中国語〈基礎編〉」張慧娟 等、郁文堂						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						

授業科目名	中国語 I - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1年
担当教員	郝 晓 卿						
授業の概要	主旨は前期と基本的に同じであるが、会話と文章への理解を中心に、中国語の基礎知識をさらに向上させていく。そして、中国に関する知識などをテキストの内容に結び付けながら紹介する。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	1. 存在の表現 2. 完了の表現 3. 選択疑問文の表現 4. 比較表現など					
技能	DP7：コミュニケーション力	1、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること 2、読解能力の向上					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1、1回目～5回目の授業でテキストにある基礎文法を教え、練習する。  ・授業内容：存在、連動文、完了などの表現の学習  ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習</p> <p>2、6回目はそれまでの内容を復習する。  ・授業内容：問題点の分析  ・方法：繰り返しの練習を行う中で、改めて説明し、問題点を分析する。</p> <p>3、7回目～13回目はテキストにある基礎文法を教え、練習する。  ・授業内容：選択疑問文、比較表現、現在進行形、願望などの表現の学習  ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習</p> <p>4、14回目は模擬テストを行い、復習する。  ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す。  ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける。</p> <p>5、15回目は模擬テストの結果分析  ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える。  ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	80	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
補足事項		1、授業の進度状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。					
テキスト・参考文献等	「楽しく学ぼう やさしい中国語〈基礎編〉」張慧娟 等、郁文堂						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						

授業科目名	中国語Ⅱ - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	郝 晓 卿		前期	演習	選択	1	2年
授業の概要	2年次は1年次の基礎の上に、会話と読解を中心に、会話能力と読解能力の向上を目指す。その場合、中国語の基本的な構文方法、名詞、形容詞、動詞の使い方、慣用語などを繰り返し練習することによってマスターする。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	兼語文の言い方、進行形の言い方、可能的表現、使役の表現、受け身の表現など。					
技能	DP7：コミュニケーション力	1、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること 2、読解能力の向上					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1、1回目～5回目はキストにある基礎文法を教え、練習する。          ・授業内容：兼語文、結果補語、方向補語などの表現の学習          ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習</p> <p>2、6回目はそれまでの内容を復習する。          ・授業内容：問題点の分析          ・方法：繰り返しの練習を行う中で、改めて説明し、問題点を分析する。</p> <p>3、7回目～13回目はテキストにある基礎文法を教え、練習する。          ・授業内容：可能表現、使役の表現、受け身表現などの学習          ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習</p> <p>4、14回目は模擬テストを行い、復習する。          ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す。          ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける。</p> <p>5、15回目は模擬テストの結果分析          ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える。          ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	80	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
補足事項	1、授業の進捗状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。						
テキスト・参考文献等	1、「楽しく学ぼう やさしい中国語〈基礎編〉」張慧娟 等、郁文堂						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						

授業科目名	中国語Ⅱ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	郝 晓 卿						
授業の概要	新しいテキストを使うことにより初級から中級へのステップとして中国語の慣用語の表現をさらにいろいろ練習する。中国文化と社会に関する知識も増やす。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	1、増える語彙の習得 2、今までより複雑な表現ができること。					
技能	DP7：コミュニケーション力	1、教授範囲の言葉で日常のことをより正確に表現できること 2、読解能力の向上					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1、1回目～3回目はテキスト第一課の学習  ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>2、4回目～6回目はテキスト第二課の学習  ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>3、7回目～9回目はテキスト第三課の学習  ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>4、10回目～13回目は第四課の学習  ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>5、14回目は模擬テストの結果分析  ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す。  ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける。</p> <p>6、15回目は模擬テストの結果分析  ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える。  ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	80	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
補足事項	1、授業の進捗状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。						
テキスト・参考文献等	「楽しく学ぼう やさしい中国語〈購読編〉」王武雲 張慧娟 等、郁文堂						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						

授業科目名	中国語Ⅲ - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	郝 晓 卿		前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	2年生後期の授業に続き、新しいテキストを使うことにより初級から中級へのステップとして中国語の慣用語の表現をさらにいろいろ練習する。中国文化と社会に関する知識も増やす。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	1、増える語彙の習得 2、今までより複雑な表現ができること。					
技能	DP7：コミュニケーション力	1、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること 2、読解能力の向上					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1、1回目～3回目はテキスト第五課の学習          ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用          ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>2、4回目～6回目はテキスト第六課の学習          ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用          ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>3、7回目～9回目はテキスト第七課の学習          ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用          ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>4、10回目～13回目は第八課の学習          ・授業内容：1、文法、慣用句などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用          ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>5、14回目は模擬テストの結果分析          ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す。          ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける。</p> <p>6、15回目は模擬テストの結果分析          ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える。          ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	80	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
補足事項	1、授業の進度状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。						
テキスト・参考文献等	「楽しく学ぼう やさしい中国語〈購読編〉」王武雲 張慧娟 等、郁文堂						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						

授業科目名	中国語Ⅲ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	郝 晓 卿						
授業の概要	1、新聞記事を読むことにより、会話能力と読解力の向上を目指す。2、テキストの内容に合わせて、中国の文化や歴史などを紹介する。特に、現在の中国における社会問題なども考える。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	1、中級レベルの文章が読める 2、中国の社会事情などがある程度理解する。					
技能	DP7：コミュニケーション力	1、教授範囲の言葉で日常のことをより正確に表現できること 2、読解能力の向上					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1、1回目～3回目はテキスト第一課の学習  ・授業内容：1、新聞記事を読むことで、語学と社会事情を学ぶ。  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>2、4回目～6回目はテキスト第二課の学習  ・授業内容：1、新聞記事を読むことで、語学と社会事情を学ぶ。  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>3、7回目～9回目はテキスト第三課の学習  ・授業内容：1、新聞記事を読むことで、語学と社会事情を学ぶ。  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>4、10回目～13回目は第四課の学習  ・授業内容：1、新聞記事を読むことで、語学と社会事情を学ぶ。  ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習</p> <p>5、14回目は模擬テストの結果分析  ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す。  ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける。</p> <p>6、15回目は模擬テストの結果分析  ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える。  ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	80	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
演習			○		○	10	
補足事項	1、授業の進度状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。						
テキスト・参考文献等	2016年版「時事中国語の教科書」三瀧正道 陳祖蓓、朝日新聞社（2016年度版）						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						

授業科目名	仏語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	1年
担当教員	田中真理						
授業の概要	初級文法の学習を第一の目標とするが、同時に視聴覚教材を活用し、実践的に読む・聞く・話す・文を書く、それぞれの力をバランスよく養っていく。また、日本とフランス両国の比較などを通して、文化や社会の理解に努める。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	教科書に収録されている文や単語は正しく発音でき、意味も分かる、というレベルまで練習する。					
技能	DP7：コミュニケーション力	既習の文を使って教室の中で実践的に相手に質問したり、質問に答えたりできることを目指す。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	0課	フランス語・フランス文化を知る：発音など	単語を発音するなど		付属CDを聞く。復習は必ず行う。以下すべての回、同じ		
2	1課	自己紹介する	文法学習 会話文の理解		最低限付属CDを聞く。単語の意味調べ。		
3	1課	続き	練習問題を解く 発音練習		練習問題を予め解いておく		
4	2課	物を指し示す	1課と同じ		1課と同じ		
5	2課	続き	同上		同上		
6	3課	尋ねる	同上		同上		
7	3課	続き	同上		同上		
8	4課	買い物をする	同上		同上		
9	4課	続き	同上		同上		
10	5課	物や人について尋ねる	同上		同上		
11	5課	続き	同上		同上		
12	6課	場所を尋ねる	同上		同上		
13	6課	続き	同上		同上		
14	7課	～したいと言う	同上		同上		
15	7課の続きと	1～7課の総復習 p.22 p.40	同上		同上		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎				50
小テスト・宿題					◎		30
授業への参加度							20
テキスト・参考文献等	テキスト： 藤田祐二 著 Paris - Bordeaux 朝日出版社 必携書：日仏辞書						
履修条件	3分の1以上欠席（公欠は除く）の場合は、原則として失格とし成績判定の対象外とする。						
学習相談・助言体制	授業の内容に関して：授業中はその場で質問、または授業後教室内で質問に来るか名前を明記したメモなど（メモには後日回答）						

授業科目名	仏語 I - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	田 中 真 理		後期	演習	選択	1	1年
授業の概要	前期と同じ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	CDを活用するなどして、聞き取りや発音の能力を強化する。文を、意味を理解しつつ暗唱することを通して、自然に構文が身につくレベルまで努力する。					
技能	DP7：コミュニケーション力	既習の文をベースに簡単な作文や会話ができることを目指す。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	8課	興味を述べる	仏語 I - (1)と同じ。以下すべて同様。		仏語 I - (1)と同じ		
2	8課	続き					
3	9課	誘う					
4	9課	続き					
5	10課	天候と時刻を言う					
6	10課	続き					
7	11課	数量を表す					
8	11課	続き					
9	12課	比較する					
10	12課	続き					
11	13課	過去のことを話す					
12	13課	続き					
13	14課	仮定する					
14	14課	続き					
15	後期学習範囲の復習と補強 p.54 p.68		質問を受ける / まとめを行う		自分で予め復習して臨む。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎			50	
小テスト・宿題					◎	30	
授業への参加度						20	
テキスト・参考文献等	テキスト：仏語 I - (1)のテキストを引き続き使用する。日仏辞書は必携						
履 修 条 件	仏語 I - (1)と同じ						
学習相談・助言体制	仏語 I - (1)と同じ						

授業科目名	仏語Ⅱ - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	山本和道	前期	演習	選択	1	2年
授業の概要	プリントを使って、フランス語基礎文法の学習を続ける。それが終わったら、現代フランスを説明している文章を講読する。練習問題にも取り組み、フランス語の仕組みを身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	仏語を組み立てている法則の概要を修得すること。読み、書き、聞き、話すという、フランス語の総合的運用能力を可能にする、基礎的なフランス語の力を身に付けること。					
技能	DP7：コミュニケーション力	現代フランスについて語っている文章を講読して、仏語の文章を読む力を付けるとともに、現代フランス社会の諸相を知る者となること。フランスと比較して、日本、日本文化について語るができること。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	フランス語基礎文法（1）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
2	フランス語基礎文法（2）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
3	フランス語基礎文法（3）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
4	フランス語基礎文法（4）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
5	フランス語基礎文法（5）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
6	フランス語基礎文法（6）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
7	ピエール・ド・クーベルタン（1）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
8	ピエール・ド・クーベルタン（2）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
9	ピエール・ド・クーベルタン（3）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
10	フランス企業	日本に定着（1）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
11	フランス企業	日本に定着（2）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
12	フランス企業	日本に定着（3）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
13	アルデバラン・ロボティクス（1）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
14	アルデバラン・ロボティクス（2）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
15	アルデバラン・ロボティクス（3）		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		○	80	
小テスト・授業内レポート			◎		○	10	
授業態度・授業への参加度			◎		○	10	
テキスト・参考文献等	『時事フランス語 2016年版』、加藤晴久他、朝日出版社						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	分からないことがあったら、授業中でも良いし授業後でも良いので、質問をすること。						

授業科目名	仏語Ⅱ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	山本和道						
授業の概要	プリントを使って、フランス語基礎文法の学習を続ける。それが終わったら、現代フランスを説明している文章を講読する。練習問題にも取り組み、フランス語の仕組みを身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	仏語を組み立てている法則の概要を修得すること。読み、書き、聞き、話すという、フランス語の総合的運用能力を可能にする、基礎的なフランス語の力を身に付けること。					
技能	DP7：コミュニケーション力	現代フランスについて語っている文章を講読して、仏語の文章を読む力を付けるとともに、現代フランス社会の諸相を知る者となること。フランスと比較して、日本、日本文化について語るができること。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	アコルドリ（1）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
2	アルデルラン・ロボティクス（2）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
3	アルデルラン・ロボティクス（3）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
4	フランスの核抑止力（1）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
5	フランスの核抑止力（2）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
6	フランスの核抑止力（3）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
7	国防の日（1）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
8	国防の日（2）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
9	国防の日（3）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
10	ベルフォール（1）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
11	ベルフォール（2）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
12	ベルフォール（3）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
13	伝説のホテル ル・ルテチア（1）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
14	伝説のホテル ル・ルテチア（2）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
15	伝説のホテル ル・ルテチア（3）	練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		○	80	
小テスト・授業内レポート			◎		○	10	
授業態度・授業への参加度			◎		○	10	
テキスト・参考文献等	『時事フランス語 2016年版』、加藤晴久他、朝日出版社						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	分からないことがあったら、授業中でも良いし授業後でも良いので、質問をすること。						

授業科目名	独語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	古賀正之		前期	演習	選択	1	1年
授業の概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	ドイツ語で挨拶ができるようになる。	パートナー練習と役割演技	基本単語・基本表現の暗記				
2	ドイツ語で自己紹介ができるようになる。	学生発表への助言と指導	基本文法確認レポート提出				
3	他人の情報（名前、出身、年齢）を尋ねることができるようになる。	提出課題の添削と評価	以下同様				
4	主語に合わせて動詞の語尾を正しく変化できるようになる。	以下同様					
5	du と Sie の違いを理解する。						
6	不規則変化動詞の変化を覚える。						
7	自分の趣味について語るできるようになる。						
8	趣味について尋ねることができるようになる。						
9	補足疑問文と決定疑問文の違いを理解する。						
10	否定疑問文に答えられるようになる。						
11	分離動詞の成り立ちと使い方を理解する。						
12	一日の予定を表現できるようになる。						
13	一週間の予定を表現できるようになる。						
14	時刻・日付表現を覚える。						
15	人に何かを頼む表現・助言する表現を覚える。						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート						5	
宿題・授業外レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度						5	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40	
補足事項	上記「定期試験」（40%）以外の項目は、合計して平常点（60%）として評価されます。						
テキスト・参考文献等	三宅・コッホ「ドイツ語インパクト<ノイ>」三修社 2016年（教科書は必要、辞書や参考書は不要）						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。						

授業科目名	独語 I - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1年
担当教員	古賀正之						
授業の概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	名詞に性の区別があることを理解する。	パートナー練習と役割演技	基本単語・基本表現の暗記				
2	名詞の性に応じた冠詞（1・4格）をつけて表現できるようになる。	学生発表への助言と指導	基本文法確認レポート提出				
3	人称代名詞の性による使い分けを理解する。	提出課題の添削と評価	以下同様				
4	大きさや重さなどの形容詞を覚える。	以下同様					
5	複数形の種類と作り方を覚える。						
6	話法の助動詞の変化と使い方を理解する。						
7	話法の助動詞を使って、可能・禁止などを表現できるようになる。						
8	店で簡単な買い物（値段を聞く、要望を伝える）ができるようになる。						
9	定冠詞類「どの」(welcher) や「この」(dieser) が使えるようになる。						
10	指示代名詞の変化と使い方を理解する。						
11	不定代名詞 man の用法を覚える。						
12	形式上の主語 es を含む表現を覚える。						
13	家族用語を覚える。						
14	職業名を覚える。						
15	性格や体形等を表現する形容詞を覚える。						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート						5	
宿題・授業外レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度						5	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40	
補足事項	上記「定期試験」（40%）以外の項目は、合計して平常点（60%）として評価されます。						
テキスト・参考文献等	三宅・コッホ「ドイツ語インパクト<ノイ>」三修社 2016年（教科書は必要、辞書や参考書は不要）						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。						

授業科目名	独語Ⅱ - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	古賀正之						
授業の概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。独語Ⅰの復習・定着に加え、一層の表現力を習得。					
技能	DP7：コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	所有冠詞の1格、3格、4格の形と使い方を覚える。		パートナー練習と役割演技		基本単語・基本表現の暗記		
2	人称代名詞の3格の形と使い方を覚える。		学生発表への助言と指導		基本文法確認レポート提出		
3	否定詞 nicht と否定冠詞 kein の区別ができるようになる。		提出課題の添削と評価		以下同様		
4	性格や体型等を表現する形容詞を覚える。		以下同様				
5	主文・副文の用法を理解する。						
6	従属接続詞と接続詞の副詞の使い方を覚える。						
7	前置詞の格支配について理解する。						
8	3格・4格支配の前置詞の使い分けを覚える。						
9	行き先・場所による前置詞の使い分けを学習する。						
10	動詞の3基本形について理解する。						
11	過去のことを表現できるようになる。						
12	現在完了形の作り方と用法を覚える（1）。						
13	現在完了形の作り方と用法を覚える（2）。						
14	完了の助動詞 sein と組み合わせる動詞を覚える。						
15	今学期の授業の総まとめ。						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート						5	
宿題・授業外レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度						5	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40	
補足事項		上記「定期試験」（40％）以外の項目は、合計して平常点（60％）として評価されます。					
テキスト・参考文献等	三宅・コッホ 「アクティブに使うドイツ語<ノイ>」 三修社 2014年 昨年度の独語Ⅰの教科書を継続使用します。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。						

授業科目名	独語Ⅱ - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	古賀正之						
授業の概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。独語Ⅰの復習・定着に加え、一層の表現力を習得。					
技能	DP7：コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	過去のことを表現できるようになる。（前学期の復習）		パートナー練習と役割演技		基本単語・基本表現の暗記		
2	現在完了形の作り方と用法を覚える。（前学期の復習）		学生発表への助言と指導		基本文法確認レポート提出		
3	過去形の作り方と用法を覚える。		提出課題の添削と評価		以下同様		
4	過去形と現在完了形の用法を区別できるようになる。		以下同様				
5	sein/haben/ 話法の助動詞の過去形を覚える。						
6	旅行先を表現する際に用いる前置詞を覚える。						
7	ホテルの部屋を予約できるようになる。						
8	駅で切符を買うことができるようになる。						
9	天気表現を覚える。						
10	受動態の作り方と用法を覚える。						
11	形容詞の比較級の作り方と用法を覚える。						
12	形容詞の最上級の作り方と用法を覚える。						
13	形容詞の付加語的用法について理解する。						
14	店で品物の色、サイズ、価格などを比較できるようになる。						
15	今学期の授業の総まとめ。						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート						5	
宿題・授業外レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度						5	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40	
補足事項		上記「定期試験」（40％）以外の項目は、合計して平常点（60％）として評価されます。					
テキスト・参考文献等	三宅・コッホ 「アクティブに使うドイツ語<ノイ>」 三修社 2014年 昨年度の独語Ⅰの教科書を継続使用します。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。						

授業科目名	海外語学実習事前指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	演習	選択	1	人社1~4年 看護1~4年
担当教員	Stuart Gale						
授業の概要	This is an intensive preparation course for all students participating in the UK summer programme. Objectives: (1) To prepare students for living with a UK homestay family and studying with UK undergraduates. (2) To orientate each student towards conducting a survey interview in the UK. The survey interview will be with a British expert (e.g. a hospital staff member, a social worker) related to the student's major.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students will be required to give feedback in groups in English.					
技能	DP7：コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	(1) : Doing a homestay (2) : Identifying interviewees		Lecture		Homework: Identifying survey objectives		
2	(1) : Meeting ALTs (2) : Confirming survey objectives		Lecture		Homework: Reading on the UK		
3	Assignment 1 : Composing the questionnaire (1st draft)		Assignment		Review		
4	(1) : Restaurants and shopping (2) : Revising the questionnaire		Lecture		Homework: Rewriting the questionnaire (2nd draft)		
5	(1) : Budgeting in the UK (2) : Finalizing the questionnaire		Lecture		Homework: Reading on the UK		
6	Assignment 2 : Composing an interview request (1st draft)		Assignment		Review		
7	(1) : Survey interview practice (2) : Revising interview request		Lecture		Homework: Rewriting interview request		
8	(1) : Survey interview practice (2) : Finalizing interview request		Lecture		Homework: Reading on the UK		
9	Assignment 3 : Starting a portfolio (composing questions)		Assignment		Review		
10	(1) : Talking about Japan/the UK (2) : Revising portfolio questions		Lecture		Homework: Rewriting the portfolio questions		
11	(1) : Expressing one's opinion (2) : Using portfolio questions		Lecture		Homework: Reading on the UK		
12	Assignment 4 : Composing instructions (for British students) re. an aspect of Japanese culture (e.g. origami)		Assignment		Review		
13	(1) : Final travel preparations (2) : Revising instructions re. an aspect of Japanese culture		Lecture		Homework: Rewriting the instructions re. an aspect of Japanese culture		
14	(1) : Survey interview practice (2) : Teaching practice (re. an aspect of Japanese culture)		Lecture		Homework: Reading on the UK		
15	Assignment 5 : keeping a daily diary until day of departure		Assignment		Review		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
Assignments 1-5			◎		○	50	
Class participation			◎		○	25	
Homework			◎		○	25	
補足事項	This course will prioritize the student's attitude to learning and level of participation.						
テキスト・参考文献等	All materials will be the teacher's own (no textbook is necessary) .						
履修条件	This course is compulsory for all students participating in the UK study programme. 海外語学実習と他の実習等の期間が重複する場合は各学部・学科の履修指導に従うこと。						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate and take responsibility for their development.						

授業科目名	海外語学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	Stuart Gale	前期	演習	選択	1	人社1～4年 看護1～4年
授業の概要	<p>The accredited UK study programme runs in the summer for 3 weeks. Students stay in Oxford in university accommodation, and then in Bath in homestay accommodation. Students visit London, several World Heritage Sites and many other places of interest. Students also take 10 × 3-hour lessons with British university undergraduates acting as ALTs at a ratio of 4 or 5 FPU students to 1 UK student. Students conduct surveys relevant to their major subject at FPU. Before going to the UK, students undergo a 22.5-hour preparation course (海外語学実習事前指導), attendance for which is compulsory for students participating in the UK programme. UK-based objectives: (1) To conduct the survey relevant to the student's major subject at FPU, and (2) to compile an English-language portfolio as a record of the student's survey results and day-to-day experiences in the UK, and (3) to improve the student's English ability via classroom tuition and contact with native speakers.</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students are required to make a group presentation in English.					
技能	DP7：コミュニケーション力	Students are expected to exhibit improvement in the communicative abilities.					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	Depart Fukuoka. Arrive London Heathrow Airport. Go to Oxford. Stay at university (Oxford Brookes) accommodation.	<p>All lessons are with UK university undergraduates acting as ALTs. Lesson tasks will be based on materials designed for the course and will include discussion on the topic, statistical analysis, group presentations and role-play. The student will be encouraged to make comparisons between Japanese and British culture. The student will conduct research interviews prepared and practiced in the preparation class. On day-trips, the student will be expected to ask questions to official tour guides and to interact with the local community.</p>			<p>While in the UK, the student will be expected to (1) prepare in advance for the following day's activities (e.g. by reading up on the lesson topic and/or place (s) to be visited), and (2) keep a portfolio of the student's day-to-day experiences in the UK and the results of the survey (relevant to the student's FPU major).</p>		
2	Orientation/Oxford tour.						
3	Lesson 1. Topic: World Heritage Sites in the UK. Tour of Oxford University.						
4	Day-trip to London (1).						
5	Day-trip to London (2).						
6	Lesson 2. Topic: Employment and careers (1). Half-day trip to Blenheim Palace.						
7	Lesson 3. Topic: Employment and careers (2).						
8	Depart Oxford, arrive Bath via the Cotswolds.						
9	Orientation/Bath tour.						
10	Lesson 4. Topic: Meeting homestay families.						
11	Lesson 5. Topic: Crime.						
12	Day trip to Cardiff.						
13	Day trip to Bristol.						
14	Lesson 6. Topic: Education. Research interview.						
15	Lesson 7. Topic: Student survey. Research interview.						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
次ページに記載。							
補足事項	次ページに記載。						
テキスト・参考文献等	次ページに記載。						
履 修 条 件	次ページに記載。						
学習相談・助言体制	次ページに記載。						

授業科目名	海外語学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	選択	1	人社1～4年 看護1～4年
授業の概要	前ページと同じ						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	(前ページと同じ)					
技能	DP7：コミュニケーション力	(前ページと同じ)					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
16	Lesson 8. Topic: Environmental issues (1). Half-day trip to Lacock.		All lessons are with UK university undergraduates acting as ALTs. Lesson tasks will be based on materials designed for the course and will include discussion on the topic, statistical analysis, group presentations and role-play. The student will be encouraged to make comparisons between Japanese and British culture. The student will conduct research interviews prepared and practiced in the preparation class. On day-trips, the student will be expected to ask questions to official tour guides and to interact with the local community.		While in the UK, the student will be expected to (1) prepare in advance for the following day's activities (e.g. by reading up on the lesson topic and/or place(s) to be visited), and (2) keep a portfolio of the student's day-to-day experiences in the UK and the results of the survey (relevant to the student's FPU major).		
17	Lesson 9. Topic: Environmental issues (2). Half-day trip to RICE.						
18	Lesson 10. Topic: An aging society. Primary school visit.						
19	Day trip to Salisbury and Old Sarum.						
20	Free time or project work in Bath.						
21	Depart Bath. Half-day trip to Winsor Castle. Depart London Heathrow.						
22	Arrive Fukuoka.						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
Portfolio (class work and log)			◎		○	50	
Portfolio (research data and analysis)			◎		○	50	
補足事項	Students are expected to participate in all aspects of the programme to the best of their ability.						
テキスト・参考文献等	All study materials will be provided by the teacher.						
履 修 条 件	This is an elective（選択）class awarding 1 credit. 海外語学実習と他の実習等の期間が重複する場合は各学部・学科の履修指導に従うこと。						
学習相談・助言体制	The teacher will provide all necessary support to participating students.						

授業科目名	Introduction to studying in English				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	Stuart Gale	後期	演習	選択	1	1年		
授業の概要	This an elective course for students interested in developing the skills and study techniques necessary for effective participation in university tutorials conducted in English. These skills and study techniques will be transferable to university tutorials in the student's own language or indeed any other language.								
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP4：表現力	Students will be required to make a group presentation in English.							
技能	DP7：コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in terms of their communicative abilities.							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授 業 内 容		授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）			
1	Choosing and applying for a university course		The course aims to develop the skills necessary for Japanese students to undertake a course of study at a university in an English-speaking country. The course will therefore aim to develop each participating student's English ability and practice a range of effective learning and study strategies. In pursuit of these objectives, the course will, as far as possible, approximate an English-language immersed learning environment.			Homework: writing a curriculum vitae			
2	Personal Development Planning (PDP) : becoming a successful learner					Homework: keeping a portfolio			
3	Further study strategies, time-management and goal-setting					Homework: defining one's goals/advice for studying			
4	Taking lecture notes (1)					Homework: reviewing lecture notes			
5	Taking lecture notes (2)					Homework: reviewing lecture notes			
6	Finding information and doing research (online and paper-based)					Homework: researching online/gathering information			
7	Reading, writing and thinking critically					Homework: devising an essay question/writing a thesis statement			
8	Essay/report planning and writing					Homework: essay preparation (1)			
9	Essay/report planning and writing					Homework: essay preparation (2)			
10	Essay/report planning and writing					Homework: essay writing			
11	Plagiarism and referencing					Homework: a favourite quotation			
12	Taking seminars and expressing one's opinion orally					Homework: advice for exam-takers			
13	Strategies for exam revision and exam taking					Homework: devising a topic for an oral presentation			
14	Making an oral presentation (using PowerPoint (1))					Homework: oral presentation preparation			
15	Making an oral presentation (using PowerPoint (2))					Review			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
Participation					○	33			
Coursework (essay/other assignments)			◎			33			
Oral presentation					◎	34			
補足事項		A proactive approach to learning and the ability to study by oneself will be highly evaluated.							
テキスト・参考文献等	All study materials will be provided by the teacher. No textbook is necessary.								
履修条件	This course is an elective course.								
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate and take responsibility for their own development.								

授業科目名	情報処理の基礎と演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	2	1年
担当教員	柴田 雅博						
授業の概要	<p>本学専門教育を受ける際に必修となる情報基礎スキルの習得を目的とする。 レポート作成や課題発表に必要な基礎知識として、パソコンの基本操作、Wordを使った文書作成、Excelを使った表計算・グラフ作成、PowerPointを使った発表資料の作成を学習する。また、インターネットを利用し効率的に情報検索を行う方法を学習する。そのほか、ICT機器やインターネットの利用に対する基礎的なセキュリティ知識を学習する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	ICT機器および一般的なソフトウェアに関する基礎知識を身に着ける。ICT機器を安全に活用するための基礎的なセキュリティ知識を身に着ける。					
技能	DP8：情報リテラシー	パソコンの基本操作・印刷が問題なく行える。Word、Excel、PowerPointを自由に使いこなすことができる。インターネットなどを使って効率的に情報を検索することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション：Windowsの基本操作、電子メール、e-learning、印刷		講義と演習		授業内で終了しなかった演習課題について、次週の授業までに終了させて提出。		
2	インターネットの利用：電子メールの書き方、インターネットの概要、Web検索、その他ネットワークサービスの利用		講義と課題				
3	情報セキュリティ：情報機器利用に対するトラブル、情報セキュリティ対策、ネットリテラシー、著作権など		講義と課題				
4	Wordを使った文書作成：文字入力、文字修飾、印刷、保存		講義と演習				
5	Wordを使った文書作成：書式設定、文書の体裁（1）		講義と演習				
6	Wordを使った文書作成：文書の体裁（2）		講義と演習				
7	Wordを使った文書作成：表と図の挿入		講義と演習				
8	Wordを使った文書作成：飾り文字、その他		講義と演習				
9	PowerPointを使った発表資料の作成：基本的なスライドの作成		講義と演習				
10	PowerPointを使った発表資料の作成：図表の挿入、図形の挿入		講義と演習				
11	PowerPointを使った発表資料の作成：アニメーション		講義と演習				
12	Excelを使った表計算：表の作成		講義と演習				
13	Excelを使った表計算：関数		講義と演習				
14	Excelを使った表計算：グラフ		講義と演習				
15	Excelを使った表計算：データベースとしての利用		講義と演習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○		◎	○	40	
演習		○		○	◎	60	
テキスト・参考文献等	テキスト：『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦（オーム社）						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。						

授業科目名	情報処理応用演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1年
担当教員	柴田雅博 他						
授業の概要	「情報処理演習Ⅰ」では、Microsoft Office を中心に本学専門教育を受けるのに必要な基礎技能を身に付けた。本演習では、より専門性を深めて Office ソフトを利用する技能を身に付ける。Word, Excel の使い方についてさらに掘り下げ、またデータベースソフトである Access の使用法を学習する。また、VBA マクロの基本についても学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	調査データをどのように分析し、また分析データをどのように表現するか、その方法を修得している。 データベースの基礎知識およびデータベース構築・検索に関する基本操作について理解している。					
技能	DP8：情報リテラシー	Word で目次等、論文の体裁を整えることができる。 Excel を用いたデータ分析、データ可視化を実践できる。 Access を用いてデータベース構築を実践できる。 マクロを使って作業の効率化を図ることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	Word : アウトラインと目次		講義と演習		授業内で終了しなかった演習課題について、次週の授業までに終了させて提出。		
2	Word : セクションと書式設定		講義と課題				
3	Word : 相互参照、文献目録		講義と課題				
4	Excel : グラフ応用、印刷設定		講義と演習				
5	Excel : 関数応用		講義と演習				
6	Excel : ピボットテーブル		講義と演習				
7	Excel : マクロの作成と実行		講義と演習				
8	Excel : VBA マクロ（1）		講義と演習				
9	Excel : VBA マクロ（2）		講義と演習				
10	Access : データベースの作成		講義と演習				
11	Access : 複数のテーブルの取り扱い		講義と演習				
12	Access : クエリの作成		講義と演習				
13	Access : データベースの事例		講義と演習				
14	Access : フォームの利用		講義と演習				
15	Access : 検索結果の出力		講義と演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業態度・授業への参加度	○		◎	○	40	
	演習	○		○	◎	60	
テキスト・参考文献等	テキスト： 矢野文彦, 『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』, オーム社, 2013 参考図書：川上恭子, 『Excel VBA でデータ分析』, マイナビ, 2015, 元木洋子, 『ひと目でわかる Access2013』, 日経 BP, 2013						
履 修 条 件	「情報処理の基礎と演習」を受講していること						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。						

授業科目名	情報処理演習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	1年
担当教員	原田直樹・四戸智昭						
授業の概要	パソコンを用いて、レポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得するとともに、インターネットに代表される情報通信技術やその利用方法を学ぶ。加えて、それら情報に対するメディアリテラシーを身に付ける。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	パソコンを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	各自の関心事について、主体的に調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。					
技能	DP8：情報リテラシー	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション-大学 Web メール、E ラーニング、周辺機器の取扱	講義・演習					
2	ワープロソフト（Word）①-書式設定	講義・演習					
3	ワープロソフト（Word）②-チラシを作ってみよう	講義・演習					
4	表計算ソフト（Excel）①-簡単な数値演算	講義・演習					
5	表計算ソフト（Excel）②-関数の活用	講義・演習					
6	プレゼンテーションソフト（Power Point）①-アニメーションの設定	講義・演習					
7	プレゼンテーションソフト（Power Point）②-効果的なスライドの作成	講義・演習					
8	インターネット概論	講義・演習					
9	メディアリテラシー	講義・演習					
10	情報検索と集約①	演習・レポート					
11	情報検索と集約②	演習・レポート					
12	プレゼンテーション発表	演習・課題発表		プレゼン課題は事前に提出			
13	プレゼンテーション発表	演習・課題発表					
14	プレゼンテーション発表	演習・課題発表					
15	プレゼンテーション発表・まとめ	演習・課題発表					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○	◎		40	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	○	20	
演習				◎	○	40	
テキスト・参考文献等	イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル（noa 出版）						
履 修 条 件	看護学部の学生						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。						

授業科目名	情報処理演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	1年
担当教員	原田直樹						
授業の概要	パソコンを用いて、Windowsとともに、レポート作成やプレゼンテーション時に必要な代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。具体的にはWordを使った文書作成、Excelを使った表計算及びグラフの作成、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法等を修得する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	WordやExcel、PowerPoint等のアプリケーションを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	与えられた課題について、主体的に取り組むことができる。					
技能	DP8：情報リテラシー	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 基本的なPC操作		講義・演習				
2	ワープロソフト（Word）①－入力、印刷、保存		講義・演習				
3	ワープロソフト（Word）②－書式設定		講義・演習				
4	表計算ソフト（Excel）①－入力、簡単な計算表の作成		講義・演習				
5	表計算ソフト（Excel）②－グラフの作成		講義・演習				
6	プレゼンテーションソフト（Power Point）①－入力、スライドの作成		講義・演習				
7	プレゼンテーションソフト（Power Point）②－オブジェクトの取扱		講義・演習				
8	ワープロソフト（Word）と表計算ソフト（Excel）の関連①		講義・演習				
9	ワープロソフト（Word）と表計算ソフト（Excel）の関連②		講義・演習				
10	インターネットの利用－Webページ検索の方法		講義・演習				
11	プレゼンテーションソフト（Power Point）と表計算ソフト（Excel）の関連①		講義・演習				
12	プレゼンテーションソフト（Power Point）と表計算ソフト（Excel）の関連②		講義・演習				
13	画像処理①－画像の取込		講義・演習		各自で画像を用意。		
14	画像処理②－画像加工と貼り付け		講義・演習				
15	まとめ		講義・演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○	◎		40	
演習				◎	○	60	
テキスト・参考文献等	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル（noa出版）						
履修条件	看護学部の学生						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。						

授業科目名	保 健 理 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	藤 島 和 孝						
授業の概要	<p>近年、日本人の平均寿命は、男性が約80歳、女性が約87歳となり、男女の平均が約84歳で世界一になった。私たちは、単に長寿だけを望むのではなく、自立および持続可能な健康生活の実践を目指したところの、いわゆる「健康寿命」を延ばすことが長寿社会での重要な課題と考える必要がある。</p> <p>本講義では、特に大学生生活と健康実践の側面から、1)健康科学の視点 2)心の健康 3)大学生生活と性 4)健康実践などについて具体的に解説する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	福祉社会に貢献するための教養・健康に関する知識を幅広く有している。					
技能	DP9：健康スキル	福祉社会に必要な自らの健康を維持し高める基礎技能を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	履修解説、受講生の確認		受講者の確認など		シラバスの確認		
2	健康の重要性、健康の考え方		資料で授業内容の解説		配布資料の予習		
3	精神的健康の自己診断法		同上		同上		
4	気質の診断、自己実現意識の分析		同上		同上		
5	性教育の概念と内容、男女の性差		同上		同上		
6	青少年の性意識と性行動		同上		同上		
7	妊娠と避妊		同上		同上		
8	性感染症		同上		同上		
9	運動処方		同上		同上		
10	肥満対策		同上		同上		
11	合理的な酒の飲み方		同上		同上		
12	タバコの害		同上		同上		
13	合理的な入浴法		同上		同上		
14	健康と食習慣		同上		同上		
15	アンケートの回答、レポート作成		レポート提出		レポート作成の事前学習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○			○	10	
宿題・授業外レポート		○			○	10	
授業態度・授業への参加度		◎			◎	80	
テキスト・参考文献等	講義内容は、プリントで配布する。参考文献：九州大学健康科学センター編「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」、大修館書店、2008年、1,800円＋税						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	出席カードの「メモ」で受け付け、次回に回答する。その他、必要に応じて随時対応する。						

授業科目名	健康スポーツ論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	中原 雄 一						
授業の概要	現代社会では、心身ともに健康上の問題を抱える人が増えつつある。本講義では、「健康とは何か」という根本的なことから、多くの人が直面している健康上の様々な問題について概説すると同時に、運動やスポーツが健康へもたらす効果とその具体的方法などについて解説し、社会人・職業人として必要な教養を身に付けることを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	運動・スポーツが健康に及ぼす効果について様々な観点から理解するとともに、運動・スポーツや健康に関して幅広い知識を身に付ける。					
技能	DP9：健康スキル	自らの健康について興味・関心を持ち、健康の維持・改善を図るための技能を身に付ける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、スポーツの概念		授業の概要説明		シラバスの確認		
2	スポーツに関する施策		パワーポイントを使用して講義を行い、資料を配布する。 また、適宜コメント用紙を配布し、自身の意見を述べる機会を設ける。		講義内容の復習を行う。		
3	社会におけるスポーツの役割と競技スポーツ						
4	健康の概念						
5	日本における健康問題の変化						
6	健康づくりに関する施策						
7	生活習慣と身体活動						
8	生活習慣病と運動・スポーツ						
9	精神的健康と運動・スポーツ						
10	健康と体力						
11	各ライフステージにおける健康と運動・スポーツの在り方①						
12	各ライフステージにおける健康と運動・スポーツの在り方②						
13	健康維持・改善のための運動トレーニング						
14	生涯スポーツと健康						
15	授業のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート			◎			○	60
授業態度・授業への参加度			◎			○	40
テキスト・参考文献等	テキスト：特になし（プリントを随時配布） 参考文献：東京大学身体運動科学研究室編「教養としての身体運動・健康科学」東京大学出版						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	研究室への来室、もしくは必要に応じて随時対応する。						

授業科目名	健康科学実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			前期	実習	必修	1	1年					
担当教員	池田孝博・中原雄一											
授業の概要	<p>健康でいきいきとした大学生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。</p> <p>健康科学実習 I では、健康の維持・増進と関係の深い身体機能および運動能力に関する正しい知識を学習し、健康的な生活を営むための態度を身につける。</p> <p>また、バドミントン、フライングディスクおよび水泳・水中運動などの、様々なスポーツ種目を実践し、自らが生涯にわたって行うことができるスポーツ種目を体験する。</p> <p>本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。</p>											
<b>学生の到達目標</b>												
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	身体の構造および機能について理解し、科学的根拠に基づいて、自らの健康の維持・増進を図ることができる。										
技能	DP9：健康スキル	<p>(1) 基本的な運動技能およびスポーツ活動を実施する上でのマナーを修得し、生涯にわたってスポーツに親しんでいくことができる。</p> <p>(2) 各種のスポーツ活動への参加によって、人間関係の改善・向上を図ることができる。</p>										
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>												
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）							
1	ガイダンス		授業の概要および成績評価の方法などについて説明する。		特になし。							
2	体力テスト		実習中心で授業を進める。		特になし。							
3												
4												
5	バドミントン／フライングディスク											
6	バドミントン／フライングディスク											
7	フライングディスク／バドミントン											
8	フライングディスク／バドミントン											
9	フライングディスク／バドミントン											
10	健康科学でのデータ解析の基礎							体力テストの結果の解析および考察を行う。				
11	水泳・水中運動											
12	水泳・水中運動											
13	水泳・水中運動											
14	水泳・水中運動							特になし。				
15	まとめ							授業全体のまとめを行う。		レポートを提出する。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>												
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）						
宿題・授業外レポート		◎				40						
授業態度・授業への参加度					◎	60						
テキスト・参考文献等	実習の内容に応じて、プリントを配布する。											
履修条件	<p>運動のできる服装、体育館シューズ、屋外用のスポーツシューズを用意すること。</p> <p>夏季（11回～14回）には、水泳・水中運動を実施するので、水着と水泳帽子を用意すること。</p>											
学習相談・助言体制	必要に応じて、随時対応する。											

授業科目名	健康科学実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			後期	実習	必修	1	1年		
担当教員	池田孝博・中原雄一								
授業の概要	<p>健康でいきいきとした大学生生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。</p> <p>健康科学実習Ⅱでは、バレーボール、テニス、バスケットボールおよびサッカーなどの、様々なスポーツ種目（球技）を実施し、それらのスポーツ種目の特性および心身の健康に及ぼす影響について理解する。</p> <p>また、対抗戦を実施することで、各スポーツ種目での技術の向上を図るとともに、メンタルヘルスやコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。</p>								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	スポーツ活動への参加による自らの体力の変化を、客観的に評価することができる。							
技能	DP9：健康スキル	(1) 基本的な運動技能やスポーツ活動を実施する上でのマナーを修得し、生涯にわたってスポーツに親しんでいくことができる。 (2) 種々のスポーツ活動への参加によって、人間関係の改善・向上を図ることができる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		授業の概要および成績評価の方法などについて説明する。		特になし。				
2	バレーボール／テニス		実習中心で授業を進める。						
3	バレーボール／テニス								
4	バレーボール／テニス								
5	テニス／バレーボール								
6	テニス／バレーボール								
7	テニス／バレーボール								
8	バスケットボール／サッカー								
9	バスケットボール／サッカー								
10	バスケットボール／サッカー								
11	サッカー／バスケットボール								
12	サッカー／バスケットボール								
13	サッカー／バスケットボール								
14	体力テスト								
15									
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
宿題・授業外レポート		◎				40			
授業態度・授業への参加度					◎	60			
テキスト・参考文献等	実習の内容に応じて、プリントを配布する。								
履修条件	健康科学実習Ⅰを履修していること。 運動のできる服装、体育館シューズ、屋外用のスポーツシューズを用意すること。								
学習相談・助言体制	必要に応じて、随時対応する。								

授業科目名	教養演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	人間社会学部教員・看護学部教員		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	<p>教えられたことを記憶するのとは異なる、主体的に思考し、行動し、判断し、表現する大学教育の基本となる学習法の基礎を学びます。授業は10名程度で行います。自分たちの研究テーマを決め、資料を探し、答えを考え、レポートを作成し、プレゼンテーションを行います。そのプロセスの中で、情報収集や情報の見分け方、レポート作成やプレゼン方法についての知識を学んでいきます。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	<p>妥当な情報に基づいて論理的に考察するための方法を知っている。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>妥当な資料やデータを選び、それに基づいて考察することができる。</p>					
	DP4：表現力	<p>論理的に記述し、発表することができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【授業内容】</b>            1. オリエンテーション            2. 研究テーマの設定            3. 情報収集（図書館ガイダンスを含む）            4. 考察            5. レポートの作成            6. プレゼンテーション            以上の内容を進捗状況に合わせて進めてゆきます。</p> <p><b>【授業方法】</b>            自分たちで研究テーマを考え、自分たちで資料を集め、論理的な展開を考えます。            教員はそのための知識を教え、指導します。            数名のグループごとにレポートを一つ作成し、そのレポートに基づきパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行います。</p> <p><b>【事前・事後学習】</b>            資料の収集、グループの打ち合わせ、レポートやプレゼンテーション資料の作成など、教員の指示に従うほか、スケジュールの進捗具合から自ら判断して行ってください。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業中の課題への参加度		◎				75	
レポートの提出と修正			○			15	
プレゼンテーションの実施			○			10	
テキスト・参考文献等	<p>本学出版「レポートの書き方入門」</p>						
履修条件	<p>なし</p>						
学習相談・助言体制	<p>授業中に積極的に質問し、助言を求めてください。</p>						

授業科目名	不登校・ひきこもり援助論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・小嶋秀幹・四戸智昭・奥村賢一・原田直樹・増満 誠・未定	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について学ぶ。とりわけ県大子どもサポーターとして、学生のボランティア活動における支援のあり方や意義について学び、ボランティアとしての自主性や社会性・公共性、問題意識等を醸成し、将来の不登校・ひきこもりへの援助者としての主体性を高めるために必要な知識を習得することを目標とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	不登校・ひきこもりの子どもたちの課題について知る。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	不登校・ひきこもりの子どもたちへの様々な支援方法について知る。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	不登校・ひきこもりの問題解決に必要な支援について、文章にまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	不登校・ひきこもりの問題解決に向けて、意欲的に取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	総論		講義		松浦賢長・原田直樹		
2	不登校・ひきこもりに関する問題と課題（総論）		講義		原田直樹		
3	不登校・ひきこもりの子どもの心理と関わり方－具体的対応方法について－		講義		原田直樹		
4	AEDを用いた心配蘇生（実技）		講義		松浦賢長		
5	福岡県の不登校・ひきこもりの動向と支援の制度		講義		外部講師		
6	子どもにとっての「遊び」を考える		講義・演習		原田直樹		
7	ボランティア活動ルールとマナー－県大子どもサポーターへの参加について－		講義		原田直樹		
8	不登校解消に向けた校内外連携によるシステムづくり－スクールソーシャルワーカーの役割を中心に－		講義		奥村賢一		
9	不登校の子どもと学校内の居場所づくり－保健室登校を中心に－		講義		未定		
10	遊び・非行の子どもと不登校		講義		外部講師		
11	野外活動を通じた不登校支援		講義		外部講師		
12	不登校・ひきこもりと精神医学		講義		小嶋秀幹		
13	不登校の子どもを抱える家族とその支援		講義		四戸智昭		
14	不登校の子どもから見た、求められる支援のあり方		講義		増満 誠		
15	発達障害の子どもと不登校 不登校の子どもへの様々な支援（フリースクール、15歳以上の子どもへの自立支援）		講義		原田直樹		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
宿題・授業外レポート			○				100
テキスト・参考文献等	不登校・ひきこもりサポートマニュアル，門田光司・松浦賢長編著，少年写真新聞社，2009						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時、不登校・ひきこもりサポートセンターでは随時受け付ける。						

授業科目名	不登校・ひきこもり援助応用演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	4年
担当教員	松浦賢長・小嶋秀幹・江上千代美・奥村賢一・原田直樹・増満 誠・小山憲一郎・梶原由紀子						
授業の概要	不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について学び、県大子どもサポーターとして活動を経験した学生に対して、その活動内容の振り返りと整理、サポーター同士での経験知の共有化を図るとともに、より高度な不登校・ひきこもりへの援助実践力を醸成することを目的とする。学生は自らが目指す進路に合わせた専門的な援助職の視点から経験を振り返り、検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	不登校・ひきこもりの子どもたちの課題について知る。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	不登校・ひきこもりの子どもたちへの他職種の支援方法について知る。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	不登校・ひきこもりの解消に必要な他職種連携による支援について、文章等にまとめることができる。					
	DP4：表現力	不登校・ひきこもりの子どもたちへの支援方法についてわかりやすく報告することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	不登校・ひきこもりの問題解決に向けて、意欲的に取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	はじめに 子供にとって「学習」とは [法的側面・発達の側面]		講義		松浦賢長・原田直樹		
2	学習支援とは何か～必要性～ [学力や生活の実態・支援活動の実際]		講義		原田直樹・梶原由紀子		
3	学習支援の具体的方法① [効果的な学習支援とは]		講義		小山憲一郎		
4	学習支援の具体的方法② [学習を拒む子供への支援]		講義		外部講師		
5	学力低下の要因① [学校・地域環境からの検討]		講義		原田直樹		
6	学力低下の要因② [家庭環境からの検討]		講義		奥村賢一		
7	子供をめぐる様々な問題・課題 [発達障害・非行・経済的困窮・虐待等]		講義		外部講師		
8	学習支援を行う際の配慮 [学習支援における配慮]		講義		原田直樹		
9	専門職視点からの不登校・ひきこもりの援助方法① (学校ソーシャルワーカー)		講義		奥村賢一		
10	専門職視点からの不登校・ひきこもりの援助方法② (養護教諭)		演習		梶原由紀子		
11	専門職視点からの不登校・ひきこもりの援助方法③ (特別支援教育)		講義		原田直樹		
12	専門職視点からの不登校・ひきこもりの援助方法④ (看護師)		演習		江上千代美		
13	専門職視点からの不登校・ひきこもりの援助方法⑤ (臨床心理)		演習		小嶋秀幹		
14	専門職視点からの不登校・ひきこもりの援助方法⑥ (教諭)		演習		増満 誠		
15	まとめ (他職種の援助視点からの経験知の共有化)		演習		原田直樹		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
宿題・授業外レポート			○			60	
受講者の発表（プレゼン）			○			40	
テキスト・参考文献等	適宜指示する。						
履 修 条 件	県大子どもサポーターの活動経験がある者						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時、不登校・ひきこもりサポートセンターでは随時受け付ける。						

授業科目名	子供学習支援論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	1	1年
担当教員	松浦賢長・奥村賢一・原田直樹・小山憲一郎・梶原由紀子						
授業の概要	子供にとっての学習の意義や学力低下の状況、学習支援の具体的方法等について学ぶ。受講にあわせ、実際に子供への学習支援を体験することを前提とし、これにより机上の学びと実践を取り結び、経済的困窮や養育環境等、子供をめぐる社会的環境に潜む問題点や課題点について学ぶ。本講義は、将来の子供を支援する実践者としての主体形成に必要な、問題意識醸成につながる基礎的知識を習得することを目的とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	学習の意義や学力低下の状況、学習支援の具体的方法等を理解する。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	経済的困窮や養育環境等、子供をめぐる社会的環境に潜む問題点や課題点を理解する。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	実際に子供への学習支援を体験することを前提とし、これにより机上の学びと実践を取り結ぶことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	はじめに 子供にとって「学習」とは [法的側面・発達の側面]		講義		松浦賢長・原田直樹		
2	学習支援とは何か～必要性～ [学力や生活の実態・支援活動の実際]		講義		原田直樹・梶原由紀子		
3	学習支援の具体的方法① [効果的な学習支援とは]		講義		小山憲一郎		
4	学習支援の具体的方法② [学習を拒む子供への支援]		講義		外部講師		
5	学力低下の要因① [学校・地域環境からの検討]		講義		原田直樹		
6	学力低下の要因② [家庭環境からの検討]		講義		奥村賢一		
7	子供をめぐる様々な問題・課題 [発達障害・非行・経済的困窮・虐待等]		講義		外部講師		
8	まとめ 学習支援を行う際の配慮 [学習支援における配慮]		講義		原田直樹		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	小テスト・授業内レポート	◎		○		80	
	授業態度・授業への参加度	○		○		20	
テキスト・参考文献等	未定						
履修条件							
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に相談助言を行う。						

授業科目名	プレ・インターンシップ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	石崎龍二・中村晋介・森脇敦史・松岡佐智 他	通年	実習	選択	2	1・2年
授業の概要	医療・福祉施設、企業、教育機関、自治体、NPOなどでの就業体験を通して、働くことの意義について理解を深める。就業体験を通して、多様な価値観を持った社会人と出会い、コミュニケーションの重要性に気づき、自己理解や他者理解を深める。 マイキャリアポケット（社会貢献活動記録帳）を活用した事前・事後学習を行い、体験の振り返りを行うことで、学生自身がさらなる成長を目指した学習計画の立案に取り組む。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	コミュニケーションの重要性に気づき、その向上にむけての自己の課題を把握できる。キャリア形成における自己の課題に気づき、今後の学習計画を立てることができる。					
	DP4：表現力	就業体験を通して働くことの意義について理解し、説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保健・福祉の増進に寄与するために主体的・意欲的に活動することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1) 事前学習（外部講師による講義と個別指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーやコミュニケーションの重要性について学ぶ。</li> <li>・就業体験先の情報をリサーチする方法を学ぶ。</li> <li>・就業体験計画書の作成方法について学び、実際に作成する。</li> </ul> <p>2) 体験期間及び体験先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験期間 長期休業期間中の10日間を原則とする。</li> <li>・体験先 医療・福祉施設、企業、教育機関、自治体、NPO等から希望に応じて体験先を選択する。（体験先は複数可）</li> </ul> <p>3) 事後学習（個別指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験記録をまとめ、就業力を構成する8つの力について自己評価を行う。</li> <li>・体験で気づいた自己の課題に対して、今後の学習計画を立てる。</li> <li>・体験報告会を行う。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
事前学習の参加度				○		25	
体験の参加状況及び体験先からの評価			○	○		50	
事後学習の成果（体験記録、自己評価、今後の学習計画、体験報告会）			◎	○		25	
テキスト・参考文献等	必要な資料等は、その都度配付する。						
履修条件	プレ・インターンシップに参加することにより、「必修科目、選択必修科目、その他卒業、資格・免許取得に関わる科目」の授業や実習、試験が受けられない場合、その補講や追実習、追試験は実施されないのに注意すること。						
学習相談・助言体制	担当教員等が、随時面接をして相談を受け助言する。						

授業科目名	専門職連携入門		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		後期	講義	選択	1	1年
授業の概要	<p>児童虐待、いじめ、ひきこもり、不登校などの子どもに関する課題、障がい者支援、高齢者介護分野での地域包括ケアシステムの構築など様々な領域で専門職連携が求められている。</p> <p>保健・医療・福祉の現場の専門職の活動と相互の連携を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>人間社会学部及び看護学部両学部で養成する様々な専門職種の実践活動と連携の実際を知ることで、他職種への理解を深め、多職種間の連携の重要性を理解するとともに、専門職をめざして学習する動機づけとする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	他職種の専門性と多職種間の連携の必要性について理解している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	専門職業人となることをイメージして、主体的に学習できる。					
	DP6：社会貢献力	問題解決のため他の専門職と連携して仕事に取り組む意欲がある。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		毎回の授業についての小レポート（感想、学んだこと等）を、次の授業で提出する。		
2	人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携①		講義（外部講師）				
3	看護職の実践活動と多職種連携①		講義（外部講師）				
4	人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携②		講義（外部講師）				
5	看護職の実践活動と多職種連携②		講義（外部講師）				
6	人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携③		講義（外部講師）				
7	看護職の実践活動と多職種連携③		講義（外部講師）				
8	まとめとディスカッション		講義・ディスカッション				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業に関する小レポート		○		◎		60	
授業態度・授業への参加度				◎		40	
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しない。参考文献は、適宜、紹介する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制							

授業科目名	社会学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1・2年
担当教員	田代英美						
授業の概要	現代社会の諸相——リスク社会、コミュニケーションの変容、社会変動と社会不安、消費社会のゆくえ、災害と復興など——を社会学の視点から解き明かし、何が問題なのかを考察する。現代社会の特徴や動向に関して理解を深めるとともに、社会学の考え方の基礎を学ぶことを目標とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	現代社会の特徴や問題に関する社会的な論考について基礎知識を修得し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会の問題について、論理的な解説ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	21世紀：リスク社会		講義				
2	リスク社会のなかの日常		講義。後半はリスク社会について小レポート作成。				
3	あなたは何者？私は何者？——社会のなかの個人		講義				
4	集まり、つながり、安定と秩序		講義				
5	現代の社会不安		講義				
6	みんな違う私たち、それでも共に		講義。後半は個人化と公共性について小レポート作成。				
7	情報とコミュニケーション		講義				
8	高齢者の社会関係、若者の社会関係		講義。後半はソーシャル・ネットワークについて小レポート作成。				
9	消費社会と豊かさのゆくえ		講義				
10	地域社会を分析する方法		講義				
11	巨大災害の時代か？		講義				
12	環境変動		講義				
13	中央と地方		講義。後半は地域社会の問題について小レポート作成。				
14	グローバル化とローカル化		講義				
15	ポスト 3.11 の社会		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				40	
宿題・授業外レポート			◎			50	
授業への参加度（資料へのコメントを含む）		◎				10	
補足事項		授業内小レポートのほか、まとめのレポートを提出すること。まとめレポートのテーマは第1回授業のときに説明する。					
テキスト・参考文献等	テキスト：船津衛他編著『21世紀社会とは何か——「現代社会学」入門』恒星社厚生閣、2014。2,300円＋税。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	公共性の社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	田代英美						
授業の概要	社会学は200年近い歴史を有しているが、近年最も大きな注目を集めたのが公共社会学の提唱であった。公共社会学は、さまざまな社会事象の現場に関わっている人々と交流・対話することを通して、合意形成の現状と課題を明らかにするという研究方針に特徴がある。授業の前半は、公共社会学の背景、意図、主要テーマを解説する。後半は、現代の地域社会が抱える具体的な課題をいくつか取り上げて、それらの課題が公共社会学の観点からはどのように分析できるのか、どのような課題解決が見出せるのかを考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公共社会学の特徴と目標、提唱の背景、主要テーマについて理解し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	公共社会学の方法に基づいて地域社会の課題を整理し、解説することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	現場と向き合う公共社会学（本学公共社会学科の紹介を含む）		講義				
2	公共社会学と現代社会（公共社会学はなぜ熱い議論を呼び起こしたのか）		講義				
3	新たな研究・教育モデルとしての公共社会学（公共社会学はなにを目指すのか）		講義				
4	publicの意味（1）（「公共」という概念はどこでなぜ生まれたのか）		講義				
5	publicの意味（2）（「公共」の概念はどのように変化していったのか）		講義				
6	日本における「公共」（1）（日本では「公共」はどのような意味で使われたのか）		講義				
7	日本における「公共」（2）（1990年代以降の公共に関する議論を振り返る）		講義。後半は1～7回について小テストを実施。				
8	現代の地域社会の課題（1）（実際にどのような課題があるのか、討論してみよう）		グループワーク		（事前課題）地域社会の課題について調べる。		
9	現代の地域社会の課題（2）（前回の討論をもとに論点をまとめよう）		グループワーク、発表		（事後課題）グループワークの成果をレポートにまとめる。		
10	公共性研究のケーススタディ（1）環境保全への取り組み		講義		（事前課題）新聞で関連する記事をチェックする。		
11	公共性研究のケーススタディ（2）地域公共交通		講義		（事前課題）新聞で関連する記事をチェックする。		
12	公共性研究のケーススタディ（3）地域格差と地域活性化		講義		（事前課題）新聞で関連する記事をチェックする。		
13	公共性研究のケーススタディ（4）多文化共生		講義		（事前課題）新聞で関連する記事をチェックする。		
14	公共社会学と地域社会・国際共生（グローバルな視点を持つ）		グループワーク		（事後課題）グループワークの成果をレポートにまとめる。		
15	公共社会学の手法を活かすために（まとめ）		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				60	
宿題・授業外レポート			◎			40	
テキスト・参考文献等	テキスト『公共社会学入門（公共性の社会学テキスト）』を配布する。参考文献は適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	社会政策論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	美谷 薫		講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>「社会政策論」の講義では、社会保障や労働政策などが中心的に取り上げられることが一般的ですが、本講義では、学部性格や履修年次を考慮し、「地域社会の課題と政策」について、それらの中心的な担い手の1つである行政の視点から検討していきます。具体的には、日本におけるそれぞれの地域（社会）では、現在、どのようなことが課題となっており、それらを解決するためにどのような取組が進められているのかについて、私たちに一番身近な行政の主体である「市役所」の仕事をキーワードに考察していきます。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方行政（地方自治）の基本的な仕組みや地域（社会）での役割を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	多種多様で数多くの情報を選別・整理し、地域（社会）の課題についての確にとらえることができる。					
	DP4：表現力	地域（社会）の課題の解決に向けた方策について、自らの考えを説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション：講義内容の説明	<p>各回の講義は、概ね①事前学習で整理したニュースなどの内容についての受講生からの報告、②講義で取り上げる地域（社会）の課題に関する説明と受講生による解決策などの考察・発表、③行政の仕組みや具体的な政策についての説明、という流れで進めていきます。テーマによっては、映像資料の活用やグループワークを組み入れたり、オーソドックスな講義の形を採用する場合があります。※受講生の関心や理解度に応じて、取り上げるテーマや順番を組み替える場合があります。</p>			<p>直近の1週間における、地方行政や地域社会に関する新聞やテレビのニュース、ウェブ上の記事などから、各受講生が気になったものを事前にまとめてもらい、発表・提出してもらいます。</p>		
2	地方行政のしくみ（1）：地方自治の歴史						
3	地方行政のしくみ（2）：国と地方の関係、都市制度						
4	地方行政のしくみ（3）：地方自治の担い手（行政、議会、市民・地域・企業）						
5	地域社会を取り巻く環境の変化（1）：都市の進展と都市問題						
6	地域社会を取り巻く環境の変化（2）：農山村の過疎と人口減少社会						
7	地域社会の課題と行政（1）：安全で安心な地域のまちづくり						
8	地域社会の課題と行政（2）：少子高齢化の進展と子育て支援						
9	地域社会の課題と行政（3）：少子高齢化の進展と高齢者福祉						
10	地域社会の課題と行政（4）：グローバルな環境問題						
11	地域社会の課題と行政（5）：地域産業の活性化						
12	地域社会の課題と行政（6）：身近な生活インフラの再構築						
13	地域社会の課題と行政（7）：地域の拠点づくりと公共交通						
14	地域社会の課題と行政（8）：地域の個性づくりと発信						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
宿題・授業外レポート			◎	○		30	
授業態度・授業への参加度			◎	○		20	
補足事項		定期試験については、レポートの形を採用することもあります。					
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜紹介します。</p>						
履 修 条 件	<p>履修条件は特にありませんが、作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご了承ください。予備知識も必要としませんが、日々のニュースに注意を払い、毎回の事前課題や講義中の作業・グループワークなどに積極的に取り組むようにしてください。</p>						
学習相談・助言体制	<p>講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、適宜受け付けます。</p>						

授業科目名	公共性研究C - I (社会保障論I)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 許 棟 翰 (ホ ドンハン)		前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。社会保障の給付は、福祉サービス、医療サービス、金銭の3つに分けられる。日本の社会保障の仕組みは、生活保護と社会保険と社会福祉制度の3つに分けられる。社会保障論Iでは、「生活保護」と「社会福祉制度」について、また社会保険制度からは「医療保険」と「介護保険」について講義する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会保障を理解し、社会保障と社会福祉制度との関係について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	社会保障の概念整理：社会保障の3つの給付と3つの仕組み			テキスト序章を予習			
2	医療保険：医療サービスを保障する仕組み			テキスト第1章を予習			
3	医療保険：被保険者と保険料、保険給付			テキスト第1章を予習			
4	医療保険：診療報酬と薬価基準			テキスト第1章を予習			
5	医療保険：高齢者医療制度			テキスト第1章を予習			
6	医療保険：国民医療費			テキスト第1章を予習			
7	医療保険：医療提供体制			テキスト第1章を予習			
8	生活保護：対象者と財源、給付要件、自立支援			テキスト第2章を予習			
9	社会福祉制度：給付の種類と内容、給付の仕組み			テキスト第2章を予習			
10	社会手当：児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当			テキスト第2章を予習			
11	介護保険：介護サービスを保障する仕組み			テキスト第3章を予習			
12	介護保険：保険者、被保険者と保険料			テキスト第3章を予習			
13	介護保険：保険給付			テキスト第3章を予習			
14	介護保険：介護提供体制			テキスト第3章を予習			
15	介護保険：権利保護			テキスト第3章を予習			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎	◎			50	
	小テスト・授業内レポート	○	◎			30	
	授業態度・授業への参加度	◎	○			20	
テキスト・参考文献等	<p>梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣アルマ。</p>						
履修条件	<p>特になし。</p>						
学習相談・助言体制	<p>オフィスアワーを利用して対応する。</p>						

授業科目名	公共性研究C - II (社会保障論II)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。社会保障の給付は、福祉サービス、医療サービス、金銭の3つに分けられる。日本の社会保障の仕組みは、生活保護と社会保険と社会福祉制度の3つに分けられる。社会保障論IIでは、社会保険制度の「年金」と「雇用保険」、「労働者災害補償保険」について講義する。また民間保険について社会保険と比較しながら説明し、最後には社会保障の歴史と構造を講義する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会保障を理解し、社会保険と民間保険との違いを説明できる。また、雇用保険と労働者災害補償保険について、何をどのような仕組みで給付しているのか、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	年金：所得と補償する絵遠近仕組み、被保険者と保険料			テキスト第4章を予習			
2	年金：老齢年金			テキスト第4章を予習			
3	年金：財政方式			テキスト第4章を予習			
4	年金：障害年金、遺族年金			テキスト第4章を予習			
5	年金：年金の業務体制、企業年金			テキスト第4章を予習			
6	雇用保険：失業した場合に所得を保障する仕組み			テキスト第5章を予習			
7	雇用保険：被保険者と保険料			テキスト第5章を予習			
8	雇用保険：保険給付、雇用保険事業			テキスト第5章を予習			
9	労働者災害補償保険：業務上の事故について補償する仕組み			テキスト第6章を予習			
10	労働者災害補償保険：適用事業と保険料、業務上または通勤による災害の認定			テキスト第6章を予習			
11	労働者災害補償保険：保険給付、社会復帰促進等事業			テキスト第6章を予習			
12	社会保険と民間保険：保険の仕組み、社会保険と民間保険の違い			テキスト第7章を予習			
13	社会保険と民間保険：民間保険の種類と働き			テキスト第7章を予習			
14	社会保障の歴史：世界の社会保障、日本の社会保障の歩み			テキスト第8章を予習			
15	社会保障の構造：社会保障の機能、財政、現在の課題と今後の展望			テキスト第8章を予習			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
		◎	◎			50	
		○	◎			30	
		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	梶野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣アルマ。						
履 修 条 件	公共性研究C - I（社会保障論I）を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	社会学の分析法A (ミクロ理論)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 三 隅 讓 二		後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	マクロ理論が様々な社会現象を構造や制度など全体的な展望の中で解明しようとするアプローチであるとする、社会学のミクロ理論とは、社会現象を諸個人の対話や議論、意味付けや意味の解釈など社会心理学的な角度から解明するというアプローチであるといえ、しばしば社会学的社会心理学などと呼ばれることもある。具体的には、バーガーやルックマンが始めた現象学的社会学やミードやブルーマーなどによる象徴的相互作用論やエスノメソドロジーについての論点や研究について見ていくことになる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	理論と人の名前等々をその意味とともに理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理論を具体的な社会現象にあてはめ、説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	うわさとはどういうコミュニケーション現象であるか？						
2	社会的意味論（プロップの昔話の構造論とうわさ）		講義		鏡に映った自我、Iとme		
3	現象学的社会学とは？人生論とうわさ		講義		生活世界の特徴		
4	当事者研究の研究		講義		当事者研究、浦河べてるの家の教訓		
5	ゴフマンとスティグマ		講義		スティグマ、ステレオタイプ		
6	社会的意味論 自己呈示と劇場：ゴフマンとパーク		講義		印象操作、自己呈示		
7	社会的意味論 フレームと行為：ゴフマン		講義		フレーム、転調、転換		
8	コミュニケーション的行為の理論		講義		類型的語彙		
9	現代と自我 現代と自分探し：レイン他		講義		アイデンティティークライシス		
10	現代と自我 癒しとしての物語		講義		ナラトロジー		
11	現代と自我 物語の希薄化と孤独な群衆：リオータル他		講義		大きな物語、他者志向		
12	消費社会と自我 物語としての噂とゴシップ		講義		曖昧さと異例		
13	消費社会と自我 消費による自己確認：ボードリヤール他		講義		誇示的消費、欲求と欲望		
14	消費社会と自我 生活世界の植民地化：ハバーマス他		講義		鉄の檻と意味喪失		
15	全体の復習とチェック						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	○			40	
小テスト・授業内レポート		○	○			40	
授業態度・授業への参加度		○				20	
補足事項	授業態度、講義中に実施する小テストとテストの点数などで評価する。場合によってはレポートを課すこともある。						
テキスト・参考文献等	講義中にプリントを配布、参考文献はプリントと講義中に適宜指示する。						
履 修 条 件	10回以上の出席・講義中の質問に応答すること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応。						

授業科目名	社会学の分析法B (集団・組織論)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 三 隅 讓 二		前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	(1) 近代組織とくに行政組織と企業組織についての特徴を整理してきた社会学、小集団理論、組織論等における理論や概念について実例を通して学んでいく。 (2) 講義の後半では、ハバーマスを中心にとりあげ、システムとしての近代組織がコミュニケーションからなる生活世界の中から出現し、どのような得失を我々の社会にもたらしているのか、などについて考えていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	組織集団論の基礎概念を習得し、集団の一般性質について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	近代組織と全体社会との関係を説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	社会集団・組織とはなにか？公共性とはなにか？				組織集団の一般的性質		
2	ジンメルと社会化の形式としての小集団概念		講義		集団論の基礎概念		
3	テンニースとゲマインシャフトとゲゼルシャフト		講義		同上		
4	フォーマル組織（1）：ウェーバーと目的合理性		講義		官僚制組織の理解		
5	フォーマル組織（2）：科学的管理法から小集団研究へ		講義		モチベーション		
6	フォーマル組織（3）：バーナードと組織内コミュニケーション		講義		公式権限から権限受容		
7	フォーマル組織（4）：小集団研究とリーダーシップ		講義		特性論と行動論		
8	マイクロ・マクロ問題：ゲオルク・ジンメルの橋と扉		講義		メディアと組織化		
9	個人と組織（1）：スモールワールド現象、組織化の特徴		講義		組織化についての社会心理学の知見について		
10	諸個人と組織（2）：インターネットと社会運動		講義				
11	コミュニケーションから社会をとらえる：ハバーマス（1）		講義		全体社会から組織をみる		
12	法・貨幣・権力メディアとシステム：ハバーマス（2）		講義		同上		
13	官僚制の弊害と生活世界とシステム：ハバーマス（3）		講義		近代組織の限界を考える		
14	情報公開と行政組織と企業集団：ハバーマス（4）		講義		同上		
15	これまでのまとめとチェック				質疑応答とテスト		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	○			40	
小テスト・授業内レポート		○	○			40	
授業態度・授業への参加度		○				20	
補足事項	授業態度、講義中に実施する小テストとテストの点数などで評価する。場合によってはレポートを課すこともある。小テスト以外に、リアクションペーパーを節目に配付する予定。						
テキスト・参考文献等	講義中にプリントを配布、参考文献はプリントと講義中に適宜指示する。						
履 修 条 件	10回以上の出席・講義中の質問に回答すること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応。						

授業科目名	社会学の分析法C (マクロ理論)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	マクロレベルでの政治/経済理論である「新自由主義/ネオ＝リベラリズム」の内容を解説するとともに、この理論が1990年代以降、各国の政治にどう反映され、どのような影響を与えていったかを検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	新自由主義/ネオ＝リベラリズムの発想と、そのメリット、デメリットについて知識を習得する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	新自由主義とどう向かい合うかについて、論理的に思考した上で、自分なりの見解を形成する。					
授業計画（授業内容/方法/事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション		それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）に基づいて講義します。適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進めます。		講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジメを適宜配布する。  受講生はレジメとテキストの該当箇所（各回の講義内で指示）を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。  日々、新聞の社会面を読むこと、あるいは政治・経済に関するニュースを見ることを強く勧める。		
2	ゼロ年代の日本①——格差の拡大						
3	ゼロ年代の日本②——福祉・教育の切り捨て						
4	ゼロ年代の日本③——「反＝若者論」の台頭						
5	新自由主義のレトリック①——ハイエク、フリードマンの発想						
6	新自由主義のレトリック②——日本への導入						
7	新自由主義のレトリック③——日本での広まり						
8	新自由主義の理想と現実①——欧米各国の受容						
9	新自由主義の理想と現実②——欧米各国の拒絶						
10	新自由主義の理想と現実③——ゼロ年代後半の日本						
11	新自由主義の理想と現実④——代替策への模索						
12	新自由主義の復活——日本と世界						
13	新自由主義とどう向き合うか①——新自由主義の人間観・社会観・経済観						
14	新自由主義とどう向き合うか②——「自己責任」論の問題点						
15	新自由主義とどう向き合うか③——欧米諸国の現状						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			75	
小テスト・授業内レポート		○	○			10	
授業態度・授業への参加度		○				15	
補足事項		期末試験：レポート					
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中に紹介します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。						

授業科目名	現代社会論A (ジェンダー・世代)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	中村晋介	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	①伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程の分析、②世代間による文化や規範意識のギャップについての分析など、社会学におけるジェンダー論、世代論に関係する分野から具体的なトピックを適宜取り上げて紹介する。これを通して「社会的なものの方や考え方」を習得させ、3年次以降の専門教育に向けての土台作りをする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	世代間ギャップやジェンダー・バイアスが再生産されていく過程についての知識を修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション——本講義の位置づけ		講義内容の概説		<p>講義期間中に、講義に関係した課題（学生自身の体験に関する報告、学生自身が考える問題解決策、講義担当者が提示した解決策に対する意見・批評）を求め、後日提出させることがある。</p> <p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はこれを用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p>		
2	「男女共同参画社会」の虚実①——日本における男女格差		「男女共同参画」「ジェンダー・フリー」概念の成り立ちと、さまざまな立場からの見解を提示するとともに、受講生に自らの立場や見解の確立をうながす。				
3	「男女共同参画社会」の虚実②——「ジェンダー」とは何か						
4	「男女共同参画社会」の虚実③——男女格差と「装置」						
5	「男女共同参画社会」の虚実④——「装置」との戦い・諸国の対応						
6	「男女共同参画社会」の虚実⑤——「装置」との戦い・日本の対応						
7	「男女共同参画社会」の虚実⑥——「バックラッシュ」現象						
8	「男女共同参画社会」の虚実⑦——男女間の公共性						
9	世代をめぐる物語①——戦後日本に存在してきた「世代」						
10	世代をめぐる物語②——「焼け跡世代」「団塊の世代」						
11	世代をめぐる物語③——「学生運動」の季節						
12	世代をめぐる物語④——「新人類世代／団塊ジュニア世代」						
13	世代をめぐる物語⑤——「新・新人類」の登場						
14	世代をめぐる物語⑥——ゼロ年代以降の若者たち						
15	世代をめぐる物語⑦——「反＝若者論」との対峙						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎				80
授業態度・授業への参加度			○				20
補足事項		期末試験：レポート					
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中に紹介する。						
履修条件	初回の講義で受講上の注意を詳しく述べるので、可能な限り出席すること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーでも質問や意見を受け付けるが、事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応する。						

授業科目名	現代社会論C (情報社会と法)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	森 脇 敦 史	後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	現代が情報化社会と言われて久しいが、特に近年では、インターネットの発達を契機として、情報が持つインパクトが巨大化している。社会に流通する情報の量は爆発的に増大し、技術革新による情報媒体の変化は、社会・経済秩序の構造そのものに大きな影響を与えている。本講義では、社会の情報化によって生じる法の変化および、法によって変化する情報社会のあり方を検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	情報社会の進展と、法の変化との相互作用について理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス……メディアの現状、表現の自由概論		講義		テキストの該当部分（授業で指示します）を読んでおくこと。		
2	メディア法①……取材活動の自由		講義				
3	メディア法②……名誉毀損		講義				
4	メディア法③……ヘイトスピーチ		講義				
5	メディア法④……プライバシー		講義				
6	メディア法⑤……わいせつ、児童ポルノ、青少年保護条例		講義、				
7	メディア法⑥……放送制度		講義				
8	個人情報保護①……個人情報保護法制の全体像、「個人情報」		講義				
9	個人情報保護②……「個人データ」		講義				
10	個人情報保護③……「保有個人データ」、「匿名加工情報」		講義				
11	情報公開①……情報公開制度の必要性、開示対象と手続		講義				
12	情報公開②……不開示情報		講義				
13	インターネットと法①……インターネット上の権利侵害		講義				
14	インターネットと法②……プロバイダー、検索エンジンの責任		講義				
15	著作権		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法』ミネルヴァ書房（2011年）						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						

授業科目名	家族社会学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	倉 富 史 枝						
授業の概要	<p>社会の近代化とともに家族もまた形態、機能、関係が変化し、近代家族が生まれました。このような家族変動がありながらも、家族が個人にとっては、あまりにも身近で情緒的な存在であるために科学的に分析することが困難なテーマとなっています。授業では、このような困難を乗り越えて社会学的視点で家族を分析しながら、特に家族社会学の基礎知識を理解していきます。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>社会学の家族研究における基礎的な理論を説明することができる。 家族社会学の基礎的用語である核家族、家制度、近代家族、性別役割分業などを社会構造の問題として理解する。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>私的な領域で起こる家族の問題を社会構造の問題として捉える社会学的視点を獲得する。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	はじめに		講義				
2	家族危機論とは何か		講義		家族の多様化		
3	日本の近代と家族		講義		近代家族		
4	「家」制度と日本の婚姻制度		講義		イエ制度		
5	市場と家事の誕生		講義		再生産労働		
6	配偶者選択と結婚		講義		デート		
7	デートDV		ビデオとレポート		デートDV		
8	性別役割分業		講義		近代化		
9	女性労働と企業社会		講義		GGI		
10	近代家族と夫婦関係		講義		直系家族		
11	核家族とは		講義		夫婦家族		
12	社会学から見た親子関係		講義		擬制家族		
13	子どもの社会化と夫婦関係		講義		子どもの幸福度		
14	「家」制度の残滓とこれからの家族		ビデオとレポート		家父長制		
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度		○				20	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：新版「家族社会学 - 基礎と応用 -」木下謙治他編著 九州大学出版会 2008年 参考文献：「21世紀家族へ（第3版）家族の戦後体制の見かた・超え方」落合恵美子 有斐閣 2004年</p>						
履 修 条 件	授業に積極的に参加すること。						
学習相談・助言体制	個別の学習相談は授業終了後に受け付けます。回答に時間を要する内容については翌週返答します。						

授業科目名	家族社会学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	倉 富 史 枝						
授業の概要	<p>社会の近代化とともに家族もまた形態、機能、関係が変化し、近代家族が生まれました。このような家族変動がありながらも、家族が個人にとっては、あまりにも身近で情緒的な存在であるために科学的に分析することが困難なテーマとなっています。授業では、このような困難を乗り越えて社会学的視点で家族を分析しながら、今後の家族のあり方を考えていきます。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	現代家族の状況をあらわす用語である少子高齢化、晩婚化、ジェンダー、DVなどを社会構造の問題として理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会学の家族研究における現代的な課題について意見を述べるができる。私的な領域で起こる家族の問題を社会構造の問題として捉える社会学的視点を獲得する。社会学の家族研究における基礎的な理論を説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	はじめに 前期の学習を振り返って		講義				
2	現代の家族問題		講義		個人化する家族		
3	家族の多様化		講義		脱近代家族		
4	多様化する家族の構造		講義		小家族化		
5	合計特殊出生率と女性の労働力率		講義		両立支援		
6	国の少子化対策		講義		次世代育成対策		
7	求められる子育て支援		ビデオ視聴とレポート		男性の子育て		
8	家族の勢力関係とジェンダー		講義		権威・権力・勢力		
9	近代化家族の構造的病理		講義		近代家族の暴力性		
10	ドメスティック・バイオレンスとは		講義		DV		
11	児童虐待		講義		ケアリング		
12	高齢者介護をめぐる問題		講義		ケア役割		
13	新しい男性の創造		ビデオとレポート		性別役割分担意識の解消		
14	男女共同参画社会が目指すもの		講義		ワークライフバランス		
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度		○				20	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：新版「家族社会学 - 基礎と応用 -」木下謙治他編著 九州大学出版会 2008年            参考文献：「21世紀家族へ（第3版）家族の戦後体制の見かた・超え方」落合恵美子 有斐閣 2004年</p>						
履 修 条 件	授業に積極的に参加すること。						
学習相談・助言体制	個別の学習相談は授業終了後に受け付けます。回答に時間を要する内容については翌週返答します。						

授業科目名	福祉社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	倉 富 史 枝						
授業の概要	福祉社会において社会政策がどのような考え方に基づいて策定・実施されるべきなのかを社会学の枠組みで考えていきます。近代化と社会福祉の関係を考察するために、家族機能の変化、性別役割分業化、官僚制と専門主義など基礎知識を学びます。また、次世代育成対策推進、ワークライフバランス、ドメスティックバイオレンスなど新しい事象を取り上げ、その現状と法制化などの社会政策上の問題を考えていきます。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	個人と社会の相互作用を見据える社会的視点を獲得しながら、近代化によって生じた社会問題を解決するために社会福祉があることを理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会における社会福祉の課題を確認し、今後の解決につなぐ社会政策のあり方に意見を述べるができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	はじめに		講義				
2	男女共同参画の視点で考える社会福祉		講義		日本型福祉		
3	近代化に伴う無償労働と有償労働の分離		講義		再生産労働		
4	母性イデオロギーがもたらす社会政策における問題		講義		母性愛神話		
5	新たな子育ての理念に基づく子育ての社会化		ビデオ視聴とレポート		子育て支援策		
6	ケアの規範		講義		ケア		
7	ケア役割の発展的解消		講義		男性介護者		
8	ひとり親家庭の現状		ビデオ視聴とレポート		女性の貧困		
9	社会保障とジェンダー①		講義		世帯単位の社会保障		
10	社会保障とジェンダー②		講義		稼得役割とケア役割		
11	雇用機会均等と家族的責任		講義		男女共同参画社会		
12	人身売買・児童労働		ビデオ視聴とレポート		人身取引		
13	官僚制・専門主義と市民社会		講義		官僚		
14	対人援助におけるエンパワメント		講義		エンパワメント		
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎	○			20	
授業態度・授業への参加度		○				20	
テキスト・参考文献等	参考文献：「ジェンダーで読む 21 世紀の福祉政策」 杉本貴代栄著 有斐閣選書						
履 修 条 件	授業に積極的に参加すること						
学習相談・助言体制	個別の学習相談は授業終了後に受付けます。回答に時間を要する内容については翌週返答します。						

授業科目名	社会病理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	<p>本講義では、社会問題や犯罪・非行・差別現象等を読み解く上で有用な「社会学的なもの見方」を学ぶ。「私たち」の社会問題や犯罪・非行・差別現象への解釈は、「私たち」の価値観や社会規範のあり方に大きく影響されがちである。その際に「私たち」が寄って立つ価値観や社会規範は、はたして「正しい」と言えるのだろうか。</p> <p>社会学の最も重要な役割とは、日常において「あたりまえ」「当然のもの」と見えている事象について常に疑い、批判的に捉えなおすことにある。そうした「社会学的なもの見方」を通して様々な社会現象を捉え返したならば、これまでとは全く異なった様相の「現実」が見えてくるかもしれない。社会問題や犯罪・非行・差別現象について、決まりきった、無批判的な物事の捉え方によらず、現実そのものを自らの目で捉え直せる－受講生のみなさんにとって、この講義がそのような力をつけるきっかけになればと思う。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会病理学に関する基礎的な知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会問題や犯罪・非行・差別現象等を批判的な視点から理解し、説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		<p>講義で多くふれられない事項については、資料を配布する。次回までに通読しておくこと。紹介する参考文献も手に取って見てほしい。授業時間外の学習で担当教員が最も期待しているのは、講義で学んだことについて、ポーッと思いにふけったり、お茶を飲みながら友達と話をすることである。学習効果が飛躍的に高まる。</p>				
2	「健康な」社会と「病める」社会？						
3	排除する社会、包摂する社会						
4	激動のシカゴ						
5	犯罪・非行の地域的顕在						
6	もの見方としての「逸脱」						
7	逸脱は学習される～マリファナ使用者						
8	企業活動と逸脱						
9	逸脱と社会構造～拝金主義						
10	つながりの欠如が逸脱をもたらす～少年非行、いじめ						
11	「レッテル貼り」が逸脱をもたらす～冤罪						
12	社会問題はつくられる						
13	「ニート問題」への社会学的検討						
14	まとめと課題						
15	課題解説とまとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			70	
宿題・授業外レポート		○	○			30	
補足事項	中間課題（30%）・学期末の課題（60%）・授業内課題（10%）により、社会問題・犯罪・非行・差別現象に関する基礎理論、講義で取りあげた事象への理解度をみる。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。</p> <p>参考文献：①仲村祥一編『社会病理学を学ぶ人のために』世界思想社1986年。②ハワード・S・ベッカー『完訳アウトサイダーズ』現代人文社2011年。③岡邊健編『犯罪・非行の社会学－常識をとらえなおす視座』有斐閣2014年。④平川克美『株式会社という病』文藝春秋2011年。他、講義中に指示する。</p>						
履修条件	講義に積極的に参加することが重要である。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してほしい。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。						

授業科目名	公共人類学A（医療）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	藤山正二郎	前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	公共人類学は現代世界の公共領域における実践的課題を考える分野である。日本でも、医療や健康への関心は高く、問題も多い。問題解決に向けて、近代医学以前の伝統的医療と再生医療など先端医療との対比、異文化での医療など言及する。慢性病の時代になり、近代医学はその限界を見せている。医療人類学は文化によって病気や治療法、また身体観が違うことに注目している。漢方、インドのアーユルヴェーダ、イスラム医学などを、近代医学を補完できる医療として紹介し、より良い医療の視点を提示する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	時代、文化によって病院、医者、薬、健康食品は多様である。それらを自分の健康のため、どのように考えるべきかその方法を知ることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	医療を受身に考えるのではなく、自分の身体との対話の中で自分にとって医療とは何かを理解する方法を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	医療人類学の領域と方法		人類学の方法は経験的理解を基本とし、その理解を深めるため映像を伴う授業をする。自ら調査したウイグル医学を含め中医学、インド医学など異文化の医療を述べる		医療人類学の自分のイメージをまとめる。		
2	健康観の変遷				社会に流布している健康観を問い直す中で、自分が持っている健康の考え方を検討してみる。		
3	健康の現代的意味				近代西欧医学以外の医療体系についての知識をまとめる。		
4	医療は進歩するか：再生医療						
5	多様な医療体系：漢方－中医学						
6	多様な医療体系：イスラム医学－ウイグル医学						
7	多様な医療体系：インド医学－アーユルヴェーダ				講義ノートとプリントから出題		
8	まとめとレポート		まとめとレポート		講義ノートとプリントから出題		
9	病気と治療の文化的意味		米国で作られたPTSDの概念が日本にも移入され、大規模災害、事故、学校などで使用されている。それを含めて先端医療の問題点について討論。		病気は単に生物学的疾患ではなくは意味と物語があることを理解する。		
10	シャーマンと治療				マスコミで報じられる医療についての問題点をまとめる。		
11	病いの物語と世界観						
12	PTSDの医療人類学						
13	PTSDの歴史						
14	医療人類学ができること		まとめとレポート		講義ノートとプリントから出題		
15	まとめとレポート		まとめとレポート		講義ノートとプリントから出題		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			30	
テキスト・参考文献等	参考文献：①野村一夫他「健康ブームを読み解く」青弓社、2003 ②柄本三代子「健康の語られ方」青弓社、2002 ③アラン・ヤング「PTSDの医療人類学」みすず書房、2001、その他講義中に紹介。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	ホームページ、ブログで講義に必要なデータなどを掲載する。blog.livedoor.jp/hotan jazz23/ メールでの質問意見、直接もしくは講義中に回答。urhotan2323@yahoo.co.jp						

授業科目名	社会変動と社会問題		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	<p>本講義では、「ホームレス問題」の歴史と現在を、社会学の視点から多面的に学ぶ。ホームレス問題は、日本の「社会体制の病理」の縮図と言っても過言ではない。日本社会にホームレス状態を強いられる人々が多数いるという事実は、私たちの日常生活の成り立ちと深く関係している。川の向こう岸に見えるものを一方的に「病理」と捉え、貶みのまなごしを向けている、もしくは無関心でいる私たちこそが、日常生活に潜む、川の向こう岸と同根の「病理」に蝕まれ、それに無自覚なまま「終わりの始まり」を生きているのかもしれない。</p> <p>講義では一見個人的なものに見える「病理」の社会性について学ぶことを通して、受講生自身が自らの日常生活を捉え直し、現代日本社会の特徴と課題を明らかにできるようにする。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会学の知識をふまえ、現代の社会問題を日本社会の構造変動と関連づけて理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	ホームレス問題の現在について、歴史・空間的な視点をふまえ自らの意見を形成し、問題解決への視点を提示することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス			<p>講義で多くふれられない事項については、資料を配布する。次回までに通読しておくこと。紹介する参考文献も手に取ってほしい。授業時間外の学習で担当教員が最も期待しているのは、講義で学んだことについて、ポーッと思いにふけったり、お茶を飲みながら友達と話をすることである。学習効果が飛躍的に高まる。</p>			
2	「ホームレス」の社会問題化／野宿生活の諸相						
3	非正規雇用の拡大と「ホームレス問題」						
4	野宿への足跡を辿る						
5	「寄せ場」とは何か						
6	なぜ都市に寄せ場があるのか						
7	「正当化」される野宿者差別						
8	野宿生活は「社会生活の拒否」か						
9	ジェンダーと「ホームレス問題」						
10	「見えないホームレス」とは誰か						
11	家族規範とホームレス						
12	「ホームレス支援」の現在						
13	地方都市における「ホームレス支援」						
14	「ホームレス支援」から現代社会を考える						
15	まとめと課題						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート			○			40	
宿題・授業外レポート		◎	◎			60	
補足事項	中間課題（40％）・最後の講義で課す課題（60％）。講義内容の理解度と、問題意識の明確さに注目し評価する。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。</p> <p>参考文献：①青木秀男編『ホームレス・スタディーズ』ミネルヴァ書房 2010年。②原口剛他『釜ヶ崎のススメ』洛北出版 2011年。③岩田正美『社会的排除』有斐閣 2009年。④雨宮処凛『生きさせろ！難民化する若者たち』筑摩書房 2010年。⑤市村弘正・杉田敦『社会の喪失—現代日本をめぐる対話』中央公論新社 2005年。⑥中野敏男『大塚久雄と丸山眞男』青土社 2001年。他、講義中に指示する。</p>						
履 修 条 件	講義に積極的に参加することが重要である。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してほしい。						

授業科目名	公共人類学B (教育)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	翁 文 静	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>本講義では公共人類学と呼ばれる研究領域の動向を取り上げる。公共人類学とは、どのような目的のもとにどのような研究実践を展開しようとしているのか、その具体的内容や展望について検討していく。公共といわれるような場はさまざまにあるが、本講義では主に教育に焦点を当てる。教育というと、日本社会では、学校教育の存在感が大きいが、この授業では、広く人間の成長・発達を目指して行われる働きかけと理解し、さまざまな社会における文化伝達のプロセスに注目する。こうした視点から、教育について考え、意見交換をすることで、教育という営みを再考し、現代社会における教育の役割や新たなあり方についても想像することを目指す。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育を文化との関係で理解するための概念や視点持つことができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	様々な国々における教育の理念、実践、問題について、社会的背景との関連性から説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、イントロダクションと公共人類学概説</li> <li>2、公共人類学の構築</li> <li>3、応答する人類学</li> <li>4、生殖医療</li> <li>5、出産の過去、現在、未来</li> <li>6、誕生の儀礼と産後の養生</li> <li>7、前半のまとめ</li> <li>8、家庭教育</li> <li>9、学校教育</li> <li>10、諸外国と学校教育</li> <li>11、障害者</li> <li>12、難民</li> <li>13、高齢者</li> <li>14、葬儀</li> <li>15、全体の補足とまとめ</li> </ol>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
授業態度・授業への参加度		◎	○			40	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			60	
テキスト・参考文献等	参考文献：①山下晋司『公共人類学』東京大学出版会、2014 ②寺下明『教育原理』ミネルヴァ書房、2005、③『アジアの出産リプロダクションからみる文化と社会』勉誠出版、2009 ④綾部恒雄『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2010						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールでの質問への回答。						

授業科目名	労働経済論 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	労働経済学の基礎を「労働需要」と「労働供給」、「失業問題」の3つに分けて講義する。「労働需要」では、与えられた条件のもとで「何人雇えばいいのか」という、企業にとっての最適雇用の決定メカニズムを中心に検討する。「労働供給」では、「働くか働かないか」、「働くとしたらどのくらい働くか」といった個人・家計の最適就業決定メカニズムについて検討し、満足の高い働き方を考える。「失業問題」では、失業の発生メカニズム、その類型と政策対応のあり方について検証する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	労働経済学の諸理論を労働需要側と労働供給側から検討し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日本の労働問題や失業構造を理解したうえ、その対応策を提案できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	労働経済論の紹介：労働サービスの価値と教育の効果			テキスト第1章を予習			
2	技術進歩と雇用との関係：経済発展と産業構造の変化			テキスト第1・3・4章を予習			
3	労働投入量の決定方式：利潤極大化原理、生産量の決定と労働投入量の決定			テキスト第2章を予習			
4	労働市場における独占：完全競争との比較			テキスト第2章を予習			
5	雇用量の決定：費用極小化原理による資本投入量と労働の量			テキスト第2章を予習			
6	労働需要の賃金弾力性：資本蓄積と長期の労働需要の変化、ヒックス・マーシャルの派生需要の法則			テキスト第4章を予			
7	雇用促進政策の効果：代替効果と規模効果、雇用政策と労働需要			テキスト第8・9章を予習			
8	少子・高齢化と労働供給：労働時間と余暇時間の配分			テキスト第3章を予習			
9	最適労働供給時間の選択：雇用極大化原理による労働供給側の行動			テキスト第2・3章を予習			
10	賃金上昇と労働供給：代替効果から所得効果へ、安定的労働市場と不安的な労働市場			テキスト第2・3章を予習			
11	家計の労働供給メカニズム：留保賃金率、余暇と所得に対するニーズ			テキスト第8章を予習			
12	失業の発生メカニズム：失業の原因と種類			テキスト第7章を予習			
13	日本の失業構造：失業の国際比較、地域別の特徴			テキスト第3・7章を予習			
14	失業率指標の再評価：失業者の定義、失業データの国際比較			テキスト第7章を予習			
15	失業と景気との関係：オークン係数			テキスト第7章を予習			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	太田聡一・橘木俊詔『労働経済学入門』有斐閣。						
履 修 条 件	特にないが、経済学A・Bを履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	労働経済論 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	「労働経済論 A」に学んだ労働経済学の理論・仮説を使って、現実の労働市場で起きている様々な労働問題を検討する。例えば、高齢社会への進展など人口構造の変化、人々のライフスタイルや消費パターンの変化、そしてそれらの影響を受けた産業構造や経済構造の変容、働き方の多様化など、外部環境が変化するなか、人々の仕事や暮らしはどのように変わるのだろうか。本講義では、労働環境の変化のなか、満足の高い働き方や生き方を模索する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	環境変化による働き方の変容を診断し、今後の雇用形態が展望できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	労働環境の変化に対応した企業の人事諸制度、また国の政策が提案できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	大学教育の経済合理性を考える			テキスト第5章を予習			
2	人的資本論（Human Capital）と統計的差別理論（Statistical Discrimination）			テキスト第5章を予習			
3	人的資本論（Human Capital）とエイジェンシー理論（Cheating Hypothesis）：技能養成と定年			テキスト第5章を予習			
4	ライフスタイルの変化と働き方の変容			テキスト第3章を予習			
5	結婚・出産の経済合理性：家計の生産関数と人々の効用関数			テキスト第6・8章を予習			
6	就業・転職・引退時期の意思決定：賃金所得と年金、余暇時間に対する効用			テキスト第3・6章を予習			
7	所得格差と不平等度指数：ジニ係数、所得分配の平等・不平等			テキスト第4章を予習			
8	男女間賃金格差の原因分析：差別的格差・正当な格差			テキスト第4・8章を予習			
9	理論検討：人的資本論、内部労働市場論、統計的差別理論、クラウディング仮説、コンパラブル・ワース			テキスト第4・5・8章を予習			
10	企業間賃金格差の波及効果：労働移動の可能性、所得再分配機能			テキスト第4章を予習			
11	賃金決定メカニズム：補償賃金仮説とヘドニック賃金、逆選択仮説			テキスト第4章を予習			
12	学歴間賃金格差とその波及効果：進学の意味決定と価額シグナルの役割			テキスト第4・5章を予習			
13	年功賃金について：年齢・賃金プロファイルの国際比較			テキスト第3・4章を予習			
14	終身雇用について：将来の不確実性と雇用期間、リスク・プレミアム			テキスト第3・6・7章を予習			
15	雇用契約パターン：労働供給側と労働需要側の分析			テキスト第2・3章を予習			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	太田聡一・橘木俊詔『労働経済学入門』有斐閣。						
履 修 条 件	特にないが、労働経済論Aと経済学A・Bを履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	CSR（企業の社会的責任）論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小谷典子		前期集中	講義	選択	2
授業の概要	CSR（企業の社会的責任）や社会貢献の視点から、現代社会における企業のあり方を、企業活動の現状を踏まえながら把握し、官民の協働による新しい公共の可能性について考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会的事象の現状と課題の多様性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	CSR とは何か		講義		CSR		
2	日本の近代化と企業の社会的責任		講義		日本の企業家		
3	日本の企業家のフィランソロピー		講義		日本の企業家		
4	現代企業の行動憲章		講義		経団連の企業行動憲章		
5	企業市民性		講義		企業市民性		
6	ダイバーシティ経営		講義		ダイバーシティ		
7	社是・社訓と企業の経営倫理		講義		企業のミッション		
8	企業の社会貢献活動 その1		講義		持続可能な地球環境		
9	環境 NPO 活動の支援		講義		環境 NPO		
10	企業の社会貢献活動 その2		講義		新しい文化の創造		
11	企業メセナと現代アートのまちづくり		講義		企業メセナ		
12	地方都市における企業の社会貢献活動		講義		山口県企業の CSR		
13	企業メセナと地域メセナ		講義		地域メセナ		
14	企業と市民活動団体の連携		講義		CSR の実践		
15	CSR の現代的課題		講義		企業組織と公共性		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
小テスト・授業内レポート			◎				40
宿題・授業外レポート			○	◎			30
授業態度・授業への参加度			○				30
テキスト・参考文献等	三浦典子『企業の社会貢献と現代アートのまちづくり』溪水社、2010年、 三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年						
履修条件							
学習相談・助言体制	学習相談は、最終時間終了後に、質問は小レポートで受け、次の日の授業で回答する。						

授業科目名	社会心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	上野行良		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	社会心理学とは、自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学である。この講義では社会心理学の主要なテーマを紹介する。本講義は、テキストを読むことを中心とした授業を行う。社会心理学のテキストを共に読み、内容について話し合い、わからないところを明確にする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	他者及び自己に対する意識と対人行動についての知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	対人意識や対人行動の問題について主体的に考えることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1～5.ステレオタイプ</li> <li>6.基本的な帰属の誤り</li> <li>7.中心ルート・周辺ルート</li> <li>8.まとめてみようⅠ（ステレオタイプ）</li> <li>9.社会的抑制と社会的促進</li> <li>10.傍観者効果</li> <li>11.少数の影響</li> <li>12.制度規範</li> <li>13.集団極性化現象</li> <li>14.集団思考</li> <li>15.まとめてみようⅡ（中心ルートと集団）</li> </ol> <p><b>【授業方法と事前・事後学習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①配布されるテキストを輪読する</li> <li>②わからない点や詳しく知りたい点等を各自でピックアップする</li> <li>③概説講義</li> <li>④グループで話し合い、教員に対する質問をまとめる</li> <li>⑤代表者が前に出て、教員に質問をし、教員が回答する。</li> <li>⑥与えられたテーマでコメントを書く</li> </ol> <p>「まとめてみよう」は、テーマにそってそれまでの授業の知識を各自でまとめる作業をします。事前に課題内容を説明しますので、準備をして来てください。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	質問の作成とグループ討論	◎		◎		35	
	コメント	◎				30	
	まとめてみよう	◎				35	
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について10～20問程度を選んで授業中に回答します。						

授業科目名	人格心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	吉岡和子						
授業の概要	<p>1. 人のパーソナリティ（人格）については、多くの人が興味を持ちます。それは、周囲の人の特徴を理解することによって、よりよい関係を結ぼうとするためであり、さらに自分というものを知りたいからだと思います。この授業では、パーソナリティをどのように捉えるのか、どのようにして作られると考えるのか、パーソナリティをどのような方法で捉えるのかということを中心に、講義を進めます。</p> <p>2. 単に知識として学ぶのではなく、講義の内容と関連のある心理測定尺度を実施し、自己採点と自己分析を行っていきながら、自己理解、他者理解を深め、日常生活や対人関係に活用してもらい、メンタルヘル스에役立ててもらいたいと思います。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	様々なパーソナリティ理論や関連事項について説明できる。 パーソナリティ理解の方法を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	自己理解・他者理解を深め、知識を日常生活や対人関係に活用することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	概論		講義		配布資料を熟読し、復習してください。		
2	分析理論		講義の後、講義内容に関連のある心理測定尺度を行い、自己採点と自己分析を行っていく。 関連するビデオ教材を視聴する。				
3	ロジャースの自己理論						
4	パーソナリティの発達						
5	パーソナリティと家族関係						
6	パーソナリティと人間関係①						
7	パーソナリティと人間関係②						
8	パーソナリティと人間関係③						
9	パーソナリティとストレス						
10	パーソナリティとコミュニケーション①						
11	パーソナリティとコミュニケーション②						
12	パーソナリティ理解の方法①						
13	パーソナリティ理解の方法②						
14	パーソナリティ理解の方法③						
15	パーソナリティの障害について まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎		◎		40	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		60	
補足事項		授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価する。					
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献：吉岡和子・高橋紀子編「大学生の友人関係論－友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版、2010年						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前夜や、メール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で日時を予約してください。						

授業科目名	社会調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1・2年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	<p>本学で開講される社会調査関連科目の出発点として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項について講義する。具体的には、社会調査の種類と方法、社会調査の諸段階、国勢調査等の活用、社会調査結果の読み方、社会調査の倫理などについて概論的に取り上げる。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	問題意識に応じて、適切な社会調査の方法を選択し、遂行できる能力を修得する。					
	DP4：表現力	調査で得られたデータを適切に整理し、報告書やエスノグラフィーを作成できる能力を修得する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会調査において、自らの問題意識や研究設問を適切に設定する能力を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション——基本用語の解説		<p>それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）に基づいて講義します。</p> <p>適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進めます。</p>		<p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はレジュメとテキストの該当箇所（各回の講義内で指示）を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p>		
2	社会調査の目的と必要性①——歴史上の社会調査						
3	社会調査の目的と必要性②——社会福祉学、アメリカ社会学と社会調査						
4	社会調査の目的と必要性③——「社会調査」へのリテラシー						
5	社会調査の事前準備①——量的調査と質的調査、二次分析とメタ分析						
6	社会調査の事前準備②——先行研究の探し方						
7	社会調査の事前準備③——心構えと調査倫理						
8	量的調査の方法①——サンプリングから配票まで						
9	量的調査の方法②——調査票・質問文の作り方						
10	量的調査の方法③——量的調査の分析方法						
11	質的調査の方法①——全体的な進め方						
12	質的調査の方法②——面接の方法						
13	質的調査の方法③——フィールドノートと構造化						
14	質的調査の方法④——エスノグラフィーの書き方						
15	社会調査の倫理						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			○	○		80	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		20	
補足事項		期末試験：筆記試験（持ち込み不可）					
テキスト・参考文献等	参考文献：玉野和志『実践社会調査入門』（世界思想社）、その他の参考文献は配布資料内で紹介。						
履修条件	特になし。社会調査士A科目。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。						

授業科目名	社会調査の設計		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	実りある社会調査を実現するためには、労を厭わず必要とされる作業を、計画的かつ地道に積み重ねていくことが肝心である。本講義では社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。講義は「社会調査法」（2年前期）を履修していることを前提にして進める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会調査の諸段階を具体的に説明することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	実施可能な社会調査を企画することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	調査目的と調査方法			「社会調査法」で学んだ内容を復習して臨むこと。また、講義内容の理解と今後の学習に備えるためにも、教科書を参照すること。			
2	調査方法の決め方						
3	調査企画と設計						
4	調査企画と設計（続き）						
5	仮説構成						
6	仮説構成（続き）						
7	全数調査と標本調査、無作為抽出法						
8	標本数の決定と誤差						
9	標本抽出の諸方法						
10	質問文・調査票の作成						
11	質問文・調査票の作成（続き）						
12	調査の実施方法						
13	調査データの整理						
14	データの構造						
15	まとめと課題						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				60	
宿題・授業外レポート		◎				30	
授業態度・授業への参加度					◎	10	
補足事項	期末課題（60%）中間課題（30%）グループワークによる課題（10%）。社会調査の諸段階と、それぞれの段階がもつ意味に関する理解度に着目して評価する。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社、2008年、2,000+ 税。講義はテキストを主に進め、補足事項はレジメに記す。</p> <p>参考文献：宮内泰介『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波書店、2004年。          轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法』法律文化社、2010年。          社会調査協会・細谷昂編『社会調査事典』丸善出版、2014年。</p>						
履修条件	「社会調査法」（2年前期）を履修していることを前提に授業を進める。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。						

授業科目名	データ分析の基礎		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期 (後期)	講義	選択	2	3年 (1年)
担当教員	文屋俊子						
授業の概要	現代社会の課題解決のために必要なデータ分析の方法について学ぶ。①国勢調査などの官公庁統計を用い、人口ピラミッドや意見の分布などの簡単な表作成やグラフ化を行う。②代表値、相関、属性相関などの基本的な統計測度の知識に基づいてデータを読み取る。③母集団とサンプルの関係、データの背景等を考え、仮説検証過程での過誤を防ぐ知識を得る。④既存調査の報告書等を読み、その問題設定に対して、調査設計、データ分析方法などが妥当か検討する。この過程を通じ、既存データを収集・整理・再分析して、データ分析の基礎能力を身につける。コンピュータを使った演習（Excelによるデータ分析）を取り入れて進める。（なお、本講はExcel操作の講義ではないので、操作方法は1～2回しか説明しない。各自自習して臨んでいただきたい。）						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	既存データから分析に役立つデータを収集できる。基本的な統計測度の使い方が十分に分かる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	統計調査データを読みとることができる。仮説構成－検証の方法がわかる。					
	DP4：表現力	読み取った結果を分かりやすい表やグラフに加工できる。分析結果を文章で書ける。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	データによる仮説構成－検証ができる。					
技能	DP8：情報リテラシー	PC上で分析に必要なデータ収集、加工、計算、表・グラフの作成ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	既存資料・データからのアプローチ		作業スキル・テスト		エクセル操作の自習		
2	単純集計、度数分布表と代表値		講義と作業を組み合わせ、計算、作表、作図を行う。課題は授業で指示する。		代表値		
3	散らばりと偏り				分布		
4	時系列データ・階級				階級		
5	性別年齢別人口、人口ピラミッドを作る		講義と作業、質疑		年齢5歳階級男女別人口		
6	まとめと復習1				単純集計の分析		
7	既存の統計調査結果報告書を読む				母集団とサンプル		
8	質問項目と選択肢（いろいろな尺度）				尺度		
9	クロス集計：量的データの関連性				量的変数の相関関係		
10	クロス集計：名義尺度項目の連関				カイ二乗検定		
11	まとめと復習2（量的データの関連性）		復習講義及び課題学習		正相関、逆相関、擬似相関。		
12	まとめと復習3（属性データの連関）				統計測度の選び方		
13	仮説構成のしかた		講義と質疑		作業仮説を立てる		
14	仮説の検証過程をみる				分析の書き方		
15	分析結果の報告				レポート		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎		○	60	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
テキスト・参考文献等	プリントを配布するので、課題と併せクリアファイルなどに整理すること。毎回、統計学の使い慣れた教科書を持参し、学習課題に沿って予習してくること。						
履修条件	①計学または社会統計学の単位を取得済み、基本的な統計用語について自習して理解できること。 ②EXCELの操作（関数、ピボットテーブルを含む）を1～2回の指示で理解し、操作できること。						
学習相談・助言体制	資料の事前配布、質問の回答は、eラーニング・システムを通じて行う。コメント欄に疑問・質問・不明点を記載してほしい。 詳細シラバスによって課題を明示し、分かる授業をめざす。社会調査士資格認定授業であり、学生の到達水準を確保するため、社会統計学科目との連携を図る。						

授業科目名	社会統計学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	杉野元亮						
授業の概要	統計というと数学を連想して嫌う人が多いが、統計の見方を会得しないでは、経済や社会の動きを正しく理解し、事に処して正しい判断を下すことは出来ない。この講義では統計データの適切な見方、記述の仕方、それに統計の使い方の基本知識をわかりやすく説明をおこなう。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	統計的技法の知識が習得できる。専門分野のレポート作成に活用できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	論理的なものの見方・考え方ができる。統計的技法を使用的確な考察（判断）ができる。					
	DP4：表現力	実践力を高め、数値に基づいた的確な表現ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	統計学とはどんな学問であるか		講義		授業時間後の重要箇所の理解度を確認するため、復習を行うこと。また、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		
2	統計的なものの見方、考え方		講義				
3	標本データのまとめ方		講義・演習				
4	度数分布・母集団の特性		講義・演習				
5	中心的傾向の特性		講義・演習				
6	散らばりの特性		講義・演習				
7	ゆがみの特性		講義・演習				
8	多変数データのまとめ方－関係分析		講義・演習				
9	相関分析（1）		講義・演習				
10	相関分析（2）		講義・演習				
11	回帰分析（1）		講義・演習				
12	回帰分析（2）		講義・演習				
13	多重回帰分析（1）		講義・演習				
14	多重回帰分析（2）		講義・演習				
15	記述統計のまとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト（課題）・宿題		◎	◎			30	
授業態度		◎	◎				
テキスト・参考文献等	白砂 堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年						
履修条件	特になし。電卓を使用するので、毎時間持ってきてください。						
学習相談・助言体制	授業終了後、受付・回答						

授業科目名	社会調査実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	2	3年
担当教員	田代英美・堤 圭史郎・美谷 薫						
授業の概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習させる実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を学生に経験させ、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得させる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的課題を公共性の観点から整理できる。					
	DP4：表現力	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		テーマにより調査グループを編成		調査原案の作成		
2	社会調査の企画・方法について		左の内容について概略を講義する		調査企画		
3~6	調査企画、仮説構成		調査グループに分かれて作業		調査企画・仮説の作成		
7~10	調査票作成（質問項目検討・質問文作成）		調査グループに分かれて作業		調査票作成、対象者選定		
11~13	サンプリング、実査		場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う		サンプリング、実査		
14・15	データエディティング（調査票整理、コーディング）		場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う		データセット作成		
16~19	データセット確認、データ分析		各種の分析手法によりデータ分析を行う		データ分析		
20・21	中間発表会		データ分析結果の中間発表会。全員で分析過程や結果を検討する		再分析		
22・23	データ分析		中間発表を踏まえて、さらに分析を進める		再分析		
24・25	報告書構想発表会		結果報告の概要を発表し、全員で検討する		報告書の構想を検討		
26~29	報告書執筆		調査グループに分かれて報告書を執筆する		報告書執筆		
30	調査報告会		全員で報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する		調査の全過程を点検		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	実習	○	○	○	○	100	
補足事項		調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。					
テキスト・参考文献等	調査テーマは、4月の説明会において各担当者から説明する。						
履修条件	①2年次までに「社会調査法」「社会統計学」「社会調査の設計」を履修していること ②「データ分析の基礎」「データ処理とデータ解析Ⅰ」を履修中/単位取得していること						
学習相談・助言体制	オフィシアワーを中心とするが、緊急の指示や助言が必要となる場合は電話やメールで対応する。						

授業科目名	社会統計学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	杉野元亮						
授業の概要	情報化社会といわれる今日、統計的方法（記述統計学・推測統計学）は様々な分野で利用されているが、正しく適用するためには、その基本的な考え方の理解が最も重要である。主に推測統計の数値例を解きながら統計的技法と、その判断について説明を行う。受講生の皆さんは身近な社会・経済データによる統計分析を通して統計学の手法とセンスを体得してほしい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	統計的技法の知識が習得できる。現実の社会・経済指標をもとに分析をし、活用できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	論理的なものの見方・考え方ができる。統計的技法を使用的確な考察（判断）ができる。					
	DP4：表現力	実践力を高め、数値に基づいた的確な表現ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	記述統計から推測統計へ		講義		授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため、復習を行うこと。また、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		
2	関係分析（相関係数、疑似相関と偏相関係数など）		講義				
3	確率とは・確率の基本定理		講義・演習				
4	確率変数・確率分布・期待値（正規分布・t分布）		講義・演習				
5	標本理論・標本誤差		講義・演習				
6	母平均の推定（1）		講義・演習				
7	母平均の推定（2）		講義・演習				
8	母比率の推定（1）		講義・演習				
9	母比率の推定（2）		講義・演習				
10	仮説の検定（1）手順、帰無仮説と対立仮説		講義・演習				
11	仮説の検定（2）第1種の過誤と第2種の過誤		講義・演習				
12	仮説の検定（3）検定統計量・平均値の検定		講義・演習				
13	仮説の検定（4）比率の検定・母分散に関する検定		講義・演習				
14	仮説の検定（5）母分散の比の検定・適合度の検定		講義・演習				
15	仮説の検定（6）独立性の検定・関係数、推測統計のまとめ		講義・演習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト（課題）・宿題		◎	◎			30	
授業態度		◎	◎				
テキスト・参考文献等	白砂 堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年						
履修条件	① 「社会統計学Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。 ② 電卓を使用するので毎時間持ってきてください。						
学習相談・助言体制	授業終了後、受付・回答						

授業科目名	質的調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	<p>社会調査は、大規模なアンケート調査に代表される量的調査と、インタビューや参与観察、あるいは文書資料の解読といった技法を用いる質的調査の2通りに分類される。講義では、このうち質的調査の方法を学ぶ。また、これを通して、受講生は「社会学」的な考え方／問題設定とはどういうものかを、より深く理解することになる。なお、人類学における質的調査についても積極的に言及する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	問題意識に応じて、適切な質的調査法を企画・遂行する能力を習得する。					
	DP4：表現力	収集されたデータを的確に整理し、倫理面に配慮したエスノグラフィーを作成する能力を習得する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会問題に対して、科学的な問題意識と研究設問を立てる能力を習得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション——「科学的」な社会調査とは		<p>それぞれ、「授業内容」に即した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）に基づいて講義する。</p> <p>受講生の理解度を確認するために、しばしばミニレポート形式の課題を出す。</p>		<p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はレジュメとテキストの該当箇所（各回の講義内で指示）を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p> <p>講義内容と関連した課題（ミニレポート形式）を講義期間中に複数回出題する。</p>		
2	質的調査とは何か①——質的調査と量的調査						
3	質的調査とは何か②——質的調査の諸技法（1）						
4	質的調査とは何か③——質的調査の諸技法（2）						
5	文化人類学／社会人類学における質的調査						
6	質的調査の科学性①——質的調査の長所と短所						
7	質的調査の科学性②——「科学的」であることの意味						
8	フィールドワークと問題意識①——仮説と研究設問の作り方						
9	フィールドワークと問題意識②——グラウンデッド・セオリー・アプローチ						
10	フィールドに立つ①——サンプリングの方法						
11	フィールドに立つ②——「観察する／される」ことの影響、臨床社会学						
12	フィールドノーツの作成①——作成の方法、インタビューの諸技法						
13	フィールドノーツの作成②——コーディングと構造化						
14	エスノグラフィーの作成①——エスノグラフィーの書き方						
15	エスノグラフィーの作成②——倫理と客観性						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			○	○		70	
宿題・授業外レポート			◎	○		20	
授業態度・授業への参加度			○	◎		10	
補足事項		期末試験：筆記試験（持ち込み不可）					
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中で紹介。						
履修条件	「社会調査法」を受講していることが望ましい。社会調査士F科目。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。						

授業科目名	データ処理とデータ解析 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択 (公共社会学科は必修)	1	3年
担当教員	石 崎 龍 二						
授業の概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用を、コンピュータで統計処理を行う演習を通して学習する。具体的には、基本統計量や度数分布などの記述統計、母平均・母比率・母分散に関する区間推定、検定などの推測統計のデータ処理と分析の方法を学習する。つぎに変数間の関係の分析方法や回帰分析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会調査や心理学研究等で必要となる量的・質的データの基礎的な集計・分析方法を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	調査データや実験データを、適切に集計・分析するなどの思考・判断力を身につけている。					
	DP4：表現力	調査データや実験データを、集計・分析した結果を、適切に報告書にまとめることができる。(社会福祉学科はDP4 該当なし)					
技能	DP10：専門分野のスキル	<p>データの単純集計・クロス集計ができる。</p> <p>量的データの分布の代表値、散布度を計算できる。</p> <p>量的データの母平均・母比率・母分散の区間推定、検定ができる。</p> <p>量的データの2群の検定ができる。</p> <p>量的データ・質的データの2変数間の関係を分析できる。</p> <p>回帰分析ができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	記述統計と推測統計について概説	演習（左記の内容を演習用テキストに沿ってコンピュータの演習を進める）	データの尺度について復習				
2	記述統計－単純集計表、度数分布表		度数分布の階級数・階級幅について復習				
3	記述統計－分布の代表値、散布度		平均値、最頻値、中央値、分散、標準偏差など復習				
4	記述統計から推測統計へ－標準得点と偏差値、正規分布		データの標準化、正規分布などを復習				
5	推測統計－母平均、母比率、母分散の点推定・区間推定		標準誤差について復習				
6	推測統計－母平均、母比率、母分散の検定		帰無仮説、有意確率などの意味、Z検定、t検定、カイ2乗検定について復習				
7	推測統計－2群の検定		対応のない2群と対応のある2群の検定について復習				
8	質的変数における2変数間の関連－クロス集計、カイ2乗検定		カイ2乗検定・クラメルの連関係数などを復習				
9	量的変数における2変数間の関係－相関分析（相関係数、偏相関係数）		相関係数・偏相関係数などを復習				
10	回帰分析－単回帰分析		最小二乗法による回帰係数の推定、決定係数について復習。レポート課題提示				
11	回帰分析－重回帰分析、ロジスティック回帰分析		説明変数の選択基準について復習				
12	調査データの解析①－調査内容について話し合い	グループワーク	作成した質問紙の集計・分析方法の確認				
13	調査データの解析②－ミニ調査実施		入力データのチェック				
14	調査データの解析③－調査データの集計・分析		調査データの集計・分析結果のチェック				
15	調査データの解析④－調査データの報告書作成		調査データの報告書のチェック				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業外レポート		○	○		◎	40	
授業態度・授業への参加度		○	○		◎	60	
補足事項		レポート課題、グループ課題（調査データ報告書提出）					
テキスト・参考文献等	<p>独自の演習用テキストを配付する。</p> <p>参考文献：①石村貞夫 著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年（2,160円）、②菅民郎 著、『多変量解析の実践 上』、現代数学社、1993年（2,808円）</p>						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。						

授業科目名	データ処理とデータ解析Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
	石崎 龍二		後期	演習	選択	1	3年	
授業の概要	社会学・心理学・教育学等に必要となる統計解析の基礎とその応用について、コンピュータでの統計処理演習を通して学習する。「データ処理とデータ解析Ⅰ」で学習した記述統計、推測統計、2変数間の相関分析、回帰分析を基礎として、量的データ及び質的データの多変量解析を学ぶ。 以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。							
<b>学生の到達目標</b>								
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会調査や心理学研究等で必要となる量的・質的データの多変量解析の方法を理解している。						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	調査データや実験データを適切に集計・分析するなどの思考・判断力を身につけている。						
	DP4：表現力	調査データや実験データに関する多変量解析を行った結果を、適切に報告書にまとめることができる。（社会福祉学科はDP4該当なし）						
技能	DP10：専門分野のスキル	判別分析・主成分分析・因子分析ができる。 数量化理論第Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類の分析ができる。						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）					
1	多変量解析について概説	演習（左記の内容を演習用テキストに沿ってコンピュータの演習を進める）	多変量解析の種類を復習					
2	多変量解析－判別分析		相関比、判別関数を復習					
3	多変量解析－主成分分析		固有値、主成分負荷量、主成分得点を復習					
4	多変量解析－因子分析		因子数の決定基準、因子寄与、因子寄与率、因子名の決定方法を復習					
5	数量化理論第Ⅰ類（予測、要因分析のための数量化）の解析①		説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数を復習					
6	数量化理論第Ⅰ類の解析②		レンジ、偏相関係数、重相関係数を復習					
7	数量化理論第Ⅱ類（判別、予測、要因分析のための数量化）の解析①		説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数を復習					
8	数量化理論第Ⅱ類の解析②		レンジ、偏相関係数、相関比、判別区分点、判別の中率の復習					
9	数量化理論第Ⅲ類（分類、要因、データ構造分析のための数量化）の解析①		アイテム・カテゴリー数量及び散布図、サンプル数量の散布図の復習					
10	数量化理論第Ⅲ類の解析②（自由記述データの解析）		自由記述データの加工手順を復習。演習終了時に課題提示					
11	調査データの解析①－調査内容について話し合い		グループワーク	作成した質問紙の集計・分析方法の確認				
12	調査データの解析②－ミニ調査実施			入力データのチェック				
13	調査データの解析③－調査データの集計			調査データの集計結果のチェック				
14	調査データの解析④－調査データの解析			調査データの分析結果のチェック				
15	調査データの解析⑤－調査データの報告書作成			調査データの報告書のチェック				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）		
授業外レポート		○	○		◎	40		
授業態度・授業への参加度		○	○		◎	60		
補足事項		レポート課題、グループ課題（調査データ報告書提出）						
テキスト・参考文献等	テキスト：独自の演習用テキストを配付する。 参考文献：①駒沢勉・橋口捷久、石崎龍二 著、赤池弘次 監修、『パソコン数量化分析』、朝倉書店、1998年（6,264円）、②石村貞夫 著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年（2,160円）、③菅民郎 著、『多変量解析の実践 下』、現代数学社、1993年（2,916円）							
履修条件	「データ処理とデータ解析Ⅰ」を履修していること。							
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。							

授業科目名	情報数学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	石崎 龍二						
授業の概要	<p>コンピュータや通信技術の技術革新により、社会における情報化が急速に進んでいる。コンピュータを使って数値計算や統計解析を行ったり、信号や画像の処理といった数値処理を行ったりするためには、基礎的な数学の知識と理論的な思考が必要である。</p> <p>本講義では、情報通信技術（ICT）の数学的な観点からの理解を深めることを目的として、情報の2進数への変換や情報量を扱う符号理論、論理回路の設計に必要な命題論理・述語論理、計算機の数学的モデルであるオートマトン理論、ネットワークに関するグラフ理論などを解説する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	「符号理論」「命題論理・述語論理」「オートマトン理論」「グラフ理論」に関する知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自然や社会の現象を抽象化、単純化、記号化して考えることができる。 数・形・集合などに関する記号を使って論理的に展開できる。					
	DP4：表現力	論理回路の入出力関係を真理値表及び論理式を使って表現できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	文字、音、画像等の情報の2元符号化ができる。 情報量が計算できる。 論理演算ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		講義		(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理。		
2	2元符号化理論－進数変換		講義				
3	2元符号化理論－負数の符号化		講義				
4	情報源符号化理論－情報量		講義				
5	情報源符号化理論－平均情報量		講義				
6	情報源符号化理論－記憶情報源		講義				
7	通信路符号化理論－通信速度、通信容量		講義		講義終了時に課題提示		
8	通信路符号化理論－誤り訂正の符号化		講義		(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理		
9	命題論理－論理代数		講義				
10	命題論理－論理代数と論理回路		講義		講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理		
11	述語論理		講義				
12	オートマトン理論の基礎		講義				
13	オートマトン理論の応用		講義		講義終了時に課題提示		
14	グラフ理論の基礎		講義		(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理		
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業外レポート		○	○		◎	70	
授業態度・授業への参加度		◎	◎		○	30	
補足事項		レポート課題2回					
テキスト・参考文献等	テキスト：独自のテキストを配付する。 参考文献：開講時に紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスパワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。						

授業科目名	プログラミング概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	石崎 龍二						
授業の概要	<p>コンピュータプログラミングの基本的な技法を習得する。            代表的なプログラミング言語（CやC++等）を例にして、プログラミングの基本的な概念（データ型、入出力、演算子、分岐、反復、関数、配列、ポインタなど）やアルゴリズムを解説する。コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの手法を身につける。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>プログラミングの基本的な考え方（順次、条件分岐、繰り返し）を理解している。            変数、配列などを用いた情報の表現を理解している。            分岐、繰り返しなどを用いたアルゴリズムを理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>問題を解決する手段の1つとして、プログラミングの基本的な考え方（順次、条件分岐、繰り返し）を適切に活用できる論理的思考力を身につけている。</p>					
技能	DP10：専門分野のスキル	<p>プログラミングにおいて、適切な数値型変数、文字型変数、配列変数の宣言ができる。            プログラミングにおいて、入出力関数を使って、データの読み込み及び出力ができる。            文字列の加工、数値計算を行うプログラミングができる。            分岐、繰り返しを使ったプログラミングができる。            関数を使ったプログラミングができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	プログラミングの概要	講義・演習	<p>（事前学習）            次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、ある程度内容を把握しておくこと。            （事後学習）            講義の中で理解できなかった項目は、復習し、ノートを整理事務すること。また、演習で作成したサンプルプログラムを、各自で少し変更して新しいプログラムを作ってみること。</p>				
2	基本的なデータ表現	講義・演習					
3	簡単なデータの入出力	講義・演習					
4	演算子	講義・演習					
5	プログラムの制御①－分岐	講義・演習					
6	プログラムの制御②－分岐、繰り返し	講義・演習					
7	プログラムの制御③－繰り返し	講義・演習					
8	1次元配列	講義・演習	<p>（事前学習）            次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、ある程度内容を把握しておくこと。            （事後学習）            講義の中で理解できなかった項目、復習し、ノートを整理事務すること。また、演習で作成したサンプルプログラムを、各自で少し変更して新しいプログラムを作ってみること。</p>				
9	2次元配列	講義・演習					
10	関数の作り方①	講義・演習					
11	関数の作り方②－配列	講義・演習					
12	ポインタ①－ポインタと配列	講義・演習					
13	ポインタ②－関数とポインタ	講義・演習					
14	文字列の操作①	講義・演習					
15	文字列の操作②とまとめ	講義・演習	<p>（事前学習）            次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、ある程度内容を把握しておくこと。            （事後学習）            講義の中で理解できなかった項目、復習し、ノートを整理事務すること。また、演習で作成したサンプルプログラムを、各自で少し変更して新しいプログラムを作ってみること。</p>				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	○		◎	60	
授業への参加度		◎	○		◎	40	
補足事項		レポート課題2回					
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：独自の演習用資料を配付する。            参考文献：開講時に紹介する。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。						

授業科目名	地域社会学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			前期	講義	選択	2	1年		
担当教員	文屋俊子								
授業の概要	地域社会の課題に向き合い、解決策を模索できる基礎的な考え方を養うには、産業化・都市化の進展とともに大きく姿を変えてきた地域を論理的に幅広く理解する必要がある。本講では、これまでの農村社会学、都市社会学の成果を中心に、理論的アプローチを行い、現代における地域社会の社会関係の意味を問い直す。受講生にとっては足元の地域社会でありながら、多様な隣人たちの行動を決定づけている文化型の違いを理解したうえで、これからの地域における課題解決や共同のあり方を考える。								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	身近な地域社会に関する基礎的な理論を学び、地域社会について理解できる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会変動による地域社会の変化を学び、その問題点を説明できる。							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	現代における地域での課題解決や共同のあり方について意見を言える。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	都市と農村		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。授業中やコメントカードで質問や意見を述べること。授業時間内に意見交換、質疑応答時間を設けて質問等にこたえる。受講生は、授業中に指示する右の学習課題について理解できたかどうか毎回確認すること。		集落の二形態				
2	農村の社会構造				農村的生活様式「自然村」				
3	家の理論				「家」の特徴とその概念				
4	家連合－同族結合と講組結合				「家連合」、同族団				
5	地縁組織と村落共同体				「講と組」、年齢階梯組織				
6	農村の社会的性格				「東北型と西南型」				
7	産業化・都市化の進展と農村社会の変化				都市と農村の人口変化				
8	農村的生活様式と都市的生活様式				都市的生活様式				
9	社会移動と地域の社会構成の変化				地域の社会構成変化				
10	都市化の三側面と地域社会の多様性				都市化の三側面				
11	地域開発と地域社会における葛藤				開発の地域への影響				
12	コミュニティの目標と地域社会の特性				コミュニティとの関連				
13	分権社会における地域社会の問題				講義・ビデオ視聴		ノート整理、質問・意見		
14	地域社会と全体社会				講義と質疑				
15	講義全体のまとめ				講義と質疑		毎回の授業のまとめ		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
定期試験		○	◎			80			
授業態度・授業への参加度			○	○		20			
テキスト・参考文献等	参考文献：有賀喜左衛門『日本家族制度と小作制度』等、鈴木栄太郎『都市社会学原理』、福武直『日本農村の社会的性格』、鈴木広編『都市化の社会学』のうちバージェス、ワースの論文など。								
履修条件	なし。								
学習相談・助言体制	授業時間中の質問を歓迎します。また、コメントカードに質問・疑問・意見等を書いてください。つぎの授業で回答します。								

授業科目名	地域社会学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択	2	3年	
担当教員	文屋俊子							
授業の概要	地域社会の課題に向き合い、解決策を模索できる基礎的な考え方を養うには、産業化・都市化の進展とともに大きく姿を変えてきた地域を論理的に幅広く理解する必要がある。本講では、これまでの農村社会学、都市社会学の成果を中心に、理論的アプローチを行い、現代における地域社会の社会関係の意味を問い直す。受講生にとっては足元の地域社会でありながら、多様な隣人たちの行動を決定づけている文化型の違いを理解したうえで、これからの地域における課題解決や共同のあり方を考える。							
<b>学生の到達目標</b>								
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域社会における具体的な問題について、論理的に整理して説明できる。						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	データや資料からアプローチし、地域社会の課題の対応策を考察できる。						
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	具体的な地域の課題解決や共同のあり方について意見を言える。						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>								
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）			
1	拡大期の大都市周辺農村の社会変動		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。 授業中やコメントカードで質問や意見を述べること。 授業時間内に意見交換、質疑応答時間を設ける。		地域社会学Ⅰノート			
2	都市化する旧農村の社会問題							
3	地域の変化と「家」							
4	地域共同体の問題				共同体について			
5	地域社会の構成とコンフリクト				社会変動と地域			
6	開発と農村地域の問題				配布文献			
7	自治体と地域共同管理の担い手				授業内レポート			
8	都市内地域の住民関係				資料整理			
9	郊外団地の社会構成と高齢化				質問・意見のまとめ			
10	都心の過疎から都心回帰への転換と諸問題							
11	大都市の居住をめぐる諸問題							
12	災害とコミュニティの対応				レポート作成			
13	地域社会における福祉の担い手				ビデオ・グループ学習			
14	討論－地域社会の課題				演習形式による質疑			
15	講義全体のまとめ				講義と質疑			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）		
	定期試験	○	◎			80		
宿題・授業外レポート			○	○		20		
テキスト・参考文献等	教科書なし。資料及び参考文献は配布資料参照。							
履修条件	地域社会学Ⅰの単位を取っていること。							
学習相談・助言体制	コメントカードの活用。毎回、質問に対する回答を行い、理解をたすける。 また、授業開始前数分を学生とのコンタクト時間にする。							

授業科目名	コミュニティ論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			後期	講義	選択	2	2年		
担当教員	文屋俊子								
授業の概要	現代社会における基礎的な社会単位であるコミュニティについての理解は、地域づくりに、また、生活者として、よき地域人、隣人として役割を果たす上に重要である。地域の社会的な変動をへて「コミュニティ」は期待され、同時に問題を多く含んでいる。まず、コミュニティの多様な概念の検討を行い、基礎的な理論について学ぶ。また、日本における地域社会の変動にともない「コミュニティ」概念が注目された経緯、現代日本における「コミュニティ」の問題について考察する。								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	一市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	多様な地域性をもつコミュニティには、さまざまな課題があることが分かる。							
	DP4：表現力	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	地域の諸問題について、行政や住民の果たす役割が多面的に存在することが分かる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	コミュニティ概念の多様性		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。 授業中やコメントカードで質問や意見を述べること。 授業時間内に意見交換、質疑応答時間を設けて質問等にこたえる。 受講生は、授業中に指示する右の学習課題について理解できたかどうか毎回確認すること。		地域の住民組織				
2	マッキーヴァーの「コミュニティ」と「アソシエーション」				『コミュニティ』45-68				
3	パークの「コミュニティ」と「ソサイエティ」				配布プリント				
4	コミュニティの概念を整理する－実体概念と目標概念（理念）				概念上の整理				
5	なぜ「コミュニティ」が期待されたか								
6	「コミュニティ」施策の目標となった理念								
7	行政施策としての「コミュニティ」の課題				コメント				
8	住民に「コミュニティ」はどう受け入れられたか				配布データの読み取り				
9	実体としての日本のコミュニティ								
10	都市的コミュニティ								
11	行政と住民の関係								
12	多様な地域特性と「コミュニティ」概念				具体事例の読み取り				
13	多様な地域問題と「コミュニティ」の役割							講義・ビデオ視聴	
14	「コミュニティ」再考							講義と質疑	
15	講義全体のまとめ				講義と質疑		レポート		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
定期試験		○	◎			80			
授業態度・授業への参加度			○	○		20			
テキスト・参考文献等	参考文献：R.M. マッキーヴァー『コミュニティ』ミネルヴァ書房、1975（原著1917）、倉沢・秋元編『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房、1990、など。								
履修条件	なし。								
学習相談・助言体制	授業内容は難しいと思われるので、ビデオ学習や質問への回答のかたちで復習講義時間を設け、理解を助ける。具体的には、試験で不可及及び最低点に近い回答の割合を減らす努力をする。								

授業科目名	都市社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	文 屋 俊 子						
授業の概要	都市社会学は、人間の生活環境としての都市社会と、そこに起きる社会現象を研究対象とする。都市は、人間が形成する集落の二つの形態の一つであり、村落と対比されてきた。しかし社会全体の都市化が進み、都市と村落の境目があいまいになるにつれて、都市社会学の対象も多様化し、具体的な都市域を越えた都市社会全体の問題に対応する理論的方法が模索されている。全体社会の変化の中で、問い直されている都市生活にともなう諸問題への対応という観点から、これまでの研究事例を取り上げて考察する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	都市社会についての基礎的な考え方がわかる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	都市社会問題に関するデータや資料を論理的に整理し、まとめることができる。					
	DP4：表現力	都市社会の具体的な問題を論理的な文章または口頭で説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	都市社会の具体的な課題を考察し、質問したり意見を述べたりできる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	都市とはなにか		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。		プリント資料  シカゴ学派 鈴木栄太郎・磯村英一 都市と農村の人口変化 鈴木広・倉沢進・奥田 Burgess の理論について 町村敬志他  文献  考察・意見をまとめる  まとめ		
2	都市の定義						
3	都市の理論（1）近代都市の成立と展開						
4	都市の理論（2）都市の社会心理						
5	実証研究：シカゴ学派都市社会学						
6	アーバニズム論－都市的生活様式						
7	日本における都市研究（1）						
8	日本における都市研究（2）						
9	都市の空間構造						
10	「世界都市化」とグローバル経済						
11	都市居住をめぐる諸問題（1）						
12	都市居住をめぐる諸問題（2）						
13	都市社会における共同						
14	討論－地域社会の課題						
15	総括						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	◎			70	
授業態度・授業への参加度			○	○		10	
受講者の発表（プレゼン）			○	○		20	
テキスト・参考文献等	参考文献は多数なため、毎回の配布資料を参照。						
履 修 条 件	なし。						
学習相談・助言体制	授業時間中の質問を歓迎します。また、コメントカードに質問・疑問・意見等を書いてください。つぎの授業で回答します。						

授業科目名	地域社会学特講		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	田代英美						
授業の概要	<p>今期は「まちづくりの仕事」について考える。まず、まちづくりという多義的な言葉が多用される背景と問題点を整理し、地方分権政策のもとで求められるまちづくりとはなにかを考える。さらに、いろいろな立場でまちづくりに関連する仕事に携わっている方々を外部講師として招き、仕事を通して見える地域社会の課題やまちづくりの面白さを話していただく予定である。まちづくりに関連する仕事の実際に触れて、理論や文献等で得た知識との関連を理解することを目標とする。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域社会の課題解決に向けた取り組みの現状を公共性の観点から分析することができる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	地域社会の課題解決に向けて、公共性に根差した対応策を考察することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	地域社会の運営に携わる関係者へのインタビューなどにより、必要なデータを収集することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	授業のねらいと進め方。まちづくりとはなにか。		講義				
2	地域社会の動向（1） 地域開発政策が残したもの		講義。資料に基づく小レポート作成。				
3	地域社会の動向（2） 地方分権政策の推移		講義。資料に基づく小レポート作成				
4	地域社会の動向（3） 少子高齢・人口減少		講義。資料に基づく小レポート作成。				
5	都市計画制度		講義。資料に基づく小レポート作成。				
6	まちづくりの具体例①		講義。グループワーク。		（事後課題）資料の整理		
7	「まちづくりの仕事」を聞く①		講義				
8	6回・7回のまとめ		討論。レポート作成。				
9	まちづくりの具体例②		講義。グループワーク。		（事後課題）資料の整理		
10	「まちづくりの仕事」を聞く②		講義				
11	9回・10回のまとめ		討論。レポート作成。				
12	まちづくりの具体例③		講義。グループワーク。		（事後課題）資料の整理		
13	「まちづくりの仕事」を聞く③		講義				
14	12回・13回のまとめ		討論。レポート作成。				
15	まちづくりの課題		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	小テスト・授業内レポート		◎		◎	50	
	授業態度・授業への参加度			◎		50	
テキスト・参考文献等	資料は授業中に配布する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	地域社会分析法A (地域と生活)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	田代英美						
授業の概要	地域社会の現状と課題を把握するために様々な視点からの分析手法が開発されてきたが、本授業の前半では生活構造論をベースに地域社会と生活との関係を見ていく。生活場面から発想することの重要性、社会構造分析とは異なる視点の面白さを学ぶ。後半は、生活問題の解決に向けて地域社会の中でどのような動きが見られるのかを事例を通して考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生活問題に関する理論と分析方法を理解し、テーマに即して活用することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現在の生活問題の特徴や背景を地域社会の変動と関連させて分析することができる。					
	DP4：表現力	現在の生活問題の特徴を、データ分析をもとに図や表を使って分かりやすく説明できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	生活問題に関するデータを収集し、分析することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	「生活」を捉える		講義				
2	生活構造論の系譜		講義				
3	生活構造の把握（1）生活時間		データ分析		（事後学習）データ整理		
4	生活構造の把握（2）生活時間（続き）		データ分析、小レポート作成				
5	生活構造の把握（3）家計		データ分析		（事後学習）データ整理		
6	生活構造の把握（4）家計（続き）		データ分析、小レポート作成				
7	生活構造の把握（5）生活行動圏		データ分析		（事後学習）データ整理		
8	生活構造の把握（6）生活行動圏（続き）		データ分析、小レポート作成				
9	生活構造の把握（7）社会関係		データ分析		（事後学習）データ整理		
10	生活構造の把握（8）社会関係（続き）		データ分析、小レポート作成				
11	生活に関するさまざまなデータ（10回までのまとめ）		講義				
12	少子高齢化・人口減少時代の生活問題		講義				
13	地域社会の課題と課題解決の担い手（1）行政における対策		グループワーク		（事後学習）データ整理		
14	地域社会の課題と課題解決の担い手（2）住民の活動		グループワーク		（事後学習）データ整理		
15	地域社会の課題と課題解決の担い手（3）まとめ		講義、レポート作成				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	50	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			50	
テキスト・参考文献等	必要な資料は授業中に配布する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	地域社会分析法B (住民参加)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	姜 信 一						
授業の概要	現在の政策過程（課題設定から評価に至るまで）において、住民による参加は欠かせない。住民は、住民運動によって、住民参加によって、さらに自らが実働すること（ボランティア・NPO）によって、自らの意思を表明する。本講義は、住民参加について、必要な知識を整理すると共に、その手法、現状、課題などについて考える、参加型の授業である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	民主主義と住民参加についての基礎的な概念と諸理論を学習する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	住民参加についての知識を整理すると共に、その手法や課題について考えることによって、課題解決型の思考方法を身につける。					
	DP4：表現力	課題発表の時は、発表の内容や方法について各自工夫し、討論には積極的に参加する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション						
2	自治と（熟議）民主主義		講義		参加、代表、民主主義、住民、地域社会、自治体などの基礎概念を整理		
3	市民参加の基礎概念						
4	市民参加の基礎概念						
5	住民運動と市民参加		講義 (講義内で討議を行う)		配布資料の復習		
6	政策形成段階における市民参加						
7	市民参加を担保する法的枠組み						
8	復習・課題		2～7回の復習のための課題を行う。				
9	自治基本条例と市民参加条例		講義および課題発表・討論		配布資料の復習		
10	住民投票						
11	行政評価課程における市民参加						
12	電子的市民参加 1						
13	電子的市民参加 2						
14	市民参加事例分析						
15	復習・課題		5～14回の復習のための課題を行う。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				50	
小テスト・授業内レポート		○				10	
宿題・授業外レポート			○			10	
授業態度・授業への参加度		◎				20	
受講者の発表（プレゼン）			○			10	
テキスト・参考文献等	授業中にプリントを配布し、参考文献・資料を紹介する。 [参考図書] 高橋秀行・佐藤徹『新設 市民参加（改訂版）』公人社、2013年						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業に関するご質問・ご相談は、授業後またはメールで随時受け付けます。						

授業科目名	地域社会分析法 C (地理)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
	担当教員 美谷 薫			講義	選択	2	3年					
授業の概要	「地域社会」を分析するツールの1つとして、人文地理学で用いられる量的・質的分析の手法について取り上げ、受講生が実際に作業を行うことで、それらを身につけていくことを目的とします。また、その前段としての統計資料の収集方法や、分析結果の表現方法としての地図化の手法などについても紹介していきます。可能な範囲でGIS（地理情報システム）についても学習する機会を設ける予定です。											
学生の到達目標												
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人文地理学で活用される量的・質的な分析手法を身につけている。										
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	さまざまな研究のテーマにふさわしい調査・分析手法を選択し、適切にデータを収集・分析して、その結果を的確に説明できる。										
	DP4：表現力											
技能	DP10：専門分野のスキル	主題図を中心とした地図表現の基礎やGIS等の操作方法を習得し、それらを活用して自らの研究・分析結果をわかりやすく視覚化できる。										
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）												
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）							
1	イントロダクション：講義内容の説明		<p>テーマによって多少の相違は出ますが、講義の当初に分析の手法などの解説を行い、その後、提示した課題について作業を行い、結果を提出するという形で進めます。</p> <p>※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み替える場合があります。</p>		<p>適宜、講義内容等の復習を行ってください。</p> <p>内容によっては、講義時間中に作業が完了しないものも出てくるかと思えます。必要に応じて、課外の時間に各自で作業を進めてもらう場合があります。</p>							
2	地域統計と地図表現（1）：地域統計の種類と収集方法											
3	地域統計と地図表現（2）：主題図の種類と表現方法①											
4	地域統計と地図表現（3）：主題図の種類と表現方法②											
5	統計分析の手法（1）：特化係数											
6	統計分析の手法（2）：修正ウィーバー法											
7	統計分析の手法（3）：回帰分析と相関係数											
8	統計分析の手法（4）：因子分析とクラスター分析											
9	質的データの収集方法（1）：アンケート調査と聞き取り調査											
10	質的データの収集方法（2）：土地利用調査①											
11	質的データの収集方法（3）：土地利用調査②											
12~14	パソコンで地図をつくる（1）～（3） ※ 情報機器の状況を見ながら内容を決定します。											
15	まとめ											
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）												
成績評価方法	到達目標	知識・理解						思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	◎		◎	50						
小テスト・授業内レポート		○	◎		◎	40						
授業態度・授業への参加度			◎			10						
補足事項		補足事項 定期試験については、レポートの形を採用する予定です。										
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。</p> <p>野間晴雄ほか編 2012. 『ジオ・バルNEO 地理学・地域調査便利帖』海青社。</p> <p>半澤誠司ほか編 2015. 『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの道具箱』ナカニシヤ出版。</p> <p>梶田真・仁平尊明・加藤政洋編 2007. 『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版。</p>											
履修条件	<p>履修条件は特にありませんが、作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご了承ください。</p> <p>半期でかなり幅広い内容を取り上げますので、特に統計分析について丁寧に学びたい方は、統計学や社会調査関連の科目についても受講するようにしてください。</p> <p>また、指示があった場合には、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。学期の後半では、屋外での実習を行うことがありますので、その際には服装等に注意してください（事前に連絡します）。</p>											
学習相談・助言体制	講義内容などに関する質問は、講義後を中心に、適宜受け付けます。											

授業科目名	環境社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	田代英美						
授業の概要	環境保全、循環型社会の形成は現代社会の最も大きな課題のひとつである。本講義では、環境問題の発生と拡大がいかに密接に社会構造や人々の生活様式とつながっているか、また、環境政策の形成・発展に世論や社会運動がどのように関わってきたか、その課題は何かを考察する。持続可能な地域社会が成立する可能性について考える契機としたい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	環境問題の発生と拡大および環境政策推進の要因を、これまでの研究を踏まえて説明できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	環境問題の背景を論理的に説明し、持続可能な地域社会を形成するための対応策を提示できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	環境問題に関するデータを適切に収集し、分析することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	環境問題とはなにか		講義				
2	環境問題の歴史		講義				
3	環境問題の3つの類型		講義				
4	公害と産業社会		講義				
5	公害と地域社会		講義				
6	生活様式と環境問題		講義				
7	開発と資源		講義				
8	1回～7回のまとめ		小テストを実施		(事前課題) 1回～7回の復習		
9	社会運動と環境対策		講義				
10	環境保全への取り組み(1) 自治体		講義		(事後課題) 資料の整理		
11	環境保全への取り組み(2) 市民活動、NPO		講義		(事後課題) 資料の整理		
12	環境保全への取り組み(3) 企業		講義		(事後課題) 資料の整理		
13	9回～12回のまとめ		グループワークと討論				
14	持続可能な発展、循環型社会とはなにか		講義				
15	持続可能な地域社会の課題		グループワークと討論		(事後課題) グループワークと討論にもとづきレポートを作成する。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎			◎	30
宿題・授業外レポート			◎	◎		◎	50
授業態度・授業への参加度				◎			20
テキスト・参考文献等	テキスト：鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房、2009						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	地理学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
				講義	選択	2	2年
担当教員	美 谷 薫						
授業の概要	<p>地理学とは、地表上のさまざまな自然・人文現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野ですが、そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範に及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の分野を中心に、地理学（系統地理学）の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域社会を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域（社会）を見るツールとしての、地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法について理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地図の解析や統計資料の分析を通じて、さまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。また、それらが生じる要因を考察し、的確に表現できる。					
	DP4：表現力						
技能	DP10：専門分野のスキル	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し、活用することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション：講義内容の説明、地理学とは		<p>毎回、講義内容と図表等をまとめた資料を配布し、板書と配布資料の説明により講義を進めます。</p> <p>また、講義の後半では、統計資料の分析や研究論文の中で示された図表の読み取りといった作業課題を実施します。</p> <p>※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み合わせる場合があります。</p>		<p>適宜、講義内容等の復習を行ってください。</p> <p>また、学期中に2本程度の作業レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。</p>		
2	地理学の基礎概念（1）：地域①						
3	地理学の基礎概念（2）：地域②						
4	地理学の基礎概念（3）：景観						
5	地理学の基礎概念（4）：環境、分布と伝播、スケール						
6	自然環境の地理学（1）：地形						
7	自然環境の地理学（2）：気候、水環境						
8	自然環境の地理学（3）：自然環境と人々の暮らし						
9	人間と社会の地理学（1）：人口						
10	人間と社会の地理学（2）：村落						
11	人間と社会の地理学（3）：都市①						
12	人間と社会の地理学（4）：都市②						
13	産業と経済の地理学（1）：農業						
14	産業と経済の地理学（2）：工業						
15	産業と経済の地理学（3）：商業と流通						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			30	
授業内レポート・授業への参加度		◎	◎		○	30	
宿題・授業外レポート		◎	◎		○	40	
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思われます。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の2点を挙げておきます。          上野和彦・椿真智子・中村康子編 2007.『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』朝倉書店。          浮田典良編 2004.『最新地理学用語辞典改訂版』原書房。</p>						
履 修 条 件	<p>履修条件は特にありませんが、作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご了承ください。高校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。</p> <p>ほぼ毎回の講義で、簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を実施しますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。</p>						
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、適宜受け付けます。						

授業科目名	地方自治論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	姜 信 一						
授業の概要	①現代日本の地方自治について、テキストを用いながら、その制度と実態を講義する。 ②新聞雑誌等を用いながら、全国的な自治の動向について解説する。 なお、この講義計画は、時事問題等も取り扱うため、適宜更新がありうる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方自治の歴史・理論、制度、現在の動向に関する基礎知識や思考方法を習得することにより、市民・地域人としての教養を身につける。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	新新聞やニュースなどを通して、現代の諸自治現象を論理的に分析する能力を養う。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義の目的、授業内容と進め方について。				
2	自治体と地方自治制度		テキストで講義し、適宜資料を配布する。授業への理解度を確認するために、毎回クイズを実施する。		「自治」、自治制度		
3	日本の地方自治制度の歴史				自治制度の歴史		
4	地方分権改革				地方分権改革		
5	都道府県と市区町村				都道府県、市区町村、政府体系		
6	自治体の政治機構				二元代表制、首長、議会		
7	行政統制と自治体改革				行政統制、自治体改革		
8	復習・課題		2～7回の復習のための課題を行う。		2～7回の復習		
9	自治体の政策と総合計画		テキストで講義し、適宜資料を配布する。授業への理解度を確認するために、毎回クイズを実施する。		政策、計画、基本構想		
10	政策法務と条例				政策法務、条例		
11	都市計画とまちづくり				都市計画、まちづくり		
12	公共事業と自治体				公共事業		
13	産業政策と地域振興				産業政策、地域振興		
14	時事問題						
15	復習・課題		9～14回の復習のための課題を行う。		9～14回の復習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				50	
小テスト・授業内レポート		○				10	
宿題・授業外レポート			○			10	
授業態度・授業への参加度		◎				30	
テキスト・参考文献等	テキスト：磯崎初仁他『ホーンブック 地方自治【改訂版】』北樹出版、2011年						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業に関するご質問・ご相談は、授業後またはメールで随時受け付けます。						

授業科目名	地域社会研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	2年
担当教員	田代英美						
授業の概要	地域社会の現状と課題を考察するための基礎知識および分析能力の獲得を目指す。今年度は、地方分権と市町村合併を中心的なテーマとして参考文献やデータの収集と整理を行う。前期は共通のテーマで討論することにより分析力を高めることが目標である。後期は、基礎知識と分析力に加えて、各自の問題意識を明確化して深めることを目標とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域社会の制度的枠組や近年の変化に関する基礎知識を習得している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域社会の現状や課題を資料に基づき論理的に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	地域社会の課題について深い関心を持ち、自らの問題意識を明確化することができる。					
	DP6：社会貢献力	地域社会の課題について、公共性の観点から解決策を考察することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	テーマに適切な資料収集とデータ収集を行い、分析することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	地域社会研究Ⅰ・Ⅱの進め方についてオリエンテーション						
2	前期のテーマ設定						
3~12	参考文献について担当を決めてレジュメを作成し、報告する。その報告に基づき、全員で討論する。						（事前課題）各自、担当部分についてレジュメを作成する。 （事後課題）討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。
13・14	バスツアー訪問先とインタビュー内容を検討する。訪問先に関する資料を収集する。						（事後課題）訪問先に関する資料を収集し、整理する。
15	バスツアーのフィールドノートを作成する。						（事後課題）フィールドノートを印刷する。
16	合同発表会での報告資料を作成する。						（事後課題）発表会報告資料を作成、印刷する。
17	地域社会研究合同発表会						
18	合同発表会のまとめ。各自のテーマについて検討する。						
19~29	各自のテーマにそって参考文献やデータを収集・整理し、レジュメを作成して報告する。						（事前課題）各自、担当部分についてレジュメを作成する。 （事後課題）討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。
30	地域社会研究Ⅰ・Ⅱで習得したことを各自でまとめる。						（事後課題）最終レポートを作成する。
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
		◎	◎	◎	◎	40	
宿題・授業外レポート		◎		◎		30	
授業態度・授業への参加度			◎			30	
受講者の発表（プレゼン）			◎			30	
テキスト・参考文献等	参考文献等は必要に応じて紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	地域社会研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	2年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	人文地理学の視点から、地域（社会）の現状と課題を理解するための基礎的な知識と考え方の習得を目指します。具体的には、①入門書的なテキストの輪読を通じて、人文地理学の基礎知識や分析の手法を学ぶ、②受講生の関心のあるテーマについて文献や統計資料を収集・整理し、発表する、③巡検（エクスカージョン）の企画と実施を通じて、景観観察や地域調査の手法を学ぶ、という3つの内容で進めたいと考えています。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域（社会）を見るツールとしての、人文地理学に関する基礎知識や分析手法について理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。					
	DP4：表現力						
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	地域（社会）の現状と課題に関心を寄せ、積極的に調査や分析、考察を行うことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	人文地理学の分析手法や地図表現の基礎を習得し、活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス：演習の内容と進め方について		演習 （野外実習含む）  ※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み合わせる場合があります。				
2	前期の内容に関する議論とテーマの設定						
3~12	テキストの輪読と内容に関する議論				（事前）担当部分についてのレジュメ作成と発表の準備 （事後）議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・分析・考察		
13・14	巡検の企画と情報収集				（事後）担当テーマに関する情報収集		
15	前期のまとめ、夏季休業中の課題設定						
16	各自の研究テーマの設定				（事前）取り組みたい研究テーマの検討 （事後）設定したテーマに関する文献や資料の収集		
17~20	巡検の準備・実施 （実施については課外の時間帯の場合もある）				（事前）担当テーマに関する情報収集とレジュメ作成 （事後）巡検で学んだ内容に関するレポート作成		
21~24	各自の研究テーマに関する文献や資料の収集・整理				（事前・事後）設定したテーマに関する文献や資料の収集や整理・データ分析等		
25~29	各自の研究テーマに関する報告とその内容に関する議論				（事前）レジュメ作成と発表の準備 （事後）議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・分析・考察		
30	1年間のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○	◎	40	
授業態度・授業への参加度			○	◎		40	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	○	20	
テキスト・参考文献等	テキスト：受講生の関心などを考慮して、学期開始後に指定します。 参考文献：適宜紹介していきます。						
履修条件	履修条件は特にありません。高校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。						
学習相談・助言体制	質問は演習の時間のほか、適宜受け付けます。可能な限り丁寧に対応したいと考えていますので、不明な点は早めに質問するようにしてください。						

授業科目名	地域社会研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	<p>本演習では、地域社会（に住まう人々）が抱える諸問題を分析し、考察する力を養う。前期は具体的なテーマを設定し、メンバー全員で作業を行う。ここで最も重要なのは、研究に係る基本的な形式・技法の習得である。資料を収集・分析し批判的な検討を行い、学期末に成果を報告する。後期は文献購読を行うとともに、各自の関心領域について報告する。各々が研究に係る基本的な形式・技法を身につけるとともに、問題意識を洗練させ、次年度以降に向け課題を明確にしていく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	研究に係る基礎的な形式・技法に関する知識を身につけている。各自の関心領域に関する基礎知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自らの関心領域に興味関心をもち、自ら調べ、考えることができる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的方法的に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス						
2	テーマの設定						
3~11	テーマに基づいて資料を収集しまとめ、分析を行い、結果について批判的に検討する。各自は担当部分について参考文献も参照しながらレジメを準備する。報告について全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理の仕方、パソコン操作、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。		担当部分について資料を収集し、分析を行い、レジメにまとめる。また、適宜エクスクーションを行う予定である。				
12~14	成果報告に向けて作業をする。		時間割外も成果報告に向けて作業をする。夏期休暇中の課題に取り組む。				
15	前期のまとめ、後期に向けた議論をする。夏期休暇中の課題を提示する。		担当部分についてレジメを準備する。				
16	ガイダンス。購読文献を決め、分担を決める。		担当部分についてレジメを準備する。				
17~23	文献購読を行う。各自レジメを準備する。文献購読のレジメ作りのコツを学ぶ。報告に基づいて全員で議論する。						
24~30	各自の関心領域について報告する。報告に基づいて後期の最終課題を指示する。最終回は後期の学習について全員で総括する。		各自報告したいことを勉強・調査し報告準備をする。最終課題に向けて引き続き作業する。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	40	
授業態度・授業への参加度			○	◎		40	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
補足事項	ゼミの取り組みに積極的に参加している者を高く評価する。報告（20％）、課題（40％）、議論への積極的な参加度（40％）。						
テキスト・参考文献等	テキストはメンバーの状況に応じて後で指定する。他、参考文献は適宜指示する。						
履修条件	遅刻、無断欠席は厳禁。						
学習相談・助言体制	演習の時間に行うが、適宜個別に時間を決めて面談を行う。一人ひとりの状況に応じて、課題の達成目標を設定する。						

授業科目名	地域社会研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	2年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	教育や教師の現状と課題を考察するための基礎知識および分析能力の獲得を目指す。前期は、履修者と協議の上、共通のテーマで討論することにより分析力を高める。後期は、基礎知識と分析力に加えて、各自の問題意識を明確化して深めることを目標とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育学に関する基礎知識を習得している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	教育の現状や課題を資料に基づき論理的に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	教育の課題について深い関心を持ち、自らの問題意識を明確化することができる。					
	DP6：社会貢献力	教育の課題について、公共性の観点から解決策を考察することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	テーマに適切な資料収集とデータ収集を行い、分析することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1	地域社会研究Ⅰ・Ⅱの進め方についてオリエンテーション						
2	前期のテーマ設定						
3~12	参考文献について担当を決めてレジュメを作成し、報告する。その報告に基づき、全員で討論する。		(事前課題)各自、担当部分についてレジュメを作成する。 (事後課題)討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。				
13	合同発表会での報告資料を作成する。		(事後課題)発表会報告資料を作成、印刷する。				
14	地域社会研究合同発表会						
15	合同発表会のまとめ。各自のテーマについて検討する。						
16~29	各自のテーマにそって参考文献やデータを収集・整理し、レジュメを作成して報告する。		(事前課題)各自、担当部分についてレジュメを作成する。 (事後課題)討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。				
30	地域社会研究Ⅰ・Ⅱで習得したことを各自でまとめる。		(事後課題)最終レポートを作成する。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				◎		30	
受講者の発表（プレゼン）			◎		○	50	
その他						20	
テキスト・参考文献等	上林陽治『非正規公務員の現在』日本評論社、2015年、菅原敏『今、心が苦しい先生へ』教育開発研究所、2015年、渡部淳『教育プレゼンテーション』旬報社、2015年、加藤昭吉『計画の科学』講談社BB、1965年、ジョッシュ・ウェイツキン『習得への情熱』みすず書房、2015年、中井久夫『戦争と平和』人文書院、2015年						
履修条件							
学習相談・助言体制	対応する。						

授業科目名	地域保健論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	樋口善之						
授業の概要	<p>少子高齢化やライフスタイルの変化に伴い、わが国の死因や疾病構造、健康課題も変化している。疾病の予防および健康の保持増進のためには、その適切な現状把握・評価と課題解決に向けたアプローチが必要である。この授業では、地域の健康を守り、増進させるための公衆保健・地域保健活動について解説し、集団における疾病予防の原理と健康増進のための環境及び社会の在り方について学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>社会学を中心とする社会科学の専門知識を身につけている。 異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。 社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解できる。 社会福祉学、心理学、教育学等、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識を身につけている。</p>					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	<p>公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	健康課題の歴史と現状		講義		テキスト第Ⅰ部の1（A）		
2	疫学概論Ⅰ - 過去の事例から疫学を学ぶ -		講義		テキスト第Ⅰ部の3		
3	疫学概論Ⅱ - 因果関係の考え方 -		講義		テキスト第Ⅰ部の3		
4	疫学概論Ⅲ - 疫学的研究方法 -		講義		テキスト第Ⅰ部の3		
5	国民衛生の動向Ⅰ 人口動態統計		講義		テキスト第Ⅰ部の2		
6	国民衛生の動向Ⅱ 疾病の動向		講義		テキスト第Ⅰ部の1（B）		
7	国民健康づくり運動の歴史と健康日本21		講義		テキスト第Ⅲ部の9（B）		
8	医療計画、二次医療圏、地域包括ケア		講義		テキスト第Ⅲ部の9（D）		
9	地域保健活動と関係法規		講義		テキスト第Ⅲ部の9（A）		
10	食品保健		講義		テキスト第Ⅱ部の6		
11	環境保健		講義		テキスト第Ⅱ部の5		
12	産業保健		講義		テキスト第Ⅲ部の13		
13	学校保健		講義		テキスト第Ⅲ部の12		
14	健康の社会的決定要因		講義		テキスト第Ⅰ部の1（C）		
15	まとめ		講義および討論		1～14回目までの配付資料		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎		○		60	
授業態度・授業への参加度		○		◎		30	
受講者の発表（プレゼン）		○		◎		10	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：松浦賢長ほか『コンパクト 公衆衛生学』第5版、朝倉書店、2013、2,900円 参考文献：厚生労働統計協会『国民衛生の動向 2015・2016』、厚生労働統計協会、2015、2,500円</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	質問・相談は授業前後に受け付ける。また、メール（yhiguchi@fukuoka-edu.ac.jp）でも可。						

授業科目名	地域計画論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
				講義	選択	2	3年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	現代日本の地方行政は、「総合計画」と呼ばれるさまざまな政策を盛り込んだ包括的なプランを頂点に、分野ごとの計画が策定され、これらの計画群をPDCA サイクルで実現に移していく、「計画行政」と呼ばれる仕組みで進められることが一般的です。本講義では、地方自治体の計画行政の仕組みについて概説するとともに、具体的な県や市などの計画を題材にして、現在の地方行政における主要な課題と政策や施策・事業を取り上げ、その現状と課題について検討していきます。可能な範囲で、担当教員が前職時代に策定に関与した行政計画についても紹介したいと思います。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方自治体における計画行政の仕組みや、そこで展開される政策や施策・事業についての知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域社会の現状と課題について自ら考え、それらの解決手法としての計画や政策のあり方についての的確に説明できる。					
	DP4：表現力						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション：講義内容の説明	原則として、オーソドックスな講義形式で進めますが、講義の後半部分では、作業課題に取り組む時間を設けたいと考えています。  ※受講生の関心や理解度に応じて、取り上げるテーマや順番を組み替える場合があります。			適宜、講義内容等の復習を行ってください。 また、学期中に中間レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。		
2	計画行政のしくみ（1）：政策・施策・事業と実施サイクル						
3	計画行政のしくみ（2）：地方自治体の総合計画と計画体系						
4	計画行政のしくみ（3）：国・地方の政府間関係と計画行政						
5	さまざまな地域計画（1）：都道府県の総合計画						
6	さまざまな地域計画（2）：市町村の総合計画①						
7	さまざまな地域計画（3）：市町村の総合計画②						
8	さまざまな地域計画（4）：コミュニティ計画と自治体の計画行政						
9	計画行政と分野別政策（1）：福祉・保健分野						
10	計画行政と分野別政策（2）：生活環境分野						
11	計画行政と分野別政策（3）：産業・経済分野						
12	計画行政と分野別政策（4）：都市基盤分野						
13	計画行政と分野別政策（5）：教育分野						
14	計画行政と分野別政策（6）：都市経営・地域自治分野						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
		◎	◎			50	
		◎	◎			20	
		◎	◎			30	
補足事項		定期試験については、レポートの形を採用することもあります。					
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。 参考文献：講義中に適宜紹介します。						
履修条件	履修条件は特にありませんが、作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご了承ください。予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。なお、本講義では地方行政の具体的な「中身」に関する内容を中心としますので、地方行政の基本的な仕組みなどの「制度」に関心のある方は、「地方自治論」などの講義も受講するようにしてください。						
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、適宜受け付けます。						

授業科目名	社会福祉計画論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	わが国では、特に1990年代以降、市町村を中心とした福祉サービスの提供システムが構築され、住民や民間事業者等の参加を得て市町村が策定する各種の「福祉計画」によって、サービスの基盤整備が進められている。そこで、この授業では、市町村を中心とする福祉行財政の仕組みと市町村等が策定する福祉計画の意義と実際について理解を深める。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方自治体（特に市町村）における福祉行財政の仕組みと、その実際について説明できる。福祉計画の意義・目的、種類・内容、方法等について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	福祉行財政と福祉計画の課題と、今後のあり方について考察できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション - 福祉行財政と福祉計画を学ぶ意義について -						
2	福祉行政とは - 福祉行政の定義とその範囲 -			参考文献① unit ①②を読む			
3	福祉行政の歴史と法制度 - 戦後の福祉行政の展開と社会福祉法 -			参考文献① unit ③④を読む			
4	福祉行政の実施体制（1） - 地方分権改革と福祉行政 -			参考文献① unit ⑥を読む			
5	福祉行政の実施体制（2） - 福祉行政の組織・機関と専門職 -			参考文献① unit ⑦を読む			
6	福祉行政の実施体制（3） - 社会福祉協議会と社会福祉法人 -			参考文献① unit ⑧⑨を読む			
7	福祉財政（1） - 福祉財政のしくみ -			参考文献① unit ⑤を読む			
8	福祉財政（2） - 福祉財政の動向 -			参考文献① unit ⑤を読む			
9	福祉計画とは何か - 福祉計画の定義、類型、歴史 -			参考文献① unit ⑩を読む			
10	各領域の福祉計画（1） - 高齢者福祉における計画 -			参考文献① unit ⑪を読む			
11	各領域の福祉計画（2） - 障害者福祉における計画 -			参考文献① unit ⑪を読む			
12	各領域の福祉計画（3） - 児童福祉・少子化対策における計画 -			参考文献① unit ⑫を読む			
13	各領域の福祉計画（4） - 地域福祉における計画 -			参考文献① unit ⑫を読む			
14	福祉計画の理論と技法 - 福祉計画の策定・実施・評価の過程と技法 -						
15	福祉行財政と福祉計画のこれから						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
試験		◎				85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しない。 参考文献： ①畑本裕介『社会福祉行政－行財政と福祉計画』，法律文化社，2012年 ②社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 第4版』，中央法規出版，2014年						
履修条件	社会福祉学概論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等により随時質問を受け付ける。						

授業科目名	国際政治学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	岡本雅享	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	国際政治は国家と国家の駆け引きのように思われがちだが、この講義では一般の、特に世界システムの中で弱い立場に置かれた人々の視点から国際政治をみていく。定期的にBBC World News, "This Week" (今週を振り返って) を見て、進行中の国際問題に関心を持ち、日本のメディアの報道との違い等から、多角的な視点を培う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	現代国際政治を理解する基礎をみにつける。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	国際政治に深い関心を持ち、主体的に学習できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習 (学習課題)		
1	平和学と人間の安全保障 (講義の概要)	講義			配付資料、課題を読む		
2	グローバリゼーションと相互依存	講義			同上		
3	構造的暴力と南北問題①	講義			同上		
4	構造的暴力と南北問題②	講義			同上		
5	消極的平和と積極的平和	講義			同上		
6	国際平和と人権	講義			同上		
7	グローバルガバナンス—ポスト冷戦後の世界会議	講義			同上		
8	国際政治と難民問題	講義			同上		
9	難民問題と UNHCR	講義			同上		
10	イスラエル・パレスチナ問題	講義			同上		
11	9.11 後の世界と日本	講義			同上		
12	時事問題	講義			同上		
13	戦後国際経済体制と債務国問題	講義			同上		
14	経済のグローバリズムと政治	講義			同上		
15	国際政治と NGO	講義			同上		
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	40	
期末レポート		○	○	○	○	15	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
テキスト・参考文献等	長有紀枝『入門人間の安全保障』中公新書						
履修条件	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答 (次回講義時) 他。						

授業科目名	多文化社会論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	前半は、同質だと思われがちな日本人内部の多様性について、民族概念の発生や文化、言語、宗教の観点から考え、後半は近代国家形成以降、日本に加わった琉球、アイヌ、在日コリアンと1980年代以降増加した難民、移民の観点から、日本の多民族社会化を考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	多文化社会と多文化主義（講義の概要）		講義		配付資料、課題を読む		
2	言語の多様性：ドラマ「国語元年」が問いかけるもの		講義		同上		
3	日本人の民族宗教とは：ウタキと神社はどう違うか		講義		同上		
4	列島文化の多様性—島国観再考		講義		同上		
5	混合民族論の時代		講義		同上		
6	企業社会と同質意識の広がり		講義		同上		
7	地域の歴史、文化、言語の復興運動①東北		講義		同上		
8	地域の歴史、文化、言語の復興運動②南九州		講義		同上		
9	欧米の多文化主義		講義		同上		
10	中国の多民族政策		講義		同上		
11	アイヌ民族の承認と文化振興法		講義		同上		
12	在日コリアン—4世、5世の外国人とinvisible minority		講義		同上		
13	難民と移民の到来		講義		同上		
14	ゼノフォビアと歪んだ人種主義		講義		同上		
15	多文化社会・日本		講義		同上		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	20	
期末レポート		○	○	○	○	35	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
テキスト・参考文献等	岡本雅享『民族の創出』岩波書店、『マイノリティの権利とは—日本における多文化社会の実現に向けて』解放出版社						
履修条件	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。						

授業科目名	世界地理		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	中里 亜夫						
授業の概要	<p>本講義では、世界の中のアジア諸国を対象にした世界地理（動態的地誌）の講義である。21世紀は「アジアの世紀」となると考えるからである。講義では、アジアを5つの地理区分に従い、研究書や新聞記事、インターネット等を利用し、できるだけ現在のダイナミックなアジアを講義する。東南アジアでは、主にマレーシアとフィリピン、南アジアでは、授業者の研究対象国インドを中心に都市・農村関係を軸に講義することで、動態地誌の有効性を示し、それとの関連でパキスタンを扱う。中近東諸国は、アラブ首長国連邦とトルコ及び産油国を扱う。そしてアジアでは中国と韓国、そして最後にグローバル化するアジアと日本のテーマで締めくくる。なお、授業にはPowerPointを利用する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	国際共生にかかわる基礎的な素養を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	グローバル化と第三世界		講義		配付した『アジア地誌資料集』を読む。		
3	東南アジア		講義		『アジア地誌資料集』の東南アジア及びインターネットで場所・地形などの確認		
4	1) マレーシア、シンガポール		講義				
5	2) フィリピン、ベトナム 3) インドネシア		講義と討論				
6	南アジア		講義		『アジア地誌資料集』の南アジア及びインターネットで場所・地形などの確認		
7	1) 北インド		講義				
8	2) 南インド 3) パキスタンとバングラデシュ		講義と討論				
9	西アジア及び中央アジア		講義		『アジア地誌資料集』の西アジア及びインターネットで場所・地形などの確認		
10	1) アラブ首長国連邦（主にドバイ）		講義と討論				
11	2) トルコ 3) カザフスタン		講義				
12	東アジア		講義		『アジア地誌資料集』の東アジア及びインターネットで場所・地形などの確認		
13	1) 沿岸部中国		講義と討論				
14	2) 内陸部中国 3) 韓国		講義と討論				
15	まとめーグローバル化する東アジア		講義と討論		レポート作成		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
本試験			◎				50
ミニテスト・質疑応答			◎				20
講義への参加度			○				30
補足事項		本試験（50点）、ミニテスト・質疑応答（20点）そして講義への参加度（30点）とする。評価は90点以上をA、80点台はB、70点台はC、60点台はDとする。そして60点に満たない場合は不可とする。					
テキスト・参考文献等	<p>テキストは、中里作成の『アジア地誌資料集』を使用する。その他には、参考文献として、熊谷・西川編（2000）：『第三世界を描く地誌』古今書院、バーンウエル著・古賀正則監訳（1996）：『第三世界の人口移動』古今書院の他、新聞やインターネットなどを利用する。その他は、適宜指示する。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。						

授業科目名	東アジア関係史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	東アジアの国際関係において、歴史認識のギャップが、大きな問題となっている。その原因となる近現代を中心に、東アジア関係史をひも解いていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会科学的方法的に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	東アジアとは？（講義の概要）		講義		配付資料、課題を読む		
2	東アジア関係の現在と人々の交わり		講義		同上		
3	日本と朝鮮半島（古代の交流）		講義		同上		
4	中世、近世の日朝関係（壬申倭乱と朝鮮通信使）		講義		同上		
5	東アジアの伝統的国際秩序（琉球弧の視座）		講義		同上		
6	日清・日露戦争と韓国併合		講義		同上		
7	辛亥革命と中華民国の樹立		講義		同上		
8	1910～20年代の東アジア（満蒙と中朝日）		講義		同上		
9	満州事変から日中戦争へ		講義		同上		
10	アジア太平洋戦争と植民地支配		講義		同上		
11	第二次大戦の終結と植民地解放・バンドン会議へ		講義		同上		
12	1960年代頃の東アジア（日韓条約、中ソ対立）		講義		同上		
13	日中・日台・中台関係（日華条約と日中国交正常化）		講義		同上		
14	1970年代頃の東アジア（沖縄返還、中韓国交樹立）		講義		同上		
15	中国の改革開放と韓国・台湾の民主化、ポスト冷戦時代の東アジア		講義		同上		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	36	
期末レポート		○	○	○	○	19	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
テキスト・参考文献等	川上真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会						
履修条件	講義中間いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。						

授業科目名	韓国の社会と文化		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)						
授業の概要	韓国の映画やドキュメンタリーなどの映像資料を交えながら、韓国の社会と文化を概観する。隣の国、韓国の人々は、歴史の流れの中で「今日」という時間をどのように生きているのかを共に考える授業を目指す。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	韓国の社会と文化に関する基本的な知識を学ぶことができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、結論を見出すことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国の社会と文化を学ぶ過程の中で、日本を見つめ直す機会を得られる。</li> <li>隣の国、韓国に関する知識や理解を深めることができる。</li> <li>様々な観点から自己と他者、また自己と他者との関係を考える視点を身につけられる。</li> </ul> <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国の映画やドキュメンタリー番組などの映像資料を視聴し、それについて、一緒に考える時間を設ける。</li> <li>授業中配布する資料を通して韓国に関する基礎知識や理解を深める。 (内容は以下の通りである：世宗大王とハングル、韓国料理、食事作法、住宅事情、誕生日と記念行事、伝統スポーツ、伝統衣装の韓服、韓国の結婚式、韓国人の感情表現、祝日と記念日、韓国の物価、韓国の交通、韓国人の姓、宗教と信仰生活、韓国人の生活、教育制度、兵役の義務など)</li> <li>授業中は、伝統衣装（韓服）の試着、伝統遊びの体験など韓国の文化を直に体験できる。</li> </ul> <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国に関する映像や配布資料を参考に、議論する時は、常に日本との共通点・相違点を意識する中で、自分なりの結論を出せるよう努める。</li> </ul>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
期末レポート		◎	◎			50	
毎回の授業でのコメント		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			20	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：初回の授業にて提示する。						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						

授業科目名	中国の社会と文化		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1・2年
担当教員	郝 晓 卿						
授業の概要	本講義の目的は近現代における中国の政治や社会、文化などの紹介により、中国への理解を深め、社会人として欠かせない国際的感覚と国際共生の意識を養うことに貢献することにある。そのために、まず、中国の概況（地理、歴史、政治等）を紹介する。次に、中国の政治と社会問題を中心に分析する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	中国の地理や歴史、文化などの概況を知る。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	中国の政治制度と改革に伴う社会問題（経済格差、環境悪化、人口爆発、教育格差等）を考える。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	中国を理解することにより、日本としては、どのように中国と共生していくのかを考える。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション 中国の概況			資料の配布と説明			
2	中国の国家体制①概況 人口、民族、言語、文化等の紹介			同上			
3	中国の国家体制②政治体制と国家制度 政治制度の説明			同上			
4	中国の国家体制③政治体制と国家制度 同上			同上			
5	中国の外交政策 建国以来の外交政策の説明			同上			
6	中国の経済① 中国経済の歩みを紹介			同上			
7	中国の経済② 中国経済の問題点を分析			同上			
8	現代中国の地域格差 経済改革に伴う地域格差を紹介			同上			
9	失業、雇用、格差の問題 失業等の問題とその対応策			同上			
10	人口問題 建国以来の人口問題と対応策			同上			
11	社会保障の問題 社会保障の歩みと改革の現状			同上			
12	女性問題を中心に 歴史の歩みの中での女性観と政策の変化			同上			
13	環境問題 高度成長に伴う環境問題の深刻化とその対応			同上			
14	中国の民族問題 中国の民族政策とその問題点			同上			
15	宗教の問題 中国における宗教活動の現状と宗教政策			同上			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			80	
宿題・授業外レポート			○			10	
授業態度・授業への参加度		○				10	
補足事項		1、授業の進度状況により、授業の内容は多少変更をする場合がある。2、授業への参加度は3分の2が最低限。					
テキスト・参考文献等	1、随時プリントと必要資料を配布他の参考可能な文献 2、『中国近現代史』小島晋治、岩波新書						
履修条件	1. 授業の出席が三分の二以上でなければならない 2. 講義でメモをとること						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業以外に、メールやオフィス・アワーなどで対応。気軽に質問してください。						

授業科目名	イスラム社会論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	田中哲也	後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	中東、アフリカから南、東南、中央アジアの理解にとり不可欠な宗教であるイスラム教について、その誕生と確立、原理と教義における特徴、歴史的展開を解説しながら、「宗教」としてのイスラムの性格・特徴について論じた上で、近現代におけるイスラム社会の諸問題とイスラム復興とその影響を世界情勢も含めながら論じることを通して、イスラムの原理とそれが国際社会に与えている影響について包括的に開設する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	国際社会におけるイスラムという宗教がもたらす					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代国際社会において					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	イスラム社会への招待	授業ごとに資料を配布し、パワーポイントを使用して講義を行う。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。			適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行っておく。		
2	一神教の世界						
3	イスラムの出現						
4	イスラム世界の拡大						
5	イスラムの体系化						
6	イスラムの中世						
7	イスラム社会の異人						
8	中間要約	第1-7回講義の要約			第1-7回講義の復習		
9	イスラム社会と西洋の衝撃	授業ごとに資料を配布し、パワーポイントを使用して講義を行う。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。			適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行っておく。		
10	植民地主義下のイスラム社会						
11	民族主義と国民国家						
12	中東問題						
13	イスラム復興運動						
14	グローバリゼーション下のイスラム社会	第9-14回講義の要約			第9-14回講義の復習		
15	最終要約						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	◎				
宿題・授業外レポート			○				
授業態度・授業への参加度				◎			
テキスト・参考文献等	毎回資料を配付する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	コメント・質問用紙、オフィスアワー、メールにより行う。						

授業科目名	文化人類学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	宮本 聡						
授業の概要	<p>文化人類学 A では、公共社会学科の国際系の科目として、文化人類学の基礎を身につけ、文化の多様性とグローバルな状況を適切に理解することをめざす。また、文化人類学を通じて異文化間の相互理解及び他者理解に向けた課題について考える。</p> <p>前期は、①文化人類学の基本的な知識と考え方について学び、②文化の多様なあり方を環境や生業、信仰などとの関係から学ぶ。また③現在生起している新しい文化社会状況を文化人類学の視点からどのように捉えうるのかについて考える。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	文化人類学の基本的な知識と考え方を身につけ、文化や価値観の多様性とその背景について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会のなかで起きている「文化」をめぐる新しい状況について理解し、異文化間の相互理解に向けた課題と自らとるべき姿勢について考えることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	文化人類学とは何か		講義・映像・小レポート		（以下調べておくキーワード）		
2	文化人類学の歴史		講義・小レポート		植民地、文化収集		
3	文化人類学の方法		講義・小レポート		フィールドワーク		
4	文化の多様性—人間と環境		講義・小レポート		環境適応		
5	文化の多様性—家族、親族、コミュニティ		講義・小レポート		家族、コミュニティ		
6	文化の多様性—生業		講義・映像・小レポート		牧畜、漁撈、農耕		
7	文化の多様性—人生と通過儀礼		講義・映像・小レポート		通過儀礼		
8	文化の多様性—宗教、信仰、世界観		講義・映像・小レポート		信仰、世界観		
9	文化の多様性—健康、病気、医療		講義・映像・小レポート		病気、治療		
10	文化人類学の現在—文化と他者		講義・小レポート		他者、「文化を書く」		
11	文化人類学の現在—新しい文化人類学の展開		講義・小レポート		文化相対主義		
12	現代社会と文化人類学—伝統の行方		講義・小レポート		伝統		
13	現代社会と文化人類学—文化をめぐる葛藤		講義・小レポート		アイデンティティ		
14	現代社会と文化人類学—公共と文化人類学		講義・小レポート		公共人類学		
15	まとめ		講義・小レポート		以上全範囲		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
テキスト・参考文献等	<p>参考文献：奥野克巳・花潤馨也（編）『文化人類学のレッスン』、学陽書房、2005。          波平恵美子（編）『文化人類学【カレッジ版】』、医学書院、2012。          山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード』、有斐閣、2008。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	講義前・講義後の空き時間を活用する。質問や相談はEメールやレスポンスカード（小レポート）でも受け付ける。回答はメールもしくは講義の中でおこなう。						

授業科目名	文化人類学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	宮本 聡						
授業の概要	文化人類学 A で文化人類学の基本的な考え方や文化を巡る現代の状況を学んだ上で、文化人類学 B においては文化人類学の現地調査の手法やあり方を中心に学ぶ。この科目は社会調査士の資格取得科目にもなっている。講義では、主に①文化人類学的調査の技法、②調査の持つ有効性と課題、および③文化人類学の主要トピックとその調査といった点を、映像や資料などを交えながらフィールドワークの具体例から学ぶ。なお、受講者による課題設定や発表など主体的な参加も想定している。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	文化人類学の調査方法および技術、その基本的な考え方について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自らの関心にあわせて文化人類学的視点から適切な課題を設定することができる。					
	DP4：表現力	課題に対して適切な調査の方法や目的を設定し、提示することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	調査を通じて得られたデータを文化人類学的視点から考察、分析できるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	文化人類学とその方法		講義・小レポート		(以下調べておくキーワード)		
2	文化人類学とフィールドワーク		講義・小レポート		文化人類学		
3	フィールドワークと現場		講義・映像・小レポート		フィールドワーク		
4	文化人類学と質的研究		講義・小レポート		質的研究		
5	エスノグラフィー		講義・小レポート		エスノグラフィー		
6	インタビュー、聞き取り、ライフヒストリー		講義・映像・小レポート		インタビュー、ライフヒストリー		
7	参与観察		講義・映像・小レポート		参与観察		
8	習得、体得する		講義・映像・小レポート		習得、体得		
9	記録・分析する		講義・映像・小レポート		フィールドノーツ		
10	フィールドワークの課題		講義・小レポート		インフォーマント		
11	フィールドワーク①		講義・小レポート		身の回りのフィールド		
12	フィールドワーク②		講義・小レポート		儀礼		
13	フィールドワーク③		講義・小レポート		日常生活、信仰		
14	フィールドワーク④		講義・小レポート		データ		
15	まとめ		講義・小レポート		以上全範囲		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎		○	40	
小テスト・授業内レポート		○	○		○	20	
宿題・授業外レポート		○	◎		◎	30	
授業態度・授業への参加度		○	○		○	10	
テキスト・参考文献等	参考文献：鏡味治也、関根康正、橋本和也、森山工 [編] 『フィールドワーカーズ・ハンドブック』、世界思想社、2011。 菅原和孝 [編] 『フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門』、世界思想社、2006。						
履修条件	文化人類学 A を履修していること。						
学習相談・助言体制	講義前・講義後の空き時間を活用する。質問や相談は E メールやレスポンスカードでも受け付ける。回答はメールもしくは講義の中でおこなう。						

授業科目名	国際教育文化交流論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	高 仁 淑		後期集中	講義	選択	2	3年
授業の概要	「国際教育文化交流論」では、東アジアを中心とした地域社会と教育の現状について理解を深めるとともに、その課題と論点について国際・比較教育文化交流学的な視点から事例を紹介します。そして海外調査の事例から国際化・国際協力のあり方を考えます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	国際化の多義的な概念理解やグローバル化の国際教育文化交流を体系的に学べます。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	国際共存問題、国際協力のあり方や真の国際交流を考察するようになります。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	国際教育文化交流とは何か		講義		資料配布しますので、読んでおくことをおすすめします。		
2	国際化と教育		講義及び対話型		〃		
3	東アジアの交流の現状		講義及び対話型		〃		
4	日韓文化論の概要		講義及び対話型		〃		
5	グローバル化と国際交流		講義及び対話型		〃		
6	グローバル化と留学生		講義及び対話型		〃		
7	グローバル化と教育移民		講義及び対話型		〃		
8	OECD 参加国の少子・高齢化の問題		講義及び対話型		〃		
9	子育て支援：保育・幼児教育の現状と政策（OECD 比較検討）		講義及び対話型		〃		
10	世界学力調査と教育改革の動向		講義及び対話型		〃		
11	民族共生と国際教育		講義及び対話型		〃		
12	ライフスタイルの変化と家族の国際化		講義及び対話型		〃		
13	国際結婚と多文化家族		講義及び対話型		〃		
14	地域社会における国際交流		講義及び対話型		〃		
15	総まとめ		講義及び対話型		〃		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			70	
その他		○	○			30	
補足事項	文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます。						
テキスト・参考文献等	初回に適宜紹介し、資料を配付します。 文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	その都度対応します。						

授業科目名	国際共生研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	2年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	国際共生に関わる社会事象のうち、平和学、国際政治、民族学（Ethnic Studies）、東アジア地域研究、国連活動などに興味のある学生でゼミを構成することになると思うが、具体的なテーマや輪読する文献などは、ゼミ生と相談して決める。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心を持ち、主体的に学習できる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的方法的に的確に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 授業内容 ①各自研究テーマ・計画の設定・検討と調査・報告、②文献輪読、③資料の探し方、まとめ方、④グループ研究等の中から、ゼミ生の希望に応じて組み合わせていく。調査・研究計画の立て方、資料の集め方（大学内外の図書館、インターネットでの検索・閲覧）、連絡方法（アポ取りや電話のかけ方）、コピーのとり方、レジメの作り方、プレゼンや議論の仕方、文献読解と要約、論文の書き方などのノウハウも身に付けられるようにしていく。</p> <p>2. 授業方法 演習。文献輪読、個人報告では、報告者（発表者）の他に、司会、コメンテータを割り当てるなど、全員参加型を心がける。</p> <p>3. 事前・事後学習 各人の担当を事前準備する</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
調査・発表		○	◎	◎	○	50	
ディスカッション		○	◎	◎	◎	50	
テキスト・参考文献等	ゼミ生と協議して決める。						
履修条件	具体的な問題関心、調査・研究したいテーマを持っていることが受講の前提。ただし研究を進める中でテーマが変化するのは構わない。						
学習相談・助言体制	授業終了後または個別研究室訪問で対応する。						

授業科目名	国際共生研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	2年
担当教員	佐野麻由子						
授業の概要	本授業では、文献講読、レジユメの作成・報告、ディスカッションを通して研究活動に必要な知識および方法や技能を習得することを目指す。「日本を通して世界を知る/世界を通して日本を知る」というテーマを設定し、格差、ジェンダー不平等、文化変容を題材に学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会学、社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	格差、不平等、文化変容が生じる背景を社会学の知識や方法を用いて説明ができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会の問題に深い関心を持ち主体的に学習できる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	格差、不平等、文化変容についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
	<p>授業では、毎回全員が文献を読み、議論に参加することが求められる。毎回、レジユメ報告担当者を設定し、報告者の出した論点をもとにディスカッションを行う。</p> <p>第3回～15回は、グローバル化と格差、ジェンダー不平等、文化変容に関連した社会学の基礎文献を講読し、議論する。</p> <p>第16回目以降は、研究テーマの設定方法、論文の書き方、文献・資料の探し方についても学ぶ。第16回～25回では、各自、研究テーマを設定し、研究テーマに関連する文献のレジユメを作成し報告、議論を行う。第26回～30回では、各自の研究成果について報告する。なお研究成果は、最終レポートとして授業最終回に提出を求める。</p> <p>第1回：ガイダンス、自己紹介  第2回：各自の研究関心についての報告  第3回～15回：基礎文献の講読  第16回～25回：各自の研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献の講読およびレジユメの報告。  第26回～30回：研究成果の報告</p>		演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックな論文執筆のルールを確認する。</li> <li>・図書館等での文献探索方法を確認する。</li> <li>・文献メモを作成する。</li> </ul>		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
演習		○	○	○	○	60	
授業外レポート		○	○	○	○	40	
補足事項		報告や討論を含む授業への参加態度（60%）、最終レポート（40%）を総合的に判断したうえで評価を行う。					
テキスト・参考文献等	初回授業時に参加者と相談し講読文献を決定する。						
履修条件	具体的な問題関心や研究したいテーマを持っていることを前提条件とする。 遅刻や無断欠席をしないこと。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。						

授業科目名	国際共生研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	2年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	<p>本授業では「日本と韓国の若者雇用問題」を労働経済学と人的資源管理の観点からアプローチする。同じ儒教文化・漢字文化を持っている日本と韓国、その日韓両国における若者雇用問題を比較分析することによって、日本の特徴がより明確になる。前半は、非正規職の増加を雇用形態の多様化から検討し、労働供給側と労働需要側に分けてそれぞれの経済的合理性を分析する。そして後半は、企業の人的資源管理の変化が若年雇用をどう変えたのかについて分析する。日韓企業の経営管理の違いや人的資源管理の違いから日韓両国の若年雇用問題の違いを説明する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	労働経済学からの諸理論から今の雇用問題を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日韓企業の経営管理・人的資源管理の特徴から日韓両国の若年雇用問題が分析できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	若年雇用問題を克服するための効果的な政策が提案できる。					
	DP6：社会貢献力	国際学术交流を通じて、国際市民としての生き方や役割が理解できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	雇用分野から問題点を取り出して、分析し、対応策を提示しながら結論付けられる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 授業内容  前半は労働経済学からのアプローチである。日本と韓国における労働市場の変化とライフスタイルの変化を取り上げ、労働需要側と労働供給側から分析する。また日韓両国の文化について調べ、発表する。  後半は企業経営・人的資源管理からアプローチする。日韓企業の経営スタイルや経営管理について比較分析する。日本と韓国を代表する企業を取り上げ、企業分析を行い、発表する。  夏休み期間中の8月には、「日韓大学生の学術シンポジウム」に参加し、発表・討論する。  The 18<sup>th</sup> Japan-Korea Youth Forum : Conference of Business and Social Association  - 日 程：8月22日～26日、4泊5日  - 場 所：韓国ソウル市（明知大学、漢陽大学、淑明女子大学）  - 参加大学：（韓国）明知大学、漢陽大学、淑明女子大学、安東大学、（日本）慶應義塾大学、関西学院大学、山口大学、小樽商科大学  - 主 催：BSOAP（Business &amp; Social Organization for Asia and Pacific）</p> <p>2. 授業方法  演習：関連文献を輪読し、順番で発表、ディスカッションする。</p> <p>3. 事前・事後学習  授業の前に必ず文献を読んでくること。担当部分については発表の準備をすること。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○	○	◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○	◎	50	
演習		○	○	○		30	
テキスト・参考文献等	授業の時に指示する。						
履 修 条 件	特にないが、経済学を履修した上、労働経済学を同時履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	NPO論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐野麻由子	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>今日、市民組織（NPO/NGO）、営利組織（企業）、政府組織の協働のあり方が議論されている。これらの主体はそれぞれどのような特徴をもつのか、どのように協働していくことができるのか。本授業では、非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行う市民組織（NPO/NGO）の歴史的展開、活動の特徴を他の主体との比較を通し理解した上で、協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。					
	DP4：表現力	NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	日本だけでなく、世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～5	<p>NPO/NGOの学問的把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO/NGOとはどのような組織を指すのか？</li> <li>● 社会運動、市民運動の役割</li> <li>● 3つの社会セクター</li> <li>● 公共・公益・対抗的相補性</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・講義後のリアクションペーパーの提出</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料の復習をする。</li> <li>・新聞記事を読む。</li> <li>・レポート執筆のための書籍、事例を収集する。</li> </ul>		
6～10	<p>NPO/NGOの現状を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界のNPO活動（役割）、経営状況、人材</li> <li>● 日本のNPO活動（役割）、経営状況、人材</li> <li>● 都道府県別のNPO活動状況</li> </ul>						
11～15	<p>今日の3つの社会セクター：官、民、市民領域の重なり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO/NGOの国際比較からみえるもの</li> <li>● NPO/NGOの組織形態を決める要因</li> <li>● 社会的事業</li> <li>● 社会的企業</li> <li>● CSR、BOPビジネス</li> <li>● 今日の官、民、市民の協働</li> </ul>						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内レポート		○	○	○	○	40	
授業外レポート		○	○	○	○	60	
補足事項		出席、講義中での質問／リアクションペーパーの提出（40%）と最終レポート（60%）で評価する。評価は90点以上をA、80点台はB、そして70点台はC、60点台はDとする。そして60点に満たない場合は不可とする。					
テキスト・参考文献等	参考文献：原田・藤井・松井編、2010、『NPO再構築への道』勁草書房。						
履修条件	積極的に学ぶ姿勢があることを前提条件とする。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。						

授業科目名	国際協力論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	佐野 麻由子						
授業の概要	本講義では、国家間の格差、一国社会内の格差が生じるメカニズムについての社会科学のアプローチを学んだ上で、国際協力に関わる官、民、市民の取り組み、今日の国際協力の可能性と課題を理解する。講義内では、国際協力に携わる実務者（JICA や NGO 等）を招聘し、受講生との対話の機会をもうける予定である。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	開発社会学、開発経済学を中心とする社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	開発の課題を論理的に説明し、対応策（よりよい開発援助プロジェクト）を提案できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	先進国、途上国双方の問題に深い関心をもち主体的に学習できる。					
	DP6：社会貢献力	開発課題を解決する能力を高め、社会にはたらきかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	開発社会学、開発経済学についての先行研究、世界規模の格差のマクロデータ、国際協力に関する各種の資料を適切に収集できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1・2	国際協力とは ・誰が何のために何をすること？ ・いつから始まった？		・講義 ・講義後のリアクションペーパーの提出		・配布資料の復習をする。 ・新聞記事を読む。 ・レポート執筆のための書籍、事例を収集する。		
3～6	国際協力で対峙する課題 ・シヤンパングラスのような世界 ・途上国はなぜ途上国なのか？ ・不公正な貿易制度						
7～10	よりよい国際協力を実現させるために ・持続可能な開発 ・参加型開発 ・地域資源、見えない資源の活用						
11・12	今日の国際協力 ・BOP ビジネス ・「地域を元気にする国際協力」						
13・14	よりよい国際協力を考える～ 実務者との対話						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内レポート		○	○	○	○	40	
授業外レポート		○	○	○	○	60	
補足事項	出席、講義中での質問／リアクションペーパーの提出（40%）と最終試験（60%）で評価する。評価は90点以上をA、80点台はB、そして70点台はC、60点台はDとする。そして60点に満たない場合は不可とする。						
テキスト・参考文献等	佐藤・浜本・佐野・滝村編、2015、『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店。						
履修条件	国内外の社会的問題や国際協力に関心をもち、積極的に学ぶ姿勢があることを前提条件とする。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。						

授業科目名	外書講読 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	田中哲也						
授業の概要	<p>ネット上にある膨大な英語による情報やデータベースなどからわかるように、グローバル化の進む現在、専門教育を学ぶために、職業人として生活していく上で、英語を通して世界の知識や情報にアクセスできることが不可欠となっています。</p> <p>本授業ではグローバル化をテーマとした資料を読むことを通して、グローバル化の状況を理解するとともに、英語を通して知識や情報をえるためのスキルや能力の習得を目的とします。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	英語による情報についての知識をえることができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	専門教育に必要な英語文献の翻訳力を強化する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	授業内容・方法へのイントロダクション						
2・3	プレイズメント授業		英語力、関心領域等により授業方法を確定する。		配布された資料を翻訳してくる。		
4・5	文献・インターネット上の資料の検索・入手方法学習と実践		学内 LAN 使用		各人の関心テーマについての資料収集をする。		
6	英文資料利用法学習と前期講読資料選定		パワーポイント使用				
7~9	資料（1）講読		資料の全訳あるいは部分訳を行う。		事前に各自が資料（1）を翻訳しておく。		
10	資料（1）の講読の要点の確認						
11~13	資料（2）講読		資料の全訳あるいは部分訳を行う。		事前に各自が資料（2）を翻訳しておく。		
14	資料（2）の講読と要点の確認						
15	全授業の要約		ポイントの復習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				◎		50	
演習		○	○	◎		50	
テキスト・参考文献等	受講生の英語能力と関心、そして進度にあわせてさまざまな英文資料を適時指定あるいは配布する。						
履 修 条 件	事前に予習してくることができることを前提とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに加え、メールによる質問、相談を行う。						

授業科目名	外書講読 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	田中哲也						
授業の概要	<p>ネット上にある膨大な英語による情報やデータベースなどからわかるように、グローバル化の進む現在、専門教育を学ぶために、職業人として生活していく上で、英語を通して世界の知識や情報にアクセスできることが不可欠となっています。</p> <p>本授業ではグローバル化をテーマとした資料を読むことを通して、グローバル化の状況を理解するとともに、英語を通して知識や情報をえるためのスキルや能力の習得を目的とします。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	英語による情報についての知識をえることができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	専門教育に必要な英語文献の翻訳力を強化する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	授業内容・方法へのイントロダクション						
2・3	プレイズメント授業		英語力、関心領域等により授業方法を確定する。		配布された資料を翻訳してくる。		
4・5	文献・インターネット上の資料の検索・入手方法学習と実践		学内 LAN 使用		各人の関心テーマについての資料収集をする。		
6	英文資料利用法学習と前期講読資料選定		パワーポイント使用				
7~9	資料（1）講読		資料の全訳あるいは部分訳を行う。		事前に各自が資料（1）を翻訳しておく。		
10	資料（1）の講読の要点の確認						
11~13	資料（2）講読		資料の全訳あるいは部分訳を行う。		事前に各自が資料（2）を翻訳しておく。		
14	資料（2）の講読と要点の確認						
15	全授業の要約		ポイントの復習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度				◎		50	
演習		○	○	◎		50	
テキスト・参考文献等	受講生の英語能力と関心、そして進度にあわせてさまざまな英文資料を適時指定あるいは配布する。						
履 修 条 件	事前に予習してくることができることを前提とする。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーに加え、メールによる質問、相談を行う。						

授業科目名	哲学要論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	神谷英二						
授業の概要	<p>社会の仕組みや価値観が急速に変化し、これまでの先例や常識だけに頼ってはいは、充実した豊かな社会生活を送ることも、職場において質の高い専門的な業務をすることも難しくなりつつある。現代社会の仕組みや価値観を当然とせず、異なった視点から見るためには、現代とは異なった社会の仕組みや価値観を知ることが重要である。この授業では、ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』をテキストとし、西洋哲学史のうち古代ギリシア、中世、近代の始まりを取り上げ、学生による報告や討論を交えつつ講義を展開する。これにより、社会学に関連する基礎知識として西洋哲学史の基礎を学び、それとともに学生が先例や常識だけに頼ることなく、自分自身で現代社会における問題を発見・探究・解決するための基礎的能力を養うことをめざす。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	西洋哲学史における思考法に関する基礎知識を獲得する。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	先例や常識だけに頼らず、自分自身で現代社会における問題を発見・探究・解決するための基礎的能力を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文				
2	ギリシアの自然哲学者（1）神話的思考と合理的思考		『ソフィーの世界』を丁寧に読む。担当者が報告（テキストのまとめ）を行い、その内容についての討論を行う。		テキスト p.33-79 を予習		
3	ギリシアの自然哲学者（2）ミレトスの人々						
4	ギリシアの自然哲学者（3）存在と変化		小レポート（第1回）				
5	アテナイの3人の知恵と学（1）ソクラテス				テキスト p.80-106 を予習		
6	アテナイの3人の知恵と学（1）ソクラテス		小レポート（第2回）				
7	アテナイの3人の知恵と学（2）プラトン				テキスト p.107-126 を予習		
8	アテナイの3人の知恵と学（2）プラトン						
9	アテナイの3人の知恵と学（3）アリストテレス				テキスト p.139-160 を予習		
10	アテナイの3人の知恵と学（3）アリストテレス		小レポート（第3回）		学期末レポートの作成を開始すること。		
11	2つの文化圏				テキスト p.194-212 を予習		
12	中世の哲学と大学		小レポート（第4回）		テキスト p.213-241 を予習		
13	近代のはじまり（1）ルネサンス				テキスト p.242-275 を予習		
14	近代のはじまり（2）デカルト		小レポート（第5回）		テキスト p.297-312 を予習		
15	復習とまとめ		学習内容全体についての復習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内小レポート		○	◎	◎		20	
受講者の報告			◎	○		20	
授業態度・授業への参加度				○		20	
学期末レポート		◎	◎	◎		40	
テキスト・参考文献等	テキスト：ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』日本放送出版協会、1995年、2,621円						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>						

授業科目名	倫 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			前期	講義	選択	2	3年		
担当教員	神 谷 英 二								
授業の概要	現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではいられない。また、生命倫理の問題に対処することは、福祉社会において活躍する専門的職業人にとっては必要不可欠の能力である。この授業では、生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を養うことをめざす。内容としては、インフォームド・コンセント、パーソン論、安楽死と尊厳死などを中心に授業を展開する。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生命倫理学の基礎を習得する。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を身につけることにより、実際に仕事や日常生活の中で生命倫理の問題に直面した際に、自分自身で判断し、対処できるようになる。							
	DP4：表現力	根拠を明示して、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文		「倫理学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「倫理学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）				
2	生命倫理の歴史		「倫理学講義資料」による講義						
3	生命倫理の4原則		「倫理学講義資料」による講義						
4	インフォームド・コンセントと患者の権利（1）：定義と法理		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第1回）						
5	インフォームド・コンセントと患者の権利（2）：事例研究		「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
6	インフォームド・コンセントと患者の権利（3）：事例研究		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第2回）						
7	インフォームド・コンセントと患者の権利（4）：日本独自の工夫		「倫理学講義資料」による講義						
8	パーソン論と生命の線引き（1）：人工妊娠中絶と出生前診断		「倫理学講義資料」による講義						
9	パーソン論と生命の線引き（2）：トゥーリーの理論		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第3回）						
10	パーソン論と生命の線引き（3）：エンゲルハートの理論		「倫理学講義資料」による講義					学期末レポートの作成を開始すること。	
11	安楽死と尊厳死（1）：定義と事例研究		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第4回）						
12	安楽死と尊厳死（2）：死の自己決定		「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
13	終末期医療の現状と将来（1）：緩和ケアとナラティブ		「倫理学講義資料」による講義						
14	終末期医療の現状と将来（2）：セデーションの是非		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第5回）						
15	復習とまとめ		学期全体の学習内容を復習						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
授業内小レポート		◎	◎			30			
授業態度・授業への参加度			○			20			
学期末レポート		◎	◎			50			
テキスト・参考文献等	参考文献：今井道夫・香川知晶編『バイオエシックス入門』第3版、東信堂、2001年								
履修条件	なし。								
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>								

授業科目名	日本史概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	有谷三樹彦						
授業の概要	現代を理解するためには歴史を学ぶ必要があります。本講義では、天皇制とナショナリズムの観点から日本史を捉えなおすことにより、日本の歴史的特性を浮かび上がらせ、世界の中の日本の位置づけを考えます。具体的には、前半で古代から近世までの日本について、後半で主に幕末維新期以降の日本について講義することになります。その際日本のみを対象とする一国史観に陥らないように、同時代の世界史の動向との比較を常に心がけます。さらに国民形成を主目的とする日本の歴史教育の問題にも迫りたいと思います。歴史・政治・思想をトータルに考察する本講義は実社会でも役立つ実用的な教養科目であるといえます。中学校教員免許状(社会)取得希望者は必修です。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	日本史の学習を通じて、歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、ある程度理解し説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義内容の様々なテーマについて考え、的確に講義内容を要約し自己の意見を文章化することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス	歴史学とは何か	講義内容について説明する。受講生は授業終了時に講義要約感想文を書く。		下記の参考文献等を使って、人物や事件など基礎的な事項を調べておく。		
2	歴史教育とは何か		同		同		
3	近代日本の教育		同		同		
4	天皇制とは何か		同		同		
5	古代		同		同		
6	中世		同		同		
7	織豊政権 小テスト		同		同		
8	近世		同		同		
9	ナショナリズムとは何か		同		同		
10	ブルジョア革命		同		同		
11	幕末維新の胎動		同		同		
12	吉田松陰の思想と行動		同		同		
13	幕末維新の展開 小テスト		同		同		
14	武士道		同		同		
15	明治維新の特徴		同		同		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト		○	◎			60	
学期末レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
講義要約感想文		○	◎			プラス評価	
テキスト・参考文献等	参考文献: 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』PHP新書、2004年。近藤孝弘『歴史教育と教科書』岩波ブックレット、2001年。山住正巳『日本教育小史』岩波新書、1987年。井上清『天皇・天皇制の歴史』明石書店、1986年。今谷明『武家と天皇』岩波新書、1993年。奈良本辰也『吉田松陰』岩波新書、1951年。佐々木克『幕末史』ちくま新書、2014年。植村和秀『ナショナリズム入門』講談社現代新書、2014年。岩波ジュニア新書<シリーズ日本の歴史>全9冊。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。						

授業科目名	西洋史概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	2年
担当教員	玉置 さよ子						
授業の概要	近代歴史学によって整理された「西洋文明の歩み」の理論を骨組みとした西洋史のアウトラインを、時代を追って概観する。後半では20世紀を中心とした近代世界の歩みを、前半でみた西洋文明の性質を念頭におきつつ確認する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	西洋史のアウトラインで取り上げる各時代の重要な事象について、内容を理解し説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	近代世界の歩みや現在の世界を、西洋史・西洋文明の理解をふまえて考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション・西洋史とは		講義		事前学習として、「西洋史のアウトライン」部分に関しては学習課題プリントを配付する。		
2	西洋史の時代区分		講義				
3	1. 西洋史のアウトライン（1）西洋文明の源流		講義				
4	（2）地中海世界とローマ帝国		講義				
5	（3）ヨーロッパ世界の誕生		講義				
6	（4）ヨーロッパ世界の拡大		講義				
7	（5）近代世界の誕生		講義				
8	（6）主権国家体制		講義				
9	2. 近代世界概論		講義		事後学習として、各回ごとのふり返しプリントを配付する。		
10	3. 近現代の世界（1）帝国主義の時代		講義				
11	（2）第一次世界大戦		講義				
12	（3）戦間期の欧米		講義				
13	（4）第二次世界大戦		講義				
14	（5）東西冷戦の時代		講義				
15	4. まとめ21世紀の世界と西洋文明		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
最終レポート		○	◎			20	
授業内小テスト		◎				30	
授業レポート（ふり返しプリント）		○	◎			20	
授業への参加度（授業シート）			○			30	
補足事項		最終レポートを提出しない場合は「未受験」となります					
テキスト・参考文献等	帝国書院版 最新世界史図説タペストリー を講義中に適宜参照する。						
履修条件	中学校教諭一種免許状（社会）取得希望者は必修である。						
学習相談・助言体制	受講者には講師のメールアドレスを伝え、適宜相談に対応する。						

授業科目名	法律学概論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	森脇敦史						
授業の概要	本講義では、行政法を素材として、法律学が社会で果たしている役割を学ぶ。私たちの日常生活は、行政活動抜きには考えられない。そして、現在の行政活動は何らかの形で法律上の根拠に基づいて行われる。従って、行政活動を理解するためには、どのような目的で現在の法が定められ、解釈されているのかを知ることが不可欠である。法律学概論Ⅰでは、行政組織法・行政作用法の領域を検討する						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	法がどのような形で行政活動を規律しているのかを理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス……「行政法」の意味		講義		テキストの該当部分（授業で指示します）を読んでおくこと。		
2	行政は誰が行うか（1）……行政主体、行政機関、公務員		講義				
3	行政は誰が行うか（2）……行政機関の分類、裁判と行政機関		講義				
4	行政法の基本的な考え方……法治主義、法律の留保		講義				
5	行政の透明性確保……法律・手続によるコントロール		講義				
6	情報公開、個人情報保護制度		講義				
7	行政の行為形式（1）……行政処分の定義		講義				
8	行政の行為形式（2）……行政処分の分類		講義				
9	行政の行為形式（3）……行政処分の効力		講義				
10	行政の行為形式（4）……行政処分の手続		講義				
11	行政指導……定義、有効性と限界、争う手段		講義				
12	行政立法、行政契約		講義				
13	行政の実効性確保（1）……義務の内容		講義				
14	行政の実効性確保（2）……間接強制、直接強制、即時強制		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	テキスト：石川敏行ほか『はじめての行政法』第3版補訂版（有斐閣、2015年） 少なくともコンパクトサイズの六法（どの出版社のものでも良い）。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						

授業科目名	法律学概論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	森 脇 敦 史						
授業の概要	本講義では、行政法を素材として、法律学が社会で果たしている役割を学ぶ。私たちの日常生活は、行政活動抜きには考えられない。そして、現在の行政活動は何らかの形で法律上の根拠に基づいて行われる。従って、行政活動を理解するためには、どのような目的で現在の法が定められ、解釈されているのかを知ることが不可欠である。法律学概論Ⅱでは、行政救済法の領域を検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	行政をめぐる紛争につき、現行法が定める手続とその社会的役割を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	行政救済法概論……行政争訟法と国家補償法、民事争訟との違い		講義		テキストの該当部分（授業で指示します）を読んでおくこと。		
2	行政不服審査（1）……制度の意義と種類		講義				
3	行政不服審査（2）……審査手続、裁決・決定の効力		講義				
4	行政事件訴訟（1）……行政訴訟の歴史、訴訟類型		講義				
5	行政事件訴訟（2）……抗告訴訟の種類		講義				
6	取消訴訟（1）……訴訟要件（処分性、原告適格）		講義				
7	取消訴訟（2）……訴訟要件（訴えの利益、被告適格）		講義				
8	取消訴訟（3）……仮の救済		講義				
9	取消訴訟（4）……訴訟手続、判決		講義				
10	客観訴訟……民衆訴訟、機関訴訟		講義				
11	国家賠償（1）……国賠法1条（公権力の行使、公務員）		講義				
12	国家賠償（2）……国賠法1条（職務遂行、故意過失・違法性、責任）		講義				
13	国家賠償（3）……国賠法2条（営造物責任）		講義				
14	損失補償……憲法との関係、補償の内容、国家賠償との関係		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	テキスト：石川敏行ほか『はじめての行政法』第3版補訂版（有斐閣、2015年） 少なくともコンパクトサイズの六法（どの出版社のものでも良い）。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						

授業科目名	教育社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	白坂正太						
授業の概要	社会との関係性に着目しながら、教育に関する事象を、多角的に捉える。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会という視点を通して、教育に関する事象を考えられるようになる。					
	DP4：表現力	議論の中で、根拠を示しながら、自分の考えを述べるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	これまでの教育社会学における研究が何を明らかにしてきたのかを理解できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	教育社会学とは	講義・WS（ワークショップ）			前回の内容を復習すること。		
2	社会の中で生きるとは						
3	家族と社会化						
4	幼児教育						
5	遊びと子ども						
6	学校教育と子ども						
7	学校教育カリキュラムの背景						
8	中等教育						
9	教育の病理						
10	学校教育とジェンダー						
11	学校と入試						
12	多様化する高等教育						
13	情報化社会と教育						
14	生涯学習社会						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		○	50	
小テスト・授業内レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度			○			20	
テキスト・参考文献等	必要に応じて資料を配布する。						
履修条件	グループワークやディスカッション等がありますので、積極的な参加をお願いします。						
学習相談・助言体制	授業後もしくは、電子メールにて受け付けます。shouta.shirasaka@gmail.com まで また、授業後のレポートの中での質問も受け付けます。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	3年
担当教員	田代英美						
授業の概要	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱでは、これまでの学習の成果を具体的なテーマに即して展開し、各自の分析能力と記述力を高めることが目標である。前期は、受講生の関心や希望をもとに地域社会に関して共通テーマを設定し、そのテーマについて基本文献を選定・輪読して討論を交えながら理解を深め、社会現象の分析方法を習得する。後期は受講生各自のテーマを設定して論文作成の全過程をひととおり経験し、卒業論文作成の基礎を養うことを目標とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域社会を運営する仕組みの変化と現在の課題を、その背景や生活への影響を含めて理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域社会運営の現状や課題を資料に基づき論理的に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	地域社会の課題について深い関心を持ち、問題意識を深めて主体的に学習することができる。					
	DP6：社会貢献力	地域社会の課題解決策を検討するとともに、自らの関わりについても考察することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	テーマに適切な資料収集とデータ収集を行い、分析するとともに、課題をまとめることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			授 業 方 法			
1	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱの進め方についてオリエンテーション						
2~4	受講生各自の関心や問題意識の発表						
5	テーマ設定						
6~12	テーマに関する先行研究、参考文献等を収集、輪読する。分担してレジュメを作成し、それをもとに討論を行う。			(事前課題) 各自、担当部分についてレジュメを作成する。 (事後課題) 討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。			
13	まとめの討論						
14・15	前期レポートの作成			(事後課題) 前期レポートを作成し、提出する。			
16	各自のテーマを設定。研究方法の検討。						
17~28	各自のテーマに基づく文献やデータの収集と整理を行う。順番を決めてレジュメを作成し、それをもとに討論を行う。			(事前課題) 各自、担当部分についてレジュメを作成する。 (事後課題) 討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。			
29・30	研究レポートの作成。			(事後課題) 後期レポートを作成し、提出する。			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート	◎	◎	◎	◎	40	
	授業態度・授業への参加度	◎		◎		30	
	受講者の発表（プレゼン）		◎		◎	30	
テキスト・参考文献等	必要な参考文献等は適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	3年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	<p>担当教員の専門分野である人文地理学（地方行政論・地域政策論も含む）の分野での研究手法について学び、卒業論文に取り組む際に必要となる知識や分析手法の習得を目指します。具体的には、①幅広い研究対象とさまざまなアプローチの人文地理学の研究論文を輪読して、人文地理学の分析手法や論文の書き方を学ぶ、②受講生の関心のあるテーマについて文献や統計資料を収集・整理し、卒業論文の作成準備をする、③巡検（エクスカージョン）の企画と実施を通じて、景観観察や地域調査の手法を学ぶ、という3つの内容で進めたいと考えています。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域（社会）を見るツールとしての、人文地理学に関する基礎知識や分析手法について理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力 DP4：表現力	自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力 DP6：社会貢献力	地域（社会）の現状と課題に関心を寄せ、積極的に調査や分析、考察を行うことができる。 地域（社会）の課題解決に向けた方法を、自らの関わりを含めて提示することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	人文地理学の分析手法や地図表現の基礎を習得し、活用することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス：演習の内容と進め方について	演習 (野外実習を含む)	(事前) 担当する文献についての内容をまとめたレジュメ作成と発表の準備、巡検の担当テーマに関する情報収集 (事後) 議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・考察				
2	輪読する文献の提示・説明と発表の分担等の決定						
3~12	文献の輪読と内容に関する議論 県内巡検の企画・コース設定と情報収集等の実施準備						
13・14	県内巡検の実施 ※1日程度を想定しています						
15	前期のまとめ、夏季休業中の課題設定						
16	各自の研究テーマの設定						
17~21	各自の研究テーマに関する文献や資料の収集・整理 各自の研究テーマに関する報告とその内容に関する議論① 県外巡検の企画・コース設定と情報収集等の実施準備						
22~24	県外巡検の実施 ※2泊3日程度を想定しています						
25~29	各自の研究テーマに関する報告とその内容に関する議論②						
30	1年間のまとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○	◎	40	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		40	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	○	20	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：輪読する文献のコピーを配布します。 参考文献：適宜紹介していきます。</p>						
履 修 条 件	<p>対象とするテーマが何であれ、現地調査に基づいてその地域がどのような特徴を持っているのかを明らかにすることが、伝統的な地理学の目指すところです。そのような手法に関心のあることを履修条件とします。地域政策論や地方行政論の研究を希望する場合、多少アプローチは変わってきますが、基本的には上記のようなスケジュールで対応が可能であると考えています。 なお、前期に県内で1日程度の、後期に県外で2泊3日程度の巡検（エクスカージョン）を実施する予定です。担当教員と受講生とで日程調整の上実施しますが、原則、この2回の参加を必須としますので、参加費用の準備などをお願いします。</p>						
学習相談・助言体制	<p>質問は演習の時間のほか、適宜受け付けます。可能な限り丁寧に対応したいと考えていますので、不明な点は早めに質問するようにしてください。</p>						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	本演習では、貧困・社会的排除・差別及び種々の逸脱現象への社会的アプローチを学び、メンバー各自の問題意識を明確にしていく。前期はこれらの領域に関する文献購読を行う。後期は各自の関心領域について研究報告を行う。参考文献を収集・通読し、関連するデータを集め、重要な事項についてノートをとる。これらをふまえて問題意識を洗練させ、フィールドワークにとりかかる。また、論理的な文章を書くトレーニングを積み、卒業論文作成の基礎を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	研究に係る基礎的な形式・技法に関する知識を身につけている。各自の関心領域に関する基礎知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	貧困・社会的排除・差別及び種々の逸脱現象を、公共性等の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自らの関心領域に興味関心をもち、自ら調べ、考えることができる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的方法的に的確に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。				
2	メンバー各自の関心や問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。						
3	輪読する文献の紹介。報告する分担を決める。		担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジメにまとめる。また、エクスカージョンを行う予定である。				
4~12	文献輪読。各自は担当部分について参考文献も参照しながらレジメを準備する。その報告に基づいて全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理の仕方、パソコン操作、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。						
13・14	各自の現時点での関心や問題意識について報告し合い、共有する。						
15	前期の学習についてのまとめ、後期の学習に向けた議論をする。夏期休暇中の課題を提示する。						
16	ガイダンス。報告の順番を決める。報告は各自2～3回できるように計画する。		各自のテーマについて文献・資料を収集し、ノートを取り、フィールドワークの下準備を行う。				
17~27	メンバー各々の研究テーマを設定し、報告する。その際には研究課題の達成に向けて計画を立て、毎回それも報告する。その報告に基づいて全員で議論する。						
28・29	4年生の卒論演習に向け、就職活動と卒業研究を両立させるために、計画を立てる。また、各自の現時点での研究テーマについて報告し合い、共有する。						
30	後期のまとめをし、4年生以降の研究に向け議論をする。						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	40	
授業態度・授業への参加度			○	◎		40	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
補足事項	ゼミの取り組みに積極的に参加している者を高く評価する。報告（20%）、課題（40%）、議論への積極的な参加度（40%）。						
テキスト・参考文献等	テキストは後で指定する。他、参考文献は適宜指示する。						
履修条件	遅刻、無断欠席は厳禁。貧困・社会的排除・差別及び種々の逸脱現象に関心があり、それらについて今よりも理解を深めたいと思っている人。フィールドワークをしたい人。						
学習相談・助言体制	演習の時間に行うが、適宜個別に時間を決めて面談を行う。一人ひとりの状況に応じて、課題の達成目標を設定する。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	選択必修	各1	3年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	これまでの学習の成果を展開し、各自の分析能力と記述力、表現力を高める。受講生のこれまでの体験や関心をもとに問題意識を他者に伝えることを体験する。基本文献を選定・輪読して討論を交えながら理解を深め、社会現象の分析方法を習得する。そののちに受講生各自のテーマを設定して論文作成の全過程をひととおり経験し、卒業論文作成の基礎を養うことを目標とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	現在の教育課題を、その背景を含めて理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	教育の現状や課題を資料に基づき論理的に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	教育の課題について深い関心を持ち、問題意識を深めて主体的に学習することができる。					
	DP6：社会貢献力	教育の課題解決策を検討するとともに、自らの関わりについても考察することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	テーマに適切な資料収集とデータ収集を行い、分析するとともに、課題をまとめることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱの進め方についてオリエンテーション						
2～9	受講生各自の関心や問題意識の発表						
10～15	先行研究、参考文献等を収集、輪読する。分担してレジメを作成し、それをもとに討論を行う。		（事前課題）各自、担当部分についてレジメを作成する。 （事後課題）討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。				
16	まとめの討論						
17～20	前期レポートの作成		（事後課題）前期レポートを作成し、提出する。				
21	各自のテーマを設定。研究方法の検討。						
22～28	各自のテーマに基づく文献やデータの収集と整理を行う。順番を決めてレジメを作成し、それをもとに討論を行う。		（事前課題）各自、担当部分についてレジメを作成する。 （事後課題）討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。				
29・30	研究レポートの作成。		（事後課題）後期レポートを作成し、提出する。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				◎		30	
受講者の発表（プレゼン）		◎		○	◎	50	
その他						20	
テキスト・参考文献等	アルベルト・レーブル『教育学の歴史』青土社、2015年、ダイアン・コイル『GDP』みすず書房、2015年、スーザン・ケイン『内向型人間の時代』講談社、2013年、神野直彦『システム改革の政治経済学』岩波書店、1998年						
履修条件							
学習相談・助言体制	いつでも対応する。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	担当教員の担当講義である多文化社会論、東アジア関係史、国際政治学、政治学、及び教員の研究テーマに興味のある学生でゼミを構成するが、具体的なテーマや輪読する文献などは、ゼミ生と相談して決める。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的現象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 授業内容  ①各自研究テーマ・計画の設定・検討と調査・報告、②文献輪読、③資料の探し方、まとめ方、④グループ研究等の中から、ゼミ生の希望に応じて組み合わせていく。調査・研究計画の立て方、資料の集め方（大学内外の図書館、インターネットでの検索・閲覧）、連絡方法（アポ取りや電話のかけ方）、コピーのとり方、レジメの作り方、プレゼンや議論の仕方、文献読解と要約、論文の書き方などのノウハウも身に付けられるようにしていく。</p> <p>2. 授業方法  演習。文献輪読、個人報告では、報告者（発表者）の他に、司会、コメンテータを割り当てるなど、全員参加型を心がける。</p> <p>3. 事前・事後学習  各人の担当を事前準備する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
調査・発表		○	◎	◎	○	50	
ディスカッション		○	◎	◎	◎	50	
テキスト・参考文献等	ゼミ生と協議して決める。						
履修条件	具体的な問題関心、調査・研究したいテーマを持っていることが受講の前提。ただし研究を進める中でテーマが変化するのは構わない。						
学習相談・助言体制	授業終了後または個別研究室訪問で対応する。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐野麻由子		前期・後期	演習	必修	各1
授業の概要	<p>本授業では、卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識および技能を学ぶ。前期授業では、「グローバル化」「文化変容」「不平等」に関連する社会学的文献を読み、議論に参加することが求められる。後期授業では、卒業論文の執筆に向けて各自研究テーマや調査・研究方法、研究計画を設定しその進捗を報告する。毎回、レジュメ報告担当者を設定し、報告者の出した論点、話題をもとにディスカッションを行う。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会学、社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	グローバル化の進展とその帰結について社会学の知識や方法を用いて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会の問題に深い関心を持ち、自ら問いを設定しその解を求めるために主体的に学習できる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	グローバル化、文化変容、不平等についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
	前期 ・文献の決定 ・文献講読 後期 ・研究テーマ、方法、研究計画の決定 ・研究発表		演習		・アカデミックな論文執筆のルールを確認する。 ・文献メモを作成する。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
演習		○	○	○	○	60	
授業外レポート		○	○	○	○	40	
補足事項	報告や討論を含む授業への参加態度（60％）、最終レポート（40％）を総合的に勘案したうえで評価を行う。						
テキスト・参考文献等	前期に講読する文献については、初回授業時に相談して決めたい。						
履修条件	具体的な問題関心や研究したいテーマを持っていることを前提条件とする。 遅刻や無断欠席をしないこと。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	<p>本授業では「経済環境と文化的特徴」の観点からいまの日本の社会保障制度を再評価する。前半では、日本の社会保障制度そのものについて正確に理解し、その背景をなす経済的・社会的状況について分析する。後半では、日本と文化的類似性を持っている韓国について、経済発展と社会保障の関係について分析し、日韓比較を行う。最後には、日本の社会保障の特徴を客観的に評価し、望ましい社会保障制度を提案する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会保障を経済学から分析し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日韓の文化的特徴から日韓両国の社会保障制度が分析できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	「社会保障のアジア型モデル」が提案できる。					
	DP6：社会貢献力	国際学術交流を通じて、国際市民としての生き方や役割が理解できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	いまの社会保障制度の問題点を取り出して、分析し、対応策を提示しながら結論付けられる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 授業内容  前半は日本の社会保障制度について勉強する。日本の社会保障制度の歴史について、経済発展と社会理念・価値観の変化から把握する。時代ごとの変遷について調べ、発表・討論する。  後半は社会保障のアジア型モデルについて考える。そのために文化的類似性を持っている韓国の社会保障制度を勉強する。具体的には、韓国の経済発展と社会的理念・価値観の変化と社会保障制度の変遷を分析する。  夏休み期間中の8月には、「日韓大学生の学術シンポジウム」に参加し、発表・討論する。  The 18<sup>th</sup> Japan-Korea Youth Forum : Conference of Business and Social Association  - 日 程：8月22日～26日、4泊5日  - 場 所：韓国ソウル市（明知大学、漢陽大学、淑明女子大学）  - 参加大学：（韓国）明知大学、漢陽大学、淑明女子大学、安東大学、（日本）慶應義塾大学、関西学院大学、山口大学、小樽商科大学  - 主催：BSOAP（Business &amp; Social Organization for Asia and Pacific）</p> <p>2. 授業方法  演習：関連文献を輪読し、順番で発表、ディスカッションする。</p> <p>3. 事前・事後学習  授業の前に必ず文献を読んでくること。担当部分については発表の準備をすること。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○	○	◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○	◎	50	
演習		○	○	○		30	
テキスト・参考文献等	授業の時に指示する。						
履 修 条 件	経済学、労働経済学、社会保障論を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	石崎 龍二						
授業の概要	本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会の諸問題に深い関心をもち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。					
	DP6：社会貢献力	課題解決に向けて探求し続けることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（ゼミの進め方）		演習				
2~7	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱに関する図書や参考資料の輪読		演習		各自、輪読する資料について予習・復習		
8	各自の（仮）研究テーマの設定		演習		研究テーマの設定		
9・10	各自の（仮）研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集		演習		資料収集		
11・12	各自の（仮）研究テーマについて経過報告、質疑応答		演習		報告者は報告資料を用意		
13・14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集		演習		資料収集		
15	公共社会学研究Ⅰ（前期）のまとめと公共社会学研究Ⅱ（後期）に向けての計画		演習		資料・問題整理		
16	各自の研究テーマについて中間報告（後期はじめ）		演習		全員、報告資料を用意		
17~25	収集した文献、データ等の整理、各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答		演習		報告者は報告資料を用意、資料収集		
26~30	報告書の作成		演習		報告書の作成		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
		◎	◎	◎	◎	50	
		◎		◎		30	
			◎		◎	20	
テキスト・参考文献等	演習の中での話し合いで決定する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	田代英美・石崎龍二・三隅謙二・岡本雅享・佐野麻由子・堤圭史郎・藤澤健一・許棟翰・美谷薫						
授業の概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人間と社会に関連する社会科学の専門知識を、社会学を中心として身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的現象やその問題を資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。					
	DP6：社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	先行研究や各種資料を適切に収集し、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション						
2~5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。						各自問題意識と研究テーマを確認する。
6~9	文献・データの整理。先行研究の検討。						必要な文献やデータを収集する。
10~15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。						各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出						卒業論文全体の草稿を準備する。
17~24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。						草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会						卒業論文を完成させる。
26・27	完成原稿の最終確認、提出。						
28・29	卒業論文要旨集の原稿作成。						卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。						発表会の準備をする。
	卒業論文発表会						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
補足事項		福岡県立大学学部履修規則第4章、および「公共社会学科 卒業論文に関する規則」「公共社会学科 卒業論文に関する細則」を必ず確認すること。					
テキスト・参考文献等	テーマに応じて適宜紹介する。						
履修条件	卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を修得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない（福岡県立大学学部履修規則第4章第20条）。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー等に対応するが、状況に応じて適宜個別指導を行う。						

授業科目名	社会福祉学概論Ⅰ (社会福祉学科必修、公共社会学科、人間形成学科は選択)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	細井 勇	前期	講義	左記参照	2	1年
授業の概要	社会福祉政策とソーシャルワーク（社会福祉実践）の関係を理解し、福祉という価値を人権、自由、正義、公正等との関係で捉えることを学ぶ。展開としては、社会福祉政策（ソーシャル・ポリシー）についてティトマスやアンデルセンを取り上げる。戦後日本の代表的な社会福祉理論を検討し、現在のセンやロールズの正義論から社会福祉ないし福祉国家を検討する。社会福祉の価値を重視し、正義論の歴史的系譜と社会福祉の成立の経緯を辿る。社会福祉士の国家資格との関係では「現代社会と福祉」の前半に該当する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会福祉を中心に人間・社会に関する専門的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	社会福祉とは－社会福祉政策とソーシャルワークとの関係－		講義		テキストの前半に目を通す		
2	英国におけるソーシャルポリシーマーシャル、ティトマス等		講義		配布資料に目を通しておく		
3	カール・ポランニーとエスピノサ・アンデルセンの福祉レジーム		講義		同上		
4	自由と統制－自由とは何か、社会福祉と自由の関係は		講義		同上		
5	功利か、それとも自由と平等か－ジョン・ロールズとアマルティア・セン		講義		同上		
6	日本は如何なる福祉レジームなのか		講義		同上		
7	英国の社会福祉形成（1）自由主義の誕生		講義		同上		
8	英国の社会福祉形成（2）功利主義的社会改革		講義		同上		
9	英国の集會福祉形成（3）慈善事業と貧困の社会的発見		講義		同上		
10	英国における社会福祉の形成（4）福祉国家の形成とその後		講義		同上		
11	日本における社会福祉形成（1）慈善事業		講義		同上		
12	日本における社会福祉形成（2）明治末期の感化救済事業		講義		同上		
13	日本における社会福祉形成（3）社会事業の形成と戦時厚生事業		映画		同上		
14	日本における社会福祉形成（4）戦後の社会福祉		講義		同上		
15	まとめ 自由と正義と福祉について		講義		同上		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			70	
宿題・授業外レポート			◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
テキスト・参考文献等	《テキスト》社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座4 現在社会と福祉』中央法規 第4版 2014年						
履修条件							
学習相談・助言体制	毎回、出席カードに質問・意見を書いてもらい、授業の中で質問に対応していく。また、授業の終了後の休み時間やオフィスアワー等を利用してもらい質問に応じていく。						

授業科目名	社会福祉学概論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	河野高志						
授業の概要	本講義は、社会福祉士国家資格の受験資格取得に必要な指定科目である「現代社会と福祉」に該当する。したがって、社会福祉学概論Ⅰの内容とあわせて、社会福祉学の基本的枠組みを解説していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	日本と諸外国の福祉政策や福祉の枠組みについて理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	福祉政策の課題と展望について自らの意見を整理することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容			事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション						
2	少子高齢化時代の福祉政策①			テキスト第6章を読むこと			
3	少子高齢化時代の福祉政策②			テキスト第6章を読むこと			
4	福祉政策における必要と資源①			テキスト第7章を読むこと			
5	福祉政策における必要と資源②			テキスト第7章を読むこと			
6	福祉政策の理念・主体・手法①			テキスト第8章を読むこと			
7	福祉政策の理念・主体・手法②			テキスト第8章を読むこと			
8	福祉政策の関連領域①			テキスト第9章を読むこと			
9	福祉政策の関連領域②			テキスト第9章を読むこと			
10	社会福祉制度の体系			テキスト第10章を読むこと			
11	福祉サービスの提供			テキスト第11章を読むこと			
12	福祉サービスと援助活動			テキスト第12章を読むこと			
13	福祉政策の国際比較			テキスト第13章を読むこと			
14	福祉政策の課題と展望			テキスト第14章を読むこと			
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉（第4版）』中央法規 2014年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する）</p> <p>【その他】授業中に適宜レジメや資料を配布する。</p>						
履修条件	「社会福祉学概論Ⅰ」を履修済みであること						
学習相談・助言体制	<p>1. 出席カードに各回の質問や感想を書いてください。</p> <p>2. 適宜、研究室（1号館2階）にて質問などを受けつけます。</p>						

授業科目名	社会保障論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	坂本毅啓						
授業の概要	<p>社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。本講では、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会保障を理解し、社会保障と社会福祉制度との関係について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容			事前・事後学習（学習課題）			
1	社会保障制度の概要			テキスト第1章を予習			
2	社会保障の役割と機能			テキスト第1章を予習			
3	現代社会における社会保障制度の課題①（少子高齢化と社会保障制度）			テキスト第2章を予習			
4	現代社会における社会保障制度の課題②（労働環境の変化と社会保障制度）			テキスト第2章を予習			
5	欧米における社会保障制度の歴史的展開			テキスト第3章を予習			
6	日本における社会保障の歴史的展開			テキスト第4章を予習			
7	社会保障の財源と費用			テキスト第5章を予習			
8	社会保険と社会扶助の関係			テキスト第6章を予習			
9	公的保険制度と民間保険制度の関係			テキスト第7章を予習			
10	社会保障制度の体系			テキスト第8章を予習			
11	雇用政策と社会保障			テキスト第8・9章を予習			
12	雇用保険制度			テキスト第9章を予習			
13	雇用保険制度			テキスト第9章を予習			
14	労働者災害補償保険			テキスト第8章を予習			
15	労働者災害補償保険			テキスト第8章を予習			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
		◎	◎			60	
定期試験		○	◎			30	
小テスト・授業内レポート		◎	○			10	
テキスト・参考文献等	成清美治・真鍋頭久『イントロダクション シリーズ7 社会保障』学文社、2011年、2500円＋税。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する						

授業科目名	社会保障論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	坂本毅啓						
授業の概要	<p>社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。本講では、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会保障を理解し、社会保険と民間保険との違いを説明できる。また、雇用保険と労働者災害補償保険について、何をどのような仕組みで給付しているのか、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容					事前・事後学習（学習課題）	
1	年金保険制度①					テキスト第10章を予習	
2	年金保険制度②					テキスト第10章を予習	
3	年金保険制度③					テキスト第10章を予習	
4	医療保険制度①					テキスト第11章を予習	
5	医療保険制度②					テキスト第11章を予習	
6	医療保険制度③					テキスト第11章を予習	
7	介護保険制度①					テキスト第8章を予習	
8	介護保険制度②					テキスト第8章を予習	
9	介護保険制度③					テキスト第8章を予習	
10	社会福祉制度の概要					テキスト第9章を予習	
11	障害者総合支援制度					テキスト第9章を予習	
12	生活保護制度					テキスト第9章を予習	
13	社会手当					テキスト第9章を予習	
14	諸外国の社会保障①（比較分析、スウェーデン、ドイツ）					テキスト第12章を予習	
15	諸外国の社会保障②（イギリス、アメリカ）					テキスト第12章を予習	
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			10	
テキスト・参考文献等	成清美治・真鍋顕久『イントロダクション シリーズ7 社会保障』学文社、2011年、2500円＋税。						
履修条件	社会保障論Ⅰをすること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する						

授業科目名	社会福祉史入門		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	1年
担当教員	細井 勇						
授業の概要	1) 社会福祉が歴史的に形成されてきたことを理解する。2) 社会福祉の形成にかかわる重要で多様な人物について、その思想と実践、その歴史的、社会的背景を学ぶことで、社会福祉への実践指針を得る。また、現在の日本の社会福祉状況の課題を考察することができる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会福祉の実践や制度について歴史的に理解を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉の実践に関する問題について根拠に基づいて考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		授業の進め方の説明				
2	ジョージ・ミュラーとプリストル孤児院		配布資料とビデオ		配布資料に目を通しておく		
3	ドクター・バーナードとバーナード・ホーム		配布資料とビデオ		同上		
4	ヴィヘルンとラウエハウス		配布資料とドイツ訪問写真		同上		
5	石井十次と岡山孤児院		テキスト		テキスト該当箇所読んでおく		
6	山室軍平と救世軍		同上		同上		
7	留岡幸助と家庭学校		同上		同上		
8	原胤昭と出獄人保護		同上		同上		
9	安部磯雄と『社会問題解釈法』		同上		同上		
10	賀川豊彦について		同上		同上		
11	井深八重と阿部志郎		同上		同上		
12	プレゼンテーション（1）		プレゼンテーション				
13	プレゼンテーション（2）		同上				
14	プレゼンテーション（3）		同上				
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
授業態度・授業への参加度			○	○			20
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎			80
テキスト・参考文献等	テキスト：室田保夫編『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房、2006年、2,800円						
履修条件							
学習相談・助言体制	毎回、出席カードで質問・意見を書いて提出してもらい、次の授業で質問事項に回答するようにする。授業時間後の休み時間やオフィスアワーを活用し質問等に対応する。						

授業科目名	社会福祉発達史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	細井 勇		後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	社会福祉発達史であるが、内容的には社会福祉の哲学・思想であり、社会福祉の原理論である。社会福祉実践（ソーシャルワーク）の価値とは、社会的正義と公正、自由であるが、これを理解するためには正義論や自由の歴史的系譜を理解する必要がある。それが日本の社会福祉形成と理論とどう関係するのか、を明らかにしたい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人間の自由と尊厳、および人権と社会正義に関する知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉およびそれに関連する問題について根拠に基づいて考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 今後の学習の進め方について		講義		配布資料を配布する。		
2	愛と正義と自由－ユダヤ・キリスト教的な世界		講義		配布資料に目を通しておく		
3	愛と正義と自由－アリストレスについて		講義		同上		
4	アダム・スミスの『道徳感情論』について 正義論の3類型		講義		同上		
5	近代の正義論－社会契約説と功利主義		講義		同上		
6	現在の正義論－カント＝ロールズの正義論		講義		同上		
7	現在の正義論－アマルティア・センの正義論		講義		同上		
8	岡村重夫の社会福祉理論－カントとマッキヴァー社会学		講義		同上		
9	マルクス主義と大河内理論、孝橋理論		講義		同上		
10	全体主義への対峙 カール・ポランニー		講義		同上		
11	福祉レジーム論再考		講義		同上		
12	専門職養成教育の国際比較－ソーシャルワークとソーシャルペダゴジー		講義		同上		
13	筑豊の生活保護史とボランティアズム		講義		同上		
14	プレゼンテーション		学生のプレゼン				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			70	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			20	
補足事項	評価の中心を定期試験にするか、プレゼンテーションにするかは受講者と相談の上決定したい。						
テキスト・参考文献等	テキストは使用せず、毎回資料を配布する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	毎回、授業への疑問点がないか確認しながら進める。また、原則として毎回出席カードを配布し、疑問や意見を書いてもらう。受講者と相談の上、プレゼンテーションの機会を設けることができると考えている。						

授業科目名	社会福祉法制論 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	平部 康子						
授業の概要	社会福祉及び社会保障制度について、法制度に関する知識を体系的に整理するとともに、サービスの利用者、提供者、行政の権利義務関係を具体的事例にそって学び、その課題を検討する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	個別制度や事業の羅列としてではなく、社会福祉と社会保障の法制度に関する知識を整理して、各福祉の現場で説明できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉の給付形式によって、行政・福祉サービスの利用者・提供者の法関係がどのように異なるかを理解し、利用者に生じる個別の問題への法的解決の方法を説明できるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		講義				
2	社会保障および社会福祉法の体系と目的		講義		事前学習プリント		
3	福祉サービス利用者の権利とその擁護（1）制度の確認		講義				
4	福祉サービス利用者の権利とその擁護（2） ～成年後見制度は利用されているのか？		講義・ディスカッション		事前学習プリント		
5	高齢者福祉（1）高齢者に対する所得保障・医療保障・福祉制度の確認		講義				
6	高齢者福祉（2）認知症高齢者は安心して暮らせるか？ ～ホームヘルパーの金銭着服に関する裁判例から		講義・ディスカッション				
7	高齢者福祉（3）認知症高齢者は安心して暮らせるか？ ～認知症高齢者の鉄道事故と監督者責任		講義・ディスカッション		事前学習プリント		
8	障がい者福祉（1）障害者に対する所得保障・医療保障・福祉制度の確認		講義				
9	障がい者福祉（2）障害者権利条約と日本への影響		講義				
10	障がい者福祉（3）障がい者雇用		講義		事前学習プリント		
11	児童福祉（1）児童に関する所得保障・医療保障・福祉制度の確認		講義				
12	児童福祉（2）施設における児童の安全は誰が責任を持つか？ ～保育施設と児童養護施設における事故に関する裁判例から		講義・ディスカッション				
13	児童福祉（3）児童虐待に対する対応		講義・ディスカッション				
14	事故と損害賠償		講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○				30	
宿題・授業外レポート		○	◎			50	
授業態度・授業への参加度		○				20	
補足事項	定期試験は行わない。レポートを課す。						
テキスト・参考文献等	ガイダンス時に資料を指定する（3年までの授業に使用した教科書なども含む）。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	オフィスアワーの時間を利用するほか、随時質問を受けつける（メールで確認をいれること）。						

授業科目名	社会福祉法制論 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	平部 康子						
授業の概要	社会福祉及び社会保障制度について、法制度に関する知識を体系的に整理するとともに、サービスの利用者、提供者、行政の権利義務関係を具体的事例にそって学び、その課題を検討する。また、社会福祉を支える財政、利用者の権利が侵害された際の救済制度について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	①生活保護制度における各法主体の権利・義務を理解し、説明できる。 ②社会福祉の財政と利用者負担の仕組みを理解し、福祉サービスに関する利用者の経済的負担とその課題について説明できる。 ③福祉サービスの権利侵害を救済するための訴訟・不服申し立て・苦情解決システムの仕組みを理解し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	生活保護法の適用をめぐる利用者に生じる個別の問題への法的解決の方法を説明できるようにする。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		講義		事前学習プリント		
2	生活保護制度（1）制度の確認		講義				
3	生活保護制度（2）補正性の原則をめぐる課題		講義				
4	生活保護制度（3）困窮する子どもと生活保護制度		講義・ディスカッション		事前学習プリント		
5	社会福祉の財政方式と利用者負担（1）財政方式の仕組み		講義				
6	社会福祉の財政方式と利用者負担（2）利用者負担の仕組み		講義				
7	社会福祉の財政方式と利用者負担（3）福祉サービスの権利と財源～24時間介護裁判を題材に		講義・ディスカッション				
8	福祉サービスの提供体制（1）社会福祉事業・社会福祉法人		講義				
9	福祉サービスの提供体制（2）ボランティア・NPO法人		講義・ディスカッション				
10	福祉サービスの提供体制（3）福祉サービスの質の確保		講義		事前学習プリント		
11	社会福祉サービス及び社会保障給付に関する苦情解決・不服申し立て		講義				
12	社会福祉サービス及び社会保障給付に関する行政訴訟の仕組み		講義				
13	社会福祉従事者の確保と労働条件保護①		講義・ディスカッション				
14	社会福祉従事者の確保と労働条件保護② 労働者災害補償保険の仕組み		講義・ディスカッション				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○				30	
宿題・授業外レポート		○	◎			50	
授業態度・授業への参加度		○				20	
補足事項		定期試験は行わない。レポートを課す。					
テキスト・参考文献等	ガイダンス時に資料を指定する（3年までの授業に使用した教科書なども含む）。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	オフィスアワーの時間を利用するほか、随時質問を受けつける（メールで確認をいれること）。						

授業科目名	福祉社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	倉 富 史 枝	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	福祉社会において社会政策がどのような考え方に基づいて策定・実施されるべきなのかを社会学の枠組みで考えていきます。近代化と社会福祉の関係を考察するために、家族機能の変化、性別役割分業化、官僚制と専門主義など基礎知識を学びます。また、次世代育成対策推進、ワークライフバランス、ドメスティックバイオレンスなど新しい事象を取り上げ、その現状と法制化などの社会政策上の問題を考えていきます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	個人と社会の相互作用を見据える社会学的視点を獲得しながら、近代化によって生じた社会問題を解決するために社会福祉があることを理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会における社会福祉の課題を確認し、今後の解決につなぐ社会政策のあり方に意見を述べるができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	はじめに		講義				
2	男女共同参画の視点で考える社会福祉		講義		日本型福祉		
3	近代化に伴う無償労働と有償労働の分離		講義		再生産労働		
4	母性イデオロギーがもたらす社会政策における問題		講義		母性愛神話		
5	新たな子育ての理念に基づく子育ての社会化		ビデオ視聴とレポート		子育て支援策		
6	ケアの規範		講義		ケア		
7	ケア役割の発展的解消		講義		男性介護者		
8	ひとり親家庭の現状		ビデオ視聴とレポート		女性の貧困		
9	社会保障とジェンダー①		講義		世帯単位の社会保障		
10	社会保障とジェンダー②		講義		稼得役割とケア役割		
11	雇用機会均等と家族的責任		講義		男女共同参画社会		
12	人身売買・児童労働		ビデオ視聴とレポート		人身取引		
13	官僚制・専門主義と市民社会		講義		官僚		
14	対人援助におけるエンパワメント		講義		エンパワメント		
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎	○			20	
授業態度・授業への参加度		○				20	
テキスト・参考文献等	参考文献：「ジェンダーで読む 21 世紀の福祉政策」 杉本貴代栄著 有斐閣選書						
履 修 条 件	授業に積極的に参加すること						
学習相談・助言体制	個別の学習相談は授業終了後に受付けます。回答に時間を要する内容については翌週返答します。						

授業科目名	社会病理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	<p>本講義では、社会問題や犯罪・非行・差別現象等を読み解く上で有用な「社会的なもの見方」を学ぶ。「私たち」の社会問題や犯罪・非行・差別現象への解釈は、「私たち」の価値観や社会規範のあり方に大きく影響されがちである。その際に「私たち」が寄って立つ価値観や社会規範は、はたして「正しい」と言えるのだろうか。</p> <p>社会学の最も重要な役割とは、日常において「あたりまえ」「当然のもの」と見えている事象について常に疑い、批判的に捉えなおすことにある。そうした「社会的なもの見方」を通して様々な社会現象を捉え返したならば、これまでとは全く異なった様相の「現実」が見えてくるかもしれない。社会問題や犯罪・非行・差別現象について、決まりきった、無批判的な物事の捉え方によらず、現実そのものを自らの目で捉え直せる－受講生のみなさんにとって、この講義がそのような力をつけるきっかけになればと思う。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会病理学に関する基礎的な知識を理解している。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス			<p>講義で多くふれられない事項については、資料を配布する。次回までに通読しておくこと。紹介する参考文献も手に取ってほしい。授業時間外の学習で担当教員が最も期待しているのは、講義で学んだことについて、ポーッと思いにふけったり、お茶を飲みながら友達と話をすることである。学習効果が飛躍的に高まる。</p>			
2	「健康な」社会と「病める」社会？						
3	排除する社会、包摂する社会						
4	激動のシカゴ						
5	犯罪・非行の地域的顕在						
6	もの見方としての「逸脱」						
7	逸脱は学習される～マリファナ使用者						
8	企業活動と逸脱						
9	逸脱と社会構造～拝金主義						
10	つながりの欠如が逸脱をもたらす～少年非行、いじめ						
11	「レッテル貼り」が逸脱をもたらす～冤罪						
12	社会問題はつくられる						
13	「ニート問題」への社会的検討						
14	まとめと課題						
15	課題解説とまとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			70	
宿題・授業外レポート		○	○			30	
補足事項	中間課題（30%）・学期末の課題（60%）・授業内課題（10%）により、社会問題・犯罪・非行・差別現象に関する基礎理論、講義で取りあげた事象への理解度をみる。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。</p> <p>参考文献：①仲村祥一編『社会病理学を学ぶ人のために』世界思想社1986年。②ハワード・S・ベッカー『完訳アウトサイダーズ』現代人文社2011年。③岡邊健編『犯罪・非行の社会学－常識をとらえなおす視座』有斐閣2014年。④平川克美『株式会社という病』文藝春秋2011年。他、講義中に指示する。</p>						
履修条件	講義に積極的に参加することが重要である。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してほしい。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。						

授業科目名	コミュニティ論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
	担当教員	文屋俊子	後期	講義	選択	2	2年		
授業の概要	現代社会における基礎的な社会単位であるコミュニティについての理解は、地域づくりに、また、生活者として、よき地域人、隣人として役割を果たす上に重要である。地域の社会的な変動をへて「コミュニティ」は期待され、同時に問題を多く含んでいる。まず、コミュニティの多様な概念の検討を行い、基礎的な理論について学ぶ。また、日本における地域社会の変動にともない「コミュニティ」概念が注目された経緯、現代日本における「コミュニティ」の問題について考察する。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	一市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	多様な地域性をもつコミュニティには、さまざまな課題があることが分かる。							
	DP4：表現力	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	地域の諸問題について、行政や住民の果たす役割が多面的に存在することが分かる。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	コミュニティ概念の多様性		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。 授業中やコメントカードで質問や意見を述べること。 授業時間内に意見交換、質疑応答時間を設けて質問等にこたえる。 受講生は、授業中に指示する右の学習課題について理解できたかどうか毎回確認すること。		地域の住民組織				
2	マッキーヴァーの「コミュニティ」と「アソシエーション」				『コミュニティ』45-68				
3	パークの「コミュニティ」と「ソサイエティ」				配布プリント				
4	コミュニティの概念を整理する－実体概念と目標概念（理念）				概念上の整理				
5	なぜ「コミュニティ」が期待されたか								
6	「コミュニティ」施策の目標となった理念				コメント				
7	行政施策としての「コミュニティ」の課題								
8	住民に「コミュニティ」はどう受け入れられたか				配布データの読み取り				
9	実体としての日本のコミュニティ								
10	都市的コミュニティ								
11	行政と住民の関係				具体事例の読み取り				
12	多様な地域特性と「コミュニティ」概念								
13	多様な地域問題と「コミュニティ」の役割							講義・ビデオ視聴	
14	「コミュニティ」再考				講義と質疑		レポート		
15	講義全体のまとめ				講義と質疑				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
定期試験		○	◎			80			
授業態度・授業への参加度			○	○		20			
テキスト・参考文献等	参考文献：R.M. マッキーヴァー『コミュニティ』ミネルヴァ書房、1975（原著1917）、倉沢・秋元編『町内会と地域集団』ミネルヴァ書房、1990、など。								
履修条件	なし。								
学習相談・助言体制	授業内容は難しいと思われるので、ビデオ学習や質問への回答のかたちで復習講義時間を設け、理解を助ける。具体的には、試験で不可及及び最低点に近い回答の割合を減らす努力をする。								

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	本演習では、卒業論文につながるような各自の研究テーマを考えていく。例えば、①様々な福祉職の活動領域と社会福祉士の専門性・業務に関する事柄（例：業務内容の詳細や求人・待遇問題等）、②高齢者福祉に関する現代的諸問題と地域における高齢者関連の社会資源の整理（制度と活動）、③福祉活動に取り組む民間非営利組織（NPO 法人中心）の役割と介護事業（小規模通所介護等）に関する事柄等を学んでいく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	与えられたレポート課題等について、論理的な文章構成を立案してまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	演習を通じて各自が卒論のテーマとする福祉課題を発見し、その現状・背景を探求できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	専門職して必要な福祉ニーズや問題の把握方法を説明・活用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ゼミの進め方（オリエンテーション）、今後の計画・抱負等		①便宜、資料を配布し解説する。②文献学習後、ビデオ学習を取り入れ実際の高齢者福祉活動のイメージ化と課題を考える。③就職希望地域や出生地等の高齢者関連の社会資源（主に介護サービス）の状況を調査・報告する。④選択テーマに関わるレポート作成等について主に演習形式で学んでいく。		授業終了時に指示する。レポート報告の場合には、課題に対する報告準備をしておく。		
2～5	①高齢者福祉領域を中心とした活動（就職）分野と現状、②社会福祉士と介護労働者の実態、③興味・関心がある福祉関連業務調査とレポート報告						
6～10	①近年の高齢者を巡る動向と諸問題、②介護保険制度に関する復習 ③高齢者の特性と各種ケアサービス						
11・12	関心がある地域の高齢者関連の社会資源を調べてみる						
13・14	地域の高齢者関連の社会資源報告						
15	これまでのまとめと春休みの課題						
16	①オリエンテーションと今後の計画、②卒業論文作成に向けた留意事項③社会福祉の研究方法について						
17・18	春休みの課題報告						
19～23	小規模デイサービスの認証申請・指定申請に関する演習						
24・25	卒業論文の仮テーマの作成（目的・意義・方法・章立て・参考文献収集とリスト作成等）						
26・27	各自の仮テーマに関するレポート報告（卒業論文作成に向けて）						
28～30	各自の選択テーマに関わる文献輪読						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート			◎	○	○	30	
宿題・授業外レポート			○	○		20	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	◎	30	
テキスト・参考文献等	参考文献：①川村匡ほか「福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規、2005年他。 ②鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論』第3版、講談社、2016。						
履修条件	特にありませんが、積極的な参加を期待します。						
学習相談・助言体制	基本的にオフィスアワーの時間帯に対応しますが、それ以外の時間帯についても、可能な限り対応します。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	細井 勇		後期～前期	演習	必修	2
授業の概要	社会福祉の専門教育の集大成を、各自のテーマ設定と、論文作成に向けた取り組みを通じて行うことを目標とする。どのように資料を収集するのか、論文の書き方、先行研究のレビューと研究方法、主題の捉え方、それに関連する専門知識、社会福祉ないしソーシャルワークの価値観、国際的視点等、課題は多次元にある。毎回、報告と議論を重ねることを重視したい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会保障・社会福祉の制度・政策およびソーシャルワークに関する専門知識を体系的に理解している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		グループ討議				
2	資料収集の方法	テーマを仮設定して、関連する論文等を収集する。	図書館で資料検索		関係文献のリストアップ 関係論文の内容要約		
3～7	どのような関連資料があるか、文献や論文の内容を報告する。		各自の発表と討議		関係文献のリストアップ 関係論文の内容要約		
8～14	特定のモデルとなる論文を選び、論文としての書き方や研究方法に着目して報告する。		各自の発表と討議		関係論文の書き方に着目した分析検討		
15	テーマの設定と研究方法を提示する。冬休み中の課題の確認				テーマの設定		
16～20	各自のテーマ設定に基づく第1回目の報告		各自の発表と討議		報告レジュメの作成		
21～25	各自のテーマ設定に基づく第2回目の報告		各自の発表と討議		報告レジュメの作成		
26～30	各自のテーマ設定に基づく第3回目の報告		各自の発表と討議		下原稿の作成		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度		○		◎		30	
受講者の発表（プレゼン）		◎		◎		70	
テキスト・参考文献等	参考文献を使用する場合には、受講者と相談して決定したい。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	個別的な相談はゼミの前後や、随時空き時間（オフィスアワーを含め）で対応したい。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3年後期～ 4年前期
担当教員	住友雄資						
授業の概要	本演習では、主にソーシャルワーク or 精神保健福祉を取り上げる。3段階で展開する予定である。第1段階は上記テーマに沿った基本文献の収集・講読・発表・討論等を行う。第2段階は上記テーマのなかで各自が関心を有する文献の収集・発表・討論等を行いながら、研究法や研究倫理等についても検討する。第3段階は、各自が研究テーマを決め、そのテーマをより深めるための発表・討論を中心とし、最終的には卒論執筆に向けて研究計画書を作成する。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	各種文献等を収集・講読し、個別発表・討論等を行うことを通して、自らの研究テーマを明確にできる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	卒業論文で取り組む研究計画書を作成・発表することで、卒業論文作成のための枠組みを明確にできる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～6 ソーシャルワーク or 精神保健福祉の基本文献等の講読・発表・討論等をおこなう。</p> <p>7～20 各自が関心のある文献を選び、文献の内容の理解を深め、研究法や研究倫理等について学ぶ。</p> <p>21～29 各自が決めた研究テーマに関する文献について発表し、討論することを通して、研究計画書（先行研究レビューにもとづく研究テーマの設定・対象の選定・研究テーマに相応しい方法の採用・研究倫理等）を作成する。</p> <p>30 研究計画書発表会</p> <p>※事前・事後学習：レジュメ・報告・研究計画書等の準備、復習</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
レジュメ作成			◎	○		30	
討論への参加度			◎	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			○	◎		20	
研究計画書作成			○	◎		30	
テキスト・参考文献等	テキスト： 参考文献：ゼミを進めながら適宜文献を紹介する。						
履修条件	ソーシャルワーク or 精神保健福祉領域で、質の高い卒業論文を執筆したいと考えている学生の履修を望む。						
学習相談・助言体制	ゼミの前後、随時空き時間（オフィスアワーを含め）、メール等で対応。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	本演習では各学生が社会福祉分野のなかでとくに興味を持つテーマを明確にし、そのテーマを深めるための研究を行うとともに卒業論文作成の準備を進める。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉およびそれに関連する問題の中から自分の問題意識に基づいて研究テーマを設定し、そのテーマを探究するための研究計画を立てることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1～10	<b>【3年後期前半】</b> ①演習を選択したメンバーがそれぞれどのようなテーマに興味を抱いているか、各自プレゼンテーションを行う。 ②卒業論文で取りあげたいテーマを文献で調べ発表する。		興味のあるテーマを見つけ、それに関する文献を収集し、その内容をまとめる。				
11～15	<b>【3年後期後半】</b> 卒業論文を作成するための方法を講義 ①論文の基本的な作成方法 ②量的調査法（質問紙法など） ③質的調査法（インタビュー法） ④事例研究法 ⑤文献研究法		自分の研究テーマに合う研究方法を検討し、研究計画を作成する。				
16～30	<b>【4年前期】</b> 論文テーマ、作成方法の発表と指導 ①論文テーマの発表 ②作成方法の発表 ③論文内容の発表 以後、論文作成と指導にはいる		文献やデータの収集・分析を進め、指導された内容を踏まえて論文を作成する。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度				○		25	
受講者の発表（プレゼン）			○	○	○	75	
テキスト・参考文献等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	学習に関する相談は随時受け付ける。メールによる相談も可。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3年～4年
担当教員	平部 康子						
授業の概要	本演習では、社会福祉・社会保障の法制度および政策のうち、特に関心をもつ分野について、①基本的論点の把握②実態調査を通じた問題点の発見を学び、卒業論文につながる課題整理を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	①著書や文献、資料などを通して、課題整理ができるようになる。 ②卒業論文に向けたテーマ選定と課題整理の考え方を習得する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	実態調査の準備および実施を通じて、社会福祉およびそれに関連する問題に関心を持ち、それに取り組む意欲を示すことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション						
2～10	3年生前半 ①ゼミ共通テーマの設定 ②文献研究（発表） ③課題の提示 ④ヒアリング調査に向けた質問事項の整理		発表およびディスカッション		発表者はレジュメを準備する		
11～15	3年生後半 ①調査の準備および実施 ②調査結果のまとめ		実態調査（2コマ） 発表およびディスカッション		ヒアリング調査の準備（質問票の作成など） 春休み中は、卒業論文のテーマを検討する		
16～20	4年前期 卒業論文のテーマの検討、参考資料の収集方法、論点整理の方法、研究計画		発表およびディスカッション 演習		発表者は参考資料を添えたレジュメを準備する		
21～29	卒業論文の検討		発表およびディスカッション				
30	中間報告		発表およびディスカッション		発表者はレジュメを準備する		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		30	
演習			○	◎		60	
テキスト・参考文献等	授業中に適宜配布する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーの時間を利用するほか、随時相談を受け付ける（メールなどで確認を入れること）。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	奥村賢一		後期～前期	演習	必修	2
授業の概要	本演習では、主に学校ソーシャルワーク、児童福祉、障害児・者福祉などの各分野から学生が関心をもつテーマについて持ち寄り、小集団における意見交換などを通して課題意識を高めていく。また、各々で情報収集や課題整理を行い、それらの研究から導き出されたものを具体的に表現していく方法を習得して、卒業論文へとつなげていくことをねらいとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	小集団での演習を通して関心ある内容を絞り、明確なテーマを選定することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	文献検索、資料収集方法、論文の書き方等を理解して意欲的に取り組むことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	卒業論文テーマに関連する先行研究等の資料およびデータの収集を行い、適切な分析ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		・基本事項の確認 ・演習の進め方の説明 ・グループ討議		・各自、関心のあるテーマを絞り、それをイメージ化しておくこと		
2～10	【3年次後期・前半】 ①プレゼンテーション方法 ②研究テーマの選定方法 ③研究課題の整理方法 ④文献検索の方法 ⑤資料収集の方法		・①から⑤の解説 ・グループ討議		・各関心テーマについてレジュメを作成しておくこと		
11～15	【3年次後期・後半】 ①各関心テーマの課題整理 ②各関心テーマの資料収集 ③各関心テーマの発表準備 ④各関心テーマの発表 ⑤卒業論文発表会への参加		・①から⑤の指導助言 ・グループ討議		・各関心テーマの発表に向けた準備をすること		
16～20	【4年次前期・前半】 ①研究テーマの絞り込み ②論文の書き方 ③研究の視点 ④研究方法 ⑤論文の構成内容についての検討		・①から⑤の解説 ・グループ討議		・各関心テーマを基に卒業論文研究テーマを明確にしておくこと		
21～30	【4年次前期・後半】 ①卒業論文テーマの発表 ②卒業論文文章立ての発表 ③卒業論文作成方法の発表 ④卒業論文要旨の発表 ⑤まとめ		・①から⑤の指導助言		・卒業論文の骨子を作り上げる		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			○	○		40	
受講者の発表（プレゼン）				○	◎	60	
補足事項		・授業態度・授業への参加度 ※3分の2以上の出席を必須とする。 ・受講者の発表（プレゼン） ※評価基準 A 60点 B 40点 C 20点					
テキスト・参考文献等	特になし。適宜紹介をしていく。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	平林恵美						
授業の概要	本演習では、精神保健福祉の現状や問題点について、学生間の相互討論における研鑽を重視し、学生主動によるグループワークを中心に進めていく。興味・関心をもったテーマごとにグループを作り、個人の研究課題を明確にし、それを深める研究方法を検討し発表してもらう。そして、各々の研究テーマが、卒業論文の完成に至るまで十分な興味と関心を持ち続けることができるか、範囲は広すぎないかなどについての検討を経て、卒業論文の作成を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉及び関連する分野を含めて問題意識を持ち、多くの発見を通して考える力を習得することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	意見交換や討論を通して、今まで身近な事柄であったにもかかわらず、見過ごしてしまっていた課題などに取り組む意欲を身につけ、物事を多角的な視点で捉えることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	一連の作業から基礎的な研究方法を学習し、社会福祉に関する諸問題について分析することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>【第1回】オリエンテーション  [授業内容]  ①今後のスケジュール、②現時点における興味・関心のある事柄について発表  [授業方法] グループ  [事前・事後学習等] 興味・関心のある事柄について考えておく。</p> <p>【第2回～第10回】＜3年後期／前半＞  [授業内容] 「研究テーマを見つける」  ①気になる話題、出来事、事柄の整理、②リストの再検討、③予備調査  [授業方法] 個別及びグループ  [事前・事後学習等] 形にこだわらず自分なりの考えを書き出すこと、予備調査を行う</p> <p>【第11回～第15回】＜3年後期／後半＞  [授業内容] 「研究テーマを選定する（その1）」  ①予備調査を経て選定、②論文の書き方、書式、③アウトラインの作成  [授業方法] 個別及びグループ  [事前・事後学習等] 興味・関心のあるテーマについて掘り下げ、理解を深めること。</p> <p>【第16回～第29回】＜4年前期＞  [授業内容] 「研究テーマを選定する（その2）」、「原稿を執筆する」  ①仮説の提案、②暫定目次の作成、③資料やデータの収集、④執筆作業スケジュールを考える  [授業方法] 個別及びグループ  [事前・事後学習等] それぞれの段階に応じて、個人またはグループで発表してもらうので準備をしておくこと。</p> <p>【第30回】まとめ  [授業内容]  ①進捗状況の発表  [授業方法] 個別及びグループ  [事前・事後学習等] 他者の発表から学ぶこと。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○	○	○	40	
受講者の発表（プレゼン）			○	○	○	60	
テキスト・参考文献等	特になし なお、必要に応じて適宜、資料等を配布する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時またはオフィスアワーにて対応。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	河野高志						
授業の概要	3年後期では、各自が関心のある社会福祉のテーマについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。そして、そこでの議論や考察をもとに、卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心の整理をしていく。それをふまえて4年前期では、卒業論文の仮テーマを決定し、執筆をすすめていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	関心のあるテーマについて文献や資料にもとづき現状や問題を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	①自らが取り上げたテーマに関するプレゼンテーションができる。 ②他者が取り上げたテーマに関する議論へ積極的に参加できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	①関心のあるテーマやそれにかかわる内容を先行研究から整理できる。 ②文献や資料にもとづき卒業論文を執筆することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		授業内容の説明 等				
2～12	関心のあるテーマに関するプレゼンテーションとディスカッション		①ゼミ生と協議のうえで授業方法を決定します ②基本的にはゼミ生が関心のある社会福祉のテーマについて発表し、学生同士で議論できるような授業展開を考えています		<事前学習> ①関心のあるテーマについて、文献や論文などを読み、調べること ②発表に必要な資料を作成すること <事後学習> ①各回の発表をふまえて、次回発表の内容や構成を検討すること ②卒業論文で取り上げたいテーマを考えること		
13	卒業論文の書き方の解説		講義				
14	卒業論文のテーマの発表①		学生による発表		卒業論文で取り上げるテーマについて検討し、説明できるようにすること		
15	卒業論文のテーマの発表②		同上		同上		
16	仮テーマの決定		ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う		テーマに沿って計画的に卒業論文を執筆すること		
17～20	テーマの精緻化と研究計画の作成						
21～28	卒業論文執筆の進捗状況の確認（前半部分：先行研究、理論の整理）						
29・30	調査研究の準備						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート			◎	◎		10	
宿題・授業外レポート			◎	◎		50	
授業態度・授業への参加度				○	◎	20	
受講者の発表（プレゼン）			○		◎	20	
補足事項		小テスト・授業内レポートはゼミでの発表資料、宿題・授業外レポートは資料収集や論文作成、を評価します					
テキスト・参考文献等	特になし（テーマや関心に応じて各自が自由に選ぶこと）						
履修条件	グループディスカッションやプレゼンテーションが中心となるため、積極的な参加を期待する。						
学習相談・助言体制	①必要に応じて適宜相談を受ける。 ②アポイントメントをとって研究室に来ること。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	寺島正博						
授業の概要	本演習は社会福祉を中心に興味を持てる研究テーマを各学生が決め、グループ討議によりその研究テーマの課題を明らかとし卒業論文の作成につなげていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	研究テーマを設定し、その研究テーマに基づいた背景や目的を明確にすることができる。グループでの討議を通して共に悩み考えることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	独自性を持ったテーマを設定する。集めたデータの分析や検討をするなどの研究を進めることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	研究領域における専門性を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（今後の授業の進め方）		講義				
2～10	<b>【研究テーマと先行研究】</b> ・各自が興味を持てる研究テーマを発表する。 ・興味を持てる研究テーマに沿った文献の状況と内容を発表する。 ・文献からの課題を発表する。		発表・ディスカッション		・各自が興味を持てる研究テーマを考える。 ・興味を持てる研究テーマに沿って関連する文献を集める。 ・文献から課題を考える。		
11～15	<b>【卒業論文の作成方法】</b> ・調査法の選定（質的調査や量的調査）を発表する。 ・卒業論文の全体像流れを発表する。		発表・ディスカッション		・先行研究から調査法を検討する。		
16～30	<b>【卒業論文作成】</b> ・研究テーマを発表する。 ・卒業論文の全体構造の構想を発表する。 ・卒業論文の内容を発表する。		発表・ディスカッション		・論文作成。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			◎	◎	○	70	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	○	30	
テキスト・参考文献等	各自の研究テーマに応じて紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付ける。しかし、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応する。						

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	本演習では、各学生が関心のある社会福祉分野のテーマについて、グループでのプレゼンテーション及びディスカッションを行うことにより、各テーマの課題等について明らかにしていく。さらに、それらの結果を踏まえて、卒業論文で取り組むテーマを確定し、執筆を行うための準備（章立て・資料収集・研究方法の確定等）をする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	自分の関心があるテーマについて、文献収集等を通して、課題を明らかにすることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	①自分の関心があるテーマについて、意欲的に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。②グループの他のメンバーのプレゼンテーションを踏まえ、ディスカッションに積極的に参加することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	卒業論文テーマに関連する先行研究等の文献の収集及び整理を行い、分析を行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		・授業方法の説明と確認				
2～10	【3年次後期・前半】 各自が現在関心を持っている社会福祉に関するテーマについて、文献を基にまとめ、プレゼンテーションとグループディスカッションを行う。		プレゼンテーション及びディスカッション		①プレゼンテーションができるように、資料収集を行い、レジュメを作成する。 ②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う。		
11～15	【3年次後期・後半】 卒業論文作成に向けた研究方法について講義を行う。 (文献収集の方法・先行研究のレビュー・調査方法・章立て等)		講義		各自の研究方法について検討をする。		
16～20	【4年次前期・前半】 卒業論文で取り組むテーマを確定し、文献収集及び先行研究のレビュー結果をまとめ、発表する。		プレゼンテーション及びディスカッション		①プレゼンテーションができるように、資料収集を行い、レジュメを作成する。 ②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う。		
21～30	【4年次前期・後半】 ・卒業論文の研究方法を確定し、実施に向けた準備を行う。また、卒業論文の全体像を確認し、中間報告を行う。		プレゼンテーション及びディスカッション		・各自で計画的に卒業論文の執筆を行う。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			○	○		50	
受講者の発表（プレゼン）			○	○	○	50	
補足事項	・授業態度・授業への参加度 ※3分の2以上の出席を必須とする。 ・受講者の発表（プレゼン） ※評価基準 A 60点 B 40点 C 20点						
テキスト・参考文献等	特になし。適宜紹介をしていく。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						

授業科目名	福祉行財政と福祉計画		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	わが国では、特に1990年代以降、市町村を中心とした福祉サービスの提供システムが構築され、住民や民間事業者等の参加を得て市町村が策定する各種の「福祉計画」によって、サービスの基盤整備が進められている。そこで、この授業では、市町村を中心とする福祉行財政の仕組みと市町村等が策定する福祉計画の意義と実際について理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方自治体（特に市町村）における福祉行財政の仕組みと、その実際について説明できる。 福祉計画の意義・目的、種類・内容、方法等について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	福祉行財政と福祉計画の課題と、今後のあり方について考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション - 福祉行財政と福祉計画を学ぶ意義について -						
2	福祉行政とは - 福祉行政の定義とその範囲 -			参考文献① unit ①②を読む			
3	福祉行政の歴史と法制度 - 戦後の福祉行政の展開と社会福祉法 -			参考文献① unit ③④を読む			
4	福祉行政の実施体制（1） - 地方分権改革と福祉行政 -			参考文献① unit ⑥を読む			
5	福祉行政の実施体制（2） - 福祉行政の組織・機関と専門職 -			参考文献① unit ⑦を読む			
6	福祉行政の実施体制（3） - 社会福祉協議会と社会福祉法人 -			参考文献① unit ⑧⑨を読む			
7	福祉財政（1） - 福祉財政のしくみ -			参考文献① unit ⑤を読む			
8	福祉財政（2） - 福祉財政の動向 -			参考文献① unit ⑤を読む			
9	福祉計画とは何か - 福祉計画の定義、類型、歴史 -			参考文献① unit ⑩を読む			
10	各領域の福祉計画（1） - 高齢者福祉における計画 -			参考文献① unit ⑪を読む			
11	各領域の福祉計画（2） - 障害者福祉における計画 -			参考文献① unit ⑪を読む			
12	各領域の福祉計画（3） - 児童福祉・少子化対策における計画 -			参考文献① unit ⑫を読む			
13	各領域の福祉計画（4） - 地域福祉における計画 -			参考文献① unit ⑫を読む			
14	福祉計画の理論と技法 - 福祉計画の策定・実施・評価の過程と技法 -						
15	福祉行財政と福祉計画のこれから						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
試験		◎	○			85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
参考文献①・参考文献等	テキスト：特に指定しない。 参考文献： ①畑本裕介『社会福祉行政－行財政と福祉計画』，法律文化社，2012年 ②社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 第4版』，中央法規出版，2014年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等により随時質問を受け付ける。						

授業科目名	福祉経営論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	鬼崎 信好	後期集中	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>本講義では、社会福祉士国家試験科目である「福祉サービスの組織と経営」について学習する。21世紀における本格的な少子高齢社会の到来を背景に、福祉サービスの提供組織は多様化するようになった。すなわち、かつてのサービス提供組織は行政（市町村等の地方公共団体）と民間では社会福祉法人が主流であったが、今日においては、社会福祉法人を含む、営利法人（株式会社等）及びNPO法人等の多様な民間組織に変化してきている。そのために、相談援助活動に専門的に従事する社会福祉士は福祉サービス提供施設・事業所やサービス提供に関する経営管理の基礎知識も身に付けることが求められるようになってきている。（特に社会福祉法人やNPO法人等の組織構造や効率的なサービス供給と運営の実際等について理解する必要がある）。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	様々な福祉サービス提供組織（経営・提供主体）と運営の視点・方法（サービス管理・人事労務関係、リスクマネジメント、会計管理等）・組織構造等について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉事業の経営主体について理解し、これらのプラスとマイナスについて判断できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	・オリエンテーション・福祉組織の事例紹介 ・社会福祉施設の使命と役割（プリント）	プリント・パワーポイントを用いる。教科書も使用する。	講義終了時に指示する。				
2	社会福祉施設・事業の種類と社会福祉法		上に同じ				
3	社会福祉施設の特性と権利擁護の必要性（老人福祉施設等での虐待問題・苦情対応を例に）		教科書第1章の予習				
4	・施設＝地域コンフリクト（プリント・ビデオ） ・福祉サービスに係る組織と経営	教科書の内容に沿ってポイントを絞り講義を進めていく。必要に応じて補足資料を配布する。教科書の内容によっては、適宜インターネットで公開されている実際の福祉事業等（定款・運営規定、財務諸表等）を概観し具体的な内容を説明する。	教科書第1章の復習				
5	福祉サービス組織や団体①（社会福祉法人）		教科書第2章の復習				
6	福祉サービス組織や団体②（NPO・医療法人等）		教科書第2章の復習				
7	福祉NPOの現状－介護系NPOを例として－		NPO法人に関する予習				
8	福祉サービス組織と経営の基礎理論①		教科書第3章の復習				
9	・福祉サービス組織と経営の基礎理論② ・福祉サービス管理運営①（サービス管理①）		教科書第4章の復習				
10	・福祉サービス管理運営②〈サービス管理と人事・労務管理〉		教科書第5章の復習				
11	・福祉サービス管理運営③〈会計・財務管理〉		教科書第6章の復習				
12	・福祉サービス管理運営④〈情報管理とリスクマネジメント〉		教科書第7章の復習				
13	・法人運営に関する書類の意味と見方（定款・事業計画書、組織図・財務諸表等の具体的理解） ・福祉施設・事業の設備・人員等に関する基準の理解と必要性（調べる事業種別は指定する）		実際の福祉事業の運営基準、宣伝方法、財務諸表、サービス評価や情報公表制度等を調べ、組織構造、運営上の義務、情報公開・発信の必要性・方法等について、教科書で内容確認しながら具体的に理解する。	※情報処理室を活用するが、各種ホームページを参考に具体的に教科書の内容を説明しながら講義を進めるため、教科書とノートは必ず持参すること。			
14	・福祉サービス事業所・施設の情報発信の実際（アピール方法・情報公開の必要性・工夫等） ・介護サービス情報公表・福祉サービス第三者評価の現状と意義 ※課題を提出する。						
15	・全体まとめ（国家試験を見据えた教科書のポイント解説（※資料配布）） ・レポートの提出	まとめと解説					
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業での課題提出		◎				20	
最終回の提出レポート		◎	◎			60	
授業態度			○			20	
テキスト・参考文献等	教科書：中央法規『新社会福祉士養成講座 福祉サービスの組織と経営 第4版』2015. 参考文献：①全国社会福祉協議会『社会福祉施設経営管理論』2015.						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を設ける。視聴覚教材を活用し、社会福祉施設の広報活動、運営管理の実際についても理解を深める。						

授業科目名	社会福祉調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	堤 文 生						
授業の概要	「社会福祉士」国家試験の必須課題である「社会調査の基礎」を学習する。演習課題として、アンケート調査を行い、データの収集・集計、データ入力および解析の過程を学習する。単に知識（専門用語）の習得ではなく、統計ソフトを活用しながら、基礎的な統計処理法を学習する。実際に収集したデータの解析と結果の検証を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会福祉士として、アンケート調査などのデータを解析し、客観的な結果を導き出すことができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	アンケート調査などのデータを解析する統計処理手法を学び、実践的なデータ解析ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	社会調査の目的と種類、社会調査の科学、アンケート調査の実例紹介		講義		事後学習		
2	量的調査の手順と調査技術、量的調査結果の集計と分析		講義		事後学習		
3	量的調査票の作成（アンケート調査の実施）		講義		データの収集		
4	量的調査票の集計（アンケートの集計、データの入力）		講義		データの入力作業		
5	統計手法の基礎①（標本の代表値：平均値と標準偏差、中央値と四分位数）		講義、演習		事後学習		
6	統計手法の基礎②（データの尺度、度数分布、正規分布）		講義、演習		事後学習		
7	統計手法の基礎③（クロス集計、記述統計と推測統計、統計的検定）		講義、演習		事後学習		
8	統計的検定の手法①（適合度の検定、独立性の検定： $\chi^2$ 検定）		講義、演習		事後学習		
9	統計的検定の手法②（関連2群の検定：t検定、Wilcoxon検定）		講義、演習		事後学習		
10	統計的検定の手法③（独立2群の検定：t検定、Mann-Whitney検定）		講義、演習		事後学習		
11	統計的検定の手法④（独立多群の検定：分散分析、多重比較法）		講義、演習		事後学習		
12	統計的検定の手法⑤（2変量検定：相関係数と回帰直線）		講義、演習		事後学習		
13	統計的検定の手法⑥（多変量解析：重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析）		講義、演習		事後学習		
14	統計的検定の手法⑦（多変量解析：因子分析、主成分分析）		講義、演習		事後学習		
15	アンケートデータの解析：演習問題（各自でパソコン使用）		予備試験				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			10	
演習		○	○			20	
補足事項		統計ソフトを用いて、アンケートデータの解析手法を学ぶ。演習問題にて小テストを実施する。					
テキスト・参考文献等	テキスト及び参考文献はなし。講義資料を配布する。パソコンを使用するので、各自持参すること。						
履 修 条 件	5回以上の欠席は、履修資格なしとする。						
学習相談・助言体制	非常勤講師であるので、講義終了時に学内にて相談・助言は可能である。						

授業科目名	介護技術演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	木村和宣						
授業の概要	①演習中心で様々な介護技法を通じて個々の個性や能力に応じた基本的な介護技術や介護方法の選択、福祉用具の使用用途について体験する学習機会にする。②対象者が自らが持っている能力を引き出す介護方法について考え、選択し、自立に向けた援助方法を提案できる。③今日提唱されている抱えない介護等の基本的な技術が習得できる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	基礎的な介護の技法、抱えない介護方法、福祉用具の基本的な知識が体験、理解できる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	対象者の周囲の環境整備等の基本的な知識、福祉機器の基本的な機能が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象者に提供する介護の技法について、理解し説明することが出来る。					
	DP4：表現力	対象者に提供する介護の技法などについて対象者が理解できる表現方法が身につく。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	対象者の課題に対してのマネジメント及び援助方法の選択などを専門性に基づき説明、実施できる。					
	DP6：社会貢献力	基礎的な介護の技法を身に着ける事で介護を通じて社会貢献する機会を得ることが出来る。					
技能	DP7：コミュニケーション力	対象者との心身の状況を把握し、信頼関係を構築できる関わり方ができる。					
	DP8：情報リテラシー	様々な介護技法や福祉用具の機能とその特徴について学習し理解できる。					
	DP9：健康スキル	援助者の身体を傷めないボディメカニクスの基本的な技術を身に着けることが出来る。					
	DP10：専門分野のスキル	対象者の身体の状態に応じた基本的な介護技術、介護方法を説明、実施できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（援助者の態度・介護の原則について、評価方法提示）		講義、演習		テキスト予習		
2	コミュニケーション技法、ボディメカニクス		講義、演習		テキスト予習		
3	生活環境の整備（ベッドメイキング）・抱えない介護技術①		講義、演習		テキスト予習		
4	基本的な姿勢と体位・ベッド上での移動・抱えない介護技術②		講義、演習		テキスト予習		
5	車イスの操作（屋内外での移動介助）		講義、演習		テキスト予習		
6	衣生活の援助（衣服気候、寝衣・衣服交換）		講義、演習		テキスト予習		
7	清潔の意義・目的、清潔の援助		講義、演習		テキスト予習		
8	清潔の意義・目的、清潔の援助		講義、演習		テキスト予習		
9	排泄の援助（排泄の意義、排泄のメカニズム、自立へむけた援助法）		講義、演習		テキスト予習		
10	排泄介助（トイレ誘導、ポータブルトイレ、便器・尿器の当て方、オムツ交換）		講義、演習		テキスト予習		
11	食事の援助（食事の意義・目的、消化吸収のメカニズム、嚥下障害、栄養マネジメント）		講義、演習		テキスト予習		
12	介護技術総合演習		講義、演習		テキスト予習		
13	介護技術総合演習		講義、演習		テキスト予習		
14	介護計画立案作成		講義、演習		レポート提出		
15	介護マネジメントと評価		講義、演習		レポート提出		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度					○	60	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	15	
演習			○		◎	15	
補足事項	演習を通じ基本的介護技術の習得及び判断力を養うことを目的としているために出席状況、授業態度、演習課題の達成度より評価を行います。						
テキスト・参考文献等	【テキスト】介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』、中央法規						
履修条件	演習の服装・靴は動きやすいものにして下さい。（ジャージなど動き易い服装が好ましい）						
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。（講義終了後にも随時質問に対応します。）						

授業科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	平 林 恵 美						
授業の概要	単に知識と技術を会得するだけでなく、将来、専門家として他者に援助する自己を見つめる機会とする。わが国の精神保健福祉の現状を踏まえ、精神科医療におけるチーム医療や生活者の視点に立った精神障害者に対する援助のあり方を、多面的・多角的に思考し、実践する能力を養うための基礎づくりになることをねらいとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、相談援助に係る専門職の概念と範囲、相談援助における権利擁護の意義と範囲、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	ソーシャルワークに関する援助技術を学ぶことによって、将来の専門職としての実践に向けた援助のあり方を多面的・多角的に思考できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		-		
2	精神保健福祉士の役割と意義		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第1章Ⅰの通読		
3	現代社会と精神保健福祉士		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第1章Ⅱの通読		
4	ソーシャルワークの定義と構成要素		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第2章Ⅰの通読		
5	ソーシャルワーク関係における価値・理念と原則		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第2章Ⅱの通読		
6	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第3章Ⅰの通読		
7	アメリカにおける精神保健福祉分野のソーシャルワーク発展の歴史		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第3章Ⅱの通読		
8	日本におけるソーシャルワークの歴史と精神保健のかかわり		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第3章Ⅲの通読		
9	ソーシャルワーク理論		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第4章Ⅰの通読		
10	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第4章Ⅱの通読		
11	社会福祉調査・研究		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第4章Ⅲの通読		
12	チームアプローチと多職種連携		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅰの通読		
13	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅱの通読		
14	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅲの通読		
15	まとめ		講義		-		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	○			60	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会／編集 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 精神保健福祉相談援助の基盤〔基礎〕〔専門〕』第3巻、へるす出版、2014、2,940円 なお、必要に応じて適宜、資料等を配布する。						
履 修 条 件	精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する学生は必須科目なので、必ず受講すること。						
学習相談・助言体制	リアクションペーパーに感想・質問・意見等を記述してもらうので活用すること。次回の授業時またはオフィスアワーで対応。						

授業科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	平林恵美						
授業の概要	単に知識と技術を会得するだけでなく、将来、専門家として他者に援助する自己を見つめる機会とする。わが国の精神保健福祉の現状を踏まえ、精神科医療におけるチーム医療や生活者の視点に立った精神障害者に対する援助のあり方を、多面的・多角的に思考し、実践する能力を養うための基礎づくりになることをねらいとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開、地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際、精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	ソーシャルワークに関する援助技術を学ぶことによって、将来の専門職としての実践に向けた援助のあり方を多面的・多角的に思考できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション	講義			-		
2	障害者福祉の理念と精神障害	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第1章Ⅰの通読		
3	精神障害者の人権（1）	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第1章Ⅱの通読		
4	精神障害者の人権（2）	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第1章Ⅱの通読		
5	障害者権利条約の理念	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第1章Ⅲの通読		
6	精神障害および精神障害者	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第1章Ⅳの通読		
7	精神保健福祉と精神障害者福祉	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第2章Ⅰの通読		
8	精神保健福祉の歴史と理念	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第2章Ⅱの通読		
9	精神保健福祉の現状と展望	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第2章Ⅲの通読		
10	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向〔導入期〕	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第3章Ⅰの通読		
11	精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向〔混乱期／展開期／拡大期〕	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第3章ⅡⅢⅣの通読		
12	国家資格としての精神保健福祉士の意義	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第4章Ⅰの通読		
13	精神保健福祉士の専門性と倫理（1）	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第4章Ⅱの通読		
14	精神保健福祉士の専門性と倫理（2）	講義（適宜、視聴覚教材を使用）			テキスト第4章Ⅱの通読		
15	まとめ	講義			-		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		○	○				60
小テスト・授業内レポート		○	○				20
授業態度・授業への参加度		○	○				20
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 / 編集 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 精神保健福祉の理論と相談援助の展開（2版）』第4巻、へるす出版、2014、3,150円 なお、必要に応じて適宜、資料等を配布する。						
履修条件	精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する学生は必須科目なので、必ず受講すること。						
学習相談・助言体制	リアクションペーパーに感想・質問・意見等を記述してもらおうので活用すること。次回の授業時またはオフィスアワーで対応。						

授業科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	平 林 恵 美						
授業の概要	単に知識と技術を会得するだけでなく、将来、専門家として他者に援助する自己を見つめる機会とする。わが国の精神保健福祉の現状を踏まえ、精神科医療におけるチーム医療や生活者の視点に立った精神障害者に対する援助のあり方を、多面的・多角的に思考し、実践する能力を養うための基礎づくりになることをねらいとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開、地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際、精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	ソーシャルワークに関する援助技術を学ぶことによって、将来の専門職としての実践に向けた援助のあり方を多面的・多角的に思考できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		-		
2	精神保健福祉士の支援とソーシャルワークの展開過程		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅰの通読		
3	ソーシャルワーク面接		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅱの通読		
4	個別支援		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅲの通読		
5	グループを活用した支援		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅳの通読		
6	地域を対象とした支援（1）		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅴの通読		
7	地域を対象とした支援（2）		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅴの通読		
8	災害時における精神保健福祉士の役割		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅵの通読		
9	スーパービジョンとコンサルテーション		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅶの通読		
10	ケアマネジメント（1）		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅷの通読		
11	ケアマネジメント（2）		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第5章Ⅷの通読		
12	チーム医療における精神保健福祉士の役割		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第6章Ⅰの通読		
13	専門職の役割と機能		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第6章Ⅱの通読		
14	チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割		講義（適宜、視聴覚教材を使用）		テキスト第6章Ⅲの通読		
15	まとめ		講義		-		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	○			60	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 / 編集 『新版 精神保健福祉士養成セミナー 精神保健福祉の理論と相談援助の展開（2版）』第4巻、へるす出版、2014、3,150円 なお、必要に応じて適宜、資料等を配布する。						
履 修 条 件	精神保健福祉士国家試験受験資格を取得する学生は必須科目なので、必ず受講すること。						
学習相談・助言体制	リアクションペーパーに感想・質問・意見等を記述してもらうので活用すること。次回の授業時またはオフィスアワーで対応。						

授業科目名	精神保健福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年前期	演習	選択	1	3年
担当教員	住友雄資・平林恵美・畑 香理						
授業の概要	精神保健福祉士に求められる基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことが能力を涵養する。その際、相談援助に係る基礎的な技術に関する具体的な実技と、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を用いることとし、個別指導ならびに集団指導・グループ学習などによる演習形式で習得することとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神保健福祉の問題解決に関わる基礎的な知識と技術を修得することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉の諸問題に対応するための基礎的なスキルを身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>以下の内容について、演習形式を用いて習得することとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションおよび自己覚知に関する演習</li> <li>2 基本的なコミュニケーション技術の習得に関する演習</li> <li>3 基本的な面接技術の習得に関する演習</li> <li>4 集団力動（グループダイナミクス）活用技術の習得に関する演習</li> <li>5 情報の収集・整理・伝達の技術の習得に関する演習</li> <li>6 課題の発見・分析・解決の技術の習得に関する演習</li> <li>7 記録の技術の習得に関する演習</li> <li>8 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握に関する実技指導</li> <li>9 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域アセスメントに関する実技指導</li> <li>10 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域福祉計画に関する実技指導</li> <li>11 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、ネットワーキングに関する実技指導</li> <li>12 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、社会資源の活用・調整に関する実技指導</li> <li>13 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、社会資源の開発に関する実技指導</li> <li>14 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、サービス評価に関する実技指導</li> <li>15 1～14までの内容のまとめ</li> </ol> <p>※事前学習：授業内で適宜指示するが、原則として事前に事例を読み込んでおくこと          ※事後学習：授業での演習内容をふりかえること</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
演習				◎	○	100	
補足事項	出席は大前提。						
テキスト・参考文献等	テキスト： 必要に応じて資料等を事前にe-ラーニングにて配布する。						
履修条件	「精神保健福祉援助演習」「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」を履修中（予定含む）の者						
学習相談・助言体制	講義の前後またはオフィスアワー等で対応。						

授業科目名	精神保健福祉援助演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期～ 4年後期	演習	選択	2	3～4年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、援助・支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で習得することが中心である。また、演習課題に応じてグループ学習を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神保健福祉の問題解決に関わる専門的スキルを修得することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～15 支援課題に関する事例演習（「社会的排除」「地域移行支援」「地域定着支援」「ピアサポート」「自殺（予防）」「ひきこもり」「虐待」「薬物・アルコール依存」「就労（雇用）」「貧困（低所得）」「ホームレス」「S S T」「心理教育」「権利擁護」「施設コンフリクト」</p> <p>16～23 支援モデルに関する事例演習（「危機介入」「ストレングスモデル」「セルフヘルプグループ」「アウトリーチ」「チームアプローチ」「ケアマネジメント」「ネットワーキング」「社会資源活用・開発法」）</p> <p>24～27 ソーシャルワーク過程に関する事例演習（「インテーク」「アセスメント」「プランニング」「実施」「モニタリング」「評価」）</p> <p>28～30 実習を通して明らかになった精神保健福祉士の実践課題に関する演習</p> <p>※事前学習：授業内で適宜指示するが、原則として事前に事例を読み込んでおくこと  ※事後学習：授業での演習内容をふりかえること</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
演習				◎	○	100	
補足事項	出席は大前提。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：  栄セツコ・住友雄資・松本すみ子・森田久美子編『精神保健福祉援助演習（基礎・専門）』中央法規出版、2012、2,700円（税別）  なお、必要に応じて資料等を事前にe-ラーニングにて配布する。</p>						
履修条件	「精神保健援助演習」を履修済、および「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」を履修中（予定含む）の者						
学習相談・助言体制	講義の前後またはオフィスアワー等で対応。						

授業科目名	精神保健福祉援助演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3～4年
担当教員	畑 香 理						
授業の概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で習得することが中心である。また、演習課題に応じてグループ学習を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を継続的に高めていく意欲がある。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉に関する課題を理解し、解決に向けた援助について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、体系立てていくことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、社会的排除に関する事例		講義・実技		授業内で適宜指示する		
2	地域移行支援に関する事例						
3	地域定着支援に関する事例						
4	ピアサポートに関する事例						
5	自殺（予防）に関する事例						
6	ひきこもりに関する事例						
7	虐待に関する事例						
8	薬物・アルコール依存に関する事例						
9	就労（雇用）に関する事例						
10	貧困（低所得）に関する事例						
11	ホームレスに関する事例						
12	SSTに関する事例						
13	心理教育に関する事例						
14	権利擁護に関する事例						
15	施設コンフリクトに関する事例						
16	危機介入に関する事例						

17	ストレングスモデルに関する事例	講義・実技	授業内で適宜指示する	
18	セルフヘルプグループに関する事例			
19	アウトリーチに関する事例			
20	チームアプローチに関する事例			
21	ケアマネジメントに関する事例			
22	ネットワーキングに関する事例			
23	社会資源活用・開発法に関する事例			
24	ソーシャルワーク過程（インテーク）に関する事例			
25	ソーシャルワーク過程（アセスメント）に関する事例			
26	ソーシャルワーク過程（プランニング）に関する事例			
27	ソーシャルワーク過程（実施・モニタリング・評価）に関する事例			
28	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の実践課題（1）			実習における援助場面の再構築を行い、そのことを通じて実践の理論的理解を深めること
29	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の実践課題（2）			
30	まとめ			自己の学びを振り返ること

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
授業態度・授業への参加度				○	○	30
演習				◎	◎	70
補足事項	演習は個々の学生の積極的な参加が前提となると同時に、グループでの共同作業が中心となるので、主体的・積極的に取り組むこと。遅刻・無断欠席は厳禁。					

テキスト・参考文献等	必要に応じて適宜、資料等を配布する（eラーニングによる配布を含む）。
履修条件	「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」を履修中（予定者含む）の者。
学習相談・助言体制	随時質問を受け付ける。

授業科目名	精神保健福祉援助演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期～ 4年後期	演習	選択	2	3～4年
担当教員	平林恵美						
授業の概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値及び支援の方法や技術について、具体的なソーシャルワーク実践事例を通して、習得することが中心である。また、演習課題に応じてグループワーク演習を行うことによって、ソーシャルワークの援助技術や価値について理解を深める。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について、実践的に習得する意欲と態度を身につけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉士に求められる知識と技術を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 社会的排除に関する支援事例		講義		演習の目標を理解する。		
2	退院支援・地域移行に関する支援事例		講義・実技		授業内で適宜指示する。		
3	地域生活継続・地域定着支援に関する支援事例		講義・実技		〃		
4	ピアサポートに関する支援事例		講義・実技		〃		
5	自殺に関する支援事例		講義・実技		〃		
6	ひきこもりに関する支援事例		講義・実技		〃		
7	児童虐待に関する支援事例		講義・実技		〃		
8	薬物・アルコール依存に関する支援事例		講義・実技		〃		
9	就労に関する支援事例		講義・実技		〃		
10	貧困・低所得に関する支援事例		講義・実技		〃		
11	ホームレスに関する支援事例		講義・実技		〃		
12	SSTに関する事例		講義・実技		〃		
13	心理教育に関する事例		講義・実技		〃		
14	権利擁護に関する事例		講義・実技		〃		
15	施設コンフリクトに関する事例		講義・実技		〃		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業態度・授業への参加度			○	○	50	
	演習			○	○	50	
テキスト・参考文献等	次ページに記載						
履修条件	次ページに記載						
学習相談・助言体制	次ページに記載						

授業科目名	精神保健福祉援助演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期～ 4年後期	演習	選択	2	3～4年
担当教員	平林恵美						
授業の概要	前ページと同じ						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について、実践的に習得する意欲と態度を身につけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉士に求められる知識と技術を、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
16	危機状態にある精神障害者への支援事例		講義・実技		授業内で適宜指示する。		
17	ストレスモデルに関する事例		講義・実技		〃		
18	セルフヘルプグループに関する事例		講義・実技		〃		
19	アウトリーチに関する事例		講義・実技		〃		
20	ケアマネジメントに関する事例		講義・実技		〃		
21	チームアプローチに関する事例		講義・実技		〃		
22	ネットワーキングに関する事例		講義・実技		〃		
23	社会資源の活用・調整・開発に関する事例		講義・実技		〃		
24	インテーク・契約に関する事例		講義・実技		〃		
25	アセスメントに関する事例		講義・実技		〃		
26	プランニングに関する事例		講義・実技		〃		
27	支援の実施・モニタリング、効果測定と支援の評価、終結とアフターケアに関する事例		講義・実技		〃		
28	実習を通して明らかになった実践課題（1）		講義・実技		実習における援助場面の再構成を通して実践の理論的理解を深める。		
29	実習を通して明らかになった実践課題（2）		講義・実技		〃		
30	まとめ		講義・実技		自己の学びを振り返る。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	授業態度・授業への参加度			○	○	50	
	演習			○	○	50	
テキスト・参考文献等	テキスト：授業内で指示する。なお、必要に応じて適宜、教材等を配布する。						
履修条件	「精神保健福祉援助実習指導」及び「精神保健福祉援助実習」を履修中の者。						
学習相談・助言体制	講義の前後またはオフィスアワーで対応。						

授業科目名	学校ソーシャルワーク論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	奥村賢一	前期 (後期)	講義	選択	2	4年 (3年)
授業の概要	本講義では、①今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、②学校ソーシャルワークの発展過程、③海外のスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割と活動、④学校ソーシャルワークの実践モデル、⑤スクール（学校）ソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性、以上5点について重点的に理解を深めていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	学校ソーシャルワークの実践展開に求められる学校教育および社会福祉等の専門的知識を体系的に理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	学校教育現場における学校ソーシャルワーク実践の必要性とスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割と機能及び具体的な活動内容について説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域的情勢			テキストを購読しておくこと			
2	学校ソーシャルワークの価値・倫理			テキストを購読しておくこと			
3	アメリカでのスクール（学校）ソーシャルワーカーの発展史			テキストを購読しておくこと			
4	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動			テキストを購読しておくこと			
5	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動			テキストを購読しておくこと			
6	わが国での学校ソーシャルワークの発展史			テキストを購読しておくこと			
7	わが国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動			テキストを購読しておくこと			
8	学校ソーシャルワークの実践モデルの概要			テキストを購読しておくこと			
9	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実例			テキストを購読しておくこと			
10	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実例			テキストを購読しておくこと			
11	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実例その1			テキストを購読しておくこと			
12	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実例その2			テキストを購読しておくこと			
13	学校ソーシャルワークの教育行政への支援			テキストを購読しておくこと			
14	スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン			テキストを購読しておくこと			
15	まとめ			テキストを購読しておくこと			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○				60	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
補足事項	・授業内レポート ※評価基準 A 60点 B 40点 C 20点						
テキスト・参考文献等	テキスト ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規、2008年（3,240円） 参考文献 ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』、中央法規、2009年（2,592円） ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円）						
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定」履修希望者						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく。						

授業科目名	学校ソーシャルワーク演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	4年
担当教員	蒲池 恵						
授業の概要	演習では、①子どもの抱える問題（課題）を把握するための情報収集及び状況分析（アセスメント）方法、②アセスメントから個別教育支援計画の立案（プランニング）及び評価・査定（モニタリング）方法、③学校内での支援ケース会議の方法、④事例を通して学校ソーシャルワーク実践の展開方法、以上①から④を中心に学びを深めていく。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	事例検討やプレゼンを通して、自己の考えや支援内容を他者に伝えることができる					
技能	DP10：専門分野のスキル	学校ソーシャルワークの視点から、社会福祉に関する問題を考えることができる					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション						前回の授業内容を復習のうえ、授業に参加すること。
2	学校ソーシャルワーク実践の導入（エントリー）①						
3	学校ソーシャルワーク実践の導入（エントリー）②						
4	アセスメントの展開（マイクロプラクティス）①						
5	アセスメントの展開（マイクロプラクティス）②						
6	教育支援のプランニング（マイクロプラクティス）①						
7	教育支援のプランニング（マイクロプラクティス）②						
8	支援ケース会議（メゾプラクティス）①						
9	支援ケース会議（メゾプラクティス）②						
10	支援ケース会議（メゾプラクティス）③						
11	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開（マイクロ・メゾ・マクロプラクティス）①						
12	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開（マイクロ・メゾ・マクロプラクティス）②						
13	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開（マイクロ・メゾ・マクロプラクティス）③						
14	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開（マイクロ・メゾ・マクロプラクティス）④						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表（プレゼン）				◎		40	
演習					◎	40	
テキスト・参考文献等	参考文献 ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規2009年（2,592円） ・門田光司・鈴木庸裕編『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房2010年（3,024円） ・その他、授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」履修希望者。						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく。						

授業科目名	相談援助の基盤と専門職 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の指定科目「相談援助の基盤と専門職」の中でも、①相談援助の定義と構成要素、②相談援助の形成過程、③相談援助の理念、④総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能、について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	相談援助の定義、構成要素、形成過程及び理念について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能について、事例を通して考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 授業の進め方と現代社会における福祉問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを中心に講義を行う。</li> <li>・必要に応じて資料等の配布や視聴覚教材を用いる予定。</li> </ul>				
2	社会福祉士の意義と役割①						
3	社会福祉士の意義と役割②						
4	相談援助の定義と構成要素①						
5	相談援助の定義と構成要素②						
6	相談援助の形成過程Ⅰ－①						
7	相談援助の形成過程Ⅰ－②						
8	中間のまとめ：確認小テストと解説		2回から7回までのまとめと小テスト・解説				
9	相談援助の形成過程Ⅱ－①		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを中心に講義を行う。</li> <li>・必要に応じて資料等の配布や視聴覚教材を用いる予定。</li> </ul>		テキスト第4章を読むこと		
10	相談援助の形成過程Ⅱ－②				テキスト第4章を読むこと		
11	相談援助の理念Ⅰ－①				テキスト第5章を読むこと		
12	相談援助の理念Ⅰ－②				テキスト第5章を読むこと		
13	相談援助の理念Ⅱ－①				テキスト第6章を読むこと		
14	相談援助の理念Ⅱ－②				テキスト第6章を読むこと		
15	全体のまとめ：確認小テストと解説				全体のまとめと確認小テスト・解説		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート			◎	○			80
授業態度・授業への参加度			○				20
テキスト・参考文献等	テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規 その他：適宜、レジメを配布						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーにて質問や相談を受け付ける。また、出席カードやメール等でも質問を随時受け付ける。						

授業科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	本講義では「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」の学習内容を基礎とし、①専門職倫理とジレンマ、②総合的・包括的な相談援助の全体像と基本理論、③相談援助にかかる専門職の概念と範囲、④総合的・包括的な相談援助の専門的機能を軸に授業を展開する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域を基盤としたソーシャルワーク、社会・精神保健福祉士の職域・役割等を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理ティディレンマとその解決案を考えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	・オリエンテーション ・社会・精神保健福祉士の役割の確認、相談援助と近年の福祉問題1		基本的には指定教科書の第7章～第11章までの範囲に沿って授業を行うが、配布プリントも積極的に活用する。授業全体の後半では、各授業の終わりに社会・精神保健福祉士等が行う相談援助やその対象者・問題に関するDVDを視聴し、実際の相談援助活動や扱うべき問題について各自がイメージしていく。		初回については授業終了時に指示するが、その他の回では、前回の復習をしておくこと。なお、最終回で20分程度実施予定の小問題（直後に解説予定）については、正答率60%以上を求めます。		
2	・相談援助と近年の福祉問題2、専門職倫理と倫理的ジレンマ1						
3	・専門職倫理と倫理的ジレンマ2						
4	・専門職倫理と倫理的ジレンマ3						
5	・専門職倫理と倫理的ジレンマ4						
6	・総合的・包括的な相談援助の全体像1						
7	・総合的・包括的な相談援助の全体像2						
8	・総合的・包括的な相談援助を支える理論						
9	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲1						
10	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲2						
11	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲3						
12	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲4						
13	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲5						
14	・社会福祉に関する各種資格の概要 （国家資格・公的資格・民間資格等）						
15	・確認小問題と解説、質疑応答、国家試験の過去問題等の概観						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	小テスト・授業内レポート	◎	◎			100	
	授業態度・授業への参加度		○				
テキスト・参考文献等	教科書は前期科目の「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」と同じものを使用する。						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」を履修しておくこと。全回数の1/3以上欠席した者は単位を与えない。						
学習相談・助言体制	講義終了間に質問時間を取りたいと思いますが、講義終了後やオフィスアワーでも質問に対応します。						

授業科目名	相談援助の理論と方法 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	河野高志						
授業の概要	社会福祉士国家試験の受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、①相談援助における対象の理解、②ケアマネジメント、③実践モデルとアプローチ、④事例研究・事例分析、⑤相談援助の実際、について解説していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	ソーシャルワークの対象や、実践モデル、アプローチの特徴を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	相談援助の展開方法や実際の例を理解し、自分なりの意見を整理することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容					事前・事後学習（学習課題）	
1	オリエンテーション						
2	相談援助における対象の理解①					テキスト第1章を読むこと	
3	相談援助における対象の理解②					テキスト第1章を読むこと	
4	実践モデルとアプローチ①					テキスト第6章を読むこと	
5	実践モデルとアプローチ②					テキスト第6章を読むこと	
6	実践モデルとアプローチ③					テキスト第7章を読むこと	
7	実践モデルとアプローチ④					テキスト第7章を読むこと	
8	実践モデルとアプローチ⑤					テキスト第8章を読むこと	
9	実践モデルとアプローチ⑥					テキスト第8章を読むこと	
10	ケアマネジメント①					テキスト第2章を読むこと	
11	ケアマネジメント②					テキスト第2章を読むこと	
12	事例研究・事例分析①					テキスト第13章を読むこと	
13	事例研究・事例分析②					テキスト第13章を読むこと	
14	相談援助の実際					テキスト第14章を読むこと	
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）			◎			10	
テキスト・参考文献等	【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規 2015年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する） 【その他】適宜、レジメや資料を配付する。						
履修条件	他の社会福祉士指定科目を同時履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	1. 出席カードに質問や感想などを書いてください。 2. 研究室（1号館2階）で質問や相談を受けつけます。						

授業科目名	相談援助の理論と方法B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	本講義では、①社会福祉援助における相談援助のとらえ方、②援助者の基本姿勢と援助関係、③相談援助の構造と基本的プロセス、④相談援助における面接と記録の基本について学習する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	福祉相談における基本姿勢、援助関係、基本的な進め方、面接・記録の概要について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	福祉相談における個別的な利用者理解の重要性を考えることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	・オリエンテーション、「相談援助の基盤と専門職」の振り返り		・基本事項の確認		講義終了時に指示する。		
2	・相談援助とは（ソーシャルワークと社会福祉相談援助と関連技術）		教科書の第1章（相談援助とは）、第2章（相談援助の構造と機能）、第4章（相談援助における援助関係）、第5章（相談援助の展開過程Ⅰ）、第6章（相談援助の展開過程Ⅱ）、第12章（相談援助のための面接技）、第13章（相談援助のための記録の技術）、つまり全14章のうち、7つの章について解説・説明する。パワーポイントや資料配布、ロールプレイ等も適宜取り入れる。		各自、前回の復習をしておくこと。		
3	・相談援助の構造と機能①						
4	・相談援助における援助関係①						
5	・相談援助における援助関係②						
6	・相談援助における援助関係③ ・相談援助の展開過程Ⅰ－①						
7	・相談援助の展開過程Ⅰ－②						
8	・相談援助の展開過程Ⅰ－③ ・相談援助の展開過程Ⅱ－①						
9	・相談援助の展開過程Ⅱ－②						
10	・相談援助の展開過程Ⅱ－③ ・相談援助のための面接技術①						
11	・相談援助のための面接技術②						
12	・相談援助のための面接技術③ ・相談援助に関する記録①						
13	・相談援助に関する記録②						
14	・まとめと振り返り・補足など						
15	・まとめの小問題と解説・質疑応答						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	小テスト・授業内レポート	◎	◎			100	
	授業態度・授業への参加度		○				
テキスト・参考文献等	中央法規「新 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅰ」（※最新版を使用予定）						
履修条件	相談援助の理論と方法Aを履修しておくことが望ましい。全回数の1/3以上欠席した者には単位を与えない。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーの時間帯に対応しますが、それ以外の時間も可能な限り対応します。						

授業科目名	相談援助の理論と方法C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			後期	講義	選択	2	2年		
担当教員	奥村 賢一								
授業の概要	相談援助に必要なとされる基礎的概念を学び、援助過程における①アウトリーチ、②契約、③アセスメント、④介入、⑤経過観察・再アセスメント・効果測定・評価、⑥交渉などの各技術を効果的に活用するための理論と方法について理解を深めていく。								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	相談援助の基本的な援助過程を専門的知識に基づいて説明することができる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	相談援助の各技術（上記①から⑥）における意義や目的を述べる 相談援助の各技術（上記①から⑥）における方法や留意点を述べる							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション		・授業進行方法の説明 ・概要説明と質疑応答		講義終了時に指示				
2	人と環境の相互作用		・テキストを中心に講義を行う。  ・講義では、パワーポイントを中心に解説や説明を行う。その他必要に応じて板書や資料等を配布していく。  ・単元によりロールプレイやグループ討議などを取り入れていく。  ・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。		前回講義内容の復習				
3	相談援助のためのアウトリーチの技術				前回講義内容の復習				
4	相談援助のための契約の技術				前回講義内容の復習				
5	相談援助のためのアセスメントの技術①				前回講義内容の復習				
6	相談援助のためのアセスメントの技術②				前回講義内容の復習				
7	相談援助のための介入の技術①				前回講義内容の復習				
8	相談援助のための介入の技術②				前回講義内容の復習				
9	相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術①				前回講義内容の復習				
10	相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術②				前回講義内容の復習				
11	相談援助のための交渉の技術①				前回講義内容の復習				
12	相談援助のための交渉の技術②				前回講義内容の復習				
13	授業内容の振り返り①				・第2回から第6回までの重要項目をおさらい。		過去の講義内容について全体的な復習		
14	授業内容の振り返り②				・第7回から第12回までの重要項目をおさらい。				
15	まとめ				・講義内容のまとめとして小テストを実施。		講義終了時に指示		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
小テスト・授業内レポート			◎			60			
授業態度・授業への参加度			○	○		30			
補足事項	授業への参加度（※メール・中途退室等は原則禁止）と出席（※講義回数の3分の2以上の出席が必須）を前提として、まとめの小テストの得点率が60%以上を単位認定とする。								
テキスト・参考文献等	・社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 I 第3版』、中央法規、2015年（2,600円税別） ※本講義は、教科書の第3,7,8,9,10,11,14章部分を学習予定。 （※2016年3月までにテキストの改訂がされた場合、最新版を使用予定。）								
履修条件	相談援助の理論と方法A、Bを履修しておくことが望ましい。								
学習相談・助言体制	・授業内において、随時質問を受け付ける。 ・その他、オフィスアワーの時間帯を利用して相談や質問を受け付ける。								

授業科目名	相談援助の理論と方法 D		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	河野高志						
授業の概要	社会福祉士国家試験の受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、①グループワーク、②コーディネーションとネットワーキング、③社会資源の活用・調整・開発、④スーパービジョンとコンサルテーション、⑤ケースカンファレンス、⑥個人情報保護、⑦情報通信技術（ICT）の活用、について解説していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）の特徴を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	相談援助の展開方法や実際の例を理解し、自分なりの意見を整理することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション						
2	グループを活用した相談援助①						テキスト第3章を読むこと
3	グループを活用した相談援助②						テキスト第3章を読むこと
4	コーディネーションとネットワーキング①						テキスト第4章を読むこと
5	コーディネーションとネットワーキング②						テキスト第4章を読むこと
6	社会資源の活用・調整・開発①						テキスト第5章を読むこと
7	社会資源の活用・調整・開発②						テキスト第5章を読むこと
8	スーパービジョンとコンサルテーション①						テキスト第9章を読むこと
9	スーパービジョンとコンサルテーション②						テキスト第9章を読むこと
10	ケースカンファレンス①						テキスト第10章を読むこと
11	ケースカンファレンス②						テキスト第10章を読むこと
12	ソーシャルワークにおける個人情報の保護①						テキスト第11章を読むこと
13	ソーシャルワークにおける個人情報の保護②						テキスト第11章を読むこと
14	ソーシャルワークにおける情報通信技術（ICT）の活用						テキスト第12章を読むこと
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）			◎			10	
テキスト・参考文献等	【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規 2015年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する） 【その他】適宜、レジュメや資料を配付する。						
履修条件	「相談援助の理論と方法A」「相談援助の理論と方法B」「相談援助の理論と方法C」を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	1. 出席カードに質問や感想などを書いてください。 2. 研究室（1号館2階）で質問や相談を受けつけます。						

授業科目名	相談援助演習 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	本郷秀和・河野高志・松岡佐智・岡田和敏		通年	演習	選択	2	2年
授業の概要	本演習では、社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的技能（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）について、4グループ（1グループ20名以下）での演習により体験的に学習していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	相談援助の基本スキルを体験的に修得し、福祉利用者に貢献できる基礎能力を身につける。					
技能	DP10：専門分野のスキル	面接、コミュニケーション、観察・記録、グループワークと自己覚知に関する基礎的技能を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	全体オリエンテーション（全体）	授業スケジュールなど全体説明を行う。	・演習の進捗状況を見て適宜指示する。				
2	基本的な面接技法Ⅰ・1	面接技法（基本的関わりから展開、終結までに必要な姿勢・技法等）の基礎を体験的に演習形式で学ぶ。					
3	基本的な面接技法Ⅰ・2						
4	基本的な面接技法Ⅰ・3						
5	基本的な面接技法Ⅰ・4						
6	基本的な面接技法Ⅰ・5						
7	基本的な面接技法Ⅰ・6						
8	基本的な面接技法Ⅰ・7						
9	基本的な面接技法Ⅱ（模擬面接を通じた表情・態度の観察等）		面接から派生する相談援助のための観察視点や関連記録の基本技法等を体験的に理解する。面接・観察記録等を基にプランニングを考え、各自報告を行う。				
10	基本的な面接技法Ⅱ（ADLの観察と記録等）						
11	基本的な面接技法Ⅱ（環境的側面の観察と記録等）						
12	基本的な面接技法Ⅱ（面接時の記録① - インテーク面接記録 -）						
13	基本的な面接技法Ⅱ（面接時の記録② - ジェノグラムとエコマップ -）						
14	基本的な面接技法Ⅱ（観察記録とアセスメント）						
15	基本的な面接技法Ⅱ（アセスメントからケアマネジメントへ、プレゼン）						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	演習			◎	◎	100	
テキスト・参考文献等	次ページに記載。						
履修条件	次ページに記載。						
学習相談・助言体制	次ページに記載。						

授業科目名	相談援助演習 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	本郷秀和・河野高志・松岡佐智・岡田和敏						
授業の概要	本演習では、社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的技能（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）について、4グループ（1グループ20名以下）での演習により体験的に学習していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	相談援助の基本スキルを体験的に修得し、福祉利用者に貢献できる基礎能力を身につける。					
技能	DP10：専門分野のスキル	面接、コミュニケーション、観察・記録、グループワークと自己覚知に関する基礎的技能を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
16	自己覚知1		対話による自己理解、他者の考え方の理解を通じて自己覚知について体験的に学んでいく。具体的内容は、オリエンテーション時に説明する。		演習の進捗状況を見て適宜指示する。		
17	自己覚知2						
18	自己覚知3						
19	自己覚知4						
20	自己覚知5						
21	自己覚知6						
22	自己覚知に関する演習のまとめ・補足等						
23	コミュニケーション技法・1		コミュニケーションを通じて援助者としての対話技能などを体験的に学ぶ。（状況に応じた対話技能の方法、立場討論等）後半はグループワーク演習を行う。		演習の進捗状況を見て適宜指示し。内容についても別途指示する。		
24	コミュニケーション技法・2						
25	コミュニケーション技法・3						
26	グループワークとコミュニケーション1						
27	グループワークとコミュニケーション2						
28	グループワークとコミュニケーション3						
29	コミュニケーション・グループワーク演習のまとめ・補足等						
30	演習全体のまとめ		演習全体の学びの整理。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	演習			◎	◎	100	
テキスト・参考文献等	特になし。						
履修条件	4つの演習テーマ（1テーマにつき7回実施）ごとに4グループ（1グループ20名以下）での演習を展開していくため、各演習について、2回以上欠席した者には単位を与えないことがある。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び終了後、オフィスアワーにて相談等に対応します。						

授業科目名	相談援助演習 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3年
担当教員	村山浩一郎・奥村賢一・寺島正博・今村浩司						
授業の概要	相談援助演習 A の学びをふまえて、相談援助事例（虐待・家庭内暴力、低所得者・ホームレス、社会的排除・危機状態）や地域福祉の基盤整備と開発に関する事例を活用しながら包括的な援助技術について学ぶ。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、4 グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から7回ずつ授業を受ける。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	相談援助に関する知識と技術を実践的に習得している。専門的援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	本授業のオリエンテーション（全体授業）		配布資料にもとづく説明		全教員		
2~8	虐待・家庭内暴力の相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。		配布資料・レジュメにもとづく説明と演習		奥村賢一 (7回×4グループ)		
9~15	低所得者・ホームレスの相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。		配布資料・レジュメにもとづく説明と演習		今村浩司 (7回×4グループ)		
16~22	社会的排除・危機状態にある相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。		配布資料・レジュメにもとづく説明と演習		寺島正博 (7回×4グループ)		
23~29	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価などについて実技指導を行う。		配布資料・レジュメにもとづく説明と演習		村山浩一郎 (7回×4グループ)		
30	全体のふりかえりとまとめ（全体授業）		各教員からのコメントなど		全教員		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	実技演習（提出物やプレゼンを含む）			○	◎	60	
授業態度・授業への参加度				○	○	40	
補足事項		各教員の評価の総計を成績評価とする。					
テキスト・参考文献等	必要な資料・レジュメは各授業で配布する。						
履修条件	相談援助演習 A を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	4名の担当教員のうち、本学教員に関してはオフィスアワーや当該授業前後の時間、非常勤教員に関しては当該授業の前後の時間に相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。						

授業科目名	相談援助演習 C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	1年
担当教員	本郷・細井・村山・平部・寺島・河野・松岡						
授業の概要	本演習では、各自の相談援助実習体験の振り返りを通じ、実習体験の学びを深めると同時に、社会福祉士が取り組むべき支援ケースの作成及び検討能力、各福祉分野で期待される知識や技能等を習得する。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	実習体験の振り返りや事例検討等を通じて、福祉サービス利用者に対する支援力を修得する。					
技能	DP10：専門分野のスキル	福祉利用者に対する適切な状況把握の方法と支援計画・方法等について説明・提案できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	全体オリエンテーションと実習領域別オリエンテーション						
2~15	<p>本演習は、基本的には各担当教員が「相談援助実習指導」時に別途指示した課題を基に進める。各自の実習体験を踏まえたグループ又は個人単位での振り返り、個別・集団スーパービジョン、実習体験を基にした相談援助に関する支援事例の作成と検討等を行う。具体的には [1] 実習先の管理運営体制と関連法制度の理解・実習施設の役割、[2] 関係職種との役割と機能・連携の必要性（連携機関と連携する専門職の役割）、[3] 実習領域・施設における社会福祉士の役割と機能、[4] 実習領域・施設のサービス利用者の特性、[5] 実習体験に基づいたケース報告・検討、[6] 事例作成と報告・グループ検討等、[7] その他（地域アセスメント方法、ケースカンファレンス・援助計画作成・契約技法等）などが考えられるが、詳細は領域別の担当教員が指示する。</p>		<p>相談援助実習の各領域（高齢者・障害者児・児童・社会福祉協議会・医療機関・行政機関）に分かれ、1グループ20名以下での演習を行う（個別に行うこともある）。</p>		<p>※担当教員は障害者児領域：平部・寺島、児童・行政領域：細井、医療機関：河野、社会福祉協議会：村山、高齢者領域：本郷・松岡で行う。そのため、事前・事後学習の詳細は各担当教員が別途指示する。</p>		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	演習			◎	◎	100	
テキスト・参考文献等	特になし。						
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。</li> <li>・相談援助実習の振り返りを含むため、相談援助実習の未履修者には単位を与えられない。</li> </ul>						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時、相談を受ける。</li> </ul>						

授業科目名	公的扶助論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	現代社会が生み出す貧困・低所得問題を理解するとともに、生活保護制度を中心とした公的扶助の基本的な枠組みとその方法について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	①援助を行うために不可欠な生活保護制度を理解し、他の人に説明できるようになる。 ②背景を異にする低所得者への援助の方法と課題を説明できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会福祉を必要とする人びとと貧困問題がどのように結びついているのか説明できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス、グループ発表に向けた課題の振り分け		講義		グループ分け後、各グループで準備		
2	貧困・低所得者問題とは何か		講義				
3	貧困の発見と測定方法		講義				
4	福祉国家と公的扶助の位置		講義				
5	諸外国の公的扶助		講義・グループ発表①②		発表担当グループは質問に対する答えが不明であったときは、次週までに用意しておくこと		
6	生活保護制度（1）		講義				
7	生活保護制度（2）		講義・				
8	生活保護制度（3）		講義・グループ発表③				
9	生活保護の実施体制		講義				
10	生活保護における援助活動		講義・グループ発表④				
11	被保護層の動向と課題		講義・グループ発表⑤				
12	低所得・貧困層への他の政策（1）		講義・グループ発表				
13	低所得・貧困層への他の政策（2）		講義・グループ発表⑥⑦				
14	自立支援プログラムの動向と課題		講義・グループ発表⑧				
15	確認とまとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			60	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）			◎			30	
テキスト・参考文献等	テキスト：岩田正美・杉村宏編『公的扶助論（第2版）』（MINERVA 社会福祉士養成テキストブック14）、ミネルヴァ書房、2013年。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業オフィスアワーの時間を利用するほか、随時相談を受けつける（メールなどで確認すること）。発表担当のグループは、少なくとも発表の1週間前には発表内容の確認を受けること。						

授業科目名	障害者福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	寺島正博						
授業の概要	激しく移り変わる障害者福祉の制度や政策、さらには障害者の置かれている実情について講義する。また、本講義は国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目であるため、それに対応した過去問題の分析と検討を行う。そして、実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて障害者福祉問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	障害者の生活実態、障害者福祉制度の発展過程、障害者自立支援制度の概要、障害者福祉に関連する法令の概要、相談支援事業所の役割と実際、障害者福祉の組織、機関の役割、障害者福祉の専門職の役割と実際等を主に説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態①		講義		教科書 P.2 - 13 を熟読。		
3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態②		講義		教科書 P.14 - 28 を熟読。		
4	障害者に関わる法体系①		講義		教科書 P.30 - 43 を熟読。		
5	障害者に関わる法体系②		講義		教科書 P.44 - 56 を熟読。		
6	障害者に関わる法体系③		講義		教科書 P.57 - 68 を熟読。		
7	障害者に関わる法体系④		講義		教科書 P.69 - 89 を熟読。		
8	障害者自立支援制度①		講義		教科書 P.92 - 106 を熟読。		
9	障害者自立支援制度②		講義		教科書 P.107 - 119 を熟読。		
10	障害者自立支援制度③		講義		教科書 P.120 - 125 を熟読。		
11	障害者自立支援制度④		講義		教科書 P.126 - 130 を熟読。		
12	組織・機関の役割		講義		教科書 P.131 - 145 を熟読。		
13	まとめ（第25回国家試験）		講義		第25回の過去問題を解く。		
14	まとめ（第26回国家試験）		講義		第26回の過去問題を解く。		
15	まとめ（第27回国家試験）		講義		第27回の過去問題を解く。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	◎			30	
テキスト・参考文献等	『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第4版』中央法規、2013年、2,310円						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。</li> <li>・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。</li> </ul>						

授業科目名	児童福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	細井 勇						
授業の概要	1) 児童福祉について基礎的で全体的な理解が福祉レジームや国際比較の観点からできる。2) 日本の児童福祉サービスの体系、とくに児童福祉の専門機関と児童福祉施設等による取り組み、関係機関との連携を理解でき説明できる。3) 子育て支援、児童虐待、社会的養護、非行問題等について現状や課題が考察できる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	児童福祉に関する専門的知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	児童福祉をどう捉えるか - 歴史的形成としての児童福祉 -		講義		テキスト1章を読んでおく		
2	英国における児童福祉の形成		講義		同上		
3	日本における児童福祉の形成		講義		同上		
4	福祉レジームと児童福祉の関係		講義		配布資料を読んでおく		
5	児童福祉の制度体系		講義		テキスト3章を読んでおく		
6	日本の子どもの貧困問題と対策		講義		配布資料と4章7節		
7	少子化問題と子育て支援		講義		テキスト2. 3章を読んでおく		
8	児童福祉ソーシャルワーク	ソーシャルワークの第一歩としてのアセスメント	ジューン・ソブン講演紹介				
9	児童福祉の専門職制度		講義		テキスト3章5節を読んでおく		
10	児童虐待への対応（1）		アメリカの取り組みビデオ				
11	児童虐待への対応（2）		講義		テキスト4章10節を読んでおく		
12	社会的養護について		講義		テキスト4章8節を読んでおく		
13	里親と養子縁組		講義		同上		
14	非行問題について		講義		テキスト4章9節を読んでおく		
15	ドイツのペタゴジーとインクルージョン教育		講義		配布資料を読んでおく		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			70	
宿題・授業外レポート			◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
補足事項		毎回配布資料を用意する					
テキスト・参考文献等	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する得る支援と児童・家庭福祉制度』中央法規、第6版、2016年 2,200円						
履修条件							
学習相談・助言体制	毎回、質問事項を記載してもらい、授業の中で質問に対応していく。また、授業の終了後の休み時間やオフィスアワー等を利用して質問に応じていく。						

授業科目名	精神保健福祉論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	寺島正博						
授業の概要	目まぐるしく変わる精神障害者福祉の制度や政策、さらには精神障害者の置かれている実情について講義する。また本講義は国家試験の「精神障害者の生活支援システム」に位置する科目であるため、それに対応した内容も行う。そして、実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされることから、毎回「福祉新聞」を用いて精神障害者福祉の問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を主に説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	精神保健福祉法の意義と内容①		講義		教科書P.1－2を熟読。		
3	精神保健福祉法の意義と内容②		講義		教科書P.3－4を熟読。		
4	精神保健福祉法の意義と内容③		講義		教科書P.5－6を熟読。		
5	精神保健福祉法の意義と内容④		講義		教科書P.7－16を熟読。		
6	精神保健福祉法の意義と内容⑤		講義		教科書P.17－21を熟読。		
7	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割		講義		教科書P.22－25を熟読。		
8	障害者総合支援法までの経緯		講義		教科書P.26－41を熟読。		
9	障害者総合支援法の理解①		講義		教科書P.42－49を熟読。		
10	障害者総合支援法の理解②		講義		教科書P.50－54を熟読。		
11	障害者基本法および障害者権利条約批准に向けた取り組み①		講義		教科書P.55－56を熟読。		
12	障害者基本法および障害者権利条約批准に向けた取り組み②		講義		教科書P.57－66を熟読。		
13	障害者福祉施策における精神障害者保健福祉施策の変遷		講義		教科書P.67－77を熟読。		
14	精神保健福祉に関する行政組織①		講義		教科書P.78－83を熟読。		
15	精神保健福祉に関する行政組織②		講義		教科書P.84－94を熟読。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	◎			30	
テキスト・参考文献等	『改訂 新版・精神保健福祉士養成セミナー／第6巻 精神障害者の生活支援－制度・システムとサービス』へるす出版、2014年、2,800円＋税						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。</li> <li>・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。</li> </ul>						

授業科目名	精神保健福祉論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	今村浩司						
授業の概要	本講では、「精神保健福祉論Ⅰ」での学びを踏まえたうえで、更生保護制度と医療観察法についての理解をするために、法制度および関係機関、精神保健福祉士の役割について学ぶ。さらには、精神保健福祉の関連施策（公的社会保険等）の概要及び活用についても理解を図る。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	1. 更生保護制度のシステムについて理解することができる。 2. 医療観察法について理解することができる。 3. 公的社会保険等の概要と活用について基礎的な知識を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	1. 精神保健福祉士として、更生保護制度、医療観察法、公的社会保険等を、根拠に基づいて考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション						「精神保健福祉論Ⅰ」の想起を行う。
2	「精神保健福祉論Ⅰ」の振り返りと補足						「精神保健福祉論Ⅰ」の想起を行う。
3	医療観察制度の創設の経緯と背景						テキスト第2章第1節第1項の通読
4	医療観察法の概要と目的						テキスト第2章第1節第2項の通読
5	精神保健福祉士と医療観察制度						テキスト第2章第1節第3項の通読
6	医療観察制度の課題						テキスト第2章第1節第4項の通読
7	更生保護制度の概要						テキスト第2章第2節第1項の通読
8	司法・医療・福祉の連携						テキスト第2章第2節第2項の通読
9	司法分野における精神保健福祉士の役割						テキスト第2章第2節第2項の通読
10	医療保険制度の概要						テキスト第3章第1節第1項の通読
11	介護保険制度の概要						テキスト第3章第1節第2項の通読
12	テキスト第3章第1節第2項の通読						テキスト第3章第1節第3項の通読
13	経済負担の軽減						テキスト第3章第1節第4項の通読
14	公的社会保険と精神保健福祉士						テキスト第3章第1節を通読
15	まとめ及び最重要点の確認						テキスト第2章、第3章を通読
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			70	
宿題・授業外レポート		◎	○			10	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
テキスト・参考文献等	テキスト：新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 第6巻 「精神障害者の生活支援－制度・システムとサービス」へるす出版 参考文献：わが国の精神保健福祉 最新年度版						
履修条件	「精神保健福祉論Ⅰ」を既習であること。 事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む						
学習相談・助言体制	講義の前後の時間随時可。またEメールも可。(imamura_k@seinan-jo.ac.jp)						

授業科目名	精神保健福祉論Ⅲ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」の学習内容を踏まえ、精神障害者の生活実態、精神障害者の居住支援、精神障害者の就労支援、行政による相談援助システムなどの生活支援システムについて、事例などを通して理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神障害者の生活支援システムについて理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事例の検討を通して、精神障害者の生活支援システムを適切な支援活動と結びつけて理解することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義（適宜、視聴覚教材）				
2	精神障害者の生活実態① 各種統計資料から		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
3	精神障害者の生活実態② 家族・地域社会との関連から		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
4	精神障害者の生活実態③ 海外の動向と国際比較		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
5	精神障害者の生活と人権		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
6	精神障害者の居住支援① 居住支援の歴史的展開		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
7	精神障害者の居住支援② 居住支援の実際		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
8	精神障害者の居住支援③ 居住支援における精神保健福祉士等の役割		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
9	精神障害者の就労支援① 雇用・就労支援制度		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
10	精神障害者の就労支援② 就労支援の歴史的展開		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
11	精神障害者の就労支援③ 就労支援の実際		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
12	精神障害者の就労支援④ 就労支援における精神保健福祉士等の役割		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
13	市町村における相談援助システム		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
14	都道府県における相談援助システム		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
15	まとめ		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読（事前）・熟読（事後）		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業終了後の課題レポート		◎	○			100	
補足事項	出席点はありません。課題レポートのみで成績評価します。						
テキスト・参考文献等	テキスト：日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第7巻 精神障害者の生活支援システム』中央法規出版、2014、2,700円（税別） なお、必要な資料等を配布するので、事前にe-ラーニングからダウンロードのこと。						
履修条件	精神保健福祉に関する身近な問題に関心をもちながら講義を受講すること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時で対応する。						



授業科目名	介護福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	未定						
授業の概要	本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の業務に関連しやすいと思われる介護福祉について広く学習する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	介護福祉を取り巻く情勢、社会福祉援助技術や生活支援技術等の基礎的な知識について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	当事者の主体性を尊重した介護過程の展開、ケアマネジメントの課題分析、介護計画の立案について理解し説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	・オリエンテーション ・高齢者介護を取り巻く情勢		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
2	・介護の概念と介護の対象と特性		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
3	・高齢者の生活実態と介護需要 ・高齢者福祉制度の発展過程		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
4	・介護保険制度の確認		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
5	・ケアワーカーの価値と倫理・マナー・介護保険法における専門職種と実践場所（チームアプローチ含む）		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
6	・介護サービスと介護予防		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
7	・介護過程		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
8	・ケアマネジメント①（介護予防含む）		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
9	・ケアマネジメント②（介護予防含む）		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
10	・介護の技法と住環境①		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
11	・介護の技法と住環境②		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
12	・介護の技法と住環境③ ・医療処置等に関する基本的知識		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
13	・終末期ケア ・介護家族への援助		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
14	・高齢者虐待防止法と権利擁護 ・認知症ケアとその実際		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
15	まとめ		講義 ・配布プリントなど適宜使用		講義終了時に指示する		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				80	
小テスト・授業内レポート			○			5	
授業態度・授業への参加度		○	○			15	
補足事項		介護福祉の専門的思考を高めていくために、個々の理解度に応じ講義ペースを考慮し実施する。					
テキスト・参考文献等	① 教科書：社会福祉学双書 2014「介護概論」全国社会福祉協議会 ※2015年版ができれば、そちらを使用予定 参考文献：「介護福祉学」ミネルヴァ書房 「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ」中央法規						
履修条件	「老人福祉論」と連続性があるため、先に履修しておくこと。						
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。（講義終了後にも随時質問に対応します。）						

授業科目名	地域福祉論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	村山 浩一郎						
授業の概要	地域福祉は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野に並置されるものではなく、地域を基盤とした新しい社会福祉の形態や方法を意味している。地域福祉論 I では、地域福祉の基本的な考え方について学ぶとともに、地域福祉の主体と対象、地域福祉の推進のための仕組みや方法などについて理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域福祉の基本的な考え方、地域福祉に係る各主体の役割と実際、コミュニティワークを中心とした地域福祉の推進方法について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域における様々な福祉課題の解決方法について、地域福祉の観点から考察できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	イントロダクション 授業の進め方と地域福祉を学ぶ意義						
2	地域福祉とは何か（1） 地域の多様な福祉課題と地域福祉						・参考文献①の第1章、第2章、第5章を参照 ・参考文献②（インターネットでも入手可）を参照
3	地域福祉とは何か（2） 地域福祉の基本的な考え方						
4	地域福祉とは何か（3） 地域福祉の主体と対象						
5	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民（1） 民生委員・児童委員の役割と実際						
6	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民（2） 小地域福祉活動と社会福祉協議会						・参考文献①の第3章、第4章、第8章、第9章、第10章を参照 ・社会福祉法、民生委員法、特定非営利活動促進法などの関連法規を参照 ・参考文献②の「既存施策の見直しについて」の部分を参照
7	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民（3） 地域福祉の発展過程と社会福祉協議会						
8	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民（4） ボランティア活動と福祉教育						
9	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民（5） 共同募金と地域福祉の財源						
10	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民（6） 地域福祉に係るその他の組織・団体等の役割と実際						
11	地域福祉の推進方法（1） コミュニティワーク（コミュニティオーガニゼーション）論						・参考文献①の第6章を参照
12	地域福祉の推進方法（2） 地域における福祉ニーズの把握と地域診断						
13	地域福祉の推進方法（3） コミュニティワークにおけるネットワーキング						
14	地域福祉の推進方法（4） 地域福祉の推進方法としての社会資源の活用・調整・開発						
15	授業のまとめ 地域福祉推進の課題とこれからの地域福祉のあり方						・参考文献①の第11章と参考文献②を参照
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
試験		◎	○			85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しない。 参考文献：以下の2点のほか、授業の中で適宜、紹介する。 ①「社会福祉学習双書」編集委員会『社会福祉学習双書 2015 地域福祉論－地域福祉の理論と方法』、全国社会福祉協議会、2015年 ②これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書『地域における「新たな支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』、全国社会福祉協議会、2008年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等でも質問を随時受け付ける。						

授業科目名	地域福祉論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	地域福祉論Ⅰの内容を前提に、地域福祉の推進方法についてさらに理解を深める。具体的には、「個と地域の一体的支援」を展開する「地域を基盤としたソーシャルワーク」の理論と方法を学ぶ。また、地域福祉計画を中心に、「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域の生活課題に対する援助内容を「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点から考察できる。 「地域福祉の基盤づくり」の課題と今後の在り方について考察できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	イントロダクション 授業のテーマの概要と授業の進め方						
2	地域を基盤としたソーシャルワークの理論（1） 地域福祉の基本的考え方と地域を基盤としたソーシャルワーク						・テキストの第Ⅰ部を参照 ・参考文献①の第6章及び参考文献②の「地域福祉のコーディネーター」に関する記述を参照
3	地域を基盤としたソーシャルワークの理論（2） 地域で展開する「総合相談」						
4	地域を基盤としたソーシャルワークの理論（3） 個と地域の一体的支援						
5	地域を基盤としたソーシャルワークの実践方法（1） アウトリーチによる地域の福祉ニーズの把握						
6	地域を基盤としたソーシャルワークの実践方法（2） ネットワークの活用と連携・協働による援助						
7	地域を基盤としたソーシャルワークの実践方法（3） 予防的支援とインフォーマルサポート						
8	地域を基盤としたソーシャルワークの実践事例（1） コミュニティソーシャルワーカーによる援助活動の事例						
9	地域を基盤としたソーシャルワークの実践事例（2） 地域包括支援センターにおける総合相談の事例						
10	地域福祉の計画的推進（1） 地域福祉計画と地域福祉活動計画の意義と概要						・テキストの第Ⅱ部 unit24、25及び参考文献①の第7章、第2章、第4章を参照 ・自分の住んでいる地域の地域福祉計画について調べる
11	地域福祉の計画的推進（2） 市町村地域福祉計画の策定・実施・評価の方法と実際						
12	地域福祉の計画的推進（3） 地域福祉における参加の意義と地区福祉計画						
13	地域福祉の計画的推進（4） 地域福祉計画と地域包括ケアシステム						
14	地域における福祉サービスの評価と質の確保 第三者評価事業を中心とした福祉サービス評価の方法						・参考文献①の第6章参照
15	授業のまとめ 地域福祉推進の課題とこれからの地域福祉のあり方						・参考文献①の第11章と参考文献②を参照
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
試験		◎	○			85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
テキスト・参考文献等	テキスト：岩間伸之・原田正樹『地域福祉援助をつかむ』、有斐閣、2012年、2,100円 参考文献：以下の2点のほか、授業の中で適宜、紹介する。 ①「社会福祉学習双書」編集委員会『社会福祉学習双書2015 地域福祉論－地域福祉の理論と方法』、全国社会福祉協議会、2015年 ②これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書『地域における「新たな支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』、全国社会福祉協議会、2008年						
履修条件	地域福祉論Ⅰを履修していること。						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。						

授業科目名	家族福祉論				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
					後期	講義	選択	2	3年
担当教員	奥村賢一								
授業の概要	現代社会における家族または家庭の役割や機能は複雑多様化しており、そのことに起因した社会問題が数多く存在する。本講義では、家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした家族支援の重要性について理解を深めていく。さらに、家族支援の意義や目的を踏まえ、より実践的な方法論を学ぶとともに、支援体制作りに向けた効果的な専門機関との連携及び社会資源の活用方法などについても学んでいく。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	家族福祉の概念や制度・施策について説明することができる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代社会における家族問題の現状と課題について、家族福祉の観点から理解している。ソーシャルワークを基盤にした支援方法について理解している。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス						講義終了時に指示する		
2	家族福祉の概念						プリントの復習をしておくこと		
3	海外の家族福祉						プリントの復習をしておくこと		
4	わが国の家族福祉の歴史				・講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。		プリントの復習をしておくこと		
5	家族福祉に関連する制度・施策						プリントの復習をしておくこと		
6	家族福祉の現状と課題①（子ども虐待）				・テキストは、プリントを中心に講義を進める。		プリントの復習をしておくこと		
7	家族福祉の現状と課題②（配偶者暴力・高齢者虐待・障害者虐待）						プリントの復習をしておくこと		
8	家族福祉の現状と課題③（障害当事者と家族支援）				・単元により、グループ討議などを取り入れていく。		プリントの復習をしておくこと		
9	家族福祉の現状と課題④（ひとり親家庭）				・単元により、ミニレポートの提出を求める。		プリントの復習をしておくこと		
10	家族福祉の現状と課題⑤（子どもの貧困）						プリントの復習をしておくこと		
11	家族福祉の現状と課題⑥（里親・養子縁組）				・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。		プリントの復習をしておくこと		
12	家族福祉の現状と課題⑦（子育て支援サービス）						プリントの復習をしておくこと		
13	ソーシャルワークを基盤にした家族支援①						プリントの復習をしておくこと		
14	ソーシャルワークを基盤にした家族支援②						プリントの復習をしておくこと		
15	小テスト				・講義内容のまとめとして小テストを実施。		講義終了時に指示する		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
小テスト・授業内レポート		○	◎			70			
授業態度・授業への参加度		○	○			30			
補足事項		・授業内レポート20% ※評価基準 A 20点 B 15点 C 10点 D 5点 ・小テスト50% ※講義回数の3分の2以上の出席で受験可 ・授業態度・授業への参加度 ※メール・中途退室等は原則禁止							
テキスト・参考文献等	・テキストは使用しない。 ・授業時に配布するプリント。								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。								

授業科目名	保健医療論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	岡田和敏						
授業の概要	傷病により派生する生活課題に対応する保健医療サービスの基礎的理解に努める。また、社会福祉士として他職種との連携や協働についての意味を理解する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	健康な状態から傷病を患うことで生活上に起きる問題との関連から保健医療サービスの必要性が理解することができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	保健医療サービスを支える制度・施設、専門職の資格・役割などについて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	専門職としての価値や倫理を基盤として、論理的思考と的確な判断力を持つことができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	傷病者にとって最大かつ漏れの無い利益に向け解決・調整に取り組むことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 保健医療領域における国家資格（社会福祉士）を持つ意味		講義（視聴覚教材）				
2	保険医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充		講義		参考文献指定箇所の通読		
3	医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題		講義		参考文献指定箇所の通読		
4	医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士		講義		参考文献指定箇所の通読		
5	医療法による医療施設の機能・類型		講義		参考文献指定箇所の通読		
6	保健医療政策による医療施設の機能・類型		講義		参考文献指定箇所の通読		
7	診療報酬における医療施設の機能・類型		講義		参考文献指定箇所の通読		
8	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み ミクロレベル		講義		参考文献指定箇所の通読		
9	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み メゾ・レベル		講義		参考文献指定箇所の通読		
10	保険医療サービスの専門職の役割		講義		参考文献指定箇所の通読		
11	保健医療サービスの提供と経済的保障		講義		参考文献指定箇所の通読		
12	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識		講義		参考文献指定箇所の通読		
13	保健医療の専門職との連携と協働の実際		講義		参考文献指定箇所の通読		
14	保険医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践		講義		参考文献指定箇所の通読		
15	保健医療サービスの課題		講義		参考文献指定箇所の通読		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		○	○	○		70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座第 保健医療サービス 第4版』中央法規出版 参考文献、資料等は講義時に情報提供する。						
履修条件	傷病により起きる生活課題を日頃から意識する。						
学習相談・助言体制	講義時に質問を受ける。						

授業科目名	就 労 支 援					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	黒 田 小夜子	後期集中	講義	選択	1 2年	
授業の概要	社会福祉士養成カリキュラムにおける「就労支援サービス」の教育内容に盛り込まれている①雇用・就労の動向と労働施策の概要 ②低所得者、障害者等に対する就労支援制度の概要③就労支援にかかる組織、団体の役割と実際④就労支援にかかる専門職の役割と実際⑤就労支援分野と教育・医療・福祉等関係機関との連携、またその実際について学ぶ。					
学生の到達目標						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	障害者をはじめ生活保護受給者や母子家庭、ホームレスなど低所得者の職業的自立における、現状と課題、また具体的施策について理解することができる。				
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	就労支援サービスにおける相談援助活動に必要とされる専門的知識を習得し、また支援の実際を知ることにより、社会福祉の現場で実践・活用できる応用力を身につけることができる。				
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）						
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション 雇用・就労の動向・労働法規の概要	講義				
2	低所得者の就労の現状 生活保護制度における就労支援と専門職の役割	講義				
3	障害者雇用の現状 障害者福祉施策における就労支援と専門職の役割	講義				
4	障害者雇用施策の概要①（障害者の雇用の促進等に関する法律を中心に）	講義				
5	障害者雇用施策の概要②（民間企業における障害者雇用の取り組み等について）	講義				
6	就労支援における専門職の役割	講義				
7	就労支援の実際について（就労支援センターの取り組み等について）	講義				
8	就労支援分野と教育・医療・福祉等関係機関の連携と実際	講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
宿題・授業外レポート		◎	◎			90
授業態度・授業への参加度			○			10
補足事項	2/3以上講義に出席しても、レポートの提出がない場合は評価の対象としないため注意すること。 レポートの課題は、最終講義の時間にお知らせします。					
テキスト・参考文献等	テキスト：新・社会福祉士養成講座 18〔編集〕社会福祉士養成講座編集委員会「就労支援サービス」第3版 中央法規出版 2013年発行					
履 修 条 件	事前学習として、テキストを予習しておくこと。					
学習相談・助言体制	講義後の時間、あるいはメールで受け付け回答します。					

授業科目名	権利擁護と成年後見制度		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	平部 康子						
授業の概要	相談援助活動と法とのかかわりを理解し、福祉サービス利用者のもつ基本的人権をはじめとした諸権利を擁護する仕組みについて、制度と実践の両面から理解できるよう講義する。前半では、相談援助活動の上で必要となる法制度への理解を深める。後半では、福祉現場での具体的な適用について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	①相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組みと、それらが典型的な場面でのどのように用いられるか説明できるようになる。②日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護制度・成年後見制度を説明できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症を有する人への支援について、具体的事例で争点を見つけ、法的な解決方法を説明できるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス・グループ分け		講義				
2	相談援助の活動と法（1）憲法		講義		プリントを配布する		
3	相談援助の活動と法（2）憲法・行政法		講義				
4	相談援助の活動と法（3）民法その1		講義				
5	相談援助の活動と法（4）民法その2		講義				
6	相談援助の活動と法（5）民法その3		講義				
7	相談援助の活動と法（6）民法その4		講義				
8	成年後見制度（1）		講義				
9	成年後見制度（2）		講義				
10	成年後見制度（3）		講義				
11	日常生活自立支援事業、権利擁護にかかわる組織と専門職		講義				
12	成年後見活動の実際（1）障害者支援・市町村申し立てなど		講義・課題（グループ発表）		各グループは提示された課題について準備する		
13	成年後見活動の実際（2）被虐待児・高齢者虐待支援						
14	権利擁護活動の実際（1）被虐待時・高齢者・障害者虐待支援						
15	権利擁護活動の実際（2）非行少年、ホームレス支援など						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			60	
授業態度・授業への参加度			○			20	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座・権利擁護と成年後見制度第4版』、中央法規、2014年 参考文献：秋元美世・平田厚著『社会福祉と権利擁護』、有斐閣、2015年						
履修条件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーの時間を利用するほか、随時質問を受けつける（メールで確認をいれること）。						

授業科目名	更生保護		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	2年
担当教員	今村浩司						
授業の概要	更生保護制度の対象者の歴史的背景や現状を正しく理解し、その概念と構成を学ぶ。また、更生保護制度の概要や基本的用語も理解をしていく。その中での現状、課題、対策などを検討していくとともに、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割について考えていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	1、更生保護制度を説明することができる。 2、医療観察制度を説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	1、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護制度における関係機関、団体及びその専門職との連携について説明する事ができる。 2、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護の実践と今後の課題、展望について自らの意見を述べる事ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	1、更生保護制度の概要 更生保護の歴史的背景、保護手続、仮釈放、仮退院制度、保護観察		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
2	2、更生保護制度の概要 生活環境調整、更生緊急保護、犯罪被害者施策、予防活動等		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
3	3、更生保護の担い手について 観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
4	4、関係機関・団体との連携 裁判所、検察庁		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
5	5、関係機関・団体との連携 矯正施設、その他機関とのかかわり		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
6	6、医療観察制度の概要 対象者、担い手、手続、環境調整等		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
7	7、更生保護の実践と今後の展望 事例提供		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
8	8、更生保護制度の概要 総まとめ		講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			70	
宿題・授業外レポート		◎	○			10	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
テキスト・参考文献等	『更生保護制度』新・社会福祉士養成講座 20、中央法規 参考文献については、随時講義内で紹介していく。資料を配布して説明を行う場合がある。						
履修条件	事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む。						
学習相談・助言体制	講義の前後の時間随時可。またEメールも可。(imamura_k@seinan-jo.ac.jp)						

授業科目名	社会福祉特講 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	板 東 充 彦						
授業の概要	かつて「思春期」という概念はありませんでしたが、現代に至り、大人になるためのステップとして「思春期」という年代が想定されるようになりました。思春期は、身体と心と社会という、自身をめぐる3つの変化に対応しなければならない大変な時期です。この授業では、講義とディスカッションを通して、自身の体験を振り返りながら、思春期の特徴と生じやすい問題について学びます。問題意識をもって授業に参加することが望まれます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	・ライフサイクルにおける思春期の意味について説明できる。 ・思春期に生じやすい心の問題について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	・思春期の子たちが抱える問題に対する現実的な解決方法を検討できる。 ・自分で問題意識をもち、それに対して資料を収集して考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	背景としての現代社会の特徴を知る		講義		現代社会		
3	アイデンティティ・自己の確立について学ぶ		講義		アイデンティティ・自己		
4	思春期にとっての友人関係及びその意義について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		友人		
5	恋愛及び性にまつわる心の問題について学ぶ		講義		恋愛・性		
6	摂食障害と思春期心性について学ぶ		講義		摂食障害		
7	自傷行為の意味について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		自傷行為		
8	思春期と自殺、及びその予防について学ぶ		講義		自殺		
9	思春期のいじめとその対応について学ぶ		講義		いじめ		
10	思春期の非行・犯罪について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		非行・犯罪		
11	発達障害と思春期への影響について学ぶ		講義		発達障害		
12	ひきこもりと解決されない思春期の心の問題について学ぶ		講義		ひきこもり		
13	虐待の思春期への影響について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		虐待		
14	思春期のトラウマと家族の影響について学ぶ		講義		トラウマ・家族		
15	まとめ		講義＋グループ・ディスカッション				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
感想シート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献：松本俊彦（編）『中高生のためのメンタル系サバイバルガイド [こころの科学]』日本評論社、2012年 その他、必要に応じて授業で紹介する。						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	授業中あるいは授業前後に行うことが望ましい。						

授業科目名	社会福祉特講C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	畑 香 理						
授業の概要	本講義では、医療現場で起こり得る様々な問題について、事例を通して理解を深めていく。さらに、医療ソーシャルワーカーの役割や機能、多職種連携等について考察し、必要な専門性を習得するとともに、社会資源の活用方法等についても学んでいく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	医療現場におけるソーシャルワーク実践について理解し、具体的な医療ソーシャルワーカーの活動内容について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象者が抱える諸問題を把握し、援助の視点や多職種とのチームワークについて自分なりの意見を述べるができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 保健医療を取り巻く情勢と医療ソーシャルワーカー		・講義は、プリントやパワーポイントなどを中心に進める。 ・単元により、グループ討議やロールプレイを取り入れる。 ・単元により、レポートの提出を求める。 ・学生の理解状況に合わせて授業進度を調整する。		講義終了時に指示する  指示された文献及びプリントを熟読すること		
2	わが国の医療ソーシャルワークの歴史						
3	医療ソーシャルワーカーの主な業務と業務指針						
4	医療ソーシャルワーカーの主な業務と業務指針						
5	医療ソーシャルワークの実際例①（ソーシャルワーカーの役割と機能）						
6	医療ソーシャルワークの実際例②（ソーシャルワーカーの役割と機能）						
7	医療ソーシャルワークの実際例③（患者への個別支援）						
8	医療ソーシャルワークの実際例④（患者への個別支援）						
9	医療ソーシャルワークの実際例⑤（患者への個別支援）						
10	医療ソーシャルワークの実際例⑥（多職種との連携）						
11	医療ソーシャルワークの実際例⑦（多職種との連携）						
12	医療ソーシャルワークの実際例⑧（社会資源の活用）						
13	医療ソーシャルワークの実際例⑨（社会資源の活用）						
14	医療ソーシャルワークの実際例⑩（スーパービジョン）						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			50	
小テスト・授業内レポート		○				10	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
テキスト・参考文献等	参考文献：NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編『医療福祉総合ガイドブック 2016 年度版』医学書院						
履 修 条 件	「保健医療論」を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業終了時に相談に応じる。また、メールで質問を随時受け付ける。						

授業科目名	相談援助実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	細井・本郷・平部・村山・河野・寺島・松岡・大森・梶原・北川・古賀野		通年	実習	選択	4	3年
授業の概要	<p>実際の社会福祉機関・施設等における4～5週間の現場体験を通じて、</p> <p>①社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己の課題把握など総合的な対応能力を学ぶ。</p> <p>②相談援助で必要とされる知識・援助技術を実践的に理解し、かつ関連分野の専門職との連携の在り方とその具体的内容を学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践できる。社会福祉士として求められる資質・技能・倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>原則として、3年次の夏季休業期間中の4～5週間（180時間・23日以上）、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等において相談援助実習を行う。この場合、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行う。</p> <p>本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は福祉サービス利用者等に対する具体的な支援方法を体験的・実践的に修得する。加えて、実習担当教員が各実習先に訪問し、実習指導担当者との実習内容に関する協議、学生に対する実習内容などの指導にあたる。</p> <p>相談援助実習における主な指導内容は、以下の点に関すること等である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者やその関係者、施設・事業所等の職員、地域住民やボランティア等との円滑な人間関係の形成</li> <li>利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</li> <li>利用者やその関係者（家族・友人等）との援助関係の形成、権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価</li> <li>多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践</li> <li>社会福祉士としての職業倫理、施設・事業所等の職員の就業規則などの理解及び組織の一員としての役割と責任の理解</li> <li>施設・事業所等の経営やサービスの管理運営の実践</li> <li>（当該実習先の）地域社会の中の施設・事業所等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> </ol> <p>なお、実習中には、各学生はその日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
「実習評価票」に基づく実習先の評価内容				○	○	50	
授業（実習・実習指導）への参加度				○	○	25	
総括レポート・実習報告会でのプレゼン等				○	○	25	
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」</li> <li>・必要に応じてプリントなどを配布する。</li> </ul>						
履修条件	「相談援助実習指導」での出席やレポートの提出期限を守った者を履修可能とする。						
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。						

授業科目名	相談援助実習指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	3	2～3年
担当教員	細井・本郷・平部・村山・河野・寺島・松岡・大森・梶原・北川・古賀野						
授業の概要	相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①学生各自の各種保健医療福祉施設等における経験型実習（見学及び体験実習）、②外部講師の講話による福祉現場の実情と現場で求められる知識・実習姿勢の修得・理解、③相談援助実習の意義・方法の理解、④相談援助実習に必要な事前学習（実習計画書や実習日誌の作成方法、実習先の理解、心構えやマナー、倫理等）、⑤教員による相談援助実習期間中の個別巡回指導、⑥相談援助実習後の振り返りと報告書作成（実習報告会での報告）に取り組む。なお、本授業は、原則として小グループ単位（1グループ20名以下）で行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	相談援助実習の意義について説明できる。 相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践できる。 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【2年次前期 1～15回】</b>            全体でオリエンテーション（授業の計画の説明、及び相談援助実習・実習指導の意義についての説明）を行った後、①経験型実習（見学及び体験実習）の事前準備・事前学習、②外部講師の講話とグループワーク（実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術の理解や実習先で行われる関連業務の基本的理解のため）、③前期の学習のまとめと経験型実習の直前オリエンテーション、を行う。</p> <p><b>【2年次夏季休業期間 16～22回】</b>            各学生は、原則として夏季休業期間終了時までに1日6時間の5日間（合計30時間）にわたり、各種保健医療福祉施設（在宅福祉サービス事業所を含む同一施設）において経験型実習（見学及び体験実習）に取り組む。</p> <p><b>【2年次後期 23回～30回】</b>            全体でオリエンテーション（今後の授業計画に関する説明）を行った後、①経験型実習報告会での発表、②3年生の実習報告会への参加、③相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明、を通して、相談援助実習の意義を理解するとともに、各実習分野に関する基本的理解や実習で必要とされる相談援助の知識と技術、実習先で行われる関連業務等に関する理解を深める。そして、最後に、実習の希望配属先を決定し、実習配属先の調整を行う。</p> <p><b>【3年次前期 31～39回】</b>            全体でオリエンテーション（今後の授業計画に関する説明）を行った後、実習配属先の分野別に小グループに分かれ、①実習の事前準備、②実際に実習を行う実習分野や実習施設に関する事前学習を行う。①では、実習及び実習指導（個別・集団）の意義、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の重要性、実習記録ノートの目的と書き方などについて理解を深める。また、三者（実習生、教員、実習指導者）での協議を踏まえて、実習計画書を作成し、実習先への事前訪問を行う。②では、実習先に関するレポートの作成・発表等を行い、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解と、実習先で必要とされる相談援助の知識と技術や実習先で行われる関連業務等に関する理解を深める。</p> <p><b>【3年次夏季休業期間（相談援助実習期間）中 40～41回】</b>            各担当教員による実習巡回指導（実習先毎に週1回以上）を行う。</p> <p><b>【3年次後期 42～45回】</b>            実習体験の振り返りと課題の整理を行い、実習総括レポート等を作成する。そして、実習報告会（実習の評価全体総括会）において実習成果を発表する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				○	○	70	
レポート等の提出物				○	○	30	
補足事項	3回以上欠席した場合は単位を与えないことがある。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」</li> <li>・必要に応じてプリントなどを配布する。</li> </ul>						
履修条件	社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。遅刻、欠席をしないこと。						
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。						

授業科目名	精神保健福祉援助実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	5	4年
担当教員	住友雄資・平林恵美・奥村賢一・畑 香理・平川明美						
授業の概要	精神保健福祉援助実習は、精神保健福祉士資格取得をめざす学生を対象としたものであり、実習では、精神保健福祉士の実務・援助方法を学習する。4年次の6月～9月の間に医療機関で15日間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で12日間以上の配属実習を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理及び、自己に求められる課題把握等について、総合的に対応できる意欲と態度を身につけることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉士として求められる退院支援および地域生活支援等と、関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容について理解し、実践することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>本学では、6月～9月の間に精神科病院等の医療機関で15日間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で12日間以上の配属実習（210時間）を、4年次に実施する。</p> <p>本学の実習指定施設である医療機関及び地域の障害福祉サービス事業を行う施設等において、実習指導者の指導の下、精神保健福祉援助並びに、障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実践的に理解しその技術等を体得する。また、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</p> <p>具体的な内容については、以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>精神科病院等の病院における実習では、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ol style="list-style-type: none"> <li>入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</li> <li>退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</li> <li>多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</li> </ol> </li> <li>地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</li> <li>利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</li> <li>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成</li> <li>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価</li> <li>精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</li> <li>精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</li> <li>施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</li> <li>施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</li> <li>当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> </ol> </li> </ol> <p>なお配属実習では、精神保健福祉援助実習指導担当教員が、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導にあたる。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	実習態度・実習への参加度			○	◎	100	
テキスト・参考文献等	「精神保健福祉援助実習の手引き」、必要資料はe-ラーニングまたは授業時に配布する。						
履修条件	3年次実施の次の課題を全て達成していること：①見学実習、②見学実習報告会、③4年生の報告会への出席、④個別面談、⑤プレ実習、⑥プレ実習報告会、⑦外部講師講話への出席。						
学習相談・助言体制	本実習は、学生と教員との密接な協力体制が必要になるため、柔軟な相談体制をとる。具体的には、「精神保健福祉援助実習指導」において説明する。						

授業科目名	精神保健福祉援助実習指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		通年	演習	選択	3	3～4年
授業の概要	精神保健福祉援助実習指導は精神保健福祉士資格取得をめざす学生を対象としたものであり、4年次に開講する「精神保健福祉援助実習」に必要な事前学習（1～37回）・巡回指導・事後学習（38～45回）をおこなう。事前学習は、見学実習・プレ実習・講義（外部講師を含む）やグループ学習などをおこなう。巡回指導は、「精神保健福祉援助実習」において担当教員による巡回指導をおこなう。事後学習は、「精神保健福祉援助実習」後に実習報告会やスーパービジョンなどを通じて、実習全体をふりかえり、実習で体験した学びを深める。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を継続的に高めていく意欲がある。					
技能	DP10：専門分野のスキル	精神保健福祉に関する問題について、各種の資料を適切に収集し、分析できる。具体的な体験を言語化・概念化し、それを基にして専門知識及び技術を体系立てていくことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	見学実習学内オリエンテーション		授業の全体像および見学実習の概要の提示		精神科病院に関する予習		
2	見学実習（精神科病院）		グループによる見学実習		精神科病院に関する予習		
3	見学実習報告会		グループ別発表		プレゼンテーション資料の作成		
4	実習事前面接（受講動機、心構え、選択理由等の確認）		個別指導		受講動機の明確化		
5	実習報告会への参加①		4年生の実習報告会参加		発表内容の予習・復習		
6	実習報告会への参加②		4年生の実習報告会参加		発表内容の予習・復習		
7	プレ実習学内オリエンテーション		プレ実習の概要の提示		プレ実習先に関する予習		
8	プレ実習 実習計画書作成指導①		個別指導		プレ実習計画書案の作成と指導後の修正		
9	プレ実習 実習計画書作成指導②		個別指導		プレ実習計画書案の作成と指導後の修正		
10	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）①		グループによるプレ実習		プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加		
11	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）②		グループによるプレ実習		プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加		
12	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）③		グループによるプレ実習		プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加		
13	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）④		グループによるプレ実習		プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加		
14	プレ実習報告会		グループ発表		プレゼンテーション資料の準備		
15	外部講師による講義（PSW）		講義		講義内容の予習・復習		
16	実習計画書作成に関するオリエンテーション+実習計画書作成指導		実習概要の提示及び個別指導		実習計画書案の作成と指導後の修正		
17	実習計画書作成指導		個別指導		実習計画書案の作成と指導後の修正		
18	実習記録の書き方①（プロセスレコードの説明、演習）		個別及びグループ指導		授業後に学んだ内容を確実に復習する		
19	実習記録の書き方②（実習日誌の書き方）		個別及びグループ指導		授業後に学んだ内容を確実に復習する		
20	事前学習① グループ発表（精神保健福祉士法+政省令・告示）		グループ発表・グループ討論		プレゼンテーション資料の準備		
21	事前学習② グループ発表（精神保健福祉法+政省令・告示）		グループ発表・グループ討論		プレゼンテーション資料の準備		
22	事前学習③ グループ発表（心神喪失者等医療観察法+政省令・告示／障害者総合支援法+政省令・告示①）		グループ発表・グループ討論		プレゼンテーション資料の準備		
23	事前学習④ グループ発表（障害者総合支援法+政省令・告示②）		グループ発表・グループ討論		プレゼンテーション資料の準備		

24	事前学習⑤ グループ発表（生活保護法／生活困窮者自立支援法＋政省令・告示）	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
25	事前学習⑥ グループ発表（医療保険・年金保険）	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
26	外部講師による講義① 当事者	講義	講義内容の予習・復習
27	外部講師による講義② 家族	講義	講義内容の予習・復習
28	外部講師による講義③ P S W	講義	講義内容の予習・復習
29	事前学習⑦ プライバシー保護と守秘義務（個人情報保護法含む）	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
30	事前学習⑧ 視聴覚教材の活用（精神科病院／歴史）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
31	事前学習⑨ 視聴覚教材の活用（精神科病院／入院から退院までの流れ）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
32	事前学習⑩ 視聴覚教材の活用（精神科デイ・ケア）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
33	事前学習⑪ 視聴覚教材の活用（地域移行支援）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
34	事前学習⑫ 視聴覚教材の活用（地域定着支援）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
35	事前学習⑬ 視聴覚教材の活用（障害福祉サービス）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
36	事前学習⑭ 視聴覚教材の活用（行政機関）	視聴及びグループ討論	関連法規の予習，授業後に学んだ内容を確実に復習する
37	事前学習⑮ まとめ	グループ討論	実習施設ごとに現状を整理して参加する
38	事後学習① 感想発表	個別及びグループ討論	実習終了時の状況を整理して参加する
39	事後学習② 個別指導①	プロセスレコード・自己評価票等を用いた指導	プロセスレコード等の振り返り
40	事後学習③ 個別指導②	プロセスレコード・自己評価票等を用いた指導	プロセスレコード等の振り返り
41	事後学習④ 個別指導③	プロセスレコード・自己評価票等を用いた指導	プロセスレコード等の振り返り
42	事後学習⑤ 実習報告会①	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
43	事後学習⑥ 実習報告会②	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
44	事後学習⑦ 実習報告会③	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
45	事後学習⑧ 実習評価全体総括会	個別及びグループ発表	実習全体の振り返り

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート				◎	○	15
宿題・授業外レポート				◎	○	15
授業態度・授業への参加度				◎	○	40
受講者の発表（プレゼン）				◎	○	30

テキスト・参考文献等	「精神保健福祉援助実習の手引き」、必要資料はe-ラーニングまたは授業時に配布する。
履修条件	・1～15回の課題を全て達成していることが16回以降の履修条件である（3年次分）。 ・16～37回の課題を全て達成していることが「精神保健福祉援助実習」履修の条件である。
学習相談・助言体制	実習指導は学生と教員との密接な協力体制が必要になるため、柔軟な相談体制をとる。具体的にはオリエンテーション時に説明する。

授業科目名	学校ソーシャルワーク実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	奥村賢一		後期	実習	選択	2	4年
授業の概要	学校教育現場における児童生徒の抱える問題（課題）を理解し、その支援方法としての学校・家庭・関係機関の協働を展開する学校ソーシャルワークについて学ぶため、スクール（学校）ソーシャルワーカーが配置されている小・中学校及び教育委員会での実習を行う。また、不登校等の児童生徒に対して直接的・間接的支援に関わる。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての価値・倫理に従い、学校ソーシャルワーク実践を展開していくための意欲と態度を能動的に示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	学校ソーシャルワーク実習を通してスクール（学校）ソーシャルワーカーの専門的役割や支援活動について学び、基礎的な実践力を習得している。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>学校ソーシャルワーク実習では、80時間以上の実習を行う。その内容は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1） スクール（学校）ソーシャルワーカーが配置されている小・中学校および教育委員会での実習を80時間以上行う。実習指導については、スクール（学校）ソーシャルワーカーが中心に行う。</li> <li>（2） 本学「不登校・ひきこもりサポートセンター」にて「県大子どもサポーター」の登録を行い、対象となる子どもたちへの直接的支援（学習・余暇活動等）を中心とした実習を行う。</li> <li>（3） 実習報告会を学内で実施する。</li> <li>（4） 実習レポートを提出する。</li> </ol>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート				○	○	15	
授業態度・授業への参加度				◎	◎	70	
受講者の発表（プレゼン）				○	○	15	
テキスト・参考文献等	テキスト ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008年（3,240円） 参考文献 ・『学校ソーシャルワーク実習の手引き』						
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定」履修希望者						
学習相談・助言体制	・随時、相談には対応する。						

授業科目名	学校ソーシャルワーク実習指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	4年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	実習指導では、①学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する。②実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する。③学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る。						
<b>学生の到達目標</b>							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を理解したうえで、学校ソーシャルワーク実習に臨む意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	学校ソーシャルワークの専門的知識や技術、さらには価値・倫理を基盤にして、子どもの人権と教育および発達を保障していくための実践に取り組むことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション 学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ①						<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを購読しておくこと</li> <li>・「学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き」を熟読しておくこと</li> <li>・前回の授業内容を復習のうえ、授業に参加すること</li> </ul>
2	学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ②						
3	学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ③						
4	実習目標及び実習計画を明確化する①						
5	実習目標及び実習計画を明確化する②						
6	実習先の学校状況やスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動状況について知る①						
7	実習先の学校状況やスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動状況について知る②						
8	学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する①						
9	学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する②						
10	実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する①						
11	実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する②						
12	学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る①						
13	学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る②						
14	学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る③						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート					○	30	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
受講者の発表（プレゼン）					○	30	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度 40%</li> <li>・授業内レポートおよび受講者の発表 60% ※評価基準 A 60点 B 40点 C 20点</li> </ul>						
テキスト・参考文献等	テキスト ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規、2008年（3,240円） ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円） ・「学校ソーシャルワーク実習の手引き」※開講期間中に受講者へ配布する ・授業時に適宜プリントや資料等を配布する。 参考文献 ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』、中央法規、2009年（2,592円）						
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」履修希望者。						
学習相談・助言体制	・授業内において、随時質問を受け付ける。						

授業科目名	医学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	柴田 洋三郎	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>医学の入門として、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防およびその背景に関する理解を深め、ヒトの健康とは何かを、各人の生活のなかで考える。</p> <p>人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常習慣との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し身につける。</p> <p>疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、および連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割を習得する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常習慣との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防に関する理解を深める。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	各人の健康維持や、疾病予防に必要な基本的な生活態度を考察できるとともに、医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割を適切に判断できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		事前・事後学習（学習課題）				
1	医学とは：その歴史と領域および役割		資料配布				
2	身体の基本構造と機能		テキスト 26-52 ページ				
3	身体および精神の成長発達と老化		同 1-23 ページ				
4	疾病の病理：炎症、腫瘍、感染症など		資料配布				
5	疾病の概要：生活習慣病、悪性腫瘍		54-60 ページ				
6	疾病の概要：心疾患、高血圧、腎・泌尿器疾患		66-71、86-89 ページ				
7	疾病の概要：脳血管障害、神経疾患、難病など		61-65、105-109 ページ				
8	疾病の概要：内分泌疾患、糖尿病、呼吸器		72-78 ページ				
9	疾病の概要：消化器、血液疾患		79-85 ページ				
10	疾病の概要：免疫疾患、骨・関節疾患、肢体不自由		94-96、135-138 ページ				
11	障害の概要：視覚、聴覚、平衡覚		97-100、124-134 ページ				
12	障害の概要：精神障害、知的障害、発達障害		142-147、158-162 ページ				
13	認知症などの医学的理解		148-157 ページ				
14	リハビリテーション概要		163-182 ページ				
15	テーマ学習：健康とは		196-213 ページ・グループ討議				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			30	
小テスト・授業内レポート		◎	○			15	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○		○	○	15	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			10	
補足事項	ICFについては、指定科目の障害者福祉で学習します。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：「人体の構造と機能及び疾病—医学一般」新社会福祉士養成講座 1 中央法規（2,200 円）</p> <p>参考書：「医学一般 人体の構造と機能及び疾病」精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー 1. へるす出版（2,200 円）：やや詳細 その他の文献：講義の中で適宜紹介します。</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	<p>1. 毎時間、前回授業の主な質問について、解説します。</p> <p>2. それ以外は、オフィスアワー（水曜日午後）を活用して下さい</p>						

授業科目名	倫 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	神 谷 英 二						
授業の概要	現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではいられない。また、生命倫理の問題に対処することは、福祉社会において活躍する専門的職業人にとっては必要不可欠の能力である。この授業では、生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を養うことをめざす。内容としては、インフォームド・コンセント、パーソン論、安楽死と尊厳死などを中心に授業を展開する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生命倫理学の基礎を習得する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を身につけることにより、実際に仕事や日常生活の中で生命倫理の問題に直面した際に、自分自身で判断し、対処できるようになる。					
	DP4：表現力	根拠を明示して、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文		「倫理学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「倫理学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）		
2	生命倫理の歴史		「倫理学講義資料」による講義				
3	生命倫理の4原則		「倫理学講義資料」による講義				
4	インフォームド・コンセントと患者の権利（1）：定義と法理		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第1回）				
5	インフォームド・コンセントと患者の権利（2）：事例研究		「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
6	インフォームド・コンセントと患者の権利（3）：事例研究		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第2回）				
7	インフォームド・コンセントと患者の権利（4）：日本独自の工夫		「倫理学講義資料」による講義				
8	パーソン論と生命の線引き（1）：人工妊娠中絶と出生前診断		「倫理学講義資料」による講義				
9	パーソン論と生命の線引き（2）：トゥーリーの理論		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第3回）				
10	パーソン論と生命の線引き（3）：エンゲルハートの理論		「倫理学講義資料」による講義		学期末レポートの作成を開始すること。		
11	安楽死と尊厳死（1）：定義と事例研究		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第4回）				
12	安楽死と尊厳死（2）：死の自己決定		「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
13	終末期医療の現状と将来（1）：緩和ケアとナラティブ		「倫理学講義資料」による講義				
14	終末期医療の現状と将来（2）：セデーションの是非		「倫理学講義資料」による講義 小レポート（第5回）				
15	復習とまとめ		学期全体の学習内容を復習				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業内小レポート	◎	◎			30	
	授業態度・授業への参加度		○			20	
	学期末レポート	◎	◎			50	
テキスト・参考文献等	参考文献：今井道夫・香川知晶編『バイオエシックス入門』第3版、東信堂、2001年						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>						

授業科目名	公衆保健		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	樋口善之	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>少子高齢化やライフスタイルの変化に伴い、わが国の死因や疾病構造、健康課題も変化している。疾病の予防および健康の保持増進のためには、その適切な現状把握・評価と課題解決に向けたアプローチが必要である。この授業では、地域の健康を守り、増進させるための公衆保健・地域保健活動について解説し、集団における疾病予防の原理と健康増進のための環境及び社会の在り方について学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>人間の自由と尊厳、および人権と社会正義に関する知識を理解している。            社会保障・社会福祉の制度・政策およびソーシャルワークに関する専門知識を体系的に理解している。            社会学や心理学等、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識を理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>社会福祉およびそれに関連する問題について根拠に基づいて考察することができる            自らが主体的に設定した社会福祉に関わる課題について探求し、その成果を論理的に表現できる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	健康課題の歴史と現状	講義		テキスト第I部の1 (A)			
2	疫学概論Ⅰ - 過去の事例から疫学を学ぶ -	講義		テキスト第I部の3			
3	疫学概論Ⅱ - 因果関係の考え方 -	講義		テキスト第I部の3			
4	疫学概論Ⅲ - 疫学的研究方法 -	講義		テキスト第I部の3			
5	国民衛生の動向Ⅰ 人口動態統計	講義		テキスト第I部の2			
6	国民衛生の動向Ⅱ 疾病の動向	講義		テキスト第I部の1 (B)			
7	国民健康づくり運動の歴史と健康日本21	講義		テキスト第Ⅲ部の9 (B)			
8	医療計画、二次医療圏、地域包括ケア	講義		テキスト第Ⅲ部の9 (D)			
9	地域保健活動と関係法規	講義		テキスト第Ⅲ部の9 (A)			
10	食品保健	講義		テキスト第Ⅱ部の6			
11	環境保健	講義		テキスト第Ⅱ部の5			
12	産業保健	講義		テキスト第Ⅲ部の13			
13	学校保健	講義		テキスト第Ⅲ部の12			
14	健康の社会的決定要因	講義		テキスト第I部の1 (C)			
15	まとめ	講義および討論		1～14回目までの配付資料			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
	定期試験	◎	◎			60	
	授業態度・授業への参加度	○	○			30	
	受講者の発表（プレゼン）	○	◎			10	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：松浦賢長ほか『コンパクト 公衆衛生学』第5版，朝倉書店，2013，2,900円            参考文献：厚生労働統計協会『国民衛生の動向 2015・2016』，厚生労働統計協会，2015，2,500円</p>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	質問・相談は授業前後に受け付ける。また、メール（yhiguchi@fukuoka-edu.ac.jp）でも可。						

授業科目名	福祉機器論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	堤 文 生						
授業の概要	<p>「福祉住環境コーディネーター検定試験2級」の受験を前提に講義内容を設定する。障害者や高齢者の在宅生活を支援する道具として、福祉機器や福祉用具がある。障害者の自立を支援するとともに介護者の会議負担を軽減することを目的に様々な機器が活用されている。講義では、スライドやビデオ・DVDなどをおして、機器の特性や活用方法などを学習する。将来、介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格取得を希望する学生にとって、「福祉住環境コーディネーター検定試験2級」の資格取得は有用である。介護実習室を活用して、ベッドや杖・歩行器、車いすの使用技術の実習を通して体験し、「施設介護実習」に役立てたい。</p> <p>また、講師の海外研修（半年間）での体験を紹介する。社会福祉士として、参考にして頂きたい。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会福祉士として、障害者の生活を支援する福祉機器について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	大掛かりな福祉機器ではなく、施設や在宅で使用する福祉機器を実技を通して体験する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	福祉機器の定義・選び方・使い方について（福祉機器の導入）		講義		事後学習		
2	生活行為別にみた福祉機器の活用①（起居・就寝）		講義		事後学習		
3	生活行為別にみた福祉機器の活用②（移乗）		講義		事後学習		
4	生活行為別にみた福祉機器の活用③（移動：杖・歩行器）		講義		事後学習		
5	福祉機器の実技演習①（起居、移乗）		実技演習		レポート提出		
6	生活行為別にみた福祉機器の活用④（移動：車いす、段差解消機）		講義		事後学習		
7	福祉機器の実技演習②（移動：杖、車いすの操作と介助法）		実技演習		レポート提出		
8	生活行為別にみた福祉機器の活用⑤（外出、福祉車両）		講義		事後学習		
9	生活行為別にみた福祉機器の活用⑥（入浴）		講義		事後学習		
10	生活行為別にみた福祉機器の活用⑦（排泄）		講義		事後学習		
11	生活行為別にみた福祉機器の活用⑧（自助具、コミュニケーション機器）		講義		事後学習		
12	生活行為別にみた福祉機器の活用⑨（手作りによる介護用品の紹介）		講義		レポート提出		
13	見学・実習（福祉機器展示場：北九州市テクノエイドセンター）		見学		見学レポート提出		
14	海外（北欧フィンランド）の福祉事情①（フィンランドの紹介）		講義		事後学習		
15	海外（北欧フィンランド）の福祉事情②（高齢者施設での研修体験）		講義		レポート提出		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			50	
実技レポート		○	◎			20	
授業外レポート			○			20	
授業態度・授業への参加度			◎			10	
補足事項	レポートでの評価割合が40%と高いので、レポート提出を厳守すること。						
テキスト・参考文献等	テキストなし。資料を配布する。						
履 修 条 件	5回以上の欠席は、履修資格なしとする。						
学習相談・助言体制	非常勤講師であるので、講義終了時に学内にて相談・助言は可能である。						

授業科目名	外書購読		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	平部 康子						
授業の概要	英語で書かれた社会福祉の文献を読んで、社会福祉に関する英語の専門用語を理解するとともに、福祉政策を学び、社会福祉の専門職としての国際的視点を身につけるとともに大学院受験などで求められる基礎学力を向上させる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	文献を通じて外国の福祉政策を理解し、わが国との異同を説明できるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	福祉政策に関する新たな概念・英語の基礎的用語を身につけ、関連する標準的英文を一定の時間内に読めるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション						
2~6	文献購読（子どもの貧困への取組）		質問票に対する答えを発表しながら、文献を精読する		全体の文脈が把握できるよう、次回の学習箇所について3～4つの質問を記載した質問票を配布する。		
7	我が国との比較		ディスカッション				
8~13	文献購読（ひとり親家庭への支援）		質問票に対する答えを発表しながら、文献を精読する		全体の文脈が把握できるよう、次回の学習箇所について3～4つの質問を記載した質問票を配布する。		
14	我が国との比較		ディスカッション				
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎			○	20	
受講者の発表（プレゼン）		○			◎	20	
演習		○			○	60	
テキスト・参考文献等	授業冒頭で資料を配布する。						
履修条件	英和辞典を携帯のこと。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーの時間を利用するほか、随時相談を受け付ける（メールなどで確認を入れること）。						

授業科目名	地方自治論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	姜 信 一						
授業の概要	①現代日本の地方自治について、テキストを用いながら、その制度と実態を講義する。 ②新聞雑誌等を用いながら、全国的な自治の動向について解説する。 なお、この講義計画は、時事問題等も取り扱うため、適宜更新がありうる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地方自治の歴史・理論、制度、現在の動向に関する基礎知識や思考方法を習得することにより、市民・地域人としての教養を身につける。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	新新聞やニュースなどを通して、現代の諸自治現象を論理的に分析する能力を養う。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義の目的、授業内容と進め方について。				
2	自治体と地方自治制度		テキストで講義し、適宜資料を配布する。授業への理解度を確保するために、毎回クイズを実施する。		「自治」、自治制度		
3	日本の地方自治制度の歴史				自治制度の歴史		
4	地方分権改革				地方分権改革		
5	都道府県と市区町村				都道府県、市区町村、政府体系		
6	自治体の政治機構				二元代表制、首長、議会		
7	行政統制と自治体改革				行政統制、自治体改革		
8	復習・課題		2～7回の復習のための課題を行う。		2～7回の復習		
9	自治体の政策と総合計画		テキストで講義し、適宜資料を配布する。授業への理解度を確保するために、毎回クイズを実施する。		政策、計画、基本構想		
10	政策法務と条例				政策法務、条例		
11	都市計画とまちづくり				都市計画、まちづくり		
12	公共事業と自治体				公共事業		
13	産業政策と地域振興				産業政策、地域振興		
14	時事問題						
15	復習・課題		9～14回の復習のための課題を行う。		9～14回の復習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				50	
小テスト・授業内レポート		○				10	
宿題・授業外レポート			○			10	
授業態度・授業への参加度		◎				30	
テキスト・参考文献等	テキスト：磯崎初仁他『ホーンブック 地方自治【改訂版】』北樹出版、2011年						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業に関するご質問・ご相談は、授業後またはメールで随時受け付けます。						

授業科目名	労働経済論 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	労働経済学の基礎を「労働需要」と「労働供給」、「失業問題」の3つに分けて講義する。「労働需要」では、与えられた条件のもとで「何人雇えばいいのか」という、企業にとっての最適雇用の決定メカニズムを中心に検討する。「労働供給」では、「働くか働かないか」、「働くとしたらどのくらい働くか」といった個人・家計の最適就業決定メカニズムについて検討し、満足の高い働き方を考える。「失業問題」では、失業の発生メカニズム、その類型と政策対応のあり方について検証する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	労働経済学の諸理論を労働需要側と労働供給側から検討し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日本の労働問題や失業構造を理解したうえ、その対応策を提案できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	労働経済論の紹介：労働サービスの価値と教育の効果			テキスト第1章を予習			
2	技術進歩と雇用との関係：経済発展と産業構造の変化			テキスト第1・3・4章を予習			
3	労働投入量の決定方式：利潤極大化原理、生産量の決定と労働投入量の決定			テキスト第2章を予習			
4	労働市場における独占：完全競争との比較			テキスト第2章を予習			
5	雇用量の決定：費用極小化原理による資本投入量と労働の量			テキスト第2章を予習			
6	労働需要の賃金弾力性：資本蓄積と長期の労働需要の変化、ヒックス・マーシャルの派生需要の法則			テキスト第4章を予			
7	雇用促進政策の効果：代替効果と規模効果、雇用政策と労働需要			テキスト第8・9章を予習			
8	少子・高齢化と労働供給：労働時間と余暇時間の配分			テキスト第3章を予習			
9	最適労働供給時間の選択：雇用極大化原理による労働供給側の行動			テキスト第2・3章を予習			
10	賃金上昇と労働供給：代替効果から所得効果へ、安定的労働市場と不安定な労働市場			テキスト第2・3章を予習			
11	家計の労働供給メカニズム：留保賃金率、余暇と所得に対するニーズ			テキスト第8章を予習			
12	失業の発生メカニズム：失業の原因と種類			テキスト第7章を予習			
13	日本の失業構造：失業の国際比較、地域別の特徴			テキスト第3・7章を予習			
14	失業率指標の再評価：失業者の定義、失業データの国際比較			テキスト第7章を予習			
15	失業と景気との関係：オークン係数			テキスト第7章を予習			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	太田聡一・橘木俊詔『労働経済学入門』有斐閣。						
履 修 条 件	特にないが、経済学A・Bを履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	労働経済論 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	「労働経済論 A」に学んだ労働経済学の理論・仮説を使って、現実の労働市場で起きている様々な労働問題を検討する。例えば、高齢社会への進展など人口構造の変化、人々のライフスタイルや消費パターンの変化、そしてそれらの影響を受けた産業構造や経済構造の変容、働き方の多様化など、外部環境が変化するなか、人々の仕事や暮らしはどのように変わるのだろうか。本講義では、労働環境の変化のなか、満足の高い働き方や生き方を模索する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	環境変化による働き方の変容を診断し、今後の雇用形態が展望できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	労働環境の変化に対応した企業の人事諸制度、また国の政策が提案できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	大学教育の経済合理性を考える			テキスト第5章を予習			
2	人的資本論 (Human Capital) と統計的差別理論 (Statistical Discrimination)			テキスト第5章を予習			
3	人的資本論 (Human Capital) とエイジェンシー理論 (Cheating Hypothesis)：技能養成と定年			テキスト第5章を予習			
4	ライフスタイルの変化と働き方の変容			テキスト第3章を予習			
5	結婚・出産の経済合理性：家計の生産関数と人々の効用関数			テキスト第6・8章を予習			
6	就業・転職・引退時期の意思決定：賃金所得と年金、余暇時間に対する効用			テキスト第3・6章を予習			
7	所得格差と不平等度指数：ジニ係数、所得分配の平等・不平等			テキスト第4章を予習			
8	男女間賃金格差の原因分析：差別的格差・正当な格差			テキスト第4・8章を予習			
9	理論検討：人的資本論、内部労働市場論、統計的差別理論、クラウディング仮説、コンパラブル・ワース			テキスト第4・5・8章を予習			
10	企業間賃金格差の波及効果：労働移動の可能性、所得再分配機能			テキスト第4章を予習			
11	賃金決定メカニズム：補償賃金仮説とヘドニック賃金、逆選択仮説			テキスト第4章を予習			
12	学歴間賃金格差とその波及効果：進学の意味決定と価額シグナルの役割			テキスト第4・5章を予習			
13	年功賃金について：年齢・賃金プロファイルの国際比較			テキスト第3・4章を予習			
14	終身雇用について：将来の不確実性と雇用期間、リスク・プレミアム			テキスト第3・6・7章を予習			
15	雇用契約パターン：労働供給側と労働需要側の分析			テキスト第2・3章を予習			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
テキスト・参考文献等	太田聡一・橘木俊詔『労働経済学入門』有斐閣。						
履修条件	特にないが、労働経済論Aと経済学A・Bを履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。						

授業科目名	現代社会論A (ジェンダー・世代)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	①伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程の分析、②世代間による文化や規範意識のギャップについての分析など、社会学におけるジェンダー論、世代論に関係する分野から具体的なトピックを適宜取り上げて紹介する。これを通して「社会的なものの方や考え方」を習得させ、3年次以降の専門教育に向けての土台作りをする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	世代間ギャップやジェンダー・バイアスが再生産されていく過程についての知識を修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	イントロダクション——本講義の位置づけ	講義内容の概説	<p>講義期間中に、講義に関係した課題（学生自身の体験に関する報告、学生自身が考える問題解決策、講義担当者が提示した解決策に対する意見・批評）を求め、後日提出させることがある。</p> <p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はこれを用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p> <p>戦後の日本では、どのようなメンタリティを持った「世代」が生まれ、どのように変質していったのかを講義することで、今後の世代間共生のあり方を検討する。</p>				
2	「男女共同参画社会」の虚実①——日本における男女格差						
3	「男女共同参画社会」の虚実②——「ジェンダー」とは何か						
4	「男女共同参画社会」の虚実③——男女格差と「装置」	「男女共同参画」「ジェンダー・フリー」概念の成り立ちと、さまざまな立場からの見解を提示するとともに、受講生に自らの立場や見解の確立をうながす。					
5	「男女共同参画社会」の虚実④——「装置」との戦い・諸国の対応						
6	「男女共同参画社会」の虚実⑤——「装置」との戦い・日本の対応						
7	「男女共同参画社会」の虚実⑥——「バックラッシュ」現象						
8	「男女共同参画社会」の虚実⑦——男女間の公共性						
9	世代をめぐる物語①——戦後日本に存在してきた「世代」						
10	世代をめぐる物語②——「焼け跡世代」「団塊の世代」						
11	世代をめぐる物語③——「学生運動」の季節						
12	世代をめぐる物語④——「新人類世代／団塊ジュニア世代」						
13	世代をめぐる物語⑤——「新・新人類」の登場						
14	世代をめぐる物語⑥——ゼロ年代以降の若者たち						
15	世代をめぐる物語⑦——「反＝若者論」との対峙						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				80	
授業態度・授業への参加度		○				20	
補足事項		期末試験：レポート					
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中に紹介する。						
履 修 条 件	初回の講義で受講上の注意を詳しく述べるので、可能な限り出席すること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーでも質問や意見を受け付けるが、事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応する。						

授業科目名	地域社会学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択	2	1年	
担当教員	文屋俊子							
授業の概要	地域社会の課題に向き合い、解決策を模索できる基礎的な考え方を養うには、産業化・都市化の進展とともに大きく姿を変えてきた地域を論理的に幅広く理解する必要がある。本講では、これまでの農村社会学、都市社会学の成果を中心に、理論的アプローチを行い、現代における地域社会の社会関係の意味を問い直す。受講生にとっては足元の地域社会でありながら、多様な隣人たちの行動を決定づけている文化型の違いを理解したうえで、これからの地域における課題解決や共同のあり方を考える。							
<b>学生の到達目標</b>								
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	身近な地域社会に関する基礎的な理論を学び、地域社会について理解できる。						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会変動による地域社会の変化を学び、その問題点を説明できる。						
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	現代における地域での課題解決や共同のあり方について意見を言える。						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>								
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）			
1	都市と農村		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。授業中やコメントカードで質問や意見を述べること。授業時間内に意見交換、質疑応答時間を設けて質問等にこたえる。受講生は、授業中に指示する右の学習課題について理解できたかどうか毎回確認すること。		集落の二形態			
2	農村の社会構造				農村的生活様式「自然村」			
3	家の理論				「家」の特徴とその概念			
4	家連合－同族結合と講組結合				「家連合」、同族団			
5	地縁組織と村落共同体				「講と組」、年齢階梯組織			
6	農村の社会的性格				「東北型と西南型」			
7	産業化・都市化の進展と農村社会の変化				都市と農村の人口変化			
8	農村的生活様式と都市的生活様式				都市的生活様式			
9	社会移動と地域の社会構成の変化				地域の社会構成変化			
10	都市化の三側面と地域社会の多様性				都市化の三側面			
11	地域開発と地域社会における葛藤				開発の地域への影響			
12	コミュニティの目標と地域社会の特性				コミュニティとの関連			
13	分権社会における地域社会の問題				講義・ビデオ視聴	ノート整理、質問・意見		
14	地域社会と全体社会				講義と質疑			
15	講義全体のまとめ				講義と質疑	毎回の授業のまとめ		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）		
定期試験		○	◎			80		
授業態度・授業への参加度			○	○		20		
テキスト・参考文献等	参考文献：有賀喜左衛門『日本家族制度と小作制度』等、鈴木栄太郎『都市社会学原理』、福武直『日本農村の社会的性格』、鈴木広編『都市化の社会学』のうちバージェス、ワースの論文など。							
履修条件	なし。							
学習相談・助言体制	授業時間中の質問を歓迎します。また、コメントカードに質問・疑問・意見等を書いてください。つぎの授業で回答します。							

授業科目名	地域社会学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択	2	3年	
担当教員	文屋俊子							
授業の概要	地域社会の課題に向き合い、解決策を模索できる基礎的な考え方を養うには、産業化・都市化の進展とともに大きく姿を変えてきた地域を論理的に幅広く理解する必要がある。本講では、これまでの農村社会学、都市社会学の成果を中心に、理論的アプローチを行い、現代における地域社会の社会関係の意味を問い直す。受講生にとっては足元の地域社会でありながら、多様な隣人たちの行動を決定づけている文化型の違いを理解したうえで、これからの地域における課題解決や共同のあり方を考える。							
<b>学生の到達目標</b>								
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域社会における具体的な問題について、論理的に整理して説明できる。						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	データや資料からアプローチし、地域社会の課題の対応策を考察できる。						
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	具体的な地域の課題解決や共同のあり方について意見を言える。						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>								
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）			
1	拡大期の大都市周辺農村の社会変動		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。 授業中やコメントカードで質問や意見を述べること。 授業時間内に意見交換、質疑応答時間を設ける。		地域社会学Ⅰノート			
2	都市化する旧農村の社会問題							
3	地域の変化と「家」							
4	地域共同体の問題				共同体について			
5	地域社会の構成とコンフリクト				社会変動と地域			
6	開発と農村地域の問題				配布文献			
7	自治体と地域共同管理の担い手							
8	都市内地域の住民関係				授業内レポート			
9	郊外団地の社会構成と高齢化							
10	都心の過疎から都心回帰への転換と諸問題							
11	大都市の居住をめぐる諸問題				資料整理			
12	災害とコミュニティの対応							
13	地域社会における福祉の担い手				ビデオ・グループ学習	質問・意見のまとめ		
14	討論－地域社会の課題				演習形式による質疑			
15	講義全体のまとめ				講義と質疑	レポート作成		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）		
	定期試験	○	◎			80		
宿題・授業外レポート			○	○		20		
テキスト・参考文献等	教科書なし。資料及び参考文献は配布資料参照。							
履修条件	地域社会学Ⅰの単位を取っていること。							
学習相談・助言体制	コメントカードの活用。毎回、質問に対する回答を行い、理解をたすける。 また、授業開始前数分を学生とのコンタクト時間にする。							

授業科目名	NPO論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐野麻由子	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>今日、市民組織（NPO/NGO）、営利組織（企業）、政府組織の協働のあり方が議論されている。これらの主体はそれぞれどのような特徴をもつのか、どのように協働していくことができるのか。本授業では、非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行う市民組織（NPO/NGO）の歴史的展開、活動の特徴を他の主体との比較を通し理解した上で、協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。					
	DP4：表現力	NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	日本だけでなく、世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～5	NPO/NGOの学問的把握 ● NPO/NGOとはどのような組織を指すのか？ ● 社会運動、市民運動の役割 ● 3つの社会セクター ● 公共・公益・対抗的相補性		・講義 ・講義後のリアクションペーパーの提出		・配布資料の復習をする。 ・新聞記事を読む。 ・レポート執筆のための書籍、事例を収集する。		
6～10	NPO/NGOの現状を知る ● 世界のNPO活動（役割）、経営状況、人材 ● 日本のNPO活動（役割）、経営状況、人材 ● 都道府県別のNPO活動状況						
11～15	今日の3つの社会セクター：官、民、市民領域の重なり ● NPO/NGOの国際比較からみえるもの ● NPO/NGOの組織形態を決める要因 ● 社会的事業 ● 社会的企業 ● CSR、BOPビジネス ● 今日の官、民、市民の協働						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内レポート		○	○	○	○	40	
授業外レポート		○	○	○	○	60	
補足事項		出席、講義中での質問／リアクションペーパーの提出（40%）と最終レポート（60%）で評価する。評価は90点以上をA、80点台はB、そして70点台はC、60点台はDとする。そして60点に満たない場合は不可とする。					
テキスト・参考文献等	参考文献：原田・藤井・松井編、2010、『NPO再構築への道』勁草書房。						
履修条件	積極的に学ぶ姿勢があることを前提条件とする。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。						

授業科目名	発達心理学Ⅰ－A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	1年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。</p> <p>生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。発達上の心身の障害や問題についても取り上げ、将来、教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	発達心理学の誕生と歴史		テキストに沿って講義していく。テキストの他にも適宜資料等を配布する。テキストで得た知識を具体的に理解するため、視聴覚学習を行う。		事前学習： 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。  事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。		
2	「乳児の知的世界」						
3	「言葉と認識による世界の構築」①－ピアジェの発達理論						
4	「言葉と認識による世界の構築」②－世界の分化と構築						
5	「人の中への誕生と成長」						
6	「情動の発生と自己の成長」						
7	「学校への移行と対人関係の広がり」						
8	「科学性の成長と世界の拡大」						
9	「性的成熟とアイデンティティの模索」－エリクソンの発達理論						
10	発達の障害総論						
11	発達の障害各論（自閉スペクトラム①）～映画で学ぶ発達心理学～						
12	発達の障害各論（自閉スペクトラム②）～映画で学ぶ発達心理学～						
13	思春期・青年期のこころの発達と親子関係						
14	フロイト及びその他の発達理論						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	定期試験	◎	◎	○		50	
	小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎		50	
補足事項		「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズへの参加提出によって評価されます。					
テキスト・参考文献等	テキスト：『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店 参考文献：『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房						
履 修 条 件	後期『発達心理学Ⅱ』へと続く科目です。『発達心理学Ⅱ』を履修予定の学生は、前期で『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。						
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	発達心理学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に思春期から老年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。</p> <p>講義では、親子関係、きょうだい関係、夫婦関係などに関する発達心理学の知見を取り上げ、思春期から老年期に関する発達心理学上の問題と心理的援助についても概説していく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	これまでの発達心理学		講義（配布資料）		<p>事前学習： 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>		
2	人格の発達		講義（配布資料）				
3	視聴学習－カイン・コンプレックス①		講義とDVD視聴				
4	視聴学習－カイン・コンプレックス②		講義とDVD視聴				
5	青年期の発達理論－ピーター・ブロス他		講義（配布資料）				
6	青年期の親子関係		講義（配布資料）				
7	「学校から就職へ」		講義（テキスト）				
8	「恋愛関係の発達」		講義（テキスト）				
9	「結婚生活とその推移」		講義（テキスト）				
10	「親になること・親であること」①		講義（テキスト）				
11	「親になること・親であること」②		講義（テキスト）				
12	中年期の発達心理①		講義（テキスト）				
13	中年期の発達心理②		講義（テキスト）				
14	高齢者に関する発達理論		講義（テキスト）				
15	「発達心理学は何をするのか」及び発達に関する心理的援助		講義（テキスト）				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎	○		50	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		50	
補足事項		「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズへの参加提出によって評価されます。					
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店 参考文献：『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房</p>						
履修条件	前期から続く科目です。前期科目『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。						
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	発達心理学Ⅲ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	子どもの嘘や盗みは、はたして正常か否か。豊かな臨床経験を経た D.W. ウィニコットの述べた発達理論は、現在も世界中の臨床家たちの良きテキストとして用いられている。講義ではテキストを皆で読み進めていき、発達心理学の中でも臨床に関わる知識について講義していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	D.W. ウィニコットの発達理論について理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	問題を抱える子どもと親への心理臨床的援助について主体的に考えることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	問題を抱える子どもと親への心理臨床的援助について探求し、レポート発表ができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	問題を抱える子どもと親への心理臨床的援助方法の基礎を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	D.W. ウィニコットの紹介		テキストを受講生が順番に読み、教員が解説・講義していく。適宜、資料を配布したり、関連する DVD を視聴したりする。		事前学習： 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。  事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learning による確認小クイズに参加して知識を身につける。		
2	家族と子ども「父親とは一体何なのか」①						
3	家族と子ども「父親とは一体何なのか」②						
4	発達「子どもたちの基準とあなたの基準」						
5	発達「正常な子どもとは、どんな子ども」①						
6	発達「正常な子どもとは、どんな子ども」②						
7	遊びと発達「なぜ子どもは遊ぶのか」						
8	問題行動「盗みと虚言」						
9	「普通の両親を支えること」						
10	視聴覚教材から学ぶ発達心理学①						
11	視聴覚教材から学ぶ発達心理学②						
12	家族と専門家「普通の両親を支えること」						
13	「5歳以下の子どもの要求」						
14	神経症「子どものはにかみと神経症的な障害」						
15	移行対象「自立の最初の試み」						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	○	50	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	50	
補足事項		「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズの参加提出によって評価されます。					
テキスト・参考文献等	テキスト：『子どもはなぜあそぶのー続・ウィニコット博士の育児講義ー』、D.W. ウィニコット著、猪股丈二訳、星和書店						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	老年心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	<p>社会の急速な高齢化に伴い、高齢者に関する科学的な理解の重要性がますます高まりつつある。老年期の心理学的側面について科学的に理解する分野が老年心理学である。近年、老年心理学的研究が進むにつれ、従来の素朴な老人観の不確かさが次々と明らかにされてきた。この授業では、感覚知覚、記憶、知能、人格などが加齢に伴ってどのように変化するのか（しないのか）を中心に、生涯発達心理学の視点より解説する。また、実りある老年期を過ごすための心理学的研究についても紹介する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	高齢期に関する心理学的諸現象と諸理論を理科視する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	高齢期に関する心理学を支える論理的統一性と多様の観点を理解する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	老年心理学とは：老年研究の神話性		<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書的知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>		<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>		
2	老年心理学の研究法（1）						
3	老年心理学の研究法（2）						
4	感覚・知覚と加齢						
5	記憶と加齢（1） 実験室場面での研究						
6	記憶と加齢（2） 日常的場面での研究						
7	知能と加齢（1） 知能の基本的知識						
8	知能と加齢（2） 年をとると頭が鈍るのか？						
9	人格と加齢（1） 人格の基本的知識						
10	人格と加齢（2） 年をとると人柄が変わるのか？						
11	老年期の環境適応						
12	主観的幸福感・死にゆく過程の研究						
13	老年期のこころの不調（1）						
14	老年期のこころの不調（2）						
15	まとめ						
			まとめを行なう。		質問しよう。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			80	
授業態度・授業への参加度						20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	老年期医学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	小嶋秀幹						
授業の概要	老年期医学の基礎知識、老年期に起こりやすい、精神疾患・身体疾患について講義する。最近の老年期医学のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	老年期医学とは		講義		e-learning を利用して実施		
2	高齢者の健康問題のとりえ方		講義				
3	高齢者の健康評価		講義				
4	健康評価の実際		講義				
5	高齢者の脆弱化		講義				
6	老年期のうつと認知症（1）		講義				
7	老年期のうつと認知症（2）		講義				
8	老年期の睡眠障害		講義				
9	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（骨粗鬆症、転倒・骨折）		講義				
10	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（失禁・便秘、白内障、難聴）		講義				
11	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（呼吸器疾患）		講義				
12	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（循環器疾患）		講義				
13	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（低栄養状態、褥創）		講義				
14	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（悪性腫瘍、緩和ケア）		講義				
15	長寿の秘訣		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
テキスト・参考文献等	参考図書：道場信孝著、日野原重明監修 「臨床老年医学入門 第2版」（医学書院、2013年、3,200円）						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	精神保健学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	小嶋 秀 幹						
授業の概要	精神保健の基本知識、ライフサイクルにおける精神保健について学習する。将来、様々な保健・福祉分野に進む受講者が、精神保健の現状を理解し、幅広く興味と知識をもつことのできる講義をしたい。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	精神保健とは（1）		講義		e-learning を利用して実施。		
2	精神保健とは（2）		講義				
3	ライフサイクルにおける精神保健（乳幼児期－1）		講義				
4	ライフサイクルにおける精神保健（乳幼児期－2）		講義				
5	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－1）		講義				
6	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－2）		講義				
7	精神保健活動の実際（家庭）		講義				
8	ライフサイクルにおける精神保健（思春期）		講義				
9	精神保健活動の実際（学校）		講義				
10	精神障害の基礎知識（統合失調症）		講義				
11	ライフサイクルにおける精神保健（成人期）		講義				
12	精神保健活動の実際（職場）		講義				
13	精神保健活動の実際（うつ病）		講義				
14	ライフサイクルにおける精神保健（老年期）		講義				
15	精神保健活動の実際（地域）		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	定期試験	◎	○			80	
	宿題・授業外レポート	○	◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」（へるす出版、2013年、3,000円）						
履修条件	引き続き「精神保健学Ⅱ」を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	精神保健学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	小嶋秀幹						
授業の概要	精神保健における個別課題への取り組みについて講義する。最近の精神保健学のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	精神障害対策（1）		講義		e-learning を利用して実施		
2	精神障害対策（2）		講義				
3	認知症対策		講義				
4	アルコール関連問題対策（1）		講義				
5	アルコール関連問題対策（2）		講義				
6	薬物乱用防止対策		講義				
7	思春期精神保健対策		講義				
8	地域精神保健対策		講義				
9	司法精神保健対策		講義				
10	緩和ケアと精神保健		講義				
11	地域精神保健施策		講義				
12	精神保健福祉に関する調査研究		講義				
13	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割		講義				
14	精神保健に関わる専門職種の役割と連携		講義				
15	世界の精神保健		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎	○			80	
	宿題・授業外レポート	○	◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂新版精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」（へるす出版、2013年、3,000円）						
履修条件	「精神保健学Ⅰ」を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	精神医学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	小嶋 秀 幹						
授業の概要	精神保健福祉士等、精神科医療に従事する方々に必要な精神医学の基礎知識を講義する。進歩の著しい精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	精神医療の歴史		講義		e-learning を利用して実施		
2	脳および神経の解剖生理		講義				
3	精神医学の概念		講義				
4	精神疾患の診断		講義				
5	精神症状と状態像		講義				
6	身体的検査と心理検査		講義				
7	症状性・器質性精神障害		講義				
8	物質使用による精神障害（1）		講義				
9	物質使用による精神障害（2）		講義				
10	統合失調症（1）		講義				
11	統合失調症（2）		講義				
12	気分障害（1）		講義				
13	気分障害（2）		講義				
14	神経症性障害（1）		講義				
15	神経症性障害（2）		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎	○			80	
	宿題・授業外レポート	○	◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂新版精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学－精神疾患とその治療」（へるす出版、2013年、3,000円）						
履 修 条 件	引き続き「精神医学Ⅱ」を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	精神医学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小嶋 秀 幹		後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	精神医学Ⅰに引き続き、精神障害の各論と治療法等について講義する。精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	摂食障害・睡眠障害		講義		e-learning を利用して実施		
2	パーソナリティ障害		講義				
3	知的障害		講義				
4	心理的発達の障害		講義				
5	小児期・青年期の精神障害		講義				
6	神経系の疾患（てんかん含む）		講義				
7	精神科的治療法（身体療法）		講義				
8	精神科的治療法（精神療法）		講義				
9	精神科的治療法（環境・社会療法）		講義				
10	精神科的治療法（精神科リハビリテーション）		講義				
11	病院精神科医療		講義				
12	精神科救急医療		講義				
13	地域精神医療		講義				
14	精神科医療における人権擁護		講義				
15	司法精神医学		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂新版精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学－精神疾患とその治療」（へるす出版、2013年、3,000円）						
履 修 条 件	「精神医学Ⅰ」を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	精神科リハビリテーション学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	精神保健福祉士がおこなうリハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関におけるリハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割、多職種連携・協働方法などについて学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神保健福祉士がおこなうリハビリテーションの概念と構成、プロセスについて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	医療機関におけるリハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割、多職種連携と協働の方法について論理的・具体的に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義（適宜、視聴覚教材）				
2	精神科リハビリテーションの定義		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
3	精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
4	精神科リハビリテーションの構成と展開		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
5	精神科リハビリテーションのプロセスと計画		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
6	精神科リハビリテーションのアプローチ		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
7	精神疾患の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
8	精神専門療法 作業療法・集団精神療法		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
9	精神専門療法 行動療法・認知行動療法・SST		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
10	精神専門療法 家族教育プログラム		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
11	精神専門療法 精神科デイ・ケア		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
12	医療機関のアウトリーチ		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
13	チーム医療の概要		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
14	医療機関における多職種連携と協働		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
15	まとめ		講義（適宜、視聴覚教材）				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業終了後の課題レポート		◎	○			100	
補足事項	出席点はありません。課題レポートのみで成績評価します。						
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献：日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』中央法規出版、2012、2,200円（税別） なお、必要な資料等を配布するので、事前にe-ラーニングからダウンロードのこと。						
履修条件	「精神科リハビリテーション学Ⅱ」も履修すること。精神保健福祉に関する身近な問題に関心を持ちながら講義を受講すること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次の授業時で対応する。						

授業科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	精神保健福祉士がおこなう地域を基盤にしたリハビリテーションなどについて学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域を基盤とした精神科リハビリテーションについて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域におけるリハビリテーションの展開と精神保健福祉士の役割、多職種連携・協働の方法について論理的・具体的に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義（適宜、視聴覚教材）				
2	地域ネットワークの必要性和目的と定義		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
3	地域ネットワーク種類と構造		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
4	地域ネットワーク形成のプロセスと精神保健福祉士の役割		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
5	インフォーマルネットワークとフォーマルネットワークの有機的活用		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
6	地域ネットワークの課題と留意点		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
7	アウトリーチ ニーズ把握・介入・モニタリング		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
8	海外のアウトリーチとわが国の課題		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
9	ケアマネジメント 仲介モデル・ACT・ストレングスモデルなど		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
10	ケアマネジメント 事例から学ぶ		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
11	地域生活支援事業		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
12	地域活動支援センターと相談支援事業		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
13	セルフヘルプグループ		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
14	精神保健福祉ボランティアの育成		講義（適宜、視聴覚教材）		テキスト指定箇所の通読		
15	まとめ		講義（適宜、視聴覚教材）				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
授業終了後の課題レポート			◎	○			100
補足事項		出席点はありません。課題レポートのみで成績評価します。					
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献：日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版、2012、2,200円（税別） なお、必要な資料等を配布するので、事前にe-ラーニングからダウンロードのこと。						
履修条件	「精神科リハビリテーション学Ⅰ」も履修済みであること。精神保健福祉に関する身近な問題に関心を持ちながら講義を受講すること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時で対応する。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	本郷秀和						
授業の概要	<p>各々が設定したテーマに関する研究を卒業研究（卒業論文）として深めていく。また、その執筆プロセスや結論の報告を通じて、各々の研究の課題・意義・方法を共有したい。また、卒業論文作成後には、卒業論文の要旨作成と報告（プレゼンテーション）を行う。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	適切な研究目的・対象・方法、プロセス、表現等を踏まえて卒業論文が作成できる能力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	福祉課題（卒論テーマ）を自ら発見し、仮説を基に課題解明に必要なアプローチ能力を修得する。					
技能	DP10：専門分野のスキル	福祉課題を客観的データを用いて整理し、論理的に指摘できるための基礎的能力を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（卒業論文の概要）、各自のテーマと準備状況の報告				卒業論文のテーマを焦点化しておくこと。		
2~7	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文に関する研究計画案の検討</li> <li>各自のテーマ（福祉課題）に関する文献収集と整理（紹介を含む）</li> <li>卒業論文の下書きの執筆（調査活動含む）</li> </ul>		論文構成・書き方、文献・関係資料の収集方法等について説明する。これに沿って各自は論文の下書きを作成していく。		関係資料を収集していく。研究動機・仮説を明確化した後に卒業論文の流れを整理し、下書きを進めていく。		
8~10	卒業論文の確認・修正と完成（下書きの修正指導）と提出		卒業論文の下書きを確認し、修正を行う。修正後は手続きに沿って提出する。		論文の作成と修正（要旨含む）に取り組む。		
11・12	卒業論文報告会に向けたパワーポイントの作成		論文を要約して他者に説明できるようにスライドを作成する。		パワーポイントの作成。		
13・14	卒業論文報告会に向けたプレゼンテーション練習		パワーポイントを用いたプレゼンテーション練習。		報告準備を行う。		
15	卒業論文報告会への参加と報告		報告会への参加				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業態度・授業への参加度		○	○		20	
	受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	◎	80	
テキスト・参考文献等	別途指示する。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業中または終了直後、オフィスアワーや休み時間等に適宜対応します。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	細井 勇						
授業の概要	専門教育の集大成として卒業論文がある。社会福祉学演習での取り組みの延長で、論文の完成を目指す。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	自らが主体的に設定した社会福祉に関わる課題について探求し、その成果を論理的に表現できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1~3	卒業論文のテーマ設定と構想の説明、論文の章立て、本論の執筆一部の発表		発表と討論		報告レジュメの用意		
4~8	論文の章立て、展開、先行研究、本論の執筆完成とその内容報告		発表と討論		本論の執筆提示と配布		
9~13	論文の結論、まえがき、文献目録、注釈等の確認		発表と討論		論文全体の提示		
14・15	論文の完成、報告発表						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	授業態度・授業への参加度		○			20	
	受講者の発表（プレゼン）		◎			80	
テキスト・参考文献等							
履修条件							
学習相談・助言体制	論文の完成では、個別的相談と確認が必要になってくるので随時対応していきたい。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	住友雄資						
授業の概要	卒業論文は大学での専門教育の集大成である。「社会福祉学演習」で各々が設定した研究テーマを達成するための個別・集団指導を行うことで、卒業論文を完成させる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	卒業論文執筆過程を通して、論理的で説得力のある表現法を身につけることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	収集したデータを分析し、社会福祉の諸現象を主体的・意欲的に探求することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会福祉の諸問題に対する研究方法を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1 オリエンテーション            第一段階 卒業論文指導（主としてデータ収集）            第二段階 卒業論文指導（主としてデータ分析）            第三段階 卒業論文指導（執筆）            最終 卒業論文報告（発表）会</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
データ収集			○	◎		10	
データ分析			○	◎		20	
卒業論文執筆			○	○	◎	40	
卒業論文発表			○	○	◎	30	
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献は卒論指導のなかで適宜紹介する。						
履修条件	履修規則第20条の着手要件を満たしていること						
学習相談・助言体制	卒論指導の前後、随時空き時間（オフィスアワーを含め）、メール等で対応						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	村山浩一郎						
授業の概要	各学生は「社会福祉学演習」で明確にした研究テーマと研究計画に基づき、卒業論文を作成する。教員は、卒業論文の作成に向けて個別指導及び集団指導を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	研究の成果を卒業論文にまとめ、卒論発表会で論理的に発表できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1~15	個別、およびグループによる論文作成指導						指示したところまで論文を書き進めておく
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
卒業論文			○	○	○	70	
個別及び集団指導への参加度				○		15	
卒論発表会の発表（プレゼン）			○			15	
テキスト・参考文献等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。						
履修条件	社会福祉学演習を履修していること。						
学習相談・助言体制	卒論に関する相談は随時受け付ける。メールでの学習支援も行う。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	平部康子						
授業の概要	「社会福祉学演習」で学習したテーマを基礎として、論文テーマの決定、論文作成に向けた論点整理・文献や調査についての検討・個別指導を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究方法および論文作成のルールを身につけ、論理的な文章を作成することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	先行研究や調査などを通じて社会福祉制度・政策について自ら課題を設定することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	自ら設定した課題に対し、社会福祉学上の知識および方法を用いて考察し、文書化することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーションおよび卒論執筆計画書を作成する		卒論執筆計画書を配布する				
2~5	論点整理 (①論文の目的・射程を明確にする②おおまかな項目の作成)		学生の報告		報告者はレジュメを用意すること		
6~12	卒業論文の執筆（項目ごとに報告）		学生の報告 論文構成・書き方について 個別指導 7月末に中間報告会を行う		論文作成 報告者はレジュメを用意すること		
13・14	卒論要旨・書式など確認、卒業論文発表会に向けたプレゼンテーションの準備		学生の報告		報告者は資料を準備すること		
15	卒業論文発表会		学生の報告		発表原稿、配布資料の準備		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート				○	○	10	
授業態度・授業への参加度			○	○			
受講者の発表（プレゼン）			◎			10	
演習			○			10	
その他（卒業論文）			◎	◎	◎	70	
テキスト・参考文献等	テーマに応じて指定する						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用するほか、随時質問を受けつける（メールで確認をいれること）						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	これまでの大学における専門教育の集大成として卒業論文を位置づける。各々が設定したテーマに則して必要な個別指導を行い、計画的に調査・研究活動を進めて卒業論文を完成させていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	卒業論文のテーマについて探求し、その研究成果を論理的に表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	卒業論文のテーマおよび関連する問題に関心をもち、論文作成に向けた意欲を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究手法を身につけて、それらを実践することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
初回	オリエンテーション		<ul style="list-style-type: none"> <li>基本事項の確認。</li> <li>今後の進め方についての話し合い。</li> <li>具体的なスケジュールを計画する。</li> </ul>		卒業論文のテーマについて事前に絞込みを行う。		
前半	卒業論文の作成に向けた準備 情報収集及び調査研究活動の実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>文献検索や関係資料の収集方法等について説明。</li> <li>卒業論文の作成に向けたグループ討議。</li> <li>仮の章立てをつくる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>研究に必要な関係資料等を収集していく。</li> <li>研究の動機や仮説について明確化しておく。</li> </ul>		
中盤	卒業論文の本格的な作成開始 卒業論文中間報告（発表）会		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の書き方に関する説明。</li> <li>卒業論文の執筆内容に関する個別指導。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>順次、卒業論文の作成に取り組む。</li> <li>中間報告に向けた準備に取り組む。</li> </ul>		
後半	卒業論文の見直し、修正、仕上げ 卒業論文報告（発表）会に向けた準備		卒業論文、要旨の完成に向けた個別指導。		<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文と要旨を完成させる。</li> <li>報告（発表）会に向けた準備に取り組む。</li> </ul>		
終盤	卒業論文報告（発表）会		卒業論文報告（発表）会。		<ul style="list-style-type: none"> <li>全体で卒業論文の報告を行う。</li> <li>配布資料の用意。</li> </ul>		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	受講者の発表（プレゼン）					15	
	その他					85	
補足事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告 評価基準 A 15点 B 10点 C 5点</li> <li>卒業論文の内容（70%） 評価基準 A 70点 B 50点 C 30点 D 10点</li> <li>卒業論文の執筆過程における取り組み姿勢（15%） 評価基準 A 15点 B 10点 C 5点</li> </ul>					
テキスト・参考文献等	特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	学部履修規程を各自が必ず確認しておくこと。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	平林恵美						
授業の概要	社会福祉学演習で各自が興味・関心を持ったテーマを基に、研究の手続きを明確化し、卒業論文を完成させる。加えて学生自身が、講義や演習で学んだことをもう一度振り返り、吟味し、着実に自分のものに行える機会となるような時間とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	自らが主体的に設定した社会福祉に関わる課題について探究し、その成果を論理的に表現できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	卒業論文の執筆を通して、社会福祉およびそれに関連する問題に関心を持ち、それに取組む意欲を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>【第1回】          〔授業内容〕オリエンテーション          〔授業方法〕グループ          〔事前・事後学習〕研究テーマ（案）について考えておく。</p> <p>【第2回～14回】          〔授業内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマ設定           <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文作成準備のために収集した文献や資料を読み、考察する。</li> <li>研究動機及び目的意識の明確化を図る。</li> </ul> </li> <li>研究の立案及び実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な研究計画を作成する。</li> <li>資料の収集を行う。</li> <li>資料の整理と分析を行う。</li> </ul> </li> <li>研究結果の検討と文章化           <ul style="list-style-type: none"> <li>収集及び整理した資料を、さらに細かく再構成していく。</li> <li>まずは主張すべきことを落とさないようしながら、自分の言葉で文章化していく。</li> <li>書き上げた論文を推敲、再点検し、体裁を整え、完成を目指す。</li> </ul> </li> <li>研究結果発表に向けた準備           <ul style="list-style-type: none"> <li>発表原稿を作成する。</li> <li>研究成果の発表のための心構えとその方法について理解する。</li> </ul> </li> </ol> <p>〔授業方法〕個別及びグループ          〔事前・事後学習〕各自、卒業論文の執筆を進める。</p> <p>【第15回】          〔授業内容〕卒業論文発表会          〔授業方法〕グループ          〔事前・事後学習〕発表会準備及び自己評価を行う。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○	○	○	15	
受講者の発表（プレゼン）			○	○	○	15	
卒業論文			○	○	○	70	
テキスト・参考文献等	特になし なお、必要に応じて適宜、資料等を配布する。						
履修条件	学生便覧の「福岡県立大学学部履修規則」を確認すること。						
学習相談・助言体制	授業時またはオフィスアワーにて対応する。						

授業科目名	卒業論文					開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
						後期	演習	必修	6	4年
担当教員	河野高志									
授業の概要	「社会福祉学演習」（3年後期～4年前期）の内容をふまえ、卒業論文を完成させるための論文指導を行う。また、卒業論文提出後の報告会の準備と発表の指導も行う。									
<b>学生の到達目標</b>										
思考・判断・表現	DP4：表現力	卒業論文の内容について分かりやすく要点をまとめてプレゼンテーションすることができる。								
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	卒業論文のテーマに関連した文献や論文を収集し、また独自の調査を計画することができる。								
技能	DP10：専門分野のスキル	先行研究や資料、調査等に基づいて卒業論文を完成させることができる。								
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>										
回	授業内容					授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション									
2	中間報告会					学生による発表		①できるだけ調査研究を実施しておく ②夏休み中の卒業論文への取り組みと進捗状況をまとめておく ③発表資料を作成する		
卒業論文提出まで	論文指導					ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う		テーマにそって計画的に卒業論文を執筆すること		
卒業論文提出後	報告会の準備					ゼミ単位での報告会準備と並行して、個別に報告会準備を指導する		卒業論文の内容（目的、方法、結果など）をわかりやすく整理すること		
15	卒業論文報告会					学生による発表		発表資料を作成すること		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）				
授業態度・授業への参加度			○	○	○	10				
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		20				
演習			◎			20				
その他				◎	◎	50				
補足事項		演習はゼミ単位の論文指導時の学生間ディスカッション・中間報告会・卒業論文報告会、その他は卒業論文を評価する。								
テキスト・参考文献等	特になし									
履修条件	論文執筆と添削・修正を繰り返すため、積極的な姿勢で臨むことを期待する。									
学習相談・助言体制	①必要に応じて相談を受ける ②アポイントメントをとって研究室に来ること									

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	寺島正博						
授業の概要	卒業論文とはこれまで大学において研究してきた成果を形にするものである。そのため、丹念に研究方法や分析、さらには論文構成を検討し完成させなければならない。具体的には各自が設定した研究テーマに沿って、グループによる討議と個別指導を繰り返し完成させていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	背景や目的を明確にすることができる。適正な論文構成をすることができる。調査結果を理論立てて考察することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	独自性のある研究テーマに着目することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	適正な研究方法・分析を用いることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1~15	論文作成指導		グループによる討議と個別指導を繰り返す。		研究領域の文献を読み込む。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			◎	○	◎	20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	◎	20	
その他			◎	○	◎	60	
テキスト・参考文献等	特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	「社会福祉学演習」の履修						
学習相談・助言体制	基本的には時間帯を設定し対応するが、その以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						

授業科目名	教育学概論 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	人間形成における教育の意義と役割、家庭・学校・社会における教育の特徴と役割、学校制度の目的と内容等、教育に関わる基礎的な知識を講義するとともに、幼稚園・保育所・認定こども園における幼児教育・保育、教育及び保育の現状と課題について理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育の意義、社会における教育の機能・役割について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	学校・家庭・地域における教育の特徴・機能を説明することができる。					
	DP4：表現力	乳幼児の心身の発達の諸側面と保育との関係、幼稚園・保育所の目的・目標、両者の違い、子育て支援について説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	人間と教育 1		講義		授業内の配布資料を熟読しておくとともに、毎回の講義内容を復習すること。		
2	人間と教育 2		講義				
3	教育の目的・目標 1		講義				
4	教育の目的・目標 2		講義				
5	子どもの社会化と家庭教育		講義				
6	学校の成立と現代の学校制度		講義				
7	学校教育の目的と内容・方法		講義				
8	乳幼児の教育と保育		講義				
9	発達の諸側面と保育の基本		講義				
10	幼稚園の目的・目標		講義				
11	保育所の目的・目標		講義				
12	認定こども園の目的・目標		講義				
13	幼稚園・保育所・認定こども園の子育て支援		講義				
14	認定こども園の流れと幼保一体化の動向		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎	◎			80	
	授業態度・授業への参加度	○	○			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：授業中に支持する。 参考文献・資料等：授業中に適宜紹介する。						
履 修 条 件	大学での主体的な「学びの力」を身につけるため、板書に頼らず、自分の力で授業ノートやメモをとること。また、ノートの整理をしながら毎回必ず復習をすること。 なお、この科目は保育士資格・幼稚園教諭免許取得希望者は必修となります。						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、質問・疑問等はメールで随時受け付ける。						

授業科目名	教育学概論 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的、経験的に考察するための学問である。教育学の課題は、学校教育にとどまらず多様な側面をもつ。本講義では、教育学についての基礎的素養を身につけ、受講者による調査、討論を通じて、知識の実践的な活用を体験する。本講義はグループワークを基軸として編成される。教育学の科学的志向性を出発点として、実践的な事例の検討を内容とする。受講者は主体的に考え、調査・討論をおこなう。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育学における基礎的概念を理解できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	教育にかかわる事象を教育的に分析できるようになる。					
	DP4：表現力	自己の意見を明晰に表現し、他者と協議できるようになる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	グループワークを通じ自らの思考を明晰に伝達できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		シラバスの精読		
2	教育を科学的に分析する視点		講義と討議		レポート作成・報告		
3	教育を科学的に分析する視点		講義と討議		レポート作成・報告		
4	教育を科学的に分析する視点		講義と討議		レポート作成・報告		
5	ホモ・サピエンスの特徴から教育を考える		講義		レポート作成・報告		
6	ホモ・サピエンスの特徴から教育を考える		講義と討議		レポート作成・報告		
7	ホモ・サピエンスの特徴から教育を考える		講義と講義		レポート作成・報告		
8	愛着理論から教育を考える		講義		レポート作成・報告		
9	愛着理論から教育を考える		講義と討議		レポート作成・報告		
10	愛着理論から教育を考える		講義と討議		レポート作成・報告		
11	遺伝と環境から教育を考える		講義		レポート作成・報告		
12	遺伝と環境から教育を考える		講義と討議		レポート作成・報告		
13	遺伝と環境から教育を考える		講義と討議		レポート作成・報告		
14	学力を考える		講義		レポート作成・報告		
15	学力を考える		講義と討議		レポート作成・報告		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート			◎			70	
受講者の発表（プレゼン）		◎				30	
テキスト・参考文献等	三木成夫『内臓とこころ』『生命とリズム』河出文庫、2013年、デヴィッド・クリスチャン『ビッグ・ヒストリー入門』WAVE出版、2015年						
履修条件	教職に関する専門科目（人間社会学部、看護学部）						
学習相談・助言体制	いつでも受け付けます。						

授業科目名	教育思想論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	藤澤健一		後期	講義	必修	2	2年
授業の概要	教育思想とは、教育にかかわる事象を対自化する知的な営みである。教育思想という窓口から、現代社会の諸問題に取り組む基礎的素養を身につける。教育事象を「思想」的に捉えることの一般的方法について、できるだけ具体的な事例をもとに考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育について科学的な知見にもとづき思想的に分析できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		シラバスの精読		
2	教育とは何か―『エミール』から考える		講義				
3	教育とは何か―『エミール』から考える		講義と討議		レポート作成		
4	教育とは何か―『エミール』から考える		講義と討議		レポート作成		
5	思想とはなにか―『君たちはどう生きるか』から考える		講義				
6	思想とはなにか―『君たちはどう生きるか』から考える		講義と討議		レポート作成		
7	思想とはなにか―『君たちはどう生きるか』から考える		講義と討議		レポート作成		
8	学校の授業を考える		講義				
9	学校の授業を考える		講義と討議		レポート報告		
10	教師の仕事を考える		講義		レポート作成		
11	教師の仕事を考える		講義と討議		レポート作成		
12	入試制度を考える		講義				
13	入試制度を考える		講義と討議		レポート作成		
14	不安から成長を考える		講義		レポート作成		
15	不安から成長を考える		講義と討議		レポート作成		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
宿題・授業外レポート			◎				70
その他							30
テキスト・参考文献等	吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、ルソー『エミール』岩波文庫、ケリー・マクゴニガル『スタンフォードのストレスを力に変える教科書』大和書房、2015年、シュレーマン『ルターのりんごの木』教文社、2015年、長谷川宏『日本精神史』上下巻、講談社、2015年						
履修条件							
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	生涯教育論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	形成学科 必修	2	2年
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	1960年代半ばのUNESCOにおける生涯教育論の提起以来、生涯教育・学習をめぐる議論や実践、政策が、国際的な規模で展開されてきている。これらも視野に入れつつ、日本の生涯教育・学習をめぐる実践と政策を歴史的に概観する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	国際的な生涯教育論や実践、政策を視野に入れ、日本の生涯教育・学習の実践と政策の特徴を理解し、説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						
1	生涯教育とは何か（授業のねらい）						
2	日本型生涯教育政策の原型－戦前日本の社会教育政策・1						
3	日本型生涯教育政策の原型－戦前日本の社会教育政策・2						
4	戦後日本の教育改革と生涯教育						
5	国際的な生涯教育論の提起と展開						
6	1970年代日本の生涯教育政策						
7	1970年代日本の生涯教育実践・1						
8	1970年代日本の生涯教育実践・2						
9	1980年代日本の生涯教育・学習政策						
10	1980年代日本の生涯教育・学習実践						
11	1990年代日本の教育「改革」						
12	1990年代日本の生涯教育・学習						
13	教育基本法「改正」と生涯教育・学習						
14	日本における生涯教育・生涯学習の展望と課題～国際比較の中で						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
課題レポート		◎					
テキスト・参考文献等	参考文献を講義の中で紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎回の授業終了後、時間を設定して研究室で、など。メールは連絡や時間設定のために活用。						

授業科目名	教育社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	白坂正太		前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	社会との関係性に着目しながら、教育に関する事象を、多角的に捉える。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会という視点を通して、教育に関する事象を考えられるようになる。					
	DP4：表現力	議論の中で、根拠を示しながら、自分の考えを述べるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	これまでの教育社会学における研究が何を明らかにしてきたのかを理解できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習（学習課題）		
1	教育社会学とは	講義・WS（ワークショップ）			前回の内容を復習すること。		
2	社会の中で生きるとは						
3	家族と社会化						
4	幼児教育						
5	遊びと子ども						
6	学校教育と子ども						
7	学校教育カリキュラムの背景						
8	中等教育						
9	教育の病理						
10	学校教育とジェンダー						
11	学校と入試						
12	多様化する高等教育						
13	情報化社会と教育						
14	生涯学習社会						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎		○	50	
小テスト・授業内レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度			○			20	
テキスト・参考文献等	必要に応じて資料を配布する。						
履修条件	グループワークやディスカッション等がありますので、積極的な参加をお願いします。						
学習相談・助言体制	授業後もしくは、電子メールにて受け付けます。shouta.shirasaka@gmail.com まで また、授業後のレポートの中での質問も受け付けます。						

授業科目名	発達心理学Ⅰ－A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	1年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。</p> <p>生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。発達上の心身の障害や問題についても取り上げ、将来、教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	発達心理学の誕生と歴史		テキストに沿って講義していく。テキストの他にも適宜資料等を配布する。テキストで得た知識を具体的に理解するため、視聴覚学習を行う。		事前学習： 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。  事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。		
2	「乳児の知的世界」						
3	「言葉と認識による世界の構築」①－ピアジェの発達理論						
4	「言葉と認識による世界の構築」②－世界の分化と構築						
5	「人の中への誕生と成長」						
6	「情動の発生と自己の成長」						
7	「学校への移行と対人関係の広がり」						
8	「科学性の成長と世界の拡大」						
9	「性的成熟とアイデンティティの模索」－エリクソンの発達理論						
10	発達の障害総論						
11	発達の障害各論（自閉スペクトラム①）～映画で学ぶ発達心理学～						
12	発達の障害各論（自閉スペクトラム②）～映画で学ぶ発達心理学～						
13	思春期・青年期のこころの発達と親子関係						
14	フロイト及びその他の発達理論						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎	○		50	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		50	
補足事項		「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズへの参加提出によって評価されます。					
テキスト・参考文献等	テキスト：『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店 参考文献：『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房						
履 修 条 件	後期『発達心理学Ⅱ』へと続く科目です。『発達心理学Ⅱ』を履修予定の学生は、前期で『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。						
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	発達心理学 I - B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	1年
担当教員	池 志保・林 ムツミ						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に乳児期から児童期にかけて、人の心身がどのように発達していくのかを学んでいく。発達上の心身の障害や問題についても取り上げ、将来、幼児教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。</p> <p>そして、各年齢段階の子どものDVDを視聴し、保育場面における子どもの行動を発達心理学的視点から理解し、対応を考える。保育や幼児教育の場面に役立つ実践的な心理学的知識の習得を目指す。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	乳幼児期の人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	心理学的視点から乳幼児の行動を説明し、具体的な対応を述べることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			担当	
1	発達心理学とは？－オリエンテーション－	講義	事前学習： 次回のテキストを読み、分からない箇所は自身でも調べておく。  事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。			池・林	
2	乳幼児の運動と発達心理						
3	認知発達－ピアジェとヴィゴツキーの発達理論						
4	知能と情動						
5	気質・性格・人格の発達						
6	遊びの発達						
7	親子関係及びきょうだい・仲間関係－愛着他						
8	子どもの発達障害						
9	0歳児の行動の理解と対応	講義とDVD視聴	理解と対応の整理			林	
10	1歳児の行動の理解と対応						
11	2歳児の行動の理解と対応						
12	3歳児の行動の理解と対応						
13	4歳児の行動の理解と対応						
14	5歳児の行動の理解と対応						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40*	
授業態度・授業への参加度		◎	◎				
補足事項	* 「授業内レポート」と「授業態度・授業への参加度」と合わせて、評価割合（40％）になります。						
テキスト・参考文献等	テキスト：『発達心理学－保育・教育に活かす子どもの理解』、本郷一夫著、建泉社						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	発達心理学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に思春期から老年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。</p> <p>講義では、親子関係、きょうだい関係、夫婦関係などに関する発達心理学の知見を取り上げ、思春期から老年期に関する発達心理学上の問題と心理的援助についても概説していく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	これまでの発達心理学		講義（配布資料）		<p>事前学習： 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>		
2	人格の発達		講義（配布資料）				
3	視聴学習－カイン・コンプレックス①		講義とDVD視聴				
4	視聴学習－カイン・コンプレックス②		講義とDVD視聴				
5	青年期の発達理論－ピーター・プロス他		講義（配布資料）				
6	青年期の親子関係		講義（配布資料）				
7	「学校から就職へ」		講義（テキスト）				
8	「恋愛関係の発達」		講義（テキスト）				
9	「結婚生活とその推移」		講義（テキスト）				
10	「親になること・親であること」①		講義（テキスト）				
11	「親になること・親であること」②		講義（テキスト）				
12	中年期の発達心理①		講義（テキスト）				
13	中年期の発達心理②		講義（テキスト）				
14	高齢者に関する発達理論		講義（テキスト）				
15	「発達心理学は何をするのか」及び発達に関する心理的援助		講義（テキスト）				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎	○		50	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		50	
補足事項		「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズへの参加提出によって評価されます。					
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店 参考文献：『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房</p>						
履修条件	前期から続く科目です。前期科目『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。						
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	教育心理学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次						
	担当教員	福田 恭介	後期	講義	選択必修	2	2年						
授業の概要	<p>教育現場においては、子どもと教師だけでなく、親も関わりながら学校を動かしている。そこでは、発達、学習、算数・文章理解、動機づけをどのように支援していくか、知能・学力の評価、子ども社会、発達障害児への対応、不登校への対応などの問題について考えていく必要がある。教育心理学とは、教育現場で起こるさまざまな問題について心理学的知見に基づいて考えていく学問である。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。</p>												
<b>学生の到達目標</b>													
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	図表や用語を説明できる。											
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	指定された論文の内容を要約し、コメントを記述できる。											
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	授業内容と自らの教育経験を結びつけることができる。											
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>													
回	授業内容	授業方法		事前・事後学習（学習課題）									
1	心理学における教育心理学の位置づけの紹介	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、Eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。		<p>授業に関連するいくつかの本の1つの章を読んで、所定の書式のレポートに要約し、最後に200～300字程度のコメントを書く。</p> <p>レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文献①の5つの章について要約</li> <li>文献②1章25-44を2頁以内に要約</li> <li>文献③「2.ペアレントトレーニングの実践」17-63を2頁以内に要約</li> <li>文献④第3章「数概念の発達と算数・数学の学習」43-62を2頁以内に要約</li> <li>文献⑤を2頁以内に要約</li> <li>不登校について2頁以内に要約</li> </ol> <p>詳しくは、授業中に紹介</p>									
2	「21世紀の教育心理学が目ざすもの（森敏明）」の紹介												
3・4	ピアジェの「認知発達理論」												
5・6	発達障害（ASD: Autism Spectrum Disorder, AD/HD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder, LD: Learning Disorder）についての紹介。												
7・8	発達障害児のためのペアレントトレーニングから教師のトレーニングへ												
9・10	子どもの数量理解												
11・12	学習のしくみ												
13	子どもの動機づけ												
14	知的能力と学力												
15	不登校												
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>													
成績評価方法	到達目標							知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験								◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート										◎		15	
宿題・授業外レポート									◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		5							
テキスト・参考文献等	<ol style="list-style-type: none"> <li>①森敏昭（著）「21世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣（書齋の窓）Eラーニングに保存</li> <li>②R・キャンベル（編）「認知障害者の心の風景」福村出版</li> <li>③福田恭介（編）「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版</li> <li>④大村彰道（編）「教育心理学Ⅰ－発達と学習指導の心理学」東京大学出版会</li> <li>⑤市川伸一（著）「学ぶ意欲の心理学」PHP 新書</li> </ol>												
履修条件	人間形成学科の学生にとっては、この科目と幼児教育心理学のいずれかが必修 教職（中学社会、高校公民）を目指す学生にとっては、この科目と発達心理学Ⅰ-Aのいずれかが必修												
学習相談・助言体制	授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。その他の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間が無いときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。												

授業科目名	幼児教育心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択必修	2	2年
担当教員	福田 恭 介						
授業の概要	<p>保育の現場においては、保育者と子どもだけでなく、子ども同士で関わり、さらには親も関わりながら、子どもは育っていく。そのためには、子どもが育っていく環境や過程を理解した上で、子どもの発達を援助していくことが保育者には求められている。幼児教育心理学では、保育現場で起こるさまざまな問題について心理学の立場から考えていく。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、さまざまなグループワークを通して幼児教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	図表や用語を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	指定された論文の内容を要約し、コメントを記述できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	授業内容と自らの教育・保育経験を結びつけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	幼児教育・保育における心理学・教育心理学の位置づけの紹介		<p>スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、Eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。</p> <p>授業内では、1つのテーマについて、各グループで討論し、その結果を発表する。</p>		<p>授業に関連する本の1章を読んで、所定の書式のレポートに要約し、最後に200～300字程度のコメントを書く。</p> <p>レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文献②第1章「教会で叫びたかった少女」25-44を2頁以内に要約</li> <li>文献①1部2「ペアレントトレーニングの実際」17-58を2頁以内に要約</li> <li>文献①「食事中的ウロウロを減らす」74-82を1頁以内に要約</li> <li>文献①「子どものことを具体的にほめるようになる」95-103を1頁以内に要約</li> <li>文献①「人の話に割り込むのをやめる」128-136を1頁以内に要約</li> </ol>		
2・3	子どもの認知の発達と保育者の関わり						
4・5	子どもの社会性の発達と保育者の関わり						
6・7	子どもの学びと保育者による援助						
8・9	子どもの知的能力の保育者による評価と援助						
10	子どもの発達障害（自閉症、AD/HD、LD）						
12～14	保育者による子どもの発達援助 （行動の観察と記録、困った行動を減らし、望ましい行動を増やすには、できないときの手助けの仕方、環境の整え方、親との連携）						
15	子どもの就学への援助						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート				◎		15	
宿題・授業外レポート			◎	◎		30	
授業態度・授業への参加度				◎		5	
テキスト・参考文献等	<ol style="list-style-type: none"> <li>①福田恭介（編）「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版</li> <li>②R・キャンベル（編）「認知障害者の心の風景」福村出版</li> </ol>						
履 修 条 件	保育士・幼稚園教諭を旨とする学生には必修						
学習相談・助言体制	授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。その他の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	生理心理学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	<p>こころと身体は密接に関連している。生理心理学は、知覚・認知・意識・学習・情動・心理臨床などの心理学的事象と身体機能との関連を解明する学術分野である。この授業では、生理心理学を理解するために必要な神経科学（neuroscience）の基本的知識を紹介する。神経科学とは、神経（つまり基本的には脳）に関する幅広い学術分野が総合された学際領域である。授業の中では、分子・細胞・器官の各レベルにおいて、脳で何が起きているのかについて解説する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	心理学的事象の源である神経系の機能について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	複雑な脳が合理性に基づいて機能していることを理解する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	古典的な文系・理系の枠を超えた総合知に挑む。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理学を支える神経科学の用語と理論を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	生理心理学と精神生理学		<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立てる。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書的知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>		<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>		
2	神経細胞の構造						
3	細胞の電気的性質						
4	神経細胞の電気的活動（1）						
5	神経細胞の電気的活動（2）						
6	シナプスでの化学的情報伝達						
7	受容体と細胞内情報伝達系（1）						
8	受容体と細胞内情報伝達系（2）						
9	脳の概観						
10	脳幹・間脳・小脳						
11	大脳基底核・大脳辺縁系						
12	大脳新皮質（1）						
13	大脳新皮質（2）						
14	末梢神経系						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎	○	○	80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	心身科学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	心身は深い相関を持つ。この授業では、まず心身科学の基本的な考えを概観し、つぎに、心理学における行動理論とその応用について解説する。つづいて心身症について解説し、心身相関の不調について考える。最後に生理学的ストレス学説と心理学的ストレス学説を解説し、神経系・内分泌系・免疫系の働きを心身相関の観点から考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	こころが身体の働きの上で成立していることを理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	心身相関を通じて科学的思考と疑似科学との違いを理解する。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	人間形成学科の卒業者が各分野で活躍する際の土台となる知識と思考を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	心身科学（心身医学）とは	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立てる。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書の知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>			事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。		
2	心身相関の例：タイプ A						
3	心身科学の歴史とその関連分野						
4	行動理論						
5	行動理論の応用（1）発達障害の基礎研究への応用						
6	行動理論の応用（2）心理療法・行動経済学						
7	心身症とは						
8	心身症と神経症の比較						
9	心身症以外への心身科学的アプローチ						
10	生理学的ストレス学説						
11	ストレスに関連する内分泌系・神経系						
12	免疫系：生命科学の前線と哲学における心身問題について						
13	心理学的ストレス学説						
14	ソーシャルスキルとソーシャルサポート						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎	○		80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	心身科学B					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	小山 憲一郎	後期	講義	必修	2 2年	
授業の概要	<p>こころとからだは密接に影響しあっているものであり、こころの問題や身体症状に取り組む時には、その密接な関連を視野に入れ理解しておくことが必要である。そこで、この講義では具体的には以下のことを学習し、理解を深める。</p> <p>1. 心身医学的、また、心理臨床的な臨床実践の中で、こころとからだの関係はどのように理解され、取り組まれてきたかを学習する。</p> <p>2. 心身医学領域においては認知行動療法が心理療法の主流となりつつあり、疾患ごとの技法パッケージが作られている。しかしながら技法に目を奪われると認知行動療法はうまくいかないことが多々ある。そのため、伝統的な心理療法との共通部分である技法以前のクライアントーセラピスト関係の重要性を理解した上で、専門的な技法の知識と共にそれらの導入について学習する。</p>					
<b>学生の到達目標</b>						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	伝統的心理臨床の流派と認知行動療法について共通部分と相違点を説明することができる。				
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	からだに対するこころの影響やそれを踏まえた心理臨床的な実践について説明することができる。				
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>						
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス からだへのこころの影響1（臨床に活かす基礎心理学）	講義	<p>配布されたプリントなどを通して復習し、わからないところがあれば質問してください。</p> <p>9回目では、マインドfulnessエクササイズを体験し、その体験を一週間日常生活に自分なりに活かして、そこでの体験をセルフモニタリングしてくるという宿題を課します。セルフモニタリングの書式は負担にならないよう簡便なものにしますので、積極的に取り組んでください。10回目はその結果に基づき、講義を進めます。</p>			
2	からだへのこころの影響2（心理社会的ストレスモデルとうつ・不安・心身症）	講義				
3	催眠から精神分析へ（精神分析の基本的な視点）	講義				
4	行動療法（応用行動分析）	講義				
5	認知療法－精神分析と行動療法をつなぐ－	講義				
6	認知行動療法の発展（行動療法と認知療法の出会いとストレスマネジメント）	講義				
7	リラクゼーション（呼吸法・自律訓練法・漸進性弛緩法）	講義と体験的学習				
8	第二世代の認知行動療法の導入 －カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション－	講義と体験的学習				
9	第三世代の認知行動療法の導入（マインドfulnessとアクセプタンス&コミットメント：カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション）	講義と宿題に基づく体験的学習 体験的宿題あり				
10	第三世代の認知行動療法2（マインドfulnessとアクセプタンス&コミットメントを活かした介入技法）	講義と体験的学習				
11	うつ病に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／行動活性／認知再構成／マインドfulnessエクササイズ等）	講義				
12	不安障害に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／行動実験／エクスポージャー／マインドfulnessエクササイズ等）	講義				
13	機能性消化管障害に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／不安管理訓練）	講義				
14	摂食障害・肥満症・糖尿病に対する認知行動療法（心理教育／セルフモニタリング／ベック式ダイエットプログラム等）	講義				
15	まとめ	まとめ				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
宿題・授業外レポート		○	○			60
授業態度・授業への参加度		○	○			40
テキスト・参考文献等	<p>参考文献：坂本真士「臨床に活かす基礎心理学」東京大学出版 2010、熊野宏明「新世代の認知行動療法」日本評論社 2012 山上敏子「方法としての行動療法」金剛出版 2007 ヘルツォーク「心身医学の最前線 医療と心理療法の新たな展開」創元社 2015</p>					
履 修 条 件	特になし					
学習相談・助言体制	授業中に随時質問を受けて回答していきます。出席カードに質問、感想等を書いて下されば、次回講義の冒頭でそれについて解説を行います。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。					

授業科目名	加齢基礎論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	<p>社会の高齢化が急速に進行しつつある現在、加齢の諸問題にいかに対処していくかが問われている。加齢は基本的には生物学的プロセスであるいっぽう、社会的問題とも密接に関連している。加齢自体が一つの社会問題ともいえる。このような背景に基づき、老年学（gerontology）という学際的分野が成立した。この授業では、老年学における議論に沿って、加齢の生物学的側面と社会的側面の双方を解説する。双方の理解は、実りある加齢（サクセスフル・エイジング）とは何かを考察することにつながる。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	心理学・生物学・社会諸科学等を土台とした老年学の知見・考え方・課題を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	加齢に関する様々な社会現象・自然現象が繋がっていることを理解する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	古典的な文系・理系の枠を超えた総合知に挑む。					
	DP6：社会貢献力	高齢化社会を牽引するために土台となる知見と考え方を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	老年学における考え方		<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書的知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>		事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。		
2	寿命学						
3	人口構成						
4	高齢化社会と就労：高齢者と若年者						
5	高齢者の生計						
6	プロダクティビティ						
7	高齢者 QOL						
8	生物学的老化学説						
9	テロメア（1） DNA 複製						
10	テロメア（2） テロメア短縮						
11	老化遺伝子をめぐる最新の動向						
12	エラー破局説とアポトーシス						
13	寿命の生命科学をめぐる最新の動向						
14	脳の老化						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎	○		80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	教育史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	藤澤健一	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	「教育史」とは、(学校教育に限定されない) 広義の「教育」についての歴史的研究を指す。この講義では、現代日本の教育史や自分史を基本的な素材とするが、断片的な知識を集積するのではなく、かけがえない自己を通じて「教育」について深く考えることをねらいとしている。これまで受けてきた歴史についての知識はどのようなものであったか。歴史(学)は何のためにあるのか。これらのことを、教育史という窓口から考察し、人間形成を歴史的観点から学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	近現代日本の教育史にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会事象、自己にかかわる事象を歴史的に分析できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義		シラバスの精読		
2~7	子ども・教育問題の歴史(法制度史、教科書史、教員史、教育方法史、教育課程史などにかかわり、教育史にかかわる基礎的な事象を概観する。事象の選択にあたっては受講者と協議する)		レポートと対話型講義		レポートのための調査、レジュメなどの準備		
8~15	現代日本教育史と自分史(受講者の自分史を視軸としながら、主として1990年代以降の日本教育史の展開を概観する。不登校、いじめなどの学校にかかわる問題をふくめ、教育にかかわる事象を歴史的な潮流において分析する)		レポートと対話型講義		レポートのための調査、レジュメなどの準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
宿題・授業外レポート			◎	◎			
テキスト・参考文献等	大田堯『戦後日本教育史』岩波書店、山田恵吾『日本の教育文化史を学ぶ』ミネルヴァ書房、和田春樹『平和国家の誕生』岩波書店、尾形勇『歴史学事典』第6巻、弘文堂、2006年、エリック・ホブズボーム『破断の時代』慶応義塾大学出版会、2015年						
履修条件							
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	公共人類学B（教育）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	翁 文 静						
授業の概要	<p>本講義では公共人類学と呼ばれる研究領域の動向を取り上げる。公共人類学とは、どのような目的のもとにどのような研究実践を展開しようとしているのか、その具体的内容や展望について検討していく。公共といわれるような場はさまざまにあるが、本講義では主に教育に焦点を当てる。教育というと、日本社会では、学校教育の存在感が大きいが、この授業では、広く人間の成長・発達を目指して行われる働きかけと理解し、さまざまな社会における文化伝達のプロセスに注目する。こうした視点から、教育について考え、意見交換をすることで、教育という営みを再考し、現代社会における教育の役割や新たなあり方についても想像することを目指す。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育を文化との関係で理解するための概念や視点持つことができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	様々な国々における教育の理念、実践、問題について、社会的背景との関連性から説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1、イントロダクションと公共人類学概説  2、公共人類学の構築  3、応答する人類学  4、生殖医療  5、出産の過去、現在、未来  6、誕生の儀礼と産後の養生  7、前半のまとめ  8、家庭教育  9、学校教育  10、諸外国と学校教育  11、障害者  12、難民  13、高齢者  14、葬儀  15、全体の補足とまとめ</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度		◎	○			40	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			60	
テキスト・参考文献等	<p>参考文献：①山下晋司『公共人類学』東京大学出版会、2014 ②寺下明『教育原理』ミネルヴァ書房、2005、③『アジアの出産リプロダクションからみる文化と社会』勉誠出版、2009 ④綾部恒雄『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2010</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールでの質問への回答。						

授業科目名	教育制度論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	秦 和 彦						
授業の概要	この授業は、現代日本における公教育制度の法的な理念と構造に焦点を当て、公教育制度の基本原則とその仕組みを理解することをねらいとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公教育の原則および教育制度に関する基本的な概念（専門用語）を説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	現代の教育問題を制度論的に考察・検討することができる。					
	DP4：表現力	現代の教育問題について制度論的な観点から自分の意見を述べるすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	この授業のねらい、評価の方法、テキストの使い方、受講上の留意点など。		講義				
2	教育制度に関する基本的な用語（教育体系、教育制度、学校制度など）		受講生をいくつかのグループに分け、グループごとに課題について調べ、問題を整理して発表し、全体で討議を行う。 その後、課題に関する関連資料の検索・調査の仕方、発表資料のまとめ方、発表の仕方、集団討議の進め方などについて指導する。		テキストの該当箇所および関連箇所を指示するので、予習をすること。		
3	教育制度の規定要因（教育制度の創設、運営管理、改廃）						
4	近代社会と教育制度（近代社会の教育原則と教育制度の展開）						
5	近代公教育制度の特質と機能（公教育の意味、近代公教育の特質と機能）						
6	日本国憲法と教育（憲法第26条の意義と解釈）						
7	教育基本法と教育原則1（教基法の意義、教育の目的規定）						
8	教育基本法と教育原則2（教育の機会均等原則、義務教育、男女共学）						
9	教育基本法と教育原則3（学校教育とその種類、社会教育とその範囲）						
10	教育基本法と教育原則4（公教育の中立性、教育行政の目的と機能）						
11	義務教育の理念（憲法、教基法における義務教育の理念）						
12	義務教育の制度的構造（学校教育法における義務教育の制度的構造）						
13	教育制度改革の動向とその諸問題1						
14	教育制度改革の動向とその諸問題2						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内課題レポートの発表		◎					
授業態度・授業への参加度			○				
受講者のグループワーク			◎				
テキスト・参考文献等	テキスト：教育制度研究会編『要説 教育制度 新訂第三版』学術図書出版社。 参考文献・資料等は授業中に適宜紹介する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、質問・疑問等は電子メールで随時受け付ける。						

授業科目名	教育内容論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	人社3年 看護2年
担当教員	石井郁男						
授業の概要	教育内容の基本は生徒の内発的成長力をいかに育てるかにある。人生を真剣に生きた先人を教材として、教育の本質を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育とは何かを認識する。 教育における読書を正しく位置づける。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間と教育との関わりを深く考える。 教育の出発点は各自の立志にあることを掴む。					
	DP4：表現力	教育内容を自ら構成する力をつける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ナイチンゲールの生涯（看護との関わり）		講義		伝記を読む		
2	自然哲学の祖タレス（原因の追究方法）		講義		看護・教育の関係を考える		
3	ソクラテスの哲学（無知の知）		講義		物事を知るとは何かを考える		
4	プラトンの哲学（理想を追求する）		講義		夢を抱くとは何かを考える		
5	アリストテレスの哲学（精密に観察し記録する）		講義		5W1Hを活用する		
6	ベーコンの哲学（経験で発見せよ）		講義		具体的に見ることの大切さを知る		
7	デカルトの哲学（易より難へが順序）		講義		疑問を持つことの重要性を知る		
8	カントの哲学（経験と理性を統一する）		講義		事実を踏まえ推理せよ		
9	ヘーゲルの哲学（発展の原動力は矛盾である）		講義		自分の体験で考える		
10	ショーペンハウエルの哲学（意志が現象を作る）		講義		自分の立志を考える		
11	ニーチェの哲学（小児の無垢な心を持って）		講義		純真無垢こそ発展の原動力		
12	ダーウィンの哲学（自分の興味を追究せよ）		講義		青年の体験が土台である		
13	マルクスの哲学（肝心なことは変革である）		講義		前進のために変革せよ		
14	デューイの哲学（失敗を恐れるな）		講義		試行錯誤で実践すべきである		
15	サルトルの哲学（自らを未来に向けて投げよ）		講義		冒険的な計画を持って		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	講義への参加度		○			20	
	毎時間の感想文	○	○			40	
	看護実習論文	○	○			40	
テキスト・参考文献等	参考文献：石井郁男『Q & A 哲学の歴史』弦書房（1,800円＋税）						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	毎時間、授業後5分間で感想・質問を書く。次の時間に回答する。						

授業科目名	教育方法論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		後期	講義	選択	2	人社3年 看護2年
授業の概要	教育とは何か、教師とは何か。根本的な問いに取り組みつつ、教えること、学ぶことに関する方法を議論する。現在のわが国の学校における授業方法について具体例とそれぞれの経験をもとに検討する。教材の活用方法についても検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	講義で取り上げる教育方法に関する基本事項について理解し述べることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	教育とは何か		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	カリキュラムとは何か		講義		松浦・原田・未定・梶原		
3	教師と教員の違いはどこにある		講義		松浦・原田・未定・梶原		
4	個別教育計画		講義		松浦・原田・未定・梶原		
5	ビデオ教材の活用		講義		松浦・原田・未定・梶原		
6	教材研究とは何か		講義		松浦・原田・未定・梶原		
7	教えることと学ぶこと		講義		松浦・原田・未定・梶原		
8	ポートフォリオを活用した授業		講義		松浦・原田・未定・梶原		
9	少人数単位の授業方法		講義		松浦・原田・未定・梶原		
10	クラス単位の授業方法		講義		松浦・原田・未定・梶原		
11	授業が成り立たない要因と対処		講義		松浦・原田・未定・梶原		
12	GTとTTを活かす		講義		松浦・原田・未定・梶原		
13	学習意欲を引き出す工夫		講義		松浦・原田・未定・梶原		
14	教師との対話による授業をめざす		講義		松浦・原田・未定・梶原		
15	まとめ		講義		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎				100	
テキスト・参考文献等	参考資料：適宜紹介する						
履修条件	教員養成課程・コースにあるものが望ましい						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。						

授業科目名	教育評価		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	原口雅浩						
授業の概要	教育評価が教育活動においてなぜ重要で、どのような意味を持つのか、そして具体的にどのような方法で実施されているのかといった点を中心に講義し、さらに、最近の教育問題と新しい教育評価について講義する。また、教育評価に必要とされる統計についても、表計算ソフトおよび統計ソフトを用いて説明する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育評価における基本用語について理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	教育現場での問題点とその対処法について知ることができる。					
	DP4：表現力	教育現場での問題点の対処法について自分なりの意見をもつことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理統計の必要性について理解し、データを適切に処理することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	教育評価の歴史		PPを用いて説明		Web・新聞で最近の教育現場での評価に関する記事を調べる（課題1）。		
2	相対評価・絶対評価・個人内評価		PP・配布資料で説明		基本用語を覚える		
3	形成的評価・総括的評価		PP・配布資料で説明		基本用語を覚える		
4	指導要録		PP・配布資料で説明		通知票を想起しておく		
5	個人差の診断的検査		PP・配布資料で説明		性格・知能検査の復習		
6	教育評価のための統計法（尺度・基礎統計量）		EXCELで例題を解く		課題2（基礎統計量）		
7	教育評価のための統計法（相関）		EXCELで例題を解く		課題3（相関係数）		
8	教育評価のための統計法（ノンパラメトリック検定）		EXCELで例題を解く		課題4（ $\chi^2$ 検定）		
9	教育評価のための統計法（1要因分散分析）		Starで例題を解く		課題5（ANOVA1）		
10	教育評価のための統計法（2要因分散分析）		Starで例題を解く		課題6（ANOVA2）		
11	カリキュラム・教授法		PPを用いて説明		課題1で調べた内容について、自分なりの考え（意見）を持つ		
12	最近の教育問題（ゆとり教育・総合的学習の時間）		教育問題を議論する		総合的学習の時間に対する意見をもつ		
13	最近の教育問題（学力テスト・新入試制度）		教育問題を議論する		新入試制度に対する意見をもつ		
14	新しい教育評価（認知心理学からのアプローチ）		PPを用いて説明		誤りの方略について理解する		
15	まとめ		レポート書き方説明		レポート（課題は講義で発表する）		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40	
宿題・授業外レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度			○			20	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	10	
テキスト・参考文献等	①井上正明（編）「教育評価読本」教育開発研究所 ②梶田叔一（著）「教育評価」有斐閣 ③森敏昭・吉田寿夫（編著）「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房、その他は講義中に紹介。すべて参考文献なので、必ずしも購入の必要はない						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	基本的に質問についてはメールを利用。						

授業科目名	保 育 学				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	大 久 保淳子				前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>この講義は、教育・保育の意義、幼稚園教育要領・保育所保育指針における教育・保育の基本・保育の内容と方法について理解する。また、保育の思想と歴史の変遷を概説し、近年の保育の現状と課題について考察する。</p> <p>なお、保育行政の動向についても取り上げて説明する。また、保育現場の実態や実習生の実習体験、就職活動や採用試験の実例等をできるだけ多く紹介しながら講義を進める。したがって毎回の授業内容は必ずしも下記の授業計画通りに進むとは限らない。</p>								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育・保育の意義、幼稚園と保育所の目的、目標、内容、計画、方法について説明することができる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	幼稚園と保育所の違いと共通点について、その根拠を挙げて説明することができる。							
	DP4：表現力	近年の保育・子育てなどの保育行政に関する動向を自ら調べ、意見を述べるができる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	講義のねらいと進め方、成績評価の方法				講義		<p>テキストの該当箇所および関連箇所を読み、予習・復習をすること。</p> <p>※事後学習として、講義内容と関連のある論文の概要や教育に関するニュースを、適宜紹介するので、それらを読む。</p>		
2	教育・保育の意義				講義				
3	幼稚園教育要領における教育の基本（1）				講義				
4	幼稚園教育要領における教育の基本（2）				講義				
5	保育所保育指針における保育の基本（1）				講義				
6	保育所保育指針における保育の基本（2）				講義				
7	幼稚園と保育所の違いと共通点について				講義				
8	教育・保育の目標と方法（生活と遊びを通して総合的に行う保育）				講義				
9	教育・保育の目標と方法（保育における個と集団への配慮）				講義				
10	教育・保育の目標と方法（計画・実践・記録・評価・改善の過程の循環）				講義				
11	保育の思想と歴史の変遷（1）諸外国の保育の思想と歴史				講義				
12	保育の思想と歴史の変遷（2）日本の保育の思想と歴史				講義				
13	保育の現状と課題（1）諸外国の保育				講義				
14	保育の現状と課題（2）日本の保育				講義				
15	まとめ				講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
定期試験		◎	◎			60			
小テスト・授業内レポート		◎				20			
授業態度・授業への参加度		◎				20			
補足事項		授業内でレポートを書くこともある。							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館、厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館</p> <p>参考文献：資料等は授業中に適宜紹介または配布する。</p>								
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭1種免許の取得希望学生は、2年次に（保育実習Ⅰ、幼稚園教育実習Ⅰの履修前に）履修すること（入学時に既修得単位として本学から認定を受けた者を除く）。								
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。								

授業科目名	保育課程論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	保育課程と指導計画の保育における重要性を理解する。さらに、乳幼児の発達にそった、保育目標を達成するための保育課程と指導計画を作成するために、作成の原則、作成のための手がかり等について詳述する。計画を実践に結びつけていく方法、実践をもとに、実践と計画を考察し、評価、改善していく意義と方法について考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	保育所、幼稚園における保育課程と指導計画の役割、意義がわかる。指導計画の種類と、それぞれの特性がわかる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	乳幼児の発達にそった、保育目標を達成するための指導計画を作成することができる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	計画と実践との関係がわかり、計画を実践につなげることができる。実践にともなう乳幼児の成長をもとに保育課程と指導計画の省察と評価、改善ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	保育課程、指導計画の役割と意義		プリントを用い講義		参考文献を読み、概略を理解する		
2	保育課程と指導計画の関連性						
3	保育課程モデルの検証		グループに分かれ検証、講義		保育課程の作成		
4	検証にもとづいた保育課程の作成						
5	指導計画の種類とそれぞれの役割－長期と短期の指導計画－		プリントを用い講義		各自作成した保育課程の再考		
6	指導計画モデルの検証と改善点の理解						
7	指導計画作成の基礎①指導計画を構成するもの						
8	指導計画作成の基礎②指導計画作成の手がかり						
9	指導計画の作成－長期的指導計画		グループに分かれ事前に作成した指導計画を基に発表、演習、講義		指導計画の作成、再考		
10	作成した長期的指導計画の改善						
11	指導計画の作成－短期的指導計画						
12	作成した短期的指導計画の改善						
13	計画を実践に結びつける						
14	実践にもとづく保育課程と指導計画の振り返り						
15	保育課程、指導計画、保育実践の評価						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		○	○			70	
受講者の発表（プレゼン）				○		30	
テキスト・参考文献等	参考文献：戸田雅美他、『幼児教育・保育課程』建帛社、2011、岸井勇雄他『あたらしい幼児教育課程総論』、同文書院、2011						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。						

授業科目名	保育方法論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	大久保 淳 子	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	「幼稚園教育要領」に示された幼児期の発達特性を踏まえた教育の基本と方法について概説し、その後、現在の保育現場で実施されている国内外の様々な保育の現状を考察する。さらに、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のための方法について考え、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法についての理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	「幼稚園教育要領」に示された幼児期の発達特性を踏まえた教育のねらいを達成するために指導する基本的事項と方法を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	多様な保育を理解し、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のための方法を考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	成績評価の方法・受講上の留意点		講義		配布資料などで復習する。		
2	幼稚園教育の基本 1 人格形成の基礎を培うこと		講義				
3	幼稚園教育の基本 2 環境を通して行う教育		①受講生はテーマ別にグループで課題について発表する。 ②発表後、各グループで討論する。 ③その後、全体で質疑・応答をする。 ④最後に教員が解説をする。				
4	幼稚園教育の基本 3 (1) 幼児期にふさわしい生活の展開						
5	(2) 遊びを通しての総合的な指導						
6	(3) 一人一人の発達の特性に応じた指導						
7	保育実践の現状と課題 1		講義				
8	保育実践の現状と課題 2						
9	保育実践の現状と課題 3						
10	保育実践の現状と課題 4						
11	保育実践の現状と課題 5						
12	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続 1		講義				
13	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続 2		講義				
14	幼児教育における特別支援教育について		講義・教員作成 DVD 視聴				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○				30	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			50	
補足事項	各自、発表者のプレゼンについて、ルーブリック評価をする。また、授業内でレポートを書くこともある。						
テキスト・参考文献等	テキスト：文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成 20 年 190 円＋税 文部科学省「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」 ひかりのくに 平成 13 年 140 円 参考文献：厚生労働省「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 平成 20 年 190 円＋税						
履 修 条 件	幼稚園免許取得者は必修となります。						
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。						

授業科目名	保育者論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	<p>この講義では、保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけ、専門性、保育者の協働について理解する。さらに、保育者の専門職的成長について学ぶ。各講義のテーマの解説後、グループ内で質疑応答をする場合もある。</p> <p>また、本学における幼稚園教諭・保育士養成課程の仕組みと履修方法を体系的に理解し、各自がその履修計画を明確にする。</p> <p>適宜、保育現場のエピソードや実習生の体験なども紹介していく。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	本学の幼稚園教諭・保育士養成課程の履修方法・履修条件等を体系的に説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを理解する。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	保育者の専門性について理解し、保育者の協働・専門職的成長について考察することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	講義のねらいと進め方・成績評価の方法		講義		『学生便覧』を持参すること。		
2	本学の幼稚園教諭養成課程の仕組みと必要単位、履修の方法		講義				
3	幼稚園教育実習の履修条件、履修方法、時期、手続き		講義		『学生便覧』の該当箇所を再読し、講義内容を復習する。		
4	本学の保育士養成課程の仕組みと資格の取得方法		講義				
5	保育実習の履修条件、履修方法、時期、手続き		講義				
6	保育者の役割と倫理		講義・ディスカッション		事後学習として、講義内容と関連のある論文の概要や教育に関するニュースを、適宜紹介するので、それらを読み視野を広く持つ。		
7	幼稚園教諭と保育士の制度的位置づけ（免許・資格、責務）		講義・ディスカッション				
8	幼稚園教諭と保育士の専門性（養護と教育、資質・能力、知識・技術及び判断）		講義・ディスカッション				
9	幼稚園教諭と保育士の専門性（保育の省察、保育の展開と自己評価）		講義・ディスカッション				
10	保育と保護者支援にかかわる協働		講義・ディスカッション				
11	専門職間及び専門機関との連携		講義・ディスカッション				
12	保護者及び地域社会との協働、家庭的保育者等との連携		講義・ディスカッション				
13	保育者の専門職的成長・生涯発達とキャリア形成		講義・ディスカッション				
14	倉橋惣三の保育について		講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎				20	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
補足事項	筆記試験・授業態度・授業への参加度を鑑みて総合的に評価する。試験の出題形式や採点基準は授業内で説明する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：「学生便覧」・文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成20年190円＋税 「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 平成20年190円＋税、「認定子ども園教育・保育要領」 内閣府						
履 修 条 件	保育士資格、幼稚園教諭1種免許の取得希望学生は、1年次に（保育実習Ⅰ、幼稚園教育実習Ⅰの履修前）に履修すること （入学時に既修得単位として本学から認定を受けた者を除く）。						
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。						

授業科目名	保育内容総論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
			前期	演習	選択	2	2年			
担当教員	伊 勢 慎									
授業の概要	将来、保育者として、幼児にそった、幼児をたしかに成長させる保育内容を選択し、創造する力・資質を形成することである。そのために、「どのような保育内容があるのかの知識」「年齢におうじた、適切な内容を選択する方法」「幼児の発達と現在、将来の社会に対応する保育内容」という3つの主要な部分で講義と演習を展開する。									
<b>学生の到達目標</b>										
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	幼稚園教育要領と保育所保育指針を中心に、保育内容について理解し、乳幼児の沿った保育内容の知識を取捨選択できる。								
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育内容の歴史、意義をマクロな視点とミクロな視点から分析し、現代の保育現場で求められている保育内容を考察できる。								
	DP4：表現力	各年齢の保育内容を理解した上で、年齢・発達にあった保育実践の発表を行うことができる。								
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>										
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）					
1	保育内容の基本的な視点について		プリントを用い講義		<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育要領、保育所保育指針を事前に熟読</li> <li>疑問点を質問票にまとめる</li> </ul>					
2	保育内容とは何か・保育内容と遊び・保育内容と発達									
3	保育内容の歴史・変遷									
4	幼稚園・保育所の1日		幼稚園教育要領、保育所保育指針を用い講義							
5	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較1									
6	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較2									
7	領域と保育内容1		保育内容を実践するための講義とグループに分かれ演習・実践					実践する内容の準備		
8	領域と保育内容2									
9	0歳児の保育内容と実践									
10	1歳児の保育内容と実践									
11	2歳児の保育内容と実践									
12	3歳児の保育内容と実践									
13	4歳児の保育内容と実践									
14	5歳児の保育内容と実践									
15	児童文化からのアプローチ									
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）				
小テスト・授業内レポート		○				40				
宿題・授業外レポート		○				30				
授業態度・授業への参加度			○			10				
受講者の発表（プレゼン）			○			20				
テキスト・参考文献等	テキスト：幼稚園教育要領、保育所保育指針									
履 修 条 件										
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。									

授業科目名	保育内容演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	4年
担当教員	櫻井国芳・大久保淳子・木村厚太郎						
授業の概要	<p>幼児が様々な体験を積み重ねながら総合的に発達することに鑑み、保育内容各論で学習した内容の総合化を試みる。具体的には、実習等で得た体験や観察をもとに子どもの活動の総合性を確認し、誕生会や運動会、生活発表会などで催される総合的な活動を体験する。とりわけ各種表現手法とその総合化については、パネルシアターや手遊び、劇、器楽演奏など、子どもの前で役立つような実技を発表会として構成し、近隣の保育園児の前で発表する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	実践の場面を想定しながら、保育内容5領域を総合化すること（必要性等）について理解し説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育題材の様々な提示方法のあり方をふまえ、実践につなげるための工夫について意見が述べられる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	パネルシアター、劇、器楽演奏など総合的な保育の題材を企画・実践することにより必要なスキルを身に付け、活用することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	オリエンテーション	本授業の意義や目的、そして発表会に向けての取り組み方について説明する		櫻井			
2	発表会へ向けての準備1	役割分担などを決め、脚本・大道具・小道具作り、器楽演奏の練習を進める。	・グループや全体で話し合う。 ・グループで時間を調整し、授業時間以外でも練習すること。	櫻井			
3	発表会へ向けての準備2			櫻井			
4	発表会へ向けての準備3			木村			
5	発表会へ向けての準備4			櫻井			
6	発表会へ向けての準備5			木村			
7	発表会へ向けての準備6			木村			
8	発表会へ向けての準備7			木村			
9	発表会のリハーサル（1回目）を行う。			効果的な演出方法などについて検討する。	リハーサルでの反省を踏まえ、練習を行う。	木村	
10	発表会のリハーサル（2回目）を行う。			櫻井			
11	発表会を行う。	近隣の保育園の子どもたちを招いて発表会を行う。		櫻井			
12	保育の全体構造と保育内容について	保育内容5領域の結びつきについて、実践を通して理解する。		大久保			
13	保育内容の展開について1	遊びによる総合的な保育が、各領域とどのように関係しているか理解を深める。		大久保			
14	保育内容の展開について2		大久保				
15	まとめ			大久保			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表（プレゼン）		◎			◎		
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
テキスト・参考文献等	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。						
履修条件	原則として、保育内容・表現Ⅰ、同Ⅱの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可、できればメールで予約してください。						

授業科目名	社会教育論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	中 藤 洋 子		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	成人の自己教育を本質とする社会教育について、概念、歴史、制度、内容と方法などを概説する。社会教育は、一般の学生にとってはなじみのない領域であり、社会教育主事基礎資格取得のための必修科目として受け止められがちである。しかし、社会教育の本質に即した理解は、学校教育経験を通じて、あるいは学校教育中心の教育学で形成される学生の教育観の見直しや豊富化を可能にする、など専攻を異にする学生にも有益といえる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会教育について、概念、歴史、制度、内容と方法などを理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会教育に関する現代的課題について考察し、説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						
1	講義のねらいと対象－社会教育とは						
2	社会教育の歴史（戦前・1）						
3	社会教育の歴史（戦前・2）						
4	社会教育の法制度・1						
5	社会教育の法制度・2						
6	社会教育の歴史（1950年代）						
7	社会教育の歴史（1960年代・1）						
8	社会教育の歴史（1960年代・2）						
9	社会教育の歴史（1970年代・1）						
10	社会教育の歴史（1970年代・2）						
11	社会教育の内容と方法・1						
12	社会教育の内容と方法・2						
13	社会教育と生涯教育・生涯学習						
14	社会教育法、教育基本法の「改正」と社会教育の展望						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
課題レポート		◎	◎				
テキスト・参考文献等	参考文献：大串隆吉『日本社会教育史と生涯学習』エイデル研究所、1998年、など。授業の中で適宜紹介する。						
履 修 条 件	「生涯教育論」の履修が望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の講義終了後、時間を設定して研究室で、など。メールは時間の設定のために活用。						

授業科目名	社会教育計画論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	社会教育計画論Ⅰ、Ⅱは社会教育主事基礎資格取得のための必修科目である。が、社会教育計画の立案主体は行政に限られず、社会教育計画も行政の計画に限られない。地域における教育や、社会問題解決の主体形成に関心をもつ学生にも有益と思える。ここでは、社会教育計画立案の基礎となる、地域における多様な社会教育要求とこれを踏まえた実践を、主として学習主体に即して概観する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域における多様な社会教育要求とこれを踏まえた社会教育実践を、主体に即して理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会教育計画に関する現代的課題について考察し、説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						
1	社会教育計画とは何か（授業のねらい）						
2	子どもの発達と社会教育・1						
3	子どもの発達と社会教育・2						
4	青年のかかえる諸問題と社会教育・1						
5	青年のかかえる諸問題と社会教育・2						
6	女性のかかえる諸問題と社会教育・1						
7	女性のかかえる諸問題と社会教育・2						
8	労働者・農民と社会教育・1						
9	労働者・農民と社会教育・2						
10	高齢者と社会教育						
11	障がい者と社会教育						
12	在日外国人と社会教育						
13	地域課題と社会教育・1						
14	地域課題と社会教育・2						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
課題レポート		◎	◎				
テキスト・参考文献等	参考文献：社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（第8版）、エイデル研究所、2011年、など。講義の中で適宜紹介する。						
履 修 条 件	2年次の「生涯教育論」「社会教育論」の履修が望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の授業終了後、時間を設定して研究室で、など。メールは連絡や時間設定のために活用する。						

授業科目名	社会教育計画論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	社会教育の法と制度に即して、社会教育の施設と職員、住民参加制度などについて現状と課題を概説したのち、参加者の問題関心によって、参加者による社会教育計画の立案を試みる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会教育計画立案に必要な社会教育の法制度を理解し、社会教育計画Ⅰで学んだ住民の社会教育要求を踏まえて社会教育計画を立案できる。					
	DP4：表現力	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	社会教育計画とは何か（授業のねらい）		講義				
2	社会教育の法と行政・1		講義				
3	社会教育の法と行政・2		講義				
4	社会教育施設の意義と役割		講義				
5	社会教育施設の現状と課題		講義				
6	社会教育職員の役割と制度		講義				
7	社会教育職員をめぐる現状と課題		講義				
8	住民参加と委員制度		講義				
9	社会教育計画の事例・1		講義				
10	社会教育計画の事例・2		講義		計画立案に向けて、これまでの学習の整理		
11	私の社会教育計画・1		各自の計画案の出し合いと討論、必要に応じて見学、実地調査		各自の計画案の準備		
12	私の社会教育計画・2		各自の計画案の出し合いと討論、必要に応じて見学、実地調査		各自の計画案の準備		
13	私（たち）の社会教育計画・1		レポート、討論		各自、あるいはグループでの報告の準備		
14	私（たち）の社会教育計画・2		レポート、討論		各自、あるいはグループでの報告の準備		
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート			◎			50	
課題レポート			◎			30	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
テキスト・参考文献等	参考文献：社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（第8版）、エイデル研究所、2011年、など。講義の中で適宜紹介する。						
履 修 条 件	「社会教育計画論Ⅰ」を履修しておくこと。加えて「社会教育論」の履修が望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の授業終了後、時間を設定して研究室において、など随時。メールは連絡や時間設定に活用。						

授業科目名	図書館情報学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3・4年
担当教員	河野本和						
授業の概要	図書館の定義や基本的機能を理解し、「図書館情報学」に対する知識を深め、身につける為の学習をする。 高度情報化社会における図書館の姿と図書館利用者のための役割を解説し、一部演習を実施することで、図書館に興味と関心を持てるようにする。特に毎週「一冊の本」を紹介していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	1. 図書館について基本的な事項を理解する。 2. 図書館利用についての基本的な技術等を身につける。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	3. 「本との出会い」を積極的に図書館の利用を促して、自発的学習を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	導入・図書館の意義		講義				
2	図書館の歴史		講義				
3	図書館の機能と種別		講義				
4	図書館ネットワーク		講義				
5	図書館情報資料		講義				
6	図書館の技術 1. 分類		講義（演習）		分類問題		
7	図書館の技術 2. 目録		講義（演習）		目録問題		
8	図書館の技術 3. 検索の方法		講義（演習）		人物調査		
9	図書館サービスの種類		講義				
10	レファレンス・サービス		講義（演習）		辞・事典の利用		
11	図書館経営		講義				
12	図書館員の職務		講義				
13	図書館利用教育		講義				
14	図書館員になるということ		講義（演習）		図書館員像を考える		
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
定期試験			◎	○			50
授業態度・授業への参加度			○	◎			50
補足事項		出席、受講態度。「短文の受講感想・コメント」及び筆記試験等総合的に評価する。					
テキスト・参考文献等	教材については、主としてプリント配布。テキスト『図書館情報学入門』藤野幸雄、荒岡興太郎、山本順一【著】有斐閣アルマ 有斐閣 2011年 定価1,900円						
履修条件	「本との出会いを」第一目標に学内外の図書館の利用を積極的にすること。						
学習相談・助言体制							

授業科目名	社会教育演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3年
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	参加者の問題意識や関心をもとにテーマや学習方法を議論して決める。自らの問題意識にもとづくテーマ設定、レポートや討論、調査や見学といった能動的かつより焦点化した学習により、社会教育の理論及び実践への理解を深めることをねらいとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	多様な学習方法によって問題意識を深化させ、資料の収集と考察によって、結論を見いだすことができる。					
	DP4：表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	自己紹介、問題意識の出し合い		話し合い		各自の問題意識の整理		
2	問題意識を踏まえて、演習の内容、方法の決定・1		話し合い		各自の問題意識の整理と演習の進め方への提案		
3	問題意識を踏まえて、演習の内容、方法の決定・2		話し合い		各自の問題意識に即した課題の整理と演習の進め方への提案		
4~8	課題レポートの発表と討論		報告、討論		報告が共通文献によるものであれば、その事前学習。レポート担当者はその準備		
9~10	これまでのまとめと課題		報告、討論		これまでの学習の整理と明らかになった課題の検討		
11~13	夏休み中の見学、訪問学習について討論		報告、討論				
14~16	各自あるいはグループで現場学習						
17~19	夏休み課題レポートの発表と討論		報告、討論		レポート担当者はその準備		
20~25	課題レポートの発表と討論		報告、討論		報告が共通文献によるものであれば、その事前学習。レポート担当者はその準備		
26~28	これまでのまとめと課題		討論		これまでの学習の整理と明らかになった課題の検討		
29	まとめ						
30	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート			◎			80	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
テキスト・参考文献等	参加者の問題意識によって決定、使用。						
履 修 条 件	「社会教育論」の履修が望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の演習終了時、時間を設定して研究室で、など。メールは時間設定のために活用。						

授業科目名	生理心理学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	この授業では、生理心理学Ⅰで履修した神経科学（neuroscience）についての理解を踏まえ、心理学的諸理論とその生物学的基盤について紹介する。なぜ外界を知覚できるのか、感覚はなぜ生じるのか、なぜ睡眠と覚醒を繰り返すのか、なぜ学習や記憶が可能なのか、なぜ幻覚や妄想が生じるのか。これらは生理心理学的に議論され、現在も、より本質的な答えが求めつづけられている問いかけである。これらを体系的に解説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	それぞれの心理的事象がどのような神経系の機能に関連するかを理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	複雑な脳が合理性に基づいて機能していることを理解する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	古典的な文系・理系の枠を超えた総合知に挑む。					
技能	DP10：専門分野のスキル	神経科学の用語と理論を用いて心理学的諸事象を説明できる力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	眼の生理学と精神生理学		<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立てる。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書的知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>		事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。		
2	脳における視覚情報処理						
3	聴覚系						
4	脳波（1）						
5	脳波（2）						
6	睡眠と覚醒（1）						
7	睡眠と覚醒（2）						
8	学習と記憶（1） 学習理論・記憶の理論・記憶障害						
9	学習と記憶（2） 記憶の神経回路						
10	学習と記憶（3） 神経可塑性						
11	情動						
12	こころの不調（1） 統合失調症の神経基盤						
13	こころの不調（2） 不安とうつの神経基盤						
14	こころの不調（3） 発達障害の神経基盤						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎	○	○	80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件	生理心理学Ⅰを履修済みであること。						
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	知覚心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	福田 恭介						
授業の概要	<p>外の世界がわれわれの目の網膜に映りさえすれば、ものが見えるようになるというわけではない。われわれが目のある物を見るとき、それを一つの物体として見分け、それがどのような形をしているか、そこに手を伸ばすと届くかどうか、あるいはそれが動いているかどうかをいとも簡単に見分けている。これらの能力は、誰から教えられたわけでもないのに、われわれが小さいときから身につけている。知覚機能という側面から心の機能に迫ることは、知覚が心の動きに与える影響を理解することになり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。知覚心理学では、目の仕組み、目から脳への情報伝達の仕組み、色の知覚、形の知覚、奥行き知覚、運動の知覚について話していき、われわれがものを見るとき複雑な過程と不思議なメカニズムについて体験的に理解を深めることを目指す。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	知覚心理学についての専門知識を身につけることができる					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	知覚心理学に関連する諸問題に対して適切な対応を検討できる。					
	DP4：表現力	知覚機能を明らかにする科学的手法を用いて自分の考えを適切に表現できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	認知心理学に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	心理学における「知覚心理学」の学問的位置づけ		スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、Eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。 授業の最後に、授業に対するコメントを求める。		文献①1章「感覚の多様性」24-37の要約とコメント		
2	知覚心理学と心理物理学						
3	眼の構造1（レンズ、水晶体、網膜、錐体・杆体）						
4	眼の構造2（暗順応、盲点、近見反応、被写界深度）						
5	眼から脳への経路（神経節細胞、受容野、視交叉、外側膝状体、視覚野）						
6	色はなぜ見えるのか1（三原色説と反対色説）				ベンハムのコマを作成し、色がなぜ見えるのかをレポートに書く		
7	色はなぜ見えるのか2（色覚異常、色が無いのに色が見えるベンハムのコマ）						
8	形の知覚1（図と地、輪郭の抽出）				主観的輪郭、なぜ見えるのかをレポートに書く		
9	形の知覚2（鋳型照合理論、特徴検出理論、トップダウン処理とボトムアップ処理）						
10	主観的輪郭、なぜ見えるのか。				エイムズの部屋、リバースパースペクティブの製作 について、なぜ見えるのかをレポートに書く。		
11	奥行き知覚1（生理的手がかり、ランダムドットステレオグラム）						
12	奥行き知覚2（絵画の手がかりと運動手がかり）						
13	エイムズの部屋とリバースパースペクティブの製作						
14	運動の知覚（失運動視、実際の運動、見かけの運動）						
15	先天性盲人の開眼手術後の知覚世界						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート			◎			15	
宿題・授業外レポート					◎	30	
授業態度・授業への参加度			○			5	
テキスト・参考文献等	<p>①新・知性と感性の心理－認知心理学入門 箱田裕司・行場次朗（編）（2014） 福村出版（この本は、後期の認知心理学でも使用する。） ②NTTイリュージョンフォーラム <a href="http://www.keclntt.co.jp/IllusionForum/">http://www.keclntt.co.jp/IllusionForum/</a></p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。その他の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間が無いときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	認知心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	福田 恭 介						
授業の概要	われわれが生きていくためには、外界から情報を取り入れる必要がある。われわれは、それらの情報を脳内でいったんバラバラにして統合した後、いつでも取り出せるように手がかりを用意して保存し、必要な情報だけを取り出して、目の前の問題を解決している。こういった一連の情報処理過程を認知過程と言う。認知心理学では、情報の処理に関わる「注意」、「記憶」、「情動」などについて話していく。その際、認知過程の仕組みを明らかにする「再生率・再認率」、「反応時間」といった方法論や、「脳波」、「眼球運動」、「瞳孔」、「瞬目」などの生理的指標について話していく。このようなことを通して、われわれがどのように情報を処理しているのかについて体験的に理解を深めることを目指す。認知過程に関する不思議なメカニズムが自分の中で精巧に働いていることに感動するであろう。このように認知機能という側面からヒトの心の機能に迫ることは、注意や情動など人間のさまざまな側面からの理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となると予想される。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	認知心理学についての専門知識を身につけることができる					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	認知心理学に関連する諸問題に対して適切な対応を検討できる。					
	DP4：表現力	認知過程を明らかにする科学的手法を用いて自分の考えを適切に表現できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	認知心理学に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	心理学と「認知心理学」		スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、Eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。  授業の最後に、授業に対するコメントを求める。		文献①序章「新しい認知心理学」9-23の要約とコメント		
2	認知心理学の歴史				文献①6章「注意」99-119の要約とコメント		
3	注意の仕組み						
4	注意についての理論						
5	注意障害を持った人々1						
6	注意障害を持った人々2				文献①7章「記憶」120-134の要約とコメント		
7	記憶（短期記憶）						
8	記憶（ワーキングメモリー）						
9	記憶（長期記憶と検索）				文献①9章「情動の認知」152-168の要約とコメント		
10	眼球運動と認知過程						
11	瞳孔運動と認知過程						
12	瞬目活動と認知過程1						
13	瞬目活動と認知過程2						
14	脳波と覚醒水準						
15	事象関連電位と認知過程						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート				◎		15	
宿題・授業外レポート			◎		◎	30	
授業態度・授業への参加度				○		5	
テキスト・参考文献等	①新・知性と感性の心理－認知心理学入門 箱田裕司・行場次朗（編）（2014） 福村出版						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。その他の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	学習心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	古橋啓介						
授業の概要	人間形成学科・心理コースの専門教育科目として、行動主義に基づく学習理論と、行動療法の考え方と実践例を講義し、認知理論との異同についても言及する。人間は環境の変化に適応するため、絶えず自身の行動を変える。この行動の変化、行動傾向の変化を「学習」という。学習によって人間は、より適応的に柔軟に環境に対応できるようになっていく。学習の原理や過程、意識性との関連、臨床的应用、心理学理論体系の中での位置づけに関して講義する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	学習心理学の理論と実践的应用の方法を説明出来る。 行動療法について説明出来る。 学習心理学を心理学体系の中で位置づけ、他との異同を説明出来る。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	学習に関する実験結果や観察による資料を考察し、学習過程を検討出来る。 問題行動への対処法や心理的援助の方法を行動療法の視点から提案出来る。 認知活動を学習理論の立場から説明し、認知理論との違いを説明出来る。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	学習理論の心理学理論体系の中での位置づけ、理論の概要と実践的有用性		講義		事後に「位置づけ」の整理		
2	古典的条件付け		講義		事後に日常的事例の確認		
3	オペラント条件付け		講義		事後に日常的事例の確認		
4	両条件付けの異同とバイオフィードバック		講義		事後に「両モデルの異同」確認		
5	条件付けにおける認知的要因		講義		事後に「学習と意識性」の整理		
6	行動療法／脱感作療法、イメージ脱感作療法		講義		事後に実践例の整理		
7	行動療法／オペラント法、エクスポージャー法		講義		事後に実践例の整理		
8	社会的学習／模倣学習、観察学習		講義		事後に実践例の整理		
9	社会的学習／観察学習の過程		講義		事後に「社会的」の確認		
10	自己強化の考え方の発展		講義		事後に「自己強化」の確認		
11	ビデオ教材の視聴（両条件付け、行動療法、観察学習）		ビデオ視聴		事後にビデオ内容と理論の統合		
12	記憶研究における学習理論から認知理論への発展の経緯		講義		事後に両理論の整理		
13	記憶研究における初期の認知モデル		講義		事後に認知モデルの確認		
14	記憶の加齢による変化を学習理論と認知理論から検討		講義		事後に学習理論の整理		
15	学習理論の実践的有用性と理論的限界、まとめ		講義		事後に全体的整理		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
宿題・授業外レポート		○	○			15	
授業態度・授業への参加度		○	○			15	
テキスト・参考文献等	テキストは使用しない。 参考図書：山内光哉・春木豊編 『グラフィック学習心理学』、サイエンス社、2001年						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業内容に関する質問は授業中に行うことが望ましい。発展的学習や個人的興味に関する質問は授業前後に行うか、メール（アドレスは授業中に伝える）により行う。						

授業科目名	人格心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	吉岡和子						
授業の概要	<p>1. 人のパーソナリティ（人格）については、多くの人が興味を持ちます。それは、周囲の人の特徴を理解することによって、よりよい関係を結ぼうとするためであり、さらに自分というものを知りたいからだと思います。この授業では、パーソナリティをどのように捉えるのか、どのようにして作られると考えるのか、パーソナリティをどのような方法で捉えるのかということを中心に、講義を進めます。</p> <p>2. 単に知識として学ぶのではなく、講義の内容と関連のある心理測定尺度を実施し、自己採点と自己分析を行っていきながら、自己理解、他者理解を深め、日常生活や対人関係に活用してもらい、メンタルヘル스에役立ててもらいたいと思います。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	様々なパーソナリティ理論や関連事項について説明できる。 パーソナリティ理解の方法を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	自己理解・他者理解を深め、知識を日常生活や対人関係に活用することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	概論		講義		配布資料を熟読し、復習してください。		
2	分析理論		講義の後、講義内容に関連のある心理測定尺度を行い、自己採点と自己分析を行っていく。 関連するビデオ教材を視聴する。				
3	ロジャースの自己理論						
4	パーソナリティの発達						
5	パーソナリティと家族関係						
6	パーソナリティと人間関係①						
7	パーソナリティと人間関係②						
8	パーソナリティと人間関係③						
9	パーソナリティとストレス						
10	パーソナリティとコミュニケーション①						
11	パーソナリティとコミュニケーション②						
12	パーソナリティ理解の方法①						
13	パーソナリティ理解の方法②						
14	パーソナリティ理解の方法③						
15	パーソナリティの障害について まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎		◎		40	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		60	
補足事項		授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価する。					
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献：吉岡和子・高橋紀子編「大学生の友人関係論－友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版、2010年						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前夜や、メール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で日時を予約してください。						

授業科目名	発達心理学Ⅲ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	子どもの嘘や盗みは、はたして正常か否か。豊かな臨床経験を経た D.W. ウィニコットの述べた発達理論は、現在も世界中の臨床家たちの良きテキストとして用いられている。講義ではテキストを皆で読み進めていき、発達心理学の中でも臨床に関わる知識について講義していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	D.W. ウィニコットの発達理論について理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4：表現力	問題を抱える子どもと親への心理臨床的援助について主体的に考えることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	問題を抱える子どもと親への心理臨床的援助について探求し、レポート発表ができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	問題を抱える子どもと親への心理臨床的援助方法の基礎を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	D.W. ウィニコットの紹介		テキストを受講生が順番に読み、教員が解説・講義していく。適宜、資料を配布したり、関連する DVD を視聴したりする。		事前学習： 次回分のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。  事後学習： 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learning による確認小クイズに参加して知識を身につける。		
2	家族と子ども「父親とは一体何なのか」①						
3	家族と子ども「父親とは一体何なのか」②						
4	発達「子どもたちの基準とあなたの基準」						
5	発達「正常な子どもとは、どんな子ども」①						
6	発達「正常な子どもとは、どんな子ども」②						
7	遊びと発達「なぜ子どもは遊ぶのか」						
8	問題行動「盗みと虚言」						
9	「普通の両親を支えること」						
10	視聴覚教材から学ぶ発達心理学①						
11	視聴覚教材から学ぶ発達心理学②						
12	家族と専門家「普通の両親を支えること」						
13	「5歳以下の子どもの要求」						
14	神経症「子どものはにかみと神経症的な障害」						
15	移行対象「自立の最初の試み」						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	○	50	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	50	
補足事項		「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズの参加提出によって評価されます。					
テキスト・参考文献等	テキスト：『子どもはなぜあそぶのー続・ウィニコット博士の育児講義ー』、D.W. ウィニコット著、猪股丈二訳、星和書店						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。						

授業科目名	老年心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
	担当教員	麦島 剛	後期	講義	選択	2	3年	
授業の概要	<p>社会の急速な高齢化に伴い、高齢者に関する科学的な理解の重要性がますます高まりつつある。老年期の心理学的側面について科学的に理解する分野が老年心理学である。近年、老年心理学的研究が進むにつれ、従来の素朴な老人観の不確かさが次々と明らかにされてきた。この授業では、感覚知覚、記憶、知能、人格などが加齢に伴ってどのように変化するのか（しないのか）を中心に、生涯発達心理学の視点より解説する。また、実りある老年期を過ごすための心理学的研究についても紹介する。</p>							
学生の到達目標								
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	高齢期に関する心理学的諸現象と諸理論を理科視する。						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	高齢期に関する心理学を支える論理的統一性と多様の観点を理解する。						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）								
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）			
1	老年心理学とは：老年研究の神話性	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書的知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>			<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>			
2	老年心理学の研究法（1）							
3	老年心理学の研究法（2）							
4	感覚・知覚と加齢							
5	記憶と加齢（1） 実験室場面での研究							
6	記憶と加齢（2） 日常的場面での研究							
7	知能と加齢（1） 知能の基本的知識							
8	知能と加齢（2） 年をとると頭が鈍るのか？							
9	人格と加齢（1） 人格の基本的知識							
10	人格と加齢（2） 年をとると人柄が変わるのか？							
11	老年期の環境適応							
12	主観的幸福感・死にゆく過程の研究							
13	老年期のこころの不調（1）							
14	老年期のこころの不調（2）							
15	まとめ							理解度を確認するために、
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）		
定期試験		◎	◎			80		
授業態度・授業への参加度						20		
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。							
履修条件								
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。							

授業科目名	対人心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	上野行良						
授業の概要	福祉社会を支える人材としてコミュニケーションの技術を知っていることは有利になります。この講義ではコミュニケーションに困らないための初歩を説明します。人に好感をもたれること、人の話を聴くこと、ストレスとコミュニケーションの関係、コミュニケーションを通して心理や行動が操作されやすいこと等を取り上げます。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	コミュニケーションで失敗しないための初歩の知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	積極的に他者とより良いコミュニケーションをとろうとすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【授業内容】</b></p> <p>1. 授業ガイダンス  2～3. 人に好かれるコミュニケーション  4～6. 話を聴く  7.9. ストレスと人間関係  8. 復習課題Ⅰ（1～7）  10～13. 対人操作  14. 人間関係のルール  15. 復習課題Ⅱ（1～14）</p> <p><b>【授業方法と事前・事後学習】</b></p> <p>通常は、毎回スライドを使っの講義と、講義の内容をより良く理解するための課題を行います。課題には他の受講生とのコミュニケーションが含まれます。また受講者からの質問に回答する時間があります。授業の提示資料をe-learningシステムでダウンロードして復習をしてください。  復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日は提示資料を持参してください。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
通常課題		◎		◎		65	
復習課題		◎				35	
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について10～20問程度を選んで授業中に回答します。						

授業科目名	集団力学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	宮島 健						
授業の概要	<p>集団という人々の集まりが、それを構成する成員に及ぼす影響を与え、また、成員から与えられ、それがどのように説明され、現実の集団に対応するのかについて、これまでの集団力学研究の知見を紹介しながら解説を行う。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人間と社会に関連する集団力学研究の基本的な知見や理論を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	日常場面における集団と個人の相互作用の中で生まれる様々な心の動きを論理的に考察できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	研究知見や理論を、日常場面やこれまでの経験などの具体的場面に結びつけて探究できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、集団の捉え方		<p>授業は、提示資料、および配布したプリントに基づいて進める。 また、適宜、最新の研究動向や、組織の事例について書かれた補助資料を配布し、それを用いて、授業内容の理解を深めてもらう。</p>		<p>&lt;事前課題&gt; 今回の授業内容について、授業の最後に紹介するため、その内容に関して自分なりに知識や想像を膨らませて次回授業に臨むこと。</p> <p>&lt;事後課題&gt; 講義後は、講義で解説した内容に関してショートレポート課題を与え、その提出を受け、授業への出席とみなす。</p>		
2	集団の発達、集団内葛藤						
3	集団凝集性、集団規範						
4	集団の構造						
5	集団内協力						
6	集団内影響過程（1）						
7	集団内影響過程（2）						
8	対人認知						
9	集団間関係						
10	文化						
11	集団意思決定（1）						
12	集団意思決定（2）						
13	リーダーシップ（1）						
14	リーダーシップ（2）						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				5	
宿題・授業外レポート				◎		60	
授業態度・授業への参加度			○	◎		5	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			15	
演習			○	○		15	
テキスト・参考文献等	<p>参考文献：「集団行動の心理学—ダイナミックな社会関係のなかで（セレクション社会心理学）」（本間道子著 サイエンス社） また、授業中に適宜紹介する。</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業中に適宜質問を募る。また、授業後に質問を受け付け、回答する。						

授業科目名	家族心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	吉岡和子	前期	講義	選択	2	4年
授業の概要	<p>1. 家族の問題に心理学的見地から取り組むことの必要性が、ますます高まってきています。現代家族が直面している心理的な諸問題に対して理解を深めるために、まず家族心理学の基本的枠組みや家族関係にかかわる心理的諸問題について取り上げます。</p> <p>2. 家族への心理臨床的介入に関する様々なアプローチを学ぶと共に、さまざまな臨床現場で取り組まれた臨床事例のなかでさまざまな家族についての思いに触れることで、各自が家族についての体験を再考し、家族についての考えを深めてもらえたらと思います。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	家族に関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるかを説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	実際の事例の中で、その視点をいかに生かすのかについて意見が述べられる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	受講者がそれぞれ自分の家族体験を振り返り、改めて、自分にとって家族とは何か、家族には何が必要なのかを考え、現時点での自分なりの家族観について意見を述べる事ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。					
2	家族とは何か（1章）	講義		テキストを熟読し、予習してください。			
3	家族の健康とは（2章）						
4	家族づくりの準備①（3章：3-1～3-3）						
5	家族づくりの準備②（3章：3-4～3-5）						
6	夫婦の発達とは（4章）						
7	子どもが育つ場としての家族（5章）						
8	変化する社会の中の家族（6章）						
9	家族理解に役立つ臨床理論（7章）						
10	家族の変化に役立つ臨床的援助技法①（8章8-1～8-3）						
11	家族の変化に役立つ臨床的援助技法②（8章8-4）						
12	家族への臨床的アプローチの実際①（9章9-1）						
13	家族への臨床的アプローチの実際②（9章9-2 9-5）						
14	家族への臨床的アプローチの実際③（9章9-3）						
15	家族への臨床的アプローチの実際④（9章9-4）まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験				◎		30	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		30	
受講者の発表（プレゼン）		◎	○			40	
補足事項	発表と定期試験との両方を行うことが必要です。 授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価する。						
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】平木典子・中釜洋子「家族の心理 家族への理解を深めるために」サイエンス社</p> <p>【参考文献】岡堂哲雄編「家族心理学入門」培風館 その他講義中に紹介</p>						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、メール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）を使って質問時間を予約してください。						

授業科目名	組織心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	宮島 健						
授業の概要	様々な組織の中でも、特に私企業や公的機関などの組織を念頭に置き、これまでの組織心理学の研究知見や理論を紹介する。その中で、組織における人の心理や行動を、成員をとりまく組織内外の環境と関連付けて説明する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義で紹介した組織心理学に関わる知識を理解、獲得すること。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	獲得した知識を現実の組織場面に応用する思考能力を養うこと。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、組織心理学とは		授業は、配布したプリントに基づいて進める。 また、適宜、最新の研究動向や、組織の事例について書かれた補助資料を配布し、それを用いて、授業内容の理解を深めてもらう。		<p>&lt;事前課題&gt;            今回の授業内容について、授業の最後に紹介するため、その内容に関して自分なりに知識や想像を膨らませて次回授業に臨むこと。</p> <p>&lt;事後課題&gt;            講義後は、講義で解説した内容に関してショートレポート課題を与え、その提出を受け、授業への出席とみなす。</p>		
2	ワーク・モチベーション（1）						
3	ワーク・モチベーション（2）						
4	リーダーシップ（1）						
5	リーダーシップ（2）						
6	採用と人事評価						
7	集団による問題解決（1）						
8	集団による問題解決（2）						
9	ジョブ・ストレス（1）						
10	ジョブ・ストレス（2）						
11	キャリア形成（1）						
12	キャリア形成（2）						
13	判断と意思決定（1）						
14	判断と意思決定（2）						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎				5	
宿題・授業外レポート				◎		60	
授業態度・授業への参加度				◎		5	
受講者の発表（プレゼン）		○				15	
演習				○		15	
テキスト・参考文献等	参考文献：「よくわかる産業・組織心理学」（山口裕幸 編 ミネルヴァ書房） また、授業中に適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業中に適宜質問を募る。また、授業後に質問を受け付け、回答する。						

授業科目名	臨床心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	岩橋宗哉						
授業の概要	精神分析学は心の臨床を行っていく者にとっての基礎的な学問である。現代のほとんどの心理療法は精神分析の継承か批判のうえに構築されていった。この授業では、その精神分析学の理論を中心にして、クライアントへのかかわり方、理解のし方を事例を通して学んでゆく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	クライアントへのかかわり方の基本を説明することができる。 基本的な精神分析理論について説明することができる。 神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、うつ病などの精神病理について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事例を読み、それを理解し、自らの考えを述べることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		本授業について説明		配付された資料をもとによく理解できるように復習してください。		
2	心理面接における共感		講義				
3	プレゼンスの重要性－認知症の事例を通して－		事例を活用した講義				
4	精神分析の基本的な枠組み		講義				
5	理解の枠組みとしての発達の視点		講義				
6	遊戯療法の事例を通してみる心の世界		事例を活用した講義				
7	心理面接における情報の取り方と見立てについて		講義				
8	神経症		講義				
9	ナルシズムについて		講義				
10	パーソナリティ障害		講義				
11	事例を通して学ぶ－摂食障害－		事例を活用した講義				
12	事例を通して学ぶ－ひきこもり－		事例を活用した講義				
13	うつ病について		講義				
14	事例を通して学ぶ－うつ病－		事例を活用した講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		○	○			30	
宿題・授業外レポート		○	○			40	
授業態度・授業への参加度		○	○			30	
テキスト・参考文献等	参考文献：西村良二「心理面接のすすめ方」ナカニシヤ出版（1993）成田義弘・氏原寛「共感と解釈」人文書院（1999）北山修「精神分析理論と臨床」誠信書房（2001）小此木啓吾「フロイト思想のキーワード」講談社（2002）松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社（1996）						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を用紙に書いてもらい、次回に、答えていきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。						

授業科目名	障害者（児）心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次						
	担当教員	小山 憲一郎	前期	講義	選択	2	4年						
授業の概要	近年、障害児・者に対して教育現場では特別支援教育がはじまり、福祉領域においても「発達障害者支援法」も設立し、障害児・者を取り巻く支援環境は大きく変わり始めているものの、ここ最近の事件報道に加害者として取り上げられる等のさまざまな問題を抱えている。この講義では、さまざまな『障害』の特性について学習し、さらに当事者の声を聞きながら、障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について理解を深めていく。												
学生の到達目標													
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	さまざまな『障害』の特性について理解できる。											
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について考察を深められる。											
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）													
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）								
1	障害とは何か	講義  各回において、授業に対する質問、感想などのリアクションペーパーを配布します。その中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。			テキスト該当部の予習・復習								
2	知的障害に関する心理と支援												
3~5	自閉性スペクトラム障害の心理と支援												
6・7	ADHDに関する心理と支援												
8	学習障害に関する心理と支援												
9	特別支援教育と発達障害者支援法に関して												
10	精神障害に関する心理と支援（統合失調症・うつ病・不安障害）												
11	運動障害に関する心理と支援												
12	中途障害・進行性疾患に関する心理と支援												
13	障害児・者の家族の心理と支援												
14	早期発見・早期療育（乳幼児期の支援）												
15	まとめ												
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）													
成績評価方法	到達目標							知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート								◎	○				
宿題・授業外レポート		◎	◎										
授業態度・授業への参加度			○										
テキスト・参考文献等	田中新正 古賀清治 編著 新訂『障害児・障害者心理学特論』NHK 出版 2013年（2,500円）												
履修条件													
学習相談・助言体制	授業終わりのリアクションペーパーで受け付けます。主なものは次回の授業の中で扱いますが、個別に回答を要する場合はメールでアポイントを取ってください。メールでの回答、もしくはオフィスアワーにて対応いたします。												

授業科目名	カウンセリング		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	岩橋宗哉・吉岡和子	前期	講義	選択	2	4年
授業の概要	1. カウンセリングのねらいや進め方を学習する。 2. カウンセリング技法について、実習・ロールプレイを行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	カウンセリングの実際上の基本的な心得を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	実習を通して、カウンセラーの資質の1つである自己理解・他者理解及び共感性を体験して得たことを、まずは、自身の日常生活や対人関係に活用することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	傾聴法を活用できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	カウンセリングのねらい	講義	<p>参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。</p> <p>以上のような予習に加えて、具体的なかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。</p> <p>また、疑問がある場合は適宜質問してください。</p>				
2	カウンセリングの進め方						
3	プレイセラピー：スクイグル						
4	表現療法①：コラージュ作成						
5	表現療法②：コラージュ作成						
6	表現療法③：作品の共有						
7	リラクセス法						
8	フォーカシング						
9	人間理解の方法①：観察法						
10	人間理解の方法②：質問紙法						
11	人間理解の方法③：投映法						
12	傾聴法①：ラポールの確立1（技法）						
13	傾聴法②：ラポールの確立2（非言語）						
14	傾聴法③：質問技法の検討						
15	傾聴法④：ロールプレイ　まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連　○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○		◎		40	
授業態度・授業への参加度		○		◎	◎	60	
補足事項	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価する。						
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】なし 【参考文献】</p> <p>①川瀬正裕・松本英夫・松本真理子「心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法－」ナカニシヤ出版、2006年 ②杉浦京子「臨床心理学講義」朱鷺書房、2002年 ③川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子「これからの心の援助－役に立つカウンセリングの基礎と技法－」ナカニシヤ出版、2001年 ④河合隼雄「カウンセリングの実際問題」誠信書房、1970年 ⑤高橋紀子・吉岡和子「心理臨床、現場入門－初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版、2010年 その他は講義中に紹介</p>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前夜や、メール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）を使って質問時間を予約してください。						

授業科目名	実験測定法 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	2	2年
担当教員	福田恭介・麦島 剛						
授業の概要	われわれの心を科学的に調べるには、心理学実験の手法は欠かすことができない。このような経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、心理学実験を体験的に学習することで、統計や心理学実験計画に関する基礎的知識を増やし、基礎的技能を養成することを旨とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	心理学実験についての専門知識を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	いくつかの実験を通して、心理学実験レポートが書けるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	データ処理のための統計処理（ $\chi^2$ 検定、t検定、分散分析）ができるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	レポートを書くためにワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトが使えるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	心理学研究法と心理学実験実施に関する説明。		実験に際しての注意事項とレポート提出に際する解説		参考文献①の要約		
2	レポート・発表のためのワード、エクセル、パワーポイントの操作法				(レポート1)		
3	心理学実験における統計検定の意味		統計検定の意味とやり方に関する解説		「心理学」に関してパワーポイント10～20スライド程度にまとめる(レポート2)		
4	$\chi^2$ 検定の意味と実践(1)				小テストの準備		
5	$\chi^2$ 検定の意味と実践(2)						
6	t検定の意味と実践(1)						
7	t検定の意味と実践(2)						
8	Key Press ソフトによる反応時間測定(実験1)		実験と統計検定の実施		「単純反応時間と選択反応時間」(レポート3)		
9	1要因分散分析の意味と実践				小テストの準備		
10	鏡影描写(実験2)				「鏡影描写の学習効果」(レポート4)		
11	2要因分散分析の意味と実践				小テストの準備		
12	心理学実験における統計検定の意味						
13	ミューラーリエル(実験3)(1)				「ミューラーリエル錯視に及ぼす矢羽の長さや角度の効果」(レポート5)		
14	ミューラーリエル(実験3)(2)						
15	プレテスト(1回目)と解説		グラフ作成、 $\chi^2$ 検定、t検定、分散分析についての1回目の試験と解説		テストの準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート					◎	15	
宿題・授業外レポート		◎		◎	◎	30	
授業態度・授業への参加度				◎		5	
テキスト・参考文献等	①B・フィンドレイ(1996)心理学 実験・研究レポートの書き方 北大路書房 ¥1,365 ②中野博幸・田中敏(2012)フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社 ¥1,974						
履修条件	演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めない。						
学習相談・助言体制	授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。その他の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間が無いときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	実験測定法Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	2年
担当教員	福田恭介・麦島 剛						
授業の概要	われわれの心を科学的に調べるには、心理学実験の手法は欠かすことができない。これらの経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、実験測定法Ⅰで得た心理学実験に関する基礎的知識・技能を元にさらに具体的な実験計画、実験実施、データ解析を行い、実験レポートの提出を求める。最終的には、自ら実験を計画し、その実験結果を発表する会を設ける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	心理学実験についての専門知識を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	実験内容についてレポート執筆と口頭発表ができるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自ら実験を行い、そのための議論ができるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	実験測定法Ⅰからさらに発展した心理学実験実施と実験データ分析ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	心理学実験実施とレポート執筆に関する説明		手引書の配布と、実験概要の説明				
2・3	2つの知能検査の相関を調べる実験（実験1） ビネー検査とウェクスラー検査を同一人に実施。これまで得られた結果と合わせて、2つの知能検査結果を相関係数にまとめる		手引書を読みながら、各グループ4、5人のローテーションによる実験実施				
4・5	二重課題法による大脳半球左右差を調べる実験（実験2） 右手および左手によるタッピングと暗算の二重課題を用いて大脳半球左右差を調べる						
6・7	血液型と性格検査の関連の有無をYG検査で調べる実験（実験3） これまで集められた約500人のYG性格検査のデータに自分たちの班のデータを付け加えて血液型と性格特性との間の関連を調べる						
8・9	オドボール課題に従事しているときの瞬目から認知過程を調べる実験（実験4） 標的刺激と非標的刺激を区別しているときの瞬目をビデオカメラで記録し、瞬目発生タイミングを調べる						
10・11	計算課題による認知過程を反応時間で調べる実験（実験5） 4種類の1桁数字加算（例：0+7、7+0、5+2、5+7）に要する反応時間を調べる。						
12~14	お好み実験（実験6） 1. 実験計画 2. 実験実施 3. 発表の準備と配布資料の準備		教員の助言を受けながら、各グループ（2、3人）による自主的な実験計画と実験実施。				
15	お好み実験発表会		自分たちの研究の成果をプレゼンテーションソフトで発表し、質問者と議論を行い、他人の発表の評価を行う				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
発表会での評価				◎		40	
宿題・授業外レポート		◎	◎		◎	30	
授業態度・授業への参加度				◎	○	30	
テキスト・参考文献等	①B.フィンドレイ（1996）心理学 実験・研究レポートの書き方 北大路書房 ￥1,365 ②中野博幸・田中敏（2012）フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社 ￥1,974						
履修条件	演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めない。						
学習相談・助言体制	時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がなくなるときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	子どもの食と栄養		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3年
担当教員	川原 富紀枝						
授業の概要	<p>子どもの心身の発達に食と栄養は重要な役割をはたしている。胎児期から思春期の各段階に応じた栄養と食生活について学び理解を深めます。また、食生活環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を挙げ、小児期からの「食育」の重要性についても理解をする。保育者も自らの食生活を振り返り食改善していくことも視野に入れ、子どもとともに食を楽しみながら、子どもの食への関心を育み“食を営む力”を培う「食育」を実践し、活動展開する重要性についてもさらに理解を深めます。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	小児の発育発達における意義や基礎的な栄養に関する知識について理解できる。地域社会における食文化との関わりのなかで食生活体験の重要性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	特別な配慮を要する子どもの食の意義と栄養に関する知識を持ち判断力をつけ対応できる。自らも食生活を振り返りながら、健全な食習慣の確立を図り食育していくことの重要性を理解できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	家庭で、また児童福祉施設での子どもの食生活の現状を把握し、健全な食習慣の確立を図り食育指導していくことの重要性についても理解できる。					
技能	DP9：健康スキル	自らも食生活を振り返りながら常に支援者であることに意識を持ち心身の健康に心がける。					
	DP10：専門分野のスキル	保育者として食育活動に関する方法について展開できる基礎的能力を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容					授 業 方 法	
1	授業概要 子どもの健康と食生活の意義					オリエンテーション・演習	
2	子どもの食生活の現状と課題 食生活アンケートの作成					演習	
3	子どもの発育・発達と食生活 成長曲線と食べる機能						
4	栄養の基礎知識について 食育教材の作成と発表					プレゼンテーション	
5	望ましい献立作りとは 年齢区分を指定し献立作成					演習	
6	子どもの発育・発達と食生活 妊娠期（胎児期）の食生活						
7	子どもの発育・発達と食生活 授乳期の食と栄養						
8	子どもの発育・発達と食生活 離乳期の食と栄養						
9	離乳期の食事 生後5～6ヵ月ごろの食事					調理実習	
10	離乳食の食事 生後7～8ヵ月ごろの食事						
11	離乳食の食事 生後9～11ヵ月ごろの食事					調理実習	
12	離乳食の食事 生後12～18ヵ月ごろの食事						
13	幼児期の食事 1～2歳児、3～5歳児の食事						
14	乳幼児期のおやつ 間食の必要性和与え方						
15	食育の基本と内容（I） 養護と教育の一本化					DVD鑑賞 演習	

16	幼児に対する調理上の留意点 調理の基本と食中毒の予防	演習
17	幼児期の子どもの弁当作り 5～6歳児の遠足の日のお弁当	手づくり弁当持参
18	学童期の食と栄養 苦手な野菜を使った献立調理	演習 調理実習
19	思春期の食と栄養 不足しがちなカルシウムと鉄分	
20	生涯発達と食生活 バランスガイドで食事自己診断	演習
21	食育の基本と内容（Ⅱ） 長期・短期の食育計画を作成	演習
22	食育の基本と内容（Ⅲ） 食育・食農保育の計画を作成	演習 調理実習
23	食育の基本と内容（Ⅳ） 食育媒体の作成	プレゼンテーション
24	食物アレルギーがある子どもへの対応；保育所・幼稚園・学校	演習
25	障害がある子どもへの対応 食事に対する配慮	
26	児童福祉施設の食と栄養（Ⅰ） 施設の定義と食事の実際	
27	児童福祉施設の食と栄養（Ⅱ） 行事食と年間食育計画の作成	プレゼンテーション
28	家庭における食生活の課題 「給食便り」を作ってみよう	演習
29	食を通じた保護者への支援 親子クッキングを計画しよう	演習 調理実習
30	食育指導、保育士の役割 楽しい食事の演出と工夫	演習 (まとめ)

\*事前・事後学習（学習課題）毎回授業の最後に次週の課題についても説明するので、必ずテキストや資料に目を通してから授業に参加する。

成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験		◎	○	○		40
小テスト・授業内レポート		○	○			10
宿題・授業外レポート		○	◎	○		20
授業態度・授業への参加度				◎		20
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	○	○	10
演習		○	○	○	○	

補足事項

演習に関しては授業形態が演習なので成績評価割合に記入はないが授業参加度のなかで評価する。

テキスト・参考文献等	【テキスト】第2版「子どもの食と栄養」小川雄二著 医歯薬出版株式会社、オールガイド食品成分表2015 実教出版株式会社 【参考図書】子育て・子育てを支援する「子どもの食と栄養」堤千春・土井正子編著 萌文書林
------------	--

履修条件	特になし
------	------

学習相談・助言体制	口頭でも質問票でも受け付けます。授業終了後、もしくは別に時間をとって相談に応じます。
-----------	--

授業科目名	子どもの保健 I - 1					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	梶原康巨・小嶋秀幹	前期	講義	選択	2 1年	
授業の概要	子どもの特性として最も重要な点は、心身ともに発育（成長と発達）の途上にあることである。本講義では、特に胎児から乳幼児の発育の過程を理解するとともに、それを妨げる多様な要因（感染症をはじめとする病気、社会・環境要因など）や、その予防への理解を進め、子育てをする者、またその支援者としての基本的態度を検討する。					
<b>学生の到達目標</b>						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	① 発育途上にある乳幼児の身体および心の特性を理解する。 ② 発育の妨げとなる多様な要因（感染症・アレルギー疾患や社会・環境要因など）を理解する。				
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	① 発育の障害をできるだけ回避し、子どもの健康の保持・増進のために対処すべき方法を検討し、子育てを支援できる。				
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>						
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担当		
1	オリエンテーション（講義内容、評価方法の提示など）とわが国の小児保健の概観	講義	事後復習	梶原		
2	人口動態など小児保健統計資料からみた、わが国の小児保健	講義	事後復習	梶原		
3	人口動態など小児保健統計資料からみた、わが国の小児保健	講義	事後復習	梶原		
4	発育（成長と発達）について	講義	事後復習	梶原		
5	発育（成長と発達）について	講義	事後復習	梶原		
6	発育（成長と発達）について	講義	事後復習	梶原		
7	子どもの心と健康について	講義	事後復習	小嶋		
8	子どもの心と健康について	講義	事後復習	小嶋		
9	小児期にポピュラーな感染症とその予防	講義	事後復習	梶原		
10	小児期にポピュラーな感染症とその予防	講義	事後復習	梶原		
11	小児期にポピュラーな感染症とその予防	講義	事後復習	梶原		
12	予防接種について	講義	事後復習	梶原		
13	アレルギー疾患と小児	講義	事後復習	梶原		
14	社会的な小児疾患について	講義	事後復習	梶原		
15	まとめ	講義	事後復習	梶原		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
定期試験		◎	○			80
授業態度・授業への参加度		○	○			20
補足事項	講義の直後に、出席カードに当日の授業への質問や感想、または意見をお書きください。					
テキスト・参考文献等	教科書はありません。講義の資料プリントを配布します。 参考書として、「小児保健研究」（日本小児保健協会）、「日本子ども資料年鑑」（日本子ども家庭総合研究所）、「子どもの虐待とネグレクト」（日本子どもの虐待防止研究会）などをご利用ください。					
履修条件	履修条件はありませんが、子どもの保健 I - 2 も履修されるよう希望します。					
学習相談・助言体制	担当教員の梶原康巨は、(医) 医和基会 牧山中央病院の現役小児科部長です。 オリエンテーション時に、病院の TEL&FAX 番号及び、病院の個人メールアドレスをお伝えしますので、ご利用ください。 また、講義の直後に出席カードに記載された内容をみて、次回の講義の冒頭で、必要な補足のお話や回答をいたします。					

授業科目名	子どもの保健 I - 2				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
					後期	講義	選択	2	1年
担当教員	梶原康巨								
授業の概要	子どもの保健 I - 1 で学んだ基礎的知識を発展させることを目的に、グループ毎に小児保健に関係するテーマを選んで、学習・調査・研究し、発表する。各テーマについて、発表者と聴衆に分かれ質疑を行い、わが国の小児保健の現在の問題点を把握し、その対応を検討する。								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	① 小児保健に関連する各テーマについて、書物、雑誌やインターネット等を通じて専門的な知識を得ることができる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	① 各自の学習・調査・研究に基づき、グループ内での検討を重ね、各テーマについて発表することができる。							
	DP4：表現力	② 講義での質疑や意見交換で得られた検討課題をもとに、さらにグループワークを重ね、協力して各グループの最終レポートを完成し、その過程で、レポートの書き方を習得する。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（数名を1グループとし、各グループで発表のテーマを決める）				グループワーク		グループ毎の発表準備		
2	小児の一次救急救命処置（BLS）の概要と留意点				講義		グループ毎の発表準備		
3	小児保健に関する特集講義				講義		グループ毎の発表準備		
4	小児保健に関する特集講義				講義		グループ毎の発表準備		
5	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
6	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
7	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
8	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
9	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
10	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
11	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
12	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
13	各グループによる発表とディスカッション				発表・質疑と助言		発表準備と事後の検討		
14	最終レポートのためのディスカッション				講義とグループワーク		事後の検討		
15	まとめ				講義		最終レポートの提出		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
宿題・授業外レポート		◎	◎			40			
授業態度・授業への参加度		○	○			20			
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			40			
補足事項		講義の直後に、出席カードに当日の授業への質問や感想、または意見をお書きください。							
テキスト・参考文献等	教科書はありません。講義およびグループ発表の資料プリントを配布します。 参考書として、テーマに関連する書物や、「小児内科」（東京医学社）、「小児保健研究」（日本小児保健協会）、「子どもの虐待とネグレクト」（日本子どもの虐待防止研究会）などの諸雑誌やインターネット等を利用し、各自で情報を収集・選択し纏める。								
履修条件	子どもの保健 I - 1 を履修していること。								
学習相談・助言体制	担当教員の梶原康巨は、(医) 医和基会 牧山中央病院の現役小児科部長です。 オリエンテーション時に、病院の TEL&FAX 番号及び、病院の個人メールアドレスをお伝えしますので、ご利用ください。 また、講義の直後に出席カードに記載された内容を見て、次回の講義の冒頭で、必要な補足のお話や回答をいたします。								

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	田中美樹・吉川末桜						
授業の概要	子どもの保健Ⅰで修得した学習を基礎にして、保育所・福祉現場で保健活動が実践できるよう、知識と技術を学習する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	保育所、福祉現場で行われているさまざまな保健活動の実践について知識を学習し説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	安全面に配慮し、子どもの発達に応じた適切な保健技術を主に人形を使って体験し、学習したことを論理的に表現できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	子どもの体調不良や発育の変化に気づくために必要な保健スキルと養護のスキルを身に付ける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	保育における保健衛生		講義		次回までの課題について、授業の最後に提示する。その課題を持って授業に参加する。		
2	保育者の自己管理（手洗い）		演習				
3	乳幼児の身体発育と観察		講義・小テスト				
4	子どもの身体計測		演習				
5	子どもの生理機能の発達と測定方法		演習				
6	乳幼児の養護①		講義・小テスト				
7	乳幼児の養護②		演習				
8	乳幼児の養護③		演習				
9	乳幼児の事故①		講義・小テスト				
10	乳幼児の事故②		講義				
11	乳幼児の事故③		演習				
12	心肺蘇生法		演習				
13	乳幼児に罹りやすい病気と看護①		講義・小テスト				
14	乳幼児に罹りやすい病気と看護②		講義				
15	乳幼児に罹りやすい病気と看護③		演習・小テスト				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		◎	○			10	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	○			20	
演習		◎	◎		◎	20	
テキスト・参考文献等	テキスト：子どもの保健演習ノート 改訂第2版 監修：榊原 洋一 執筆：小林美由紀 診断と治療社 2,160円						
履修条件	子どもの保健Ⅰ-1、Ⅰ-2を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問等はその都度受け付けます。						

授業科目名	思春期保健		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	板 東 充 彦						
授業の概要	かつて「思春期」という概念はありませんでしたが、現代に至り、大人になるためのステップとして「思春期」という年代が想定されるようになりました。思春期は、身体と心と社会という、自身をめぐる3つの変化に対応しなければならない大変な時期です。この授業では、講義とディスカッションを通して、自身の体験を振り返りながら、思春期の特徴と生じやすい問題について学びます。問題意識をもって授業に参加することが望まれます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	・ライフサイクルにおける思春期の意味について説明できる。 ・思春期に生じやすい心の問題について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	・思春期の子たちが抱える問題に対する現実的な解決方法を検討できる。 ・自分で問題意識をもち、それに対して資料を収集して考察することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	背景としての現代社会の特徴を知る		講義		現代社会		
3	アイデンティティ・自己の確立について学ぶ		講義		アイデンティティ・自己		
4	思春期にとっての友人関係及びその意義について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		友人		
5	恋愛及び性にまつわる心の問題について学ぶ		講義		恋愛・性		
6	摂食障害と思春期心性について学ぶ		講義		摂食障害		
7	自傷行為の意味について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		自傷行為		
8	思春期と自殺、及びその予防について学ぶ		講義		自殺		
9	思春期のいじめとその対応について学ぶ		講義		いじめ		
10	思春期の非行・犯罪について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		非行・犯罪		
11	発達障害と思春期への影響について学ぶ		講義		発達障害		
12	ひきこもりと解決されない思春期の心の問題について学ぶ		講義		ひきこもり		
13	虐待の思春期への影響について学ぶ		講義＋グループ・ディスカッション		虐待		
14	思春期のトラウマと家族の影響について学ぶ		講義		トラウマ・家族		
15	まとめ		講義＋グループ・ディスカッション				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
感想シート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
テキスト・参考文献等	テキスト：なし 参考文献：松本俊彦（編）『中高生のためのメンタル系サバイバルガイド [こころの科学]』日本評論社、2012年 その他、必要に応じて授業で紹介する。						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	授業中あるいは授業前後に行うことが望ましい。						

授業科目名	老年期医学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	小嶋 秀 幹						
授業の概要	老年期医学の基礎知識、老年期に起こりやすい、精神疾患・身体疾患について講義する。最近の老年期医学のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	老年期医学とは		講義		e-learning を利用して実施		
2	高齢者の健康問題のとりえ方		講義				
3	高齢者の健康評価		講義				
4	健康評価の実際		講義				
5	高齢者の脆弱化		講義				
6	老年期のうつと認知症（1）		講義				
7	老年期のうつと認知症（2）		講義				
8	老年期の睡眠障害		講義				
9	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（骨粗鬆症、転倒・骨折）		講義				
10	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（失禁・便秘、白内障、難聴）		講義				
11	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（呼吸器疾患）		講義				
12	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（循環器疾患）		講義				
13	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（低栄養状態、褥創）		講義				
14	老年期に起こりやすい身体疾患とケア（悪性腫瘍、緩和ケア）		講義				
15	長寿の秘訣		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎	○			80
宿題・授業外レポート			○	◎			20
テキスト・参考文献等	参考図書：道場信孝著、日野原重明監修 「臨床老年医学入門 第2版」（医学書院、2013年、3,200円）						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	公共人類学A (医療)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	藤山 正二郎	前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	公共人類学は現代世界の公共領域における実践的課題を考える分野である。日本でも、医療や健康への関心は高く、問題も多い。問題解決に向けて、近代医学以前の伝統的医療と再生医療など先端医療との対比、異文化での医療など言及する。慢性病の時代になり、近代医学はその限界を見せている。医療人類学は文化によって病気や治療法、また身体観が違うことに注目している。漢方、インドのアーユルヴェーダ、イスラム医学などを、近代医学を補完できる医療として紹介し、より良い医療の視点を提示する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	時代、文化によって病院、医者、薬、健康食品は多様である。それらを自分の健康のため、どのように考えるべきかその方法を知ることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	医療を受身に考えるのではなく、自分の身体との対話の中で自分にとって医療とは何かを理解する方法を身につけることができる。					
授業計画 (授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習 (学習課題)			
1	医療人類学の領域と方法	人類学の方法は経験的理解を基本とし、その理解を深めるため映像を伴う授業をする。自ら調査したウイグル医学を含め中医学、インド医学など異文化の医療を述べる		医療人類学の自分のイメージをまとめる。  社会に流布している健康観を問い直す中で、自分が持っている健康の考え方を検討してみる。  近代西欧医学以外の医療体系についての知識をまとめる。			
2	健康観の変遷						
3	健康の現代的意味						
4	医療は進歩するか：再生医療						
5	多様な医療体系：漢方－中医学						
6	多様な医療体系：イスラム医学－ウイグル医学						
7	多様な医療体系：インド医学－アーユルヴェーダ						
8	まとめとレポート	まとめとレポート		講義ノートとプリントから出題			
9	病気と治療の文化的意味	米国で作られたPTSDの概念が日本にも移入され、大規模災害、事故、学校などで使用されている。それを含めて先端医療の問題点について討論。		病気は単に生物学的疾患ではなくは意味と物語があることを理解する。  マスコミで報じられる医療についての問題点をまとめる。			
10	シャーマンと治療						
11	病いの物語と世界観						
12	PTSDの医療人類学						
13	PTSDの歴史						
14	医療人類学ができること	まとめとレポート		講義ノートとプリントから出題			
15	まとめとレポート						
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			30	
テキスト・参考文献等	参考文献：①野村一夫他「健康ブームを読み解く」青弓社、2003 ②柄本三代子「健康の語られ方」青弓社、2002 ③アラン・ヤング「PTSDの医療人類学」みすず書房、2001、その他講義中に紹介。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	ホームページ、ブログで講義に必要なデータなどを掲載する。blog.livedoor.jp/hotan jazz23/ メールでの質問意見、直接もしくは講義中に回答。urhotan2323@yahoo.co.jp						

授業科目名	精神保健学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	小嶋 秀 幹						
授業の概要	精神保健学の基礎知識、ライフサイクルにおける精神保健について講義する。最近の精神保健学のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	精神保健とは（1）		講義		e-learning を利用して実施		
2	精神保健とは（2）		講義				
3	ライフサイクルにおける精神保健（乳幼児期－1）		講義				
4	ライフサイクルにおける精神保健（乳幼児期－2）		講義				
5	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－1）		講義				
6	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－2）		講義				
7	精神保健活動の実際（家庭）		講義				
8	ライフサイクルにおける精神保健（思春期）		講義				
9	精神保健活動の実際（学校）		講義				
10	精神障害の基礎知識（統合失調症）		講義				
11	ライフサイクルにおける精神保健（成人期）		講義				
12	精神保健活動の実際（職場）		講義				
13	精神障害の基礎知識（うつ病）		講義				
14	ライフサイクルにおける精神保健（老年期）		講義				
15	精神保健活動の実際（地域）		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
定期試験			◎	○			80
宿題・授業外レポート			○	◎			20
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂新版精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」（へるす出版、2013年、3,000円）						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	保育内容・健康 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	秋 吉 隆 子						
授業の概要	乳幼児の発達の原則、身体発達と健康、運動の発達と健康、精神機能の発達と健康、生活習慣の発達、基本的な生活習慣の形成、運動遊びなどの基礎的事項を講義を通して学習し、幼稚園・保育所において、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養う」には、どのような内容やかかわりが大切になってくるかを、実践・事例を通して理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	①領域「健康」のねらいと内容について理解し説明することが出来る。 ②乳幼児の発達を踏まえ、ふさわしい運動遊び・生活習慣の指導について理解を深める事が出来る。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	乳幼児期の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点・改善の方策を考察することが出来る。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1~4	幼児教育の基本 ①幼児教育の目的と領域 ②環境を通しての教育 ③幼児教育の基本 ④保育者の様々な役割 ⑤領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱い ⑥他領域と領域「健康」のつながり		講義（テキスト・資料）		・幼教育要領・保指針事前必読 ・授業内レポート（毎回授業内容に関する課題出題）		
5・6	子どもの育ちと領域「健康」 ①乳幼児期を通しての運動能力の発達 ②生活習慣の形成 ③安全についての構えの形成		講義（テキスト・資料）		授業内レポート		
7・8	子どもの健康をめぐる現状と課題 ①最近の子どもたちの姿 ②最近の子どもたちの運動能力の傾向 ③運動能力を低下させた原因		講義（テキスト・資料）		授業内レポート		
9・10	子どもの健康と遊び ①ルールある遊び ②道具を使った遊び ③固定遊具を使った遊び ④様々な遊び		講義・演習（資料）				
11	実践 子どもの健康と遊び		グループ討議及び発表		グループで発表原稿作成		
12~14	実践 遊びの指導計画作りと発表		演習・個人発表		子どもと健康と遊びについての課題（遊び指導計画の作成）		
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			30	
宿題・授業外レポート		◎	◎			10	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			30	
演習		○	○			20	
テキスト・参考文献等	テキスト 無藤隆（監修） 事例で学ぶ保育内容領域「健康」 萌文書林 2013改訂 2,100円						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	レスポンスカード・授業中で受付 授業の中で又は授業終了時に時間調整し回答。						

授業科目名	保育内容・健康Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	秋 吉 隆 子						
授業の概要	<p>子どもの健康と遊び・子どもの健康と環境構成・生活習慣の形成・安全教育・食育について、沢山の事例を読み解き、子どもたちの心と体を培っていくにはどのような園生活を大事にしていけばよいか、保育環境や援助としては何を大切にしていけるかを グループ討議や実践を通して理解する。</p> <p>さらに、保育者間の連携や保護者との連携、地域の専門家との連携をどう進めていくかなどについて理解を深める。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>①体力や運動能力などの「体」の問題・乳幼児の遊びと生活の関係性について説明することができる。</p> <p>②安全や衛生の習慣、食育の問題点について自分なりの意見を述べる事が出来る。</p>					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	<p>乳幼児の発達の特徴や今日の課題の知識を生かし、将来の保育者として学んでおくべきことを明確にした上で、実習や乳幼児に関わる活動に積極的に参加することができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1・2	子どもの健康と遊び 保育と乳幼児期の運動遊び		演習（事例資料）		健康1で作成した遊び指導計画の問題点をまとめておく		
3・4	子どもの健康と環境構成 ①遊具の配置 ②戸外での遊び ③保育の工夫		講義（テキスト）		授業内レポート		
5~7	子どもの生活習慣の形成について ①乳幼児の生活習慣の形成 ②遊びの中で育む生活習慣 ③園生活と生活習慣 ④保育者の役割 ⑤家庭との連携		演習 グループ討議 (どのように保護者の悩みに答えるか)		授業内レポート		
8・9	子どもの健康と安全教育 ①安全教育の考え方 ②遊びの中で育む安全教育 ③計画的指導によって育む安全の意識 ④事故が起きた場合の対応		講義（テキスト）		授業内レポート		
10・12	子どもの健康と安全教育 指導計画を作成し、視聴覚教材を作って発表する。		発表		視聴覚教材・指導計画の作成		
13~15	今日の課題と領域「健康」 ①基本的な生活習慣 ②食育の考え方・必要性 ③家庭との連携 ④学校・教育施設との連携		グループ討議 (今日の課題の問題点と解決の方策)		「健康」と今日の課題について意見をまとめておく。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○		◎		30	
宿題・授業外レポート		○		○		10	
授業態度・授業への参加度		○		○		10	
受講者の発表（プレゼン）		◎		◎		30	
演習		○		○		20	
テキスト・参考文献等	テキスト 無藤隆（監修）事例で学ぶ保育内容領域「健康」 萌文書林 2013年改訂 2,100円						
履修条件	保育内容『健康Ⅰ』を履修しておくこと。						
学習相談・助言体制	レスポンスカード・授業中で受付 授業中又は授業終了時に時間調整し回答。						

授業科目名	保育内容・人間関係Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	飯田大輔						
授業の概要	領域「人間関係」のねらい・保育内容と活動の展開・援助の方法を学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	幼稚園・保育園における人的環境としての保育者の役割について記述できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	保育現場に対して理解を深める。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		幼稚園教育要領 保育所保育指針		
2	人間関係の目標とねらい 幼稚園教育要領における保育の基本		講義		幼稚園教育要領		
3	人間関係の目標とねらい 保育所保育指針における保育の基本		講義		保育所保育指針		
4	私たちにとっての人間関係とは		講義				
5	子どもをとりまく様々な環境		講義・演習				
6	0歳児の保育 子どもの発達と人間関係		講義・演習				
7	1歳児の保育 子どもの発達と人間関係		講義・演習				
8	2歳児の保育 子どもの発達と人間関係		講義・演習				
9	3歳児の保育 子どもの発達と人間関係		講義・演習				
10	4歳児の保育 子どもの発達と人間関係		講義・演習				
11	5歳児の保育 子どもの発達と人間関係		講義・演習				
12	応答的保育について 理論編1		講義・ビデオ				
13	応答的保育について 理論編2		講義・演習				
14	応答的保育について 保育環境と応答的保育1		講義・演習				
15	応答的保育について 保育環境と応答的保育2		講義・ビデオ				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
			◎				80
定期試験			○				5
小テスト・授業内レポート					○		10
授業態度・授業への参加度				◎			5
受講者の発表（プレゼン）							
テキスト・参考文献等	テキスト田代和美・村松正幸編著「演習 保育内容 人間関係」建帛社 2009年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け						

授業科目名	保育内容・人間関係Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	飯田大輔						
授業の概要	保育者としての子どもに対する援助のあり方を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	子どもたちの人とのかかわる力をどのように育てていくか、発達に即して記述できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	人とのかかわりを育てる遊びを保育者として実践をふまえて修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	人間関係の研究、観察法		講義・演習		実践につながる資料		
3	異年齢混合保育、統合保育 - 人間関係の発達から見て気がかりな行動とその援助1		講義・演習				
4	異年齢混合保育、統合保育 - 人間関係の発達から見て気がかりな行動とその援助2		講義・演習				
5	異年齢混合保育、統合保育 - 人間関係の発達から見て気がかりな行動とその援助3		講義・演習				
6	人間関係の育ちを育む環境<園と家庭、園内での人間関係、園内研修>1		講義・演習				
7	人間関係の育ちを育む環境<園と家庭、園内での人間関係、園内研修>2		講義・演習				
8	人間関係の育ちを育む環境<園と家庭、園内での人間関係、園内研修>3		講義・演習				
9	育ちを支える保護者と保育者の人間関係		講義・演習				
10	育ちにかかわる「私たち」の人間関係		講義・演習				
11	子どもと共に育っていける保育者になるために		講義・演習				
12	応答的保育について 実際編1		講義・ビデオ				
13	応答的保育について 実際編2		講義・演習				
14	応答的保育について考える力と関係性1		講義・演習				
15	応答的保育について考える力と関係性2		講義・ビデオ				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				80	
小テスト・授業内レポート		○				5	
授業態度・授業への参加度					○	10	
受講者の発表（プレゼン）			◎			5	
テキスト・参考文献等	テキスト田代和美・村松正幸編著「演習 保育内容 人間関係」建帛社 2009年						
履修条件	保育内容・人間関係Ⅰを履修していること						
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け						

授業科目名	保育内容・環境 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	高木 義 栄						
授業の概要	都市化・情報化・少子高齢化の波は、自然及び社会環境を激変させ、家庭環境とともに子どもの発達にも様々な影響を及ぼしている。このような中で、教員として将来幼児教育に携わる者は、子どもたちを取り巻く環境を正しく理解しておく必要がある。本講義では、最近の自然・社会環境を把握した上で、幼児の環境認識と心身の発達の解説をしながら子どもの環境にかかわる力を育成していくための方法論や実践例を紹介していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	最近の子どもたちの現状とそれを取り巻く環境の実態を理解し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	最近の家庭や社会等における子どもたちに関わる諸問題に対して自分の考えを構築・表現できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	子どもたちと自然とのかかわりの観点から、身近な自然の重要性やおもしろさ等を地域の子どもたちや保護者に遊びを通して伝えることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	現材の環境で子どもたちの生きる力を培うための保育、自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	幼児教育における環境とは何か		講義		テキスト1～5・7章、参考文献①②		
2	身近な自然（散歩）		演習		テキスト12章、配布資料		
3	幼児を取り巻く環境の変化と現状		講義		テキスト8・9・12章、参考文献①②		
4	ひまわり栽培		演習		テキスト10章、配布資料		
5	生き物アンケート		講義・演習		テキスト10・11章		
6	動物園実習Ⅰ（事前指導）		講義		テキスト12章、配布資料		
7	動物園実習Ⅱ（福岡市動物園）		演習		配布資料		
8	動物園実習Ⅲ（福岡市動物園）		演習		配布資料		
9	動物園実習Ⅳ（事後指導）		講義		テキスト12章、配布資料		
10	身近なもので何かを作ろう（ゴミの利用）		講義・演習		テキスト14章、配布資料		
11	科学あそびⅠ（風船あそび）		講義・演習		テキスト13章、配布資料		
12	科学あそびⅡ（シャボン玉）		講義・演習		テキスト14章、配布資料		
13	科学あそびⅢ（ドロダンゴ）		講義・演習		テキスト13章、配布資料		
14	サツマイモの作付		演習		テキスト10章、配布資料		
15	セミ捕り・まとめ		講義・演習		テキスト12章、配布資料		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎	◎	10	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○	○	70	
授業態度・授業への参加度		◎	○	◎	◎	20	
補足事項	授業外レポートとして課す「ひまわり日記」・「まとめレポート」が未提出の場合、不合格とする。 原則として小テストは行わず、授業内での課題制作を実施（1回）						
テキスト・参考文献等	テキスト：田尻由美子・無藤隆（編）『子どもと環境』、同文書院、2006年、2376円 参考文献①：文部科学省『幼稚園教育要領』、フレーベル館、2008年 参考文献②：厚生労働省『保育所保育指針』、フレーベル館、2008年（その他、適時プリント配布）						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業終了後および電子メールにて受け付け、回答する						

授業科目名	保育内容・環境Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	高木 義 栄						
授業の概要	環境Ⅰに引き続き、子どもの環境にかかわる力を育成するための方法論と実践例の紹介を行う。特に身近な自然とのかかわりを中心に、前期（春・夏）にはできなかった秋冬の季節に応じた実践例の紹介を行う。演習内容は野外活動を多く取り入れ、学内及び周辺での身近な生き物（動植物）とのかかわりを重視した自然体験を通して、身近な自然への興味関心を深めさせ、幼児教育に必要な生物の基礎知識を学ばせる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	身近な自然に様々な生き物がいることに気づき、身近な生物の基礎的事柄（種名や特徴など）について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	身近な自然について、その内容や現状・問題点について自分の意見を表現・主張できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	学内及び周辺の身近な自然について、その重要性や豊かさを周囲の人に発信できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に行うことができる。生物の基礎知識を活用した実践的野外保育を行うことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	いろいろな生物（生物の多様性と分類）		講義		配布資料		
2	身近な動物Ⅰ（虫捕り）		演習		テキスト11・12章		
3	身近な動物Ⅱ（川遊び）		演習		テキスト11・12章		
4	身近な動物Ⅲ（ノラネコ調査）		演習		テキスト11・12章		
5	身近な動物Ⅳ（バードウォッチング）		演習		テキスト11・12章		
6	インターネット検索（世界の動植物）		情報処理		配布資料		
7	身近な植物Ⅰ（いろいろな実）		演習		テキスト12章、配布資料		
8	ドングリ工作		講義・演習		テキスト10章、配布資料		
9	身近な植物Ⅱ（芋ほり）		演習		テキスト10章、配布資料		
10	身近な植物Ⅲ（いろいろな葉）		演習		テキスト10章、配布資料		
11	身近な植物Ⅳ（焼イモ）		演習		テキスト10章		
12	科学あそびⅠ（静電気）		講義・演習		テキスト13章、配布資料		
13	科学あそびⅡ（凧揚げ）		講義・演習		テキスト14章、配布資料		
14	園外保育実践例		講義		テキスト12章		
15	まとめ		講義		テキスト9～14章		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	○	○	◎	30	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	50	
授業態度・授業への参加度		◎	○	○	◎	20	
補足事項	原則として小テストは行わず、授業内で課題制作を実施（数回）授業外レポートとして課す「まとめレポート」が未提出の場合、不合格とする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：田尻由美子・無藤隆（編）『子どもと環境』、同文書院、2006年、2,376円 その他、適時プリント配布						
履修条件	保育内容・環境Ⅰを履修していること						
学習相談・助言体制	授業終了後および電子メールにて受け付け、回答する						

授業科目名	保育内容・言葉Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	世良君江						
授業の概要	子どもは自らの活動の場において絶え間なく言葉を獲得している。保育者として受容と応答の重要性を認識し、言葉の成長を促していく。子どもの言葉が豊かに育つ為に必要な援助を考える。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	新生児から就学前の子どもの言葉の獲得のプロセスを知る。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	言葉の発達を促す為、保育者としての子どもの言葉とどう向き合うか考える。					
技能	DP10：専門分野のスキル	言葉の受容と応答の大切さを事例で考える。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法・シラバスの説明）		講義		研究発表グループ分け		
2	保育所保育指針・幼稚園教育要領領域「言葉」について		講義		事前熟読		
3	赤ちゃんの言葉の世界「胎児の生活より」		講義・DVD				
4	言葉の進化「発達年齢別」		講義				
5	言葉の獲得「発達年齢別」		講義				
6	新生児から3歳未満児の子どもの言葉		講義・演習				
7	3歳から就学前の子どもの言葉		講義・演習				
8	言葉（発語）による情緒・感情の育み		講義・演習				
9	言葉（発語）による受容と応答		講義・演習				
10	お話作り3歳から就学前対象		演習				
11	言葉を育てる児童文化		講義		地域文化の研究（グループ）		
12	言葉を育てる地域文化		講義・演習		発表		
13	伝承あそび①		演習		グループ発表		
14	伝承あそび②		演習		グループ発表		
15	前期まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎				40	
授業態度・授業への参加度		◎				20	
受講者の発表（プレゼン）			○		◎	20	
演習		◎	◎		○	20	
補足事項	グループ研究・個人研究発表・絵本読み・素話の実践も演習成績に含む						
テキスト・参考文献等	犬越和孝編「言葉とふれあい言葉で育つ」・保育所保育指針・幼稚園教育要領冊子						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	メール・講義後質問受付回答						

授業科目名	保育内容・言葉Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	世良君江						
授業の概要	豊かな言葉を培う為に幼児期に体験させたい「お話の世界」を様々な素材を利用し、研究発表を行うことで保育の場で実践するべき内容として学習し身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	幼児期の言葉の発達を理解し、声にならない「心の声」の捉え方の重要性を知る					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	言葉の発達に不可欠な文化財の存在を知ると共に、実践・演習を試みる					
技能	DP10：専門分野のスキル	保育者として言葉の発達を促す為の様々な文化財を自ら制作し、演じる技法を習得する					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法、シラバスの説明）		講義				
2	保育者の言語表現（自身を振り返る）		講義				
3	児童文化財の利用方法について知る、絵本の特徴を理解する		講義・				
4	絵本の見方、保育士としての絵本に対する「視点」の向け方について		講義		事前に指定絵本を読む		
5	絵本の絵を読む①		講義・演習		グループ研究・発表		
6	絵本づくり		演習		個人発表		
7	絵本から劇あそびに発展させ言語表現を楽しむ		演習		小道具・セリフ・表現を研究発表		
8	様々な表現方法による言葉の世界を知り実践		演習		グループ研究・発表		
9	児童文化財（パネルシアター）から、言語表現を学ぶ		講義・演習		グループ発表の準備		
10	パネルシアターの実践		演習				
11	紙芝居の特徴・演じ方を知る		講義				
12	紙芝居実践①		演習		個人		
13	紙芝居実践②		演習		個人		
14	回転絵話しの表現方法を知り制作		講義・演習		個人制作		
15	回転絵話しの実演発表（全講義のまとめ）		演習		個人		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎				40	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		20	
受講者の発表（プレゼン）				◎	◎	20	
演習					◎	20	
補足事項	グループ討議の中での意見交換や、個人の制作に対する意欲等授業の中で観察し評価に関連させる						
テキスト・参考文献等	犬越和孝編「言葉とふれあい言葉で育つ」 絵本「ぐりとぐら」 紙芝居「おおきくなあれ」						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	メール・授業後の質問を受け付け回答						

授業科目名	保育内容・表現Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	櫻井国芳・木村厚太郎						
授業の概要	保育所保育指針および幼稚園教育要領に記される、領域「表現」について理解する。音楽や造形等による表現を中心に、音楽Ⅰ・Ⅱや造形Ⅰ・Ⅱで身につけた知識や技術をもとに、保育の場での実践を想定しながら子どもの表現のありかたについて学習する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	子どもの表現について、心身の発達と関連させながら理解し、保育の題材に活用することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	「表現」を実際に実技として表現するだけでなく、その表現の意味合いや方法を論理的に考え、人に伝えることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	領域「表現」のねらいや内容をふまえて、保育を構想・展開する基礎的な力を身に付け、意見を述べることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	音楽の始まり、歴史から表現というものをとらえる	プリント・質疑応答		木村			
2	表現を指揮という観点からとらえる	指揮実技	事前に楽譜配布	木村			
3	弾き歌いを通して楽譜をとらえる	モデル生を募りその実技に対してレッスン公開	モデル生を決定	木村			
4	弾き歌いを通して伝える伝え方と表現を追求する	楽譜の分析・弾き歌いレッスン		木村			
5	造形による表現について 造形遊びの種類と内容1 ペープサート1	・プリントを使用しながら授業を進める。 ・実習で行うことを想定しながら、ペープサートを製作する。		櫻井			
6	造形遊びの種類と内容2 ペープサート2	・同上。 ・ペープサートの製作と発表会に向け練習する。	・学習した内容について整理しておく。 ・学習した保育教材をレパートリーとして蓄積する。	櫻井			
7	保育の題材と導入について ペープサート3	・グループ活動。保育実践における導入のあり方について考える。 ・保育者としての子どもに対する援助の仕方などについても考える。 ・同上。		櫻井			
8	ペープサート4	ペープサートの発表会を行う。		櫻井			
9	弾き歌い学習まとめ			木村			
10	乳幼児に対する様々な提示方法	乳幼児向けの提示方法を紹介し、作り方や遊び方について学ぶ。	学習した保育教材をレパートリーとして蓄積する。	櫻井			
11	動くおもちゃをつくって遊ぶ1	折り紙や身近な材料を用いて、動くおもちゃをつくって遊ぶ。		櫻井			
12	合唱を通じての表現方法	楽曲の正確な音取り	課題曲を決め楽譜配布・伴奏者を決める・パート割を決める	木村			
13	合唱を通じての表現方法	歌詞の解釈		木村			
14	合唱を通じての表現方法	音楽的アプローチ		木村			
15	動くおもちゃをつくって遊ぶ2	折り紙や身近な材料を用いて、動くおもちゃをつくって遊ぶ。	学習した保育教材をレパートリーとして蓄積する。	櫻井			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
課題の内容		◎					
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表（プレゼン）					◎		
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
テキスト・参考文献等	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。						
履修条件	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。音楽Ⅰと造形Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可、できればメールで予約してください。						

授業科目名	保育内容・表現Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	櫻井国芳・木村厚太郎						
授業の概要	<p>音楽Ⅰ・Ⅱや造形Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰで学習した知識や技術をもとに、保育の場での実践を想定しながら学習を進める。</p> <p>音による表現の可能性やリトミックについて学習し、保育における「表現」の可能性について考える。子どもの発達段階を踏まえながら、児童画について学習する。特に表出的要素と構成的要素が顕著に現れる時期について、それぞれの特徴に注目しながら学習する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	児童画の3つの画期における特徴的な様式について、子どもの発達と関連させながら理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育の題材を体験することを通して、子どもの表現の可能性を広げるための保育者の配慮や工夫について、意見を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	表現方法を自ら考えだすことができ、考えたものを実際に表現できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	合唱実技Ⅰ	学生に事前に指揮者・伴奏者・合唱者を決定、講師指定の楽譜を配布、練習済みのものを講師が指導	指揮者・伴奏者を決定・楽譜を配布	木村			
2	つくったものを用いて遊ぶ	つくったものを身に付けてゲームをする。	学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。	櫻井			
3	絵の具で遊ぶ	絵の具をじかに触りながら、造形遊びを展開する。		櫻井			
4	合唱実技入門	合唱実技の補足指導		木村			
5	遊びと表現1	・シャボン玉をつくって遊び、その様子を絵で表現する。 ・子どもの表現が豊かに展開されるための方法について理解を深める。	学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。	櫻井			
6	遊びと表現2	・小麦粉粘土をつくって、子どもの発達に応じた遊び方を考える。 ・子どもの表現が豊かに展開されるための方法について理解を深める。		櫻井			
7	合唱実技Ⅱ	学生に事前に指揮者・伴奏者・合唱者を決定、講師指定の楽譜を配布、練習済みのものを講師が指導		木村			
8	合唱実技Ⅲ	学生に事前に指揮者・伴奏者・合唱者を決定、講師指定の楽譜を配布、練習済みのものを講師が指導		木村			
9	合奏指導Ⅰ	合唱実技Ⅰと同様に事前に決めた課題曲を講師が指導・学生が自分たちで曲を組み立てることで何を表現したかを追求する。		木村			
10	合奏指導Ⅱ	合唱実技Ⅰと同様に事前に決めた課題曲を講師が指導・学生が自分たちで曲を組み立てることで何を表現したかを追求する。		木村			
11	合奏指導Ⅲ	合唱実技Ⅰと同様に事前に決めた課題曲を講師が指導・学生が自分たちで曲を組み立てることで何を表現したかを追求する。		木村			
12	児童画1	穴埋め式プリントを用いながら、表出期・構成期に見られる特徴的な表現様式について学習する。	学習した内容について整理しておく。	櫻井			
13	児童画2			櫻井			
14	児童画3			櫻井			
15	児童画4	前3コマで学習した児童画についてのまとめを行う。	学習した内容についてさらに理解を深める。	櫻井			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎					
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表（プレゼン）			◎				
課題の内容			◎				
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
テキスト・参考文献等	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。						
履修条件	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。音楽Ⅰと造形Ⅰ、保育内容・表現Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可、できればメールで予約してください。						

授業科目名	乳児保育		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	伊勢 慎						
授業の概要	<p>保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。保育園は乳児が一日の大半を過ごす場となり、子育ての支援機関としての役割について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。</li> <li>2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。</li> <li>4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。</li> <li>5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。</li> </ol>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	0～2歳児の発育・発達を理解し、そのための援助の仕方について理解を深める。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	乳児向けの保育実践の展開ができる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	乳児保育における保育者の専門性、役割について述べるができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	乳幼児の生活に必要なものをイメージし、具体的に準備できる力を養う。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	乳児保育の理念と役割		講義		乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。		
2	乳児保育の理念と歴史的変遷		講義				
3	乳児保育の役割と機能		講義				
4	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場		講義				
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり		講義				
6	6か月未満児の発達と保育内容・保育の実践		講義・実践		保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。		
7	6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容・保育の実践		講義・実践				
8	1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容・保育の実践		講義・実践				
9	2歳児の発達と保育内容・保育の実践		講義・実践				
10	指導計画の作成と観察・記録及び自己評価・保育の実践		講義・実践				
11	個々の発達を促す生活と遊びの環境・保育の実践		講義・実践				
12	保護者、保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携		講義・実践				
13	発表1		発表		発表の準備、練習、振り返りを行う。		
14	発表2		発表				
15	まとめ・発表3		発表				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎		◎		40	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度		○				10	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40	
補足事項	実践、発表は、乳児向けのおもちゃ、シアター系の作成を課します。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：なし。</p> <p>参考文献：『見る・考える・創りだす 乳児保育』CHS 子育て文化研究所、萌文書林、2002</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。						

授業科目名	障害児保育		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	二見 妙子						
授業の概要	障害児と健常児が共に育つ「インクルーシブ」保育の視点を知る。 (障害児自身の立場、障害児の家族の立場、園内支援体制づくりの立場から) 田川地域における障害児保育の実際を調べ、これを報告書にまとめ、発表する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会モデルの立場から障害をとらえることができる。 障害児保育の歴史がわかる。 子どもの発達と障害を理解し、保育現場における支援の視点と方法を考えることができる。 インクルーシブ保育の視点から必要とされる保育内容・保育士の専門性について考える。 地域連携の意味と仕組みがわかる。 障害児者を取り巻く保育の課題を自らの問題として捉えることができる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	障害児も健常児も共に育つ保育に有効と思われる、遊びや活動を提案することができる。 調査報告を行うにあたって、有効な発表方法を工夫することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	グループ討議に参加し、人の意見を聞きながら自己の意見を述べることができる。 障害児保育の実態を把握するための、情報収集や調査を積極的に行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容				授 業 方 法		
1~4	障害のとらえ方、障害児保育の歴史、障害児と健常児の共生を支える理念				レポート（障害児者との出会い）		
4・5	障害児教育（保育）に関する法制度の動向				関係資料収集		
6~12	障害の理解と支援（肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・知的障害・自閉症スペクトラム）				グループ毎に準備・発表		
13・14	障害児共生の子育てと保育を考える				関係資料収集		
15	前期のまとめ				関係資料の収集		
16・17	障害児保育の実際（人権保育と障害児保育）				レポート作成		
18・19	障害児の家族（保護者・兄弟）とのパートナーシップ				関係資料の収集		
20・21	障害児自身の声を聞くということ						
22	「診断」と「告知」について考える				関係資料の収集		
23	医療的ケアについて考える				関係資料の収集		
24・25	障害児保育を支える記録と評価、個別支援計画作成について						
26・27	職員間の連携（支援体制づくり・保育士の専門性とは）				関係資料の収集		
28	小学校や専門機関との連携について				関係資料の収集		
28~30	レポートの報告・まとめ				発表		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	◎	◎	○	(20)	
宿題・授業外レポート		○	◎	◎	○	80	
授業態度・授業への参加度		○	◎	◎	○	20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	◎	○	(80)	
テキスト・参考文献等	『障害児共生共有論』（2015）曾和信一、杉本節子 明石書店。を購入してください。他は授業中に紹介します。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	分からないことや困ったことは、いつでも聞いて下さい。授業にて連絡先をお伝えします。						

授業科目名	幼児理解の理論と方法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	上村 眞生						
授業の概要	保育者が保育を計画・実施する際、子どもの発達を含む現状をより正確に把握することは必要不可欠である。そこで本講義では、子ども理解のための基礎的な理論及びアセスメントのあり方を概説する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	複数の発達理論・教育論・教育思想を基盤に、自身の幼児観を持つ。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	先行研究の概観を踏まえて、自身の考えを他者に説明できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	客観的手法によって幼児の記録をとることができる。 観察記録を基に幼児の行動の意味や幼児の思考について分析できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション・子ども観についての概説		講義		自身の子ども観を意識する		
2	幼児理解の必要性について		講義		実習の振り返り		
3	アセスメントの意義と目的		講義		授業で解説する各アセスメント手法について課題を出すので、記録を提出する		
4	アセスメントの方法1－記録方法1－		講義				
5	アセスメントの方法2－記録方法2－		講義				
6	アセスメントの方法3－記録方法3－		講義・発表				
7	アセスメントの方法4－発達検査1－		講義				
8	アセスメントの方法5－発達検査2－		講義・発表				
9	発達についての基礎理論1		講義・発表				
10	発達についての基礎理論2		講義・発表				
11	幼児の発達の実際1－行動観察－		講義		観察記録を作成しそれについて発表するための準備をする		
12	幼児の発達の実際2－観察記録の検討－		講義				
13	幼児の発達の実際3－幼児の行動・思考の分析－		講義				
14	幼児の発達の実際まとめ		講義・発表				
15	まとめ		講義		課題レポートの作成		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート			○			10	
宿題・授業外レポート					◎	20	
授業態度・授業への参加度			○			10	
受講者の発表（プレゼン）		○	○		◎	60	
テキスト・参考文献等	必要に応じて資料を配布する						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールにて受付						

授業科目名	教育相談		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			前期	講義	選択	2	4年		
担当教員	岩橋宗哉								
授業の概要	<p>この講義は、中学教諭、高校教諭、養護教諭を目指す学生を対象とした教育相談の講義である。</p> <p>1. 小学校から高校までのそれぞれに時期に、児童、生徒によくみられる臨床的な問題やそれへの対応について事例を通して学ぶことで、カウンセリングの基礎的なかわり方について理解する。</p> <p>2. 子どもたちの臨床的な問題に対してより効果的に取り組み、子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。</p> <p>授業内容や順序については、若干変更することもある。</p>								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>1. 子どもや保護者に対して関わっていくときに必要なカウンセリング的な視点とはどのようなものであるかを説明することができる。</p> <p>2. 子どもを中心にして、保護者や他の教員等とどのようにして連携をしていくのかについて説明することができる。</p>							
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	発表を担当したテーマについて主体的に調べ、自らの意見を発表することができる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。		発表者は、その他の受講者に事例の内容がよく伝わるように発表できるように準備してください。				
2	小学校における事例（1）発達障害など		発表者が事前に担当する事例をまとめて発表する。受講者は、自分自身が児童・生徒やその保護者になったつもりで、追体験しながらその事例を理解していく。それぞれの受講者が自分の意見を持ち、またそれを発表することで相互にいつそう理解を深めていきたい。また、適宜こちらからも事例について質問を出し理解を深めていく。						
3	小学校における事例（2）盗癖、心身症など								
4	中学校における事例（1）いじめなど								
5	中学校における事例（2）不登校など								
6	高校における事例（1）対人関係が不安定な生徒など								
7	高校における事例（2）摂食障害								
8	高校における事例（3）かかわりを拒否する生徒								
9	不登校をめぐる（1）家庭訪問のしかた							具体的な事例を通して各自が事例の登場人物に追体験しながら理解を深める方法は今までと同じである。それに加えて、家庭訪問のしかたなど不登校や連携に必要な具体的な方法をまとめていく。	
10	不登校をめぐる（2）別室登校・適応指導教室の利用								
11	不登校をめぐる（3）ボランティア学生などの活用								
12	効果的な連携のために（1）教員と保護者、教員間の連携など								
13	効果的な連携のために（2）外部機関との連携								
14	いじめについて考える								
15	まとめ		講義						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
小テスト・授業内レポート		○				40			
授業態度・授業への参加度		○	○			20			
受講者の発表（プレゼン）		○	○			40			
テキスト・参考文献等	授業の中で指示、また、資料は必要に応じて配布する。								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く用紙に記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。								

授業科目名	教育相談（幼児教育）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			前期	講義	選択	2	4年					
担当教員	吉岡和子											
授業の概要	1. 乳幼児期によくみられる臨床的な問題の理解や対応について事例を通して学ぶとともに、カウンセリングの基礎的なかわり方について理解する。 2. 子どもたちの臨床的な問題に対してより効果的に取り組み、子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教員、専門家などが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。											
学生の到達目標												
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	援助を必要としている子どもや保護者に対して、関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるのかについて説明できる。										
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	子どもを中心に、どのように連携をしていくのかについて意見が述べられる。										
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）												
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）							
1	ガイダンス		講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。									
2	乳児期の不適応とその特徴①		発表者が事前に担当する箇所をまとめて発表する。  ビデオで実際の様子を見てもらい理解を深める。  適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。		発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。  発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。  具体的なかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。							
3	乳児期の不適応とその特徴②											
4	幼児期の不適応とその特徴①											
5	幼児期の不適応とその特徴②											
6	幼児期の不適応とその特徴③											
7	幼児期の不適応とその特徴④											
8	発達障害の理解①											
9	発達障害の理解②											
10	保護者への支援①：観察と記録											
11	保護者への支援②望ましい行動を増やすには・困った行動を減らすには											
12	保護者への支援③できない時の手助けの仕方・環境の整え方											
13	効果的な連携のために							アサーションについて解説し、その後、グループワークをし、グループごとに活動内容を発表してもらう。		参考資料を読んでおく。		
14	よりよいコミュニケーションを学ぶ～アサーション～									ロールプレイに利用するシナリオを準備する。		
15	シナリオロールプレイ発表 まとめ							理解の仕方やかかわり方についてのまとめをする。		講義内容を復習しておく。		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）												
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）						
定期試験		○	○			30						
授業態度・授業への参加度		○	◎			30						
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			40						
補足事項	発表と定期試験との両方を行うことが必要です。授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価する。											
テキスト・参考文献等	<b>【テキスト】</b> ①金子智栄子編著「子どもの発達理解とカウンセリング」樹村房②福田恭介編「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきょうまくいく。子どもの発達支援」あいり出版 <b>【参考文献】</b> ①山上敏子監修「お母さんの学習室」二瓶社②児童心理 No.828「子育てに困っている親への援助」金子書房③ジャニス・ウッド・キャタノ著 三沢直子監訳 幾島幸子翻訳「完璧な親なんていない！」ひとなる書房④西見奈子・黒山竜太・松尾伸一・下田芳幸「教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門」萌文書林⑤平木典子編「アサーション・トレーニング」至文堂 その他は講義中に紹介											
履修条件	特になし											
学習相談・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。											

授業科目名	保育相談支援		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	4年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	保育相談支援の意義と原則など基本を理解し、保育相談支援の実際を学びその内容や方法を習得する。さまざまな事例をもとに、グループディスカッションやロールプレイを行いながら、スキルを身につけていく。相談援助などこれまで関連科目で学んだことを応用していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	保育相談支援の意義と原則および保護者支援の基本について説明できる。さらに、保育相談支援の方法と技術について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保護者支援の実践例より、支援の内容と方法について考察し、自分の意見を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	児童福祉施設における保護者支援の実践例より、支援の内容と方法について考察し、自分の意見を述べるができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、保育相談支援とは		講義、ディスカッション				
2	家庭の変容と保育相談支援		講義		第1章を読む		
3	保育所保育指針と保育士倫理綱領からみる保護者支援		講義		保育所保育指針と倫理綱領を復習しておく		
4	子どもの最善の利益、子どもの権利		講義、グループワーク		子どもの権利条約を復習しておく		
5	保育相談支援のねらい		講義		第2章を読む		
6	受容的かわり		講義		バイステックの原則を復習しておく		
7	保育者としての価値と倫理、個人の価値観、自己覚知		演習		第2章を読む		
8	保育相談支援の進め方：より効果的な保育相談をするために		講義、演習		第3章を読む		
9	保育相談支援の技術：面接技術、電話相談		ロールプレイ、グループディスカッション		第4章を読む		
10	保育所の保育相談支援の事例①		ロールプレイ、グループディスカッション		第6章第1節を読む		
11	保育所の保育相談支援の事例①		ロールプレイ、グループディスカッション		第6章第1節を読む		
12	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例①		ロールプレイ、グループディスカッション		第6章第2節を読む		
13	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例②		ロールプレイ、グループディスカッション		第6章第2節を読む		
14	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例③		ロールプレイ、グループディスカッション		第6章第2節を読む		
15	まとめ				これまでの授業内容を復習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	○		10	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		60	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		10	
演習		○	◎	◎		20	
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。					
テキスト・参考文献等	テキスト：小林育子著「演習保育相談支援」、萌文書林、2015年、1,600円（税別）						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						

授業科目名	音 楽 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	1年
担当教員	馬渡英子・綾部資子・柏村晶子・小林祐子						
授業の概要	基礎技能（保育士資格）及び教科に関する科目（幼稚園教諭免許）としての音楽に関する基本的な知識や技術を身につけ、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得する。音楽Ⅰでは、自らが楽譜を読み、歌い、演奏できることを中心とし、音楽Ⅱで行う指導法を学習するための基礎を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	楽譜の読み方や音名等の基礎的な音楽理論を身につけている。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	保育の場での活動を意識した演奏表現を行うことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	保育の場で活用できる演奏技能を身につけている。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	オリエンテーション（授業の内容と方法）		説明		馬渡		
2	理論（音名と楽譜の読み方）・弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
3	ピアノ個人指導1		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
4	ピアノ個人指導2		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
5	ピアノ個人指導3		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
6	ピアノ個人指導4		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
7	ピアノ個人指導5		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
8	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
9	ピアノ個人指導6		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
10	ピアノ個人指導7		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
11	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
12	ピアノ個人指導8		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
13	ピアノ個人指導9		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
14	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
15	弾き歌いの発表		発表		馬渡		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		次ページに記載					
授業態度・授業への参加度		次ページに記載					
受講者の発表（プレゼン）		次ページに記載					
補足事項		次ページに記載					
テキスト・参考文献等	次ページに記載						
履 修 条 件	次ページに記載						
学習相談・助言体制	次ページに記載						

授業科目名	音 楽 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	1年
担当教員	馬渡英子・綾部資子・柏村晶子・小林祐子						
授業の概要	前ページに記載						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	前ページに記載					
思考・判断・表現	DP4：表現力	前ページに記載					
技能	DP10：専門分野のスキル	前ページに記載					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
16	理論（コード）・弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
17	ピアノ個人指導 10		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
18	ピアノ個人指導 11		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
19	ピアノ個人指導 12		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
20	ピアノ個人指導 13		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
21	ピアノ個人指導 14		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
22	弾き歌い		集団レッスン		馬渡		
23	ピアノ個人指導 15		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
24	ピアノ個人指導 16		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
25	ピアノ個人指導 17		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
26	ピアノ個人指導 18		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
27	弾き歌い		集団レッスン		馬渡		
28	弾き歌いの発表		発表		馬渡		
29	ピアノ個人指導 19		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
30	ピアノ実技発表会		発表		馬渡・綾部・柏村・小林		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート			◎				
授業態度・授業への参加度					○		
受講者の発表（プレゼン）				◎		◎	
補足事項		評価は授業態度や実技技能などから総合的に評価する。ただし、前期と後期それぞれに課する弾き歌いの試験に合格できない場合は、成績は「不可」となる。ピアノ実技や弾き歌いの課題は、授業時間外にも各自で練習すること。					
テキスト・参考文献等	テキスト①神原雅之・鈴木恵津子（監修）『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社（2010年）						
履修条件	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。						
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。						

授業科目名	音 楽 II		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	馬渡英子・綾部資子・柏村晶子・小林祐子						
授業の概要	「音楽Ⅰ」を発展させ、音楽に関する知識や技術の向上を図るとともに、音楽に関する保育教材やその指導法等について学習する。保育の場における音楽活動を意識し、共演者と共に演奏する経験を通じて、3年次に設定される保育内容「表現Ⅰ」を展開するために必要な知識や技術を身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	コードや音階、移調などの基本的な音楽理論の知識を身につけ、その知識を実際の演奏においても活用できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	保育の場における音楽活動を意識した歌唱や初見、移調演奏ができ、また、共演者を意識した連弾演奏ができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	各自にとってより高いレベルの演奏技能を身につけ、共演者を意識して演奏することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	オリエンテーション（授業の内容と方法）		説明		馬渡		
2	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
3	ピアノ個人指導1		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
4	ピアノ個人指導2		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
5	ピアノ個人指導3		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
6	ピアノ個人指導4		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
7	ピアノ個人指導5		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
8	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
9	ピアノ個人指導6		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
10	ピアノ個人指導7		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
11	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
12	ピアノ個人指導8		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
13	ピアノ実技発表会		発表		馬渡・綾部・柏村・小林		
14	弾き歌い		講義・集団レッスン		馬渡		
15	弾き歌いの発表		発表		馬渡		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	小テスト・授業内レポート	次ページに記載					
	授業態度・授業への参加度	次ページに記載					
	受講者の発表（プレゼン）	次ページに記載					
	補足事項	次ページに記載					
テキスト・参考文献等	次ページに記載						
履修条件	次ページに記載						
学習相談・助言体制	次ページに記載						

授業科目名	音 楽 II		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	馬渡英子・綾部資子・柏村晶子・小林祐子						
授業の概要	前ページに記載						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	前ページに記載					
思考・判断・表現	DP4：表現力	前ページに記載					
技能	DP10：専門分野のスキル	前ページに記載					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
16	理論1（コード、調性、移調、伴奏付け）		講義		馬渡		
17	ピアノ個人指導9		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
18	4手連弾発表・弾き歌い		集団レッスン		馬渡		
19	理論2（コード、調性、移調、伴奏付け）		講義		馬渡		
20	ピアノ個人指導10（4手連弾）		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
21	4手連弾発表・弾き歌い		集団レッスン		馬渡		
22	理論3（コード、調性、移調、伴奏付け）		講義		馬渡		
23	ピアノ個人指導11（6手連弾）		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
24	6手連弾発表・弾き歌い		集団レッスン		馬渡		
25	理論4（コード、調性、移調、伴奏付け）		講義		馬渡		
26	ピアノ個人指導12（4手連弾）		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
27	弾き歌い		集団レッスン		馬渡		
28	弾き歌いの発表		発表		馬渡		
29	ピアノ個人指導13（4手連弾）		個人レッスン		馬渡・綾部・柏村・小林		
30	ピアノ実技発表会		発表		馬渡・綾部・柏村・小林		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎					
授業態度・授業への参加度				○			
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎		
補足事項	評価は授業態度や実技技能などから総合的に評価する。ただし、前期と後期それぞれに課する弾き歌いの試験を合格できない場合は、成績は「不可」となる。ピアノ実技や弾き歌い課題は、授業時間外にも各自で練習すること。						
テキスト・参考文献等	テキスト①神原雅之・鈴木恵津子（監修）『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社（2010年）						
履修条件	音楽Iの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。						

授業科目名	造 形 I					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	櫻井国芳	通年	演習	選択	2 1年	
授業の概要	<p>幼児期の遊びにおいては、素材体験の積み上げと造形的な技能の発達が無意識のうちに展開されている。保育者は、豊富な素材体験と子どもの表現を援助できるような知識・技能をもち合わせていることが望まれると考えられる。また、つくることに親しみをもち喜びや楽しさを感じていく体験の積み重ねが、子どもの感性や表現への援助にもつながっていくと思われる。授業では様々な題材を取り上げながら、素材に対する柔軟な考えとそれに応じた技能を身につけることを目指す。特に、幼児期において展開される造形遊びについての理解を踏まえ、幼児が楽しむ技法遊び、自然の素材を生かした表現等を体験する。</p>					
<b>学生の到達目標</b>						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	色や形を仲立ちとした幼児期の表現が偶然性を伴って展開することを理解し、自己の表現にそれを反映させることができる。				
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	喜びや楽しさを感じながら描いたり、つくったりする体験を積み重ねることが、子どもの表現に対する援助につながるということを認識する。				
技能	DP10：専門分野のスキル	身近な材料を用いて、形や色・手触りなどの特性を感じ、それらをもとにイメージを広げながら描いたりつくったりできる。				
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>						
<p>1回 オリエンテーション・絵の見方と様々な表現方法のあり方について／実物投影機を用いて参照しながら、考えていく。</p> <p>2回 幼児の造形表現1技法遊び①（デカルコマニー、ステンシル）／色や形による幼児期の表現が偶然性を伴って展開することを理解する。その上で、遊び感覚の大切さを認識しながら造形遊びをする。／学習した保育教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>3回 幼児の造形表現2技法遊び②（フロッタージュ、スタンピング）／同上／同上</p> <p>4回 幼児の造形表現3技法遊び③（スクラッチ）／同上／同上</p> <p>5回 紙版画制作1／3つの調子による紙版画の制作手順の説明。下絵づくり。</p> <p>6～9回 紙版画制作2・3・4・5／下絵を基にして切り取り、版づくりを行う。／版づくりまでの過程で授業時間内に間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>10回 紙版画制作6／刷り。作品提出。</p> <p>11回 回転じゃばら製作1／回転じゃばらの製作手順の説明。展開図を描き、形をつくる。</p> <p>12～13回 回転じゃばら製作2・3／回転することを念頭におきながら配色を考え、色紙を貼り付ける。／完成までに授業時間内で間に合わない場合は、各自で製作を進めておく。</p> <p>14回 回転じゃばら製作4／作品の完成と提出。</p> <p>15回 形と音／音から得たイメージを形等で表現する。／学習した保育教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>16回 折り紙1／様々な折り方を習得しながら、簡単な折り紙による製作を行う。／学習した教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>17回 折り紙2／1で経験したことを基に、様々な折り方を取り入れて製作する。／同上</p> <p>18回 折り紙3／1・2を発展させ、複雑な折り方による製作を行う。／同上</p> <p>19回 コラージュによる絵画制作1／コラージュによる表現方法の説明。下描きをする。／制作に利用できそうな身の回りにある材料を収集する。</p> <p>20～21回 コラージュによる絵画制作2・3／下描きを基に、身近な材料を貼り付け、制作を進める。／作品の完成までに授業時間内で間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>22回 コラージュによる絵画制作4／作品の完成と提出。</p> <p>23回 カードづくり1／カードづくりの手順を説明。構想を練る。</p> <p>24回 カードづくり2／カードづくりを進める。</p> <p>25回 カードづくり3／作品の完成と提出。</p> <p>26回 張り子製作1／張り子製作の手順を説明。</p> <p>27～29回 張り子製作2・3・4／製作を進める。／作品の完成までに授業時間内で間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>30回 張り子製作5／作品の完成と提出。</p>						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）
課題の内容		◎			◎	
授業態度・授業への参加度				◎		
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。					
テキスト・参考文献等	資料などはこちらで用意します。					
履修条件	保育士資格、幼稚園免許の取得希望者に限ります。					
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可。					

授業科目名	造形Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	櫻井国芳						
授業の概要	こどもの直観力や想像力、感受性などを自由に発揮させるためには、様々な材料や道具に対する経験を積んだ指導者の感性を高めることが必須と考えられる。造形Ⅱでは、造形Ⅰで培った技能を基に材料（紙材、木材、廃材など）の多様な使い方を体験し、それに関わる技能を習得する。さらに、造形（的表現）の視点から、保育の場面において考えられる題材について体験しながら学び、身につけていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	素材や材料の様々な特性を利用することについて、保育の題材と結びつけてとらえ、説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	喜びや楽しさを感じながら描いたり、つくったりする体験を積み重ねることが、子どもの表現に対する援助につながるということを認識する。					
技能	DP10：専門分野のスキル	材料の多様な使い方を体験し、それに関わる技能を駆使して表現できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1回 オリエンテーション・五感と造形表現の関わり方／ゲーム等取り入れながら、視覚と他の感覚との関連性を考えていく。</p> <p>2回 多色刷りによる版画制作1／多色刷りの効果を用いた版画制作の手順説明。下描きを考える。</p> <p>3～4回 多色刷りによる版画制作2・3／制作を進める。／授業時間内で間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>5回 多色刷りによる版画制作4／刷り。作品提出。</p> <p>6回 パズル製作1／木材を使ったパズル製作の手順を説明。下絵を転写する。</p> <p>7～9回 パズル製作2・3・4／糸鋸を使って、木材を切り取る。やすりがけをする。／授業時間内で間に合わない場合は、空き時間を利用して制作を進めておく。</p> <p>10回 パズル製作5／塗装し、作品を提出する。</p> <p>11回 粘土による表現／水粘土や液状粘土を用いて形を表現する。／学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>12回 壁面構成1／保育室などに飾られている壁面構成を紹介し、製作の手順を説明する。／作品の完成までに授業時間内で間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>13～14回 壁面構成2・3／構想を練り、様々な材料を使いながら壁面を構成する。／同上</p> <p>15回 壁面構成4／作品の完成と提出。</p> <p>16～17回 布おもちゃ1・2／布を用いておもちゃをつくり、それを使った子どもの遊びについて理解する。／学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>18～19回 紙遊び1・2／乳幼児向きと考えられる、紙の特性を利用した題材について製作しながら、遊びに利用できることを理解する。／同上</p> <p>20～21回 絵画制作1・2／色砂を用いて、簡単な絵画制作を行う。／同上</p> <p>22回 絵画制作3／作品の完成と提出。</p> <p>23回 廃材を利用した製作1／製作手順の説明をする。／各自で牛乳パックを細かくちぎり、数日水に浸しておく。</p> <p>24～27回 廃材を利用した製作2・3・4・5／牛乳パックから紙作りを行い（紙すき）、マーブリングによって彩色する。さらに出来上がったものを箱に貼り付け製作していく。／授業時間で間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>28回 廃材を利用した製作6／作品の完成と提出。</p> <p>29回 身近なものを利用して遊ぶ／洗濯バサミ、ストロー、糸など身近にあるものを用いて遊べるものをつくり、いろいろな遊びを体験する。／学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>30回 子どもとおもちゃ／子どもとおもちゃの関わりについて理解し、それをもとにおもちゃをつくる。／学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
課題の内容		◎			◎		
授業態度・授業への参加度				◎			
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
テキスト・参考文献等	資料などはこちらで用意します。						
履修条件	造形Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可。						

授業科目名	体 育 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	池 田 孝 博						
授業の概要	<p>幼児期における身体活動の意義や運動能力の発達について学習する。また、運動指導や遊びの支援の場面で必要となる実技および安全配慮について体験する。さらに、保育現場における運動会について理解し、そのために必要な準備・練習などを学ぶ。なお、この科目は、保育士資格の必修科目、幼稚園教諭一種免許状の教科に関する科目である。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	幼児期における身体および運動能力の発育発達の特徴を理解している。運動遊びに関する運動技能の構造やコツ、練習方法について説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	運動会およびその練習の実践場面で積極的に子どもの支援に関わることができる。与えられた学習課題に積極的に取り組む姿勢を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	マット、縄（長短）、鉄棒等を用いた運動遊びや水遊びに関する基本的なスキルを修得している。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1回           ：オリエンテーション：授業概要、単位認定、出席欠席の取扱について説明する</p> <p>2～4回       ：マット運動遊びの実技と指導法①（支持運動）※実技テストを含む</p> <p>5～7回       ：マット運動遊びの実技と指導法②（回転運動）※実技テストを含む</p> <p>8回           ：幼児期における身体の発育の理解（講義）</p> <p>9回           ：幼児期における運動能力の発達の理解（講義）</p> <p>10～13回     ：水遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む</p> <p>14～15回     ：水遊びに関わる安全教育</p> <p>16～18回     ：運動会の準備・練習の実際（体験学習）</p> <p>19～20回     ：運動会の実際（体験学習）</p> <p>21～23回     ：鉄棒遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む</p> <p>24～26回     ：長縄遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む</p> <p>27～29回     ：短縄遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む</p> <p>30回          ：まとめ</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○		○		10	
宿題・授業外レポート		○		○		10	
授業態度・授業への参加度				○		50	
実技テスト					○	30	
テキスト・参考文献等	参考図書：青柳領『子どもの発育発達と健康』ナカニシヤ出版、2006年、¥3,200						
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭免許状を修得する意思がある学生						
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。						

授業科目名	体 育 Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3年
担当教員	池 田 孝 博						
授業の概要	幼児の運動指導や運動遊びの支援の計画を作成し、それを実践して検証する。また、幼児を対象とした運動能力テストの意義や具体的内容を理解し、その測定方法およびデータの集計分析方法について学習する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	幼児の運動能力測定の意義およびその発達を目的とした運動指導や遊びの支援に関する知識を有している。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	作成された計画に基づいて幼児に適切に関わる態度を有している。与えられた学習課題に積極的に取り組む姿勢を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	幼児を対象とした運動能力測定を計画し、実施できる。運動指導や運動遊び支援の計画を作成し、実践できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1回           ：オリエンテーション</p> <p>2～6回       ：幼児期の運動能力測定の意義・内容、実施方法の理解、実施準備（講義・演習）</p> <p>7～10回      ：運動能力測定の実施（実習）</p> <p>11～15回     ：運動指導の理論と指導案の作成（講義・演習）</p> <p>16～20回     ：運動指導の実践およびその検証（実習）</p> <p>21～23回     ：運動遊びの支援計画の作成（講義・演習）</p> <p>24～29回     ：運動遊び支援の実践と検証（実習）</p> <p>30回          ：まとめ</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内の課題		○				25	
宿題・授業外レポート		○		○		25	
授業態度・授業への参加度				○		25	
保育現場での演習				○	○	25	
テキスト・参考文献等	特になし						
履 修 条 件	体育Ⅰの単位を修得している学生、または履修実績があり30回中20回以上の出席実績がある学生						
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。						

授業科目名	児童文学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	2	3年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	児童文学の定義や歴史について概説する。子どもは、絵本や物語の世界に浸り、その世界を楽しみ、想像してイメージを豊かに広げていく。各自、子どもの頃、好きだった絵本や物語が、体験や表現活動に結びついたことを思い出すと共に、子ども時代に、触れたい児童文学を選び、その絵本や紙芝居の読み聞かせをする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	子どもの生活と児童文学とのかかわりについての専門的知識を体系的に身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	乳幼児の発達に応じた児童文学財について自ら調べ、考え、判断することができる。					
	DP4：表現力	児童文学におけるおとなの役割について考え、自ら意見を述べることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	伝承された児童文化財を探究し、児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサート等）を用いて実践できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		発表グループは授業前に予習しておく。 授業後は、配布資料で復習する。		
2	児童文学とは何か		講義				
3	児童文学の歴史		講義				
4	昔話		講義				
5	絵本・紙芝居		講義				
6	詩・ことば遊び		講義				
7	おはなし会について ストーリーテリング・人形劇・ペープサート・パネルシアター他		講義				
8	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
9	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
10	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
11	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
12	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
13	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
14	おはなし会の企画 絵本・紙芝居・ストーリーテリングを発表する。		講義・演習				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	◎			40	
授業態度・授業への参加度		◎	◎		○	30	
受講者の発表（プレゼン）				◎		30	
補足事項	授業内で簡単なレポートを書きます。						
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】 適宜資料を配布します。</p> <p>【参考文献】 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成20年190円＋税、厚生労働省「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 平成20年190円＋税</p>						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。						

授業科目名	子どもと遊び		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	<p>幼稚園園教育要領において、「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として行う」と記載されており、これは、保育所保育指針においても同様である。</p> <p>これを踏まえて、この講義では5領域のねらい・内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得し、また、簡単な教材作成・その活用及び指導計画（指導案）の作成と保育の展開についても学ぶ。</p> <p>そして、指導計画（指導案）をもとに模擬保育を体験し、適切な遊びの指導（援助）について理解する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	子どもの自発的な遊びと発達を踏まえて、様々な遊びに関して適切な指導（援助）を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	5領域のねらい・内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得している。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	保育における様々な遊びに関心を持ち、自ら調べ、指導計画を作成し実践することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 講義内容・評価方法について		講義		<p>担当者は、事前に指導計画（指導案）を作成し、配布できるように準備しておく。発表後は、評価・反省・課題を明確にする。</p>		
2	遊びとは何か。		講義・演習				
3	伝承遊び		講義・演習				
4	伝承遊び		<p>1. 設定保育の指導計画作成（15～20分前後）</p> <p>2. 模擬保育をする。</p> <p>3. 模擬保育終了後、教員が解説する。</p> <p>4. 各自、評価・反省、課題を考察する。</p>				
5	集団遊び じゃんけんを使った遊び						
6	集団遊び ルールのある遊び						
7	言葉あそび 手遊び・わらべうた						
8	言葉あそび なぞなぞ・幼児の伝言遊びなど						
9	いろいろな素材を使って遊ぶ 廃品を使う遊び（新聞紙遊び・おもちゃ）						
10	いろいろな素材を使って遊ぶ 廃品を使う遊び（新聞紙遊び・リズム楽器）						
11	いろいろな素材を使って遊ぶ 季節感のある自然の素材を使った遊び						
12	科学遊び		講義				
13	総合的な遊びや表現活動としての劇遊び		講義				
14	集団遊び いろいろな鬼ごっこ遊び		講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	○			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○	◎		30	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○		40	
補足事項	授業内でレポートを書くこともある。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：文部科学省「指導計画の作成と保育の展開」 フレーベル館 平成25年 250円＋税</p> <p>文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成20年 190円＋税</p> <p>厚生労働省「保育所保育指針解説書」 フレーベル館 平成20年 190円＋税</p> <p>参考文献：必要に応じて資料を配布する。</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。						

授業科目名	家庭支援論				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
					後期	講義	選択	2	3年
担当教員	杉野寿子								
授業の概要	多様性が増す現代社会において変化し続ける家庭のあり方について理解し、保育者の役割を学ぶ。高度経済成長の頃の日本と現代の日本を比較しながら、社会や子育ての変化を理解し、現代の子育て家庭のニーズを探る。身近な子育て経験者に話を聞く機会をもつなどして理解を深める。								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況について述べることができる。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	家庭支援に関する保育者の役割を理解し、事例に関する自分の意見を述べるができる。							
	DP4：表現力	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機能との連携とはどうあるべきかについてまとめることができる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、家族とは、家庭とは				講義		第1章を読む		
2	家族の意義と機能、家庭支援の必要性				講義・ディスカッション		第1、2章を読む		
3	保育者が行う家庭支援の原理				講義		第3章を読む		
4	現代の家庭における人間関係				講義		第4章を読む		
5	地域社会の変容と家庭支援				講義、DVD視聴		第5章を読み、昭和30～40年代の日本の状況を調べる		
6	男女共同参画社会とワークライフバランス				講義、新聞記事を活用		第6章を読む		
7	子育て家庭の福祉を図るための社会資源				講義		第7章を読む		
8	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				講義		第8章を読む		
9	子育て支援サービスの概要				講義、		第9章を読む		
10	保育所入所児童の家庭への支援				講義		第10章を読む		
11	地域の子育て家庭への支援				講義		第11章を読む		
12	要保護児童及びその家庭に対する支援				講義		第12章を読む		
13	子育て支援における関係機関との連携				講義		第13章を読む		
14	子育て支援サービスの課題				講義		第14章を読む		
15	まとめ				講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
定期試験		◎	◎			60			
小テスト・授業内レポート		○	○			10			
宿題・授業外レポート		◎	◎			20			
授業態度・授業への参加度		○	◎			10			
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。							
テキスト・参考文献等	テキスト：井村圭壮・相澤譲治編「保育と家庭支援論」、学文社、2015年、2,000円（税別）								
履修条件									
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。								

授業科目名	社会的養護		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。また、社会的養護における児童の人権擁護および自立支援について理解し、社会的養護の現状と課題について支援例を参考に検討していく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会的養護と児童福祉の関連を理解し、社会的養護の概念、歴史の変遷、制度を述べることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	社会的養護における保育者の子どもとその家族に対する生活支援について、事例より考察し、考えを述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会的養護と家庭的養護の課題を抽出し、探求することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、社会的養護とは		講義				
2	社会的養護の意義と変遷①		講義		第1講を読む		
3	社会的養護の意義と変遷②		講義、DVD視聴		第1講を読む		
4	児童の権利擁護：子どもの最善の利益を考える		講義		第2講を読む		
5	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護		講義		第3講を読む		
6	社会的養護の原理① 日常生活支援と自己実現に向けた支援		講義		第4、5講を読む		
7	社会的養護の原理② 虐待された子どもの理解と対応		講義		第6講を読む		
8	社会的養護の原理③ 生活文化と生活力の習得、生命倫理観の醸成		講義		第7、8講を読む		
9	社会的養護の制度と実施体系		講義		第9講を読む		
10	施設養護の実際①		講義		第10～12講を読む		
11	施設養護の実際②		講義		第10～12講を読む		
12	社会的養護の課題～事例児童養護施設退所後の人生から考える		DVD視聴、ディスカッション		第10～12講を読む		
13	家庭養護の実際① 里親制度		講義		第13講を読む		
14	家庭養護の実際② あるファミリーホームの日々		DVD視聴、小レポート		第13講を読む		
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎	○		60	
小テスト・授業内レポート			○	○		10	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		20	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		10	
テキスト・参考文献等	吉田真理編「児童の福祉を支える社会的養護」、萌文書林、2016年、2,000円（税別）						
履修条件	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						
学習相談・助言体制							

授業科目名	社会的養護内容 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	川原 富紀枝						
授業の概要	社会的養護を必要としている子どもたちの事例を通して、具体的な養育・支援の方法や実際の展開について演習討議し、社会的養護の役割についての理解を深める。さらに現場が抱える問題の固有性や、種別を超え共通する課題（方向性）についても検討・討議し説明できるまでになる。子どもたちが人としての尊厳が守られ自己実現と自立のための力を身につけられるような社会的養護であるためにも、広域にわたる児童観や養育観を形成することができ、子どもたちやその家族への支援が実践できるまでになる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	子どもの権利擁護について理解し、その基本的な考えやあり方について説明できる。家庭養護、さまざまな施設養護、その機能や役割について理解し特徴を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	個々の子どもに応じた自立支援計画を立案し、こどもの自立への理解を深める。求められる課題に関して目標を設定、様々な支援へと展開させ自らの意見も述べる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	援助の方法や技術を身につけ、援助者としての人間性や専門性の向上に努める。各関係機関との協働、連携、調整の重要性と児童家庭福祉や地域福祉等、理解し説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	授業概要についての説明・子どもの権利擁護（人権ノートについて）		オリエンテーション・演習		テキストの演習課題や事例をもとにグループ別に討議し、その都度まとめて発表していく。さらに事例を展開させ、個人でも到達目標を設定し支援の在り方等、自分の考えをレポートにまとめ提出する。		
2	養護社会的における保育士等の倫理および責務		演習				
3	施設養護（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設）の特性および実際		演習・宿題（レポート提出）				
4	（情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、障害児）の特性および実際		DVD・演習				
5	家庭養護（里親制度・ファミリーホーム事業・養子縁組制度）の特性および実際		DVD・演習				
6	社会的養護におけるケアマネジメント		演習・				
7	自立支援計画の作成		演習・計画表の作成				
8	日常生活支援に関する事例分析		DVD・演習				
9	心理的支援に関する事例分析		演習				
10	自立支援に関する事例分析		DVD・演習				
11	記録および自己評価（ケースカンファレンス）		演習				
12	社会的養護における保育士の専門性（知識・技術とその応用）		演習				
13	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）		ジェノグラム・エコマップ作成				
14	施設の小規模化と地域の関わりおよびその課題と展望		演習				
15	今後の社会的養護の課題と展望		演習・レポート提出				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○	○		40	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
宿題・授業外レポート		○	◎	○		20	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎		○	10	
演習		○	○	○	○		
補足事項	演習に関しては授業形態が演習なので成績評価割合に記入はないが授業参加度の中で評価する。						
テキスト・参考文献等	【テキスト】相澤仁・村井美樹編集「社会的養護内容」中央法規						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	口頭でも質問票でも受け付けます。授業終了後、もしくは別に時間をとって相談に応じます。						

授業科目名	社会的養護内容Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	川原 富紀枝						
授業の概要	社会的養護を必要としている子どもたちの事例を通して、具体的な養育支援の方法や実際の展開について演習討議し、社会的養護の役割についての理解を深める。さらに現場が抱える問題の固有性や、種別を超え共通する課題（方向性）についても検討・討議し説明できるまでになる。子どもたちが人としての尊厳が守られ自己実現と自立のための力を身につけられるような社会的養護であるためにも、広域にわたる児童観や養育観を形成することができ、子どもたちやその家族への支援が実現できるまでになる。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	個々の子どもたちに応じた自立支援計画を立案し、子どもの自立への理解を深める。求められる課題に関しても目標を設定し、様々な支援へと展開させ自らも意見を述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	支援の方法や技術を身につけ、援助者としての人間性や専門性の向上に努める。各関係機関との協働、連携、調整の重要性と児童福祉や地域福祉についても理解し説明できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	日常生活支援をはじめ自立支援、治療的支援、家庭調整支援などの方法や技術を習得する。専門職団体などが権利綱領などをつくる意義とその活用について確認し理解を深める。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	家庭的養護における子どもの受け入れ協議について		演習・DVD		演習課題について討議するなかで、挙がってきた疑問点など受講者が個別に調べる。または、質問票に記入し提出する。		
2	施設入所受け入れに関する施設の体制について（アセスメント表の記入事項から）		処遇プランの作成・演習				
3	施設入所後の援助指針表、技術のケア・ワークについて		演習				
4	処遇展開のケースワークとグループワークについて						
5	児童養護施設での療育関係作り						
6	問題行動に対するケアの考え方と手法について						
7	子どもの多様な感情表出に対する心理学的解釈と関わり方（セカンドステップ他）		DVD/ 演習		レポートの提出		
8	家庭的養護における里親と、施設内の里親支援専門担当職員との連携		校外学習		事前に調べ質問票にまとめておく。事後レポート提出。		
9	児童相談所や一時保護所の役割						
10	リービングケアの具体的展開とアフターケアについて		演習		参考文献や受講者が収集した資料から演習課題を挙げ討議する。		
11	苦情処理と児童福祉施設に関する法律問題		演習				
12	海外における児童養護について		DVD/ 演習				
13	家庭的養護・小規模化の方向性と今後の課題		演習				
14	家庭復帰に向けての家族調整についておよび児童家庭支援専門相談員の役割		演習				
15	社会的養護の課題と展望		演習・レポート提出				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		○	◎	○		50	
宿題・授業外レポート		○	◎	◎		20	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎		○	10	
演習		○	○	○	○		
補足事項		演習に関しては、授業形態が演習なので成績評価割合に記入はないが授業参加度の中で評価する。					
テキスト・参考文献等	【テキスト】相澤仁・村井美樹編集 「社会的養護内容」 中央法規 【参考文献】池上彰編 「子どもの貧困」 社会的養護の立場から考える 筑摩書房						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	口頭でも質問票でも受け付けます。授業終了後、もしくは別に時間をとって相談に応じます。						

授業科目名	社会福祉 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、利用者の保護にかかわる仕組みや社会福祉の課題について取り上げる。講義形式だけでなく、学生自ら社会の問題に主体的に考えることができるよう、ディスカッションやグループ発表などの授業展開を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解し説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、社会福祉とは		ディスカッション		社会福祉とは何か考える		
2	社会福祉を考える：人のライフサイクルと福祉		カードワーク、ディスカッション		社会福祉とは何か考える		
3	子どもと家族の福祉①出産から乳幼児期		講義		序章、第1章を読む		
4	子どもと家族の福祉②子どもの貧困、児童家庭福祉に関わる行政機関、施設		講義		第2章を読む		
5	子どもの権利と児童権利条約		講義・ディスカッション		児童権利条約を調べる		
6	社会福祉サービス利用のしくみ、社会的養護のしくみ		講義		P70～86を読む		
7	社会保障制度のしくみ		講義		P88～99を読む		
8	障がいのある人（子ども）の福祉、障がいのとらえ方		講義・DVD視聴		P102～125を読む		
9	ノーマライゼーションとインクルージョン		講義		P102～125を読む		
10	女性の福祉（ジェンダーを考える）		講義・ディスカッション		P126～131を読む		
11	地域福祉		講義		P134～151を読む		
12	低所得者の福祉：生活保護制度		講義		P176～198を読む		
13	高齢者の福祉と介護保険制度		講義		P200～217を読む		
14	基本的人権の尊重を考える：ハンセン病の歴史から考える		DVD視聴・ディスカッション		ハンセン病について調べる		
15	世界の福祉：同じ地球人として福祉を考える		講義・ディスカッション				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート			○			10	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	◎			10	
補足事項	毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。						
テキスト・参考文献等	テキスト：直島正樹・原田句哉編「図解で学ぶ保育 社会福祉」、萌文書林、2015年、2,100円（税抜）						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						

授業科目名	施設養護論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	4年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	社会的養護の歴史の変遷や現状を理解し、施設養護における課題をもとに今後の施設養護の支援について検討する。また、学生自身が関心のある領域における施設養護について理解を深め、プレゼンテーションを行う。実際に施設現場等で支援に従事している方をゲストスピーカーとしてお越しいただき理解を深めるとともに、施設現場への見学も行う（日程については授業開始後に案内）。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会的養護の歴史の変遷、さまざまな社会的養護の状況、施設利用者の人権擁護、施設養護における支援について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自らの課題を見つけ、それについて調べ、論理的にまとめることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2	社会的養護についての理解		講義		社会的養護の復習		
3	施設養護の歴史		講義、DVD視聴		配布資料を読む		
4	知的障害者と施設養護 糸雅一雄のラストメッセージ		DVD視聴		事前研究		
5	施設養護におけるソーシャルワーク①		講義、ディスカッション		配布資料を読む		
6	施設養護におけるソーシャルワーク②		講義、ディスカッション		配布資料を読む		
7	ゲストスピーカーによる施設養護の実際		講義、ディスカッション		配布資料を読む		
8	施設養護におけるソーシャルワーク③		講義、ディスカッション		配布資料を読む		
9	施設訪問を通して学ぶ養護の実際①		講義、ディスカッション		訪問施設研究		
10	施設訪問を通して学ぶ養護の実際②		学外授業		訪問施設研究		
11	海外の施設養護の例①		学外授業		配布資料を読む		
12	海外の施設養護の例②		講義		配布資料を読む		
13	施設養護に関するプレゼンテーション①		発表		発表準備		
14	施設養護に関するプレゼンテーション②		発表		発表準備		
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			50	
テキスト・参考文献等	なし 授業時に紹介します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	櫻井国芳・池田孝博・伊勢 慎・大久保淳子	後期	演習	選択	2	4年
授業の概要	<p>この授業は、将来保育者になる上で自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識・技能等を補い、その定着を図り、教職（保育者）生活をより円滑にスタートできることを目指すものである。内容としては、以下の事項から構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者に必要な社会的視野を広げるために、保育に関する現代的課題について分析及び検討する。</li> <li>2. 模擬保育を通して、いくつかの観点に基づきながら適切な指導案について検討する。</li> <li>3. 保育者に必要な専門性と役割、職員間・保護者との関係の構築、子ども理解と指導、クラス運営の方法等について、これまでの学修を振り返りながら、事例を考察したり、グループや全体で討議したりする。</li> </ol>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	それぞれのテーマについて現状とその問題点を調査、検討し、自分の意見を発表し、討議を進めることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	理想的な保育者像を探求したり、実践場面における事例を考察する活動において、他者の意見も参考にしながらグループ討議を進めることにより、保育者として求められる役割や子ども理解等についての認識を一層深める。					
技能	DP10：専門分野のスキル	保育の実践を多面的な観点から検討することができ、適切な指導案を作成することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	オリエンテーション（授業の意義と進め方、履修カルテの活用の仕方等）	授業の意義、ねらい、進め方等説明する。		櫻井・（大久保）			
2	保育に関する現代的な課題について1	グループごとのテーマの選択。選択したテーマについて調査・検討、全体の場での報告と討議。	報告及び討議内容を整理し、復習する。	伊勢・大久保			
3	保育に関する現代的な課題について2			伊勢・大久保			
4	保育に関する現代的な課題について3			伊勢・大久保			
5	保育に関する現代的な課題について4			伊勢・大久保			
6	教科・保育内容等の指導力に関する事項 模擬保育1	グループごとに模擬保育を実施し、いくつかの観点から指導案について検討する。	題材設定、指導案作成、材料の準備については、グループごとに事前に行う。	櫻井			
7	教科・保育内容等の指導力に関する事項 模擬保育2			櫻井			
8	教科・保育内容等の指導力に関する事項 模擬保育3			櫻井			
9	教科・保育内容等の指導力に関する事項 模擬保育4			櫻井			
10	教科・保育内容等の指導力に関する事項 体育の技能、保育内容・健康等について			池田			
11	保育者の専門性と役割、職務内容、責任等について	保育者の専門性と役割、職務内容と遵守事項責任等について、グループ討議を進める。	討議の内容について整理しておく。	大久保			
12	保育者に求められる対人関係能力について1	職員間の関係、連携のあり方、保護者への対応等について、事例を基にグループ討議を基に考える。	他グループの討議内容等も整理しておく。	大久保			
13	保育者に求められる対人関係能力について2			大久保			
14	子ども理解とクラス経営について1	子どもの発達や心身の状況に応じた保育のあり方、子どもを集団としてまとめていく手法等、事例等を基にしながら考える。		伊勢			
15	子ども理解とクラス経営について2 これまでの学習のまとめ				大久保		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎				
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎		
補足事項		授業での報告・発表、討議への参加状況等により総合的に評価する。					
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特になし。 参考文献：授業中に適宜紹介または配布するが、テーマに関わる文献や資料をグループごとに調査し収集することもこの演習の課題の一つです。</p>						
履 修 条 件	報告や討議では積極的な発言を期待します。						
学習相談・助言体制	基本的には授業中の質疑応答によるが、それ以外に電子メールでも受け付けます。						

授業科目名	幼稚園教育実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	1	3～4年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	<p>この講義は幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に、「幼稚園教育実習Ⅰ」および「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前・事後指導として、3年次後期から4年次前期にかけて実施するものである。</p> <p>なお、「幼稚園教育実習Ⅰ」の実習先幼稚園の選択、実習依頼の手続きは2年次後期に行う必要があることから、この講義とは別に2年次後期（追って連絡する）で説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	実習の事後指導を通して、実習の省察を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）	
<p>「幼稚園教育実習Ⅰ」の事前及び事後指導（3年次）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義（講義） <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的・実習の概要（実習の内容と方法、実習の時期と手続き、必要書類等）</li> </ul> </li> <li>2. 実習の内容と課題の明確化（講義）</li> <li>3. 実習に際しての留意事項（講義） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）子どもの人権・プライバシーの保護と守秘義務</li> <li>（2）実習生としての心構え</li> </ul> </li> <li>4. 実習の計画と記録（演習） <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）実習における計画と実践</li> <li>（2）実習における観察、記録及び評価（（実習日誌の作成について・記録の取り方）</li> </ul> </li> <li>5. 教材研究と模擬保育（演習）</li> <li>6. 事後指導における実習の総括と課題の明確化（講義）</li> <li>7. 実習反省会</li> </ol> <p>「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前及び事後の指導（4年次）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習オリエンテーション（講義） <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育実習Ⅱの意義・実習の内容と方法</li> </ul> </li> <li>2. 観察記録の取り方、実習日誌の作成について（講義）</li> <li>3. 指導計画（指導案）の作成と教材研究（演習）</li> <li>4. 指導計画（指導案）の作成と模擬保育（演習）</li> <li>5. 指導計画（指導案）の作成と実習に対する指導・助言（講義）</li> <li>6. 実習反省会</li> <li>7. 今後の自己課題、学習課題の明確化（講義）</li> </ol>						<p>過去の实習日誌をできるだけ多く参照し、実習の実際を理解しておくこと。</p> <p>指導計画（指導案）を作成し、模擬保育をする。その際に、全体で討議・検討するので、事前に指導内容・方法を十分に検討し、質問・疑問に答えられるように準備しておくこと。</p> <p>事前に過去の実習生の指導計画（指導案）や幼児教育・保育雑誌等を参考にして作成すること。</p> <p>模擬保育は基本的に一人ずつ行うので、事前に準備をし、十分に練習しておくこと。</p>	
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
指導案の作成・発表、模擬保育		◎	◎			50	
授業態度・授業への参加度				◎		50	
補足事項	授業での報告・発表、討議への参加、模擬保育などにより評価する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「指導計画の作成と保育の展開」文部科学省（平成25年7月改定）						
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</li> <li>② この授業を履修しないと「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」は履修できないので、3年次後期の履修科目登録の際には特に注意すること。</li> <li>③ 幼稚園教諭1種免許状の取得には、この授業1単位と「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」各2単位、計5単位が必要なので注意すること。</li> </ol>						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、実習に関する質問・疑問・不安等はいつでも電子メールで受け付け、回答する。						

授業科目名	幼稚園教育実習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	大久保 淳 子	後期	実習	選択	2	3年
授業の概要	<p>この実習は、幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に実施するものであり、原則として学生の出身地の幼稚園で3年次後期（10月下旬）に期間を定めて2週間実施する。実習を通して、幼稚園の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。また、保育の計画、観察、記録及び自己評価や幼稚園教諭の業務・職業倫理について具体的に学ぶ。</p> <p>実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として②までを体験する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。					
	DP4：表現力	保育の理論を実践的に再確認し、保育の進め方について自分の考えを適切に表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践する能力を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>以下は、本学の「幼稚園教育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「幼稚園教育実習事前事後指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…保育に参加し、幼児の実態、担任と幼児の関わり、指導・援助の実際、保育の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 幼稚園教育実習Ⅰでは、原則として②までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数</p> <p>実習協力幼稚園への実習生の配属（依頼）は、原則として一園3名以下とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。</p> <p>指導には、園長および園長が指名する実習指導担当教員に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当の先生に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は園長及び実習指導担当教員に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
誠実性、明朗性、協調性、積極性				◎		20	
子どもの理解、子どもとの関係			◎			10	
保育の観察力・分析力			◎			10	
実習態度・保育補助への参加度			◎			20	
環境設定・整備			◎			10	
指導能力・技術					◎	10	
実習日誌・記録			◎			20	
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習園からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。						
テキスト・参考文献等	<p>文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成20年 190円＋税</p> <p>ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。</p>						
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修中か履修済みでない履修できない。また、履修していても他の免許関係科目の単位修得状況、その成績によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 幼稚園教諭1種免許状の取得には、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」1単位、この実習2単位、「幼稚園教育実習Ⅱ」2単位、合わせて5単位が必要なので注意すること。</p> <p>④ 実習の説明会を実施する場合がある。</p>						
学習相談・助言体制	<p>実習期間中の質問・不安等はメールで対応します。</p> <p>複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。</p>						

授業科目名	幼稚園教育実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	2	4年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	<p>この実習は、幼稚園教諭1種免許状取得希望者で「幼稚園教育実習Ⅰ」の単位を修得済みの者を対象に実施する実習であり、原則として出身地の幼稚園で4年次前期（5月中旬）に期間を定めて2週間実施する。</p> <p>実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として③までを体験する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。					
	DP4：表現力	保育の理論を実践的に再確認し、保育の進め方について自分の考えを適切に表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>以下は、本学の「幼稚園教育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「幼稚園教育実習事前事後指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…保育に参加し、幼児の実態、担任と幼児の関わり、指導・援助の実際、保育の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 幼稚園教育実習Ⅱでは、原則として③までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数</p> <p>実習協力幼稚園への実習生の配属（依頼）は、原則として一園3名以下とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。</p> <p>指導には、園長および園長が指名する実習指導担当教員に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当の先生に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は園長及び実習指導担当教員に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
誠実性、明朗性、協調性、積極性				◎		20	
子どもの理解、子どもとの関係			◎			20	
保育の観察力・分析力			◎			10	
実習態度・保育補助への参加度			◎			10	
環境設定・整備			◎			10	
指導能力・技術					◎	20	
実習日誌・記録			◎			10	
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習園からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。						
テキスト・参考文献等	文部科学省「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 平成20年 190円＋税 ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。						
履修条件	<p>① この実習は「幼稚園教育実習Ⅰ」の単位を修得済みでない履修できない。また、修得済みであってもその成績および他の免許関係科目の単位修得状況、成績によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>② 幼稚園教諭1種免許状の取得には、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」1単位、「幼稚園教育実習Ⅰ」2単位、そしてこの実習の2単位、合わせて5単位が必要なので注意すること。</p> <p>③ 実習の説明会を実施する場合がある。</p>						
学習相談・助言体制	実習期間中の質問・不安等はメールで対応します。 複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。						

授業科目名	保育実習指導Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2～3年
担当教員	伊勢 慎・杉野寿子						
授業の概要	この授業は、人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅰ」の事前事後指導として2年次後期から3年次前期にかけて実施するものである。実習先の選択の仕方、実習依頼の手続きと必要書類等についても説明し、実際の実習手続きを行うので、保育士資格の取得希望者は必ず出席すること。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	実習の意義、目的、内容、方法、留意事項を具体的に理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育参加・補助の方法、子ども理解の方法、実習日誌の記録の仕方、子どもの年齢に応じた指導計画の作成方法等を検討することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	実習を自己点検・反省・評価し、自分の課題を抽出し、探究することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション（講義） <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習の意義と目的、実習の内容と方法、実習の手続きと必要書類等</li> </ul> </li> <li>保育所実習のポイントと実習日誌の書き方（講義） <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児の園生活と保育環境、乳幼児の活動と保育者の関わり、園行事等</li> <li>実習日誌の書き方の実際と注意事項</li> </ul> </li> <li>施設実習のポイントと実習日誌の書き方（講義） <ul style="list-style-type: none"> <li>施設での生活と保育者・指導員、障害児者の介護・援助、学習指導、施設行事等</li> <li>実習日誌の書き方の実際と注意事項</li> </ul> </li> <li>指導案の作成と模擬保育（演習） <ul style="list-style-type: none"> <li>指導案の作成・発表と討議</li> <li>絵本、紙芝居、折り紙、指人形、手遊び・指遊び等の実技を含む模擬保育の実施</li> </ul> </li> <li>実習反省会と今後の学習の進め方（演習、講義）</li> </ol>						<p>授業内容を整理・復習すること。</p> <p>過去の実習日誌をできるだけ多く参照し、実習の実際を理解すること。</p> <p>グループごとに指導案を作成・発表し、これを全体で討議・検討するので、事前に指導内容・方法を十分に検討し、質問・疑問に答えられるようにしておくこと。</p> <p>その際、過去の実習生の指導案や幼児教育・保育雑誌等を参考にすること。</p> <p>基礎的保育実技を含む模擬保育は基本的に一人ずつ行うので、事前に準備をし、十分に練習しておくこと。</p>	
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
指導案の作成・発表、模擬保育		◎	◎			50	
授業態度・授業への参加度				◎		50	
補足事項	授業での報告・発表、討議への参加、模擬保育などにより評価する。 なお、出席回数が規定の条件に達しない場合、実習生として必要な姿勢や態度、基礎的スキルが著しく欠けていると判断される場合などは「保育実習Ⅰ」の履修を許可できないことがある。						
テキスト・参考文献等	テキスト：特になし。 参考文献：東京家政大学「教育・保育実習のデザイン」研究会 編『教育・保育実習のデザイン』萌文書林						
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</li> <li>この授業を履修しないと「保育実習Ⅰ」は履修できないので、履修科目の登録の際には特に注意すること。</li> <li>実習手続きについては、必要に応じてメールによる個別の連絡や報告を求められることがある。</li> </ol>						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、実習に関する質問・疑問・不安等はいつでも電子メールで受け付け、回答する。						

授業科目名	保育実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	4	3年
担当教員	伊勢 慎・杉野寿子						
授業の概要	<p>この実習は、人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に実施するものであり、3年次の6月に保育所（園）で10日間の実習を行い、9月に原則として入所（生活）型の児童福祉施設で10日間の実習を行う。</p> <p>いずれも学生が自分の出身地の保育所、施設に実習を依頼して実施することが原則であるが、希望により田川市内の通勤可能な保育所、筑豊地区の施設で実施することもできる（ただし受け入れ人数に制限がある）。</p> <p>実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として②までを体験する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	児童の状況と場面に応じた環境設定、必要な発達支援や援助等について実践的な検討ができる。					
	DP4：表現力	保育・養護等の理論を再確認し、その進め方について自分の考えを適切に表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保育・養護等に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	状況と場面に場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践する能力を身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※「保育実習 I」では原則として②までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数</p> <p>実習生の配属（依頼）は、原則として保育所は3名以下、施設はおおむね2～4名とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。</p> <p>指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
誠実性、明朗性、協調性、積極性				◎		20	
子どもの理解、子どもとの関係			◎			10	
保育の観察力・分析力			◎			10	
実習態度・保育補助への参加度			◎			20	
環境設定・整備			◎			10	
指導能力・技術					◎	10	
実習日誌・記録			◎			20	
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習園からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。						
テキスト・参考文献等	特になし。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。						
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「保育実習指導 I」を履修中か履修済みでなければ履修できない。また履修していても、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、成績状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 必要に応じてメールによる個別指導や報告を求めることがある。</p>						
学習相談・助言体制	実習中の質問・疑問・不安等はメールで随時受け付け、回答する。また複数の教員が分担してそれぞれの実習園を訪問し、指導・助言を行う。						

授業科目名	保育実習指導Ⅱ				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	伊 勢 慎				後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	<p>「保育実習Ⅱ」における意義と目的を理解し、「保育実習Ⅰ」や諸教科の内容及びその関連性をふまえながら、保育についての総合的な視点を身につけると共に、自身の課題をより明確にして「保育実習Ⅱ」に向けての意識を高める。また、未満児を対象とした「クリスマス会」を企画・実施することで、子どもへの働きかけとその反応を実体験から学ぶ。</p> <p>この授業は人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導として実施するものである。実習に関する手続き等にもふれるので、保育士資格の取得希望者（「保育実習指導Ⅲ」受講者を除く）は必ず出席すること。</p>								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	保育士の業務内容や役割について、また適切な児童とのかかわり合い方について理解している。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	よりよい保育や援助の方法について考えることができ、また実習の場において臨機応変に適切な判断ができる力を身につけている。							
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保育実習Ⅰでの経験等をもとに自己の課題を明確にし、高い意識をもって実習に取り組むことができる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授 業 内 容							事前・事後学習（学習課題）	
1	オリエンテーション（説明）								
2	これまでの実習の反省点や課題点についての討議（実習体験をもとに課題を明確化する）							これまでの実習における自身の日誌や指導案、実習中のメモ等から、注意点や課題を確認しておくこと。	
3	「保育実習Ⅱ」の意義と目的								
4・5	実習日誌の書き方についての討議							これまでの実習における自身の日誌から注意点や課題を確認しておくこと。	
6～11	未満児を対象にした「クリスマス会」の企画と準備							必要に応じて、時間外にも各自あるいはグループで練習や準備を進めること。	
12	「クリスマス会」の実施								
13・14	指導案の書き方についての討議							これまでの実習における自身の指導案から注意点や課題を確認しておくこと。	
15	まとめ								
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
授業態度・授業への参加度				◎		50			
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		50			
補足事項	授業計画に記した内容に加えて、各学生に実践的課題を課す。評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。								
テキスト・参考文献等	特になし。必要な資料については適宜、配布する。								
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この授業を履修しなければ「保育実習Ⅱ」は履修できません。履修科目の登録の際には特に注意すること。</p> <p>③ この授業以外にも必要に応じて説明会等を行うことがあるので、必ず出席すること。</p>								
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答で対応するが、質問等は随時メールでも受け付ける。								

授業科目名	保育実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	実習	選択	2	3年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	この実習は、人間形成学科の学生で「保育実習Ⅰ」の単位修得済みの者を対象に実施する、保育所（園）での10日間の実習であり、原則として出身地の保育所（園）で3年次の後期（2月下旬）に行う。そのねらいは、「保育実習Ⅰ」での保育所実習の経験を基に、自ら実習先施設を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、社会的背景、児童の生活状況・課題等をより深く理解するとともに、保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術等を習得することである。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	児童の状況と場面に応じて適切な判断、実践的な検討を行うことができる。さらに、現場での実践者の立場に立ち、適切な保育を判断、検討を行うことができる。					
	DP4：表現力	保育・養護の理論を実践に活用しつつ、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	保育士を目指す者として、必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	児童の現状を鑑み、保育、援助のあり方について検討し、指導の計画、実践を工夫し、実践できる技術を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導Ⅱ」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを観察して学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>2. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。 指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>3. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	実習に対する姿勢・態度			◎		50	
	実習に対する取り組み方		◎		◎	50	
補足事項		実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習施設からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。詳しくは「保育実習指導Ⅱ」で説明する。					
テキスト・参考文献等	特になし。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。						
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は「保育実習Ⅰ」の単位を修得していないと履修できない。また修得済みであっても、その成績、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、履修状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 必要に応じて説明会等を行うので、必ず出席すること。</p>						
学習相談・助言体制	実習期間中の質問・不安等はメールで随時受け付ける。複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。						

授業科目名	保育実習指導Ⅲ					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	杉野寿子	後期	演習	選択	1 3年	
授業の概要	<p>「保育実習Ⅲ」における意義と目的を理解し、「保育実習Ⅰ」や諸教科の内容及びその関連性をふまえながら、保育・養護についての総合的な視点を身につける。また、保育所以外の施設における保育や養護について、実践事例等を通して理解を深める。さらに、以前の実習経験等をもとに自己の課題を明確化し、「保育実習Ⅲ」に臨む意識を高める。</p> <p>この授業は人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅲ」の事前事後指導として実施するものである。実習に関する手続き等にもふれるので、保育士資格の取得希望者（「保育実習指導Ⅱ」受講者を除く）は必ず出席すること。</p>					
<b>学生の到達目標</b>						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	他専門職や他機関との関わり方も含め、施設保育士の業務内容や役割について理解し、説明できる。				
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、意見を述べることができる。				
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保育実習Ⅰでの経験等をもとに自己の課題を明確にし、保育実習Ⅲに臨む意識について述べるができる。				
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>						
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の方法等）					
2	これまでの実習の反省・課題について 実習体験等による課題の明確化		先の実習で指導を受けた日誌等から、注意すべき点や改善点等を確認しておくこと。			
3	「保育実習Ⅲ」の意義・目的					
4~7	施設の機能と役割について ・施設を取り巻く環境 ・子ども、利用者を取り巻く生活環境	資料を用いて説明、施設等に関するビデオの活用	授業内容と関連するトピックについて、事前に資料等を読んでおく。			
8	実習を行う施設についての発表	学生による発表	一人一人が課題を設定して取り組み、その結果を発表する機会を設ける。そのため、資料収集等の活動が事前事後の学習において必要となる。			
9~11	子ども、利用者とのかかわり方と援助方法について ・発達からみた子どものかかわり ・保護者や家庭への支援のあり方	資料を用いて説明、施設等に関するビデオの活用	授業内容と関連するトピックについて、事前に資料等を読んでおく。			
12・13	施設保育士の役割と資質について ・施設内外の他専門職や他機関のかかわり					
14・15	「保育実習Ⅲ」に向けた準備や心構えについて ・実習におけるマナーや態度 ・実習日誌について	資料を用いて説明				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート				◎		20
授業態度・授業への参加度				◎		20
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			60
テキスト・参考文献等	特になし。必要な資料については適宜、配布する。					
履修条件	<p>①履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>②この授業を履修しなければ「保育実習Ⅲ」は履修できません。履修科目の登録の際には特に注意すること。</p> <p>③この授業以外にも必要に応じて説明会等を行うことがあるので、必ず出席すること。</p>					
学習相談・助言体制	授業以外においては、質問等は随時メールでも受け付ける。					

授業科目名	保育実習Ⅲ				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	杉野寿子	後期	実習	選択	2	3年		
授業の概要	<p>この実習は、人間形成学科の学生で「保育実習Ⅰ」の単位修得済みの者を対象に実施する、保育所以外の施設での実習であり、3年次の後期（2月下旬）に行う。</p> <p>そのねらいは、「保育実習Ⅰ」での施設実習の経験を基に、自ら実習先施設を選択して実習することにより、その施設の目的と機能、社会的背景、利用者の生活状況・課題等をより深く理解し、施設保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術等を習得することである。</p>								
<b>学生の到達目標</b>									
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保育・養護の理論と実践の関係を具体的に理解し、それを基に状況に応じた適切な判断を行い、そのことについて理論的に説明することができる。							
	DP4：表現力	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。							
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	施設保育士を目指す者として、必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。							
技能	DP10：専門分野のスキル	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導Ⅲ」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを観察して学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※「保育実習Ⅲ」では原則として③までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数 実習生の配属（依頼）は、原則として施設はおおむね2～4名とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導 実習生は職員に準じて勤務実習する。 指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>									
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
実習に対する姿勢・態度				◎					
実習に対する取り組み方			◎		◎				
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習施設からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。詳しくは「保育実習指導Ⅲ」で説明する。								
テキスト・参考文献等	特になし。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。								
履修条件	<p>①履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>②この実習は「保育実習Ⅰ」の単位を修得していないと履修できない。また修得済みであっても、その成績、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、履修状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③必要に応じて説明会等を行うので、必ず出席すること。</p>								
学習相談・助言体制	実習期間中の質問・不安等はメールで随時受け付ける。また複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。								

授業科目名	相談援助		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年次
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	授業の前半では、相談援助の意義・機能、対象、視点、原則などを講義形式にて説明する。後半では、相談援助の展開で必要とされる知識・技術、態度等の演習を行う。また、相談援助の事例を用いて社会資源の活用・調整、多職種間の連携、援助の具体的展開など、ディスカッションを交えながら演習を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	相談援助に必要な基礎的知識を修得し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	相談援助の対象とそのニーズを理解し、適切な支援を検討できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	相談援助の展開に必要なスキルを修得し、活用できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容			事前・事後学習（学習課題）			
1	オリエンテーション、相談援助の基本（相談援助の意味、視点、ソーシャルワーク）			テキスト第1章			
2	相談援助の意義と機能			テキスト第2, 3章を読む			
3	保育とソーシャルワーク、保育ニーズの変化			テキスト第4, 5章を読む			
4	相談援助の過程			テキスト第6章を読む			
5	相談援助の技術とアプローチ（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）			テキスト第7章を読む			
6	相談援助の原則（バイステックの原則）			テキスト第2章台2節を読む			
7	相談援助における社会資源の活用、関係機関との連携			テキスト第9, 10章を読む			
8	対人援助における基礎①コミュニケーション・・・グループに分かれて演習			レポート作成（後日提出）			
9	対人援助における基礎②自己覚知と他者理解・・・グループに分かれて演習			レポート作成（後日提出）			
10	相談援助における面接技法①・・・グループに分かれて演習			配布資料の読み演習準備			
11	相談援助における面接技法②・・・グループに分かれて演習			配布資料の読み演習準備			
12	相談援助の事例①保育所・・・ディスカッション			テキスト第11章を読む			
13	相談援助の事例②児童養護施設・・・ディスカッション			テキスト第12章を読む			
14	相談援助の事例③福祉型障害児施設・・・ディスカッション			テキスト第13章を読む			
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		○	○		○	10	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度			○		◎	10	
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。					
テキスト・参考文献等	テキスト：相澤譲治ほか編『児童家庭福祉の相談援助』、建帛社、2014年、1,900円						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						

授業科目名	児童家庭福祉		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	児童とその家族の社会的背景を学び、基本的人権や児童の権利、関連する児童福祉の理念および福祉施策など、基本的知識の理解を深める。また現代社会における児童に関する問題や課題をあげ、児童と家族への支援のあり方を考える。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	児童福祉に関する専門的知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、児童家庭福祉の意義		講義、ディスカッション		第1章基礎編を読む		
2	児童家庭福祉の歴史の変遷		講義		第1章基礎編を読む		
3	児童家庭福祉の構造と児童観		講義		第1章発展編を読む		
4	児童家庭福祉と保育		講義		第2章基礎編を読む		
5	子どもの権利		講義		第2章基礎編を読む		
6	子ども観の変遷		講義		第2章発展編を読む		
7	児童家庭福祉の制度と実施体系		講義		第3章基礎編を読む		
8	児童福祉施設と専門職		講義		第3章基礎編を読む		
9	少子化と子育て支援サービス、母子保健と児童の健全育成		講義		第4章基礎編を読む		
10	児童虐待、ドメスティックバイオレンス		講義		第4章基礎編を読む		
11	社会的養護、障がいのある子どもの暮らし		講義		第4章基礎編を読む		
12	ひとり親家庭		講義		第4章発展編を読む		
13	児童家庭福祉の課題と展望		講義		第5章基礎編を読む		
14	諸外国の動向（世界の子ども）		講義		第5章基礎編を読む		
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎	○			10	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。					
テキスト・参考文献等	吉田真理著「児童の福祉を支える児童家庭福祉」萌文書林、2016年、2,000円（税別）						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						

授業科目名	国際教育文化交流論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	高 仁 淑		後期集中	講義	選択	2	3年
授業の概要	「国際教育文化交流論」では、東アジアを中心とした地域社会と教育の現状について理解を深めるとともに、その課題と論点について国際・比較教育文化交流学的な視点から事例を紹介します。そして海外調査の事例から国際化・国際協力のあり方を考えます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	国際化の多義的な概念理解やグローバル化の国際教育文化交流を体系的に学べます。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	国際共存問題、国際協力のあり方や真の国際交流を考察するようになります。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	国際教育文化交流とは何か		講義		資料配布しますので、読んでおくことをおすすめします。		
2	国際化と教育		講義及び対話型		〃		
3	東アジアの交流の現状		講義及び対話型		〃		
4	日韓文化論の概要		講義及び対話型		〃		
5	グローバル化と国際交流		講義及び対話型		〃		
6	グローバル化と留学生		講義及び対話型		〃		
7	グローバル化と教育移民		講義及び対話型		〃		
8	OECD 参加国の少子・高齢化の問題		講義及び対話型		〃		
9	子育て支援：保育・幼児教育の現状と政策（OECD 比較検討）		講義及び対話型		〃		
10	世界学力調査と教育改革の動向		講義及び対話型		〃		
11	民族共生と国際教育		講義及び対話型		〃		
12	ライフスタイルの変化と家族の国際化		講義及び対話型		〃		
13	国際結婚と多文化家族		講義及び対話型		〃		
14	地域社会における国際交流		講義及び対話型		〃		
15	総まとめ		講義及び対話型		〃		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			70	
その他		○	○			30	
補足事項		文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます。					
テキスト・参考文献等	初回に適宜紹介し、資料を配付します。 文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	その都度対応します。						

授業科目名	社会教育特講 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	農 中 茂 徳						
授業の概要	人権教育・啓発のとりくみは平成12年に成立した法律によって転機を迎え、とりくむべき内容を、国は「課題」として福岡県は「分野」として示した。この授業では、看過されがちな日常の暮らしの中の事象に着目し、そこに存在する普遍的な人権の諸課題について学んでいく。そのための柱として「制度」「障害」「炭鉱」「性」「平和」「同和問題」等を設定する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	身近な暮らしの中に存在する人権の諸課題に気づき、差別と人権の関係性を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	個別の具体的な事例から、普遍的なものを導き出し、「差別をしない」という認識から「差別をなくす」という認識に到達する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	人権と社会教育	自由討議	参考図書・参考資料				
2	同和教育から人権教育・啓発へ	講義	国の『基本計画』および福岡県の『基本指針』				
3	「障害」の理解	講義	用語および制度の確認				
4	「障害」観を問い直す	講義	神話と『障害者の権利条約』				
5	「地域所属」のとりくみ	講義	拙稿「戦略としての『地域所属』」				
6	原点としての同和教育	講義	社用紙と統一応募用紙				
7	『菜の花』『水平社宣言』	16ミリ映画の視聴	16ミリフィルム、映写機				
8	旧産炭地の諸問題	講義	暮らしの分断と共生				
9	『復権の塔』と炭鉱絵	フィールドワーク	炭鉱（ヤマ）からの伝言				
10	筑豊、三池、沖縄	講義	『写真万葉録筑豊』『三十棟の少年』他				
11	人生のつまずきと「性」	ワークショップ、講義	期待されることと思ひこみ				
12	「性」の学びの再構成	講義	拙稿「人生を分岐する性の学び」				
13	「平和」を絵にする	ワークショップ、講義	『種子を粉にするな』を読み解く				
14	ケーテ・コルヴィッツと魯迅	DVD 視聴、講義	拙稿「『平和の絵』を描くこと」				
15	「差別をしない」から「差別をなくす」へ	映画の視聴、自由討議	資料の確認				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			30	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度			○			10	
テキスト・参考文献等	授業ごとに資料を配布する。参考文献については一覧表にして提示する。						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	随時、相談に応じる。小レポートに等の内容を参考に助言・応答を行う。						

授業科目名	社会教育特講B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	女性解放のための自己形成に必要な知識や力量の獲得を目指して展開されてきた女性問題学習の歴史と背景、内容と方法、公的社会教育や職員の役割などに関して概説する。女性問題学習は、今日の社会教育の重要な一領域である。のみならず、社会問題教育に共通する性格をもつので、現存の社会で生きにくい成人の自己教育を原動力に発展してきた社会教育の特徴も学ぶことができる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	女性問題と社会教育に関する専門の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	女性問題と社会教育に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	講義のねらいと対象						
2	女性問題と社会教育（1910～20年代）						
3	女性問題と社会教育（1930年代～1945年）						
4	戦後日本の教育改革と女性問題						
5	女性問題と社会教育（1950年代）						
6	女性問題と社会教育（1960年代）						
7	「婦人教育」から女性問題学習へ～背景と意義～						
8	女性問題学習の特徴と社会教育の意義						
9	女性問題学習の内容と方法・1						
10	女性問題学習の内容と方法・2						
11	新性別役割分業と生涯学習政策						
12	女性政策・「男女共同参画」政策と社会教育						
13	社会教育法、教育基本法「改正」と社会教育～ジェンダーの視点から						
14	男女平等と社会教育～社会教育の意義と課題						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
課題レポート		◎	◎				
テキスト・参考文献等	参考文献：中藤洋子『女性問題と社会教育～ジェンダー視点に立つ成人の教育・学習論への試み』ドメス出版、2005年						
履 修 条 件	「社会教育論」の履修が望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の講義終了後や時間を設定して研究室で、など。メールは時間の設定に活用。						

授業科目名	社会教育特講 C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	植 上 一 希						
授業の概要	<p>社会活動への参加（ボランティア）の促進を考えるにあたって、この授業では現代青年層に着目して、彼らの社会参加をめぐる諸論点を検討する。具体的には、青年層にとって、社会とはそもそも何なのか、彼らが社会に参加する回路とはいかなるものか、そして、それを支援・保障するための方策にはいかなるものがあるのか、といった点である。自身が青年である受講生のみなさんの積極的な参加・議論をもとにこうした諸論点について、それぞれが理解を深めていく事を目的とする。</p> <p>なお、受講生の人数や状態をみて、授業内容は随時変更する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	青年の社会参加に関する教育学的・社会学的知見の獲得。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自身が青年である受講生たちが、主体的に社会参加を論理的に考え、表明できること。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション～ボランティア：社会参加について						
2	現代青年の社会参加の困難						
3	社会への「絶望」から考える～「希望は戦争」						
4	青年をとらえる視点～ノン・モラルとイノセンス						
5	イノセンスを超えるために～権力の分有						
6	「誰にも見られていないかもしれない」という不安						
7	青年の生きづらさ①～ ASIAN KUNG-FU GENERATION と amazarashi を題材に						
8	青年の生きづらさ②～第1回から第7回までのまとめ						
9	青年が社会参加していくための回路①～青年の日常世界の回復						
10	青年が社会参加していくための回路②～学校という世界を通じての社会参加						
11	青年が社会参加していくための回路③～労働の世界への参加の困難						
12	青年が社会参加していくための回路④～労働の世界に対してどう対峙し、参加を考えるか						
13	青年が社会参加していくための回路⑤～消費社会をいかにとらえるか						
14	青年が社会参加していくための回路⑥～政治的参加をいかにとらえるか						
15	総括						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
ワークシートの作成		○	○			30	
期末レポート		◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			30	
テキスト・参考文献等	<p>参考書：  豊泉周治『若者のための社会学』はるか書房、星雲社、2010年。  豊泉周治・鈴木宗徳・伊藤賢一・出口剛司『＜私＞をひらく社会学』大月書店。</p>						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業の前後に質問に応じる。また講師の勤務先の福岡大学における指導も可。						

授業科目名	社会教育特講D				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 田中喜久				後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>現代社会において「マスコミュニケーション」の与える影響は大きい。この授業では、マスコミュニケーションの歴史と新聞、雑誌、テレビ、ラジオの4媒体及びインターネット等の特性について述べ、その受け手である大衆の心の動きについて考察を行う。</p> <p>さらに、マスメディア及びWEBについてもその特性について解説を行い、受け手である生活者が適切な判断と行動を行うためのポイントについて考察を行う。</p>								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	マスメディア及びインターネットの歴史と特性について理解を深め、自ら正しい情報を選択する手法を身に付けることができる。授業で学んだことを実際の消費行動の中で生かしていく。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	コミュニケーションとは何かを自ら考え、主体的な感性を磨くことができる。マスメディアについて関心を持ち、講義終了後は、当該メディアについて新しい目で観察、評価していく。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	コミュニケーションとはその基本的な「仕組み」とメディアのもつ特性について				VTR使用と講義				
2	マスコミュニケーションの存在意義 現代における大衆（マス）とメディアの相互関係について				以下、同じ				
3	言語と映像①－意味とイメージ 情報構成の核となる「言葉」（意味）と「映像」（イメージ）について考察								
4	言語と映像②－映像の影響力 手塚治虫のアニメーション映像に見る「イメージとコミュニケーション」								
5	マスメディアの歴史と特性 マスメディアの歴史は、社会のコミュニケーション範囲の拡大の歴史								
6	日本型マスメディアの形成（戦前）								
7	日本型マスメディアの形成（戦後）								
8	テレビ的コミュニケーション 20世紀後半、テレビが果たした役割とその功罪について								
9	日本の広告費の推移								
10	広告の存在意義と広告が創り出す価値とは								
11	情報の「受け手」についての考察～「三層構造」								
12	広告「クリエイティブ」は何を創造するのか								
13	戦後を特徴づけたキーワードと三つの商品								
14	SNSコミュニケーションについて								
15	情報化社会の中で賢く生きること、メディアリテラシーについて								
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
授業内レポート		○	◎			30			
期末レポート		◎	○			50			
授業態度・授業への参加度		◎	○			20			
テキスト・参考文献等	特になし								
履修条件									
学習相談・助言体制	授業内容についての質問は直接口頭または文書により回答する。 その他の質問等については、授業終了後に対応する。								

授業科目名	社会教育特講E		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	田中友佳子	後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	本講義ではまず、日本の子育てや子ども観、子どもの学びや遊びの歴史の変容に、社会教育がどのように関係してきたのかについて学ぶことから始める。その上で、現代日本が抱えている子ども、家族、地域社会をめぐる課題を解説し、社会教育や児童福祉等による連携のもと、どのような取り組みが行われているのか、これから行っていくべきかを考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	日本における子どもの養育・教育の歴史の変容とその意味を理解し、説明できる。社会教育とともに児童福祉やジェンダーに関する基礎的知識を連続的に理解し、活用できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	子どもや家族、地域社会に関する現代的課題を理解し、考察することができる。史資料を読み解き、自分の考えをもって議論に参加することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション	講義					
2	歴史からみる子どもと社会教育① 近世日本の子育て文化と子どもの学び	講義					
3	歴史からみる子どもと社会教育② 近代化による子育ての変容	講義					
4	歴史からみる子どもと社会教育③ 近代学校制度の導入とその<外>の子どもたち	講義					
5	歴史からみる子どもと社会教育④ 社会教化事業と家族への介入	講義					
6	歴史からみる子どもと社会教育⑤ <家族の戦後体制>の成立	講義					
7	歴史からみる子どもと社会教育⑥ 高度経済成長期の子どもの学びと遊びの変化	講義	レポート課題配布、事前準備				
8	小括、授業中レポート提出	講義					
9	社会教育と子どもをめぐる課題① 少子化の社会問題化と社会教育施策・実践	講義					
10	社会教育と子どもをめぐる課題② <子どもの貧困>問題への社会教育的アプローチ	講義					
11	社会教育と子どもをめぐる課題③ 社会的養護に期待される変化と社会教育の役割	講義					
12	社会教育と子どもをめぐる課題④ 子どものマイノリティを知る、寄り添う	講義					
13	社会教育と子どもをめぐる課題⑤ 子どもの<居場所>と地域作り	講義					
14	社会教育と子どもをめぐる課題⑥ 子どもの権利条約と社会教育のこれから	講義	レポート課題配布、事前準備				
15	総括、授業内レポート提出	講義					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			60	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			40	
補足事項	授業態度・授業への参加度は、授業中の参加姿勢とコメントシートの内容で総合的に判断する。						
テキスト・参考文献等	テキストは指定しない。参考文献は小川利夫・高橋正教編著『教育福祉論入門』光生館, 2001年 / 佐藤一子『子どもが育つ地域社会—学校五日制と大人・子どもの共同』東京大学出版会, 2002年 / 田中治彦編著『子ども・若者の居場所の構想』学陽書房, 2001年など。その他、授業中に参考文献を紹介したり、適宜プリントを配布して補足を行う。						
履修条件	「社会教育論」「児童家庭福祉」を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	随時相談に応じる。毎回授業の最後に記入するコメントシートなどでも相談可。						

授業科目名	キャリア教育論					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	植 上 一 希	後期	講義	選択	2 3年	
授業の概要	近年、若年層のキャリア形成は大きな転機を迎えている。自身のキャリア形成について、漠然としたイメージではなく、数年後の将来として主体的に考えることが求められている。自身のキャリア形成を主体的なものとするためには、現在の社会状況に対する社会認識ならびにキャリア形成を行うための主体的な知の技法が必要となる。こうした観点から、授業では、キャリア形成に必要な知の獲得を目指す。					
学生の到達目標						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	キャリア形成に関する教育的ならびに社会的知見を具体的に獲得すること。				
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	キャリア形成に関する社会認識ならびに自己認識をロジカルに展開できること。				
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）						
回	授 業 内 容				事前・事後学習（学習課題）	
1	オリエンテーション～「キャリア」ってなんだろうか？					
2	あなたは「何者」ですか？～「大人になる」って何だろうか？					
3	「キャリア形成シート」を書いてみよう					
4	職業世界のなかで大人になる①					
5	職業世界のなかで大人になる②					
6	「大人になる」ことの変化とそれへの向き合い方					
7	「なりたい自分」になる					
8	進路について考える					
9	結婚する？しない？					
10	企業研究・業界研究の仕方①					
11	企業研究・業界研究の仕方②					
12	労働者としてキャリアを形成していくために①					
13	労働者としてキャリアを形成していくために②					
14	社会を知ること、自分を知ること、大学で学ぶということ					
15	総括					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
授業内レポート		○	○			10
期末レポート		◎	◎			80
授業態度（感想コメント）		○	○			10
テキスト・参考文献等	参考文献：植上一希・寺崎里水・藤野真『大学生になるってどういうこと？』大月書店、2014年					
履修条件						
学習相談・助言体制	授業の前後の時間に質問に応じる。なお、講師の勤務先である福岡大学における相談も可。					

授業科目名	現代社会論C (情報社会と法)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	森脇敦史						
授業の概要	現代が情報化社会と言われて久しいが、特に近年では、インターネットの発達を契機として、情報が持つインパクトが巨大化している。社会に流通する情報の量は爆発的に増大し、技術革新による情報媒体の変化は、社会・経済秩序の構造そのものに大きな影響を与えている。本講義では、社会の情報化によって生じる法の変化および、法によって変化する情報社会のあり方を検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	情報社会の進展と、法の変化との相互作用について理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス……メディアの現状、表現の自由概論		講義		テキストの該当部分（授業で指示します）を読んでおくこと。		
2	メディア法①……取材活動の自由		講義				
3	メディア法②……名誉毀損		講義				
4	メディア法③……ヘイトスピーチ		講義				
5	メディア法④……プライバシー		講義				
6	メディア法⑤……わいせつ、児童ポルノ、青少年保護条例		講義、				
7	メディア法⑥……放送制度		講義				
8	個人情報保護①……個人情報保護法制の全体像、「個人情報」		講義				
9	個人情報保護②……「個人データ」		講義				
10	個人情報保護③……「保有個人データ」、「匿名加工情報」		講義				
11	情報公開①……情報公開制度の必要性、開示対象と手続		講義				
12	情報公開②……不開示情報		講義				
13	インターネットと法①……インターネット上の権利侵害		講義				
14	インターネットと法②……プロバイダー、検索エンジンの責任		講義				
15	著作権		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
テキスト・参考文献等	鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法』ミネルヴァ書房（2011年）						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール（moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp）で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						

授業科目名	社会統計学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	杉野元亮						
授業の概要	統計というと数学を連想して嫌う人が多いが、統計の見方を会得しないでは、経済や社会の動きを正しく理解し、事に処して正しい判断を下すことは出来ない。この講義では統計データの適切な見方、記述の仕方、それに統計の使い方の基本知識をわかりやすく説明をおこなう。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	統計的技法の知識が習得できる。専門分野のレポート作成に活用できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	論理的なものの見方・考え方ができる。統計的技法を使用的確な考察（判断）ができる。					
	DP4：表現力	実践力を高め、数値に基づいた的確な表現ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	統計学とはどんな学問であるか		講義		授業時間後の重要箇所の理解度を確認するため、復習を行うこと。また、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。		
2	統計的なものの見方、考え方		講義				
3	標本データのまとめ方		講義・演習				
4	度数分布・母集団の特性		講義・演習				
5	中心的傾向の特性		講義・演習				
6	散らばりの特性		講義・演習				
7	ゆがみの特性		講義・演習				
8	多変数データのまとめ方－関係分析		講義・演習				
9	相関分析（1）		講義・演習				
10	相関分析（2）		講義・演習				
11	回帰分析（1）		講義・演習				
12	回帰分析（2）		講義・演習				
13	多重回帰分析（1）		講義・演習				
14	多重回帰分析（2）		講義・演習				
15	記述統計のまとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト（課題）・宿題		◎	◎			30	
授業態度		◎	◎				
テキスト・参考文献等	白砂 堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年						
履修条件	特になし。電卓を使用するので、毎時間持ってきてください。						
学習相談・助言体制	授業終了後、受付・回答						

授業科目名	社会調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1・2年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	<p>本学で開講される社会調査関連科目の出発点として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項について講義する。具体的には、社会調査の種類と方法、社会調査の諸段階、国勢調査等の活用、社会調査結果の読み方、社会調査の倫理などについて概論的に取り上げる。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	問題意識に応じて、適切な社会調査の方法を選択し、遂行できる能力を修得する。					
	DP4：表現力	調査で得られたデータを適切に整理し、報告書やエスノグラフィーを作成できる能力を修得する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	社会調査において、自らの問題意識や研究設問を適切に設定する能力を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション——基本用語の解説		<p>それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）に基づいて講義します。</p> <p>適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進めます。</p>		<p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はレジュメとテキストの該当箇所（各回の講義内で指示）を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p>		
2	社会調査の目的と必要性①——歴史上の社会調査						
3	社会調査の目的と必要性②——社会福祉学、アメリカ社会学と社会調査						
4	社会調査の目的と必要性③——「社会調査」へのリテラシー						
5	社会調査の事前準備①——量的調査と質的調査、二次分析とメタ分析						
6	社会調査の事前準備②——先行研究の探し方						
7	社会調査の事前準備③——心構えと調査倫理						
8	量的調査の方法①——サンプリングから配票まで						
9	量的調査の方法②——調査票・質問文の作り方						
10	量的調査の方法③——量的調査の分析方法						
11	質的調査の方法①——全体的な進め方						
12	質的調査の方法②——面接の方法						
13	質的調査の方法③——フィールドノートと構造化						
14	質的調査の方法④——エスノグラフィーの書き方						
15	社会調査の倫理						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			○	○		80	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		20	
補足事項		期末試験：筆記試験（持ち込み不可）					
テキスト・参考文献等	参考文献：玉野和志『実践社会調査入門』（世界思想社）、その他の参考文献は配布資料内で紹介。						
履修条件	特になし。社会調査士A科目。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。						

授業科目名	医学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	柴田 洋三郎	後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>医学の入門として、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防およびその背景に関する理解を深め、ヒトの健康とは何かを、各人の生活のなかで考える。</p> <p>人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常習慣との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し身につける。</p> <p>疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、および連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割を習得する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人体構造と心身機能の概略を、成長・発達や日常習慣との関連から、基礎的知識として理解する					
	DP2：専門・隣接領域の知識	現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防および背景に関して概略を述べることが出来る。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度を考察し、チーム包括ケアの中で果たすべき役割を適切に判断できる。					
技能	DP9：健康スキル	各人の健康維持や、疾病予防に必要な基本的な生活態度を習得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容					事前・事後学習（学習課題）	
1	医学とは：その歴史と領域および役割					資料配布	
2	からだの基本構造と機能					テキスト 26-52 ページ	
3	身体および精神の成長発達と老化					同 1-23 ページ	
4	疾病の病理：炎症、腫瘍、感染症など					資料配布	
5	疾病の概要：生活習慣病、悪性腫瘍					54-60 ページ	
6	疾病の概要：心疾患、高血圧、腎・泌尿器疾患					66-71、86-89 ページ	
7	疾病の概要：脳血管障害、神経疾患、難病など					61-65、105-109 ページ	
8	疾病の概要：内分泌疾患、糖尿病、呼吸器					72-78 ページ	
9	疾病の概要：消化器、血液疾患					79-85 ページ	
10	疾病の概要：免疫疾患、骨・関節疾患、肢体不自由					94-96、135-138 ページ	
11	障害の概要：視覚、聴覚、平衡覚					97-100、124-134 ページ	
12	障害の概要：精神障害、知的障害、発達障害					142-147、158-162 ページ	
13	認知症などの医学的理解					148-157 ページ	
14	リハビリテーション概要					163-182 ページ	
15	テーマ学習：健康とは					196-213 ページ グループ討議	
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			30	
小テスト・授業内レポート		◎	○			15	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○		○	○	15	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			10	
補足事項	ICFについては、指定科目の障害者福祉で学習します。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：「人体の構造と機能及び疾病—医学一般」新社会福祉士養成講座1 中央法規（2,200円）</p> <p>参考書：「医学一般 人体の構造と機能及び疾病」精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー1. へるす出版（2,200円）：やや詳細      その他の文献：講義の中で適宜紹介します。</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	<p>1. 毎時間、前回授業の主な質問について解説します。</p> <p>2. それ以外は、オフィスアワー（水曜日午後）を活用して下さい</p>						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期 4年前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	福 田 恭 介						
授業の概要	心理学に関する卒業論文を完成させるために必要な知識と技能を獲得することが目的である。このような経験をするには、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。そのために、①文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を身につける。②心理学の専門領域に関する基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、これらを活用する能力を身につける。③それぞれ問題意識を明確にし、卒業論文作成に取りかかるため仮説の立て方、目次の構成の仕方、実験計画の立て方、実験実施の仕方、データのまとめ方、統計検定の適用の仕方、卒業論文の書き方について理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	心理学における卒業研究に必要な文献をレビューして報告ができるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	心理学研究のための仮説を報告できるようになる。 心理学における実験・調査の計画立案・実施ができるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理学に関する実験や調査を実施し、データ分析ができるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）			
1～6	<input type="checkbox"/> 指導教員の研究領域と自分の目ざす領域を融合させ、研究の方向性について絞り込みを行う。 <input type="checkbox"/> 関連する領域における研究論文を検索し、メンバーからコメントをもらう。 <input type="checkbox"/> 研究論文の読み方やまとめ方について、メンバーからコメントをもらい、指導教員の援助を仰ぐ。		研究内容の絞り込み	いくつかの文献を探索し、報告のための準備をする。			
7～11	<input type="checkbox"/> 読んだ文献を元に、自分なりの実験計画・調査計画を立てる。 <input type="checkbox"/> 実験計画。調査計画の立て方について、メンバーからコメントをもらい、教員の援助を仰ぐ。		研究計画	実験室で、装置の操作法について習熟し、報告のための準備をする。 調査法について習熟し、報告のための準備をする。			
12～15	<input type="checkbox"/> 計画に基づいて、実験室内の装置を使って実験を行った経過について報告し、メンバーからコメントをもらい、教員の援助を仰ぐ。 <input type="checkbox"/> 計画に基づいて、調査用紙内の質問項目内容について報告し、メンバーからコメントをもらい、教員の援助を仰ぐ。		予備実験と予備調査	実際に装置を操作しながら実験を行う。必要であれば装置を作成することもある。 どのような調査結果を予想しているかについて、いくつかの仮説を立てる。			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎				25	
授業態度・授業への参加度				◎		25	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎		◎	25	
演習					◎	25	
テキスト・参考文献等	授業中に紹介						
履 修 条 件	実験測定法Ⅰを受講していること（受講していない場合は、4年生で受講してもらう）						
学習相談・助言体制	授業中に質問を受け付ける。実験計画やデータ処理などの質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	上野行良						
授業の概要	実際の研究を各自で行いながら、心理学に関する研究を行うために必要な知識と技能を修得する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	心理学の研究方法に関する知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	心理学的な問題について仮説を立て、実証する方法を考えることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理学の実証研究を行うことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>【授業方法と事前・事後学習】            受講生ごとに自分の研究に取り組む。            授業では            1. 各自の研究について報告し、アドバイスを受ける            2. 進捗状況に合わせ、研究に必要な知識を説明する</p> <p>【授業内容】            以下の手順で指導する。            1. テーマを決める            2. 仮説を立てる            3. 文献を収集する            4. 文献をまとめる            5. 仮説を見直す            6. 方法を考える            7. 調査・実験・観察等の準備と実施            8. 検定統計            9. 解析案を立てる            10. 統計ソフトの使い方            11. 統計結果の見方</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業において指導を受け、実施した回数		◎		◎	◎	100	
補足事項	6割以上でD、7割以上でC、8割以上でB、9割以上でA						
テキスト・参考文献等	自分で探す						
履修条件	「コミュニケーション論」「心理学」「心の科学の現在」「社会心理学」「人間関係の科学」のいずれか二科目でAを得ていること。						
学習相談・助言体制	相談・質問は指導中に行うこと。急な連絡はメールで行うこと。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	小 嶋 秀 幹						
授業の概要	1. 各受講生の関心に沿って、本学科で学習してきたことを精神保健学、社会精神医学の観点で検討する。 2. 各受講生の関心に沿って卒業論文作成に着手する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	卒業論文のテーマに沿った文献・資料の検索を行い、それらの文献・資料を読み、整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自分の関心に沿った卒業論文のテーマを決定できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	卒業論文の仮説、方法、結果整理法、解析法をまとめ、調査を開始できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（実験や調査の進め方について）		講義・ディスカッション		学習の課題は毎回口頭および資料に基づき指示する。		
2～15	各学生が関心のある文献を広く読む。		レポート報告と ディスカッション				
15～25	テーマを絞り込んで文献を読む。						
26～29	仮説、対象、方法、結果の整理、解析法についての計画を立てる。						
30	実験・調査を開始する。						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○			◎	30	
受講者の発表（プレゼン）				◎	○	30	
演習		◎			○	40	
テキスト・参考文献等	参考文献はその都度紹介する。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は、オフィスアワーやメール等を利用する。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	池 田 孝 博						
授業の概要	人間の健康、身体活動とそれら関わる測定評価をキーワードに、学生自身が興味あるテーマに関する卒業論文を作成するための知識や技能を身につける。具体的には、テーマに則した文献を収集するための方法を学んで、収集した文献の論点を整理し、テーマに関する問題を抽出する。抽出された問題から研究目的を設定し、その解決のための方法論を選択する。選択された方法を実施して、データの収集を行う。収集したデータを分析するために必要な統計学的手法を学び、それを実施する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	研究テーマに関する 20 編程度の文献を講読し、その論点を整理できる。データを分析するための適切な統計手法を理解している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	興味あるテーマに関する問題を抽出し、研究テーマを設定できる。問題を解決するために妥当な研究方法を選択できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	必要な文献を検索して収集することができる。選択された研究方法に基づいてそれを実施し、データ収集ができる。選択された分析手法によってデータを分析できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1回：オリエンテーション  2回：研究における論文作成の手順の理解  3～4回：文献検索方法の理解と実践  5～7回：文献リストの作成  8～10回：先行研究の講読と整理  11～12回：研究課題の抽出  13回：研究目的の設定  14回：研究方法の選択  15回：研究計画の作成  16～19回：研究方法の実践  20～23回：データの収集  24～27回：データの入力と集計  28～30回：研究方法の再検討と分析</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
演習課題		○		○	○	100	
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールおよび授業時間外に相談・助言のための時間を設定する。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	2	4年 (新4年のみ)
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	社会教育、生涯教育・学習、女性やジェンダーをめぐる各自の関心や問題意識に基づき、課題意識や卒論テーマを明確にしていくとともに、研究や卒論執筆に必要な知識や技能を学ぶ。演習の内容や方法、進め方は参加者の問題意識や関心に即して決めていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	卒業論文執筆に向けて各自の問題意識を整理し、生涯にわたる人間の形成過程における教育に関する専門知識を体系的に身につけている。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	生涯にわたる教育に関する課題を抽出し、探求することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	生涯にわたる教育に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	自己紹介、問題意識の出し合い		話し合い		各自の問題意識の整理		
2	演習の内容、方法の決定・1		話し合い		各自の問題意識の整理と演習の進め方への提案		
3	演習の内容、方法の決定・2		話し合い		各自の問題意識の整理と演習の進め方への提案		
4	課題（あるいは各自の）レポートの発表と討論・1		報告、討論		報告が共通文献によるものであれば、その事前学習。レポート担当者はその準備		
5	課題（あるいは各自の）レポートの発表と討論・2		報告、討論		同		
6	課題（あるいは各自の）レポートの発表と討論・3		報告、討論		同		
7	課題（あるいは各自の）レポートの発表と討論・4		報告、討論		同		
8	課題（あるいは各自の）レポートの発表と討論・5		報告、討論		同		
9	これまでの学習のまとめと課題・1		話し合い		これまでの学習を踏まえて各自の問題意識の整理		
10	これまでの学習のまとめと課題・2		話し合い		同		
11	各自のレポートの発表と討論・6（あるいは1）		報告、討議		各自の報告の準備		
12	各自のレポートの発表と討論・7（あるいは2）		報告、討論		同		
13	各自のレポートの発表と討論・8（あるいは3）		報告、討論		同		
14	まとめと課題		話し合い		これまでの学習の整理と今後の課題の検討		
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート		○		◎	◎		
テキスト・参考文献等	参加者の問題意識によって決定、使用。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	毎回の演習終了時、時間を設定して研究室で、など。メールは時間設定のために活用。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	岩 橋 宗 哉						
授業の概要	卒業論文の作成に向けて必要な、以下にあげる知識や技能を修得することを目的とする。 1. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得すること。 2. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、これらに応用する能力を身につけること。 3. 調査研究、あるいは実験などに必要な知識を修得すること。 4. 受講者各自の問題意識を明確にし、卒論のテーマ、目的、方法、構成を明確にすること。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	自らが研究しようとするテーマについての基礎的な概念、専門的知識を理解する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	受講者各自の問題意識を明確にし、卒論のテーマ、目的、方法、構成を明確にできる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 調査研究、あるいは実験などに必要な知識や技能を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>授業の方法としては、受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。以下に概ねのスケジュールを示す。</p> <p>1～5 各自が問題意識を明確化していく。また、そのための基本的な概論書や論文を読む。</p> <p>6～10 ある程度テーマが明確になると、そのテーマにかかわる研究論文を検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。</p> <p>11～15 今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。</p> <p>16～20 研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。</p> <p>21～30 各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
演習		○		○	○	100	
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	麦 島 剛						
授業の概要	生理心理学は、神経科学（neuroscience）や生命科学（life science）の一角を占めるのと同時に、人文・社会科学との強い関連をもっている。この演習では、実験実習、文献講読・論文読解、プレゼンテーションを通して、生理心理学研究の frontiers を知り、その理論を議論し、卒業論文作成の礎とする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生理心理学についての具体的な知識と理論を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	主体的・積極的に取り組み、知の体系に触れ、拓く。					
技能	DP10：専門分野のスキル	実験に必要な手技を実習し、研究に必要な文献講読方法を習得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1～15	<p>1～15回</p> <p>① 行動に関する理論、その神経基盤に関する理論を議論する。その材料として、講読文献（最新の洋書が基本）を定め、各自がレジュメを作成して発表する。</p> <p>② 卒業論文テーマを明確化する。</p> <p>③ 卒業論文における研究に必要な技術を身につけるため、そのテーマに応じて実習（動物の扱い方や行動薬理学実験など）を行う。</p> <p>16～30回</p> <p>① 卒業論文の土台となるデータ整理・実験計画法の基本を身につける。</p> <p>② 各自が国内外の論文を読み、まとめ、発表する。</p> <p>③ 各自が卒業論文の研究計画を立てる。</p>		<p>◎講読文献や論文の発表については、発表者が必ずレジュメを作成し、分かりやすくプレゼンテーションを行なう。担当教員は、理解の手助けとなる理論や知識を紹介し、受講者間の議論を喚起する。</p> <p>◎卒論テーマの明確化については、個別指導またはゼミ内での集団討論の形式で行い、各自の希望テーマの実現可能性を考え、仮説を検討し、練り上げる。</p> <p>◎実習については、担当教員が実例を示しながら、ラット等を用いた行動薬理学実験や電気生理学実験を実施し、実践的な技能を身につけさせる。</p> <p>◎データ整理・実験計画法については、理論の教授と並行して、パソコン上のソフトウェアを用いて例題を解かせながら、実践的に習得させる。</p>		<p>講読文献や論文についての発表者は、事前に、辞書や専門書を用いながら計画的に読みこなし、読みやすいレジュメを作成するように。発表者以外も、事前に講読文献を読むように。実習については、実際に手を動かして身につけることが重要である。3年次には、4年生が取り組んでいる卒論実験やデータ処理を積極的に見学し、手伝うことを通じて、理解や技能を深めると良い。</p>		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度				○		20	
演習		◎		○	◎	80	
テキスト・参考文献等	講読文献を定める。詳細は、事前に受講者と相談の上、決定する。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業中および平素の質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	櫻井国芳						
授業の概要	教育・文化領域において、特に造形や美術に関わる卒業論文を作成するための演習である。造形や美術に関する基礎学習を通じて自己の問題意識を明確にし、各自の研究課題をうちたてる。さらに研究計画をつくり、研究の進め方や方法について検討し、卒業論文完成に向けた知識や技能を習得する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	文献・資料を読み進める中で基礎的な知識を習得し、自己の問題意識と関連させながら説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	ある問題に対しての自分なりの見解を様々な資料を基にうちたてていくことを通して、主体的に学習する能力や論理的思考・判断力を身に付ける。					
技能	DP10：専門分野のスキル	レポートや論文を作成する際に、見通しを立てながら、資料の適切な活用の仕方を身に付ける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		資料をもとに、論文とはどのようなものか学習する。		資料（授業時に配布）を読むしておく。		
2～6	基礎学習の中から、興味関心のある題材に焦点を絞る。		美術・造形に関する基礎的な資料を探し、読み進める。		必要な資料を読み、レポートを作成する。		
7～11	各自の研究課題について先行資料を学習しながら、何が問題となっているのかを確認する。		先行研究を探し、読み進める。				
12・13	各自の研究課題について、焦点をさらに絞り込み明確にする。		討論なども取り入れ、研究課題の絞込みを行う。				
14～16	研究の進め方やまとめ方を考えながら、具体的な研究計画を立てる。		研究計画を立て、調査方法について検討する。		事前に研究計画を立てておく。		
17～22	資料の収集について。論文の構成を考えながら執筆する。		各自のレポートをもとに討論、検討する。		必要な資料を読み、レポートを作成する。		
23・24	論文作成状況の確認と今後の計画についての検討。		発表会				
25～30	資料収集と資料のまとめ、論文の構成を考えながら執筆する。		各自のレポートをもとに討論、検討する。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎			◎		
宿題・授業外レポート		◎			◎		
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表（プレゼン）				◎			
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
テキスト・参考文献等	論文の書き方などの資料はこちらで用意します。						
履修条件	意欲的に資料収集できる行動力を求めます。また、毎時間レポート提出を課します。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3～4年
担当教員	吉岡和子						
授業の概要	1. 卒業論文の作成に向けて、受講者各自の問題意識を明確にする。 2. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 3. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。 4. 調査研究、あるいは実験などに必要な知識と技能を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	受講者各自の問題意識を明確にする。					
技能	DP10：専門分野のスキル	文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 調査研究、あるいは実験などに必要な知識と技能を修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス						
2～15	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が問題意識を明確化していくための基本的な概論書や論文を読む。</li> <li>テーマにかかわる研究論文を検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。</li> <li>今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。</li> </ul>		受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。		授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に組み込んでおいて下さい。		
16～30	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。</li> <li>各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。</li> </ul>		受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	演習	◎		◎	◎	100	
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履 修 条 件	人間形成学科の3年生で、ゼミ選択した者						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	卒業論文の作成に向けて、基本知識と技能を習得する。演習では、各々が関心のある文献を調べて順番に発表していく。ディスカッションを通して問題意識を明確にし、テーマや目的、方法を絞っていく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	研究論文に関する専門的知識について理解している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心身に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1～5	＜発表と検討＞卒業論文について、テーマを検討する。 卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。		受講生が順番にレジメを作成して発表していく。学生及び教員とのディスカッションを通して、自身の卒業論文を修正し、進めていく。		事前学習： 文献の検索及び熟読後、レジメにまとめる。その時々課題に取り組む。 事後学習： ディスカッションで得た検討点について更に探求し、修正をしていく。		
6～10	＜発表と検討＞先行研究をまとめる。 卒業論文について、テーマ及び問題と目的を検討する。						
11～15	＜発表と検討＞先行研究をまとめる。 卒業論文について、問題と目的をまとめる。						
16～20	＜発表と検討＞卒業論文について、研究方法を検討する。						
21～30	＜発表と検討＞結果と考察を検討し、卒業論文をまとめる。						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		○		◎	◎	50	
授業態度・授業への参加度		○		○	○	* } 10	
受講者の発表（プレゼン）		○		○	○	40	
演習		○		◎	◎	* }	
補足事項	「授業態度・従業への参加度」と「演習」を合わせた成績が、評価割合（10％）です。						
テキスト・参考文献等	適宜紹介していきます。						
履修条件	「実験測定法Ⅰ」または「実験測定法Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	個人指導を希望される場合は、事前にメール等で連絡してください。日時を考えます。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	卒業論文の作成に向けて必要な知識や技能を修得することを目的とする。 1. 図書、文献、資料等の検索方法と、読み込み方、まとめ方を修得する。 2. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、これらを応用する能力を身につける。 3. 調査・研究に必要な知識、方法を修得する。 4. 問題意識を明確にして、卒業論文のテーマ、目的、方法、構成を明確にする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	自らが研究しようとするテーマについての基礎的な概念、専門的知識を理解する。研究テーマに関連する図書、文献等を熟読して、その概要を整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	卒論テーマに関する問題、問題背景、目的、方法、構成を抽出して、研究テーマを設定できる。問題を解決するために適切な研究方法を選択できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	必要な図書、文献等を検索して収集することができる。研究方法に基づき、適切に実施してデータ収集、分析ができる。調査研究、あるいは実験などに必要な知識や技能を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1回 : オリエンテーション：文献検索方法の理解と実践            5～7回 : 文献リストの作成            8～10回 : 先行研究の講読と整理            11・12回 : 研究課題の抽出            13回 : 研究目的の設定            14回 : 研究方法の選択            15回 : 研究計画の作成            16～19回 : 研究方法の実践            20～23回 : データの収集            24～27回 : データの入力と集計            28～30回 : 研究方法の再検討と分析</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
演習		○		○	○	100	
テキスト・参考文献等	授業の中で随時指示します。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3～4年
担当教員	小山 憲一郎						
授業の概要	1. 卒業論文の作成に向けて、受講者各自の興味関心に基づいて問題意識を明確にする。 2. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 3. プログラム評価研究を見据えながら、個々人の関心領域に関する基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。 4. プログラム評価の計画と実施について理解を深める。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	受講者個々人の関心領域に関する基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	受講者個々人の問題意識を明確にし、プログラムを作成し、それを評価するための実験的手法を考える。					
技能	DP10：専門分野のスキル	文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。プログラム評価研究に関する実験手法などに必要な知識と技能を修得する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス						
2～15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々人が興味関心のある領域に関する基本的な概論書や論文を読む。</li> <li>・テーマにかかわる研究論文、特にプログラム評価研究を主として検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。</li> <li>・今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。</li> </ul>		個々人の興味関心とベースに合わせ、それぞれの課題を発表し、教員、他受講生と支持的にディスカッションしながら研究を進めていく。		授業の中で行われたディスカッションの中から具体的な課題を明確にするようにしますので、翌回の授業までにその課題について文献を調べたり、興味のある課題についてのプログラム評価研究の実験方法について思案したりして来てください。		
16～30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。</li> <li>・各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。</li> <li>・準備が整い次第、実際の研究に着手する。</li> </ul>						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	演習	◎	○	◎	○	100	
テキスト・参考文献等	参考文献はその都度紹介する。						
履 修 条 件	ストレスマネジメントや心身医学・行動医学に興味があること。また、必須ではないが、プログラム評価研究に興味があること。						
学習相談・助言体制	質問、相談は適宜、口頭もしくはメールで事前のアポイントを取っていただいた上で応じます。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	二見 妙子						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を社会の「障壁」としてとらえる立場から、障害児の教育や保育の問題について考え、論文を作成する。</li> <li>・インクルーシブな社会をつくるために必要なことは何か、ということについて深く考える。</li> <li>・自分自身の関心や問題意識を明らかにする。</li> <li>・討論に参加するための自己の意見を持つ。</li> </ul>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	研究論文に関する専門的知識について理解している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自らの研究テーマを探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションを行うことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	障害に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1～5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識について意見交換。</li> <li>・論文の書き方について</li> <li>・「障害」とは何か、をテーマに討論</li> </ul>		授業者の提案 意見交換		各自、問題意識の整理、先行研究の検討、章立て、調査活動、文章化を進める。		
6～10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の発表と討論（先行研究の検討・研究課題・研究方法について）</li> <li>・「子どもの権利条約」「障害者差別解消法」について</li> </ul>		発表と討論 授業者の提案				
11～15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の発表と討論（章立て・仮説・調査の概要について）</li> <li>・「インクルーシブ保育」に関するビデオの視聴</li> </ul>		発表と討論 授業者の提案				
16～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の発表と討論（分析結果から得られる考察と結論について）</li> <li>・「当事者の話を聞く」</li> </ul>		発表と討論 授業者の提案				
21～30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文完成に向けて</li> </ul>		個別支援 意見交換				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		○	◎	◎	○	50	
授業態度・授業への参加度		○	◎	◎	○	30	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	◎	◎	20	
テキスト・参考文献等	適宜紹介します。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	随時（連絡方法については、授業にて確認）						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	社会福祉、児童ソーシャルワーク、海外の福祉に関連する卒業論文を作成するための演習。グループワークや各自のテーマに基づいた個人研究・発表を中心に演習を進めていく。また、社会福祉分野における視野を広げるためフィールドワークも取り入れ、様々な体験を通して福祉問題について考える機会とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	研究テーマに関連する文献を読み、論理的に考えまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	研究テーマを設定し、適切な研究方法にて調査することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	必要な図書、文献等を検索して収集することができる。 研究方法に基づき、適切に実施してデータ収集、分析ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1回 : オリエンテーション</p> <p>2回 : 研究における論文作成の手順の理解</p> <p>3～4回 : 文献検索方法の理解と実践</p> <p>5～7回 : 文献リストの作成</p> <p>8～10回 : 先行研究の講読と整理</p> <p>11～12回 : 研究課題の抽出</p> <p>13回 : 研究目的の設定</p> <p>14回 : 研究方法の選択</p> <p>15回 : 研究計画の作成</p> <p>16～19回 : 研究方法の実践</p> <p>20～23回 : データの収集</p> <p>24～27回 : データの入力と集計</p> <p>28～30回 : 研究方法の再検討と分析</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
演習課題		○		○	○	100	
テキスト・参考文献等	特になし 授業時に紹介します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	必要に応じて個別相談に応じます。						

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	卒業論文の執筆方法と手順を理解するために、各自、興味・関心のあるテーマの先行研究を検索し、その概要を発表する。 その発表を通して、文献検索方法・研究法（文献研究・質問紙研究・インタビュー研究・観察研究など）を知り、データ分析を具体的に理解する。その後、研究テーマを決め、卒業論文の執筆の準備をすすめる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	卒業論文の執筆方法と手順を理解する。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	研究法に基づき、データを収集することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	興味、関心をもったテーマを設定し、研究法、データを収集・分析などを説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1回       ：オリエンテーション・学会誌論文の紹介  2回       ：文献検索方法について  3～10回：興味・関心のあるテーマの先行研究の概要の発表  11～12回：研究テーマの設定  13～15回：文献リストの作成  16～18回：研究計画の作成  19～20回：研究目的の設定・研究方法の選択  21～23回：データ収集・分析  24回      ：中間報告  25～27回：研究をすすめる  28～30回：研究方法の再検討</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
演習課題		○	○	◎	○	100	
テキスト・参考文献等	授業の中で随時、指示します。						
履 修 条 件	なし						
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。						

授業科目名	卒業論文					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	福田 恭介	後期	演習	必修	6 4年	
授業の概要	<p>これまでの集大成として、心理学に関連した卒業論文を完成させる。このような経験をする事は、人間の多面的な理解につながり、将来、実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。ここでは、参加者各自の問題意識に沿いながら、①基礎的文献・資料について調査・報告をし、それについて討議をしながら考察をすすめていく。②参加者各自が研究課題と目的を明確にし、先行研究を調査・報告するとともに、討議のなかで自分の研究方法を明確にしていく。③場合に応じて、心理学実験、アンケート調査、フィールドワーク等の方法を学び、実施する。④卒業論文の目次構成を考え、その見通しを立てて執筆していく。</p>					
<b>学生の到達目標</b>						
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	先行研究をレビューすることができる。				
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	先行研究をレビューし、批判的に読むことができる。 仮説を元に、厳密に統制された調査・実験を実施することができる。				
	DP4：表現力	得られた結果について、報告会をもち、参加者全体で討議をすることができる。				
技能	DP10：専門分野のスキル	得られたデータについて統計解析を行い、結果を整理できる。 卒業論文の目次構成を考え、執筆していくことができる。				
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>						
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）			
1~6	<input type="checkbox"/> 演習での研究計画に基づいた研究の進展 <input type="checkbox"/> 実際の調査・実験の具体的計画の策定 <input type="checkbox"/> 調査・実験の具体的計画の検討	研究計画の絞り込み	いくつかの文献を探索し、報告のための準備をする。			
7~11	<input type="checkbox"/> 予備調査・予備実験の実施 <input type="checkbox"/> 得られたデータの検討 <input type="checkbox"/> 本調査・本実験の実施 <input type="checkbox"/> 得られたデータの検討 <input type="checkbox"/> 得られたデータの統計処理 <input type="checkbox"/> 処理結果の生理	研究実施	いろいろな装置を用いた実験実施ならびに調査実施 統計処理ならびに報告の準備			
12~15	<input type="checkbox"/> 結果の報告と結果の考察 <input type="checkbox"/> 卒業論文の目次構成 <input type="checkbox"/> 卒業論文の執筆の仕方	卒業論文内容についての議論	目次作成・論文執筆ならびに報告の準備			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
宿題・授業外レポート			◎		◎	25
授業態度・授業への参加度			◎			25
受講者の発表（プレゼン）					◎	25
演習					◎	25
補足事項		自分で取り組むと研究することのおもしろさがわかるということを伝えていく				
テキスト・参考文献等	授業中に紹介					
履 修 条 件	実験測定法Ⅰを受講していること（受講していない場合は、4年生で受講してもらう）					
学習相談・助言体制	授業中に質問を受け付ける。データ処理などのこみ入った内容の質問については、時間が空いていれば基本的に受け付ける。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設ける。					

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	上野行良						
授業の概要	心理学に関する卒業論文の作成を支援・指導する。①調査研究や実験測定を行って得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。②卒業論文を執筆し、添削を受ける。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	収集したデータについて考察できる。					
	DP4：表現力	実証論理的な文章が書ける。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理学論文の執筆ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【授業方法と事前・事後学習】</b> 作成してきた論文に対し、添削を中心とした指導を行う。</p> <p><b>【授業内容】</b> 以下の手順で指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 結果の整理</li> <li>2. 結果の執筆</li> <li>3. 考察の構成</li> <li>4. 考察の執筆</li> <li>5. 問題の構成</li> <li>6. 問題の執筆</li> <li>7. 論文全体の統一</li> <li>8. 卒業発表論文集の作成</li> </ol>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
論文の添削を受け承認されること				◎		◎	100
補足事項		論文全体の承認で A. 問題・方法・結果・考察の4章のうち、承認を得られなかったものが1章あれば B、2章あれば C、3章あれば D。なお論文が未完成な場合は上記に関わらず無資格となる。					
テキスト・参考文献等	自分で探す						
履修条件	担当教員のゼミ生であること						
学習相談・助言体制	相談・質問は指導中に行うこと。急な連絡はメールで行うこと。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	小嶋秀幹						
授業の概要	演習に引き続き、卒業論文を作成する。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。					
	DP4：表現力	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心身に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1~5	実験・調査の実施		ディスカッション		学習課題については、毎回口頭および資料に基づき指示する。		
6	中間発表		プレゼンテーション				
7~14	結果の整理、解析、考察、論文の執筆		ディスカッション		学習課題については、毎回口頭および資料に基づき指示する。		
15	卒論発表会		プレゼンテーション				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
受講者の発表（プレゼン）			◎		○	20	
卒業論文			◎		○	80	
テキスト・参考文献等	特になし。						
履修条件	演習を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問は、オフィスアワーやメール等を利用する。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	池田孝博						
授業の概要	人間の健康、身体活動とそれらに関わる測定評価をキーワードに、学生自身が興味あるテーマに関する卒業論文を作成し、公表する。具体的には、「演習」において設定された目的、選択された方法およびそれによって得られたデータの分析結果と、収集して整理された文献の論点に基づいて、テーマに関する考察を行う。論文執筆の規定や提出期限を守って論文を完成・提出する。研究成果を指定された方法で公表する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	先行研究や分析結果に基づいて適切な考察が行える。					
	DP4：表現力	指定された体裁で卒業論文を作成できる。 研究過程および成果についてプレゼンテーションができる。 研究の概要を整理して、抄録を作成することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	卒業論文を作成するための科学的手法を身につけている。 作成された論文を要約できる。 得られた研究成果を発表するためのツールを用いることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1回：研究過程の整理  2回：中間発表のレジュメ作成  3回：中間発表のポスター作成  4回：プレゼンテーションの実施（1） 中間発表  5～7回：分析結果の考察と再分析の実施  8～12回：論文作成（期限内の提出）  13回：論文抄録の作成  14回：発表用ポスターの作成  15回：プレゼンテーションの実施（2） 卒論発表会</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
プレゼンテーション			○		○	30	
演習課題			○		○	70	
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	演習を履修し、単位を修得していること。卒業論文の着手に必要な単位数を修得していること。						
学習相談・助言体制	メールおよび授業時間外に相談・助言のための時間を設定する。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	中 藤 洋 子						
授業の概要	社会・生涯教育または女性・ジェンダー問題に関するテーマの卒業論文の作成および発表に向けた集団的共同的な学習・研究を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自ら抽出したテーマにそって、資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。					
	DP4：表現力	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>参加者各自の問題意識、卒業論文のテーマに沿いながら、およそ以下の手順ですすめていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各自が自分の問題意識やテーマに関する基礎的文献・資料、先行研究等について調査・報告し、討論をしながら研究目的、研究課題を明確にしていく。</li> <li>文献、資料、先行研究等を調査・報告、討論をしながら、自分の研究方法を明確にする。</li> <li>研究課題、研究方法により必要な場合は、アンケート調査、聞き取り調査、実地調査等を行う。</li> <li>論文としての構成を考えながら執筆を行う。</li> <li>卒業論文中間発表会において、研究目的・課題・方法、章立てを中心とした中間発表を行う。</li> <li>論文としての構成を再検討し、必要な構成変更や加筆、修正を行って卒業論文を完成させ、提出する。</li> <li>卒業論文要旨を執筆し、これをもとに、卒業論文発表会で発表を行う。</li> </ol>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート		○	○			10	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			10	
卒業論文		◎	◎		◎	80	
テキスト・参考文献等	テキスト：特になし。参考文献・資料等は適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	演習の時間を中心にするが、必要に応じて時間を設定して相談、助言を行う。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	岩橋宗哉						
授業の概要	<p>教育系、心理系、生涯発育系に関連した卒業論文の作成を以下の手順で支援・指導するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の問題意識に基づき、基礎的文献や資料、先行研究について調査・報告をし、討議をしながら考察をすすめていく。</li> <li>2. 卒業論文を執筆するに当たっての研究課題と目的を明確にし、先行研究を調査・報告するとともに、場合に応じてフィールドワーク、調査研究、実験測定などの方法を学び、実施する。</li> <li>3. 調査研究や実験測定を行った場合は、得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。</li> <li>4. 得られた結果について、報告会をもち、参加者全体で討議をすることによって考察を進める。</li> <li>5. 卒業論文の目次構成を考え、その見通しを立てて執筆していく。</li> </ol>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	各自の問題意識に基づき、先行研究を調べ、調査研究、実験測定などを実施して、得られたデータについて、結果を整理し、それに基づいて考察を進めることができる。					
	DP4：表現力	卒業論文を執筆し、発表会でその内容を説明することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理学に基づいて、問題を検討し、論文を執筆し、発表会でその内容を説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>授業の方法としては、受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれその時点での課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。</p> <p>概ねの作業スケジュールは以下の通りである。</p> <p>1～5 演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。</p> <p>6～10 得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究課題について考察する。</p> <p>11～15 卒業論文の執筆を仕上げる。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○		○	20	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	20	
その他（卒業論文の評価）			○		○	60	
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	生理心理学、およびその周辺領域で各自が卒業論文を執筆できるように、文献研究の仕方・実験の実施・実験データ処理の実践・結果の考察・論文の練り上げについて個別指導と集団指導を行なう。演習で立てた研究計画を実行すべく、演習で習得した具体的な技術や理論を活用する。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	演習で得た知識体系を基に科学論文を作成する。					
	DP4：表現力	論理的で矛盾のない文章構成を身につける。					
技能	DP10：専門分野のスキル	実験心理学および神経科学の知識体系および専門的技術を応用する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1~15	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 演習で立てた卒論研究計画に従って、実験を実施する。実験は、夏休みから始めることを目指す。</li> <li>② 卒論中間発表会の要旨をまとめ、発表する。</li> <li>③ 採取したロー・データから、検討すべき変数を取り出し、それを統計学的に処理する。</li> <li>④ 結果から仮説を検証する。</li> <li>⑤ 各自の研究が先駆けて明らかにしたことを、文献研究の内容と照らし合わせて考察する。</li> <li>⑥ 卒業論文としてまとめ上げる。</li> <li>⑦ 卒論発表会の要旨をまとめ、発表する。</li> </ul>		<p>個別に実験を指導すると同時に、受講者全員が進捗状況を報告しあう。仮説検証に必要な理論についての勉強会を行なう。データ処理の実践（統計学的検定の方法など）についても、個別指導と全員参加の集団指導を並立させる。他にも増して実験研究は、ゼミ内のチームワークと、学生と教員との緻密な連携が必要となる。従ってこの授業ではきめ細かい指導を行なう。</p>		<p>実験期間中は手順よく実験を実施していく。実験と並行して、国内外の論文を読んで理解する。ロー・データ採取後は、適切に変数を抽出し、適切に統計学的検定を行なう。「泥縄」にならないよう、普段から統計学の勉学を行なっておくことが推奨される。</p>		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度						20	
演習			◎		◎	80	
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	平素の質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	櫻井国芳						
授業の概要	教育・文化領域において、特に造形や美術に関わる卒業論文を作成する。「演習」で学んだ知識・技能を活用して、卒業論文の執筆やまとめ、年度末に行われる発表会の準備に取り組む。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自身の主張について、筋道を立てて展開し、それを説明することができる。					
	DP4：表現力	発表会で、自身の研究成果をわかりやすく伝えることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	見通しを立てながら、適切に資料を活用しながら卒業論文を作成できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		卒業論文のまとめや発表会までの流れを知る。		資料（授業時に配布）を読んでおく。		
2	論文作成状況と今後の作業計画の確認		各自の進行状況を確認する。		現在の進行状況とこれからの計画についての確認。		
3~11	論文の構成を考え、資料を活用しながら執筆する。		レポートとして提出された内容を検討する。		論文の執筆		
12~14	論文のまとめと研究概要の作成		研究概要の書き方を説明しながら、発表の仕方についても考える。		研究概要の作成と発表会に向けての準備		
15	発表会						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	小テスト・授業内レポート		◎				
	宿題・授業外レポート		◎				
	受講者の発表（プレゼン）				◎		
補足事項		評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。					
テキスト・参考文献等	論文の書き方などの資料はこちらで用意します。						
履修条件	「演習」の単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	吉岡和子						
授業の概要	<p>卒業論文の作成を以下の手順で支援・指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の問題意識に基づき、基礎的文献や資料、先行研究について調査・報告をし、討議をしながら研究課題と目的を明確にしていく。</li> <li>2. フィールドワーク、調査研究、実験測定などの方法を学び、実施する。</li> <li>3. 調査研究や実験測定を行い、得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。</li> <li>4. 得られた結果について、考察を進める。</li> <li>5. 卒業論文の目次構成を考え、執筆していく。</li> </ol>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	問題意識に基づき、自ら調べ、考えることができる。					
	DP4：表現力	心理系の卒業論文を作成し、発表会で自らの意見を述べるができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。</li> <li>・得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究課題について考察する。</li> <li>・卒業論文の執筆を仕上げる。</li> </ul>		<p>受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。</p>		<p>授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。</p> <p>各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に取り組んでおいて下さい。</p>		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40	
その他			◎		◎	60	
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	心理学に関わる卒業論文をまとめ、完成させる。3年後期から4年前期までの「演習」の授業で各々が関心のある文献を調べて順番に発表していたものを、更に引き続きゼミナールでのディスカッションを通して分析及び考察まで行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察ができる。					
	DP4：表現力	自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を身につけている。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1～5	＜発表と検討＞卒業論文について、調査や実験を行い、データを収集する。		受講生が順番にレジュメを作成して発表していく。学生及び教員とのディスカッションを通して、自身の卒業論文を修正し、進めていく。		事前学習： 文献の検索及び熟読後、レジュメにまとめる。その時々課題に取り組む。 事後学習： ディスカッションで得た検討点について更に探求し、修正をしていく。		
6～10	＜発表と検討＞卒業論文について、データを分析し、考察を進める。						
11～15	＜発表と検討＞卒業論文を完成し、卒業論文発表会で発表を行う。						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			◎		○	20	
受講者の発表（プレゼン）			◎		○	20	
その他（卒業論文）			◎		◎	60	
テキスト・参考文献等	適宜紹介していきます。						
履 修 条 件	「演習」の単位を取得していること。						
学習相談・助言体制	個人指導を希望される場合は、事前にメール等で連絡してください。日時を考えます。						

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	伊勢 慎	後期	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文の作成と発表を行なう。演習で積み上げた課題、目的、方法、データの分析、その結果を明らかにするとともに、課題解決に向けての考察を行なう。その際、演習時に収集した図書、文献との差異を強調するとともに、卒業論文の限界、今後の課題も明らかにする。このことは、卒業後も引き続き研究的視点を持ち、自己課題解決力を高めることを目指すものである。また、論文執筆の規定や提出期限を守って論文を完成・提出する。研究成果を指定された方法で公表する。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	先行研究や分析結果に基づいて適切な考察が行える。 各自の問題意識に基づき、先行研究を調べ、調査研究、実験測定などを実施して、得られたデータについて、結果を整理し、それに基づいて考察を進めることができる。					
	DP4：表現力	指定された体裁で卒業論文を作成できる。 研究過程および成果についてプレゼンテーションができる。 研究の概要を整理して、抄録を作成することができる。 卒業論文を執筆し、発表会でその内容を説明することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	卒業論文を作成するための科学的手法を身につけている。 作成された論文を要約できる。 得られた研究成果を発表するためのツールを用いることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1回：研究過程の整理  2回：中間発表のレジュメ作成  3回：中間発表のポスター作成  4回：プレゼンテーションの実施（1） 中間発表  5～7回：分析結果の考察と再分析の実施  8～12回：論文作成（期限内の提出）  13回：論文抄録の作成  14回：発表用ポスターの作成  15回：プレゼンテーションの実施（2） 卒論発表会</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
受講者の発表（プレゼン）			○		○	30	
演習			○		○	70	
テキスト・参考文献等	授業の中で随時指示します。						
履修条件	演習を履修して、単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。						

授業科目名	ホリスティック人間論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	1年
担当教員	佐藤香代						
授業の概要	人間をホリスティックな視点から理解し、人間の身体と環境の調和を学ぶ。 またホリスティックな健康とは何かを理解し、ケアのあり方を考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	ホリスティックな視点から生活する人間を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象が抱えている健康課題の本質を多角的視点から思考・判断できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 本学看護学部の教育目標 ホリスティックの概念		講義		レポート：ホリスティックの概念		
2	ホリスティックな人間観 健康観 医療のモデル ・西洋医学と伝統医学 統合医療 人はなぜ病気になるのか ・病の意味 ・未病		講義		レポート：スピリチュアルの概念		
3	健康の本質 ・自然治癒力 生命に内在する力 いのち 治癒力を高める 統合医療 代替医療		講義		レポート：代替療法		
4	生命観と生き方 ・養生 ・創傷治癒のメカニズム ・アーユルヴェーダの生命観 ・環境 ・心と霊性		講義		レポート：自然治癒に関する論文の論考		
5	統合的診断法 陰陽理論 ・マクロビオティックの理論		講義		レポート：What is Holistic Nursing? の論文を読み、まとめる		
6	身体文化 ・身体をみる－メッセージを聴く 代替医療の海外での現状 Holistic Nursing (AHNA)		講義・演習		レポート：身体の変化		
7	力 ・手 触れる 聴く 感じる 気（エネルギー） 待つ 笑う 涙 型 空 許 調和 愛 弱さ マイナス 道 気功 看護の役割 ・癒し ケアリング わざ 智慧		講義・演習		レポート：ディスカッションに向け、自らの意見をまとめる		
8	ホリスティックケアの未来		ディスカッション		最終レポート：ホリスティックに人間をケアすること		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
		◎	○				
定期試験		◎	○			50	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
宿題・授業外レポート		◎	○			30	
授業態度・授業への参加度		○					
受講者の発表（プレゼン）		○	○				
補足事項		欠席・遅刻は減点する。					
テキスト・参考文献等	文献は、講義中に適宜指示する。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	質問およびその回答は、講義中、レスポンスカードで行う。						

授業科目名	生命倫理		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			前期	講義	選択	2	1年		
担当教員	神谷英二								
授業の概要	現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではいられない。また、生命倫理の問題に適切に対処することは、福祉社会において活躍する看護職にとっては必要不可欠の能力である。この授業では、将来看護職をめざす学生にとっての基礎知識として、生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な事例に即して倫理問題を考え、看護職として適切に判断・対処できる能力を養うことをめざす。内容としては、インフォームド・コンセント、パーソン論、安楽死と尊厳死などを中心に授業を展開する。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生命倫理学の基礎を習得する。							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	具体的な事例に即して倫理問題を考えるトレーニングをすることにより、看護の現場で生命倫理の問題に直面した際に、適切に判断し、対処できる能力を身につける。							
	DP4：表現力	根拠を明示して、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文		「生命倫理講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「生命倫理講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。（以下、15回まで同様。）				
2	生命倫理の歴史		「生命倫理講義資料」による講義						
3	生命倫理の4原則		「生命倫理講義資料」による講義						
4	インフォームド・コンセントと患者の権利（1）：定義と法理		「生命倫理講義資料」による講義 小レポート（第1回）						
5	インフォームド・コンセントと患者の権利（2）：事例研究		「生命倫理講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
6	インフォームド・コンセントと患者の権利（3）：事例研究		「生命倫理講義資料」による講義 小レポート（第2回）						
7	インフォームド・コンセントと患者の権利（4）：日本独自の工夫		「生命倫理講義資料」による講義						
8	パーソン論と生命の線引き（1）：人工妊娠中絶と出生前診断		「生命倫理講義資料」による講義						
9	パーソン論と生命の線引き（2）：トゥーリーの理論		「生命倫理講義資料」による講義 小レポート（第3回）						
10	パーソン論と生命の線引き（3）：エンゲルハートの理論		「生命倫理講義資料」による講義					学期末レポートの作成を開始すること。	
11	安楽死と尊厳死（1）：定義と事例研究		「生命倫理講義資料」による講義 小レポート（第4回）						
12	安楽死と尊厳死（2）：死の自己決定		「生命倫理講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
13	終末期医療の現状と将来（1）：緩和ケアとナラティブ		「生命倫理講義資料」による講義						
14	終末期医療の現状と将来（2）：セデーションの是非		「生命倫理講義資料」による講義 小レポート（第5回）						
15	復習とまとめ		学期全体の学習内容を復習						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）		
	授業内小レポート		◎	◎			30		
	授業態度・授業への参加度			○			20		
	学期末レポート		◎	◎			50		
テキスト・参考文献等	参考文献：今井道夫・香川知晶編『バイオエシックス入門』第3版、東信堂、2001年								
履修条件	なし。								
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問があればすぐに質問すること。</li> <li>・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。</li> </ul>								

授業科目名	遺 伝 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	芋 川 浩						
授業の概要	本講義では、染色体や遺伝子 DNA の構造と機能といった遺伝学の基礎的な知識を学び、さまざまな疾病や生命現象を遺伝学的に分析することの重要性を理解する。また、ヒトゲノム解読など人類の遺伝学の発展を概観するほか、クローン技術や再生医療技術など、遺伝学に基礎をおく最新の生命技術について問題点や今後を理解・考察できる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	細胞遺伝学を学び、染色体の構造や細胞分裂など染色体の挙動を理解できる。また、染色体や遺伝子の異常によって引き起こされるさまざまな遺伝子疾患についての理解も深める。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	遺伝子 DNA を中心とした「分子遺伝学」を学び、遺伝子の構造や複製機構、がんや老化のしくみなど、生命現象を遺伝子レベルで分析するための基本事項を理解できる。さらに、遺伝子組み換え技術やクローン技術、再生医療技術など遺伝学を基礎とした最新の技術を理解し、応用できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介）		講義		理解度に応じ、指導する		
2	細胞遺伝学①（（染色体と遺伝形質、染色体と性の関係を解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
3	分子遺伝学①（がんやがん遺伝子について解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
4	分子遺伝学②（がんの発症メカニズムについて解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
5	分子遺伝学③（遺伝子や突然変異について DVD を見せながら解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
6	分子遺伝学④（遺伝子疾患や遺伝子治療について DVD を見せながら解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
7	細胞遺伝学②（伴性遺伝と集団遺伝について解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
8	細胞遺伝学③（染色体の機能発現、染色体工学などを解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
9	細胞遺伝学④（遺伝子の本体、DNA による形質転換を解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
10	分子遺伝学⑤（細胞死などに関わる遺伝子について解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
11	分子遺伝学⑥（老化などに関わる遺伝子について解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
12	ゲノム医学①（ヒト遺伝子について最先端の内容を解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
13	ゲノム医学②（ヒトの遺伝子疾患とその治療について最先端の内容を解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
14	遺伝子工学①（遺伝子工学による最先端医療について解説する）		講義		理解度に応じ、指導する		
15	まとめ		講義		理解度に応じ、指導する		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			15	
テキスト・参考文献等	テキスト・参考文献として、生命の神秘（仮称、芋川浩著、木星舎、4月1日出版予定）やよくわかるゲノム医学（服部、水島・菅野著、羊土社）を使用するが、詳しくは最初の授業ではかの参考文献も紹介する。						
履 修 条 件	講義への参加度などを重視するため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校や前期の講義で生物学を学んでいた方がよい。						
学習相談・助言体制	質問は随時受付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。						

授業科目名	栄 養 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	青木哲美						
授業の概要	人間にとって「食べることは生きること」という視点を大切に、食のもつ特性や役割について基礎知識を得ると共に、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題について学習する。これにより食を総合的にとらえ、健康を保持・増進し、QOL（生活の質）の向上を目指した望ましい食生活のあり方について、看護にかかわる者としての役割を学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護学における栄養学の位置づけを理解し、自らの意見を述べることができる。食べることは生きる原点であることの理解を深め、考えることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	栄養状態の評価・判定ができる。疾病と栄養との関連性を理解し、自ら調べ、考えることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	看護学における栄養学の流れと位置づけ QOLと食生活	看護学における栄養学について紹介し、栄養学を学ぶ意義について考える。医療現場に於ける栄養を通し栄養学への興味を引き出す。	毎回、予習をして授業に参加する。 毎回の授業終了時、授業で学んだこと、質問事項の整理を行う。				
2	ライフサイクルと栄養（乳幼児期）～（老年期）	ステージごとの栄養の特徴について概説する。					
3	食べる行動と栄養	人間の心の状態と食べる行動との関わりについて理解を深め、食品成分表等を用い食品の栄養的特徴について理解を深める。					
4	日本人の食事摂取基準 生活活動を支える量、質（エネルギー、たんぱく質）	日本人の食事摂取基準に関する基本的な考え方を理解し、自分の必要量を算出する。					
5	生活活動を支える質（たんぱく質、脂質、炭水化物）	たんぱく質、脂質、炭水化物に関する働き、摂取基準を理解する。					
6	生活活動を支える質（食物繊維、ビタミン、微量元素、電解質）	食物繊維、ビタミン、微量元素、電解質に関する働き、摂取基準を理解する。					
7	取り込まれた食物のゆくえ	各栄養素の消化吸収について理解を深める。					
8	健康と栄養、疾病と栄養（疾病時の栄養方法）	生活習慣病予防のための栄養・運動について理解し、病院食を通し疾病時の栄養方法を理解する。					
9	疾病と栄養（小児期、思春期）	小児期、思春期の疾病と栄養との関連性について概説する。					
10	疾病と栄養（成人期の疾病の特徴と食：消化器系疾患と食）	消化器系疾患と栄養の関連性と術前・術後の後について概説する。					
11	成人期の疾病の特徴と食：循環器系疾患と食	循環器系疾患と栄養との関連性について概説する。					
12	成人期の疾病の特徴と食：糖尿病・肥満と食	糖尿病・肥満と栄養との関連性について概説し、糖尿病交換表を利用し食事療法の実際の演習を行う。					
13	成人期の疾病の特徴と食：腎疾患の疾病と食	腎疾患の疾病を概説し、腎臓病・糖尿病性腎症交換表を利用し食事療法の実際の演習を行う。					
14	成人期の疾病の特徴と食：老年期の疾病と食、妊産婦の疾病と食	老年期、妊産婦の疾病と栄養との関連性について概説する。					
15	人間と食文化、セルフケアと食、栄養ケア・マネージメント	世界文化遺産になった「和食」を多方面より考察する。セルフケアについて学び、栄養ケア・マネージメントの実際の演習を行う。					
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：尾岸恵三子他編「看護栄養学」医歯薬出版、参考文献：「新ビジュアル食品成分表」大修館書店、「糖尿病食品交換表」「糖尿病性腎症食品交換表」日本糖尿病協会・文光堂						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次回の授業時に質問に答える。						

授業科目名	人類生態学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	2年
担当教員	夏原和美						
授業の概要	この授業では、健康状態とその背景にある環境要因との関係をさまざまなレベルで考えられるようになるために、複雑な生態系の中で環境に適応・生存している人類の特徴を、行動学、栄養学、人口学など関連分野の手法も用いながら学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	看護を行っていく上で重要である対象者・対象集団に関する情報収集について、多彩な分野からのアプローチの方法について記述することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間の適応のための行動とそれがもたらす影響や結果（健康状態を含む）について、環境との関係性の中で位置づけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション・人類生態学の紹介		講義・グループディスカッション 毎回の講義の始めに自らの授業の目標をたて、終了時に自己評価する		2日目事前：過去に絶滅した、あるいは絶滅に瀕している生物をひとつ選び、その生態について調べ、人間の生活とその生物の絶滅（あるいは数が激減していること）の関連について考察する 3日目事前：四国大学「インターネットで栄養診断」を用いて自身の栄養摂取状況を診断する 4日目事前：エコロジカルフットプリントジャパンの診断クイズを用いて自身の生活の環境への影響について考察する <a href="http://www.ecofoot.jp/">http://www.ecofoot.jp/</a>  いずれも A4用紙1枚にまとめ、レポートとして提出する		
2	環境とは 適応とは						
3	生態系の構造とヒトの特殊性						
4	人類の進化と環境の関わり						
5	食べる物をつくり出した人類－農耕と家畜飼育						
6	人類の歴史、生業と集団のあり方						
7	さまざまな環境への適応と身体変化						
8	人間の行動を左右するもの						
9	何を食べるかを左右するもの						
10	生活形態の変化と病気						
11	文化的適応としての医療						
12	人口からみた人類						
13	環境問題と人間①私たちの生活と環境への負荷						
14	環境問題と人間②水俣病から学ぶ						
15	人類生態学を学んで－成長報告書作成とまとめ－						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
宿題・授業外レポート			○			15	
受講者の発表（プレゼン）		○	○			15	
補足事項		定期試験は手書きの A 4用紙1枚分の資料持ち込みとする（ただし履修人数によっては授業開始時に変更する場合もある）					
テキスト・参考文献等	テキスト：プリント等を使用する 参考文献：大塚柳太郎 他著『人類生態学〔第2版〕』東京大学出版会、2012年 渡辺知保 他著『人間の生態学』朝倉書店、2011年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	質問・相談は授業開始前後とメールで受け付ける（natsuhara@rcakita.ac.jp）						

授業科目名	疫 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	松浦賢長・増満 誠		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	疫学の基本的事項を理解することを目的に、疫学の考え方、疫学指標と疫学研究について学ぶ。あわせて、疫学研究で用いられる概念、用語、統計学的手法についても解説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	疫学とは何かについて述べるができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	疫学で用いられる各種指標を理解し、計算できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	疫学の概要		講義		松浦・増満		
2	疾病頻度の測定①		講義		松浦・増満		
3	疾病頻度の測定②		講義		松浦・増満		
4	記述疫学と疫学的仮説の設定①		講義		松浦・増満		
5	記述疫学と疫学的仮説の設定②		講義		松浦・増満		
6	症例・対照研究		講義		松浦・増満		
7	コホート研究		講義		松浦・増満		
8	介入研究と臨床試験		講義		松浦・増満		
9	コホート研究のおもしろさと実践例（因果関係の推理）		講義		松浦・増満		
10	疫学研究のまとめ		講義		松浦・増満		
11	交絡変数とその調整		講義		松浦・増満		
12	疫学に用いられる統計学的手法①		講義		松浦・増満		
13	疫学に用いられる統計学的手法②		講義		松浦・増満		
14	疫学の戦術を学ぶ		講義		松浦・増満		
15	まとめ		講義		松浦・増満		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎					
補足事項		授業時に理解度確認のための小テストを行う。					
テキスト・参考文献等	テキスト：田中平三「疫学入門演習-原理と方法-」南山堂、1,995円 参考図書：中村好一「基礎から学ぶ 楽しい疫学」医学書院、3,150円						
履修条件	統計学を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。						

授業科目名	保健統計学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子	前期	講義	必修	2	2年
授業の概要	わが国の保健統計の推移と現況を最新のデータを用いて論じ、世界の状況についても学ぶ。あわせて、わが国の保健課題の地域格差についても探索的に学んでいく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	わが国の保健統計の推移と現況の概要を述べることができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	保健統計学とは何か・人口静態		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	人口動態①		講義		松浦・原田・未定・梶原		
3	人口動態②		講義		松浦・原田・未定・梶原		
4	保健対策		講義		松浦・原田・未定・梶原		
5	人口動態③		講義		松浦・原田・未定・梶原		
6	生命表		講義		松浦・原田・未定・梶原		
7	健康状態と受療状況		講義		松浦・原田・未定・梶原		
8	医療対策		講義		松浦・原田・未定・梶原		
9	感染症対策		講義		松浦・原田・未定・梶原		
10	AIDSの最新事情		講義		松浦・原田・未定・梶原		
11	生活習慣病対策		講義		松浦・原田・未定・梶原		
12	医療・介護保険制度		講義		松浦・原田・未定・梶原		
13	疾病対策		講義		松浦・原田・未定・梶原		
14	労働衛生対策・環境保全対策		講義		松浦・原田・未定・梶原		
15	学校保健		講義		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎					
補足事項	授業時に理解度確認のための小テストを行う。						
テキスト・参考文献等	テキスト：厚生統計協会『厚生指標 臨時増刊 国民衛生の動向 最新年版』、厚生統計協会参考資料：自己学習のためのドリルや参考図表を授業時に配布することがある。						
履修条件	統計学を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。						

授業科目名	保健社会調査論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
			前期	演習	選択	2	3年			
担当教員	小出 昭太郎									
授業の概要	<p>統計を用いた質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法を学ぶ。質問紙調査はしばしば、「知りたいことを一つ一つ尋ねる質問を並べて質問紙をつくり、1番の選択肢を選んだ人が○%、2番の選択肢を選んだ人が△%、というように集計するだけのもの」と捉えられている。しかし、方法を学び、計画を吟味して質問紙調査を行えば、より確かであり有用な物事を知ることができ、卒業研究や病院・地域等における研究の主要な方法の一つとして用いることができる。また、質問紙調査を行う方法を学ぶと、質問紙調査が用いられた論文を正しく読めるようになり、研究や業務に役立つであろう。</p> <p>演習は少人数のグループで行う。学生の到達度に応じて授業計画を変更することがある。</p>									
<b>学生の到達目標</b>										
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。								
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行う際の基礎的な論理的思考・判断力を身につける。								
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	質問紙調査を学ぶ意義を理解し、学びに積極的に取り組む。								
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>										
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）					
1	イントロダクション		講義		配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。また、レポートを作成すること。その他、必要に応じて授業中に指示する。					
2	調査テーマの検討		演習							
3	調査の流れ		講義							
4	調査テーマの検討		演習							
5	文献検討		講義							
6	調査の企画と文献検討		演習							
7	質問文と選択肢の作成		講義							
8	調査の企画と文献検討		演習							
9	統計的推測		講義							
10	調査の企画と文献検討		演習							
11	クロス集計、相関係数		講義							
12	調査の企画と文献検討		演習							
13	測定信頼性・妥当性・内的整合性		講義							
14	調査の企画と文献検討		演習							
15~17	質問紙の作成		演習							
18	プレテスト		演習							
19	質問紙の修正		演習							
20	調査の実施		演習							
21・22	データの入力		演習							
23~25	分析		演習							
26~29	報告書の作成		演習							
30	まとめ		講義・演習							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度				技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎						50	
授業態度・授業への参加度		○		◎					50	
テキスト・参考文献等	授業時に紹介する。									
履修条件										
学習相談・助言体制	随時、対応する。									

授業科目名	臨床心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	岩橋宗哉						
授業の概要	精神分析学は心の臨床を行っていく者にとっての基礎的な学問である。現代のほとんどの心理療法は精神分析の継承か批判のうえに構築されていった。この授業では、その精神分析学の理論を中心に、クライアントへのかかわり方、理解のし方を事例を通して学んでゆく。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	クライアントへのかかわり方の基本を説明することができる。 基本的な精神分析理論について説明することができる。 神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、うつ病などの精神病理について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事例を読み、それを理解し、自らの考えを述べるることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		本授業について説明		配付された資料をもとによく理解できるように復習してください。		
2	心理面接における共感		講義				
3	プレゼンスの重要性－認知症の事例を通して－		事例を活用した講義				
4	精神分析の基本的な枠組み		講義				
5	理解の枠組みとしての発達的な視点		講義				
6	遊戯療法の事例を通してみる心の世界		事例を活用した講義				
7	心理面接における情報の取り方と見立てについて		講義				
8	神経症		講義				
9	ナルシズムについて		講義				
10	パーソナリティ障害		講義				
11	事例を通して学ぶ－摂食障害－		事例を活用した講義				
12	事例を通して学ぶ－ひきこもり－		事例を活用した講義				
13	うつ病について		講義				
14	事例を通して学ぶ－うつ病－		事例を活用した講義				
15	まとめ		講義				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		○	○			30	
宿題・授業外レポート		○	○			40	
授業態度・授業への参加度		○	○			30	
テキスト・参考文献等	参考文献：西村良二「心理面接のすすめ方」ナカニシヤ出版（1993）成田義弘・氏原寛「共感と解釈」人文書院（1999）北山修「精神分析理論と臨床」誠信書房（2001）小此木啓吾「フロイト思想のキーワード」講談社（2002）松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社（1996）						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を用紙に書いてもらい、次回に、答えていきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。						

授業科目名	精神保健学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小嶋 秀 幹		前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	精神保健学の基礎知識、ライフサイクルにおける精神保健について講義する。最近の精神保健学のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	精神保健とは（1）		講義		e-learning を利用して実施		
2	精神保健とは（2）		講義				
3	ライフサイクルにおける精神保健（乳幼児期－1）		講義				
4	ライフサイクルにおける精神保健（乳幼児期－2）		講義				
5	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－1）		講義				
6	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－2）		講義				
7	精神保健活動の実際（家庭）		講義				
8	ライフサイクルにおける精神保健（思春期）		講義				
9	精神保健活動の実際（学校）		講義				
10	精神障害の基礎知識（統合失調症）		講義				
11	ライフサイクルにおける精神保健（成人期）		講義				
12	精神保健活動の実際（職場）		講義				
13	精神障害の基礎知識（うつ病）		講義				
14	ライフサイクルにおける精神保健（老年期）		講義				
15	精神保健活動の実際（地域）		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：改訂新版精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」（へるす出版、2013年、3,000円）						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。						

授業科目名	東洋医学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義 および 演習	必修	1	2年
担当教員	田原英一・矢野博美・井上博喜・吉永 亮						
授業の概要	東洋医学の観点から基本的病態、診察（看護）実技を教授する。臨床現場の患者事例を通じ、学んだ知識・技術から“ホリスティックに人を捉える”“気づきの看護”とは何かを考え、広い視野で人を見る力を身に付けることを目指す。毎回、講義内容に準じた診断実技（演習）を行い、知識と技術に関連させた理解を図る。授業は、座学：参加型（演習）≒2：1で展開する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	東洋医学の健康概念や病気の捉え方について理解できる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を有している。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	看護の学びの過程で起こる疑問に対し、東洋医学の視点からも解決を図ろう考えることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	患者アセスメントに五感を用いた全身観察（四診）法を活用できるとともに、症状に対する看護を考えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	講義：総論 演習：生薬・製剤・試服・問診表 重点：歴史、陰陽、剤型、証、四診		講義（60分） 演習（30分）		講義前アンケート		
2	講義：六病位、太陽病 演習：脈診 重点：実際に応用可能に（麻黄、甘草）		講義（60分） 演習（30分）				
3	講義：少陽病、陽明病 演習：脈診、舌診、腹診 重点：腹診（黄ゴ、大黃、芒硝）		講義（60分） 演習（30分）				
4	講義：陰証 演習：望診、切診全般（脈診、足） 重点：（附子、地黄）		講義（60分） 演習（30分）				
5	講義：血の失調 演習：関連の四診		講義（60分） 演習（30分）				
6	講義：水の失調 演習：関連の四診		講義（60分） 演習（30分）				
7	講義：気の失調 演習：関連の四診		講義（60分） 演習（30分）				
8	講義：診察と診断のまとめ 重点：（乳糖、まとめ）		講義（60分） まとめ試験（記述）		講義後アンケート		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			80	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
演習			○		◎	10	
テキスト・参考文献等	教科書 『はじめての漢方診療 ノート』 医学書院 参考書 『はじめての漢方診療 十五話』 医学書院						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業前後もしくは出欠カードの記載で質問・相談を受け付ける。 注意：6月8日より授業を開始する。以降、毎週開講。						

授業科目名	保健社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	1	1年
担当教員	小出 昭太郎						
授業の概要	この授業の目的は、医療・看護・保健と社会との関わりを理解することである。第1に、病気や健康に関する取り組みには、病院で行われるもの以外にも様々なものがある。そしてそれらは、(病院で行われるものも含めて) 社会的なしくみや人と人との関わりの中で行われている。第2に、ある人が病気になるかどうかには様々な事柄が影響を及ぼしており、その人の社会的環境(職業や人間関係など)もそのひとつである。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	① 医療・看護・保健を社会との関わりから見る視点を身につける。 ② 医療・看護・保健と社会との関わりについての、社会的なモデル・概念・理論枠組みを理解する。 ③ (将来的に) ①の視点や②の枠組みを、患者・対象者の理解や医療・看護・保健における問題の把握・解決に役立てられるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	医療・看護・保健と社会との関わりに関心を持つ。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	近代的な治療の特質		講義		配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。その他、必要に応じて授業中に指示する。		
2	障害と社会的環境・社会的支援		講義				
3	患者と専門家		講義				
4	家族による高齢者介護と産業化		講義				
5	死と社会		講義				
6	健康・病気の社会的要因		講義				
7	社会的紐帯と健康・病気		講義				
8	社会経済的地位と健康・病気		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎				90
授業態度・授業への参加度					◎		10
テキスト・参考文献等	授業時に紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け、次回の授業の際に回答する。						

授業科目名	保健医療福祉行政論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	四戸智昭・小出昭太郎	後期	講義	必修	1	2年
授業の概要	<p>保健・医療・福祉の臨床現場で働く際に求められる必要な制度や政策について学ぶ科目である。少子・高齢の時代を迎えた現代社会においては、従来の保健や福祉の制度や政策が大きな転換点を迎えている。また従来の仕組みが新しい人々の生活に対応できなくなったり、従来の保健・医療・福祉の枠組みの変換だけでは、人々の幸せを維持できなくなりつつある。保健・医療・福祉の専門職が、相互に連携を取りながら、この新しい局面に対応していくことが求められる。この科目では、保健・医療・福祉の制度や政策について、特に専門職種の連携という視点から理解を深めるとともに、人々の生活上の問題や健康問題を取り上げながら、人々を支える行政システムについて深い理解をすることが目的である。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	わが国の保健医療福祉行政の基礎知識を得ること					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲があること					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	保健医療福祉行政について	講義			四戸		
2	障がい者福祉制度について	講義			四戸		
3	高齢者福祉と介護保険制度	講義			四戸		
4	子ども福祉と児童虐待問題	講義			四戸		
5	医療保障	講義			小出		
6	医療法	講義			小出		
7	所得保障、公的扶助	講義			小出		
8	保健医療福祉の財政	講義			小出		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎					
宿題・授業外レポート				○			
授業態度・授業への参加度				○			
補足事項	<p>担当教員毎に、成績評価を行う。担当教員毎にそれぞれで合格基準を超えることが求められる。評価割合の内訳は講義の際に提示する。</p>						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：授業時に指示する。</p>						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	毎回の授業時にレスポンスカードを配布し、次回の授業時に回答する。またメールによる質問も受け付ける。						

授業科目名	保健医療福祉行政論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	四戸智昭・小出昭太郎	後期	講義	選択	2	4年
授業の概要	現在、わが国は未曾有の少子・高齢の時代を迎えている。人々の生活の基盤を支える保健・医療・福祉制度や政策は、この時代の変化に対応すべく大転換を求められようとしている。またこういった大転換にあっては、制度や政策がそこに住む人々の生活に細やかに対応するために、より柔軟で、スピーディーな対応が地方自治体には求められる。本科目では、主に住民の健康維持活動の担い手となる保健師に必要な保健・医療・福祉制度や政策について理解を深めることが目的である。またこれまでよりもさらに住民主体の保健制度や福祉制度を地域で構築するために、保健や福祉に対する住民ニーズの把握や、新しい計画や施策の立案に必要な素養を養うことも本講義の重要な目的である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識を得ること					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、それを解決しようとする意欲があること					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	オリエンテーション	講義			小出・四戸		
2	保健と福祉の行政	講義			小出		
3	歴史	講義			小出		
4	医療供給	講義			小出		
5	診療報酬制度	講義			小出		
6	地方財政	講義			小出		
7・8	地方分権	講義			小出		
9・10	保健師の役割と法的根拠	講義			四戸		
11	青少年を支える地域保健福祉活動	講義			四戸		
12	地域における保健師の役割	講義			四戸		
13・14	困難な家族を支える地域保健福祉活動	講義			四戸		
15	まとめ	講義			四戸		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎					
小テスト・授業内レポート				○			
宿題・授業外レポート				○			
授業態度・授業への参加度				○			
補足事項	担当教員毎に、成績評価を行う。担当教員毎にそれぞれで合格基準を超えることが求められる。評価割合の内訳は講義の際に提示する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しない。参考文献：授業時に指示する。						
履修条件	保健医療福祉行政論Ⅰを履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の授業時にレスポンスカードを配布し、次回の授業時に回答する。またメールによる質問も受け付ける。						

授業科目名	公衆衛生学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子		後期	講義	必修	2	1年
授業の概要	公衆衛生の歴史をふまえ、公衆衛生の概念・意義、民主制・三権分立における展開の方法を理解させ、現代的な課題に対する各種取り組みと解決方法、関連職種の協働のあり方、国際的な視野への発展等を教授する。また、地域における公衆衛生の今日的課題を演習し、その解決に向けた各種機関・資源の利活用・連携方法の実際を教授する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	公衆衛生について、その概念と現代的課題について述べることができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	公衆衛生の理念に基づき、健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について述べることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	公衆衛生の課題		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	人口問題と出生・死亡		講義		松浦・原田・未定・梶原		
3	日常生活環境と健康		講義		松浦・原田・未定・梶原		
4	環境汚染と公害		講義		松浦・原田・未定・梶原		
5	公衆栄養・食品保健		講義		松浦・原田・未定・梶原		
6	感染症とその予防		講義		松浦・原田・未定・梶原		
7	母子保健		講義		松浦・原田・未定・梶原		
8	精神保健福祉		講義		松浦・原田・未定・梶原		
9	国際保健		講義		松浦・原田・未定・梶原		
10	成人保健		講義		松浦・原田・未定・梶原		
11	災害と健康		講義		松浦・原田・未定・梶原		
12	学校保健		講義		松浦・原田・未定・梶原		
13	保健と福祉—障害者福祉への対応		講義		松浦・原田・未定・梶原		
14	保健と福祉—児童虐待への対応		講義		松浦・原田・未定・梶原		
15	社会経済的要因と健康		講義		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	定期試験	◎				100	
テキスト・参考文献等	テキスト：『コンパクト公衆衛生学 最新版』、朝倉書店						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	メールによる相談・指導或いは直接面談指導も可						

授業科目名	生態機能看護学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次				
			前期	講義	必修	2	1年				
担当教員	田中美智子・江上千代美										
授業の概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。すべての生命体は外界からの刺激を受け止め、外界とのやりとりを通して個体の維持を行うとともに、種を存続させていく。人間が「生きている」および「よく・うまく・たくましく生きていく」ための脳の構造と機能を学び、動物としての人間が人間らしく存在するために必要な「運動」と「休息」についても学ぶ。										
学生の到達目標											
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人体の構造と機能（感覚、神経系、運動系、内分泌系など）の知識を具体的に述べることができる。									
	DP2：専門・隣接領域の知識										
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することができる。									
	DP4：表現力										
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ。									
	DP6：社会貢献力										
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）											
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担当							
1	生きているということ：解剖学的用語や体表の名称の理解と恒常性維持	講義：カラー人体解剖学第1章から第3章	e-learningに掲載したプリント・小テスト	田中							
2	外界からの刺激を受ける：感覚＜視覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚・痛覚＞	〃：カラー人体解剖学第18章・新看護生理学テキスト第6章	〃								
3	からだの働きを整える：神経性調節＜神経系の概要＞	〃：カラー人体解剖学第13章と第15章・新看護生理学テキスト第2章と第4章	〃								
4	神経性調節＜言葉を読む＞	〃：カラー人体解剖学第15章と第16章・新看護生理学テキスト第4章	〃								
5	神経性調節＜動く＞	〃：カラー人体解剖学第15章と第16章・新看護生理学テキスト第4章	〃								
6	神経性調節＜情報を捉える・伝える：末梢神経・制御する：中枢神経＞	〃：カラー人体解剖学第14章から第17章・新生理学テキスト第4章と第5章	〃								
7	液性調節＜内分泌の概要＞	〃：カラー人体解剖学第19章・新看護生理学テキスト第16章	〃								
8	液性調節＜恒常性維持のためのホルモン：血糖コントロール＞	〃：カラー人体解剖学第19章・新看護生理学テキスト第16章	〃								
9	種の保存＜生殖：受精～成長：性周期とホルモン＞	〃：カラー人体解剖学第27章・新看護生理学テキスト第17章	〃								
10	動くということ：運動系の概要		〃								
11	骨格と関節	〃：カラー人体解剖学第5章から第11章・新生理学テキスト第3章	〃								
12	筋肉：筋生理・収縮と弛緩	〃：カラー人体解剖学第5章から第11章・新生理学テキスト第3章	〃								
13	筋肉：筋肉の寝たきりや加齢の変化・姿勢の保持・歩く	〃：カラー人体解剖学第5章から第11章・新生理学テキスト第3章	〃								
14	生体リズム：睡眠時の特徴＜脳波の変化＞	〃：新看護生理学テキスト第4章と第18章	〃					江上			
15	睡眠・覚醒サイクル	〃：新看護生理学テキスト第4章と第18章	〃								
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）											
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）					
定期試験		◎	○			50					
小テスト・授業内レポート		○	○	○		20					
宿題・授業外レポート		○	○	○		10					
その他（CBT）		◎				20					
補足事項		各項目のCBTで予習・復習を行なうこと。講義の順番は変更することもありうる。									
テキスト・参考文献等	テキスト：「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店 参考文献：「トートラ人体解剖生理学」丸善										
履修条件	特になし										
学習相談・助言体制	Appointmentをメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。 初回の講義で説明。										

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	生態機能看護学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	田中美智子・江上千代美						
授業の概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。人間は外部環境から生体に必要なものを取り入れ、体内で使用した老廃物や不要物を排泄している。そのため人体には細胞をとりまく内部の状態（内部環境）をできるだけ恒常に保つ仕組みが備わっている。この内部環境の恒常性維持を中心に、物質の運搬とその経路、及び物質の摂取と排泄について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人体の構造と機能（体温調節、体液、血液、循環、呼吸、消化吸収、排泄系）の知識を具体的に述べることができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することができる。					
	DP4：表現力						
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ。					
	DP6：社会貢献力						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	体温調節＜体熱の産生と放散・体温調節機能（発熱含む）＞	講義：新看護生理学テキスト第15章	e-learningに掲載したプリント・講義中に配布した小テスト	江上			
2・3	内部環境の恒常性：体液＜体液の調節・体液のpHの調節＞	講義：新看護生理学テキスト第9章	〃				
4・5	物質の運搬とその経路：物質を運ぶ血液＜血液の成分とその働き＞	講義：カラー人体解剖学第20章・新看護生理学テキスト第8章・第10章	〃				
6～9	物質の運搬とその経路：ポンプとしての心臓＜構造と機能・刺激伝導系・心電図＞・循環経路としての血管系＜構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節＞	講義：カラー人体解剖学第21章・新看護生理学テキスト第7章	〃	田中			
10・11	物質の摂取と排泄：消化吸収＜口～肛門までの構造と食物が消化され吸収されるまで・排便のしくみ＞	講義：カラー人体解剖学第24章・新看護生理学テキスト第11章	〃				
12～14	物質の摂取と排泄：呼吸＜呼吸器の構造・呼吸運動・ガス交換とガス運搬＞	講義：カラー人体解剖学第25章・新看護生理学テキスト第12章	〃				
15	物質の摂取と排泄：排泄系＜尿の生成とその調節・排尿のしくみ＞	講義：カラー人体解剖学第26章・新看護生理学テキスト第14章	〃				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			50	
小テスト・授業内レポート		○	○	○		15	
宿題・授業外レポート		○	◎	○		20	
その他（CBT）		○				15	
補足事項	CBTを予習復習として行なうこと。講義の順番は変更することがありうる。						
テキスト・参考文献等	テキスト：「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店 参考図書：「トータル人体解剖生理学」丸善						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	Appointmentをメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。 初回講義で説明。						

授業科目名	生態機能看護学Ⅲ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	4年
担当教員	田中美智子・江上千代美						
授業の概要	人間の健康状態を的確に把握するためには、胎生期・幼年期～老年期に至る人体の正常な状態の変化を理解し、看護学の立場から正常と異常の変化過程を考察できるようにならなければならない。そのためには、正常な人体の構造と機能を統合した形で理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識 DP2：専門・隣接領域の知識	人体の構造と機能の知識を具体的に述べることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力 DP4：表現力	事例を検討することで、その事例に生じている問題を人体の構造と機能の分野から捉え直し、必要なケアを創造することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力 DP6：社会貢献力	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1・2	オリエンテーション 内分泌＜糖尿病：高血糖による合併症＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	田中			
3・4	神経系への影響＜内頸動脈内膜剥離術直後から翌日＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	田中			
5・6	物質の摂取と排泄＜COPDの急性増悪＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	田中			
7	薬害被害者の講演	講義	講演を聞いて得られたことをレポート提出	非常勤			
8・9	物質の摂取と排泄＜消化・吸収の障害＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	田中			
10・11	物質の運搬＜循環器：心筋梗塞 急性期＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	江上			
12・13	物質の運搬＜血液：貧血＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	江上			
14・15	運動器系＜高齢者の骨折＞	事例を用いた演習	eラーニングに提示された事例を見て、わからないところは調べておく。	江上			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	○	○		30	
宿題・授業外レポート		◎	◎			60	
受講者の発表（プレゼン）			○	○		10	
補足事項	講義の順番は講師の都合で変更もありうる。						
テキスト・参考文献等	eラーニングに提示した資料						
履修条件	生態機能看護学Ⅰ及びⅡ、病態看護学Ⅰ及びⅡを履修していること						
学習相談・助言体制	eラーニングに提示した事例を見て、講義前までに分からない言葉などは調べておくこと。実習で体験した事例などについて説明できるように整理しておくこと。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	看護生化学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	芋川 浩						
授業の概要	生物のからだを構成する物質とその機能を理解するために必要な生化学の基礎的な知識を学び、さまざまな生命現象や疾病のしくみを理解できることを目的とする。また、最近の生命科学の発展は目覚しく、分子生物学などの方法を応用した医療技術が日々進歩している。本講義では、最新の医療技術とその成果についての理解を深め、応用できることも目標としている。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生体を構成する基本物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸に関し、その構造と機能を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	生体物質の代謝メカニズムを理解できるとともに、近年めざましく発展した分子生物学により解明された疾病のメカニズムや最新の医療技術についても理解し、応用できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介）		講義		理解度に応じ、指導する		
2	生命とは（生命と生化学の接点の理解）		講義		理解度に応じ、指導する		
3	生体物質①（糖質）		講義		理解度に応じ、指導する		
4	生体物質②（脂質）		講義		理解度に応じ、指導する		
5	生体物質③（アミノ酸、タンパク質）		講義		理解度に応じ、指導する		
6	生体物質④（核酸）		講義		理解度に応じ、指導する		
7	生体物質⑤（酵素・ビタミンなど）		講義		理解度に応じ、指導する		
8	生体物質の代謝①（糖質の代謝）		講義		理解度に応じ、指導する		
9	生体物質の代謝②（脂質の代謝）		講義		理解度に応じ、指導する		
10	生体物質の代謝③（タンパク質の代謝）		講義		理解度に応じ、指導する		
11	生体物質の代謝④（核酸の代謝）		講義		理解度に応じ、指導する		
12	遺伝情報と分子生物学①（DNA と染色体）		講義		理解度に応じ、指導する		
13	遺伝情報と分子生物学②（遺伝子発現の調節）		講義		理解度に応じ、指導する		
14	遺伝情報と分子生物学③（遺伝病と代謝）		講義		理解度に応じ、指導する		
15	まとめ（生化学と医学・看護学との関連）		講義		理解度に応じ、指導する		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15	
宿題・授業外レポート		◎	◎			15	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			10	
テキスト・参考文献等	テキスト：臨床生化学（宮澤恵二編、メディカ出版） 参考文献：細胞の分子生物学 第6版（Garland Science）						
履修条件	講義への参加度などを重視するため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学・化学などを学んでいた方がよい。また、遺伝情報の理解を深めるためにも本学の遺伝学も併せて受講することを勧める。						
学習相談・助言体制	質問は随時受付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。						

授業科目名	病態看護学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	2年
担当教員	鴻江俊治・他						
授業の概要	組織や細胞の変化、修復と再生などを理解し、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどについて病因、経過、形態について学ぶ。さらに疾患における臓器、組織の形態と機能の変化について学ぶ						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	基本的病変とその機序についての知識を具体的に述べる事ができる。看護を行う上で必要な疾病について説明できる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識						
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	細胞の障害、その障害に対する修復・再生・適応		講義		病態生理学第1章、病理学第2章		
2	基本的病変とその機序 循環障害		講義		病態生理学第1章、成人看護学 [3]、病理学第3章		
3	基本的病変とその機序 炎症		講義		病態生理学第1章、病理学第4章		
4	基本的病変とその機序 代謝障害		講義		病態生理学第10章、成人看護学 [6]、病理学第6章		
5	基本的病変とその機序 先天異常		講義		病態生理学第1章、病理学第8章		
6	基本的病変とその機序 腫瘍		講義		病態生理学第1章、成人看護学 [2] [4] [5] [7] [8] [9]、病理学第9章		
7	血液の障害		講義		病態生理学第5章、成人看護学 [4]、病理学第11章		
8	神経機能の障害		講義		病態生理学第12章、成人看護学 [7]、病理学第16章		
9	呼吸器機能の障害		講義		病態生理学第7章、成人看護学 [2]、病理学第12章		
10	循環機能障害①		講義		病態生理学第6章、成人看護学 [3]、病理学第10章		
11	循環機能障害②		講義		病態生理学第6章、成人看護学 [3]、病理学第10章		
12	消化器の障害		講義		病態生理学第8章、成人看護学 [5]、病理学第13章		
13	肝胆膵の障害		講義		病態生理学第8章、成人看護学 [5]、病理学第13章		
14	運動機能の障害		講義		病態生理学第12章、成人看護学 [10] [11]、病理学第17章		
15	排泄機能の障害		講義		病態生理学第9章、成人看護学 [8]、病理学第14章		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎				100
補足事項		出席は確認します。授業内容及び順番に変更の可能性あり					
テキスト・参考文献等	医学書院 系統看護学講座 「病理学」「病態生理学」「成人看護学」						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	講義終了後に質問すること。						

授業科目名	病態看護学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	2年
担当教員	武富 章・中島雄一・久枝哲史・鳥谷陽一・川場知幸・藤田拓司						
授業の概要	疾患の頻度や臨床的重要度にもとづいて、典型的な症例を中心に、症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考の進め方や各種検査の意義、さらに治療方法について解説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識 DP2：専門・隣接領域の知識	症候から鑑別診断・確定診断へと至る考え方（病気のみかた）と各種検査の意義を説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	腎・泌尿器、生殖器（男性）①	講義	成人看護学 [8]	中島			
2	腎・泌尿器、生殖器（男性）②	講義	成人看護学 [8]	中島			
3	呼吸器①	講義	成人看護学 [2]	武富			
4	呼吸器②	講義	成人看護学 [2]	武富			
5	循環器①	講義	成人看護学 [3]	武富			
6	循環器②	講義	成人看護学 [3]	武富			
7	消化器①	講義	成人看護学 [5]	武富			
8	消化器②	講義	成人看護学 [5]	武富			
9	消化器③	講義	成人看護学 [5]	武富			
10	内分泌・代謝	講義	成人看護学 [6]	武富			
11	血液・免疫	講義	成人看護学 [4]	武富			
12	脳・神経	講義	成人看護学 [7]	川場			
13	感覚器	講義	成人看護学 [14]	鳥谷			
14	生殖器（女性）	講義	成人看護学 [9]	藤田			
15	運動器	講義	成人看護学 [10] [11]	久枝			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎					
補足事項	出席は確認します。						
テキスト・参考文献等	医学書院 系統看護学講座 「成人看護学」						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	講義終了後に質問すること。						

授業科目名	看護薬理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	豊平 由美子	前期	講義	必修	2	2年
授業の概要	<p>数多くの薬が使用されている臨床の現場では、薬の特徴や作用を理解することは非常に重要である。  1. 薬物の体内動態と作用部位、2. 薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3. 薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4. 薬物の副作用とその対策（副作用の出現とそのときに看護師としてどうするか）、以上について薬理学の基礎と薬物治療の基本を説明する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人体のしくみについて説明できる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	薬の作用機序・薬理作用・有害作用についての知識を活用することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	過去の薬害問題に対して、資料を収集し、問題点・今後の対応について考察することができる。					
	DP4：表現力	薬の作用・副作用を説明できる。薬害についての調査・考察を述べるすることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	薬理学総論Ⅰ・末梢神経系に作用する薬物Ⅰ：自律神経系と薬の作用・交感神経作用薬		講義		配布プリント・各章末ゼミナール（復習と課題）にて復習		
2	末梢神経系に作用する薬物Ⅱ：副交感神経作用薬・筋弛緩薬・局所麻酔薬		〃		〃		
3	心臓・血管系に作用する薬物Ⅰ：抗高血圧薬・狭心症治療薬・うっ血性心不全治療薬		〃		〃		
4	心臓・血管系に作用する薬物Ⅱ：抗不整脈薬・利尿薬・高脂血症治療薬・血液に作用する薬物		〃		〃		
5	中枢神経系に作用する薬物Ⅰ：全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・麻薬性鎮痛薬		〃		〃		
6	中枢神経系に作用する薬物Ⅱ：抗精神病薬・抗うつ薬・パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬		〃		〃		
7	抗感染薬		〃		〃		
8	抗がん剤・免疫治療薬		〃		〃		
9	抗アレルギー薬・抗炎症薬		〃		〃		
10	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物		〃		〃		
11	物質代謝に作用する薬物		〃		〃		
12	薬害問題を考える		プレゼンテーション・討論		グループワーク（発表資料の作成）		
13	薬理学総論Ⅱ		講義		配布プリント・各章末ゼミナール（復習と課題）にて復習		
14	薬理学総論Ⅲ		〃		〃		
15	消毒薬・総括		〃		〃		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	○			90	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			10	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：吉岡充弘他【著】系統看護学講座 専門基礎分野『疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』第13版 医学書院 2014年 2,300円  参考書：田中千賀子・加藤隆一【編】『NEW薬理学』改訂第6版 南江堂 2011年 8,800円</p>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	質問は随時受け付けますので、口頭、出席票への記入、メール等で質問して下さい。詳細は初回講義時に説明します。						

授業科目名	感染・免疫看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	1	1年
担当教員	杉野浩幸						
授業の概要	看護師として知っておくべき細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について概説する。感染症の症状について理解し、第三者に的確に説明できることを目標とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	各種感染症について、病名、原因となる細菌・ウイルス・真菌、免疫応答について理解する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	授業ガイダンス、HIV検査について		講義		テキストの章末に掲載		
2	病原細菌と細菌感染症－1		講義		テキストの章末に掲載		
3	病原細菌と細菌感染症－2		講義		テキストの章末に掲載		
4	病原細菌と細菌感染症－3		講義		テキストの章末に掲載		
5	病原細菌と細菌感染症－4		講義		テキストの章末に掲載		
6	病原細菌と細菌感染症－5		講義		テキストの章末に掲載		
7	病原細菌と細菌感染症－6		講義		テキストの章末に掲載		
8	病原ウイルスとウイルス感染症－1		講義		テキストの章末に掲載		
9	病原ウイルスとウイルス感染症－2		講義		テキストの章末に掲載		
10	病原ウイルスとウイルス感染症－3		講義		テキストの章末に掲載		
11	病原ウイルスとウイルス感染症－4		講義		テキストの章末に掲載		
12	病原ウイルスとウイルス感染症－5		講義		テキストの章末に掲載		
13	小テスト、細菌とウイルスのまとめ		講義、小テスト		テキストの章末に掲載		
14	病原性真菌と真菌感染症		講義		テキストの章末に掲載		
15	免疫学の基礎		講義		テキストの章末に掲載		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート			◎				75
授業態度・授業への参加度			◎				25
補足事項		1回の欠席につき、5点減点する。試験の点数（100点満点）から欠席分の点数を引き、60点以上を合格とする。					
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したテキストを配付する。参考文献：『新クイックマスター、微生物学』、医学芸術社、2010年、『系統看護学講座、微生物学』、医学出版、2014年、『看護の基礎固め、6.微生物学編』、メディカルレビュー社、2011年						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業後に個別に受け付ける。研究室で直接、または、ホームページの質問フォームからも受け付ける（ <a href="http://lab.hsugino.net/">http://lab.hsugino.net/</a> より）。						

授業科目名	生態・病態看護学実験		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実験	必修	1	2年
担当教員	田中美智子・芋川 浩・杉野浩幸・江上千代美						
授業の概要	人体の構造と機能をより理解するために、自ら経験する実習を通して、人体の生理的反応を捉える。また、人体解剖見学及び動物の解剖を通して、正常な臓器や組織の観察を行い、生体の構造や機能の理解を深める。さらに、手指・鼻腔などから細菌の検出を行い、感染防御の基礎的知識を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	人体の構造と機能の知識を具体的に述べるができる。感染防御の知識を説明できる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	指定されたレポートを作成することで人体の構造と機能及び感染看護学に関する課題を完成することができる。					
	DP4：表現力						
技能	DP10：専門分野のスキル	心電図、血液、尿検査などの検査方法について注意事項をおさえながら実施できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	オリエンテーション、動物の解剖：ラットなどの生体解剖（全般説明）	説明・実験・まとめ	※1事前に配布する資料やeラーニング掲載資料&マニュアルなどで事前・事後が学習を行う。	芋川			
2	動物の解剖：ラットなどの生体解剖（腹部・胸部）	説明・実験・まとめ					
3	動物の解剖：ラットなどの生体解剖（脳・生殖器）	説明・実験・まとめ					
4	感覚：二点弁別法・味覚	説明・実験	※2 eラーニングに掲載したプリントの事前学習を調べておく。eラーニングの動画により実習内容と手技を事前に確認しておく。	江上田中			
5	筋電図：筋肉の動き	説明・実験					
6	運動負荷による循環反応：心拍数と血圧の変化	説明・実験					
7	人体解剖見学（学外）	説明・見学・まとめ	※1と同じ	芋川			
8	循環：心電図の測定と解析・呼吸性不整脈の観察	説明・実験	※2と同じ	江上田中			
9	腎機能：水負荷試験による尿量の変化	説明・実験					
10	血液：赤血球数・赤血球直径・ヘマトクリット値・MCV値	説明・実験					
11~14	手指、口腔、咽頭常在菌の検出、細菌の抗生物質耐性試験、携帯電話に付着した細菌の検出、グラム染色	説明・実験・まとめ	事前に配布する演習テキストに掲載された課題について事前、事後の学習を行う。	杉野			
15	発表・まとめ（3～6回・8～10回）	講義・一部発表	結果を整理し、発表できるように準備	江上田中			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	○			60	
宿題・授業外レポート		○	○		○	30	
その他（測定）					○	10	
補足事項	4名の教員が主担当するので、特定の教員の担当実習の多くを欠席した場合、全体として出席が足りていても成績が出せないことがある。詳しくは各教員から説明がある。						
テキスト・参考文献等	担当教員が作成した実験・実習マニュアル						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	eラーニングを用いて予習できる環境を提示している。						

(専)看護  
門護  
科学学  
目科部

授業科目名	基礎看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子						
授業の概要	看護は対象の健康的な生活や自立の獲得に向け、直接的なかかわりを通して実現される実践活動である。この科目では、実践活動の基盤となっている「ホリスティックな人間の見方」「健康のとらえ方」「環境のとらえ方」「看護とは何か」を柱に、目的論・対象論・方法論をふまえながら学ぶ。また看護はどのような歴史の変遷をたどってきたのか、保健医療の中における看護の専門性・独自性についても学んでいく。さらに看護の役割は何かについても理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	「人間」「健康」「環境」「看護」の主要概念について理解できる。 看護の歴史の変遷および社会における看護の役割について理解できる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	グループワークを通じて自己の意見を表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	課題学習を通して、看護の専門性および独自性について探究できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	ガイダンス 看護とは何か	講義	レポート課題①	永嶋			
2	看護とは何か	講義					
3	看護の歴史の変遷（誕生と発展）	講義					
4	看護の歴史の変遷（誕生と発展）	講義	レポート課題②				
5	看護における人間の理解	講義					
6	健康と看護	講義					
7	環境と看護	講義 ディスカッション	課題提示				
8	環境と看護	グループワーク 発表					
9	生活と看護	講義		加藤			
10	看護の捉え方と看護の独自性（1）	講義		瀧野			
11	看護の捉え方と看護の独自性（2）	講義					
12	保健医療福祉における看護の専門性	講義					
13	看護の機能と看護活動（1）	講義					
14	看護の機能と看護活動（2）	講義					
15	看護の法と倫理	講義	レポート課題③	永嶋			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				60	
宿題・授業外レポート		◎				20	
授業態度・授業への参加度		○	○	◎		20	
テキスト・参考文献等	テキスト 1) 松木光子、『看護学概論』第5版、ヌーヴェルヒロカワ、2011年、2,200円（税別） 2) F・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳『看護覚え書改訂第7版』現代社、2011年、1,700円（税別） 3) ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会、2006年、1,000円（税別）						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業に対する理解度を確認するために、毎回 response card に記入してもらい、質問がある場合は、次回回答する。状況によっては個別に対応する。						

授業科目名	基礎看護技術論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	2	1年
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・清水夏子						
授業の概要	看護技術の理論的な根拠を理解し、対象の健康状態や発達段階等の個別性に応じて臨機応変に活用できるように看護の基本技術を修得する。現在用いられている看護技術は、実践の中で検証が重ねられているが、そのような成果を学ぶとともに、看護技術を検証する能力も身につける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護技術が対象の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な行為であることを説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護行為の裏付けについて考えることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	基礎看護技術の行為の根拠を説明でき、疑問が生じた場合は、解決のための主体的な行動をとることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	安全・安楽な基礎的看護技術を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	基礎看護技術概説 環境を整える技術①（ベッドメイキング）	1）1回の演習は90分の2コマ続きである 2）原則として、毎回講義60分、実技120分を目安に演習を行う 3）各演習の進め方についてはその都度示す 4）課題は随時提示する	適宜、技術の評価を行う。	永嶋 瀧野 加藤 藤野 於久 清水			
2	活動・休息の援助技術①（体位変換、床上移動）						
3	活動・休息の援助技術②（移動・移送・歩行の援助）						
4	環境を整える技術②（就床患者のシーツ交換）						
5	安全を守る技術①（手洗い法、滅菌手袋の装着）						
6	安全を守る技術②（ガウンテクニック、無菌操作）						
7	安全を守る技術③（無菌操作）						
8	食の援助技術①（食事介助、口腔ケア）						
9	食の援助技術②（食事介助、口腔ケア）						
10	排泄の援助技術（便器・尿器の使用法）						
11	清潔の援助技術①（全身清拭、寝衣交換）						
12	清潔の援助技術②（全身清拭、寝衣交換）						
13	清潔の援助技術③（洗髪、整容）						
14	清潔の援助技術④（手浴、足浴）						
15	清潔の援助技術⑤（陰部洗浄、おむつ交換）						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験（筆記試験・実技試験）		◎	○		◎	50	
授業態度・授業への参加度		○		○	◎	40	
演習（技術チェック）			○		◎	10	
テキスト・参考文献等	テキスト：茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015年、2,600円（税別） 任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2013年、2,900円（税別）						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	月～金曜日の放課後（17：50～19：00）に学習支援を行う。ただし、事前にアポイントメントが必要。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	ケアリング論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	永嶋 由理子	前期	講義	必修	1	1年
授業の概要	ケアリングは看護実践の中核となる概念であり、看護者と対象との関係のあり様を示す重要な概念である。この科目ではケアリングの概念及び関連理論に基づき、看護におけるケアリングの重要性と実際について様々な事例を用いながら学ぶ。またその過程を通して、ホリスティックな人間理解を深めるとともに、看護の本質を探求することや看護観を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	ケアリングの概念および関連理論について理解できる。 ホリスティックな視点から対象を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護におけるケアリングの重要性を理解し、ケアの視点を論述できる。					
	DP4：表現力	グループワークを通じて自己の意見を表現することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ケアリングの概念と捉え方（1）		講義		課題提示（事例1）		
2	ケアリングの捉え方（2）		講義 グループワーク				
3	ケアリングの捉え方（3）		発表会（ロールプレイ）				
4	ケアリングと関連理論		講義 ディスカッション				
5	看護におけるケアリング（1）		講義 グループワーク		課題提示（事例2）		
6	看護におけるケアリング（2）		講義 グループワーク		課題提示（事例3）		
7	ケアリングの実際		講義 ディスカッション				
8	ケアリングの倫理		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		○	◎			60	
授業内レポート		○	○			10	
授業態度・授業参加度（GW参加度含む）		○	◎			20	
受講者の発表（ロールプレイ・成果発表）		○	◎			10	
テキスト・参考文献等	参考文献： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネル・ノディングス「ケアリング：倫理と道徳の教育－女性の視点から」、晃洋書房、1997年、4,000円（税別）</li> <li>2. V・ヘンダーソン、湯槇ます・小玉香津子訳「看護の基本となるもの」、日本看護協会出版会、2006年、1,000円（税別）</li> <li>3. F・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳『看護覚え書改訂第7版』現代社、2011年、1,700円（税別）</li> <li>4. ミルトン・メイヤロフ「ケアの本質」、ゆみる出版、1987年、1,500円（税別）</li> <li>5. ジーン・ワトソン「ワトソン看護論－ヒューマンケアリングの科学（第2版）」、医学書院、2014年、2,700円（税別）</li> </ol>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業に対する理解度を確保するために、毎回 response card に記入してもらい、質問がある場合は、次回回答する。状況によっては個別に対応する。						

授業科目名	シンプトンマネジメント論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美	後期	演習	必修	1	2年
授業の概要	さまざまな疾病や治療に付随するシンプトン（Symptom）を理解し管理・緩和することは、患者に安楽をもたらすQOLの向上を目指す看護にとって非常に重要なことである。この授業では、看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験の全容を理解し、症状を管理・緩和する実践についてその科学的根拠とともに学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	症状マネジメントについて理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象者に応じた症状マネジメントを行い、必要な看護ケアを見出すことができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	症状マネジメントから導き出された看護ケアについて提案できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	症状を管理・緩和する看護技術を修得し、実施することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	症状・シンプトンとは 症状マネジメントモデル 症状マネジメントにおける看護師の役割と責任		講義				
2	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント①		講義				
3	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント②		講義・演習（褥瘡予防）				
4	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント③		講義・演習 （包帯法・創傷処置）				
5	消化器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント		講義				
6	循環器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント		講義				
7	呼吸器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント①		講義				
8	呼吸器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント②		講義				
9	呼吸器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント③		講義・演習 （排痰法・吸入・吸引・酸素吸入・体位ドレナージ）				
10	感覚器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント		講義				
11	シンプトンマネジメント演習①		演習（グループワーク）		課題提示		
12	シンプトンマネジメント演習②		演習（グループワーク）		課題提示		
13	シンプトンマネジメント演習③		演習（グループワーク）		課題提示		
14	シンプトンマネジメント演習④		演習（発表）		課題提示		
15	シンプトンマネジメント演習⑤		演習（発表）		課題提示		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験（小テスト含む）		◎				50	
授業態度・授業への参加度		◎			◎	20	
演習			◎	◎		30	
補足事項	演習30%の評価はシンプトンマネジメント演習①～⑤により行う。その他の演習の評価は授業態度・授業への参加度により行う。必要時小テストを行う。						
テキスト・参考文献等	講義時に資料を配布する。						
履修条件	フィジカルアセスメント論、看護過程を修得していること。						
学習相談・助言体制	月～金曜日の放課後（17：50～19：00）に学習支援を行う。ただし、事前にアポイントメントが必要。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	フィジカルアセスメント論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	演習	必修	2	2年	
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・清水夏子							
授業の概要	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について学ぶ。ここでは、フィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術について学ぶ。							
<b>学生の到達目標</b>								
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	フィジカルアセスメントを実施するうえで必要な基礎的知識を理解している。						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	フィジカルイグザミネーションで得た情報をアセスメントし、看護援助を導き出すことができる。						
技能	DP10：専門分野のスキル	適切なフィジカルアセスメントを実施することができる。 アセスメント結果をもとに対象に必要な看護援助を実施することができる。						
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担当				
1・2	フィジカルアセスメント論概説 ヘルスインタビュー	講義・技術演習		永嶋 瀧野 加藤 藤野 於久 清水 未定				
3・4	生命危機状態にある患者のフィジカルアセスメントと援助技術①	講義・技術演習						
5・6	生命危機状態にある患者のフィジカルアセスメントと援助技術②	講義・技術演習						
7・8	外皮系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術	講義・技術演習	事前課題：外皮系の解剖生理のレポート作成					
9・10	消化器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術①	講義・技術演習	事前課題：消化器系等の解剖生理のレポート作成					
11・12	消化器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術②	講義・技術演習						
13・14	腎・泌尿器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術	講義・技術演習	事後課題：ビデオによる個別実技試験					
15・16	フィジカルアセスメント中間実践演習	技術演習						
17・18	呼吸器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術	講義・技術演習	事前課題：呼吸器系の解剖生理のレポート作成					
19・20	循環器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術	講義・技術演習	事前課題：循環器系の解剖生理のレポート作成					
21・22	神経系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術	講義・技術演習	事前課題：神経系の解剖生理のレポート作成					
23・24	筋・骨格系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術	講義・技術演習	事前課題：筋・骨格系の解剖生理のレポート作成					
25・26	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術①	講義・技術演習						
27・28	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術②	講義・技術演習	事前課題：注射部位のレポート作成					
29・30	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術③	講義・技術演習						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現		関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎					30	
宿題・授業外レポート		◎	○				10	
授業態度・授業への参加度			○		◎	30		
その他（個別実技試験）					◎	30		
テキスト・参考文献等	テキスト 1. 茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015年、2,600円（税別） 2. 任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2013年、2,900円（税別） 参考文献 1. リンS. ビックリー他「バイツ診察法」メディカル・サイエンス・インターナショナル、2008年							
履修条件	基礎看護技術論を修得していること。							
学習相談・助言体制	月～金曜日の放課後（17：50～19：00）に学習支援を行なう。ただし、事前にアポイントメントが必要。							

授業科目名	看護過程		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	2年
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美						
授業の概要	看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学ぶ。ここでは、看護過程の意義や目的を理解するとともに事例を用いて具体的な展開方法を習得していく。また、演習を行うなかで、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護過程の意義と目的、看護過程の各段階を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	知識を用いて患者の健康問題を客観的にアセスメントできる。論理的思考を駆使して看護過程の各段階について論述できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	文献学習やグループディスカッションを通して主体的に学習できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	事例患者の看護過程を展開できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	看護過程の概要	講義 演習事例配布	* 適宜課題提示を行う * 事例患者の疾患について学習	永嶋			
2	看護過程の実際①	講義					
3	看護過程の実際②	講義					
4	事例演習① 情報収集と情報の整理	演習	* テキスト講読	永嶋 瀧野 加藤 藤野 於久			
5	事例演習② 情報収集と情報の整理、健康逸脱の有無の判断	演習					
6	事例演習③ 情報収集と情報の整理、健康逸脱の有無の判断	演習					
7	事例演習④ 健康逸脱の有無の判断：発表	演習（発表会）	* 発表資料作成				
8	事例演習⑤ 健康逸脱の有無の判断：発表	演習（発表会）					
9	看護過程の実際③	講義		永嶋			
10	事例演習⑥ 関連図、分析・解釈	演習		永嶋 瀧野 加藤 藤野 於久			
11	事例演習⑦ 分析・解釈	演習					
12	事例演習⑧ 分析・解釈	演習					
13	事例演習⑨ 分析・解釈：発表	演習（発表会）	* 発表資料作成				
14	事例演習⑩ 看護問題の明確化と目標設定	演習					
15	事例演習⑪ 看護計画立案	演習					
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		◎	◎	◎		20	
演習		◎	◎	◎	◎	20	
その他（演習記録）		◎	◎	○	◎	60	
テキスト・参考文献等	テキスト：マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』、照林社、2006年、2,600円（税別） * テキスト及び配布資料にて講義・演習を進める。						
履修条件	基礎看護学概論、ケアリング論、基礎看護技術論を修得していること。						
学習相談・助言体制	演習時間外でも質問等について個別対応する。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	看護研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	3年
担当教員	永嶋由理子・渡邊智子・杉野浩幸・石田智恵美・四戸智昭・小出昭太郎						
授業の概要	看護師が科学的な実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成する看護研究は非常に重要である。この科目では、将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し臨床で活用できる能力を身につけることを狙いとする。また、看護の事象を科学的に捉え分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護研究の意義と基本的な研究方法について理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	研究論文の意図を解釈するとともに批判的に読解することができる。					
	DP4：表現力	グループワークを通して自己の考えを他者に説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		担当
1	看護研究とは 概念枠組み 研究デザイン 研究計画の立て方		講義		配布資料		永嶋
2・3	文献検討		講義・演習		提示された文献をグループで購読・要約し、グループごとに発表する		
4～6	量的研究 量的データの収集分析 量的研究の方法 量的研究批評		講義		配布資料		小出
7・8	質的研究（総論） 質的データの収集分析 質的研究の方法 研究倫理		講義・演習		配布資料		渡邊
9・10	実験研究 実験データ収集・分析 実験研究の方法		講義・演習		配布資料		杉野
11・12	アクションリサーチ		講義・演習		配布資料		石田
13・14	尺度開発		講義		配布資料		四戸
15	看護研究のまとめ		講義・演習		各自で興味・関心のある文献を1つ検索し、それについて要約する		永嶋
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験			◎			20	
宿題・授業外レポート		○	◎			40	
授業態度・授業への参加度		○				20	
受講者の発表（プレゼン）			○			20	
テキスト・参考文献等	指定テキストなし。教員からの配布資料によって講義を行う。						
履修条件	教養演習を修得していること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー・メールにて受け付け、回答する。 上記以外での相談についてはメールにより事前にアポイントメントが必要。						

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	必修	1	1年
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・江上千代美・増満 誠・清水夏子						
授業の概要	医療施設や介護老人保健施設を利用する人々に対し、保健医療福祉チームはどのように連携しながら対象者のニーズに対応しているかを知る。その中で看護はどのような役割を果たしているかを知り、看護を学ぶ者としての自覚と主体的な学習の動機づけとする。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	保健医療福祉施設の概要について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保健医療福祉施設の役割、専門職種間の連携、看護の役割について考えたことを述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	看護への興味・関心と学習への積極的態度を示す。					
技能	DP10：専門分野のスキル	基礎的なコミュニケーション技術を使って対象と接することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 実習方法</p> <p>1) 実習期間は1週間とする。</p> <p>2) 医療施設では学生を25名のグループに、介護老人保健施設では学生を10名のグループに編成し、グループ毎に担当教員を配置する。</p> <p>2. 実習内容</p> <p>1) 医療施設では外来、病棟、他部門について見学を行う。</p> <p>2) 介護老人保健施設では入所施設、デイケア、グループホーム等の見学を行う。</p> <p>3) 最終日に全体の発表会を行う。</p> <p>3. 実習施設</p> <p>150床以上の総合病院（外来、病棟、他部門）および介護老人保健施設（入所施設、デイケア、グループホーム）</p> <p>4. 事前学習</p> <p>1) 保健医療福祉チームについて学習する。</p> <p>2) 看護活動が行なわれている場について学習する。</p> <p>3) 介護保険の目的・仕組みについて学習する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		◎	◎	◎	◎	50	
その他（実習記録、レポート）		◎	◎	○		50（25+25）	
補足事項	授業態度は実習への取り組みとして評価する。						
テキスト・参考文献等	必要な参考文献や資料等は、その都度紹介する。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	科目担当責任者のもとに、各実習施設のスーパーバイザー及び各グループの担当教員を配置し、事前学習、実習指導、実習後のまとめの相談、助言を行う。						

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	必修	2	2年
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・江上千代美・増満 誠・清水夏子						
授業の概要	受け持ち患者に対する理解を深め、患者の看護の必要性をニードの視点から見出す。さらに、患者のニード充足のために既習得技術を活用して看護援助を実践できる基礎的能力を身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護を展開する方法について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	患者の全体像について、理論を活用し適切に把握することができる。 患者のニード充足・不足についてアセスメントすることができる。 受け持ち患者に必要な看護援助を見出すことができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	他者に対する深い思いと関心をもち、よりよい人間関係を構築するための態度を示すことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	受け持ち患者に必要な看護援助について、日常生活援助を中心に実施することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>実習の目的・目標については、実習要項に提示する。</p> <p>1. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1人の患者を受け持ち、看護を展開する。</li> <li>2) 最終日に全体の発表会を行う。</li> <li>3) 実習の内容の詳細については、実習要項に提示する。</li> </ol> <p>2. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習期間は2週間とする。</li> <li>2) グループを学生4名～6名で編成し、各グループに1名の担当教員が学生の指導にあたる。また、実習病院ごとに1人のスーパーバイザーを配置し、実習を円滑に進めるための対策を講じる。</li> <li>3) 各病院の実習指導者から指導を受けながら実習を行う。</li> <li>4) 実習の方法の詳細については、実習要項に提示する。</li> </ol> <p>3. 実習場所</p> <p>社会保険田川病院、田川市立病院、北九州総合病院、総合せき損センター</p> <p>4. 事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受け持ち患者に必要な看護技術について再学習する。</li> <li>2) 受け持ち患者の疾病、受けている治療や検査について学習する。</li> <li>3) 患者の基本的ニードについて学習する。(資料配付)</li> <li>4) コミュニケーション技術について学習する。(資料配布)</li> <li>5) カンファレンスの目的と方法について学習する。</li> </ol>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○	○	◎	○	60	
その他（実習内容、実習記録）		◎	◎	○	◎	40	
補足事項	評価方法の詳細は実習要項参照。						
テキスト・参考文献等	<p>参考文献 茂野香お他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015年、2,600円（税別） 任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2013年、2,900円（税別） マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』、照林社、2006年、2,600円（税別）</p>						
履修条件	基礎看護技術論、基礎看護学実習Ⅰを修得し、フィジカルアセスメント論、看護過程を履修していること。						
学習相談・助言体制	実習前の1週間を技術習得の期間にあて、必要に応じて個別指導を行い、技術レベルを向上させる。						

授業科目名	看護管理論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	1	4年
担当教員	未定						
授業の概要	看護管理とは、対象者（患者）にケア、治療、そして安楽を与えるための看護メンバーによる仕事の過程をいう。このために、看護学の視点のみならず心理学、社会学、経営学、組織学、医療経済、政治学など幅広い分野の知識が必要とされ、応用科学の性質をもつ。本授業では、看護の提供および患者安全確保のために、必要な看護マネジメントの基本的知識を学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	患者安全の基本的知識および技術を学修し患者安全ための知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護提供者として看護管理に対する自己の概念を構築することができる。					
	DP4：表現力	市場サービスの特性を理解し看護サービスの質向上に活用できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	今日の医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みを考察できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	看護管理上の問題解決技法を学修し看護ケアを調整する方法がわかる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	看護管理の意義		講義		第1章		
2	看護関連の法令・制度		講義		第4章		
3	病院部門と看護部門		講義		第4章		
4	看護ケアのマネジメント		講義		第2・3章		
5	看護サービスのマネジメント		講義		第2・3・5章		
6	看護サービスのマネジメント、看護倫理。		講義		第2・3・5章		
7	看護提供と患者安全		講義		第2・3章		
8	看護提供と患者安全		終講	事例 演習	第2・3章		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
			◎				70
定期試験				○			20
小テスト・レポート					○		10
授業態度・授業への参加度						○	
テキスト・参考文献等	テキスト 系統看護学講座看護統合と実践 [1] 看護管理、医学書院 参考図書 看護管理学習テキスト看護管理概説、日本看護協会出版会 看護管理学習テキスト看護管理基本資料集 日本看護協会出版会						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	いつでも可						

(専)看護  
門護  
科学学  
目科部

授業科目名	看護教育学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	3年
担当教員	石田智恵美・清水夏子						
授業の概要	これまで受けてきた教育を通して、教育とは何かについて考える。また、看護領域における教育について、歴史・思想・制度・目的・方法などを学び、看護教育に関する現状と課題、将来の展望について考察する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育の位置付けと考え方を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護教育学を教育の視点で考察することができる。					
	DP4：表現力	看護教育の現状と課題について述べるすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	看護教育学とは何か		講義				
2	看護専門職としての看護 看護教育の目的 -大学卒業者に期待される役割-		講義				
3	看護教育制度論 -指定規則にみる歴史の変遷-		講義				
4	看護学教育課程論 -教育課程編成の実際-		講義				
5	学習理論と学習方法		講義				
6	看護学教育授業展開論 -授業形態と教授方略-		講義				
7	教育評価		講義				
8	看護継続教育 看護教育の課題と展望		講義		レポート課題		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート ※			○			50	
その他：課題レポート		◎	○			50	
補足事項		※毎回の授業終了時に発見や気づきを記述し提出する。					
テキスト・参考文献等	テキスト：グレッグ美鈴・池西悦子編集，看護教育学，南江堂						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業以外の時間での質問は、E-メールで受け付ける。 石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	看護実践論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	3年
担当教員	石田智恵美・清水夏子						
授業の概要	3年次の実習への導入として、実習中に起こり得る出来事をシミュレーションし、未来を予測した問題解決を実践する。また、個人ワークに基づいたグループワークを行うことで、自らの判断基準を広げる。方法として、ポートフォリオを活用したプロジェクト学習・ワークシートを活用した演習を行う。看護実践の一貫としてCPR（心肺蘇生法）を演習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	CPRに関する基礎的な知識を獲得することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	基礎看護技術を活用して、事例課題を解決することができる。 タスクマネジメントを通して、看護の優先度を考察することができる。					
	DP4：表現力	グループワークの発表を通して、考えを適切に説明する方法を理解することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	CPRの演習を通して実生活に活用する方法を理解する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容					事前・事後学習（学習課題）	
1・2	コースオリエンテーション ポートフォリオの紹介 実習を乗り切るアイデア集を作ろう！（各論実習に向けて）					(事後) 実習を乗り切るアイデア集を基に実習への準備を行う。	
3	実習で活用するための基礎看護技術①						
4	実習で活用するための基礎看護技術②						
5	タスクマネジメント①						
6	タスクマネジメント②						
7・8	CPR（心肺蘇生法）						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○					30
受講者の発表（プレゼン）			○				30
演習		○	◎		○		40
テキスト・参考文献等	必要に応じて配布、紹介する。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	演習中、演習終了後にも学生の相談・指導を行う。						

授業科目名	教師論 (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	石田 智恵美						
授業の概要	子どもを理解することを通して、望ましい教師-生徒関係、教師に求められる能力、教師としての成長について考える機会となります。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について考察することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を明らかにすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	コースオリエンテーション - 私の教師像 -			事後：現時点の教師観を確認する			
2	子どもと大人 ①			配布資料を読んでくる			
3	子どもと大人 ②			〃			
4	教員養成制度と教育職員免許法			※レポート1			
5	序章 そもそも教育は何のため？			事前学習と担当者のプレゼン			
6	第1章 学力とは何か						
7	第2章 学びの個別化						
8	第5章 学力評価と入学試験						
9	第7章 教師の資質						
10	学力低下論争の構図 学力低下論の源流						
11	学力低下論争の火ぶた						
12	論争をひもとく						
13	きみはいい子 を読んで ①			テキストを読んでくる			
14	きみはいい子 を読んで ②			テキストを読んでくる			
15	私の教師観 まとめ			※レポート2			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			○	○		40	
その他 ※課題レポート			◎			40	
テキスト・参考文献等	テキスト：市川伸一著、学力低下論争、ちくま新書／苦野一徳著、教育の力、講談社現代新書／中脇初枝著、きみはいい子、ポプラ社 参考書：河合隼雄他著、子どもと大人、岩波書店／池上彰著、日本の教育がよくわかる本、PHP 文庫						
履修条件	養護教諭希望者対象						
学習相談・助言体制	メールでアポイントを取ってください。 emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	看護情報学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	増 満 誠						
授業の概要	「看護情報学とはコンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせることによって看護についてのデータ、情報、知識の処理と管理を行い、臨床看護と看護ケアの提供を支援するものである」という定義を踏まえ、看護における情報について、情報を得ること、その捉え、活用方法を演習（CST：コミュニケーション感性トレーニング）を通して体系的に学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護における情報について、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。そして、それらについて適切なデータや情報を活用し自己の意見を述べることができる。					
	DP4：表現力						
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	看護におけるあらゆる現象を的確に捉えることや活用する方法を主体的に探求することができる。					
技能	DP8：情報リテラシー	あらゆる看護にまつわる情報の中から適切な情報を取捨選択し活用することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	看護情報学とは	講義	授業全般を通して与えられる「問い」としての看護における「情報」や「現象」について、疑問をもちその意味などの解釈や推測を重ね授業に臨んでください。				
2	情報を得るとは①：CST ①5感の活用	講義・演習					
3	情報を得るとは②：CST ②コミュニケーション	講義・演習					
4	情報を得るとは③：CST ③コミュニケーションエラー	講義・演習					
5	情報を捉える枠組み①：CST ④フレームワーク	講義・演習					
6	情報を捉える枠組み②：CST ⑤自動思考・価値討論	講義・演習					
7	看護における統計の基礎と実際	講義・演習					
8	情報を活用する方法①：CST ⑥プレゼンテーション	講義・演習					
9	情報を活用する方法②：CST ⑦情報と言葉	講義・演習					
10	看護情報学の実際①：電子カルテ／標準看護計画	講義・演習					
11	看護情報学の実際②：e-ラーニング	講義・演習					
12	看護情報学の実際③：ホームページ	講義・演習					
13	これからの看護情報学（グループワーク①）	演習					
14	これからの看護情報学（グループワーク②）	演習					
15	これからの看護情報学（発表会）	演習					
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート			○	◎		10	
宿題・授業外レポート			○	○		10	
授業態度・授業への参加度			○	◎		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	◎	25	
演習			◎	◎	○	35	
補足事項	演習の中には相互評価法の一つである「びあレビュー」の状況や結果を含みます。						
テキスト・参考文献等	授業時適宜紹介する。						
履修条件	看護における「情報」を深く考えようと強い意思のある学生を求めます。						
学習相談・助言体制	受講者のレディネス、理解度、到達目標に合わせ集団又は個別に演習を進めていきます。相談がある場合はメールまたは直接研究室へ来てください。						

(専)看護  
門護  
科学学  
目科部

授業科目名	精神看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	2年
担当教員	安永薫梨・松枝美智子・宮崎 初						
授業の概要	個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場や状況に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な、精神保健看護の歴史、法律、看護理論および看護に関連する理論や看護技術について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神看護の機能と役割、構造について説明できる。 精神看護に関連する法律で重視されていることとその理由、それを実現するために決められていることを具体的に説明できる。 オレム-アンダーウッドモデルについて説明できる。 精神看護の対象者を、精神力動理論、発達理論、疾患と症状に関する理論から理解し、それらが対象者のセルフケアにどのように影響しているかという視点をもつ。 精神医療の世界的な潮流であるリカバリーを促進する考え方を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	精神看護の歴史や法律を概観し、今後の精神看護の在り方を考察できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	精神看護実践の構造と技術、精神看護の機能、看護師の役割		講義		安永		
2	精神保健看護の歴史		講義		松枝		
3	精神保健看護に関連する法律		講義		安永		
4	セルフケアを促進する技術		講義		安永		
5	精神力動理論を活用して人を理解する技術		講義		安永		
6	発達理論を活用して人を理解する技術		講義		安永		
7	疾患と症状に関する理論を活用して人を理解する技術；病識の獲得、障害受容を支える技術		講義		宮崎		
8	障害をもつ人のリカバリーを促進する技術		講義		松枝		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎	○			60
宿題・授業外レポート				○	○		40
テキスト・参考文献等	テキスト 1. 野嶋佐由美監修. (2010). 実践看護技術学習支援テキスト精神看護学. 東京, 日本看護協会出版会. 2. 宇佐美しおり, 鈴木啓子, Patricia Underwood. (2003). オレムのセルフケアモデル事を用いた看護過程の展開. 第3版, 東京; ヌーヴェル・ヒロカワ. 3. 服部祥子. (2010). 生涯人間発達論, 第2版, 東京; 医学書院.						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	コメントカードや研究室を訪ねての御相談、御意見、御質問に応じます。研究室を訪ねる場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。						

授業科目名	精神看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	2年
担当教員	安永薫梨・宮崎 初・新任教員						
授業の概要	個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護の対象者に看護を提供する視点や技術を説明できる。 看護の対象者の障害の種類や状態像に応じた看護の提供方法について説明できる。 治療やリハビリテーションを受ける対象者への看護の方法を説明できる。 看護を提供する場に応じた、看護の方法を説明できる。 精神科におけるリスク・マネジメントの方法を説明できる。 質の高い看護を提供するために必要な看護師のメンタルヘルスの促進の方法を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護の対象者となる人の経験を理解し、対象者の視点から看護のあり方を考察する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	精神障害の分類、統合失調症の理解、ケース像の形成に関わる技術	講義			安永		
2	ケース像の形成に関わる技術（続き） 精神に障害をもつ人のセルフケアを促進する技術 （統合失調症をもつ人とその家族への看護で展開）	講義			安永		
3	身体療法を受ける人とその家族の看護	講義			安永		
4	精神療法・リハビリテーションを受ける人とその家族の看護	講義			安永		
5	対人関係能力を育成する技術	講義			安永		
6	ストレス緩和とコーピングを強化する技術	講義			安永		
7	精神に障害をもつ人の家族への看護	講義			安永		
8	不安障害をもつ人とその家族の看護	講義			安永		
9	気分障害をもつ人とその家族の看護	講義			安永		
10	境界性人格障害・アルコール依存症をもつ人とその家族の看護	講義			安永		
11	発達障害を持つ人とその家族の看護	講義			安永		
12	精神科におけるリスク・マネジメント	講義			外部講師		
13	外来治療を受ける人とその家族の看護 入院治療を受ける人とその家族の看護	講義			宮崎		
14	セルフヘルプグループの活動を促進する技術	講義			WRAP研究会の皆さん・ 安永・宮崎・新任教員		
15	看護師のメンタルヘルスを促進する技術	演習			宮崎		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎				60	
	宿題・授業外レポート	○	○			40	
テキスト・参考文献等	テキスト 1. 野嶋佐由美監修. (2010). 実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学. 東京：日本看護協会出版会. 2. 宇佐美しおり, 鈴木啓子, Patricia Underwood. (2003). オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開, 第2版, 東京：ヌーヴェルヒロカワ. 3. 野嶋佐由美, 中野綾美. (2006). 家族エンパワーメントをもたらす看護実践. 東京：へるす出版. 参考文献 4. 服部祥子. (2010). 生涯人間発達論, 第2版, 東京：医学書院. 5. 川野雅資編. (2015). 精神看護学Ⅱ. 東京：ヌーヴェルヒロカワ.						
履修条件	出席が全体の2/3以上の場合に期末試験受験の資格が生じます。評価は試験で行います。出席は毎回出席票で確認します。						
学習相談・助言体制	質問や意見は授業後に提出する出席票に書いてください。文書または口頭で回答します。それ以外に質問や相談がある場合はメールで連絡するか研究室に遠慮なく来てください。						

授業科目名	精神看護学演習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	3年
担当教員	安永薫梨・宮崎 初・新任教員						
授業の概要	<p>援助関係を構築する技術とロール・プレイングを使った看護過程のグループワーク、看護上の出来事の再構成の個人ワークにより、他者理解と自己理解を深め質の高い看護を提供する能力を養う。またそれらの過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>対人関係論に基づく看護過程について理解する。            援助関係を構築する技術、治療的なコミュニケーション技術、精神状態査定を技術を理解する。            リフレクション・イン・アクションの方法としてのロール・プレイングについて理解する。            リフレクション・オン・アクションの方法としての看護上の出来事の再構成について理解する。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>事前学習を通してビデオ事例に何が起きているのかをアセスメントし、記述する。            ビデオ事例に対する看護の方向性を考え、場面を設定する。            ロール・プレイングで看護学生役をした時の場面を看護上の出来事の再構成で振り返り、コミュニケーション場面での自己理解と他者理解を深める。</p>					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	<p>ロール・プレイングについてのグループ・メンバーとのリフレクションにより、コミュニケーション場面での自分の傾向に気付く。            ロール・レタリングを活用し、患者側、看護学生側の立場より手紙を書くことで自己理解と他者理解を深める。</p>					
技能	DP10：専門分野のスキル	<p>対人関係論を念頭におき、援助関係を構築する技術、治療的なコミュニケーション技術、精神状態査定を技術を活用して、来談者の精神状態と現在のセルフケア上の困難を把握する。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	対人関係論 援助関係を構築する技術		講義		安永		
2	治療的なコミュニケーションとは コミュニケーションの障害（バリア） 効果的なコミュニケーション技術 非効果的なコミュニケーション技術		講義		安永		
3	精神状態の査定の技術（実践編）		講義		安永		
4	ロール・プレイングの原理と方法 看護上の出来事の再構成の原理と方法 次回の演習のオリエンテーション		講義		安永		
5・6	援助関係を構築しながら来談者の精神状態とセルフケア上の困難を把握するロール・プレイング		事前のワークシートを用いた状況設定による3人1組のグループによる演習		安永・宮崎・新任教員		
7	ロール・レタリングのオリエンテーションとビデオ学習による事例の理解と援助の方向性の探求		ワークシートによる演習		安永・宮崎・新任教員		
8	ロール・レタリング		ワークシートによる演習		安永・宮崎・新任教員		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		○	◎	○		40	
演習		○		◎	◎	60	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト            野嶋佐由美監修. (2010). 実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学. 東京：日本看護協会出版会.            参考文献            川野雅編著. (1997). 患者看護婦関係とロールプレイング. 東京：日本看護協会出版会.            服部祥子. (2010). 生涯人間発達論, 第2版, 東京：医学書院.            その他の文献は毎回の授業で紹介する。</p>						
履修条件	<p>出席が全体の2/3以上の場合に期末試験受験の資格が生じます。評価は試験で行います。出席は毎回出席票で確認します。</p>						
学習相談・助言体制	<p>質問や意見は授業後に提出する出席票に書いてください。文書または口頭で回答します。それ以外に質問や相談がある場合はメールで連絡するか研究室に遠慮なく来てください。</p>						

授業科目名	精神看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	1	3年
担当教員	安永薫梨・宮崎 初・新任教員						
授業の概要	ペーパーベシヤント事例にオレム－アンダーウッドモデルを適用し、看護過程を展開する能力を養う。その過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護過程の展開を通してこれまで学んだ知識を実践に応用できる確かな知識に変換する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	ペーパーベシヤントを用いて看護過程をシミュレーションできる。					
	DP4：表現力	お互いに学びあう姿勢を大切にし、自分の考えや感情を積極的に表現しながらグループ学習を進める。 グループで学習したことをわかりやすく他のグループにプレゼンテーションする。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	精神看護学実習に向けての自己やグループメンバーの課題や不安を共有し、精神看護実習に向けての心の準備を行う。					
技能	DP8：情報リテラシー	文献や図書を使って最新の知識を看護過程に活用する。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	実習に向けての不安や自己の課題の共有		演習		安永・宮崎・新任教員		
2	個人ワークで整理してきたデータベースをグループで共有し、検討する		演習		安永・宮崎・新任教員		
3	個人ワークで書いてきた総合的なアセスメントを検討する		演習		安永・宮崎・新任教員		
4	個人ワークで書いてきた総合的なアセスメントを検討する		演習		安永・宮崎・新任教員		
5	問題の明確化、長期目標、短期目標を共有し検討する		演習		安永・宮崎・新任教員		
6	看護計画、退院援助のイメージ図を共有し検討する		演習		安永・宮崎・新任教員		
7	初日のオリエンテーション、看護計画の発表会		演習		安永・宮崎・新任教員		
8	看護計画の発表会		演習		安永・宮崎・新任教員		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		20	
受講者の発表（プレゼン）		○	○	◎	○	20	
演習		○	◎	◎		60	
テキスト・参考文献等	テキスト ① 野嶋佐由美監修. (2010). 実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学. 東京；日本看護協会出版会. (2,200円) ② 宇佐美しおり、鈴木啓子、Patricia Underwood. (2003). オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開. 第2版, ヌーヴェル・ヒロカワ. (1,890円) ③ 野嶋佐由美監, 中野綾美. (2006). 家族エンパワメントをもたらす看護実践. 東京；へるす出版. (6,090円) ④ 川野雅資編. (2015). 精神看護学Ⅱ. 第6版. 東京；ヌーヴェルヒロカワ.						
履修条件	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習Ⅰを履修していること。						
学習相談・助言体制	個人ワークとグループワークの参加度、発表資料、発表内容、質疑応答の内容で評価する。						

(専)看護  
門護  
科学  
学  
目科部

授業科目名	精神看護学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	必修	2	3～4年
担当教員	安永薫梨・宮崎 初・新任教員						
授業の概要	精神に病や障がいをもつ人とその家族との援助的人間関係を築き発展させ、一日も早くその人らしい生活を取り戻せるようセルフケアを援助する為の臨床の知識、技術、態度を自己の経験の振り返りを通して実践的に修得する。また、それらの人々との関係を通して援助の担い手としての自己を見つめる能力を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	精神に障がいを持つ人やその家族と自分が経験したことの看護的な意味をこれまで得た知識や自分の感性を使って考える。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	精神に障がいを持つ人やその家族との対話や観察を通して、精神病を持つことがその人の精状態や自我機能にどのように影響を及ぼしているかを理解する。 看護過程での経験の振り返りによって自己理解を深め、看護専門職を目指す者としての自覚を高める。 精神に障がいを持つ人やその家族の尊厳を守り、人権やプライバシーに配慮する。					
	DP4：表現力	医療チームのメンバーとの対話を通して、看護を提供する中で精神に障がいを持つ人やその家族と自分が経験したことを明らかにする。 実習の中で気づいたことや疑問に感じたことは積極的に表現し、お互いに学びあい教えあうことを大切にする。 必要に応じて、患者やその家族、医療チームのメンバーに報告、連絡、相談、確認を行う。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	看護過程での経験の振り返りによって自己理解を深め、看護専門職を目指す者としての自覚を高める。 自分の目標（精神看護学演習Ⅱで明確化した自分の目標）を立て、それが達成できるように取り組む。					
技能	DP7：コミュニケーション力	精神に障がいを持つ人やその家族との関わりを通して信頼を育む。 精神に障がいを持つ人やその家族、医療チームのメンバーとの対話を通して、目標を共有するよう努める。 精神に障がいを持つ人やその家族の希望や期待に添って看護を提供するために必要な知識、技術、態度を、自己学習や医療チームのメンバーとの対話を通して、明らかにする。					
	DP10：専門分野のスキル	精神に障がいを持つ人やその家族との対話や観察を通して、それらの人々のセルフケアレベルを理解する。 その人の成育歴、発達段階、精神状態、病歴、治療、家族をはじめとする社会的な関係、環境が、気持ちやセルフケアにどのように影響を及ぼしているかを総合的に理解する。 医療チームの力を借りながら精神に障がいを持つ人とその家族の状況に適した方法で看護を提供する。 精神に障がいを持つ人やその家族との対話や観察、医療チームのメンバーとの対話を通して、看護の効果を確かめるよう努める。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
1. 授業内容 精神疾患の急性期、回復期、社会復帰期、慢性期にある精神に障害をもつ人への看護を教師や臨床教師の力を借りながら展開する。 2. 授業方法 1) 実習場所：飯塚病院精神科病棟、一本松すずかけ病院、県立精神医療センター太宰府病院、見立病院 2) 実習方法：受け持ち患者様を1名受け持ち、看護過程を展開する。詳細は実習要項、オリエンテーションで把握する。 3. 事前学習 1) 2年次で学んだ、精神看護学概論、精神看護学、3年次の精神看護学演習Ⅰ・Ⅱを復習する。その他の様々な科目も役立つので、知識を確実なものにしておく。 2) 平成28～29年度精神看護学実習要項を熟読し、実習に必要な準備を行う。 4. 事後学習 実習全体の学びを振り返り、文献を用いて学んだことや自己の看護観をまとめる。							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
その他		◎	◎	◎	◎	100	
補足事項		学生の到達目標（精神看護学実習要項に掲載している評価表）で評価する。					
テキスト・参考文献等	テキスト 野嶋佐由美監修。（2010）. 実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学. 東京：日本看護協会出版会. 宇佐美しおり、鈴木啓子、Patricia Underwood（2003）. オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開. 第2版、東京：ヌーヴェル・ヒロカワ. 参考図書 野嶋佐由美監、中野綾美。（2006）. 家族エンパワメントをもたらす看護実践. 東京：ヘルス出版. 川野雅資編。（2015）. 精神看護学Ⅱ. 第6版、東京：ヌーヴェル・ヒロカワ.						
履修条件	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習Ⅰ・Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	出席日数が2/3以上で成績評価を受ける資格が生じる。実習内容、記録物、グループでのリフレクションカンファレンス、看護計画発表会への参加度、最終のまとめの発表会への参加度で評価する。						

授業科目名	成人看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	村田節子・赤司千波	前期	講義	必修	1	2年
授業の概要	成人各期の身体的機能の特徴、成人期の社会および生活状況からの特徴、役割をホリスティックに理解する。成人期にある個人とその家族を対象とし、成人期の健康の特徴や起こりやすい健康の危機的状況をふまえ、成人期の健康の保持・強化、疾病予防について理解を深め、健康を支援していくための援助について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴について述べられる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	成人期の健康の特徴や起こりやすい健康の危機的状況をふまえ、成人期の健康の保持・強化、疾病予防について述べられる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	成人期に起こりやすい健康問題を予防・および治療していく中で健康を支援していくための援助について述べられる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	成人期にある人の理解と健康問題	講義			村田		
2	成人各期の特徴と特有な健康問題（生活習慣・職業・ストレス）	講義			村田		
3	疾患の治療方法とケア（化学療法と放射線療法を中心に）	講義			村田		
4	成人急性期の看護に有用な概念：危機	講義			村田		
5	成人慢性期に有用な概念：自己効力、エンパワーメント	講義			赤司		
6	急性期、回復期、リハビリテーション期に応じたケアの原理	講義			村田		
7	慢性疾患を有する対象とその家族への援助・支援の基本：セルフケア	講義			赤司		
8	健康の保持増進と疾病予防：健康教育	講義			赤司		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
宿題・授業外レポート		◎	◎			40	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院</p> <p>参考文献：①ナーシンググラフィカ『成人看護学－成人看護学概論』、メディカ出版          ②ナーシンググラフィカ『成人看護学（2）健康危機状況／セルフケアの再獲得』、メディカ出版          ③ナーシンググラフィカ『成人看護学（3）セルフマネジメント』、メディカ出版          ④系統看護学講座 別巻 緩和ケア、医学書院          ⑤系統看護学講座 成人看護学 専門 6－19、医学書院          ⑥『国民衛生の動向 2015/2016年版』、厚生労働統計協会、2,400円          ⑦系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護、医学書院。他は講義中に紹介する。          ＊テキスト④⑤は、成人急性看護論、成人慢性看護論でも使用する。</p>						
履修条件	生態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学概論を履修していること。						
学習相談・助言体制	学生と時間調整して相談・助言をする。また、メール・レスポンスカードで相談を受け、助言・回答する。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	成人急性看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	2年
担当教員	村田節子・中井裕子・政時和美・松井聡子						
授業の概要	成人期の特徴をふまえ、健康障がい急性期にある対象者の看護について学ぶ。特に周手術期の看護を中心に、侵襲からの回復過程と回復を促すケアについて学ぶ。また、対象者を取り巻く家族、重要他者を含めた心理的、社会的支援について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	ここまでの専門科目の学習をもとに、急性期看護に必要な知識を習得することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	急性期看護学の対象者に必要な看護ケアについて根拠を示して述べられる。					
	DP4：表現力	看護の知識と技術について正しい用語を用いて説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自主的な学習を進めることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	成人急性期看護の概念、生体の侵襲と回復・クリティカルケアについて				村田		
2	創傷治癒のメカニズム				村田		
3	急性期にある患者・家族の看護 周手術期（1）術前				村田		
4	急性期にある患者・家族の看護 周手術期（2）術中・術後①				村田		
5	急性期にある患者・家族の看護 周手術期（3）術後②、疼痛とケア				村田		
6	急性期にある患者・家族の看護 呼吸機能障害				中井		
7	急性期にある患者・家族の看護 循環器機能障害				中井		
8	急性期にある患者・家族の看護 栄養代謝機能障害（1）：口腔～食道				村田		
9	急性期にある患者・家族の看護 栄養代謝機能障害（2）：胃～肛門				村田		
10	急性期にある患者・家族の看護 栄養代謝機能障害（3）：肝・胆・膵				村田		
11	急性期にある患者・家族の看護 運動機能障害①				中井		
12	急性期にある患者・家族の看護 運動機能障害②				中井		
13	急性期にある患者・家族の看護 脳神経障害				政時		
14	急性期にある患者・家族の看護 視覚・聴覚機能障害				政時		
15	急性期のまとめ				村田、中井、政時、松井		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	定期試験	◎	◎			80	
	その他	○	○	○		20	
補足事項		その他：予習・復習ノートの作成と提出					
テキスト・参考文献等	テキスト ①系統看護学講座 別巻1 臨床外科学総論 医学書院 ②系統看護学講座成人看護学 医学書院〔2〕、〔3〕、〔4〕、〔5〕、〔7〕、〔10〕、〔13〕、〔14〕 参考テキスト ・系統看護学講座成人看護学 医学書院〔1〕、〔6〕、〔8〕、〔9〕、〔11〕、〔12〕、〔15〕 ・その他適宜紹介						
履修条件	生態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、病態看護学Ⅰ・Ⅱ、を履修していること。						
学習相談・助言体制	学生と時間調整・レスポンスカードにて受け付け、回答する。 上記以外での相談についてはメールにより事前にアポイントメントが必要。						

授業科目名	成人慢性看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	赤司千波・宮園真美・大島 操	後期	講義	必須	2	2年
授業の概要	成人期において慢性の健康障害や機能障害を有する対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。 終末期にある対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期の患者の家族への支援、チームアプローチ、倫理的問題について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	成人期において慢性期、終末期にある対象（家族）の特徴、看護、チーム医療について述べられる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象（家族）の健康問題とその解決方法について、身体・心理・社会的側面から述べられる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）		担 当	
1	慢性看護概論		講義			赤司	
2	呼吸器障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [2]		赤司	
3	内分泌機能障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [6]		大島	
4	糖代謝障害のある対象（家族）への看護（1）		講義	テキスト① [6]		赤司	
5	糖代謝障害のある対象（家族）への看護（2）		講義	テキスト① [6]		赤司	
6	循環機能障害のある対象（家族）への看護（1）		講義	テキスト① [3]		宮園	
7	循環機能障害のある対象（家族）への看護（2）		講義	テキスト① [3]		宮園	
8	脳神経障害のある対象（家族）への看護（1）		講義	テキスト① [7]、②		大島	
9	栄養代謝障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [5]		大島	
10	体液調節機能障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [8]		大島	
11	糖代謝機能障害、体液調節機能障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [6,8]		宮園	
12	免疫機能障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [11]		宮園	
13	血液・造血器障害のある対象（家族）への看護		講義	テキスト① [4,11]		宮園	
14	がん看護		講義	テキスト③		赤司	
15	終末期にある対象（家族）への看護		講義	テキスト③		赤司	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎	◎			100
授業態度・授業への参加度					○		評価対象としない
補足事項		関心・意欲・態度、出席把握はレスポンスカードから行います。					
テキスト・参考文献等	① 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 [1] - [11]、医学書院 ② 系統看護学講座 別館 リハビリテーション看護第5班、医学松陰 ③ 系統看護学講座 別巻10 緩和ケア、医学書院						
履修条件	生態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護概論、病態看護学Ⅰ・Ⅱ、を履修していること。						
学習相談・助言体制	学生と時間調整し、相談・助言を行う。メール・レスポンスカードで相談を受け、助言・解答を行う。						

（専）看護  
門（専）看護  
科学学  
目科部

授業科目名	成人看護学演習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	村田節子・赤司千波・宮園真美・中井裕子・大島 操・政時和美・松井聡子・(柴北早苗)		前期	演習	必修	1
授業の概要	基礎看護学で学んだ技術を用いて、成人期の看護の状況に応じた看護技術の実践を学ぶ。対象者の状態に即した看護技術の選択とその根拠を明確にしながらシミュレーションし、安全で安楽な実践方法について学ぶ。看護技術を実践する場合の対象者への倫理的配慮について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	これまでに学習した内容を踏まえて、看護技術の実施内容と方法および留意点を述べられる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事例を通して、健康問題に対応したケア方法と看護技術を選択する根拠を述べられる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	安全・安楽に確実に技術を提供するための留意点や工夫について述べられ、実施できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1・2	血糖測定、インスリン自己注射		演習		赤司、宮園、大島、(柴北)		
3・4	健康教育		演習		赤司、宮園、大島、(柴北)		
5・6	死後の処置、各自の課題演習		講義、演習		赤司、宮園、大島、(柴北)		
7・8	吸引（気管切開をしている対象者）		演習		村田、中井、政時、松井		
9・10	輸液準備（輸液ポンプの取り扱いと観察・ケア）		演習		村田、中井、政時、松井		
11・12	術後離床の技術		演習		村田、中井、政時、松井		
13・14	事例と看護技術選択の根拠		講義・演習		全員		
15	まとめ		講義・演習		全員		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	宿題・授業外レポート	◎	○			80	
	授業態度・授業への参加度	○				10	
	演習	○	○		◎	10	
補足事項		1コマ30分以上の遅刻は演習への参加を認めない。 演習に参加しなかった場合のレポート提出は受理しない。					
テキスト・参考文献等	坂本すが、山元友子他「決定版ビジュアル臨床看護技術」照林社						
履修条件	成人急性看護学、成人慢性看護学を修得していること。						
学習相談・助言体制	学生との時間調整、レスポンスカード、メールにて随時受け付け						

授業科目名	成人看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	3年
担当教員	村田節子・赤司千波・宮園真美・中井裕子・大島 操・政時和美・松井聡子・(柴北早苗)						
授業の概要	成人期にある対象者の疾患や治療の状況を把握しながら、病態に応じた看護過程の展開を学ぶ。また、基礎看護学で学んだ看護技術を対象者の看護の状況に合わせて選択するための根拠と評価のポイントを学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	成基礎看護学で習得した看護過程の知識を用いて、適切に紙上事例の情報を収集・整理できる					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	整理した情報を専門的に解釈し、用語を正しく用いて分析、統合し、紙上事例の看護上の問題および目標を記述できる。					
	DP4：表現力	用語を正しく用いて看護計画を立案し、説明および記述できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	看護過程の振り返りⅠ		講義・演習		村田		
2	看護過程の振り返りⅡ 成人急性および成人慢性看護学の事例説明		講義		村田、赤司		
3~7	成人急性看護学・成人慢性看護学事例展開 (グループワーク)		演習		全員		
8	成人急性看護学事例展開発表 成人慢性看護学事例展開発表		演習		全員		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	宿題・授業外レポート	◎	◎			80	
	授業態度・授業への参加度	○	○			10	
	受講者の発表（プレゼン）	○	○			10	
テキスト・参考文献等	テキスト ・マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護アセスメント指針』（基礎看護学で使用したもの）（参考文献） ・ロザリンド・アルファロ ルフィーヴァ著、江本愛子監訳『基本から学ぶ看護過程と看護診断』医学書院 ・江川隆子、笠岡和子他『関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録 かみくだき看護診断過程』日総研 ・リンダ J.カルベニート著、新道幸恵監訳『看護診断ハンドブック』第10版 医学書院 ・NANDA-1 看護診断 定義と分類 2015-2017 医学書院 ・江川隆子のかみくだき看護診断 日総研						
履修条件	成人急性看護学、成人慢性看護学を修得していること。						
学習相談・助言体制	学生との時間調整、レスポンスカード、メールにて随時受け付け						

授業科目名	成人急性看護学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	村田節子・中井裕子・政時和美・松井聡子		通年	実習	必修	3
授業の概要	健康障害や機能障害を持ちながら生活している人をホリスティックに理解し、対象者及びその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための基本的な能力を身につける。特に急性期においては、急性期にある対象者の特徴を理解し、対象者の生命力の消耗を最小限にして、生命維持・健康回復を促すための援助を身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	治療によって対象者に起こった身体的・心理的・社会的影響や回復の過程について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象者のデータを専門的に解釈し看護計画の立案、実施、評価を行うことができる。					
	DP4：表現力	用語を正しく使用し、自己の学びをレポートに記述し指導者への報告が行える。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	目標達成のために積極的に質問や学習を行い、実習終了後には新たな課題を明確にできる。					
	DP6：社会貢献力	看護倫理に基づき保健医療チームの一員としての看護の機能と役割を説明し自分の看護観を述べられる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	対象者の看護計画に沿った適切な看護援助を根拠を元に選択または実施できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
<p>1) 実習施設 ・独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院</p> <p>2) 実習方法 ・病棟実習は担当教員が1病棟5～6人の学生を受持指導する。又、実習の統括者としてスーパーバイザーを配置し、指導体制の充実を図る。 ・病棟実習の他にも、手術室、外来、ICUなどの見学実習を通して他職種との連携や対象者の継続看護について学ぶ。</p> <p>実習方法の詳細は「成人急性看護学実習要項」を参照。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
その他（臨地実習）		◎	◎	○	○	100	
補足事項		成人急性看護学実習評価表によって評価する。					
テキスト・参考文献等	適宜紹介。						
履修条件	成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。						
学習相談・助言体制	実習中のみならず、実習開始前・終了後も時間を調整して学生の相談・指導を行う。						

授業科目名	成人慢性看護学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	実習	必須	3	3～4年
担当教員	赤司千波・宮園真美・大島 操・(柴北早苗)						
授業の概要	慢性疾患による健康障害や機能障害をもちながら、長期にわたってコントロールしながら生活している成人をホリスティック（全人的に）に理解し、対象およびその家族の生活の質（QOL）の維持・向上を支援する看護を身につける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	慢性疾患や障害をもちながら生活する対象者（家族）の特徴、治療に伴う身体影響を述べられる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象者（家族）の健康問題を明確にし、論理的に看護計画の立案、実施、評価ができる。					
	DP4：表現力	保健医療チームの一員としての看護の役割、自己の看護観・課題を述べられる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	対象者（家族）への看護を通して、疑問や興味関心をもってさらに学びを深めることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	適切な看護技術により、生活の質の維持・向上を支援する看護のスキルを身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>I. 目的 看護を実践するための基礎的な能力を身につけるために、慢性的な健康障害や機能障害をもちながら生活している成人をホリスティックに理解し、対象およびその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に導くことができる。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病や障害をもちながら生活する対象者の特徴について述べるができる。</li> <li>2. 治療による身体的影響や回復の過程について述べるができる。</li> <li>3. 対象の健康問題・機能障害を明確にし、看護計画の立案、実施、評価が行える。</li> <li>4. 対象者の看護計画に沿って適切な看護技術が実践できる。</li> <li>5. 保健医療チームの一員としての看護の役割が述べられる。</li> <li>6. 他者への共感的理解を示し、対象の尊厳を守る倫理的配慮が実践できる。</li> <li>7. 自己の学びと課題を明確にし、述べるができる。</li> </ol> <p>III. 実習は、成人慢性看護学実習3単位とする。実習目的・目標については「成人慢性看護学実習要項」に示す。</p> <p>IV. 実習施設 田川市立病院、JCHO 九州病院、福岡済生会八幡総合病院、那珂川病院</p> <p>V. 実習方法 病棟・外来等の実習は、担当教員が1グループ5～6人の学生を担当し、指導を行う。</p> <p>VI. 各実習場での臨地実習指導者や臨床教授等と連携をとり、実習の統括者としてのアドバイザーを配置し、指導体制の充実をはかる。</p> <p>※実習方法の詳細については、「成人慢性看護学実習要項」に示す。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
その他（臨地実習）		◎	◎	○	○	100	
補足事項	成人慢性看護学実習評価表によって評価する。						
テキスト・参考文献等	参考文献は、適宜、必要に応じて紹介する。						
履修条件	成人看護学概論、成人慢性看護学、成人急性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。						
学習相談・助言体制	実習期間中、実習開始前・終了後に時間を調整して学生の相談・指導を行う。						

授業科目名	老年看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	2年
担当教員	渡邊智子・江上史子・廣瀬理絵						
授業の概要	<p>老年期にある人とその家族を多角的に捉え、特徴の理解を深め、健康生活を目指した看護の基礎的知識を学ぶ。また、社会の動向と老年看護の歴史を学び、倫理的側面から老年看護の果たす役割と課題について考察する。地域で生活する高齢者との対話から、生き方、健康生活を送る上での工夫、家族への思い、余暇の過ごし方、生活環境と暮らしぶりから、全人的に理解し、老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて考察する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>老年期にある人とその家族の全人的（身体的、心理・精神的、霊的、社会的側面）にとらえ特徴を述べるができる。 老年期にある人とその家族の健康の概念を述べるができる。 老年期にある人とその家族は、一生を通じて成熟する存在であることを説明できる。 社会の動向と老年看護の歴史を述べるができる。</p>					
思考・判断・表現	DP4：表現力	<p>老年期にある人とその家族の尊厳ある生活を送るための支援について述べるができる。 老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて気づき、述べるができる。</p>					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	<p>老年期にある人との関わりを振り返り、自己の傾向に気づく。 地域で生活する高齢者との対話ができる。</p>					
	DP6：社会貢献力	<p>地域で生活する高齢者に倫理的態度で接することができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	老いの意味と老年期の理解 老年期にある人の健康の考え方 社会の動向と老年看護の歴史と倫理的課題	講義	事前学習課題 老年看護学概論テキスト pp.2-55 を読んでくること。 体験記本をグループごとに1冊配布（4・5回前学習課題提示）				
2・3	老年期にある人の理解① 高齢者疑似体験からの身体的特徴と生活	演習・グループワーク（前回講義の小テスト）	2回目後学習課題 高齢者のヘルスアセスメントカード作成 3回目後学習課題 高齢者の生活行動アセスメントカード作成				
4・5	老年期にある人の理解② 体験記からの社会的特徴と生活	講義・プレゼンテーション	4回目後学習課題 グループで体験記をまとめて資料作成 5回目後学習課題 eラーニングで学びを提出				
6・7	老年期にある人の理解③ 対話からの全人的理解と健康生活	講義・グループワーク・プレゼンテーション	6回目後学習課題 個々で出会った高齢者像をグループでまとめて、グループの高齢者像（生活像）をつくりあげたものを提出。高齢者健康生活について考察しておく。 7回目後学習課題 eラーニングで学びを提出				
8	これからの老年看護を考える 役割と課題	講義（2～7回目に関する小テスト）	8回目後学習課題 私が考える老年看護の役割と課題のテーマでレポートを提出。3,200字程度 老年看護学実習Ⅰで出会った高齢者へ尊厳ある態度で手紙を書くこと。				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎				20	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎				10	
受講者の発表（プレゼン）			◎			20	
演習		◎		◎		20	
補足事項	課題と評価項目、提出期限はeラーニングで確認すること。						
テキスト・参考文献等	老年看護学概論 南江堂						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	eラーニングやメール、オフィスアワーを用いての相談を受け付け、助言を行う。						

授業科目名	老年看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	2年
担当教員	榎 直美・江上史子・廣瀬理絵						
授業の概要	<p>老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴を理解し、健康障がいをもつ対象の健康課題をとらえるための基礎的知識を学ぶ。さらに老年期にある人とその家族の課題解決にむけての看護ケアの方法について考察する。また保健・医療・福祉の制度を通して健康支援システムの理解および多職種との連携における看護の役割と機能を学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>老年期の加齢によって生じる身心機能症状が日常生活に及ぼす影響について理解している。 老年期の主な疾患や健康障がいについて知識を理解している。 保健・医療・福祉チームにおける多職種の専門性を尊重し、超高齢社会における老年看護の役割と機能について理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>健康障がいをもった老年期にある人の健康課題をとらえ、老年期にある人とその家族支援について看護援助を考察し、述べることができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション・高齢者の健康生活とアセスメント	講義	<p>事前課題：指定期日までにテキスト① p292-325、テキスト②Ⅶ章bを読む</p> <p>事後課題：誤嚥予防</p> <p>事後課題：排便障害</p> <p>事後課題：大腿骨頸部骨折</p> <p>事後課題：脳卒中</p> <p>事後課題：せん妄</p> <p>1～12回までの小テスト</p> <p>事後課題：多職種連携支援</p>				
2	認知症高齢者の特徴①						
3	認知症高齢者の看護①						
4	認知症高齢者の看護②						
5	高齢者の健康障がいと看護① / 食事と栄養（栄養障害・嚥下障害・胃ろう）						
6	高齢者の健康障がいと看護② / 排泄（尿失禁・便秘・排便コントロール）						
7	高齢者の健康障がいと看護③ / 生活リズム（活動と睡眠・休息）						
8	高齢者の健康障がいと看護④ / 骨・筋肉の加齢変化と転倒・骨折予防						
9	高齢者の健康障がいと看護⑤ / 高齢者の寝たきり・廃用症候群予防						
10	高齢者の健康段階に応じた看護① / 入院・検査・薬物療法						
11	高齢者の健康段階に応じた看護② / 手術療法						
12	高齢者の健康段階に応じた看護③ / リハビリテーション看護						
13	高齢者をとり巻く保健・医療・福祉制度						
14	高齢者家族の特徴と家族支援、ケアマネジメント						
15	看とり支援						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				70	
小テスト			○			10	
宿題・授業外レポート			○			20	
補足事項	事後課題については指示に従って提出期日を厳守すること。						
テキスト・参考文献等	<p>①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p>						
履修条件	老年看護学概論を履修していること						
学習相談・助言体制	授業終了後及び出席カード、メールでの質問を受け付ける。回答は状況に応じて効果的な方法で行っていく。						

（専看看門看護科学学目科部）

授業科目名	老年看護学演習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	3年
担当教員	榎 直美・渡邊智子・江上史子・廣瀬理絵						
授業の概要	<p>老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出す。また老年期に多いADL機能の低下や認知症高齢者などの事例を通して体験学習を行う。その体験を通して健康課題を解決できる看護実践方法を考察し、基礎的看護技術を学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>老年期の主な症状について加齢変化や疾患と関連づけることができ、その症状が生活の質（QOL）に及ぼす影響について理解している。 認知症高齢者の理解を深めるための言語的・非言語的コミュニケーション方法について理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP4：表現力	<p>健康障がいのある高齢者とその家族が望む生活を可能にするための看護援助について自らの考えを述べることができる。</p>					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	<p>老年期にある対象者の健康障がいの増悪を予防し、症状緩和のための看護実践方法を提案することができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1・2	オリエンテーション ヘルスアセスメント	講義・演習					
3・4	認知症及び言語障害のある高齢者とのコミュニケーション／高齢者の生きがい支援	講義・演習	事後：高齢者にとってのレクリエーション				
5・6	高齢者のフィジカルアセスメント	講義・演習	事前：高齢者を対象としたフィジカルイグザミネーション一覧表の作成				
7・8	転倒リスクのある高齢者の安全な移動・移送方法、寝たきりの予防（安楽な体位・体位交換・リラクゼーション法）	講義・演習	事後：演習内容のレポート提出				
9・10	嚥下障害のある高齢者への看護	講義・演習	事前：嚥下についてレポート提出 事後：演習内容のレポート提出				
11・12	尿便失禁のある高齢者への看護	講義・演習	事前・事後課題：e-learningでの課題出題 レポート提出				
13・14	介助を要する高齢者の清潔の援助	講義・演習	事前：清潔の援助のレポート提出 事後：演習内容のレポート提出				
15	まとめ・技術テスト	発表					
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
事前・事後レポート				○		40	
演習態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表（プレゼン）			○			10	
演習・技術習熟度		○				40	
補足事項	レポート評価（A30点、B20点、C10点、D0点）基準は別途配布						
テキスト・参考文献等	①老年看護学技術 最後までもその人らしく生きることを支援する 南江堂						
履修条件	老年看護学を履修していること。						
学習相談・助言体制	授業終了後およびオフィスアワーを設けて随時相談を行う。						

授業科目名	老年看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	1	3～4年
担当教員	渡邊智子・榎 直美・江上史子・廣瀬理絵						
授業の概要	老年看護学実習Ⅱにおける経験の意味を探求し、自らの課題を見いだす。課題を解決するための計画を立案し、課題解決能力を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	健康課題が、老年期にある人と家族にもたらす影響について理解する。 健康課題をもつ老年期にある人と家族の生活史と加齢変化を発達の視点から理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	老年期にある人と家族の個別性と強みを重視した関わりを、看護過程の展開を通して考え、方法を提案する。					
	DP4：表現力						
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	実践を通し、看護者としてのあり方を考え、自らの課題を見出す。 老年看護学実習Ⅱに臨むために、自らの課題を解決するための計画を立案する。					
	DP6：社会貢献力						
技能	DP10：専門分野のスキル	提案した方法を用いて、実践した上で、評価し、提案した方法の修正と工夫をする。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～7	オリエンテーション 各グループで、教員が提示した事例の実践・評価		講義・演習		必要時、事前・事後学習課題を提示 eラーニングで確認すること		
8	発表会と学習のまとめ		発表		課題テーマに沿って、グループごと事前学習を行い、発表後に内容をさらに深め追加・修正する		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
受け持ち高齢者に関する「私」のイメージマップ		◎				25	
目標設定と看護計画・実施・評価のまとめ		◎	◎		◎	25	
宿題・授業外レポート		◎		◎		25	
演習態度・授業への参加度			◎	◎		25	
補足事項	課題と評価項目、提出期限はeラーニングで確認すること						
テキスト・参考文献等	①老年看護学技術論 南江堂 ②老年看護学概論 南江堂 ③カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 参考文献：「障害と活動の測定・評価ハンドブック」 「高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール」、必要に応じて適宜紹介						
履修条件	老年看護学演習Ⅰを履修していること						
学習相談・助言体制	eラーニングやメール、オフィスアワーを用いての相談を受け付け、助言を行う。 演習の時間外で必ず1回は担当教員にアポイントをとり、助言を受けること。						

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	必修	1	2年
担当教員	渡邊智子・榎直美・江上史子・廣瀬理絵						
授業の概要	老年期にある人の特徴を理解し、健康生活のサポート・システムを考える能力を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	老年期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴を知識と照らし合わせながら理解できる。老年期にある人の保健医療福祉の法制度、サポート・システムの役割について理解できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	グループメンバーと協力し合って、実習場に行き、臨床指導者の力をかりて、実習に臨むことができる。看護倫理を踏まえた態度に関する課題を明確にできる。					
	DP6：社会貢献力	専門職者としての看護倫理を踏まえた態度で接することができる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	老年期にある人との関わりを振り返り、自己の傾向に気づく。認知症高齢者や地域で生活する高齢者と対話ができる。実習場職員に尋ねることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
4月6日～ 4月10日 1.5日	実習オリエンテーション				eラーニングで確認すること		
	田川市老人クラブ連合会活動と社会福祉協議会の役割		演習 スケジュールにそって行う 5303教室				
	高齢者との対話戦略会議						
	各老人クラブ会長と学生による実習前打ち合わせ会議						
	各老人クラブが活動する公民館での対話		実習				
10月 ～12月 水曜日 3・4・5限目 2.5日	認知症高齢者施設でのオリエンテーション		隣地実習 スケジュールにそって行う		eラーニングで確認すること		
	地域包括支援センター又はケアプランセンターでのオリエンテーション						
	認知症高齢者との対話						
	地域包括支援センター又は居宅介護支援事業所見学と利用している高齢者との対話		学びの発表 5303教室		発表資料作成 eラーニングで確認すること		
	学びの共有 Aグループ						
学びの共有 Bグループ							
<p>★実習場所 田川市・田川市郡の認知症高齢者が療養生活を送る場（グループホーム、デイケア、特別養護老人ホーム、病院） 田川市・田川市郡、飯塚市、直方市、行橋市の地域包括支援センター又は居宅介護支援事業所</p> <p>★実習方法の詳細については、「老年看護学実習Ⅰ要項」に示す。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
レポート		◎		◎		10	
演習・実習記録		◎	◎		◎	30	
演習・実習の態度・参加度		◎	◎	◎	◎	40	
学びの発表				◎	◎	10	
補足事項		評価内容・基準については老年看護学実習Ⅰ要項に記載					
テキスト・参考文献等	老年看護学概論 南江堂 参考文献は、必要に応じて適宜紹介						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	eラーニングやメール、オフィスアワーを用いての相談を受け付け、助言を行う。						

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	榎 直美・渡邊智子・江上史子・廣瀬理絵		後期～前期	実習	必修	3
授業の概要	健康課題を持つ老年期にある人と共に生きる家族の特徴を理解し、健康生活を支援するための基礎的な看護実践能力を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	対象者の症状について加齢変化や疾患と関連付け、その症状が生活の及ぼす影響について理解し全体像を記述できる。 看護職と他職種との協働を学び、看護の役割について理解し、記述できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	老年期にある人や、共に生きる家族を支援するサポート・システムを知り、健康生活を目指した、実現可能な看護ケアが選択できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	老年期にある人や、共に生きる家族に対する、自分の傾向・態度に気づき、ケアリング関係を構築するための態度を示すことができる。					
	DP6：社会貢献力	老年期にある人や、共に生きる家族を支援するサポート・システムを知り、さらに健康生活を目指した、実現可能な支援について考え提案することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	ケアリング関係を基盤に、健康課題をもつ老年期にある人とその家族の生活の質（QOL）を考えた、安全で安楽な看護が実践できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 実習施設：介護老人保健施設又は回復期・リハビリ病棟又は病院。</p> <p>2. 実習方法：上記に上げたうちの1施設で、3週間実習する。担当教員が1施設5～6人の学生を受け持ち指導する。毎日のカンファレンス、中間・最終カンファレンスを行うことにより学生が自らの経験を意味づけながら学習できるように支援する。</p> <p>*実習方法の詳細については、「老年看護学実習Ⅱ要項」に示す。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
その他		◎	◎	○	○	100	
補足事項	評価内容・基準については老年看護学実習Ⅱ要項に記載。						
テキスト・参考文献等	参考文献は、適宜、必要に応じて紹介する。						
履修条件	老年看護学実習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	実習時間中、実習開始前・終了後にオフィスアワーを設定し、学生の相談・指導を行う。						

授業科目名	小児看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	2年
担当教員	田中美樹・吉川末桜						
授業の概要	<p>本授業では、生涯発達の視点から小児期について概説する。まず小児各期の成長発達を理解するために形態的・機能的発達、心理社会的発達について説明する。次に小児と家族を中心とする看護を基本理念として、取り巻く社会や状況を理解し、子どもの権利を尊重した援助について解説する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）について具体的に述べることができる。 小児看護における家族の位置づけについて述べるができる。 幼児期、乳児期の成長発達について、3文献以上活用し具体的に記述できる。</p>					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	<p>小児医療と子どもの権利について、自らの考えを記述することができる。</p>					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	<p>日常生活の中で子どもの成長発達に関心をもつ。 子どもを取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について述べるができる。</p>					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）		担 当		
1	子どもとは 社会の中の子どもと家族				田中		
2	小児の成長発達 小児の栄養				田中		
3	乳児期の子どもの成長発達		事前レポート		吉川		
4	乳児期の子どもと家族の看護				吉川		
5	幼児期の子どもの成長発達		事前レポート		田中		
6	幼児期の子どもと家族の看護				田中		
7	学童・思春期の子どもと家族の看護				田中		
8	子どもの権利と看護		事後課題レポート		外部講師		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎		◎		80	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		20	
テキスト・参考文献等	<p>①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学1 小児看護概論・小児臨床看護総論第13版医学書院 2015年改訂 3,024円 ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論第13版 医学書院 2015年改訂 3,564円 ③子どもの権利条約カードブック UNICEF 70円</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。						

授業科目名	小児看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	2年
担当教員	田中美樹・吉川末桜・青野広子						
授業の概要	<p>本授業では、小児看護学概論の内容をふまえ、健康問題及び障がいをもつ小児の基本的特徴、健康問題に特徴づけられる小児と家族の看護、症状を示す小児の看護、検査・処置・手術を受ける小児の看護などを解説する。次に小児の主要な疾患の病態・症状・診断・治療を概説し、病態・経過にそった看護を解説する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	健康問題をもつ小児について発達の特徴と関連させて説明できる。 小児に主要な疾患の病態・経過別の看護をエビデンスに基づいて説明できる。 主要な疾患の病態・症状、検査・診断、治療について、3文献以上を活用し具体的に記述できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	小児にみられる症状のアセスメントと必要な看護ケアについて説明できる。 小児の健康問題が家族に与える影響と支援について説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	小児に関わる看護師の倫理観や子どもに向き合う姿勢を感じる。 小児と家族の最善の利益を守るための看護師の役割に関心を抱く。					
	DP6：社会貢献力	小児の検査・処置・手術における看護師の役割について説明できる。 小児の入院・外来・在宅療養における看護師の役割について説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	健康問題・障がいをもつ小児と家族の看護／入院中の小児と家族の看護	講義		田中			
2	発達障がいの子どもの看護		事後レポート	外部			
3	外来・救急における小児と家族の看護			田中			
4	検査・処置・手術にうける小児と家族の看護			田中			
5	症状を示す小児の看護（1）			田中			
6	症状を示す小児の看護（2）			田中			
7	急性期の子どもと家族の看護（1）		事前課題（小児の予防接種）	田中			
8	急性期の子どもと家族の看護（2）		事後課題（川崎病）	外部			
9	急性期の子どもと家族の看護（3）			外部			
10	急性期の子どもと家族の看護（4）			吉川			
11	慢性期の子どもと家族の看護（1）		事後課題（気管支喘息）	外部			
12	慢性期の子どもと家族の看護（2）			吉川			
13	慢性期の子どもと家族の看護（3）			吉川			
14	障害のある小児と家族の看護			青野			
15	在宅療養中の小児と家族の看護／終末期の小児と家族の看護			青野			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			80	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		15	
授業態度・授業への参加度			○	○		5	
テキスト・参考文献等	<p>①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学1 小児看護概論・小児臨床看護総論第13版 医学書院 2015年改訂 3,024円          ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論第13版 医学書院 2015年改訂 3,564円</p>						
履修条件	小児看護学概論を履修していること						
学習相談・助言体制	質問などはレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。						

(専)看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	小児看護学演習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	3年
担当教員	田中美樹・吉川末桜・青野広子						
授業の概要	様々な状況にある子どもと家族に対して、小児看護が果たす役割について概説する。さらに、子どもの看護技術の特徴、ケアを受ける子どもへの説明と同意、家族への援助について説明し、状況に応じた看護技術の演習を行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	小児に必要な看護技術をエビデンスに基づいて説明できる。 子どもの健康状態を把握し、看護過程の思考プロセスを概括することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	疾患だけでなく、子どもと家族のおかれている状況を理解でき、子どもと家族に合った援助を述べることができる。 子どもの言葉の獲得過程を理解し、看護者として言葉の獲得に必要な援助を考えることができる。 社会環境の変化（事故・災害など）によって影響を受けた子どもと家族に対し、どのような視点でケアをすればよいか説明できる。					
	DP4：表現力	他グループの発表に対して適切な評価・批判ができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	子どもと家族の最善の利益を守るための方法（プレパレーション）を実施できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	発達段階および健康段階に応じた子どもの生活援助ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習（学習課題）		担当	
1	子どもの生活援助（赤ちゃん先生）		演習	課題ノート 事後レポート		吉川	
2							
3	フィジカルアセスメント①		講義	課題ノート		田中	
4	フィジカルアセスメント②		演習	課題ノート		田中	
5							
6	先天性心疾患をもつ子どもと家族への看護		講義	課題ノート		外部	
7	小児の看護技術①（プレパレーション、読み聞かせ）		講義・演習	事後レポート		外部 田中	
8							
9	小児の看護技術②（看護過程、白血病）		講義・演習	課題ノート 事後レポート		田中 青野	
10							
11	小児の看護技術③（調乳・授乳・小児の経管栄養）		演習	課題ノート		吉川	
12							
13	小児の看護技術④（プレパレーションツール GW 発表）		演習			田中	
14							
15	小児の看護技術⑤（災害看護・小児の救急看護）		講義・演習	事後レポート		外部	
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				50	
小テスト・授業内レポート		○	○			10	
宿題・授業外レポート		○	◎		○	25	
受講者の発表（プレゼン）				◎		10	
演習					○	5	
テキスト・参考文献等	①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護概論・小児臨床看護総論第 13 版医学書院 2015 年改訂 3,024 円 ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論第 13 版 医学書院 2015 年改訂 3,054 円 ③子どもの権利条約カードブック UNICEF 70 円 ④小児看護学概論、小児看護学で使用した配付資料						
履修条件	小児看護学概論、小児看護学を履修していること						
学習相談・助言体制	口頭で受け付け、授業時間内か授業時間外で回答する。必要に応じ学生の技術演習に関する相談に応じる。						

授業科目名	小児看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	1	3～4年
担当教員	田中美樹・吉川末桜・青野広子						
授業の概要	事例をもとに子どもの発達段階や状況をアセスメントした上で、優先順位をふまえた看護技術の演習を行う。さらに、外来実習での受け持ち患児・家族の看護展開について、学びを共有するためのディスカッションを行う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	母子との触れ合いを通して、子どもの健康や生活について理解することができる。既習の知識・文献を活用し、事前課題を記述することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事前課題を行うことで、子どもへの援助技術を再構成する。事前課題の事例をもとに、小児と家族の健康レベルに応じたアセスメントを述べることができる。					
	DP4：表現力	受け持ち患児の看護展開について、グループメンバーの意見を尊重した議論を行うことができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	実施する看護について、「なぜ？」という疑問をいただき質問できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	アセスメントに基づき、子どもの発達段階や状況にあった看護技術が実施できる。倫理的配慮を意識し、実際の場面をイメージしながら演習することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）		準 備	
1・2	安全・身体計測・バイタルサイン測定（赤ちゃん先生）		演習	課題ノート		計測カードの作成	
3～5	外来受診時の看護（フィジカルアセスメント・採尿・与薬・吸入・吸引・輸液）						
6・7	周手術期の看護						
8	小児の看護過程（外来）						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	○			30	
宿題・授業外レポート		◎	○			補足事項参照	
授業態度・授業への参加度			○	○		5	
受講者の発表（プレゼン）			○			5	
演習			◎	○	◎	60	
補足事項	授業外レポートは、不備がある場合減点します。演習態度（積極性・倫理的配慮）・技術（基礎看護技術・小児看護技術）を客観的に評価します。						
テキスト・参考文献等	①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学1 小児看護概論・小児臨床看護総論第13版医学書院 2015年改訂 3,024円 ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論第13版 医学書院 2015年改訂 3,564円 ①小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰで使用した講義資料						
履修条件	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰを修得していること						
学習相談・助言体制	口頭で受け付け、授業時間内か授業時間外で回答する。必要に応じ学生の技術演習に関する相談に応じる。						

(専)看護  
門護  
科学学  
目科部

授業科目名	小児看護学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	実習	必修	2	3～4年
担当教員	田中美樹・吉川末桜・青野広子						
授業の概要	あらゆる健康レベルの子どもと家族を多角的・総合的に理解し、子どもと家族が尊重され安寧に生活できるための看護を実践できる能力を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	子どもの成長発達を理解し、それらに影響を与える諸因子を多角的に理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	子どもと家族を観察・アセスメントし、看護実践につなげることができる。健康障害、医療行為が子ども・家族に及ぼす影響について述べることができる。					
	DP4：表現力	受け持ち患児の看護展開について、グループメンバーの意見を尊重した議論を行うことができる。小児看護学実習を通して子どもの権利を尊重した看護について考え、討議することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	子どもと家族が尊重され安寧に生活できるために、主体的な行動をとることができる。小児看護専門職の役割を理解し、小児医療チームの中で共同連携する意欲と態度を示すことができる。					
	DP6：社会貢献力	あらゆる健康レベルの子どもと家族の健康増進のための予防啓発、健診、ホームケアについて探求できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	子どもを取り巻く危険因子をとらえ、安全確保が適切に実践できる。健康障害をもつ子どもと家族を個別的に理解し、根拠に基づいた看護実践ができる。健康障害のある子どもと家族のセルフケア能力をアセスメントし、問題解決のための看護を実践できる。子どもの成長発達における個人差を理解し、子どもの権利を尊重した看護実践ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 保育所実習3日間、小児科外来実習2日間、小児病棟実習5日間の実習とする。</p> <p>2. <b>保育所実習</b></p> <p>①1つの施設に3～4名で実習を行う。</p> <p>②クラスに入り、年齢に応じた子どもの成長発達について参与観察を行う。</p> <p style="padding-left: 20px;">小児科外来実習</p> <p>①1つの施設に2～3名で実習を行う。</p> <p>②担当親子1組について、予診・診察・処置・家庭における療養指導について学ぶ。</p> <p>③診察介助や処置時の援助について指導看護師の指導のもと見学・実践する。</p> <p style="padding-left: 20px;">病棟実習</p> <p>①1つの病棟に5～6名の学生を配置し、担当教員1名が指導に当たる。</p> <p>②原則として受け持ちの子ども1名を継続的に担当し学習する。</p> <p>③受け持ちの子どもの発達段階・健康障害を理解し、看護過程を展開し実践する。</p> <p>*小児感染症の抗体値が必要です。抗体が陽性値でない場合、実習ができませんので、予防接種などで抗体をつけてください。わからない学生は、小児担当教員へ相談に来てください。</p> <p>*実習方法の詳細については、「小児看護学実習要項」を参照すること。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
その他		◎	◎	◎	◎	100	
補足事項	評価の詳細は、実習要項に記載しています。						
テキスト・参考文献等	小児看護学概論・小児看護学・小児看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した書籍および配布資料						
履修条件	小児看護学演習Ⅱを履修していること						
学習相談・助言体制	実習場での随時指導、必要時は学生控え室での指導を行います。実習要項を熟読し、到達目標をしっかりと認識して臨むこと。連絡および相談事項が生じた場合は、原則本人が連絡すること。						

授業科目名	女性看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	2年
担当教員	佐藤香代・古田祐子						
授業の概要	1. 女性の健康概念を理解し、女性とその家族のライフサイクルを通じた健康支援を学ぶ。 2. 生活している包括的な人間としての女性とその家族を行うホリスティックケアを学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	ホリスティックな視点から生活する人間を理解している。 女性の健康を支援するために必要な主要概念を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	対象が抱えている健康課題の本質を多角的視点から思考・判断できる。 人間が本来持っている潜在的な力を高めるための適切なケアを考えることができる。					
	DP4：表現力	自己の意見を論理的に述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	女性の健康の諸課題を探究することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1・2	Women's Health ・女性の健康理解に必要な主要概念 ・女性への暴力 ・女性の智慧の伝承	講義・小テスト（乳房の構造）	事前学習：乳房の構造 テキスト①②③④ 事後学習：テキスト①②③④ 参考書①	佐藤			
3	Women's Health ・女性の健康における課題 ・女性にとっての出産 ・2つのモデル	講義・小テスト（概念）	事前学習：概念 テキスト①②③④ 事後学習：テキスト①②③④ 参考書①	佐藤			
4	助産のわざとケアリング	DVD 視聴	事後課題：レポート				
5・6	思春期の発達過程と健康	講義・小テスト（女性生殖器）	事前学習：生殖器・性ホルモン テキスト②④⑤参考書③ 事後課題：女子：PMS表の作成（テキスト②④⑤） 男子：課題レポートの作成	古田			
7・8	女性の健康と法・統計 女性特有の疾患 女性の健康と社会 人間のセクシュアリティ	講義	事前学習：テキスト①②③④ 事後学習：テキスト①②③④参考書①② 事後学習課題：レポート	佐藤			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎	◎			100	
小テスト・授業内レポート		○	○	○			
宿題・授業外レポート		○	○	○			
受講者の発表（プレゼン）		○	○	○			
補足事項	定期試験の結果を重視する。 レポート、小テスト、発表は加点、欠席、遅刻は減点する。						
テキスト・参考文献等	[テキスト] ①村本淳子ら編『ウイメンズヘルスナーシング概論』、ヌーヴェルヒロカワ、2014 ②森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2016 ③佐藤香代他『絆』、大学コンソーシアム京都、2008 ④末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2016 ⑤月経研究会連絡協議会『PMS Memory 記録編』、日本家族計画協会、2016 [参考文献] ①ミシェル・オダグ『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995 （女性看護学助手室で貸出可） ②佐藤香代『性ってなーに』、西日本新聞社、1992 ③村本淳子編『周産期ナーシング』、ヌーヴェルヒロカワ、2012 ④佐藤香代『日本助産婦史研究』、東銀座出版社、2009						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	質問およびその回答は、講義中、レスポンスカードで行う。						

(専)看護学  
門看護学  
科学学  
目科部

授業科目名	女性看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	2年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・安河内静子・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子						
授業の概要	妊産褥婦および新生児を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの視点から理解し、エビデンスに基づいたケアを学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	妊産褥婦、新生児の健康を支援するために必要な看護の基礎的な知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	妊産褥婦、新生児に対して適切な看護を選択できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	女性の健康に関心を持ち、小テストや課題レポート作成にも意欲的に取り組むことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）	担 当			
1	妊娠の理解と看護1（妊娠のメカニズム、妊婦の身体の変化、胎児の発育・発達）	講義・小テスト	事前学習：妊娠編ワークシート作成 事後課題：レポート	鳥越			
2	妊娠の理解と看護2（妊婦の健康診査、妊娠各期の妊婦の理解と看護）	講義・小テスト・演習					
3	産婦の理解と看護1（分娩の経過とメカニズム）	講義・小テスト	事前学習：分娩編ワークシート作成	鳥越			
4	産婦の理解と看護2（分娩各期の産婦の理解と看護）	講義・小テスト・演習		鳥越			
5	産婦の理解と看護3（胎児心拍数モニタリングの理解）	講義・小テスト		鳥越			
6	褥婦の理解と看護1（産褥経過とメカニズム、褥婦の看護）	講義・小テスト	事前学習：産褥編ワークシート作成	安河内 古田			
7	褥婦の理解と看護2（愛着形成、親性発達、母子相互作用他）	講義・小テスト					
8・9	新生児の理解と看護（プライマル・ヘルスと新生児の生理）	講義・小テスト	事後課題：レポート	小林			
10・11	マタニティサイクルにおいて阻害された現象（ハイリスクの妊婦・産婦・褥婦の看護）	講義・小テスト	事前学習：テキスト③ 参考書②	佐藤香 鳥越 古田			
12	成熟期女性の健康／避妊、不妊女性へのケア	講義・小テスト	事前学習：月経サイクル・ホルモンの復習	石村			
13	母乳育児支援	講義・小テスト		佐藤繭			
14	障がいをもつ児、周産期の死への看護	講義・小テスト		吉田			
15	女性看護学実習オリエンテーション、事前課題ノート			佐藤香 他			
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			90	
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		10	
宿題・授業外レポート		○	○	○			
授業態度・授業への参加度				○			
補足事項		定期試験の結果を重視し、ワークシート・事後課題レポートは加点する。欠席・遅刻は減点する。					
テキスト・参考文献等	<p>[テキスト] ①村本淳子ら編『ウイメンズヘルスナーシング概論』、ヌーヴェルヒロカワ、2012          ②森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2016          ③森恵美『母性看護学 [2] 母性看護学各論』、医学書院、2016          ④末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2016          ⑤石村由利子編『母性看護技術』医学書院、2013          ⑥女性看護学概論で使用した書籍および配布資料</p> <p>[参考文献] ①ミシェル・オダグ『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995（女性看護学助手室で貸出可）          ②医療情報科学研究所『病気が見える vol.10 産科』、メディックメディア、2009          ③『母乳育児スタンダード』第2版、医学書院、2015</p>						
履修条件	女性看護学概論を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問およびその回答は、講義中、レスポンスカードで行う。						

授業科目名	女性看護学演習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	3年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・安河内静子・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子						
授業の概要	1. 女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。 2. 妊産褥婦および新生児に必要なケアの実践に向けてペーパーベシエントを用いた情報分析とアセスメントを行い、看護過程を学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	妊産褥婦および新生児の生理的变化を理解し、ホリスティックケアモデルでアセスメントできる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事例を通して、ホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	技術習得のために、主体的な行動をとることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	妊産褥婦および新生児のケアに必要な基本的技術ができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、看護過程の展開（基礎的内容）		講義		事前課題ノート提出 事後：事例情報分析用紙の課題（後日提出）		
2	看護過程の展開（妊娠期の情報整理、アセスメント）		講義・演習				
3	妊産褥婦のアセスメントと看護技術 （妊婦健康診査、分娩時の産痛緩和、産褥期の観察、乳房ケア）		講義・演習		事前学習： テキスト①②③ ワークシート作成提出 事後学習：事前課題ノートは、授業を重ねるごとに随時、追記する。		
4							
5	新生児のアセスメントと看護技術（沐浴）		講義・演習				
6	新生児のアセスメントと看護技術（身体計測、バイタルサイン測定）		講義・演習				
7	看護過程の展開（妊娠、産褥、新生児の情報分析用紙の整理とアセスメント完成）		講義・演習		事前学習： 事例の情報分析用紙（妊娠、産褥、新生児） 参考文献①②		
8	看護過程の展開（関連図、看護診断、看護目標、看護計画立案）		講義・演習		事後学習：事例の看護過程展開用紙を完成させる		
9~12	妊婦・産婦・褥婦・新生児計測・沐浴の演習（5グループに分かれて演習）		演習		事前学習①②③ 事前・事後学習： 個別演習		
13・14	妊婦・産婦・褥婦・新生児計測・沐浴の看護技術チェック		演習				
15	まとめ		講義		事前課題ノートの完成版を提出		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内レポート		○	○	○		40	
事前課題ノート・授業外レポート		○	◎	○		60	
授業態度・授業への参加度・演習		○		◎	◎		
技術チェック		○	○	○	○		
補足事項		欠席4点/回、遅刻2点/回は減点する。					
テキスト・参考文献等	<p>[テキスト] ①女性看護学概論、女性看護学で使用した書籍および配布資料 ②立岡弓子編『周産期ケアマニュアル』医学芸術新社、2012 ③村田千代子『Baby エステ』、権歌書房、2008</p> <p>[参考文献] ①太田操編『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』医歯薬出版株式会社、2006 ②佐世正勝他『ウェルネスからみた母性看護過程』医学書院、2009</p>						
履修条件	女性看護学概論・女性看護学を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問およびその回答は、講義・演習中に随時行う。						

授業科目名	女性看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	1	3～4年
担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・石村美由紀・安河内静子・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子						
授業の概要	1. 女性看護学演習Ⅰで習得した技術をさらに洗練させ、論理的根拠に基づき実施する。 2. 実習で経験した事象の意味をホリスティックケアモデル、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づき探求する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	妊産褥婦および新生児の生理的変化を、ホリスティックケアモデルでアセスメントできる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	事例を通して看護過程を展開することができる。					
	DP4：表現力	妊産褥婦および新生児に備わった生理的力を観察し、プライマル・ヘルスの視点から論述できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	技術習得のために、主体的な行動をとることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	事例に応じて必要なケアを選択し、確実に実施することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	実習オリエンテーション		講義		事前学習：実習要項の内容を理解して臨む。 女性看護学演習Ⅰで作成した事前課題ノートを持参する。		
2～5	事前に提示された課題（事例）をもとにロールプレイし、以下の1～4の看護技術をテストする。 1. 妊婦のアセスメントと看護技術（子宮底長、腹囲測定、胎児心拍測定、レオポルド触診法等） 2. 産婦の看護技術（産痛緩和（圧迫、呼吸、体位等） 3. 新生児のアセスメントと看護技術（沐浴、児の計測等） 4. 褥婦のアセスメントと看護技術（子宮復古状態・悪露の観察・授乳支援）		演習 ロールプレイ 看護技術テスト		事前学習：女性看護学・女性看護学演習Ⅰの学習内容を必ず復習して臨む。		
6・7	看護過程の展開		演習		女性看護学演習Ⅰを復習し、看護過程展開の準備をしておく。		
8	まとめ		演習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
事前課題ノート		○	○				
授業（演習）態度・授業への参加度		○	○	◎		30	
妊産褥婦、新生児の看護技術、技術テスト		○	◎	○	◎	70	
補足事項		事前課題ノートが完成していない者は、履修ができない。					
テキスト・参考文献等	[テキスト] ①女性看護概論、女性看護学で使用した書籍および配布資料 ②立岡弓子編『周産期ケアマニュアル』医学芸術新社、2012 ③村田千代子『Baby エステ』、権歌書房、2008						
履修条件	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	実習の直前の演習であるため、疑問点をすべて解決できるよう、演習の場で質問に答える。						

授業科目名	女性看護学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	佐藤香代・鳥越郁代・古田祐子・安河内静子・石村美由紀・吉田 静・小林絵里子・佐藤繭子		後期～前期	実習	必修	2
授業の概要	1. ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき、女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習ⅠⅡで学んだ学習内容を実習を通して深める。 2. 妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開することで、適切な看護を実践する能力を培う。 3. 生命の神秘・尊厳を考えることができる。 4. 実践科学である看護を論理的に思考するための基礎を培う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP4：表現力	ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念を重視し、母子の看護に必要な情報収集、アセスメント、看護計画の立案、実施、評価について説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	実習に積極的に取り組み、受け持ち母子に寄り添い、母子のニーズに基づいた看護を実践できる。					
	DP6：社会貢献力						
技能	DP10：専門分野のスキル	受け持ち母子の看護過程を展開し、適切な看護を実践することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p><b>【実習方法】</b></p> 1. 10～12名を5～6名のグループに編成し、病院において2週間実習する。 2. 施設に1名の教員が担当する。また実習が円滑に行われるようスーパーバイザーを置く。 3. 各実習施設の実習教育者の指導を受けながら実習する。 4. 病院実習では妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開しケアを行う。 *実習方法の詳細は実習要項で提示する。							
<p><b>【事前学習】</b></p> ①テキスト、資料、事前学習の項目、実習施設から出されている課題等を十分学習しておく。 ②女性看護学演習Ⅰで行った看護技術を、ひとりですべてまで練習しておく。 ③看護過程の基礎知識を復習する。							
<p><b>【事後学習】</b></p> 実習記録をまとめ、期限までに提出							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
出席				◎		30	
実習態度			○	○	◎	20	
実習記録・看護過程の展開			◎	○	○	40	
カンファレンス			○	○		10	
補足事項		学生自己評価・実習施設教育者・担当教員の評価から総合的に評価する。 学生自己評価は女性看護学実習評価表を用いて評価する。					
テキスト・参考文献等	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習ⅠⅡで使用した書籍および配布資料						
履修条件	女性看護学演習Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	実習中にすべての疑問点が解決できるよう、その場で質問に答える。						

(専)看護学  
目科部

授業科目名	在宅看護学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	1	2年
担当教員	尾形由紀子・吉田恭子・吉村美奈子						
授業の概要	在宅看護の特性を全体的にとらえ、療養生活を継続できるような看護の役割や在宅看護に関わる法制度を学ぶ。また、現在の保健医療福祉制度の理解をもとに課題を考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	在宅看護に対する社会的要請、在宅看護の機能と看護の役割を説明できる。 在宅看護のその対象者の特徴を説明できる。 在宅看護に関わる保健医療福祉制度の現状と課題を説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	在宅看護の変遷と歴史的背景						
2	在宅看護の目的、特性						
3	在宅ケアシステム						
4	在宅ケアチームとの連携						
5	在宅看護に関わる法制度						
6	在宅ケアの現状と課題						事後：レポート
7	在宅における倫理						事後：レポート
8	在宅におけるケアマネジメント						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				70	
宿題・授業外レポート		◎				10	
授業態度・授業への参加度		◎				20	
テキスト・参考文献等	渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第3版 日本看護協会出版会						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問などはレスポンスカードで受け付け、次回の授業時に回答する。						

授業科目名	在宅看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	1	2年
担当教員	尾形由紀子・吉田恭子・吉村美奈子						
授業の概要	健康問題や障害を抱えながらも、在宅での療養生活を望む療養者および家族に必要な生活支援や医療技術の実際を学ぶ。さらに、住民から期待される在宅ケアの今後について考察する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	在宅ケアの促進に向けた看護の役割を説明できる。 疾病や障害と共に在宅で療養生活をおくる対象者への適切な看護を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	施設内看護と在宅看護との違いを明確にし、在宅療養を継続するうえで必要な看護の知識を活用することができる。					
	DP4：表現力	在宅看護における訪問看護活動の実際を想起し説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	状態別看護において、療養生活上の課題に抽出し、在宅看護での具体的支援を説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	在宅看護活動と運営						
2	在宅で療養する人々の看護①難病および医療依存度の高い療養者の在宅看護						
3	在宅における呼吸ケア①（在宅人工呼吸法、吸引）						
4	在宅における呼吸ケア②（在宅酸素療法、口腔ケア）、栄養ケア						
5	在宅における清潔ケア						事後：レポート
6	在宅で療養する人々の看護②慢性疾患療養者のアセスメントの視点						
7	在宅で療養する人々の看護③慢性疾患療養者の在宅看護						
8	在宅で療養する人々の看護④長期臥床療養者の在宅看護						
9	退院支援と在宅移行期の課題						事後：レポート
10	在宅で療養する人々の看護⑤認知症療養者の在宅看護						
11	在宅で療養する人々の看護⑥精神障がい療養者の在宅看護						
12	在宅で療養する人々の看護⑦終末期療養者の在宅看護						
13	在宅で療養する人々の看護⑧小児と家族の在宅看護						事後：レポート
14	在宅看護過程（慢性疾患療養者のアセスメントの実際）						
15	在宅看護におけるリスクマネジメント						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			60	
宿題・授業外レポート				◎		30	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
テキスト・参考文献等	渡辺裕子監修 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第3版 日本看護協会出版会 正野逸子・本田彰子編著 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社						
履修条件	在宅看護学概論を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問はレスポンスカードで受け付け、次回の授業時に回答する。						

授業科目名	在宅看護学演習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	3年
担当教員	尾形由紀子・吉田恭子・吉村美奈子						
授業の概要	在宅での療養生活を継続できるような適切な看護介入を行うための看護過程を学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	ペーパーバイシエントの療養生活上の課題を明確にし、看護計画が立案できる。					
	DP4：表現力	在宅看護における看護過程について自己の学習課題を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	法的根拠に基づき、効果的な社会資源の活用を提案できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	一般的な家庭にある物品を安全性・経済性に考慮した活用が提案できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	演習オリエンテーション、演習計画立案		演習		事前：加齢変化、発達課題、脳卒中後遺症・ペースメーカー植込み術後・失語症の理解、慢性期の看護		
2	看護過程の展開 情報の整理		演習				
3	看護過程の展開 アセスメント		演習				
4	看護過程の展開		演習				
5	看護過程の展開 課題の明確化		演習				
6	看護過程の展開		演習				
7	看護過程の展開 長期目標と短期目標		演習				
8	看護過程の展開		演習		事後：助言に対する修正、自己の課題分析		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			45	
宿題・授業外レポート			◎	◎		35	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
テキスト・参考文献等	在宅看護学概論および在宅看護学で使用した書籍や配布資料						
履修条件	在宅看護学概論、在宅看護学を履修していること。						
学習相談・助言体制	小グループを編成し共同学習を行う。演習中のレポート内への助言や質問に答えるようにする。						

授業科目名	在宅看護学演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	1	3～4年
担当教員	尾形由紀子・吉田恭子・吉村美奈子						
授業の概要	在宅で療養生活をおくる対象者の健康課題に対する看護技術について学び、対象のニーズに応じた看護介入を行う能力を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	実習する地域の社会資源を把握し、特徴を説明できる。					
	DP4：表現力	訪問看護の場面を考え、対象者との信頼関係の構築に向けての意図的な行動を説明できる。在宅看護学実習における自己の学習課題を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	基礎的な看護技術の反復練習を行い、在宅における安全な看護技術を提供できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	日常生活の支援における直接的援助技術		講義		事前：実習要項の理解、代表的な疾患・セルフケア援助		
2	日常生活の支援における直接的援助技術		演習				
3	日常生活の支援における直接的援助技術		演習				
4	日常生活の支援における直接的援助技術		演習				
5	日常生活の支援における直接的援助技術		演習				
6	日常生活の支援における直接的援助技術		発表				
7	日常生活の支援における間接的援助技術		演習				
8	日常生活の支援における情緒的援助技術		演習				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎			10	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
受講者の発表（プレゼン）			◎			10	
演習			◎			70	
テキスト・参考文献等	在宅看護学概論および在宅看護学、演習Ⅰで使用した書籍や配布資料、基礎看護技術で使用した資料						
履修条件	在宅看護学概論、在宅看護学、在宅看護学演習Ⅰを修得していること。						
学習相談・助言体制	学習進度に合わせて演習計画を見直し、到達目標に達成するように支援する。必要に応じて技術演習の相談に応じる。						

授業科目名	在宅看護学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由紀子・吉田恭子・吉村美奈子		後期～前期	実習	必修	2
授業の概要	在宅看護の対象者のニーズおよび生活特性を理解し、在宅で健康障害を抱えながらも暮らしている療養者とその家族の生活継続に向けた看護の役割と実際を学び、在宅看護における課題を考察する。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	在宅看護の対象者のニーズや生活の特徴を捉え、療養生活上の課題を説明できる。対象者の療養生活上の課題に対する看護計画の立案・実施と評価ができる。					
	DP4：表現力	訪問事例への看護技術について、的確に記載することができる。訪問事例への看護場面から学んだ在宅看護における自己の学習課題を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	訪問事例と積極的に関わり、対象者と意思の疎通を図ることができる。					
	DP6：社会貢献力	保健医療福祉サービスの一員として、多職種との連携協働の必要性や看護の役割を説明できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	継続看護における課題と社会資源の活用を説明できる。訪問看護事業の機能と役割を説明できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>実習施設：医療機関が行う訪問看護、訪問看護ステーション  実習方法：上記の1施設につき学生1～4名が2週間実習する。受持ち事例は1例、その他に訪問事例が数例あり、毎日、訪問看護師に同行して、見学および看護実践を行う。担当教員は5～6名の学生を受け持ち指導する。</p> <p>実習方法の詳細は「在宅看護学実習要項」に示す。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業態度・授業への参加度				◎		30	
受講者の発表（プレゼン）			○			10	
その他（実習要項）			◎	◎	○	60	
補足事項	平成28年度在宅看護学実習要項の評価基準による。						
テキスト・参考文献等	参考文献は、適宜、必要に応じて紹介する。						
履修条件	在宅看護学演習Ⅱを履修していること。						
学習相談・助言体制	実習開始前および終了後にオフィスアワーを設け相談に応じる。						

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・ 植橋明子	後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を学ぶ。 生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に論ずることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	公衆衛生看護学の基盤となる概念		講義		尾形		
2	公衆衛生看護の歴史「時代を読む」		講義		山下		
3	ライフサイクルから見た健康課題とニーズの把握「地域を見る」		講義		尾形		
4	公衆衛生看護活動と感染症対策		講義		小野		
5	公衆衛生看護活動と母子保健①		講義		手島		
6	公衆衛生看護活動と母子保健②		講義		ゲストティーチャー		
7	公衆衛生看護活動と成人保健		講義		小野		
8	公衆衛生看護活動と高齢者保健		講義		尾形		
9	公衆衛生看護活動と難病看護		講義		植橋		
10	公衆衛生看護活動と精神保健		講義		手島		
11	公衆衛生看護活動と災害看護		講義		山下		
12	公衆衛生看護活動と産業保健		講義		ゲストティーチャー		
13	ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開①（個別から集団）		講義		山下		
14	ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開②（集団から組織）		講義		ゲストティーチャー		
15	公衆衛生看護の展開方法のまとめ		講義		尾形		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				60	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会 2013、4,536円						
学習相談・助言体制	メールで対応し、必要に応じて個別の相談を行なう。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	4年
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・榎橋明子						
授業の概要	<p>PDCA サイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開プロセスについて学ぶ。  公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について学ぶ。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、評価方法を学び、事業レベルの展開プロセスについても理解する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握とアセスメントの方法及び展開方法が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地区診断の視点、対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、地区活動計画の作成プロセスを通して試行・判断し、自らの考えまとめることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	公衆衛生看護活動における健康課題の捉え方、法的根拠と施策体系	講義			尾形		
2	地区活動計画の企画立案と評価	講義			山下		
3	保健事業の企画立案、実施、評価と保健師の役割	講義			山下・ゲストティーチャー		
4	地区活動の展開と保健師の役割	講義					
5	母子保健福祉活動の企画立案評価①	講義			小野		
6	母子保健福祉活動の企画立案評価②	講義・討議			小野		
7	成人保健活動の企画立案評価①	講義・討議			手島		
8	成人保健活動の企画立案評価②	講義・討議			手島		
9	高齢者保健福祉活動の企画立案評価①	講義・討議			榎橋・ゲストティーチャー		
10	高齢者保健福祉活動の企画立案評価②	講義・討議					
11	感染症を対象とした保健活動の企画立案評価	講義・討議			小野		
12	精神保健福祉活動の企画立案評価	講義・討議			手島		
13	難病保健福祉活動の企画立案評価	講義・討議			榎橋		
14	行政における公衆衛生看護活動の展開の特徴	講義			山下		
15	まとめ	講義			尾形		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				50	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
受講者の発表（プレゼン）			◎			10	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 各論1』日本看護協会出版会、2015、4,968円  参考図書：佐伯和子他編、「公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術」、「公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動」、医歯薬出版株式会社、2014</p>						
履修条件	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰを修得していること						
学習相談・助言体制	実習グループを基本に学習活動を行い、実習指導担当教員が相談助言を行うとともに、スーパーバイズ体制をとり、複数教員が対応できるようにする。						

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅲ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	4年
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・榎橋明子						
授業の概要	公衆衛生看護活動における健康課題の把握や課題解決の基本となる理論や科学的根拠を確認し、臨地実習の体験と文献から健康課題を把握する調査方法や課題解決方法を検討するための研究方法について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域保健活動の質の向上や知識体系の構築のための研究方法について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスについて論ずることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	公衆衛生看護実践に不可欠な「研究力」		講義		尾形		
2	公衆衛生看護における研究倫理		講義		山下		
3	公衆衛生看護研究方法 1		講義		小野		
4	公衆衛生看護研究方法 2		講義 グループワーク		尾形・山下・小野・手島 榎橋		
5	公衆衛生看護研究デザインの検討 1		講義・グループディスカッション				
6	公衆衛生看護研究デザインの検討 2		講義・グループディスカッション				
7	公衆衛生看護研究デザインの検討 3		講義・グループディスカッション				
8	公衆衛生看護研究デザインの検討 4		講義・グループディスカッション				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	60	
テキスト・参考文献等	テキスト：①井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2013、4,536円 ②麻原きよみ他編、『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』、医歯薬出版株式会社、2014、3,024円 ③佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円						
履修条件	公衆衛生看護学実習Ⅰを修得していること						
学習相談・助言体制	メールで対応し、必要に応じて個別の相談を行なう。						

(専)看護  
門護  
科学  
学  
目科部

授業科目名	公衆衛生看護技術論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・ 植橋明子・香月眞美		前期	演習	選択	2
授業の概要	乳幼児虐待や生活習慣病等のハイリスク者の特徴を理解し、対象の把握方法、個人・家族への支援方法を学ぶ。家庭訪問及び保健指導・健康相談の基本的な支援技術を習得するため、ペーパーペイシエントを用いた事例検討とロールプレイを行う。健康課題に影響する環境要因を捉えて潜在的な健康課題を顕在化し予防的に働きかけ、健康弱者の代弁者となって権利を擁護する保健師の支援方法について学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	地域における個別支援対象者と援助の特徴を理解するとともに、支援対象者のアセスメント、支援計画の立案、評価の方法を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	個人・家族の生活様式や生活環境との関連でとらえた潜在的な健康課題を抽出し、家庭訪問および保健指導の援助計画を立案し、発表し討議することができる。					
	DP4：表現力						
技能	DP10：専門分野のスキル	健康課題を抱える個人・家族の事例についてアセスメントし、家庭訪問による援助計画を立案し、実施、評価できる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	保健指導について		講義		尾形		
2~4	訪問対象の援助ニーズのとらえ方（初期における情報収集の方法） 情報収集とアセスメント		講義 グループ・ディスカッション		尾形・山下・小野・手島 植橋		
5・6	家庭訪問の活動の展開 リスクを抱える個人・家族への支援技術		講義		手島		
7~10	<看護過程の展開>（Plan-Do-See） 地域住民を対象とした家庭訪問の技術と展開方法1（母子）		グループ・ディスカッション *事例は事前に指示する		尾形・山下・小野・手島・ 植橋・香月		
11	相談・指導に用いる共通技術 ・カウンセリング ・コミュニケーション技術		グループワーク		ゲストティーチャー		
12	個別健康相談の展開		ロールプレイング（DVD）		尾形・山下・小野・手島 植橋		
13~15	<看護過程の展開>（Plan-Do-See） 地域住民を対象とした保健指導の技術と展開方法2（成人：特定保健指導）		グループ・ディスカッション *事例は事前に指示する		尾形・山下・小野・手島 植橋		
16	健康増進のための支援技術 健康づくりのための理論とモデル		講義		植橋		
17~19	<看護過程の展開>（Plan-Do-See） 地域住民を対象とした家庭訪問の技術と展開方法3（高齢者）		グループ・ディスカッション *事例は事前に指示する		尾形・山下・小野・手島 植橋		
20	家庭訪問準備		ロールプレイング				
21~23	家庭訪問の実施		学外演習				
24・25	<看護過程の展開>（Plan-Do-See） 地域住民を対象とした保健指導の技術と展開方法4（難病）		グループ・ディスカッション *事例は事前に指示する				
26・27	<看護過程の展開>（Plan-Do-See） 地域住民を対象とした保健指導の技術と展開方法5（感染症）		グループ・ディスカッション *事例は事前に指示する				
28・29	<看護過程の展開>（Plan-Do-See） 地域住民を対象とした保健指導の技術と展開方法6（精神）		グループ・ディスカッション *事例は事前に指示する				
30	まとめ		プレゼンテーション 意見交換・講評				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				30	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
ロールプレイおよび学外演習					◎	30	
テキスト・参考文献等	テキスト：①宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 総論』、日本看護協会出版会、2014、4,968円 ②宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 各論1』 日本看護協会出版会、2015、4,968円 ③宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 各論2』 日本看護協会出版会、2014、3,888円 ④岩本里織他編、『公衆衛生看護活動論技術演習第2版』、クオリティケア、2013、3,456円 参考文献：①村嶋幸代他著、『最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術』、メヂカルフレンド社、2011 ②長江弘子・柳澤尚代著、『こう書けばわかる！保健師記録』、医学書院、2004						
履修条件	公衆衛生看護アセスメント論Iを修得していること						
学習相談・助言体制	質問およびその回答は、演習中に行う。必要時、メールで対応する。						

授業科目名	公衆衛生看護技術論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・ 檜橋明子・山口のり子	前期	演習	選択	2	4年
授業の概要	公衆衛生看護活動における健康教育の意義とその基盤となる理論について理解し、地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした支援技術を習得する。 行動科学や学習理論に基づいた集団に対する支援方法を学び、実習と連動させた演習で健康教育の企画立案、実施、評価のプロセスを体験する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公衆衛生看護活動におけるターゲット集団とその援助の特徴を理解するとともに、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価の方法を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を検討し、発表し討議できる。					
	DP4：表現力						
技能	DP10：専門分野のスキル	地域住民自身が主体的に行動変容を起こす為の支援方法を検討し、健康教育を企画・実施・評価できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	地域の健康課題解決を目指した集団へのアプローチ		講義		尾形		
2	集団支援（グループ支援と地区組織活動）		講義		山下		
3～7	地域で活動する自主グループ活動の支援1 地域で活動する自主グループ活動の支援2 地区組織活動の実践事例		グループワーク、グループ・ ディスカッション 学外演習		尾形・山下・小野・手島 檜橋・山口		
8	健康教育の意義と目的		講義		手島		
9	健康教育の対象と方法 健康教育で用いられる理論		講義		檜橋		
10	健康教育の技術と展開方法		講義		小野		
11～17	地域住民を対象とした健康教育の技術と展開方法1・2（対象把握・ 目標設定） 地域住民を対象とした健康教育の技術と展開方法3（内容と方法） 地域住民を対象とした健康教育の技術と展開方法4（評価方法）		学外演習 グループワーク		尾形・山下・小野・手島 檜橋・ゲストティーチャー		
18～24	健康教育による支援計画の作成1 （教育計画書に基づく指導案・健康教育媒体の作成） 健康教育による支援計画の作成2 （デモストの実施1・健康教育計画の再検討） 健康教育による支援計画の作成3 （デモストの実施2・健康教育計画書の完成）		グループワーク デモンストレーション		尾形・山下・小野・手島 檜橋		
25～27	健康教育の実施 実施・評価		学外演習 グループワーク		尾形・山下・小野・手島 檜橋		
28～30	健康教育計画書の作成		グループワーク		尾形・山下・小野・手島 檜橋・ゲストティーチャー		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				30	
健康教育の企画書の作成		◎	○		○	20	
授業態度・授業への参加度			◎			10	
健康教育のデモ・学外演習			◎		◎	40	
テキスト・参考文献等	テキスト：日本健康教育士養成機構著、『新しい健康教育』、保健同人社、2011、3,078円 参考文献：標美奈子他著、『標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論』、医学書院、2015						
履修条件	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰを修得していること						
学習相談・助言体制	質問およびその回答は、演習中に行う。必要時、メールで対応する。						

（専看  
門護  
科学  
目科部）

授業科目名	組織協働活動論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	4年
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・ 檜橋明子・香月進						
授業の概要	<p>保健師が行う他職種・他機関との合意形成や協働しながら継続的・組織的に健康課題を解決する方法、協働活動を開発、改善、管理する活動方法について学ぶ。</p> <p>地域を構成する組織・機関や制度、仕組みを構造的にとらえ、地域の課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と必要性について理解する。また、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義を理解し、住民との協働活動についても学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	コミュニティの課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と協働活動のための保健師の役割について理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	コミュニティを構成する組織や機関の構造と特徴、組織間の関係性に関わる概念について学ぶとともに、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義と保健師の支援方法に論じることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	公衆衛生看護活動における連携・協働とは	講義			尾形		
2	協働のプロセスと理論	講義			山下		
3	在宅医療における連携方法	講義			尾形		
4	医療と介護の連携	講義			尾形・ゲストティーチャー		
5	退院支援における連携方法①	講義			小野・ゲストティーチャー		
6	退院支援における連携方法②	講義			小野・ゲストティーチャー		
7	看護間の連携	講義			檜橋・ゲストティーチャー		
8	小規模多機能施設の運営	講義			手島・ゲストティーチャー		
9	小規模多機能施設の多職種との連携	講義			手島・ゲストティーチャー		
10	地域データの分析と周知方法	講義			尾形・香月		
11	地域データから見る連携のあり方	講義			尾形・香月		
12	組織マネジメントとは	講義			尾形・ゲストティーチャー		
13	行政組織における協働活動	講義			山下・ゲストティーチャー		
14	組織協働に関するディスカッション①	講義 ディスカッション			尾形・山下・小野・手島・ 檜橋		
15	組織協働に関するディスカッション①	講義 ディスカッション			尾形・山下・小野・手島・ 檜橋		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
		◎	◎			40	
宿題・授業外レポート			◎	○		40	
授業態度・授業への参加度			◎	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○			
テキスト・参考文献等	テキスト：佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円						
履修条件	公衆衛生看護学実習Ⅰを修得していること						
学習相談・助言体制	メールで対応し、必要に応じて個別の相談を行なう。						

授業科目名	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・ 植橋明子	後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を学ぶ。 コミュニティアズパートナーモデルを用いたコミュニティを把握するために必要な情報の収集方法と、 人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を学ぶ。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報 収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセス メントの考え方を理解する。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	コミュニティに関する情報を収集して特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境を 背景とした顕在的、潜在的な健康課題について考察することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	公衆衛生看護の目的とアセスメントの必要性とアセスメントの過程		講義		尾形		
2	健康課題抽出のためのデータ収集方法		講義		植橋		
3・4	生活者の実態をとらえる視点（食事・運動・睡眠）		講義・グループワーク		山下 手島		
5	地域高齢者を中心とした地域の情報収集1（訪問調査の具体的方法・ロール プレイ）		グループワーク		尾形 山下 小野 手島 植橋 ゲストティーチャー		
6	高齢者を中心とした地域の情報収集2（訪問調査のアポイントメント）		グループワーク				
7~9	高齢者を中心とした地域の情報収集3（訪問調査の実施）		グループワーク				
10	高齢者を中心とした地域の情報収集4（訪問調査の記録）		グループワーク				
11・12	高齢者を中心とした地域の健康課題の抽出1（訪問調査のまとめ）		グループワーク				
13	高齢者を中心とした地域の健康課題の抽出2（訪問調査からの健康課題の 検討）		グループワーク				
14	まとめ1（地域の健康課題の抽出）		グループワーク				
15	まとめ2（地域の健康課題の構造化に向けてのディスカッション）		グループワーク				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	小テスト・授業内レポート		◎			20	
	宿題・授業外レポート	◎				20	
	授業態度・授業への参加度	◎	◎			40	
	受講者の発表（プレゼン）		◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：①佐伯和子編著、地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた、医歯薬出 版株式会社、2007、2,592円 ②エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、コミュニティアズパートナーー地域看護の理 論と実際ー、医学書院、2007、4101円 ③佐伯和子編他、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円 参考図書：①厚生労働統計協会著、『国民衛生の動向』、厚生労働統計協会 ②井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2013 適宜提示						
履修条件	看護学部専門基礎科目及び専門科目の中の必修科目、保健師必修科目のうち3年前期までに開講された科目の単 位を修得していること。						
学習相談・助言体制	メール等にて質問を受け付ける。						

（専）看護  
門看護  
科学学  
目科部

授業科目名	公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			前期	演習	選択	2	4年					
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・榎橋明子											
授業の概要	公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。 把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、プレゼンテーション技術や討議の進め方について学ぶ。											
学生の到達目標												
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	実習先の地域の情報を収集し、健康課題を抽出し対策を検討することができる。収集した地域の情報と健康課題についての考察を資料化し、発表し討議できる。										
	DP4：表現力											
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	統計データのほか、フィールドサーベイやインタビューなど現場に身をおいた体験をして積極的に地域の情報を収集できる。										
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）												
回	授 業 内 容	授 業 方 法	担 当									
1～3	地域の高齢者の健康課題の構造化	グループワーク	尾形 山下 小野 手島 榎橋									
4～6	地域の健康課題の共有方法	グループワーク										
7・8	地域の健康課題の共有	プレゼンテーション										
9	地域の高齢者の健康課題まとめ	講義										
10	健康課題抽出のためのデータ収集と判断	講義・演習										
11・12	健康課題抽出のためのデータ収集と判断（人口動態・人口静態）	グループワーク										
13・14	健康課題抽出のためのデータ収集と判断（死亡統計）	グループワーク										
15・16	健康課題抽出のためのデータ収集と判断（サブシステム）	グループワーク										
17・18	健康課題抽出のためのデータ収集と判断（保健医療福祉）	グループワーク										
19～21	地域視診（地区踏査）	演習										
22	地区視診（結果・検討）	グループワーク										
23・24	地域の健康課題の抽出	グループワーク										
25～27	地域の健康課題の共有（中間発表）	プレゼンテーション										
28～30	健康課題と保健事業	グループワーク										
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）												
成績評価方法	到達目標	知識・理解						思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート				○		20						
宿題・授業外レポート			○	○		20						
授業態度・授業への参加度			◎	◎		40						
受講者の発表（プレゼン）			○			20						
テキスト・参考文献等	テキスト：①佐伯和子編著、地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた、医歯薬出版株式会社、2007、2,592円 ②エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー、医学書院、2007、4101円 ③佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円 参考図書：厚生労働統計協会著、『国民衛生の動向』、厚生労働統計協会 適宜提示											
履修条件	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰを修得していること											
学習相談・助言体制	メール等にて質問を受け付ける。											

授業科目名	公衆衛生看護管理論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・植橋明子	後期	講義	選択	2	4年
授業の概要	<p>公衆衛生看護活動におけるマネジメントの考え方と意義について理解し、行政の保健師の役割と管理活動について学ぶ。</p> <p>行政組織の予算管理、人事管理、事業管理の実際、地域ケアシステムの構築とケアサービスの質の管理、政策決定及び施策化への関わり、災害等健康危機管理における行政の活動について学ぶ。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	公衆衛生看護管理、地域ケアシステム、地域における健康危機管理の基本的知識が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域ケアシステム及び地域の健康危機管理における課題を明らかにし、必要な対策を立案できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	地域の健康危機管理における保健師の役割を理解し、活動の在り方を探究することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		担 当		
1	公衆衛生看護管理の定義および機能 公衆衛生看護管理の3つの概念		講義		尾形		
2	保健師が行う施策化と何か。 健康政策・健康政策形成過程		講義		山下		
3	国レベル・県レベルにおける看護政策の形成		講義		ゲストティーチャー		
4	事業・業務管理		講義		小野		
5	組織運営管理		講義		植橋		
6	行政の予算・予算管理		講義		手島		
7	プレゼンテーションの方法		講義		小野		
8	地域診断から保健計画までのプロセスを通してみた地域ケアの質保証1		講義・グループディスカッション		尾形・山下・小野 手島・植橋		
9	地域診断から保健計画までのプロセスを通してみた地域ケアの質保証2		講義・グループディスカッション				
10	地域診断から保健計画までのプロセスを通してみた地域ケアの質保証3		講義・グループディスカッション				
11	健康危機管理の体制整備と保健活動		講義・グループディスカッション		山下		
12			講義・グループディスカッション		植橋		
13	管理的ポストが担う公衆衛生看護管理 －人材育成・人事管理組織運営管理－		講義		ゲストティーチャー		
14	地域ケアシステムの構築に向けた保健師活動1		講義		尾形・小野		
15	地域ケアシステムの構築に向けた保健師活動2		講義		尾形・小野		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎		60	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：①井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2013、4,536円</p> <p>②佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円</p>						
履修条件	公衆衛生看護学実習Ⅰを修得していること						
学習相談・助言体制	メールで対応し、必要に応じて個別の相談を行なう。						

(専)看護  
門護  
科学  
学  
目科部

授業科目名	公衆衛生看護学実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・榎橋明子	前期	実習	選択	1	4年
授業の概要	<p>公衆衛生看護活動の対象である地域と保健師の活動の実際を学び、行政における保健師の役割と活動方法について理解する。</p> <p>保健所で実習を行い、主に保健師の活動に参加する。地域の保健医療福祉関連情報を収集して健康課題を検討し、個別支援の対象者に関する情報収集とアセスメント、支援計画を検討する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域の健康課題解決における保健所の保健活動の企画実施評価について理解し、意義と必要性について考察できる。					
	DP4：表現力	現場の指導者や関係者、住民との意見交換を行い、自己の考えを述べることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	地域の健康課題解決の方策を、現場関係者や実習生、教員と協力して検討することができる。					
	DP6：社会貢献力	地域の健康課題解決における保健所保健師の役割について理解できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	保健所にある統計資料、保健活動から得られる情報を収集・整理し、地域の健康課題を抽出することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>【実習先】 県保健所または政令市</p> <p>【実習期間】 平成28年9月12日～9月16日（5日間）</p> <p>【実習内容】 地域診断 家庭訪問 保健事業参加（健康相談等） オリエンテーション（健康危機管理、地域ケアシステムの構築、地域医療計画等）等</p> <p>【実習方法】 1施設に2～3名で実習する。 行政における保健活動と公衆衛生看護活動に参加しながら地域の情報収集を行い、健康課題を明らかにする。 臨地の実習指導者のオリエンテーションや資料の閲覧から積極的に情報を収集し、実践現場の活動を理解する。 日々のカンファレンスと記録を通して、体験についての考察を深める。</p> <p>【事前学習】 事前に地域の情報収集、アセスメントを行い、健康課題を検討する。</p> <p>【事後学習】 実習を通して学んだことについてレポートにまとめ、考察し、報告する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
実習参加度				◎		20	
実習報告会（プレゼン）			◎	◎		20	
実習評価表			◎	◎	◎	60	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：①井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2013、4,536円 ②麻原きよみ他編、『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』、医歯薬出版株式会社、2014、3,024円 ③佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円 ④宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 総論』、日本看護協会出版会、2015、4,968円 ⑤宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2015年版 各論1』 日本看護協会出版会、2015、4,968円 ⑥宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 各論2』 日本看護協会出版会、2016、3,888円 ⑦日本健康教育士養成機構著、『新しい健康教育』、保健同人社、2011、3,078円 ⑧岩本里織他編、『公衆衛生看護活動論技術演習第2版』、クオリティケア、2013、3,456円 ⑨佐伯和子編著、地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた、医歯薬出版株式会社、2007、2,592円 ⑩エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー、医学書院、2007、4,101円</p>						
履修条件	各専門領域の看護学実習を全てを履修していること。						
学習相談・助言体制	各グループに担当教員を配置し、公衆衛生看護学実習 I から II を通して指導する。 スーパーバイズ体制をとり、複数の教員で指導する。						

授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ					
	開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・榎橋明子	後期	実習	選択	4	4年
授業の概要	公衆衛生看護学実習Ⅰをもとに抽出した健康課題を踏まえ、保健所管轄区域内の市町村を中心に実習を行う。公衆衛生看護活動における基本的な支援技術を習得するため、保健事業の企画・立案、実施、評価の過程に参画するとともに、継続した家庭訪問又は保健指導を行う。個人・家族と集団や組織への支援を連動させた公衆衛生看護活動の実践について学ぶ。また、保健福祉医療システムの構築における関係機関や他職種との連携や、保健医療福祉計画策定における保健師の施策へのかかわり、住民組織への関わりなどの実際についても学ぶ。					
学生の到達目標						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	地域の健康課題解決における市町村の保健活動の企画実施評価の過程を理解し、意義と必要性、課題について考察できる。				
	DP4：表現力	現場の指導者や関係者、住民と意見交換を通して考察を深め、自己の意見を述べる事ができる。				
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	現場関係者や実習生、教員と積極的に討議し、地域の健康課題解決の方策を検討することができる。				
	DP6：社会貢献力	地域の健康課題解決における市町村保健師の役割について理解するとともに、課題と望ましいあり方について考察できる。				
技能	DP10：専門分野のスキル	市町村の健康課題に関する情報を積極的に収集・整理し、顕在化した健康課題を抽出するとともに、潜在的な健康課題についても考察することができる。家庭訪問を実施し、継続した個別支援における看護過程の展開ができる。小集団を対象に、地域の健康課題解決をめざす健康教育を企画し、実施・評価ができる。				
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）						
【実習習先】	市町村または政令市					
【実習期間】	平成28年10月3日～10月28日（20日間）必要時、帰校日を設ける。					
【実習内容】	地域診断 家庭訪問（継続訪問、同伴訪問） 健康教育実施 保健事業参加（健康診査、健康相談、健康教室、セルフヘルプグループ支援、地域組織活動との協働、地域連携会議等） オリエンテーション（健康危機管理、地域ケアシステムの構築、地域医療計画等）等					
【実習方法】	1施設に2～3名で実習する。 行政における保健活動と公衆衛生看護活動に参加しながら地域の情報収集を行い、健康課題を明らかにする。臨地の実習指導者のオリエンテーションや資料の閲覧から積極的に情報を収集し、実践現場の活動を理解する。日々のカンファレンスと記録を通して、体験についての考察を深める。					
【事前学習】	事前に地域の情報収集、アセスメントを行い、健康課題を検討する。 健康教育の企画書、シナリオを作成する。 家庭訪問の支援計画を策定する。					
【事後学習】	実習を通して学んだことについてレポートにまとめ、考察する。 個々の学習内容を共有し学びを深めるために学内報告会を行う。 実習中に収集した情報は、公衆衛生看護管理、組織協働活動論、公衆衛生看護学Ⅲ、卒業研究等を通して整理し、学びを深める。					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
実習参加度				◎		20
実習報告会（プレゼン）			◎	◎		20
実習評価表			◎	◎	◎	60
テキスト・参考文献等	テキスト：①井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2013、4,536円 ②浅原きよみ他編、『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』、医歯薬出版株式会社、2014、3,024円 ③佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円 ④宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 総論』、日本看護協会出版会、2016、4,968円 ⑤宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 各論1』、日本看護協会出版会、2015、4,968円 ⑥宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016年版 各論2』、日本看護協会出版会、2016、3,888円 ⑦日本健康教育士養成機構著、『新しい健康教育』、保健同人社、2011、3,078円 ⑧岩本里織他編、『公衆衛生看護活動論技術演習第2版』、クオリティケア、2013、3,456円 ⑨佐伯和子編著、地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた、医歯薬出版株式会社、2007、2,592円 ⑩エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー、医学書院、2007、4,101円					
履修条件	公衆衛生看護学実習Ⅰ及び統合実習の単位を履修していること。					
学習相談・助言体制	各グループに担当教員を配置し、公衆衛生看護学実習ⅠからⅡを通して指導する。スーパーバイズ体制をとり、複数の教員で指導する。					

（専）看護  
門護  
科学学  
目科部

授業科目名	家族看護学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	1	3年
担当教員	尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・榎橋明子						
授業の概要	健康問題や養育を必要とする人を抱えたとき、家族が相互にどのように影響するのかを理解し、家族成員が健康問題に対処する力を引き出し支援するために必要な家族看護学の基本的な理論と家族への援助方法について理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	「家族」の概念、「家族の健康」の概念を理解し、アセスメント方法と家族を対象とした看護過程を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	家族の看護に必要な情報を収集し、家族の全体像を形成しニーズを導き出し、援助方法を述べることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	家族看護とは何か 家族をアセスメントするとはどういうことか。		講義		尾形		
2	家族についての理論（1）		講義		山下		
3	家族についての理論（2）		講義		小野		
4	母子の課題を抱えている家族のアセスメント		講義		手島		
5	長期療養する患者家族のアセスメント		講義		榎橋		
6	家族看護過程		講義		山下		
7	家族看護の展開の実際		講義		小野・ゲストティーチャー		
8	家族看護を実践するための具体的手法		講義		尾形		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎				60	
宿題・授業外レポート			◎			20	
授業態度・授業への参加度			◎			20	
テキスト・参考文献等	テキスト：鈴木和子・渡辺裕子著、『家族看護学-理論と実践』、日本看護協会出版会、2012、3,456円						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールで対応し、必要に応じて個別の相談を行なう。						

授業科目名	国際看護論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	4年
担当教員	石田智恵美・村田節子・鳥越郁代						
授業の概要	グローバル化している現代は、海外に出かけなくても、日常生活の中で国際的な視野を必要とされる場面が多い。国際看護論では、世界の健康問題と看護の現状およびその課題について学び、看護実践を行う際に必要となる国際的な視野を養う。将来海外で看護を実践したいという学生のためだけでなく、日本の中での看護実践に役立つ考え方や見方ができる能力を身に付ける。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	国際的な視野を持ち、人間とその生活を多角的に理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	国際看護の目的を理解し、日本のみならず世界の人々の健康の現状と課題について理解することができる。					
	DP4：表現力	国際協力に求められる考え方を育み、自己の考えを表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	トリアージの演習を通して、緊急援助の実際を理解することができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	コースオリエンテーション	グローバリゼーションの概念	講義		石田		
2	グローバリゼーションと看護		講義 ディスカッション				
3	グローバルヘルスの概念						
4	開発と健康						
5	保健医療の国際協力						
6	国際協力のしくみ						
7	開発途上国の母子保健						
8	途上国の看護の現状と課題（ネパール及びイエメンの看護を例に）				講義 演習 ディスカッション		村田
9							
10	先進諸国における妊産婦ケアの現状と助産師の役割		鳥越				
11	災害時における看護職の活動		石田				
12	緊急援助の実際		石田				
13							
14	災害と看護（トリアージ）		石田				
15							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度				○		20	
演習				○		20	
その他 ※課題レポート			◎			40	
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しない。						
履修条件	ディスカッションでは積極的に発言すること						
学習相談・助言体制	授業以外の時間での質問は、E-メールで受け付ける。 石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp 村田：murata@fukuoka-pu.ac.jp 鳥越：torigoe@fukuoka-pu.ac.jp						

授業科目名	養護概説		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子						
授業の概要	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基礎について学ぶことを目標に講義・演習を行う。「保健室経営」「保健管理」「保健教育」「健康相談」「組織活動」「安全」の視点から養護教諭としての基礎的知識と技術を学び、その基礎となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における学校保健の役割と養護教諭の職務および期待されている役割、子どもを取り巻く多様な健康問題とその支援方法について考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	養護教諭の職務・役割について説明することができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について説明することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	どんな養護教諭が求められているのか		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	根拠に基づいた実践に向けて①～関連法規を学ぶ～		講義		松浦・原田・未定・梶原		
3	根拠に基づいた実践に向けて②～関連法規を学ぶ～		講義		松浦・原田・未定・梶原		
4	救急法の基礎①		講義		松浦・原田・未定・梶原		
5	救急法の基礎②		講義		松浦・原田・未定・梶原		
6	健康診断の基礎①		講義		松浦・原田・未定・梶原		
7	健康診断の基礎②		講義		松浦・原田・未定・梶原		
8	環境衛生の基礎		講義		松浦・原田・未定・梶原		
9	根拠に基づいた実践に向けて③保健学習		講義		松浦・原田・未定・梶原		
10	健康観察の基礎		講義		松浦・原田・未定・梶原		
11	歯科保健の基礎		講義		松浦・原田・未定・梶原		
12	保健室経営の基礎と実践		講義		松浦・原田・未定・梶原		
13	アレルギー対応の基礎と実際		講義		松浦・原田・未定・梶原		
14	感染症予防の基礎①		講義		松浦・原田・未定・梶原		
15	感染症予防の基礎②		講義		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎				100	
テキスト・参考文献等	新新訂版 学校保健実務必携（第3次改定版）、第一法規、2014年						
履修条件	教職課程に関する科目と養護に関する科目を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時						

授業科目名	学校保健学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子	前期	講義	選択	1	3年
授業の概要	学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義、目的や教育システムにおける位置づけを理解させ、学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、関連職種との連携、学校看護の機能と養護教諭の役割、児童・生徒・教職員の健康管理のあり方等を教授する。また、学校保健の今日的課題を演習し、その解決に向けて、医療や地域保健との連携方法の実際を教授する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	学校保健の範囲とその内容が大まかに述べられる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景を具体的に述べられる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	学校保健の法律・答申・学校保健計画		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	健康診断（法的根拠等）		講義		松浦・原田・未定・梶原		
3	疾病・傷害		講義		松浦・原田・未定・梶原		
4	心のケア・災害・PTSD・自殺・うつ・いじめ		講義		松浦・原田・未定・梶原		
5	児童虐待・発達障害・緘黙		講義		松浦・原田・未定・梶原		
6	学校環境衛生		講義		松浦・原田・未定・梶原		
7	救急処置		講義		松浦・原田・未定・梶原		
8	学校保健・学校安全		講義		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎				100
テキスト・参考文献等	適宜指示する						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールによる相談・指導または直接面談指導も可						

授業科目名	教職実践演習（養護教諭）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子	後期	演習	選択	2	4年
授業の概要	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の実際について学ぶことを目標に演習を行う。保健室経営、保健管理、保健教育、健康相談、組織活動等の視点から養護教諭として必要な知識と技術を学び、同時にそれらの基盤となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における養護教諭の職務と期待されている役割等についても学び、広い視野で子どもを取り巻く今日的な課題を考え、演習を取り入れ、これらの子どもたちとその家族、そして地域への援助ができるよう資質の向上を図る。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について述べることができる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	学校における応急手当と救命処置ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			担 当		
1	健康相談①	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
2	健康相談②	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
3	健康相談③	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
4	保健教育①	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
5	保健教育②	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
6	保健教育③	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
7	保健管理①	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
8	保健管理②	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
9	保健管理③	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
10	組織活動と各種計画	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
11	社会性と対人関係力	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
12	教師と使命感	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
13	学校保健の課題とその対応	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
14	保健室利用状況の実際	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
15	保健室経営の実践例	講義・演習			松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
	定期試験	◎	◎			100	
テキスト・参考文献等	参考文献：授業の中で適宜紹介する。						
履修条件	教職課程に関する科目と養護に関する科目を履修していること。						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時						

授業科目名	養護実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子	前期	実習	選択	1	4年
授業の概要	4年次の「養護実習」にあたっての事前指導と事後指導を行うものである。事前指導では、養護実習の意義と心構えについて講義し、観察参加の心構え、観察の仕方とポイント、観察の具体的内容、観察記録の書き方等を指導する。事後指導では、養護実習を終えた後、養護実習の内容と反省、意見などについて実習報告等の実習総括を行う。これにより、養護教諭としての専門的知識・技術・価値観を醸成する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	AEDを用いた心肺蘇生法の危機対応ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	養護実習概要		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	保健室と学校を見る		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
3	フィジカルアセスメント演習		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
4	健康診断・事後措置		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
5	救急法		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
6	保健指導案・教材の作成		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
7	実習でみてくるもの		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
8	実習報告会		講義・演習		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			100	
テキスト・参考文献等	静岡県養護教諭研究会『養護教諭の活動の実際』第2版、東山書房、2013年、3,000円						
履修条件	教職に関する科目と養護に関する科目を履修していること。						
学習相談・助言体制	随時受け付ける。						

(専) 看護科学学  
目科部

授業科目名	健康教育論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子	前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	現代において、いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因は深刻化しつつある。これらの様々な課題に対応すべく、学校現場における養護教諭の日々の実践において、ヘルスプロモーションの理念に基づいた子どもの発育や発達への支援が求められており、それに必要な健康相談活動の理論及び方法について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識	健康教育の理論や方法に関する知識を活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	健康教育とは何か（モデルを扱う）その1		講義		松浦・原田・未定・梶原		
2	健康教育とは何か（モデルを扱う）その2		講義		松浦・原田・未定・梶原		
3	ヘルスプロモーションの実際（学校保健委員会）		講義		松浦・原田・未定・梶原		
4	健康診断・事後措置		講義		松浦・原田・未定・梶原		
5	医薬品		講義		松浦・原田・未定・梶原		
6	性に関する指導		講義		松浦・原田・未定・梶原		
7	アレルギー		講義		松浦・原田・未定・梶原		
8	歯・口の健康		講義		松浦・原田・未定・梶原		
9	子どもの健康課題		講義		松浦・原田・未定・梶原		
10	健康相談・健康観察		講義		松浦・原田・未定・梶原		
11	保健指導（枠組みの理解）		講義		松浦・原田・未定・梶原		
12	保健学習（小学校学習指指導要領解説）		講義		松浦・原田・未定・梶原		
13	感染症		講義		松浦・原田・未定・梶原		
14	子どもの健康課題その2		講義		松浦・原田・未定・梶原		
15	保健学習（中学校学習指指導要領解説）		講義		松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
定期試験			◎				100
テキスト・参考文献等	適宜指示する。						
履修条件	履修該当学年以上の履修を認める。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー時に受け付ける。メールによる相談も可。						

授業科目名	養護実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・原田直樹・未定・梶原由紀子	前期	実習	選択	4	4年
授業の概要	教育の場において養護教諭によって行われている保健教育及び保健管理等の実践を直接学び、児童生徒の心身の健康上の問題及び健康保持への指導・援助について理解する。そのために、学校教育全体の組織・運営を理解し、学校保健安全計画の作成及び実践に参加し、学校保健活動における養護教諭の役割と活動内容を6つの獲得能力の柱をもとに理解することを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	養護をつかさどるための知識を理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	学校の職員と相互に連携して、保健指導を実践することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		担当		
1	<p>1 授業内容</p> <p>原則として4年次の6月以降の4週間を小学校、中学校、高等学校のいずれかの実習校において、教職員に準じた勤務実習を行う。 なお実習校への学生の配置数は原則として1校1名とする。</p> <p>2 授業方法</p> <p>実習指導は校長及び校長が任命する担当教諭が行う。さらに、実習期間中に担当教官が実習先を訪問し実習指導・助言に当たる。</p> <p>3 事前・事後学習（学習課題）</p> <p>実習中は原則として毎日、養護活動等についての所感・考察等を実習日誌に記録し、実習指導者及び教員からの指導・助言を受ける。</p>				松浦・原田・未定・梶原		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
その他		◎	◎			100	
補足事項		評価方法：実習校での成績・評価を参考に評価する。 *記録物の提出がない場合は、単位を認めない。					
テキスト・参考文献等	新訂版 学校保健実務必携 学校保健・安全実務研究会編著 第一法規 最新版 静岡県養護教諭研究会『養護教諭の活動の実際』、東山書房、2013年 養護実習事前指導で使用した書籍および配布資料						
履修条件	教職に関する科目と養護に関する科目を履修していること。						
学習相談・助言体制	随時受け付ける。実習校が遠隔地の場合はメール・電話等にて行う。						

授業科目名	ヒーリング論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	1年
担当教員	猪狩 崇						
授業の概要	この授業はヒーリングの概念と方法論について学ぶことを目的とする。ヒーリングモデル理論について検討し、ヒーリングを看護実践に具体的に活用する可能性を探り、その過程で得られた学びとヒーリングの看護としての課題を迫り、ヒーリングとは何かについて学びを深める。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	看護に必要な生体機能学の知識を前提に、ヒーリングにおける現象的事実を科学的に解明、理解していきける基礎力を養成する。看護の実践過程の中で、ヒーリングの技法を生かせる条件を見てとり、有効に選択・応用できるための方法論の基礎を築く。					
思考・判断・表現	DP4：表現力	ヒーリングの概念、看護実践体系の中での有効性と活用の仕方、自然治癒力を導き出す過程の構造等、学びの中でつかみ取ったところを自らの言葉で表現できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	ヒーリングの基礎について学んだことを、日常生活において健康の維持・増進への自己調整法として実践・習得し、他者にも教えられるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ヒーリングとは何か 癒しの歴史とヒーリングを学ぶ意義 ～ホリスティックケアに欠かせない文化遺産としてのヒーリングの見直し		講義・体験ワーク・グループディスカッション・レポート		自己を知るためのワーク、授業ごとのミニレポート		
2	認識（脳機能）によって統括された人体の生理構造からヒーリングの諸概念を理解する 気、経絡・ツボ、生体エネルギー、エネルギーフィールド、チャクラ、トランス etc.						
3	看護過程とヒーリングとの関係 ヒーリング効果発現のメカニズムを探る						
4	非接触型アプローチの作用メカニズム						
5	接触型アプローチの作用メカニズム						
6	自立訓練法と条件反射形成法の作用メカニズム						
7	五感刺激、心身の固有振動への働きかけ						
8	ヒーリング技法を活かす場の拡大と健康教育						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
授業内レポート			◎	◎			40
授業外レポート			◎	◎			40
授業態度・授業への参加度						○	20
補足事項		授業ごとのミニレポートは、A4 1枚程度の簡易なワークシートに記入し、最後に感想や意見、質問を任意に書き込める形式とします。					
テキスト・参考文献等	講義レジュメ、資料を毎回配布します。 参考文献： 安田隆著『波動干渉と波動共鳴』 たま出版 1996年 南郷継正著『なんごうつぐまさが説く 看護学科・心理学科学生への“夢”講義』(1)～(6) 現代社 2006年～2015年 本田克也、他著『看護のための「いのちの歴史」の物語』 現代社 2007年 他、授業内で随時紹介します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールでの受付・回答、および直接質問かレスポンスカードでの質問にオフィスアワーで回答、いずれも可。						

授業科目名	ヒーリングセラピー		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	猪狩 崇	前期	演習	選択	1	2年
授業の概要	この授業は、看護実践に活かせるヒーリングを紹介していくことを目的とする。学生はヒーリング実践のモデルを調べ、ヒーリングを実際に体験し、実践することによって今までにない概念をつかみ、看護実践で使えるツールとしての可能性を探る。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人間を、こころ・からだ・社会関係が切り離せずにかみあい、生涯を通じて成長・変化し続けるホリスティックな存在として捉え、説明することができる。また、正常な生理構造が歪んでいき、やがては病変していくとはいかなることか、自然治癒力を最大限發揮して歪みや病みを正常に戻すには、どのような条件を整える必要があるのか、どんな働きかけが可能かの説明ができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護一般に照らして、看護過程展開の中で対象にとって最適なかかわりの技法としてヒーリングを選択・使用できる判断規準を持つ。					
	DP4：表現力	個別な対象に対する看護実践のなかで、ヒーリングセラピーから学んだ技を看護の技として活用できる能力を養う。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習（学習課題）				
1	ヒーリングの概要とオリエンテーション 非接触型（エンパス）ヒーリングⅠ	講義・演習・ワークシート（A4 1枚程度、簡易な記入式）	授業内容に応じ随時指示します。キーワードとなる概念の自己学習程度です。				
2	非接触型（エンパス）ヒーリングⅡ						
3	接触型（手当て・コグニション）ヒーリングⅠ						
4	接触型（手当て・コグニション）ヒーリングⅡ						
5	手技（マニピュレーション）によるヒーリング ～筋群の緊張を緩める～						
6	トランス誘導（ヒプノシー）によるヒーリング						
7	アンカーリング（タッチ・言葉・物品）						
8	サウンドメディテーション（からだところの固有振動に働きかける）						
9	自律訓練法（重感・音感・涼感）						
10	条件反射による心のプラス化（視覚・聴覚・触覚）						
11	脳の活性エクササイズ（色覚・聴覚・反射神経を利用した誘導）						
12	ヘルスプロモーションとしてのヒーリング（立位・座位・臥位、環境人間学としての風水）						
13	コミュニケーションとラポール形成の技術						
14	自立を促すヒーリング ～自分の中の「もてる力」=宝物を知る～						
15	まとめの演習 ～看護者にとってのヒーリング教育と事例検討～						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内レポート		◎	◎			30	
授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
演習		◎	◎			30	
補足事項	ワークシートはA4用紙1枚に簡潔に記入していくことで完成できるもので、授業内レポートを兼ねるものとします。						
テキスト・参考文献等	毎回の演習に即した資料を配布します。参考文献：安田隆 著『波動干渉と波動共鳴』たま出版 1996年 本田克也、他著『看護のための「いのちの歴史」の物語』現代社 2007年 他、授業内で随時紹介します。						
履修条件	ヒーリング論を履修していること						
学習相談・助言体制	メールでの受付・回答、および直接質問かレスポンスカードでの質問にオフィスアワーで回答、いずれも可。						

授業科目名	東洋看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	城村和宏						
授業の概要	東洋医学の基礎から、鍼灸治療体験、M-Test の概念を応用したセルフケアの方法を演習を通して学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	東洋医学、M-Test の基本的な知識、概念を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	東洋医学的な視点を持つことができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	M-Test の概念を応用したセルフケア方法を身につけることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス、治療体験		講義、演習				
2~8	M-Test 概論、東洋医学基礎						
9	M-Test 概論、東洋医学基礎（グループ課題）						
10~15	セルフケア演習（東洋医学からみた身体の観察方法）						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎				30	
授業態度・授業への参加度		○	◎		○	70	
テキスト・参考文献等	参考文献：向野義人 図解 M-Test 医歯薬出版（2012/03）						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールで受付						

授業科目名	統合実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	必修	2	4年
担当教員	看護学部全教員						
授業の概要	自身が選択した臨地実習の場を活用して、既習した基礎的な看護知識・技術を統合、実務に即した実践能力や問題解決能力を養う。また看護を科学的に探究する態度を学び、看護へのいっそうの関心と意欲を高め、自己の看護観をはぐくむ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	ホリスティックな視点から人間理解を深めることができる。					
	DP2：専門・隣接領域の知識						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考ができる。					
	DP4：表現力	多職種と連携をはかり、看護の専門的視点で諸問題を解決し、対象者に対して適切な看護が選択できる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。					
	DP6：社会貢献力						
技能	DP10：専門分野のスキル	複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスを学び活用できる。 既に修得した基礎的看護能力を統合した看護実践ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1) 実習時期・期間      ・原則として7月から9月、10日間。</p> <p>2) 実習時間            ・原則として8時30分～16時30分。</p> <p>3) 実習方法            ・既習の学習から自己の課題を明らかにし、さらに深めるために必要と考える実習領域を、「領域別実習概要」から選択する。</p> <p>                              ・実習計画は主体的に立案し、教員及び実習指導者、または関連部署の他職種の方々との調整をはかりながら、対象者への看護提供を展開するとともに医療現場への理解を深める。</p> <p>                              ・実習終了後、「統合実習のまとめ（レポート）」を作成する。</p> <p>                              ・事前学習、記録などについては、担当教員の指示によるものとする。</p> <p>4) 実習場所            ・病院、介護保健施設、訪問看護ステーション等、</p> <p>5) その他、実習要項を参照。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
その他		○	◎	○	◎	100	
補足事項		統合実習評価表にて評価する。					
テキスト・参考文献等							
履修条件	統合実習は、既習の看護知識・技術を統合し、実践能力や問題解決能力を養うことをねらいとしています。そのため、原則として各領域別実習の単位が修得見込みであることを履修の条件としています。						
学習相談・助言体制	e-learning システムに、「統合実習」のファイルあり、参照。						

(専)看護  
門護  
科学学  
目科部

授業科目名	専門看護学ゼミ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	看護学部全教員						
授業の概要	これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探究する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養う。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	看護上の現象や諸問題について、論理的に筋道を立てて考えることができる。					
	DP4：表現力	他者の考えや意見を踏まえ、論点となる議論について自己の意見を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点を主体的に探究することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>&lt;履修方法&gt;  学生は2年次後期に教員の専門領域、研究領域、指導可能領域、指導方針を参考に希望の領域を選択する。  但し、必ずしも希望通りにはならない。</p> <p>&lt;演習方法&gt;  ・1～30回（2コマ続き）実施する。  ・教員の研究等の専門性と学生の課題を協議し、取り組む学習課題を設定する。  ・担当教員の指導のもと、学生が自らの発表や討論により主体的に学習に取り組む。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
その他		○	◎	○	○	100	
補足事項	成績評価の詳細については、各教員が別途提示する。						
テキスト・参考文献等	担当教員が指示する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	担当教員と学生が協議して、相談日時や連絡方法等を定める。						

授業科目名	卒業研究		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	4年
担当教員	看護学部全教員						
授業の概要	これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探求する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養う。疑問や興味、関心を持った看護上の現象や問題点について、自ら探求し、その結果から自らの考え方を導き出し、論文としてまとめる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP1：教養・健康に関する知識	研究成果をわかりやすくまとめ、適切な文章が記載できている。					
	DP2：専門・隣接領域の知識						
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	興味関心を持った看護上の現象や問題から研究課題を見出すことができている。 一貫性のある論文を作成している。					
	DP4：表現力						
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	見出した課題を主体的に探究することができている。 自らが立てた計画に基づいて研究活動ができている。 研究活動を通して、研究を行う上で必要な態度を身につけている。					
	DP6：社会貢献力						
技能	DP10：専門分野のスキル	研究を行ううえで、必要な倫理的配慮ができている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
<p>進め方：専門看護学ゼミと連動する。担当教員のもとで個別学習、ゼミ形式などによる指導を受ける。  倫理審査：他施設の患者などを研究対象にする場合、施設の倫理委員会の承認を得る（施設で決められた手順に則り審査を受ける）。  どうしても倫理審査が必要な場合は、学内の研究倫理委員会に担当教員が申請する。  論文執筆：原則、科学論文の形式とする。具体的な執筆要領はeラーニングを参照すること。卒業研究（論文）・抄録の提出は12月20日（期日厳守、ただし、当日が通常授業日以外の場合は、翌日以降の直近の通常授業日までとする）。  発表：各学系で時期と方法は決定する。3月の2週までには終了する。  その他：グループ研究は可能である。ただし、個人で研究論文をまとめ、提出する。</p>							
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
提出論文		◎	◎		○	55	
研究に取り組む姿勢			○	◎		45	
補足事項		評価項目はeラーニングを参照。期日に提出できない場合は、卒業延期となる。					
テキスト・参考文献等	各担当の教員が提示する。						
履修条件	看護研究・専門看護学ゼミを履修していること						
学習相談・助言体制	指導教員に連絡をとり、助言を受ける。						

授業科目名	教師論 (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 藤澤健一		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	本講義ではつぎの3点が柱とされる。①教師の職務について、身近な内容に即して考察する。②教師の卵としての自覚と素養、使命感を身につける。③授業技術の向上をめざし、人前で話す体験を重ねる。自己のなかの教師像を提示しあうことで、教師のあり方を実践的、反省的に学ぶ。くわえて、現在の教師が置かれている社会的な環境について、事例に即して学ぶ。本講義は、教職課程の導入的な講義の一環であり、受講者には主体的な参画がよよく求められる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教師にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。					
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	教師としての使命感を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義				
2~8	力のある教師の条件（授業づくり、生徒指導など、教師の職務内容にかかわる基礎的な知識を集団討議、模擬授業を通じて習得する）		講義と討議		報告の準備		
9~15	教師の現在（教師の養成、採用、研修、また、待遇や労働条件などにかかわる基礎的な知識を集団討議、模擬授業を通じて習得する）		講義と討議		報告の準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
宿題・授業外レポート		◎				70	
受講者の発表（プレゼン）				◎		30	
テキスト・参考文献等	上條晴夫『教師教育』さくら社、赤坂真二『学び続ける教師になるためのガイドブック』明治図書、荒井文昭『教育管理職人事と教育政治』大月書店、東京大学教育学部『カリキュラム・イノベーション』東京大学出版会、西川純『すぐにわかる！できる！『アクティブ・ラーニング』学陽書房、田村学『授業を磨く』東洋館出版社						
履修条件	「教育学概論B」を履修済みであること。教員免許取得への強い意志と計画性をもつこと。						
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	教師論 (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	石田 智恵美						
授業の概要	子どもを理解することを通して、望ましい教師-生徒関係、教師に求められる能力、教師としての成長について考える機会となります。						
<b>学生の到達目標</b>							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について考察することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を明らかにすることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		事前・事後学習（学習課題）				
1	コースオリエンテーション -私の教師像-		事後：現時点の教師観を確認する				
2	子どもと大人 ①		配布資料を読んでくる				
3	子どもと大人 ②		〃				
4	教員養成制度と教育職員免許法		※レポート1				
5	序章 そもそも教育は何のため？		事前学習と担当者のプレゼン				
6	第1章 学力とは何か						
7	第2章 学びの個別化						
8	第5章 学力評価と入学試験						
9	第7章 教師の資質						
10	学力低下論争の構図 学力低下論の源流						
11	学力低下論争の火ぶた						
12	論争をひもとく						
13	きみはいい子 を読んで ①		テキストを読んでくる				
14	きみはいい子 を読んで ②		テキストを読んでくる				
15	私の教師観 まとめ		※レポート2				
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			○	○		40	
その他 ※課題レポート			◎			40	
テキスト・参考文献等	テキスト：市川伸一著、学力低下論争、ちくま新書／苦野一徳著、教育の力、講談社現代新書／中脇初枝著、きみはいい子、ポプラ社 参考書：河合隼雄他著、子どもと大人、岩波書店／池上彰著、日本の教育がよくわかる本、PHP 文庫						
履修条件	養護教諭希望者対象						
学習相談・助言体制	メールでアポイントを取ってください。 emishida@fukuoka-pu.ac.jp						

専 教  
 門 職  
 教 関  
 育 連  
 科 関  
 目 する

授業科目名	道徳教育		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	看護2年 人社3年
担当教員	堺 正 之						
授業の概要	<p>中学校教諭・養護教諭免許の取得にかかわる教職科目である。「教育課程及び指導法に関する科目」として「道徳の指導法」と「特別活動の指導法」の事項を含む。本授業科目では、道徳教育を支える基礎理論を学び、学校における道徳教育の目標と内容、生徒の道徳性を育成するための指導計画、道徳の時間の指導方法について理解を深めるとともに、特別活動の今日的な意義、目標、内容と指導例について解説する。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	道徳教育に関する歴史的、社会的、心理学的アプローチを理解し、その基本的な考え方や概念について説明することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	学校における道徳および特別活動の目標・内容論、計画論、授業論、実践指導論を理解し、指導案の作成に生かすことができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	今日における道徳教育、特別活動の課題		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
2	道徳の本質と道徳教育		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
3	日本における道徳教育の歴史		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
4	子どもの発達と道徳教育Ⅰ－社会化論－		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
5	子どもの発達と道徳教育Ⅱ－道徳性発達理論－		テキスト、プリント、ビデオを使用する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
6	学校における道徳教育Ⅰ－道徳教育の目標－		テキスト、学習指導要領解説を使用する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
7	学校における道徳教育Ⅱ－道徳教育の内容－		テキスト、学習指導要領解説を使用する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
8	道徳の時間の指導と実際－道徳の時間の指導過程と指導方法－		テキスト、ビデオを使用し解説する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
9	指導案の作成Ⅰ－資料の提示、資料分析－		プリントを使用して解説する。		テキストの該当箇所を讀んでおく。		
10	特別活動の目標・内容		学習指導要領解説を使用して解説する。		学習指導要領解説の該当箇所を讀んでおく。		
11	特別活動の実践事例Ⅰ－学級活動－		プリントを使用して解説する。		配付プリントの該当箇所を讀んでおく。		
12	特別活動の実践事例Ⅱ－生徒会活動、学校行事－		プリントを使用して解説する。		配付プリントの該当箇所を讀んでおく。		
13	体験的活動の意義－総合的な学習の時間等との関連－		プリントを使用して解説する。		配付プリントの該当箇所を讀んでおく。		
14	指導案の作成Ⅱ－指導案の作成作業－		指導案中の用語、表現について解説する。		指導過程を構想し概略を記述してくる。		
15	指導案の作成Ⅲ－完成と提出－		個別指導を行う。		補助資料等があれば、あわせて提出する。		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
授業内レポート・指導案作成		○			◎	40	
宿題・授業外レポート		◎			○	40	
授業態度・授業への参加度		○			○	20	
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：堺正之『道徳教育の方法』、放送大学教育振興会、2015年          テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説－道徳編－』日本文教出版、2008年、139円          テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』ぎょうせい、2008年、114円</p>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	集中講義のため、質問等は講義期間中、授業の前後に受け付けます。						

授業科目名	教育課程論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	黒田耕司						
授業の概要	この授業では、教育課程の理論や歴史や編成方法や評価等についての知識と原理を習得し、教育課程を構成するスキルを身につけるために必要な内容を講義する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	教育課程に関する基本的な知識を獲得し、その原理を理解する。					
技能	DP10：専門分野のスキル	教育課程を適切に構成するスキルを身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	教育課程とは何か		講義		顕在的カリキュラム		
2	教育と学習の目的		講義		顕在的の目的		
3	教育課程の類型		講義		教科カリキュラム		
4	教育課程への指針（1）子ども中心の教育		講義		子ども中心の教育		
5	教育課程への指針（2）経験主義教育		講義		経験主義教育		
6	教育課程への指針（3）ペスタロッチ		講義		ペスタロッチ、J. H.		
7	教育課程への指針（4）ブルーナー		講義		『教育の過程』		
8	教育課程の編成原理		講義		教育課程の編成要素		
9	教育課程と教材・教具・教科書		講義		『世界図絵』		
10	教育課程の実際（1）道徳		講義		「陶冶」と「訓育」		
11	教育課程の実際（2）総合的な学習		講義		総合的な学習の時間		
12	特別活動の指導（1）特別活動の教育課程		講義		特別活動の目標・内容		
13	特別活動の指導（2）特別活動の指導技術		講義		特別活動の指導		
14	教育課程の評価		講義		P D C A サイクル		
15	まとめ		講義		概要のまとめ		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート			◎			◎	100
テキスト・参考文献等	参考文献：「(中学校) (高等学校) 学習指導要領」(文部科学省) 平成20・21年						
履修条件	大学の規定による。						
学習相談・助言体制	授業の前後に行う。						

授業科目名	社会科教育法 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	井門正美						
授業の概要	本授業では、今日の社会科教育の問題状況を踏まえ、社会科におけるアクティブラーニングの必要性を理解し、そのための理論としての役割体験学習論について学ぶ。その上で、本理論に基づき社会的実践力を培うことのできる社会科授業を構想する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	社会科教育の問題状況を捉え、役割体験学習を理解することができる。授業づくりに際し、必要な学問分野の知識を得ることができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	社会科授業を構想するうえで、指導案や授業づくりの基本的な技能を身につけることができる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション、社会科教育法 I の目的・進め方・準備など		講義		教科書等の準備		
2	社会科教育の問題状況（知識伝達型授業、一斉孤立型授業等の問題）		講義		自身の社会科体験		
3	求められるアクティブラーニング（社会的実践力を培う社会科）		講義・プレゼン		プレゼン資料を読む		
4	「役割体験学習（Role Action Learning）」の提案		講義・プレゼン		テキストを読む		
5	社会科授業実践にみる役割体験学習（先行実践の考察）		講義・		プレゼン資料を読む		
6	社会科授業実践1－役割体験の第1類型－		講義・動画視聴		テキストを読む		
7	社会科授業実践2－役割体験の第2類型－		講義・動画視聴		〃		
8	社会科授業実践3－役割体験の第3類型－		体験・ワークショップ		体験を語り合う		
9	社会科授業実践4－役割体験の第4類型－		体験・ワークショップ		〃		
10	社会科授業の評価法について（「日常的推論分析法」の紹介）		講義・プレゼン		指導案を考察する		
11	役割体験学習論に基づく社会科授業づくり・オリエンテーション		講義・演習		社会科教科書の準備		
12	社会科授業づくりの構想1（地理・歴史・公民から1つの分野選択）		講義・演習		分野を決める		
13	社会科授業づくりの構想2（単元の選定と全体計画）		講義・演習		単元を決める		
14	社会科授業づくりの構想3（本時の展開）		講義・演習		本時展開を考える		
15	まとめと社会科教育法 II に向けた予告		講義		次回の準備について		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
受講記録カード・ワークショップ		○	○	○	○	50	
課題レポート		○	◎	○	○	50	
補足事項		学生参加型の集中講義であるため、全日程出席を心がけてほしい。					
テキスト・参考文献等	井門正美著『実践キャリアアップ教育－役割体験学習論からの教育改革－』NSK 出版社。『平成 20 年版中学校学習指導要領解説社会科編』文部科学省。教育実習で使用を予定する中学校社会科の教科書（生徒用）						
履修条件	中等社会の教員免許取得を予定する学生						
学習相談・助言体制	授業中に質疑応答の時間を設けると共に、受講記録カードに記入欄を設け、意見や質問を記述できるようにして、対応する。						

授業科目名	社会科教育法Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	井門正美						
授業の概要	本授業では、社会科教育法Ⅰの学びに基づき、中学校社会科の地理・歴史・公民分野の中から1つの分野(単元)の指導案を作成し、模擬授業を実践する。この模擬授業について受講者相互で議論し合い、よりよい指導案を完成させる。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会科教育に関する指導案作成方法の基本を理解する。 社会科教育の教材論や授業方法論の基本について理解する。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会科の指導案作成とこれに基づく模擬授業を通して、社会科授業実践の基礎力を培う。					
<b>授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション、社会科教育法Ⅱの目的・進め方・準備など		講義		作成中の指導案を準備		
2	社会科指導案の作成と授業づくり1(本時の展開を具体的に書く)		演習		教材・方法・実施形態		
3	社会科指導案の作成と授業づくり2(本時の展開を具体的に書く)		演習		〃		
4	社会科指導案の作成と授業づくり3(本時の教材・教具等の準備)		演習		〃		
5	社会科指導案の作成と授業づくり4(本時の教材・教具等の準備)		演習		〃		
6	社会科指導案の作成と授業づくり5(本時の教材・教具等の準備)		演習		〃		
7	社会科指導案の作成と授業づくり6(模擬授業の総合的な準備)		演習		〃		
8	社会科指導案の作成と授業づくり7(模擬授業のリハーサル)		演習		教材・教具等の確認		
9	社会科模擬授業1(第1グループの模擬授業)		演習		教材・教具等の準備		
10	社会科模擬授業2(第2グループの模擬授業)		演習		〃		
11	社会科模擬授業3(第3グループの模擬授業)		演習		〃		
12	社会科模擬授業4(第4グループの模擬授業)		演習		〃		
13	社会科模擬授業5(第5グループの模擬授業)		演習		〃		
14	社会科授業省察会(体験の共有化と省察)		演習		メモ等		
15	講義のまとめ		講義		メモ等		
<b>成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講記録カード・模擬授業		○	◎	○	◎	50	
修正した社会科指導案		◎	◎	○	○	50	
補足事項	模擬授業のための指導案作成と授業づくりを実施するので、全日程出席を心がけてほしい。						
テキスト・参考文献等	文部科学省『平成20年版中学校学習指導要領解説社会編』、教育実習で使用を予定する中学校社会科の教科書(生徒用)。						
履修条件	中等社会の教員免許取得を予定する学生で、社会科教育法Ⅰを履修していること。						
学習相談・助言体制	授業中に質疑応答の時間を設けると共に、受講記録カードに記入欄を設け、意見や質問を記述できるようにして、対応する。						

教職に関する  
専門教育科目

授業科目名	公民教育法Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	下地 貴 樹						
授業の概要	<p>現在の公民科教育の位置づけについて理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。</p> <p>公民科科目の目的・意義・方法を歴史的な流れから理解し、社会との関連を含めて考えを深め、実際に学習指導要領に則り、教室での実践を前提に授業を作成し発表・評価する。</p> <p>学習指導要領を分析・検討し、生徒が学ぶべき内容の把握と、具体的な学習指導案づくりを行う。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人間・社会に関する専門的知識を理解している。 公民科目のみではなく、関連するさまざまな知識や現代時事に関する知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。 人間・社会の諸問題に関する資料を収集・考察し、結論を見いだすことができる。					
	DP4：表現力	専門的知識に基づいて自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 人間・社会に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	人間・社会の諸問題に対する検討手法を身につけている。 人間・社会の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	授業全体の流れとオリエンテーション						
2	公民科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント						
3	公民科授業の構成 年間計画と単元計画						
4	公民科科目の取り扱いと内容 現代社会						
5	公民科科目の取り扱いと内容 倫理						
6	公民科科目の取り扱いと内容 政治経済						
7	公民科の授業づくり 教材研究・開発						
8	公民科の授業づくり グループワークについて						
9	公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について						
10	公民科の授業づくり フィールドワークについて						
11	公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む						
12	単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点						
13	単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成						
14	政治および宗教に関する事項の取扱い						
15	社会科教師に求められる資質・能力						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				30	
小テスト・授業内レポート			○	◎		10	
宿題・授業外レポート			◎			10	
授業態度・授業への参加度				○		30	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎	○	◎	30	
補足事項	出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト</p> <p>・『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版</p> <p>参考文献</p> <p>・二谷貞夫・和井田清司 編『中等社会科の理論と実践』学文社 2007</p> <p>・他に授業で紹介する</p>						
履修条件	授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。						
学習相談・助言体制	連絡先 type_ibaraki@yahoo.co.jp						

授業科目名	公民教育法Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	下地 貴 樹						
授業の概要	<p>本授業では、前期の公民教育法 A の授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、より実践的な指導力の育成と、社会科教師としての使命感の育成をめざす。</p> <p>講義では、現代日本の課題を深め、国民の抱える生活価値や人間関係の問題等への認識を形成するための指導の資質を身につけ、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発の理解につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、社会科の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	人間・社会に関する専門的知識を理解している。 専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。 人間・社会の諸問題に関する資料を収集・考察し、結論を見いだすことができる。					
	DP4：表現力	専門的知識に基づいて自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	自ら問いを立て自己の判断を発表するに至るまで、主体的に活動することができる。 人間・社会とくに教育現場に関する諸問題を主体的かつ意欲的に探求することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	人間・社会の諸問題に対する検討手法を身につけ、他者とも協調して実践することができる。 人間・社会の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけている。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容					事前・事後学習（学習課題）	
1	授業全体の目的と流れについてのオリエンテーション						
2	これからの学校教育に求められるもの					自己分析	
3	教師に求められる資質能力					目標とする教師像	
4	学校の教育課程						
5	高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い					学習指導要領の確認	
6	評価の観点 評価方法						
7	授業研究について ケーススタディ						
8	学習指導案の作成と問題点 1 生徒観					学習指導案・教材作成	
9	学習指導案の作成と問題点 2 教材研究					学習指導案・教材作成	
10	模擬授業						
11	模擬授業						
12	模擬授業						
13	模擬授業						
14	模擬授業						
15	まとめ						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎	○		10	
宿題・授業外レポート		◎			○	10	
授業態度・授業への参加度			○	◎		30	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	○	◎	30	
演習				○		20	
テキスト・参考文献等	『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版 参考文献 ・二谷貞夫・和井田清司 編『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 ・他に授業で紹介する						
履 修 条 件	授業は班別のディベートを取り入れて論議するために集団の継続性が求められる。班員への連絡や資料の共有などを行い、欠席などの際にも、社会的対応のできる学生であること。						
学習相談・助言体制	連絡先 type_ibaraki@yahoo.co.jp						

教職に関する  
専門教育科目

授業科目名	生徒指導論（人間社会学部）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	4年
担当教員	黒田 耕 司						
授業の概要	この授業では、学校教育の全領域における生徒指導（教育相談、進路指導を含む）の知識と原理を習得し、その指導技術を身につけるために必要な内容を講義する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生徒指導に関する専門的知識を獲得し、その原理を理解する。					
技能	DP10：専門分野のスキル	生徒指導における「指導」のスキルを身につける。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	子どもの問題状況と理解		講義		学校教育の実態		
2	生徒指導の歴史と伝統		講義		生徒指導の歴史		
3	生徒指導の本質		講義		「指導」とは何か		
4	生徒指導の内容と方法		講義		「強制」と「放任」		
5	生徒指導と「特別活動」		講義		特別活動		
6	生徒指導と「道德教育」		講義		道德科		
7	生徒指導と「学級活動」		講義		学級活動		
8	生徒指導と「学校行事」「生徒会活動」		講義		学校行事・生徒会活動		
9	生徒指導と「教育相談」「進路指導」		講義		教育相談・進路指導		
10	「喫煙」の指導		講義		禁煙教育		
11	「遅刻」「私語」「居眠り」の指導		講義		遅刻指導		
12	「掃除」の指導		講義		世界の学校掃除		
13	「体罰」と「懲戒」		講義		学校教育法第11条		
14	いのちの教育		講義		「生」と「死」の教育		
15	まとめ		講義		概要のまとめ		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎			◎	100	
テキスト・参考文献等	参考文献：「生徒指導提要」（文部科学省）、平成22年						
履修条件	大学の規定による。						
学習相談・助言体制	授業の前後に行う。						

授業科目名	生徒指導論（看護学部）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	4年
担当教員	大津修郎						
授業の概要	生徒指導の意義や役割について理解するとともに、グループ討議等により、専門性を生かした生徒指導の対策解決が図れる内容とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	生徒指導と養護教諭の関わりについて理解し、知識を活用することができる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	生徒指導の中で指導方法や場面を学び、実践することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（目的、概要等） 生徒指導を学ぶ前に（自分、他人を知る）		講義		自分の性格、長所、短所		
2	養護教諭、保健室の役割		講義		小、中、高の保健室		
3	受講生の小、中、高の生活指導について振り返る		講義		小、中、高の生活指導		
4	生徒指導とは（意義と役割）		講義		生活指導		
5	生徒指導の歴史（学校、家庭、地域等の変化）		講義		生活指導の歴史		
6	問題行動 ① いじめと自殺、不登校、自傷行為等		講義		問題行動一体験		
7	問題行動 ② 校内・家庭内暴力、非行、薬物乱用		講義		問題行動一対応		
8	特別活動		講義		特別活動		
9	道徳教育		講義		道徳活動		
10	カウンセリングについて		講義		カウンセリング		
11	教育相談（悩み、トラブル、学習、進路等）		講義		教育相談		
12	生活習慣について（家庭、食、安全等）		講義		自分の食生活		
13	体罰と懲戒		講義		小、中、高の体罰、懲戒		
14	遅刻、私語、居眠りの指導		講義		遅刻、私語、居眠り指導		
15	まとめ		講義		概要のまとめ		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
定期試験		◎				50	
小テスト・授業内レポート		○					
宿題・授業外レポート		◎				30	
授業態度・授業への参加度					○	20	
テキスト・参考文献等	生徒指導提要（文部科学省）						
履修条件	大学の規定による						
学習相談・助言体制	授業の前後に実施						

授業科目名	教育相談		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			前期	講義	選択	2	4年		
担当教員	岩橋宗哉								
授業の概要	<p>この講義は、中学教諭、高校教諭、養護教諭を目指す学生を対象とした教育相談の講義である。</p> <p>1. 小学校から高校までのそれぞれに時期に、児童、生徒によくみられる臨床的な問題やそれへの対応について事例を通して学ぶことで、カウンセリングの基礎的なかわり方について理解する。</p> <p>2. 子どもたちの臨床的な問題に対してより効果的に取り組み、子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。</p> <p>授業内容や順序については、若干変更することもある。</p>								
<b>学生の到達目標</b>									
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	<p>1. 子どもや保護者に対して関わっていくときに必要なカウンセリング的な視点とはどのようなものであるかを説明することができる。</p> <p>2. 子どもを中心にして、保護者や他の教員等とどのようにして連携をしていくのかについて説明することができる。</p>							
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	発表を担当したテーマについて主体的に調べ、自らの意見を発表することができる。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス		講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。		発表者は、その他の受講者に事例の内容がよく伝わるように発表できるように準備してください。				
2	小学校における事例（1）発達障害など		発表者が事前に担当する事例をまとめて発表する。受講者は、自分自身が児童・生徒やその保護者になったつもりで、追体験しながらその事例を理解していく。それぞれの受講者が自分の意見を持ち、またそれを発表することで相互にいつそう理解を深めていきたい。また、適宜こちらからも事例について質問を出し理解を深めていく。						
3	小学校における事例（2）盗癖、心身症など								
4	中学校における事例（1）いじめなど								
5	中学校における事例（2）不登校など								
6	高校における事例（1）対人関係が不安定な生徒など								
7	高校における事例（2）摂食障害								
8	高校における事例（3）かわりを拒否する生徒								
9	不登校をめぐって（1）家庭訪問のしかた							具体的な事例を通して各自が事例の登場人物に追体験しながら理解を深める方法は今までと同じである。それに加えて、家庭訪問のしかたなど不登校や連携に必要な具体的な方法をまとめていく。	
10	不登校をめぐって（2）別室登校・適応指導教室の利用								
11	不登校をめぐって（3）ボランティア学生などの活用								
12	効果的な連携のために（1）教員と保護者、教員間の連携など								
13	効果的な連携のために（2）外部機関との連携								
14	いじめについて考える								
15	まとめ		講義						
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
小テスト・授業内レポート		○				40			
授業態度・授業への参加度		○	○			20			
受講者の発表（プレゼン）		○	○			40			
テキスト・参考文献等	授業の中で指示、また、資料は必要に応じて配布する。								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く用紙に記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。								

授業科目名	高校教育実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤健一		後期～前期	演習	選択	1	3～4年
授業の概要	高校教育実習を実施するための総合的な支援を目的とした講義。教育実習の意義と内容などについて実践的に学ぶ。可能な限り、模擬授業形式を取り入れる。くわえて、教育実習の振り返りを通じて、課題を共有化するための事後支援を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	学校教育実践にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	授業づくりに必要なコミュニケーション力を実践できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		日程の確認と調整		
2～4	教育実習体験者から学ぶ		聴講				
5～8	教育実習に向けた抱負と課題意識の共有化（授業づくり）		演習		報告の準備		
9～12	教育実習に向けた抱負と課題意識の共有化（生徒指導）		演習		報告の準備		
13～	使用教科書、学習指導要領をめぐる動向（これ以後、教育実習の実施、その事後支援をとって展開）		演習ほか		報告の準備ほか		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎			◎	70	
その他						30	
テキスト・参考文献等	『高等学校学習指導要領 総則』、細谷俊夫『教育方法（第4版）』岩波書店、日本教材学会『教材事典 教材研究の理論と実践』東京堂出版						
履修条件	教職課程を履修する意志をもつこと。「教育学概論B」など教職課程の主要な必修科目を履修済みであること（別途、委細）。						
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	高校教育実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	2	4年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	高等学校における教育の実際を教師として体験することにより、高等学校教育に関する理解を実践的に深める。教職課程において修得した知識と技能を総合的に実践する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	高等学校教育についての基礎的知識が理解できるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	教員として必要な総合的スキルを実践できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		配布資料の熟読		
2~5	教育実習校の研究		報告		報告の準備		
7~12	教育実習の実施		実習期間				
13~15	教育実習の振り返りと課題の共有化		報告と討議		報告の準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
	演習	◎				50	
その他					◎	50	
テキスト・参考文献等	『教育実習手帳』を配布する。藤村裕一『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス、2015年						
履修条件	教職課程における主要な必修科目の単位を修得していること。委細は別途、配布する内容を精査すること。						
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	中学校教育実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤健一		後期～前期	演習	選択	1	3～4年
授業の概要	中学校教育実習を実施するための総合的な支援を目的とした講義。教育実習の意義と内容などについて実践的に学ぶ。可能な限り、模擬授業形式を取り入れる。くわえて、教育実習の振り返りを通じて、課題を共有化するための事後支援を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	学校教育実践にかかわる基礎的知識を理解できるようになる。					
技能	DP7：コミュニケーション力	授業づくりに必要なコミュニケーション力を実践できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		日程の確認と調整		
2～4	教育実習体験者から学ぶ		聴講				
5～8	教育実習に向けた抱負と課題意識の共有化（授業づくり）		演習		報告の準備		
9～12	教育実習に向けた抱負と課題意識の共有化（生徒指導）		演習		報告の準備		
13～15	使用教科書、学習指導要領をめぐる動向（これ以後、教育実習の実施、その事後支援をとって展開）		演習ほか		報告の準備ほか		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎			◎	70	
その他						30	
補足事項							
テキスト・参考文献等	『中学校学習指導要領総則』、細谷俊夫『教育方法（第4版）』岩波書店、日本教材学会『教材事典 教材研究の理論と実践』東京堂出版						
履修条件	教職課程を履修する意志をもつこと。「教育学概論B」など教職課程の主要な必修科目を履修済みであること（別途、委細）。						
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	中学校教育実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	2	4年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	中学校における教育の実際を教師として体験することにより、中学校教育に関する理解を実践的に深める。教職課程において修得した知識と技能を総合的に実践する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	中学校教育についての基礎的知識を理解できるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	教員として必要な総合的スキルを実践できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		配布資料の熟読		
2~5	教育実習校の研究		報告		報告の準備		
6~12	教育実習の実施		実習期間				
13~15	教育実習の振り返りと課題の共有化		報告と討議		報告の準備		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
演習		◎				50	
その他					◎	50	
テキスト・参考文献等	『教育実習手帳』を配布する。藤村裕一『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス、2015年						
履修条件	教職課程における主要な必修科目の単位を修得していること。委細は別途、配布する内容を精査すること。						
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	教職実践演習（中高）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	4年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	本演習では、これまでの教職課程、ならびに教育実習の体験を踏まえつつ、教員として求められる資質を実践的に検討する。教職課程の総仕上げとして位置づけられる。具体的には、教育実習の反省、振り返りにくわえ、現在の学校教育、教職員にかかわる問題について、理論的、実践的に検討する。						
<b>学生の到達目標</b>							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	学校教育、教職員にかかわる知識と現状が理解できるようになる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	教員としての総合的なスキルを実践できるようになる。					
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		講義		シラバスの精読		
2~6	生徒指導場面での戸惑い、発見などを中心に教育実習での体験を実践的に振り返る		講義と討議、ロールプレイ		報告の準備		
7~15	学校教育のかかえる問題（いじめ、不登校、校内暴力など）をテーマとして、国や都道府県レベル、市町村教育委員会、学校レベル、さらに学級レベルでの取り組みを総合的、実践的に考察する。		講義と討議		報告の準備		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
受講者の発表（プレゼン）		◎			◎	70	
その他						30	
補足事項							
テキスト・参考文献等	山口昌男『いじめの記号論』岩波書店、尾木直樹『いじめ問題とどう向きあうか』岩波書店、長谷川啓三ほか編『事例で学ぶ 生徒指導・進路指導・教育相談』遠見書房、日本弁護士連合会子ども権利委員会『子どものいじめ問題ハンドブック』明石書店						
履修条件	教育実習をはじめ、教職課程の主要な科目を履修済みであること。						
学習相談・助言体制	いつでも受け付ける。						

授業科目名	日本語会話A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業の目的は、学習者が持つ「時間をかけて考えれば話したり、書いたりできるのに、なかなかうまく使いこなせない」「自然な会話ができない」という悩みを解消するために、日本語運用能力、特に「話す力」を習得することです。一般的な話題に関する会話練習も行い、コミュニケーションストラテジーを養います。また、様々な映像教材や日本文化体験を通して日本文化への理解を深めます。						
<b>学生の到達目標</b>							
1. 大学生活や日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションが適切にとれるようになる。 2. 一般的なトピックに関して自分の意見を日本語で伝えることができるようになる。 3. 日本文化への理解を深める。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		プレースメントテスト				
2~30	第1部 ともかく話す 第1課 おしゃべりの引き出し 第2課 個性的な自己紹介 第3課 私の自慢 第4課 雑談力をみがく 第5課 チームで協力！  第2部 聞き手を意識 第1課 ウソを見破れ！ 第2課 話し方とキャラクター 第3課 偶然について話す 第4課 コメント力をきたえる 第5課 上手な意見の伝え方  トピック会話 会話テスト		語彙説明 会話練習 ディクテーション 文法練習 ロールプレイ 発表		会話練習 発表の準備		
31~45	聴解練習  日本文化 (1) 伝統行事 (2) 日本料理		聞き取り 意見交換・発表 日本文化体験		発表の準備		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
テスト・宿題							60
授業の態度・出席							40
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。					
テキスト・参考文献等	テキスト：石黒圭『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク 2011 参考文献：東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中級』スリーエーネットワーク 2013 東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』スリーエーネットワーク 2014						
履修条件	留学生						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						

授業科目名	日本語会話B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業の目的は、単語や文法等の知識を有機的に結び付け、聞かれたことに対する応答や伝えたいことを、正確に、流暢に、内容豊かに話すといった「話す力」を伸ばすことです。また、様々なトピックに関する会話練習や発表も行い、状況に応じた日本語運用能力を学習します。映像教材や日本文化体験を通して日本文化への理解も深めます。						
<b>学生の到達目標</b>							
1. 大学生活や日常生活で日本語での様々なコミュニケーションが流暢にとれるようになる。 2. 学習した言葉や表現が適切に会話や作文で使えるようになる。 3. 日本文化への理解を深める。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション		プレースメントテスト				
2~30	第3部 内容を整理 第1課 説明のコツ 第2課 これは誰の意見？ 第3課 フィラーにトライ！ 第4課 依頼のテクニック 第5課 説得の技術  第4部 聞き手に配慮 第1課 私ならあなたなら 第2課 あなたも私も幸せに 第3課 いらっしゃいませ 第4課 とっさの一言 第5課 ユーモアを交えて  トピック会話 会話テスト プレゼンテーション		語彙説明 会話練習 ディクテーション 文法練習 ロールプレイ 発表		会話練習 発表の準備		
31~45	聴解練習  日本文化 (1) 伝統行事 (2) 日本料理		聞き取り 意見交換・発表 日本文化体験		発表の準備		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
テスト・宿題							60
授業の態度・出席							40
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。					
テキスト・参考文献等	テキスト：石黒圭『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク 2011 参考文献：東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中級』スリーエーネットワーク 2013 東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』スリーエーネットワーク 2014						
成績評価方法・基準履修条件	留学生						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						

授業科目名	日本語中級A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業では中級レベルの基礎を固めるための文型や表現を習得します。また、400字～600字程度の文章を読むことで「読む力」をつけます。各課のトピックについてディスカッションし、意見を短い作文にする練習を通して「アウトプット能力」を養います。						
<b>学生の到達目標</b>							
1. 基本的な中級文法や表現を習得して、会話やレポートで使えるようになる。 2. 日本語能力試験N2合格を目指す。 3. 日常生活に必要な中級漢字を習得する。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～30	中級文法 1 おぼえずにはいられない 2 やればやるほどおぼえられる 3 おぼえないわけにはいかない 4 おぼえざるをえない 5 おぼえてみようではないか 文法テスト  中級読解 1課～4課		文型説明 練習問題		予習 復習		
31～45	中級漢字 1課～15課 漢字テスト		漢字説明 漢字練習 語彙説明 語彙練習		予習 復習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
テスト・宿題							60
授業の態度・出席							40
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。					
テキスト・参考文献等	テキスト：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 文法』アスク出版 2010 佐藤尚子、佐々木仁子『留学生のための漢字の教科書中級700』図書刊行会 2008 参考文献：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 読解』アスク出版 2010 水谷信子『わかる!話せる!日本語会話 基本文型 88』Jリサーチ出版 2014 山口久代、竹沢美樹『コロケーションが身につく日本語表現練習帳』研究社 2012						
成績評価方法・基準履修条件	留学生（日本語上級Aを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						

授業科目名	日本語中級B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊藤晴美		後期	演習	選択	3	留学生
授業の概要	この授業では中級レベルのやや難しい文型や表現を習得します。また、1000字～1200字程度の文章を読むことで「読む力」をさらに伸ばします。トピックに関する要約文や意見文の練習や発表も併せて行い、「アウトプット能力」を養います。						
学生の到達目標							
1. やや難しい中級分法や表現を習得して、体系的に使えるようになる。 2. 日本語能力試験N2合格を目指す。 3. 様々な分野の知識背景を増やしつつ、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～30	文法 6 やるからにはおぼえよう 7 がんばればおぼえられるというものだ 8 むずかしい。それでもおぼえよう 実践問題 文法テスト  中級読解 5課～8課		文型説明 練習問題 復習		予習 復習		
31～45	中級漢字 16課～30課 漢字テスト		漢字説明 漢字練習 語彙説明 語彙練習		予習 復習		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
テスト・宿題						60	
授業の態度・出席						40	
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。					
テキスト・参考文献等	テキスト：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 文法』アスク出版 2010 佐藤尚子、佐々木仁子『留学生のための漢字の教科書中級700』図書刊行会 2008 参考文献：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 読解』アスク出版 2010 水谷信子『わかる！話せる！日本語会話 基本文型 88』Jリサーチ出版 2014 山口久代、竹沢美樹『コロケーションが身につく日本語表現練習帳』研究社 2012						
成績評価方法・基準履修条件	留学生（日本語上級Bを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						

授業科目名	日本語上級A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業では上級レベルの日本語を適切に産出するための日本語文法、中日翻訳のスキル、実践的な日本語指導法を学習します。						
<b>学生の到達目標</b>							
上級分法：場面や人間関係を判断し、話し手の気持ちや判断を表すモダリティ・終助詞が使い分けられるようになる。 中日翻訳：翻訳スキルを習得する。 日本語の教え方：教授法やレベル別指導法などを解説し、理論だけでなく実践力を養う。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1～15	上級文法 1 「モダリティ」 (断定を避ける／否定／様子を述べる／意思／義務・必要／可能・不可能) 2 「終助詞」 (一般的な終助詞の意味と機能／周辺の終助詞の意味と機能) 文法テスト		文型説明 練習問題 復習		予習 復習		
16～30	中日翻訳 1 補って訳す 2 日本語表現 3 訳す順序 翻訳実践練習 (新聞・雑誌・文芸作品 他)		翻訳のポイント解説 練習問題 実践練習		予習 復習		
31～45	日本語の教え方 1 日本語教授法 2 外国語教授法 3 初級の教え方 (1) 発音／会話 4 初級の教え方 (2) 文字／読解 5 評価と試験		説明 発表		予習 復習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
テスト・宿題						60	
授業の態度・出席						40	
補足事項	授業の3分の2以上は出席すること。						
テキスト・参考文献等	テキスト：三枝令子、中西久実子『日本語文法演習 話し手の気持を表す表現 -モダリティ・終助詞-』スリーエーネットワーク 2003 高田裕子、毛燕『日中・中日翻訳トレーニングブック』大修館書店 2009 参考文献：高見澤孟『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』アスク出版 2004						
成績評価方法・基準履修条件	留学生（日本語中級Aを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						

授業科目名	日本語上級B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業では上級レベルの日本語を適切に産出するための日本語文法、中日翻訳のスキル、日本語教師を目指すにあたっての基礎知識である日本語概説を学習します。						
<b>学生の到達目標</b>							
上級分法：テンス・アスペクトについてルールを発見しながら、日本語の微妙な使い分けができるようになる。 中日翻訳：翻訳スキルを習得する。 日本語の教え方：日本語を教えるのに必須かつ専門的な内容である音声、文法、表記、語彙、社会言語学などを学ぶ。							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1~15	上級文法 1 「～する、～した、～してしまう」 （主節の「～する、～した」／従属節の「～する、～した」／名詞修飾節の中の「～する、～した」ほか） 2 「～している、～し続ける、～してある、～しつつある、～したいことがある」 （～している／「～している」とその他の形の使い分けほか） 3 「時間を表すその他の表現」 （「に」がつく場合、「に」がつかない場合／「～ところだ」「～ばかりだ」／開始、終了を表す表現ほか） 文法テスト		文型説明 練習問題 復習		予習 復習		
16~30	中日翻訳 1 同形語に注意する 2 難訳中国語 3 省略する例 4 文章記号と表記ルール 5 適訳を採用する		翻訳のポイント解説 練習問題		予習 復習		
31~45	日本語の教え方 1 世界の中の日本語 2 日本語の系統的分類 3 日本語の特徴 (1) 類型論的特徴 (2) 統語論的特徴 (3) 音声学的特徴 (4) 語彙と意味構造における特徴 (5) 文字表記の特徴 (6) 言語生活		説明 発表		予習 復習		
<b>成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）</b>							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）
テスト・宿題							60
授業の態度・出席							40
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。					
テキスト・参考文献等	テキスト：庵功雄、清水佳子『日本語文法演習 時間を表す表現 -テンス・アスペクト-』スリーエーネットワーク 2003 高田裕子、毛燕『日中・中日翻訳トレーニングブック』大修館書店 2009 参考文献：高見澤孟『新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知岸』アスク出版 2004						
成績評価方法・基準履修条件	留学生（日本語中級Bを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						

授業科目名	日本事情 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	田中哲也（代表）他	後期	講義	選択	2	留学生
授業の概要	<p>本科目の目的は、日本のさまざまな領域に関する一般的知識を、それぞれの領域を専門とする本学専任教員が教授することにより、本学で学ぶ留学生の日本の社会や文化に関する理解を深めることです。それを通して留学生の日本人との相互理解を促進し、本学での学習や本学学生や地域住民との交流をより実り豊かなものとするを旨としています。後期開講の日本事情 B と合わせて受講することにより、通年で日本の全体像が理解できるように設計されています。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
<p>日本の各領域についての一般的知識を獲得し、かつ、各領域の知識を総合することで、日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができるようになることを目標とします。しかし、同じ留学生であっても日本語能力や日本理解の程度に違いがあるので、到達目標は代表者が個々の学生ごとに設定します。</p>							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	比較文化	<p>各回、担当教員が各領域の一般的知識を与えるために必要な資料を受講生に提供し、講義を行います。また、受講生の日本語能力や日本理解の違いにも配慮します。</p>	<p>基本的に講義は予習・復習を必要とせず、講義の時間内で終了することを原則とします。しかし、講義の時間内に最低限必要な日本事情について教授することができない場合には、必要に応じ資料を配布したり、時間割外の講義を行なうこともあります。</p>	田中哲也			
2	田川・福岡・九州			田代英美			
3	日本国憲法			森脇敦史			
4	司法制度			平部康子			
5	政治制度			岡本雅享			
6	地方自治			田代英美			
7	天皇制			藤澤健一			
8	マクロ経済			許 棟翰			
9	経済生活			許 棟翰			
10	ジャーナリズム			三隅譲二			
11	医療制度			四戸智昭			
12	教育制度			秦 和彦			
13	福祉制度			河野高志			
14	科学研究 I			芋川 浩			
15	科学研究 II			芋川 浩			
テキスト・参考文献等	各担当者が必要に応じて配布します。						
履修条件	外国人留学生						
成績評価方法・基準	各担当者の提出した評価に基づき、代表者が行ないます。						
学習相談・助言体制	各担当者は自分の専門領域について授業外でも、オフィスアワーなどで対応します。また、それ以外の問題等については代表者が適切なアドバイザーに助言などを依頼します。						

授業科目名	日本事情 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	留学生
担当教員	田中哲也（代表）他						
授業の概要	<p>本科目の目的は、日本のさまざまな領域に関する一般的知識を、それぞれの領域を専門とする本学専任教員が教授することにより、本学で学ぶ留学生の日本の社会や文化に関する理解を深めることです。それを通して留学生の日本人との相互理解を促進し、本学での学習や本学学生や地域住民との交流をより実り豊かなものとするを旨としています。後期開講の日本事情 A と合わせて受講することにより、通年で日本の全体像が理解できるように設計されています。</p>						
<b>学生の到達目標</b>							
<p>日本の各領域についての一般的知識を獲得し、かつ、各領域の知識を総合することで、日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができるようになることを目標とします。しかし、同じ留学生であっても日本語能力や日本理解の程度に違いがあるので、到達目標は代表者が個々の学生ごとに設定します。</p>							
<b>授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）</b>							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当			
1	近現代史	<p>各回、担当教員が各領域の一般的知識を与えるために必要な資料を受講生に提供し、講義を行ないます。また、受講生の日本語能力や日本理解の違いにも配慮します。</p>	<p>基本的に講義は予習・復習を必要とせず、講義の時間内で終了することを原則とします。しかし、講義の時間内に最低限必要な日本事情について教授することができない場合には、必要に応じ資料を配布したり、時間割外の講義を行なうこともあります。</p>	藤澤健一			
2	天皇制			藤澤健一			
3	都市／地方			文屋俊子			
4	家族			田代英美			
5	社会病理			堤圭史郎			
6	女性問題			中藤洋子			
7	世代論			中村晋介			
8	現代社会と嗜癖			四戸智昭			
9	宗教			田中哲也			
10	現代日本人の人間関係			上野行良			
11	情報社会			石崎龍二			
12	少子高齢化			細井 勇			
13	企業と地域			佐野麻由子			
14	医療問題			小出昭太郎			
15	現代の重要課題			田中哲也			
テキスト・参考文献等	各担当が必要に応じて配布します。						
履修条件	外国人留学生						
成績評価方法・基準	各担当者の提出した評価に基づき、代表者が行ないます。						
学習相談・助言体制	各担当者は自分の専門領域について授業外でも、オフィスアワーなどで対応します。また、それ以外の問題等については代表者が適切なアドバイザーに助言などを依頼します。						

授業科目名	日本語表現論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	西岡健治		後期	演習	選択	1	留学生
授業の概要	論文指導。						
学生の到達目標							
論文の形をつける。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容			事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス						
2~14	各自が研究対象とする作家の作品を読んで討議する。			発表者は、レポートを事前に提出する。 参加者は全員テキストを読んで来ること			
15	まとめと今後の課題			修正レポート提出			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
小テスト・授業内レポート							
授業態度・授業への参加度							
補足事項		出席、レポート、授業態度（積極性）などを総合的に判断。					
テキスト・参考文献等	<p>テキストは、各自が研究対象とする作品。</p> <p>参考文献：『近代文学 現代文学 論文・レポート作成必携』学燈社、1998年。          児玉実英、他編『二〇世紀女性文学を学ぶ人のために』世界思想社、2007年。</p>						
履 修 条 件	留学生で日本語での論文作成を目指すもの、または日本語能力試験1級相当の能力があるもの。						
学習相談・助言体制	講義の終了後、または随時メールで受け付けています。						

授業科目名	日本語表現論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	西岡健治		前期	演習	選択	1	留学生
授業の概要	文学テキスト研究方法について学習する。そのため、「文学テキストとは?」「研究とは?」「研究方法にはどんなものがあるか?」について学習する。また、二人ずつ発表することで議論を活発にし各自の理解を深める。						
学生の到達目標							
文学研究とは何かを理解し、多様な研究方法について学ぶ。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容			事前・事後学習（学習課題）			
1	ガイダンス						
2~14	文学テキスト研究方法について 所定テキストを読み込みながら学ぶ			学習するテキストの該当部分を二人ずつ報告 (参加者は全員テキストを2回以上読んで来ること)			
15	前期のまとめと今後の課題			レポート提出			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート							
授業態度・授業への参加度							
補足事項	出席、レポート、授業態度（積極性）などを総合的に判断。						
テキスト・参考文献等	テキストは石原千秋『読者はどこにいるのか』河出ブックス、2009年。 参考文献：『知の教科書 批評理論』講談社、2003年。						
履修条件	留学生で日本語での論文作成を目指すもの、または日本語能力試験1級相当の能力があるもの。						
学習相談・助言体制	納得のいかない部分があれば、授業終了後質問してください。または、メールで連絡して下さい。						

# 授 業 科 目 一 覧

授業科目	担当教官名	ページ数
<b>あ</b>		
アート論	鮎川真由美	8
<b>い</b>		
医学概論	柴田洋三郎	247
医学概論	柴田洋三郎	389
イスラム社会論	田中 哲也	150
遺伝学	芋川 浩	418
IntroductiontostudyinginEnglish	StuartGale	78
<b>え</b>		
英語 I - (1) (人間社会学部)	StuartGale	38
英語 I - (1)	NigelStott	39
英語 I - (2) (人間社会学部)	StuartGale	40
英語 I - (2)	NigelStott	41
英語 II - (1) (人間社会学部)	納富 末世	42
英語 II - (2) (人間社会学部)	納富 末世	43
英語 III - (1) (人間社会学部)	StuartGale	44
英語 III - (2) (人間社会学部)	StuartGale	45
英語 IV - (1) (人間社会学部)	泉澤みゆき	52
英語 IV - (2) (人間社会学部)	泉澤みゆき	53
栄養学	青木 哲美	419
疫学	松浦 賢長他	421
NPO 論	佐野麻由子	157
NPO 論	佐野麻由子	258
演習	池 志保	399
演習	池田 孝博	393
演習	伊勢 慎	400
演習	岩橋 宗哉	395
演習	上野 行良	391
演習	大久保淳子	404
演習	小嶋 秀幹	392
演習	小山憲一郎	401
演習	櫻井 国芳	397
演習	杉野 寿子	403
演習	中藤 洋子	394
演習	福田 恭介	390
演習	二見 妙子	402
演習	麦島 剛	396
演習	吉岡 和子	398
<b>お</b>		
オーラルコミュニケーションⅠ (看護学部)	DuncanWotley	49
オーラルコミュニケーションⅡ (看護学部)	DuncanWotley	50
オーラルコミュニケーションⅢ	小池 祐子	51
音楽Ⅰ	馬渡 英子他	351
音楽Ⅰ	馬渡 英子他	352

音楽Ⅱ	馬渡 英子他	353
音楽Ⅱ	馬渡 英子他	354

## か

海外語学実習	StuartGale	76
海外語学実習	StuartGale	77
海外語学実習事前指導	StuartGale	75
介護技術演習	木村 和宣	201
介護福祉論	未 定	230
外書購読	平部 康子	251
外書講読 A	田中 哲也	159
外書講読 B	田中 哲也	160
カウンセリング	岩橋 宗哉他	323
化学	芋川 浩	23
科学史	菊地原洋平	21
学習心理学	古橋 啓介	313
家族看護学	尾形由起子他	498
家族社会学Ⅰ	倉富 史枝	103
家族社会学Ⅱ	倉富 史枝	104
家族心理学	吉岡 和子	319
家族福祉論	奥村 賢一	233
学校ソーシャルワーク演習	蒲池 恵	212
学校ソーシャルワーク実習	奥村 賢一	245
学校ソーシャルワーク実習指導	奥村 賢一	246
学校ソーシャルワーク論	奥村 賢一	211
学校保健学	松浦 賢長他	501
家庭支援論	杉野 寿子	361
加齢基礎論	麦島 剛	292
環境科学 A	久永 明	27
環境科学 B	久永 明	28
環境社会学	田代 英美	134
看護過程	永嶋由理子他	445
看護管理論	未 定	449
看護教育学	石田智恵美他	450
韓国の社会と文化	金 恩愛 (キム・ウネ)	148
看護研究	永嶋由理子他	446
看護実践論	石田智恵美他	451
看護情報学	増満 誠	453
看護生化学	芋川 浩	434
看護薬理学	豊平由美子	437
感染・免疫看護学演習	杉野 浩幸	438

## き

基礎看護学概論	永嶋由理子他	440
基礎看護学実習Ⅰ	永嶋由理子他	447
基礎看護学実習Ⅱ	永嶋由理子他	448
基礎看護技術論	永嶋由理子他	441
キャリア教育論	植上 一希	385
教育課程論	黒田 耕司	515
教育学概論 A	伊勢 慎	279
教育学概論 B	藤澤 健一	280

教育史	藤澤 健一	293
教育思想論	藤澤 健一	281
教育社会学	白坂 正太	167
教育社会学	白坂 正太	283
教育心理学概論	福田 恭介	287
教育制度論	秦 和彦	295
教育相談	岩橋 宗哉	348
教育相談	岩橋 宗哉	522
教育相談（幼児教育）	吉岡 和子	349
教育内容論	石井 郁男	296
教育評価	原口 雅浩	298
教育方法論	松浦 賢長他	297
教職実践演習（中高）	藤澤 健一	527
教職実践演習（養護教諭）	松浦 賢長他	502
教師論（看護学部）	石田智恵美	452
教師論（看護学部）	石田智恵美	513
教師論（人間社会学部）	藤澤 健一	512
教養演習	人間社会学部教員他	87

## け

ケアリング・サイエンス	石田智恵美他	37
ケアリング論	永嶋由理子	442
経済学A	許 棟翰（ホドンハン）	17
経済学B	許 棟翰（ホドンハン）	18
健康科学実習Ⅰ	池田 孝博他	85
健康科学実習Ⅱ	池田 孝博他	86
健康教育論	松浦 賢長他	504
健康スポーツ論	中原 雄一	84
現代社会と嗜癖	四戸 智昭	35
現代社会論A（ジェンダー・世代）	中村 晋介	101
現代社会論A（ジェンダー・世代）	中村 晋介	255
現代社会論C（情報社会と法）	森脇 敦史	102
現代社会論C（情報社会と法）	森脇 敦史	386
憲法	森脇 敦史	14
権利擁護と成年後見制度	平部 康子	236

## こ

公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	石崎 龍二	175
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	岡本 雅享	172
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	佐野麻由子	173
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	田代 英美	168
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	堤 圭史郎	170
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	藤澤 健一	171
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	許 棟翰（ホドンハン）	174
公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ	美谷 薫	169
公共人類学A（医療）	藤山正二郎	107
公共人類学A（医療）	藤山正二郎	333
公共人類学B（教育）	翁 文静	109
公共人類学B（教育）	翁 文静	294
公共性研究C - Ⅰ（社会保障論Ⅰ）	許 棟翰（ホドンハン）	96
公共性研究C - Ⅱ（社会保障論Ⅱ）	許 棟翰（ホドンハン）	97

公共性の社会学	田代 英美	94
高校教育実習	藤澤 健一	524
高校教育実習事前事後指導	藤澤 健一	523
公衆衛生学	松浦 賢長他	430
公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ	尾形由起子他	493
公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ	尾形由起子他	494
公衆衛生看護学Ⅰ	尾形由起子他	487
公衆衛生看護学Ⅱ	尾形由起子他	488
公衆衛生看護学Ⅲ	尾形由起子他	489
公衆衛生看護学実習Ⅰ	尾形由起子他	496
公衆衛生看護学実習Ⅱ	尾形由起子他	497
公衆衛生看護管理論	尾形由起子他	495
公衆衛生看護技術論Ⅰ	尾形由起子他	490
公衆衛生看護技術論Ⅱ	尾形由起子他	491
公衆保健	樋口 善之	249
更生保護	今村 浩司	237
公的扶助論	平部 康子	223
公民教育法Ⅰ	下地 貴樹	518
公民教育法Ⅱ	下地 貴樹	519
国際看護論	石田智恵美他	499
国際関係論	郝 暁卿	19
国際共生研究Ⅰ・Ⅱ	岡本 雅享	154
国際共生研究Ⅰ・Ⅱ	佐野麻由子	155
国際共生研究Ⅰ・Ⅱ	許 棟翰 (ホドンハン)	156
国際協力論	佐野麻由子	158
国際教育文化交流論	高 仁淑	153
国際教育文化交流論	高 仁淑	379
国際政治学	岡本 雅享	144
心の科学の現在	上野 行良	6
子どもと遊び	大久保淳子	360
子どもの食と栄養	川原富紀枝	326
子どもの食と栄養	川原富紀枝	327
子どもの保健Ⅰ-1	梶原 康巨他	328
子どもの保健Ⅰ-2	梶原 康巨	329
子どもの保健Ⅱ	田中美樹他	330
子供学習支援論	松浦賢長他	90
コミュニティ論	文屋 俊子	128
コミュニティ論	文屋 俊子	187
コリア語Ⅰ-(1)	金 恩愛 (キム・ウネ)	55
コリア語Ⅰ-(2)	金 恩愛 (キム・ウネ)	56
コリア語Ⅱ-(1)	金 恩愛 (キム・ウネ)	57
コリア語Ⅱ-(2)	金 恩愛 (キム・ウネ)	58
コリア語Ⅲ-(1)	金 恩愛 (キム・ウネ)	59
コリア語Ⅲ-(2)	金 恩愛 (キム・ウネ)	60

さ

在宅看護学	尾形由紀子他	483
在宅看護学演習Ⅰ	尾形由紀子他	484
在宅看護学演習Ⅱ	尾形由紀子他	485
在宅看護学概論	尾形由紀子他	482

在宅看護学実習	尾形由紀子他	486
---------	--------	-----

し

C S R (企業の社会的責任) 論	小谷 典子	112
思春期保健	板東 充彦	331
施設養護論	杉野 寿子	366
実験測定法 I	福田 恭介他	324
実験測定法 II	福田 恭介他	325
質的調査法	中村 晋介	121
児童家庭福祉	杉野 寿子	378
児童福祉論	細井 勇	225
児童文学	大久保淳子	359
社会科教育法 I	井門 正美	516
社会科教育法 II	井門 正美	517
社会学 A	堤 圭史郎	11
社会学 B	堤 圭史郎	12
社会学概論	田代 英美	93
社会学の分析法 A (ミクロ理論)	三隅 譲二	98
社会学の分析法 B (集団・組織論)	三隅 譲二	99
社会学の分析法 C (マクロ理論)	中村 晋介	100
社会教育演習	中藤 洋子	309
社会教育計画論 I	中藤 洋子	306
社会教育計画論 II	中藤 洋子	307
社会教育特講 A	農中 茂徳	380
社会教育特講 B	中藤 洋子	381
社会教育特講 C	植上 一希	382
社会教育特講 D	田中 喜久	383
社会教育特講 E	田中友佳子	384
社会教育論	中藤 洋子	305
社会思想史	朝倉 拓郎	20
社会心理学	上野 行良	113
社会政策論	美谷 薫	95
社会調査の設計	堤 圭史郎	116
社会調査実習	田代 英美他	119
社会調査法	中村 晋介	115
社会調査法	中村 晋介	388
社会的養護	杉野 寿子	362
社会的養護内容 I	川原富紀枝	363
社会的養護内容 II	川原富紀枝	364
社会統計学 I	杉野 元亮	118
社会統計学 I	杉野 元亮	387
社会統計学 II	杉野 元亮	120
社会病理学	堤 圭史郎	106
社会病理学	堤 圭史郎	186
社会福祉 I	杉野 寿子	365
社会福祉学演習	本郷 秀和	188
社会福祉学演習	細井 勇	189
社会福祉学演習	住友 雄資	190
社会福祉学演習	村山浩一郎	191
社会福祉学演習	平部 康子	192

社会福祉学演習	奥村 賢一	193
社会福祉学演習	平林 恵美	194
社会福祉学演習	河野 高志	195
社会福祉学演習	寺島 正博	196
社会福祉学演習	松岡 佐智	197
社会福祉学概論 I	細井 勇	177
社会福祉学概論 II	河野 高志	178
社会福祉計画論	村山浩一郎	143
社会福祉史入門	細井 勇	181
社会福祉調査法	堤 文生	200
社会福祉特講 B	板東 充彦	238
社会福祉特講 C	畑 香理	239
社会福祉発達史	細井 勇	182
社会福祉法制論 A	平部 康子	183
社会福祉法制論 B	平部 康子	184
社会変動と社会問題	堤 圭史郎	108
社会保障論 I	坂本 毅啓	179
社会保障論 II	坂本 毅啓	180
宗教学	田中 哲也	4
集団力学	宮島 健	318
就労支援	黒田小夜子	235
生涯教育論	中藤 洋子	282
障害児保育	二見 妙子	346
障害者(児)心理学	小山憲一郎	322
障害者福祉論	寺島 正博	224
小児看護学	田中 美樹他	473
小児看護学演習 I	田中 美樹他	474
小児看護学演習 II	田中 美樹他	475
小児看護学概論	田中 美樹他	472
小児看護学実習	田中 美樹他	476
情報科学	石崎 龍二	26
情報処理の基礎と演習	柴田 雅博	79
情報処理演習 I	原田 直樹他	81
情報処理演習 II	原田 直樹	82
情報処理応用演習	柴田 雅博他	80
情報数学	石崎 龍二	124
女性学	中藤 洋子	32
女性看護学	佐藤 香代他	478
女性看護学演習 I	佐藤 香代他	479
女性看護学演習 II	佐藤 香代他	480
女性看護学概論	佐藤 香代他	477
女性看護学実習	佐藤 香代他	481
シンプトンマネジメント論	永嶋由理子他	443
心身科学 A	麦島 剛	290
心身科学 B	小山憲一郎	291
心理学	上野 行良	5
人格心理学	吉岡 和子	114
人格心理学	吉岡 和子	314
人権論	松下 一世	30

人類生態学	夏原 和美	420
す		
数学概論	石崎 龍二	29
せ		
性教育学	松浦 賢長他	36
政治学Ⅰ	岡本 雅享	15
政治学Ⅱ	岡本 雅享	16
精神医学Ⅰ	小嶋 秀幹	266
精神医学Ⅱ	小嶋 秀幹	267
精神科リハビリテーション学Ⅰ	住友 雄資	268
精神科リハビリテーション学Ⅱ	住友 雄資	269
精神看護学	安永 薫梨他	455
精神看護学演習Ⅰ	安永 薫梨他	456
精神看護学演習Ⅱ	安永 薫梨他	457
成人看護学演習Ⅰ	村田 節子他	462
成人看護学演習Ⅱ	村田 節子他	463
精神看護学概論	安永 薫梨他	454
成人看護学概論	村田 節子他	459
精神看護学実習	安永 薫梨他	458
成人急性看護学	村田 節子他	460
成人急性看護学実習	村田 節子他	464
精神保健学	小嶋 秀幹	334
精神保健学	小嶋 秀幹	425
精神保健学Ⅰ	小嶋 秀幹	264
精神保健学Ⅱ	小嶋 秀幹	265
精神保健福祉援助演習	住友 雄資	206
精神保健福祉援助演習	畑 香理	207
精神保健福祉援助演習	畑 香理	208
精神保健福祉援助演習	平林 恵美	209
精神保健福祉援助演習	平林 恵美	210
精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	平林 恵美	203
精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	平林 恵美	204
精神保健福祉援助実習	住友 雄資他	242
精神保健福祉援助実習指導	住友 雄資他	243
精神保健福祉援助実習指導	住友 雄資他	244
精神保健福祉演習	住友 雄資他	205
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	平林 恵美	202
精神保健福祉論Ⅰ	寺島 正博	226
精神保健福祉論Ⅱ	今村 浩司	227
精神保健福祉論Ⅲ	住友 雄資	228
成人慢性看護学	赤司 千波他	461
成人慢性看護学実習	赤司 千波他	465
生態・病態看護学実験	田中美智子他	439
生態機能看護学Ⅰ	田中美智子他	431
生態機能看護学Ⅱ	田中美智子他	432
生態機能看護学Ⅲ	田中美智子他	433
生徒指導論(看護学部)	大津 修郎	521
生徒指導論(人間社会学部)	黒田 耕司	520
生物学	芋川 浩	22

生命倫理	神谷 英二	417
西洋史概論	玉置 さよ子	164
生理心理学Ⅰ	麦島 剛	289
生理心理学Ⅱ	麦島 剛	310
世界地理	中里 亜夫	146
専門看護学ゼミ	看護学部全教員	510
専門職連携入門	石崎 龍二他	92

そ

造形Ⅰ	櫻井 国芳	355
造形Ⅱ	櫻井 国芳	356
相談援助	杉野 寿子	377
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	松岡 佐智	213
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	本郷 秀和	214
相談援助の理論と方法A	河野 高志	215
相談援助の理論と方法B	本郷 秀和	216
相談援助の理論と方法C	奥村 賢一	217
相談援助の理論と方法D	河野 高志	218
相談援助演習A	本郷 秀和他	219
相談援助演習A	本郷 秀和他	220
相談援助演習B	村山浩一郎他	221
相談援助演習C	本郷他	222
相談援助実習	細井他	240
相談援助実習指導	細井他	241
組織協働活動論	尾形由起子他	492
組織心理学	宮島 健	320
卒業研究	看護学部全教員	511
卒業論文	池 志保	414
卒業論文	池田 孝博	408
卒業論文	伊勢 慎	415
卒業論文	岩橋 宗哉	410
卒業論文	上野 行良	406
卒業論文	奥村 賢一	275
卒業論文	河野 高志	277
卒業論文	小嶋 秀幹	407
卒業論文	櫻井 国芳	412
卒業論文	住友 雄資	272
卒業論文	田代 英美他	176
卒業論文	寺島 正博	278
卒業論文	中藤 洋子	409
卒業論文	平林 恵美	276
卒業論文	平部 康子	274
卒業論文	福田 恭介	405
卒業論文	細井 勇	271
卒業論文	本郷 秀和	270
卒業論文	麦島 剛	411
卒業論文	村山浩一郎	273
卒業論文	吉岡 和子	413

た

体育Ⅰ	池田 孝博	357
-----	-------	-----

体育Ⅱ	池田 孝博	358
対人心理学	上野 行良	317
多文化社会論	岡本 雅享	145
<b>ち</b>		
地域計画論	美谷 薫	142
地域社会学Ⅰ	文屋 俊子	126
地域社会学Ⅰ	文屋 俊子	256
地域社会学Ⅱ	文屋 俊子	127
地域社会学Ⅱ	文屋 俊子	257
地域社会学特講	田代 英美	130
地域社会研究Ⅰ・Ⅱ	田代 英美	137
地域社会研究Ⅰ・Ⅱ	美谷 薫	138
地域社会研究Ⅰ・Ⅱ	堤 圭史郎	139
地域社会研究Ⅰ・Ⅱ	藤澤 健一	140
地域社会分析法A（地域と生活）	田代 英美	131
地域社会分析法B（住民参加）	姜 信一	132
地域社会分析法C（地理）	美谷 薫	133
地域福祉論Ⅰ	村山浩一郎	231
地域福祉論Ⅱ	村山浩一郎	232
地域保健論	樋口 善之	141
知覚心理学	福田 恭介	311
地方自治論	姜 信一	136
地方自治論	姜 信一	252
中学校教育実習	藤澤 健一	526
中学校教育実習事前事後指導	藤澤 健一	525
中国の社会と文化	郝 曉卿	149
中国語Ⅰ - (1)	郝 曉卿	61
中国語Ⅰ - (2)	郝 曉卿	62
中国語Ⅱ - (1)	郝 曉卿	63
中国語Ⅱ - (2)	郝 曉卿	64
中国語Ⅲ - (1)	郝 曉卿	65
中国語Ⅲ - (2)	郝 曉卿	66
地理学概論	美谷 薫	135
<b>て</b>		
データ処理とデータ解析Ⅰ	石崎 龍二	122
データ処理とデータ解析Ⅱ	石崎 龍二	123
データ分析の基礎	文屋 俊子	117
哲学Ⅰ	神谷 英二	1
哲学Ⅱ	神谷 英二	2
哲学的人間学	樋渡 河他	10
哲学要論	神谷 英二	161
<b>と</b>		
統計学	原田 直樹	25
統合実習	看護学部全教員	509
道徳教育	堺 正之	514
東洋医学概論	田原 英一他	426
東洋看護学演習	城村 和宏	508
独語Ⅰ - (1)	古賀 正之	71
独語Ⅰ - (2)	古賀 正之	72

独語Ⅱ - (1) .....	古賀 正之 .....	73
独語Ⅱ - (2) .....	古賀 正之 .....	74
都市社会学 .....	文屋 俊子 .....	129
図書館情報学 .....	河野 本和 .....	308
<b>に</b>		
日本近現代史 .....	有谷三樹彦 .....	7
日本語会話A .....	伊藤 晴美 .....	528
日本語会話B .....	伊藤 晴美 .....	529
日本語上級A .....	伊藤 晴美 .....	532
日本語上級B .....	伊藤 晴美 .....	533
日本語中級A .....	伊藤 晴美 .....	530
日本語中級B .....	伊藤 晴美 .....	531
日本語表現論Ⅰ .....	西岡 健治 .....	536
日本語表現論Ⅱ .....	西岡 健治 .....	537
日本史概論 .....	有谷三樹彦 .....	163
日本事情 A .....	田中 哲也 (代表) 他 .....	534
日本事情 B .....	田中 哲也 (代表) 他 .....	535
乳児保育 .....	伊勢 慎 .....	345
人間関係の科学 .....	上野 行良 .....	33
認知心理学 .....	福田 恭介 .....	312
<b>は</b>		
発達心理学Ⅰ - A .....	池 志保 .....	259
発達心理学Ⅰ - A .....	池 志保 .....	284
発達心理学Ⅰ - B .....	池 志保他 .....	285
発達心理学Ⅱ .....	池 志保 .....	260
発達心理学Ⅱ .....	池 志保 .....	286
発達心理学Ⅲ .....	池 志保 .....	261
発達心理学Ⅲ .....	池 志保 .....	315
<b>ひ</b>		
ヒーリングセラピー .....	猪狩 崇 .....	507
ヒーリング論 .....	猪狩 崇 .....	506
比較文化論 .....	田中 哲也 .....	31
東アジア関係史 .....	岡本 雅享 .....	147
ヒューマンエコロジー .....	久永 明 .....	34
病態看護学Ⅰ .....	鴻江 俊治他 .....	435
病態看護学Ⅱ .....	武富 章他 .....	436
<b>ふ</b>		
フィジカルアセスメント論 .....	永嶋由理子他 .....	444
福祉機器論 .....	堤 文生 .....	250
福祉経営論 .....	鬼崎 信好 .....	199
福祉行財政と福祉計画 .....	村山浩一郎 .....	198
福祉社会学 .....	倉富 史枝 .....	105
福祉社会学 .....	倉富 史枝 .....	185
仏語Ⅰ - (1) .....	田中 真理 .....	67
仏語Ⅰ - (2) .....	田中 真理 .....	68
仏語Ⅱ - (1) .....	山本 和道 .....	69
仏語Ⅱ - (2) .....	山本 和道 .....	70
物理学 .....	大坪 慎一 .....	24
不登校・ひきこもり援助応用演習 .....	松浦 賢長他 .....	89

不登校・ひきこもり援助論	松浦 賢長他	88
プレ・インターンシップ	石崎 龍二他	91
プログラミング概論	石崎 龍二	125
文学	田代 ゆき	9
文化人類学Ⅰ	宮本 聡	151
文化人類学Ⅱ	宮本 聡	152

## ほ

保育・教職実践演習（幼稚園）	櫻井 国芳他	367
保育課程論	伊勢 慎	300
保育学	大久保 淳子	299
保育実習Ⅰ	伊勢 慎他	372
保育実習Ⅱ	伊勢 慎	374
保育実習Ⅲ	杉野 寿子	376
保育実習指導Ⅰ	伊勢 慎他	371
保育実習指導Ⅱ	伊勢 慎	373
保育実習指導Ⅲ	杉野 寿子	375
保育者論	大久保 淳子	302
保育相談支援	杉野 寿子	350
保育内容・環境Ⅰ	高木 義栄	339
保育内容・環境Ⅱ	高木 義栄	340
保育内容・健康Ⅰ	秋吉 隆子	335
保育内容・健康Ⅱ	秋吉 隆子	336
保育内容・言葉Ⅰ	世良 君江	341
保育内容・言葉Ⅱ	世良 君江	342
保育内容・人間関係Ⅰ	飯田 大輔	337
保育内容・人間関係Ⅱ	飯田 大輔	338
保育内容・表現Ⅰ	櫻井 国芳他	343
保育内容・表現Ⅱ	櫻井 国芳他	344
保育内容演習	櫻井 国芳他	304
保育内容総論	伊勢 慎	303
保育方法論	大久保 淳子	301
法学	森脇 敦史	13
法律学概論Ⅰ	森脇 敦史	165
法律学概論Ⅱ	森脇 敦史	166
保健医療福祉行政論Ⅰ	四戸 智昭他	428
保健医療福祉行政論Ⅱ	四戸 智昭他	429
保健医療論	岡田 和敏	234
保健社会学	小出 昭太郎	427
保健社会調査論	小出 昭太郎	423
保健統計学	松浦 賢長他	422
保健理論	藤島 和孝	83
ホリスティック人間論	佐藤 香代	416

## よ

養護概説	松浦 賢長他	500
養護実習	松浦 賢長他	505
養護実習事前事後指導	松浦 賢長他	503
幼児教育心理学	福田 恭介	288
幼児理解の理論と方法	上村 眞生	347
幼稚園教育実習Ⅰ	大久保 淳子	369

幼稚園教育実習Ⅱ	大久保淳子	370
幼稚園教育実習事前事後指導	大久保淳子	368
<b>ら</b>		
ライティング	小池 祐子	48
<b>り</b>		
リーディングⅠ	小池 祐子	46
リーディングⅡ	小池 祐子	47
リーディングⅢ	小池 祐子	54
臨床心理学	岩橋 宗哉	321
臨床心理学	岩橋 宗哉	424
倫理学	神谷 英二	162
倫理学	神谷 英二	248
<b>ろ</b>		
老人福祉論	本郷 秀和	229
労働経済論 A	許 棟翰 (ホドンハン)	110
労働経済論 A	許 棟翰 (ホドンハン)	253
労働経済論 B	許 棟翰 (ホドンハン)	111
労働経済論 B	許 棟翰 (ホドンハン)	254
老年看護学	櫛 直美他	467
老年看護学演習Ⅰ	櫛 直美他	468
老年看護学演習Ⅱ	渡邊 智子他	469
老年看護学概論	渡邊 智子他	466
老年看護学実習Ⅰ	渡邊 智子他	470
老年看護学実習Ⅱ	櫛 直美他	471
老年期医学	小嶋 秀幹	263
老年期医学	小嶋 秀幹	332
老年心理学	麦島 剛	262
老年心理学	麦島 剛	316
論理学	神谷 英二	3